

高等専門学校機関別認証評価

# 自己評価書

平成18年6月

舞鶴工業高等専門学校



## 目 次

I	対象高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	3
	基準2 教育組織（実施体制）	35
	基準3 教員及び教育支援者	58
	基準4 学生の受入	131
	基準5 教育内容及び方法	150
	基準6 教育の成果	252
	基準7 学生支援等	309
	基準8 施設・設備	337
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	368
	基準10 財務	399
	基準11 管理運営	410
IV	選択的評価事項に係る目的	432
	選択的評価事項A 研究活動の状況	434
	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	476



## I 対象高等専門学校の現況及び特徴

### 1 現況

- (1) 高等専門学校名  
舞鶴工業高等専門学校
- (2) 所在地  
京都府舞鶴市宇白屋234番地
- (3) 学科等の構成  
学 科：機械工学科，電気情報工学科，  
電子制御工学科，建設システム工学科  
専攻科：電気・制御システム工学専攻，  
建設・生産システム工学専攻
- (4) 学生数及び教員数（平成18年5月1日現在）  
学生数：学 科 828名  
専攻科 59名  
教員数：63名

### 2 特徴

本校は、昭和40年度に機械工学科2学級と電気工学科1学級で発足し、昭和45年度に土木工学科1学級を増設、平成2年度には機械工学科2学級を機械工学科と電子制御工学科に改組、平成6年度に土木工学科を建設システム工学科に改組した。平成16年度に独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する高等専門学校となり電気工学科を電気情報工学科に名称変更した。また、平成12年度に専攻科を設置した。準学士課程卒業生の進路は就職と進学がほぼ同数であり、専攻科修了生は大学院にも進学している。本校の学生は、京都府はもとより兵庫、滋賀、福井、大阪などの広範囲の地域から入学しており、全国高専でも有数の大規模寮を有し、在学生の60%以上が学寮生活を営んでいる。そのため、1、2年生を全寮制として遠隔地からの入学生に配慮している。教職員と寮生の連携も進んでおり、学寮の無線LAN工事は寮生と教職員の共同作業によるものである。

本校の教育方針は、(1) 実験、実習、演習、ものづくりを重視する、(2) 基礎に立ち返って考えさせる、(3) 自ら学ぼうとする意欲を育てる(4) 豊かな教養と国際性を育む、であり、「広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を育成」している。専攻科課程では、準学士課程での教育を基盤として、より独自の技術開発能力と研究能力を有した人材を養成している。

本校の教育の特徴として、広い視野を獲得し多くの友人を作

ることを目的として、1～2年生には混合学級を導入している。同時に、優れた技術者となるための動機付け科目として1年生に「工学基礎」を開講し、大学・企業等からの外部講師による授業、近隣企業の見学、ものづくりとPBLを融合させた体験型授業を行っている。また豊かな教養と国際性を育むために、タイのKing Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang及び韓国のKorea Universityとの学術交流協定を締結し、平成18年度の研修旅行から海外の大学の学生と本校学生が直接交流を行う計画が進んでいる。また、留学生の受入にも積極的に、学寮に留学生スペースを確保して施設面での充実を図っている。平成17年度にはベトナムとマレーシアの留学生の出身大学に日本人学生と教員を短期派遣している。その他、全学年でTOEICおよびTOEIC BridgeのIPテスト受検を義務付け、コミュニケーション英語を身につけさせる工夫をしている。遠隔地からの入学者が多いことに配慮し、保護者で構成されている後援会との連携を強化しており、毎年夏休み期間に後援会支部が開催する懇談会に校長、主事をはじめとする学校関係者が出席し、保護者からの要望を直接聴取するとともに、本校の教育を改善するための意見交換が行われている。その他、親元を離れて暮らす学生への支援として、平成18年度から1年生を対象に全教員が数名の1年生を分担し、相談窓口となるパートナーシップ制度を導入している。また、民間アパート等から通学する学生の健康に配慮し、学生食堂を充実させている。

「産業の発展に寄与すること、並びに北近畿地域の教育、文化の基盤を支える」ために、地域連携事業として、阿蘇海の底質浄化（舞鶴市・宮津市・民間企業）、地域の地すべり管理・地域住宅の耐震対策・災害に強いまちづくり（舞鶴市）、産業廃棄物の有効活用（京都大学・民間企業）、まいづる水素エネルギー戦略会議の立ち上げ（舞鶴市・民間企業）を主導し、京都・まいづる立命館地域創造機構（MIREC）にも参画している。これらの活動は、近畿地区高専テクノサロン、国際フロンティアメッセ及び近畿産学官連携ビジネスショウで紹介している。その他、地域の小中学生と保護者を対象に高専PRイベントを開催し、理科離れ対応と、高専の認知に努めている。

学生の課外活動も活発で、ロボコン、プロコン、エコラン、デザコンと称される高専学生対象の競技会で、近畿地区大会優勝や最優秀賞（文部大臣賞）等を受賞している。

平成16年度に本校準学士課程4、5年生と専攻科課程で構成される「生産・情報基礎工学」教育プログラムが工学（融合複合・新領域）関連分野でJABEE認定を受けている。

## Ⅱ 目的

### 舞鶴工業高等専門学校の使命

- (1) 舞鶴工業高等専門学校（以下本校）では、育成すべき学生像（教育理念）として「広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力，創造力，国際感覚豊かな実践的技術者を育成する。もって、産業の発展に寄与すること，並びに北近畿地域の教育，文化の基盤を支えること」を使命とする。

### 本校の目的

- (1) 準学士課程においては、学則 第1条に則り、教育基本法及び学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
- (2) 専攻科課程においては、学則 第39条に則り、高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。

### 教育活動等の基本的な方針，教育方針

- (1) 実験，実習，演習，ものつくりを重視する。
- (2) 基礎に立ち返って考えさせる。
- (3) 自ら学ぼうとする意欲を育てる。
- (4) 豊かな教養と国際性を育む。

### 養成すべき人材像

- (1) 準学士課程においては、広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力，創造力，国際感覚豊かな実践的技術者を育成する。
- (2) 専攻科課程においては、5年間にわたる一貫した実践教育の特徴を生かしながら、更に2年間の課程において、高度の学問と技術を追求し、創造性・人間性豊かで、より独創的技術開発能力を兼ね備えた中核的技術者の育成を目的とする。

### Ⅲ 基準ごとの自己評価

#### 基準 1 高等専門学校の目的

##### (1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校の目的は、舞鶴工業高等専門学校学則に、「第 1 条 舞鶴工業高等専門学校は、教育基本法及び学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」、「第 39 条 専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。」(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集第 1 章及び学生便覧 3 頁)と定めている。

本校の使命は、本校が掲げる「育成すべき学生像(本校の教育理念)」の中に「広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力，創造力，国際感覚豊かな実践的技術者を育成する。もって、産業の発展に寄与すること，並びに北近畿地域の教育，文化の基盤を支えることを使命とする。」(資料 1-1-①-1)と定められている。

その教育理念のもと、本校の教育方針として次の 4 項目を掲げている(資料 1-1-①-1～4)。

- I 実験・実習，演習，ものつくりを重視する
- II 基礎に立ち返って考えさせる
- III 自ら学ぼうとする意欲を育てる
- IV 豊かな教養と国際性を育む

また準学士課程 4・5 学年と専攻科課程 1・2 学年の 4 ヶ年で構成される「生産・情報基礎工学」教育プログラムにおいて、次のような学習・教育目標を立てている(資料 1-1-①-1 及び 2)：

- (A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができるようになること。
- (B) 専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができるようになること。
- (C) 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発することができるようになること。
- (D) 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができるようになること。
- (E) 豊かな人間性，国際性，協調性を身につけ、英語によるコミュニケーションができるようになること。
- (F) 技術がもつ地球的，社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができるようになること。
- (G) 課題の提案・報告などを効果的に記述し、説明することができるようになること。
- (H) コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができるようになること。

本校が育成を目指す技術者像は、準学士課程においては、「広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者」（資料1-1-①-1）である。さらに各学科（機械工学，電気情報工学，電子制御工学，建設システム工学）の養成しようとする人材像を含む職業像をわかりやすく明示し（資料1-1-①-5及び6），卒業時に実践的技術者として備えるべき内容・水準を定めている（資料1-1-①-7）。

専攻科課程においては、「高度の学問と技術を追求し，創造性・人間性豊かで，より独創的技術開発能力を兼ね備えた中核的技術者」を育成しようとする技術者像としている（資料1-1-①-8）。さらに具体的に各専攻（電気・制御システム工学，建設・生産システム工学）の養成しようとする人材像を含む教育目標（資料1-1-①-9），及び修了時に高度な実践的技術者として備えるべき内容・水準が定められている（資料1-1-①-7）。

#### （分析結果とその根拠理由）

本校では，その目的を学則に定めている。それに基づいて「育成すべき学生像（本校の教育理念）」にあるように高等専門学校の使命を明確に定め，具体的な教育方針及び学習・教育目標を掲げている。そして，準学士課程の各学科と専攻科課程の各専攻において育成を目指す技術者像（養成しようとする人材像）を定め，具体的に卒業時・修了時に身につける資質や学力を定めている。

以上から，本校は高等専門学校の使命，基本方針，養成すべき人材像を含めた目的を明確に定めている。



資料 1 - 1 - ① - 1

## 育成すべき学生像 (本校の教育理念)

広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を育成する。もって、産業の発展に寄与すること、並びに北近畿地域の教育、文化の基盤を支えることを使命とする。

### 教育方針

- I 実験・実習、演習、ものつくりと重視する
- II 基礎に立ち返って考えさせる
- III 自ら学ぶとする意欲を育てる
- IV 豊かな教養と国際性を育む

### 学習・教育目標

- (A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができるようになること。
- (B) 専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができるようになること。
- (C) 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発することができるようになること。
- (D) 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができるようになること。
- (E) 豊かな人間性、国際性、協調性を身につけ、英語によるコミュニケーションができるようになること。
- (F) 技術がもつ地球的、社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができるようになること。
- (G) 課題の提案・報告などを効果的に記述し、説明することができるようになること。
- (H) コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができるようになること。

### 日本技術者教育認定制度について

本校では、日本技術者教育認定機構 (Japan Accreditation Board Engineering Education, JABEE) による技術者教育プログラムの認定に向けて、本校教育プログラムの改革に取り組んでいます。

日本技術者教育認定制度とは我が国の工学 (技術) 教育の質的向上を目的とし、

- これまで大学や高等専門学校が進めてきた「技術者教育プログラム」の水準を評価・認定する制度です。
- 「技術者教育」とは、基礎科目と専門科目を教授するだけでなく、豊かな人間性と独創性をもって、ものづくりに貢献できる人材を育成する教育です。
- 「技術者教育プログラム」とは、技術者教育を行う教育機関が掲げる学習・教育目標を達成するためのカリキュラムだけでなく、卒業生の社会での活躍までも含めた教育プロセス全体を指しています。

(出典 平成17年度学校概要 見開き)

## はじめに

本校では、「広く工学の基礎と教養を身につけ、活動力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を育成する」ことを教育理念とし、次の4項目を教育方針としています。

1. 実験、実習、演習、ものつくりを重視する
2. 基礎に立ち返って考えさせる
3. 自ら学ぼうする意欲を育てる
4. 豊かな教養と国際性を育む

## 本校の学習・教育目標

- (A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができる
- (B) 専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができる
- (C) 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステム設計・開発する創造的能力と意欲を有する
- (D) 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる
- (E) 豊かな人間性、国際性、協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける
- (F) 技術が持つ地球的、社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができる
- (G) 課題の提案や報告などを効果的に記述し、説明することができる
- (H) コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる

(出典 平成17年度シラバス 見開き)

## 舞 鶴 高 専

### 〈教育理念〉

広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を育成する。

### 〈教育方針〉

- I 実験・実習、演習、ものつくりを重視する
- II 基礎に立ち返って考えさせる
- III 自ら学ぼうとする意欲を育てる
- IV 豊かな教養と国際性を育む

### 校 章



金色の円弧は日本海に面する良港を表し、港湾工業都市として海と深く関わり合いながら発展する舞鶴を象徴している。

円は円満の相で完全さを想わせ、港口の開きは積極性と向上発展を示している。

〈京都工芸繊維大学 福永俊吉教授考案〉

(出典 平成17年度学校便覧 見開き)

## 舞鶴工業高等専門学校案内

### 1. 沿革

本校は、50年間一貫した教育により、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として設置された国立の高等専門学校です。

昭和40年4月に機械工学科・電気工学科が開設され、昭和45年4月に土木工学科を増設、平成2年4月機械工学科が機械工学科と電子制御工学科に改組され、平成6年4月土木工学科が建設システム工学科に改組され、平成16年4月電気工学科が電気情報工学科に改組されました。

また、平成12年4月に専攻科(電気・制御システム工学専攻、建設・生産システム工学専攻)が設置されました。

なお、平成16年4月から、国立高等専門学校の設置者は、国から独立行政法人国立高等専門学校機構に変わりました。

### 2. 教育目標

広く工学の基礎と教養を身につけ、活動力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を育成することを教育理念とし、次のとおり教育目標を定めています。

- I 実験・実習、演習、ものづくりを重視する
- II 基礎に立ち返って考えさせる
- III 自ら学ぼうとする意欲を育てる
- IV 豊かな教養と国際性を育む

### 3. 学科の紹介

#### ■ 機械工学科

本学科は、あらゆる産業の基幹となる機械工学分野において、単なる「ものづくり」だけではなく、自然と調和のとれた高度の技術開発に貢献できる技術者の育成を目指しています。

- ① 系統化されたカリキュラムにより、機械工学の基礎から先端的機械技術に至るまでの幅広い分野の学習をします。
- ② 総合的な判断力や分析能力を高めるため、実験、実習、製図等の実践的科目を各学年に積極的に導入しています。
- ③ 情報系科目によって、問題の解決、装置の設計・開発のために効果的にコンピュータを活用できる能力を養います。

#### ■ 電気情報工学科

本学科では、コンピュータを使った電気・電子系及び情報系科目を2本の柱とする教育体制を組み、将来にわたっての技術革新に柔軟に対応できる技術者育成を目指しています。

- ① コンピュータを使った情報系科目を低学年より取り入れています。
- ② 電気情報工学科独自のコンピュータシステムを導入し、授業に積極的に取り入れています。
- ③ 系統立てたカリキュラムで教育内容が学年で途切れる事なく、基礎から応用までを広く学習します。
- ④ 低学年から実験を行い、授業で学んだことを実験で確かめることができます。
- ⑤ 高学年では、応用科目を多く取り入れ、各学生の個性に応じた選択科目を履修できるようになっています。

資料 1 - 1 - ① - 5

## 機械工学科

# 工業の基礎を支える技術と知識と 総合的な応用力を養います。

### 学習内容：こんなことを学びます

様々な機器・機械がなぜ動くのか、そのしくみを研究し、理論を学び、製作をします。これらに必要な機械工学の基礎知識とともに、最新のコンピュータ支援技術や機械制御技術を学び、理論と現象を正確に理解しながら、事態を的確に判断し、実行に移せる行動力を持った技術者の育成を目指します。

職業像：例えば、こんな職業に就くための技術を身につけます

あらゆる製品や生産設備の開発・設計の分野で活躍できるエンジニア

期待される学生像：こんな人が向いているでしょう

- ☆「ものづくり」が好きな人、関心がある人
- ☆「自動車」が好きな人、関心がある人
- ☆「ロボット」が好きな人、関心がある人
- ☆「海外」で活躍する技術者を目指す人

## 電気情報工学科 P12

# 最先端のエレクトロニクスと 情報通信ネットワークの技術を身につけます。

### 学習内容：こんなことを学びます

最新の情報技術の高度化に必要な電気工学の専門知識を基礎から着実に学び、それらを基盤に、電気回路、電気磁気学、情報処理など、電気・電子・情報・通信系を中心に、幅広い分野の勉強をします。電気情報工学科には専用のコンピュータシステムがあり、校内LANとつながっていて、教育・実習・研究にたいへん役立っています。

職業像：例えば、こんな職業に就くための技術を身につけます

電気・電子関連の幅広い分野で活躍できる技術者、情報技術者、研究者

期待される学生像：こんな人が向いているでしょう

- ☆電気・電子、情報・通信分野に関心がある人
- ☆ハードウェア、ソフトウェアなどの製作ができるようになりたい人
- ☆「自分の意志」を抱いて、基礎科目を継続的に学習できる人

(出典 学校案内2006年 10, 12頁)

資料 1 - 1 - ① - 6

## 電子制御工学科

# メカトロニクス周辺分野に 幅広く精通できる力を養います。

### 学習内容：こんなことを学びます

本学科では、電子・電気・機械・情報系の工学技術、制御・計測技術などの専門分野が融合したメカトロニクス系技術分野の専門科目を、基礎から応用までバランスよく勉強します。また、電子制御工学科教育用電算機システムを用いて、CAD、回路設計、制御系設計、プログラミングなど、ロボットの設計製作に関連するコンピュータ演習やシミュレーションを行っています。

**職業像：**例えば、こんな職業に就くための技術を身につけます

メカトロニクス系工業製品や、それらの生産システムを開発・設計できる技術・知識・良識を持ったエンジニアの育成を目的としています。

**期待される学生像：**こんな人が向いているでしょう

- ☆ロボットの制御や操作に興味がある人
- ☆コンピュータグラフィックやデザインに興味のある人
- ☆“もののしくみ”に興味を持ち、好奇心旺盛な人

## 建設システム工学科

# 地下から宇宙までの広い領域で活動できる 技術と知識、高度な設計能力を身につけます。

### 学習内容：こんなことを学びます

人が豊かで安全な社会生活を営むために、橋、高速道路、上下水道等の計画・設計・施工・運営といった生活基盤を整備する土木系分野で、中心的役割を果たす技術者の育成を目指しています。構造力学、地盤工学などを学び、環境保全、災害への対応などの重要課題にも取り組みます。人間と自然と構造物の関わり合いについて学ぶ選択科目も設けています。

**職業像：**例えば、こんな職業に就くための技術を身につけます

防災技術、リサイクルなどの知識を持った建設技術者や、建設会社、官公庁、コンサルタント会社で実力を発揮できる技術者の養成を目的としています。

**期待される学生像：**こんな人が向いているでしょう

- ☆自然環境と調和した街づくりに関心のある人
- ☆災害に強く、安全な社会環境づくりに興味を持っている人
- ☆建設技術に関する知識を修得し、地域社会の発展に関わりたい人

(出典 学校案内2006年 14, 16頁)

資料 1 - 1 - ① - 7

## 舞鶴工業高等専門学校中期目標・計画及び平成16年度年度計画表

前文	中期計画
<p>(教育理念)</p> <p>広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を育成する。もって、産業の発展に寄与すること、並びに北近畿地域の教育、文化の基盤を支えることを使命とする。</p> <p>(養成すべき人材像)</p> <p>本科においては、「ものづくり」技術を基盤として、専門的知識と幅広い教養を身につけた実践的な技術者を養成する。</p> <p>専攻科においては、本科での教育を基礎として、より独創的な技術開発能力を有した人材を育成する。</p> <p>(教育方針)</p> <p>① 実験、実習、演習、ものづくりを重視する。          ② 基礎に立ち返って考えさせる。          ③ 自ら学ぼうとする意欲を育てる。          ④ 豊かな教養と国際性を育む。</p> <p>(実践的技術者として備えるべき人文・社会系、体育並びに理数系を含む教養教育や外国語能力の内容・水準)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工学系大学学部卒業レベルの人文・社会系科学の基礎を身に付けていること。</li> <li>健康の保持増進のための基礎知識を修得していること。</li> <li>専門科目の基礎として、充分な自然科学の知識を修得していること。</li> <li>国際社会で活躍できるコミュニケーション能力を身に付けていること。</li> </ul> <p>(実践的技術者として備えるべき内容・水準)</p> <p>[機械工学科]</p> <p>理論と現象を正確に理解し、種々の事態に柔軟な思考力で的確に判断ができ、対処できる行動力を有し、ものづくりに関心が高く、種々の業界で製品及び生産設備の開発・設計ができ、これらの取り組みにおいて、コンピュータを道具として活用できる能力を有する</p> <p>[電気情報工学科]</p> <p>コンピュータ、情報通信、電子デバイス、電気エネルギー、制御技術などのハードウェア技術と、種々のテクノロジーを操るためのソフトウェアの素養を備え、社会人としてのモラルを有するシステムアナリストの素養を有していること。</p> <p>[電子制御工学科]</p> <p>実践的なメカトロニクス技術者となるために機械系科目、電気・電子系科目、計測・制御系科目及び情報系科目の4つの専門科目分野を修得していること。更に実習科目や工学実験、CAD演習などの実験・実習系科目により実践的な技術力を身につけ、卒業研究を通じて自主的な「ものづくり」意欲と創造的な研究・開発能力を身につけていること。</p> <p>[建設システム工学科]</p> <p>21世紀の社会基盤整備を中心課題として、その計画、建設、運営、維持等を行うことができる素養を身につけていること。構造材料とその組み立て方、水や土等の自然環境、構造物構築のための調査方法に関わる「工学基礎系科目」、総合的な都市設計と防災に関する「建設系科目」、環境変化に対応し景観と調和した施設設計に関する「環境保全系科目」、及び「情報系科目」を修得していること。さらに実験・実習を通して実践能力を身につけていること。</p> <p>(高度な実践的技術者として備えるべき内容・水準)</p> <p>[電気・制御システム工学専攻]</p> <p>グローバルコミュニケーション能力とコンピュータ情報技術をベースに専門分野においてチャレンジ精神に富む創造的な人材であって、学位授与機構から学士(工学)の学位を授与されていること。グローバルコミュニケーション力はTOEIC450点以上を、コンピュータ情報技術ではインターネット関連技術とプログラム開発能力、画像処理及び情報処理などのコンピュータ活用能力を有していること。専門分野は、電気・電子工学と情報通信などの電気・情報関連分野、または計測制御・メカトロニクスを融合した機能システム設計開発分野の実践能力を有していること。</p> <p>[建設・生産システム工学専攻]</p> <p>(1) 幅広い工学基礎、及び実験・演習・研究など体験的学習科目を修得し、創造性を身につけていること。(2) 地域産業社会との連携による地域特性を生かした実践的経験を積んでいること。(3) 地域環境デザイン・地域防災計画・建設マネジメントの分野、先端産業機械・エネルギー・微細材料加工の分野など、「ものづくり」の技術基盤を担う能力を有すること。更に、(i) 自主的、継続的に学習する能力と粘り強いチャレンジ精神、(ii) 専門分野における高度な設計開発力と実務能力、(iii) 大学院進学に適した課題探求能力を身につけていること。</p>	

(出典 中期目標・計画)

## 専攻科入学案内

### 1. 専攻科の設置

平成12年4月

### 2. 専攻科の目的

本校専攻科は、5年間にわたる一貫した実践教育の特徴を生かしながら、更に2年間の課程において、高度の学問と技術を追求し、創造性・人間性豊かで、より独創的技術開発能力を兼ね備えた中核的技術者の育成を目的とします。

### 3. 専攻及び入学定員

電気・制御システム工学専攻	8名
建設・生産システム工学専攻	8名

### 4. 修業年限及び修了要件

- (1) 修業年限 2か年
- (2) 修了要件 62単位以上修得

### 5. 本校の教育理念及び教育方針等

#### 教育理念

広く工学の基礎と教養を身につけ、活動力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を育成する。

#### 教育方針

- I 実験、実習、演習、ものつくりを重視する
- II 基礎に立ち返って考えさせる
- III 自ら学ぼうとする意欲を育てる
- IV 豊かな教養と国際性を育む

#### 学習・教育目標

- (A)自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができる
- (B)専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができる
- (C)修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステム設計・開発する創造的能力と意欲を有する
- (D)実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる
- (E)豊かな人間性、国際性、協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける
- (F)技術が持つ地球的、社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができる
- (G)課題の提案・報告などを効果的に記述し、説明することができる
- (H)コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる



## 6. 専攻科の教育方針及び各専攻の教育目標

本校の専攻科では、新しい世紀の社会で研究・開発技術者として活躍し続ける人材、即ち、幅広い知識、課題解決能力及び創造的研究素養を備え、国際社会で能力を発揮できる中核的・指導的技術者を育成することを目標とします。このため、本校専攻科では、①特別研究・実験・演習の重視、②国際化への対応、③インターンシップの導入を教育方針とします。

### (1) 電気・制御システム工学専攻

主として本科課程の電気工学科、電子制御工学科で修得した基礎学力を基盤に、ソフトウェア、通信、電子回路、制御技術及びメカトロニクス等に係わる最新の教育を行い、電気機器、運輸、通信及び情報システム分野で活躍できる設計・開発・管理能力を備えた電気・制御システム技術者の育成を目指します。

### (2) 建設・生産システム工学専攻

主として本科課程の建設システム工学科、機械工学科で修得した基礎学力を基盤に、先端材料、水圏環境、動的設計及びシステム設計等の教育を行い、特に、都市建設システム及び機械生産システム等の分野で活躍できる、独創性豊かな研究開発型の技術者の育成を目指します。

## 7. 専攻科のアドミッションポリシー（入学者受入方針）

専攻科では、優れた資質の技術者を養成するため、次のような学生諸君の入学を期待しています。

- (1) 技術社会の中核を担う者として、社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人。
- (2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち、自主的に学習・研究する意欲が高く、十分な基礎学力を身につけている人。
- (3) コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり、自己の考えを適切に表現することができる人。
- (4) しっかりとした社会性と倫理観をもち、そして自ら考え、適切に行動できる人。

## 8. 「生産・情報基礎工学」教育プログラムについて

本校では、国際的に通じる、より良い教育を進めるために「生産・情報基礎工学」教育プログラムを設けています。本教育プログラムは、本科4、5学年と専攻科1、2年次で構成される4年間の教育プログラムで、本科4学科と専攻科を1つにまとめたものです。

「生産・情報基礎工学」という名前は、IT成熟時代に即した「ものづくり」教育を目指しているという意味です。このプログラムのもと、カリキュラムは、工学基礎教育を基盤として、学生それぞれが目指す得意分野（専門）を学習していくように設計されています。また、幅広い工学の基礎を学べるように、いずれの学年においても専門共通科目を設定し、どの得意分野（専門）からも異分野の専門科目を学べるようにしています。

この4年間の教育プログラムで取得できる総単位数及びその学習時間数は次のとおりです。

総取得単位数	総学習時間数(時間)
137以上	2,655以上

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

本校の「教育理念（使命），教育方針，学習・教育目標」（資料 1-1-①-1）は、学則第 1 条「舞鶴工業高等専門学校は、教育基本法及び学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」という目的及び学校教育法に規定された高等専門学校の目的を考慮して策定されたものである。

学校教育法第 70 条の 2（高等専門学校の目的）は、その目的を深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することと定めているが、本校の準学士課程の各学科と専攻科課程の各専攻の養成しようとする人材像及び卒業時・修了時に中堅技術者として備えるべき資質や学力は、観点 1-1-①において詳細に述べたことからわかるように、学校教育法第 70 条の 2 からはずれるものではない。

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育理念（使命），教育方針，学習・教育目標，そして準学士課程と専攻科課程の養成しようとする人材像，及び卒業時・修了時に備えるべき資質や学力は、学校教育法第 70 条の 2 が定める「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」を考慮して策定されたものである。

以上から、本校の目的は学校教育法第 70 条の 2 に規定されている目的からはずれるものではない。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育理念は、学校概要(資料 1-1-①-1)、シラバス(資料 1-1-①-2)、学生便覧(資料 1-1-①-3)、学生募集要項(資料 1-1-①-4)、中期目標・計画(1-1-①-7)、そしてウェブページ(資料 1-2-①-1)に掲載され、教育方針も同じく、学校概要、シラバス、学生便覧、学生募集要項、中期目標・計画、そしてウェブページに掲載されている。また、学習・教育目標は、学校概要、シラバス、ウェブページに掲載されている。特に、学習・教育目標については学生の周知徹底を図るべく、全教室にパネル掲示をしてある(資料 1-2-①-2)。

周知状況をまとめると、次の通りである：

	教育理念	教育方針	学習・教育目標	配布対象者
学校概要	あり	あり	あり	全教職員
学生便覧	あり	あり	なし	全教職員・学生
シラバス	あり	あり	あり	全教職員・学生
学生募集要項	あり	あり	なし	全教職員
中期目標・計画	あり	あり	なし	—
ウェブページ	あり	あり	あり	—

なお、専攻科については上記の表に加え、教育方針・教育目標に関してウェブページにも明示されている(資料 1-2-①-3)。


また、目的の周知状況に関して教員及び学生にアンケートをとり、実態を調査した(資料 1-2-①-4)。

（分析結果とその根拠理由）

上記の表にあるように、教職員及び学生に対し学校概要、シラバス、学生便覧、学生募集要項などの冊子やウェブページの媒体を通して、目的が周知されている。特に、学習・教育目標は日々、学生の目に触れるように教室にも掲示してある。アンケートの結果から、目的に関して教員と専攻科課程生の理解度は高いが、それに比べ準学士課程生はやや低い。


以上から、準学士課程生への目的の周知方法に改善の余地があるが、概ね学校の構成員に周知されていると判断される。

資料 1 - 2 - ① - 1




## 本校の教育プログラム名 「生産・情報基礎工学」

本校は、より良い技術者教育をするため、学生には勉強しやすいように、教育プログラムに名前を付け、教育方針や教育目標などを具体的に示して、それが達成できるカリキュラムを設計しています。




### 教育理念

広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見、解決能力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を育成する。



### 本校の教育方針

- 1 実験、実習、演習、ものつくりを重視する。
- 2 基礎に立ち返って考えさせる。
- 3 自ら学ぼうとする意欲を育てる。
- 4 豊かな教養と国際性を育む。



### 学習・教育目標

- (A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができる。
- (B) 専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができる。
- (C) 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する。
- (D) 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる。
- (E) 豊かな人間性、国際性、協調性及び英語によるコミュニケーション能力を見につける。
- (F) 技術が持つ地球的、社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができる。
- (G) 課題の提案・報告などを効果的に記述し、説明することができる。
- (H) コンピュータはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる。

(出典 ウェブページ)

## 学習・教育目標

- (A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得しそれを応用することができる。
- (B) 専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる。
- (C) 修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する。
- (D) 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる。
- (E) 豊かな人間性，国際性，協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける。
- (F) 技術がもつ地球的，社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し，説明することができる。
- (G) 課題の提案・報告などを効果的に記述し，説明することができる。
- (H) コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる。

(出典 全教室掲示パネル)

## 資料 1 - 2 - ① - 3

## 専攻科入学案内

### 1. 専攻科の設置

平成12年4月

### 2. 専攻科の目的

本校専攻科は、5年間にわたる一貫した実践教育の特徴を生かしながら、更に2年間の課程において、高度の学問と技術を追求し、創造性・人間性豊かで、より独創的技術開発能力を兼ね備えた 中核的技術者の育成を目的とします。

### 3. 専攻及び入学定員

電気・制御システム工学専攻 8名  
建設・生産システム工学専攻 8名

### 4. 修業年限及び修了要件

(1) 修業年限 2か年  
(2) 修了要件 62単位以上修得

### 5. 専攻科の教育理念及び教育目標等

**教育理念**  
広く工学の基礎と教養を身につけ、活動力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を育成する。

#### 教育方針

- 1 実験、実習、演習、ものづくりを重視する
- 2 基礎に立ち返って考えさせる
- 3 自ら学ぼうとする意欲を育てる
- 4 豊かな教養と国際性を育む

#### 学習・教育目標

- (A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができる
- (B) 専門分野の基礎を修得し、それを応用することができる
- (C) 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステム設計・開発する創造的能力と意欲を有する
- (D) 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる
- (E) 豊かな人間性、国際性、協調性及び英語によるコミュニケーション

#### 能力を身につける

- (F) 技術が持つ地球的、社会的影響の重要性を理解し、倫理的責任を自覚することができる
- (G) 課題の提案や報告などを効果的に記述し、説明することができる
- (H) コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる

### 6. 専攻科の教育方針及び各専攻の教育目標

本校の専攻科では、新しい世紀の社会で研究・開発技術者として活躍し続ける人材、即ち、幅広い知識、課題解決能力及び創造的研究素養を備え、国際社会で能力を発揮できる中核的・指導的技術者を育成することを目標とします。このため、本校専攻科では、1.特別研究・実験・演習の重視、2.国際化への対応、3.インターンシップの導入を教育方針とします。

#### (1) 電気・制御システム工学専攻

主として本科課程の電気工学科、電子制御工学科を修得した基礎学力を基盤に、ソフトウェア、通信、電子回路、制御技術及びメカトロニクス等に係わる最新の教育を行い、電気機器、運輸、通信及び情報システム分野で活躍できる設計・開発・管理能力を備えた電気・制御システム技術者の育成を目指します。

#### (2) 建設・生産システム工学専攻

主として本科課程の建設システム工学科、機械工学科を修得した基礎学力を基盤に、先端材料、水圏環境、動的設計及びシステム設計等の教育を行い、特に、都市建設システム及び機械生産システム等の分野で活躍できる、独創性豊かな研究開発型の技術者の育成を目指します。

### 7. 専攻科のアドミッションポリシー(入学者受け入れ方針)

専攻科では、優れた資質の技術者を養成するため、次のような学生諸君の入学を期待しています。

- (1) 技術社会の中核を担う者として、社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人
- (2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち、自主的に学習・研究する意欲が高く、十分な基礎学力を身につけている人
- (3) コミュニケーション能力と物事を筋立てて考察する力があり、自己の考えを適切に表現することができる人
- (4) しっかりとした社会性と倫理観を持ち、そして自ら考え、適切に行動できる人

(出典 ウェブページ)

## アンケート

このアンケートは、舞鶴工業高等専門学校の（１）教育理念（２）教育方針（３）学習・教育目標と（４）あなたが所属する学科・専攻の養成する人材像に関して、どの程度理解しているかについてです。それぞれについて該当する番号に○をつけてください。

### （１）教育理念

広く工学の基礎と教養を身につけ、活動力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を養成する。

1. 知っている 2. ある程度知っている 3. あまりよく知らない 4. 知らない

### （２）教育方針

I 実験、実習、演習、ものつくりを重視する。

II 基礎に立ち返って考えさせる。

III 自ら学ぼうとする意欲を育てる。

IV 豊かな教養と国際性を育む。

1. 知っている 2. ある程度知っている 3. あまりよく知らない 4. 知らない

### （３）「生産・情報基礎工学」教育プログラムの学習・教育目標

(A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができる。

(B) 専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができる。

(C) 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステム設計・開発する創造的能力と意欲を有する。

(D) 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる。

(E) 豊かな人間性、国際性、協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける。

(F) 技術が持つ地球的、社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができる。

(G) 課題の提案・報告などを効果的に記述し、説明することができる。

(H) コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる。

1. 知っている 2. ある程度知っている 3. あまりよく知らない 4. 知らない

### （４）あなたが所属する学科・専攻の養成する人材像

1. 知っている 2. ある程度知っている 3. あまりよく知らない 4. 知らない

アンケート結果：

（1年～5年）（数字は％）

（専攻科）（数字は％）

	1	2	3	4		1	2	3	4
(1)	12	42	31	15	(1)	20	57	18	5
(2)	12	46	29	13	(2)	20	59	16	5
(3)	5	20	48	27	(3)	14	41	36	9
(4)	10	33	37	20	(4)	14	36	39	11

（教員）（数字は％）

	1	2	3	4
(1)	68	23	7	2
(2)	68	25	5	2
(3)	46	43	9	2

備考：

1. 本科は各学年2クラスを無作為抽出。
2. 専攻科は全員。
3. 教員は回収分のみ。

（出典 評価委員会アンケート）

**観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。**

(観点に係る状況)

本校の「育成すべき技術者像(本校の教育理念)」, 「教育方針」や「学習・教育目標」等が掲載されている学校概要(資料1-2-②-1), 学生募集要項(資料1-2-②-2), 学校案内(資料1-2-②-3)などを近隣2府3県の中学校やその他関係機関に送付・配布している(資料1-2-②-4~7)。またウェブページにも掲載して広く公表している。

教員も精力的に広報に努めている。具体的には, 平成17年6月と7月には教員50名が個別に中学校(京都, 滋賀, 兵庫, 福井など)を訪問(資料1-2-②-8)し, 特に滋賀県南東部の中学校は, 重点的に訪問している(資料1-2-②-9)。その他にも入試説明会(資料1-2-②-10)や中学校要請による進路説明会(資料1-2-②-11)などで説明している。

また平成12年度より準学士課程4年生と専攻科課程1年生を対象にインターンシップを実施しており, その参加学生に報告書を作成させているが, インターンシップ受入企業や機関(資料1-2-②-12)に対して, その報告書と同時に学校案内を送付している。

(分析結果とその根拠理由)

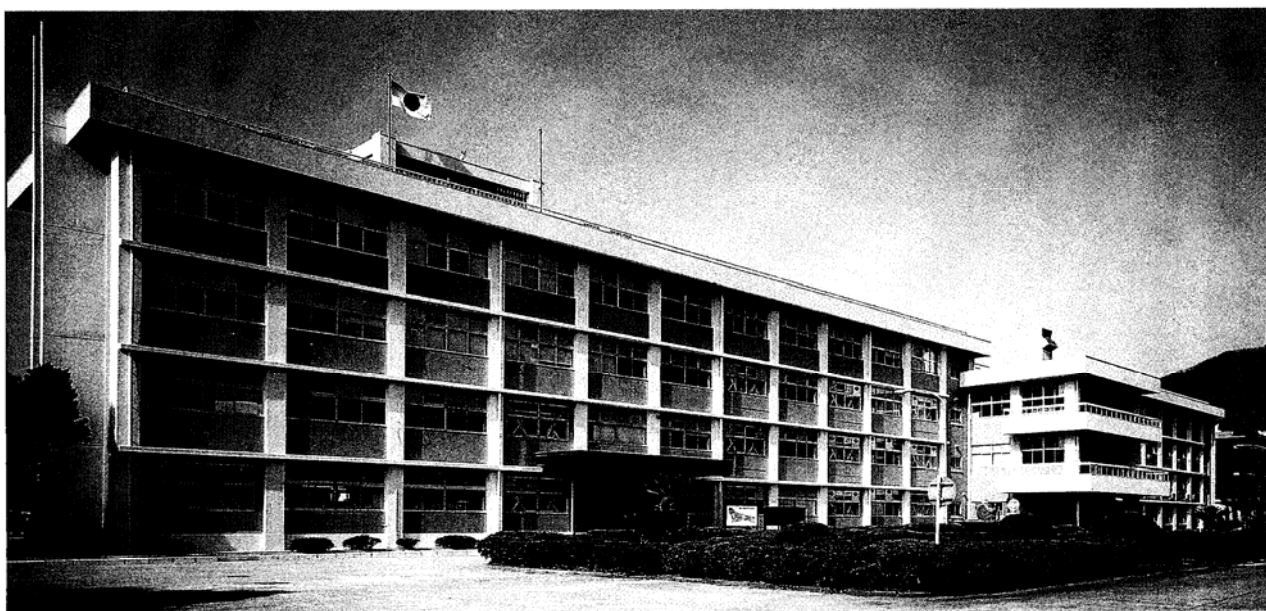
本校の「教育理念」, 「教育方針」, 「学習・教育目標」や入学生受け入れ方針がウェブページに公開されている。さらに, 中学訪問, 入試説明会, 中学校要請による進路説明会を通して本校の広報に努めている。また, 多数の中学校とインターンシップ受入企業や機関に学校案内を配布・送付している。

以上から, 本校の目的が社会に広く公表されている, と判断される。



# 学校概要

平成18年度/2006



国立舞鶴工業高等専門学校  
Maizuru National College of Technology

(出典 学校概要 表紙)

平成 18 年度

# 学生募集要項



## 国立舞鶴工業高等専門学校

〒625-8511 舞鶴市字白屋 2 3 4 番地

電話 (0773) 62-5600(代表)

62-8881(学生課教務係直通)

(出典 学生募集要項 表紙)



(出典 学校案内 表紙)

## 学校概要配布・送付先一覧(平成 18 年度)

区 分		18 年度部数	17 年度部数	備 考
学 内	教 員	63	64	
	事 務 部	20	20	部長, 各課長, 各係長等
	名 誉 教 授	27	26	
	非常勤講師等	30	27	非常勤講師, 学校医等
	小 計	140	137	
学 外	大 学 関 係	17	17	近畿地区等大学
	高 専 関 係	63	63	公私立含む
	その他関係機関	1	1	国立若狭湾少年自然の家
	京 都 府 関 係	7	7	京都府庁等
	舞 鶴 市 関 係	6	6	舞鶴市, 市内国機関
	中 学 校 関 係	350	349	教務係 (学校案内の補足資料)
	留 学 生 募 集 用	30	30	教務係
	職 員 採 用 用	50	50	人事係 (職員統一採用試験)
	来客用・その他	86	190	その他機関含む
	小 計	560	713	
合 計	750	850		

(出典 庶務課資料)

## 資料 1 - 2 - ② - 5

平成 18 年度学生募集要項の作成及び送付について

標記のことについて、下記のとおり作成してよろしいか伺います。  
 なお、作成の上は、別紙のとおり送付してよろしいか併せて伺います。

## 記

1. 内 容 別添のとおり（活字等は平成 17 年度版を参照）
2. サ イ ズ A4
3. 色 打ち合わせによる
4. 作成部数 2,500 部
5. 送 付 先
 

文部科学省高等教育局専門教育課長	1 部（別紙 1）
国立高等専門学校機構理事長	1 部（別紙 4）
中学校（送付用・入試説明会用）	1,900 部（別紙 2）
教育委員会	44 部（別紙 3）
進 学 塾	120 部（別紙 5）
報道関係機関等	2-4 部（別紙 6）
直接申込者分（ <sup>1/33</sup> 「オフ・ソレジ」 <sup>1/33</sup> とも）	200 部
本校関係者	80 部
予 備	130 部

※送付先一覧は別紙のとおり
6. 校 正 2 回
7. 完成期日 平成 17 年 8 月 26 日（金）

(出典 学生課資料)

## 資料 1-2-②-6

平成 18 年度編入学生募集要項について

標記のことについて、下記のとおり作成してよろしいか、伺います。  
 なお、決裁の上は別紙のとおり送付してよろしいか併せて伺います。

## 記

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 内 容   | 別添のとおり(平成 17 年度版を参照)   |
| 2. サ イ ズ | A 4 判  |
| 3. 作成枚数  | 4 0 0 部  |
| 1. 配 布 先 | 文部科学省(高等教育局専門教育課) 1 部(別紙 1)<br>機構本部 1 部(別紙 2)<br>各高等学校 7 8 × 2 部(別紙 3)<br>各教育委員会 1 2 × 1 部(別紙 4)<br>進学塾 6 3 × 1 部(別紙 5)<br>本校関係者 8 0 部<br>予備等(志願者への配布含む) 8 7 部 |
| 5. 校 正   | 2 回  |
| 6. 完成期日  | 平成 1 7 年 6 月 1 0 日(金)  |

(出典 学生課資料)

資料 1 - 2 - ② - 7

学校案内送付先中学校(配布数量調)

府県名	市区町村名	中学校名	生徒数	配布数	
京都府	京都市北区	加茂川	480	5	
		西賀茂	624	5	
		旭丘	455	5	
		衣笠	667	5	
		雲ヶ畑	3	2	
		小野郷	6	3	
		京都大南風京師	376	5	
		京都市上京区	島丸	187	5
		上京	410	5	
		善楽	287	5	
	二条	311	5		
	京都市中京区	北野	301	5	
		朱雀	241	5	
		京都御池	379	5	
		中京	248	5	
		松原	318	5	
	京都市下京区	西ノ京	456	5	
		都文	272	5	
		成徳	87	5	
		尚徳	76	5	
		菅山	81	5	
		梅逕	146	5	
		七条	359	5	
		八条	309	5	
		九条	194	5	
洛南		842	5		
京都市左京区	圃化	272	5		
	久世	549	5		
	岡崎	275	5		
	高野	360	5		
	下鴨	506	5		
京都市右京区	近衛	365	5		
	修学院	738	5		
	洛北	607	5		
	大原	35	5		
	花青第一	8	5		
京都市東山区	花青第二	6	5		
	洛東	181	5		
京都市西山区	弥栄	79	5		
	月輪	254	5		
京都女子	687	5			
小計		13,037	200		

生徒数は0.4, 5現在

府県名	市区町村名	中学校名	生徒数	配布数
京都府	京都市山科区	山科	456	5
		青羽	677	5
		花山	406	5
		安祥寺	388	5
		勸修寺	569	5
		大宇	426	5
		蜂ヶ岡	695	5
		太秦	670	5
		嵯峨	756	5
		高雄	47	5
	石陰	4	5	
	京都市右京区	双ヶ丘	491	5
		西条	372	5
		西院	299	5
		梅津	452	5
		西京極	659	5
		桂	559	5
		榎原	650	5
		桂川	635	5
		洛西	496	5
		西陵	372	5
	京都市西京区	大枝	553	5
		松尾	423	5
		大原野	296	5
		深草	486	5
		藤森	951	5
		桃山	630	5
		伏見	592	5
		醍醐	208	5
		春日丘	393	5
		粟蔭	370	5
	京都市伏見区	醍醐	268	5
		大涼	434	5
		小栗栖	389	5
		神川	827	5
		向島	457	5
		向島東	347	5
		洛水	267	5
		京大東福徳山	400	5
		勝山	577	5
西ノ岡		383	5	
向日市				
小計		19,330	205	

府県名	市区町村名	中学校名	生徒数	配布数	
京都府	長岡京市	寺戸	250	5	
		長岡	441	5	
		長岡第二	507	5	
		長岡第三	542	5	
		長岡第四	353	5	
		大山崎	422	5	
		東宇治	824	5	
		宇治	570	5	
		西宇治	484	5	
		西小倉	297	5	
		北宇治	510	5	
		積島	352	5	
		木橋	844	5	
		南宇治	279	5	
		広野	563	5	
	城陽市	城陽	446	5	
		西城陽	412	5	
		南城陽	384	5	
		東城陽	402	5	
		北城陽	423	5	
		男山	393	5	
		男山第二	340	5	
		男山第三	552	5	
		男山東	394	5	
		田辺	496	5	
	京田辺市	大住	543	5	
		培良	364	5	
		久御山	393	5	
		泉ヶ丘	182	5	
		雄孝館	341	5	
		木津	523	5	
		木津第二	376	5	
		山城	213	5	
		精華	298	5	
		精華南	227	5	
	久世郡 綴喜郡 相楽郡	精華西	372	5	
		泉川	402	5	
		和東	158	5	
		笠原	129	5	
		萬山	219	5	
		美山	151	5	
		北桑田郡			
		小計		16,381	205

学校案内送付先中学校(配布数量調)

府県名	市区町村名	中学校名	生徒数	配布数	
京都府	亀岡市	亀岡	652	220	
		南桑	375	125	
		高田	166	60	
		東輝	699	235	
		大成	311	105	
		祥徳	314	105	
		別院	116	40	
		育親	322	110	
		船井郡	園部	515	175
			八木	249	90
	蒲生野		286	100	
	殿田		185	65	
	瑞穂		157	55	
	綾部市	和知	101	35	
		綾部	652	220	
		何北	82	30	
		八田	108	40	
		東綾	61	20	
	福知山市	上林	51	20	
		豊里	160	55	
		桃映	273	95	
		南陵	484	165	
		成和	322	110	
		日新	524	175	
		六人部	221	75	
		川口	105	35	
		北陵	17	10	
		京都共栄学園	210	70	
	舞鶴市	青葉	572	200	
		白木	521	180	
		和田	194	70	
		城南	527	180	
		城北	546	190	
	天田郡	由良川	72	30	
		若浦	171	60	
		岡田	68	30	
		三和	135	45	
		夜久野	132	45	
	加佐郡 宮津市	大江	168	60	
		宮津	359	120	
	栗田	120	40		
	小計		11,303	3,890	

生徒数は0.4, 5現在

府県名	市区町村名	中学校名	生徒数	配布数	
京都府	与謝郡	日置	36	15	
		兼老	47	20	
		楠立	360	120	
		江陽	380	130	
		加悦	245	85	
		伊根	48	20	
		本庄	42	15	
		中郡	峰山	448	150
			大宮	398	135
			竹野郡	網野	442
	橋			83	30
	間人		175	60	
	宇川		70	25	
	弥栄		179	60	
	熊野郡		久美浜	212	75
			高龍	162	55
			中町	351	120
		加美	234	80	
		八千代	202	70	
	兵庫県 多可郡	黒田庄	285	100	
		藍	669	230	
		上野台	366	125	
		八景	644	215	
		けやき台	634	215	
		ゆりのき台	945	315	
		氷上郡	柏原	333	115
			山南	221	75
			和田	177	60
			氷上	640	215
	青垣		248	85	
	篠山市	市島	358	120	
		春日	420	140	
		篠山	502	170	
		篠山東	236	80	
		西紀	150	50	
		丹南	554	185	
		今田	156	55	
		豊岡南	721	245	
		豊岡北	686	230	
		港	115	40	
	豊岡市	豊岡	686	230	
		港	115	40	
	城崎郡	城崎	114	40	
		城崎	114	40	
	小計		13,286	4,520	

府県名	市区町村名	中学校名	生徒数	配布数	
兵庫県	出石郡	竹野	128	45	
		森本	67	25	
		菅住第一	405	135	
		菅住第二	61	20	
		日高東	322	110	
		日高西	187	65	
		出石	313	105	
		但東	194	65	
		美方郡	村岡	72	25
			鬼塚	69	25
			射蓋	76	30
			小代	62	30
			浜坂	370	125
			温泉	140	50
			照来	81	30
	八田		13	5	
	八鹿		246	85	
	青溪		113	40	
	養父郡	養父	255	85	
		大屋	130	45	
		関宮	137	50	
		生野	141	50	
		和田山	539	180	
		梁瀬	213	75	
		朝来	230	80	
		氣比	514	5	
		松殿	641	5	
		西浦	13	5	
	朝来郡	粟野	724	5	
		角鹿	229	5	
		東浦	32	5	
		粟野	12	5	
		福井県 教賀市	小浜	485	5
			小浜第二	613	5
			美浜	377	5
			高城中学併設校	19	5
			三方	284	5
		遠敷郡	三ノ宮	19	5
	上中		287	5	
	名田庄		74	5	
	小計			8,887	1,655

(出典 学生課資料)

資料 1 - 2 - ② - 7 続き

学校案内送付先中学校(配布数量調査)

府県名	市町村名	中学校名	生徒数	配布数
福井県	大飯郡	高浜	408	140
		音産	5	5
		内浦	15	5
滋賀県	大津市	大橋	207	70
		日野(津南地区)	350	120
		菟川	12	5
		伊香立	84	20
		真野	538	180
		堅田	568	190
		柳本	638	220
		巨谷	656	220
		廣瀬	603	205
		島子山	604	205
		打出	650	220
		陸奥	640	180
		北大路	593	200
		石山	351	120
		陸奥	463	160
		国上	557	190
		青山	285	5
		藤田	601	220
		瀬田北	685	220
		笠置	631	210
		松原	477	160
		幸上	281	95
		玉川	363	125
新宮	424	145		
高津	577	195		
竹山市	守山南	775	260	
	守山	681	195	
	守山北	311	105	
粟東市	明富	456	155	
	粟東	592	200	
	粟東西	601	200	
	粟山	414	140	
滋賀郡	志賀	734	245	
	中津	398	135	
野洲郡	野洲	474	160	
	野洲北	468	160	
甲賀郡	石橋	384	130	
	甲西	448	160	
小計			19,081	6,348

生徒数は04、5現在

府県名	市町村名	中学校名	生徒数	配布数
滋賀県	八日市市	甲西多	540	180
		日枝	395	135
近江八幡市	近江八幡市	水口	773	260
		城山	451	150
		土山	329	110
		甲賀	397	140
		甲南	806	270
		信達	413	140
		玉置	392	130
		親徳	845	215
		船岡	225	75
		八幡	604	205
		八幡東	545	185
		八幡西	632	215
		近江兄弟社	270	90
		藤生郡	富士	413
神崎郡	朝隈	604	205	
	日野	728	245	
彦根市	藤子	476	160	
	五箇井	363	125	
愛知郡	御笠川	737	250	
	(彦根)東	612	210	
	(彦根)西	294	100	
	(彦根)中央	515	175	
	(彦根)南	843	285	
	彦根	342	115	
	鳥居本	105	35	
	稲枝	442	150	
	覚東	203	70	
	南宮	244	80	
大上郡	粟津	311	105	
	粟却	351	120	
長浜市	春日	220	75	
	甲良	277	95	
坂田郡	多賀	255	85	
	(長浜)西	628	175	
	(長浜)北	674	225	
	(長浜)東	280	90	
小計	(彦根)南	301	100	
	柏原	127	45	
大東	301	100		
小計			17,744	5,885

府県名	市町村名	中学校名	生徒数	配布数
滋賀県	東滋賀郡	伊吹山	200	70
		真菰野	13	5
		米原	224	75
		海津	158	55
		双葉	850	280
		浅井	519	175
		彦根	205	70
		湖北	304	105
		扶那	238	80
		高月	330	110
伊香郡	伊香郡	木之本	269	90
		杉野	22	10
		磯田	151	50
高島郡	高島郡	西浅井	158	55
		マキノ	124	45
		弓張	443	150
		朽木	72	25
神崎郡	神崎郡	安曇川	425	145
		高島	220	75
		湖西	381	130
水鏡寺	197	70		
小計			5,127	1,750
合計			124,176	24,755

(出典 学生課資料)



資料 1-2-②-8

平成17年度教員別訪問中学校一覽表

no.	氏名	訪問予定日	中学校名	備考
1	樽井 武	7月 6日(水)	宮津, 養老	宮津市
		7月 8日(金)	加悦, 江揚	与謝郡
2	村上美登志	6月17日(金)	七条, 都文, 成徳	下京区
3	荒川 吉幸	6月29日(水)	梅遥, 桂川	下京区, 西京区
4	梅原 康生	7月 5日(火)	綾部, 豊里, 河北	綾部市
		7月 6日(水)	深草, 藤森, 桃山	伏見区
5	三川 譲二	7月13日(水)	皆山	下京区
6	松井 信義	6月24日(金)	桂, 檉原, 松尾	西京区
		7月 1日(金)		
7	吉永 進一	7月 1日(金)	四条, 梅津, 西京極, 西院	右京区
8	北原 紀之 <small>(孝之) 前田</small> <del>香崎 操</del>	6月30日(水)	男山第2, 男山第3, 男山	八幡市
9	田村 修一	6月29日(水)	美浜, 三方	福井県三方郡
10	垂谷 茂弘	6月30日(水)	岡田	舞鶴市
			大江 栗田	加佐郡 宮津市
11	馬場 秀和	7月 6日(水)	山科, 音羽, 安祥寺	山科区
12	伊藤 直人	6月14日(火)	木幡, 横島, 兼宇治	宇治市
13	丸山 兼泰	7月 8日(金)	上中, 名田庄	透敷郡
			小浜, 小浜第二	小浜市
14	亀谷 睦	7月12日(火)	太秦, 嵯峨, 双ヶ丘, 蜂ヶ岡	右京区
15	背戸柳 実	6月24日(金)	亀岡, 東輝, 詳徳, 別院	亀岡市
			⋮	
49	四蔵 茂雄	6月 7日(水)	豊岡南, 豊岡北, 港	豊岡市
50	三輪 浩	6月27日(月)	加茂川, 西賀茂, 旭丘, 衣笠	北区
計 171校				
備考				
進学説明会中学校		出席者		
日置中学校(宮津市)	金山・片山教員	6月23日(木)		
涌生野中学校(船井郡)	竹内教員	6月24日(金)		
若浦中学校(舞鶴市)	三川教員	7月 4日(月)		
栗田中学校(宮津市)	樽井教員	6月24日(金)		
和田中学校(舞鶴市)	背戸柳教員	7月 5日(火)		
計 5校				

(出典 学生課資料)

平成17年度訪問中学校一覧表

滋賀県南東部の中学校 (特別訪問地域)

訪問地域・中学校	教員名	訪問予定時期	訪問地域・中学校	教員名	訪問予定時期
滋賀県			滋賀県		
大津市			守山市		
滋賀教育大附属 01	金森教員	6月7日(火)	守山南 42	竹内教員	6月7日(火)
皇子山 02	"	"	守山 43	"	"
打出 03	"	"	明富 44	"	6月6日(月)
栗津 04	"	6月8日(水)	栗東市		
瀬田 05	"	"	栗東 45	竹内教員	6月7日(火)
瀬田北 06	"	"	栗東西 46	"	"
伊香立 07	三川教員	6月7日(火)	葉山 47	"	6月6日(月)
真野 08	"	"	野洲郡		
堅田 09	"	"	中主 48	教務係長	6月8日(水)
仰木 10	"	6月8日(水)	野洲 49	西山教員	6月7日(火)
日吉 11	"	"	野洲北 50	教務係長	6月8日(水)
唐崎 12	"	"	甲賀郡		
志賀 (滋賀郡) 13	"	6月7日(火)	石部 51	専門員	6月8日(水)
北大路 14	垂谷教員	6月6日(月)	甲西 52	"	"
石山 15	"	"	甲西北 53	"	"
南郷 16	"	6月7日(火)	日枝 54	奥村教員	6月7日(火)
田上 17	"	"	水口 55	樽井教員	6月9日(木)
青山 18	"	"	城山 56	"	"
玉川 (草津市) 19	"	"	土山 57	"	"
草津市			甲賀南 58	"	6月10日(金)
草津 20	西山教員	6月8日(水)	甲南 59	"	"
松原 21	"	"	信楽 60	"	"
老上 22	"	"	八日市市		
新堂 23	"	6月7日(火)	玉園 61	金山教員	6月7日(火)
高穂 24	"	6月8日(水)	聖徳 62	"	6月8日(水)
守山北 (守山市) 25	"	6月7日(火)	船岡 63	"	"
彦根市			近江八幡市		
(彦根)東 26	亀谷教員	6月7日(火)	八幡 64	金山教員	6月7日(火)
(彦根)西 27	"	"	八幡東 65	"	6月8日(水)
(彦根)中央 28	"	6月6日(月)	八幡西 66	"	6月9日(木)
(彦根)南 29	"	"	近江兄弟社 67	"	6月7日(火)
彦根 30	"	"	蒲生郡		
鳥居本 31	生水教員	6月6日(月)	安土 68	奥村教員	6月8日(水)
稲枝 32	"	"	朝日 69	"	6月7日(火)
愛知郡			日野 70	"	"
愛東 33	生水教員	6月7日(火)	竜王 71	"	"
湖東 34	"	6月6日(月)	神崎郡		
水源寺 (神崎郡) 35	"	6月7日(火)	五個荘 72	奥村教員	6月8日(水)
秦荘 36	中川教員	6月8日(水)	能登川 73	"	"
愛知郡	"	6月7日(火)			
犬上郡			長浜市		
豊日 38	中川教員	6月7日(火)	(長浜)北 74	岡本教員	6月6日(月)
甲良 39	"	6月8日(水)	(長浜)東 75	"	"
多賀 40	"	6月7日(火)	(長浜)南 76	"	"
長浜市			坂田郡		
(長浜)西 41	中川教員	6月7日(火)	柏原 77	岡本教員	6月7日(火)
			大東 78	"	"

※京都国際 79 金山教員 6月9日(木)

(出典 学生課資料)

資料 1 - 2 - ② - 10

校長 事務部長 学生課長 教務係長 係員

教務主事

専門員

## 平成 1 8 年度入試説明会

(H17.9. 30確定)

開催地	会 場	開 催 日	中学校等 出席者数	本 校 出 席 者	備 考 (前年度出席者数)
本 校	大会議室	9月22日(木)	19	三主事 教務主事補(6名) 学生課長・専門員 教務係長(顕臨)	(13)
福知山	京都府立中丹勤労者福祉会館 0773-23-2216 福知山市昭和新町105	9月26日(月)	21	教務主事補(背戸柳) 学生課長・教務係長 教務主任(荒賀)	(25)
滋 賀	G-NETしが男女共同参画セン ター 0748-37-3751 近江八幡市鷹飼町80-4	9月27日(火)	16	教務主事補(奥村) 専門員 教務主任(荒賀)	(11)
三 田	三田市総合福祉保健センター 079-559-5940 三田市川除675	9月27日(火)	7	教務主事補(中川) 学生課長・教務係長	
京 都	平安会館 075-432-6181 上京区烏丸通上長者町上ル	9月28日(水)	24	教務主事・専門員 教務係長 教務係員(渡邊)	(26)
豊 岡	但馬地域機器産業振興センター 0796-24-5551 豊岡市大磯町1-79	9月29日(木)	17	教務主事補(西山) 学生課長・教務係長 教務係員(朝山)	(17)
亀 岡	亀岡会館 0771-23-1134 亀岡市内丸町1-18	9月30日(金)	16	教務主事補(西山) 専門員・教務係長 教務係員(朝山)	(13)
計			120		(105)

※ 開催時間は、いずれの会場も15時00分～16時30分。

(出典 学生課資料)

資料 1 - 2 - ② - 11

## 平成17年度中学校からの要請による進路説明会

受付日	中学校	開催日時	出席者	プロ ジェ クタ	パソ コン	備考
5月23日	日置	6月23日(木) 14:45~15:05	金山、 片山	有	無	
5月30日	蒲生野	6月24日(金) 12:00~12:20	竹内	有	有	
6月1日	若浦	7月4日(月) 14:30~	三川	無	無	
6月10日	栗田	6月24日(金) 13:30~13:50	樽井	無	無	
6月20日	和田	7月5日(火) 13:10~13:25	背戸柳	有	無	
7月4日	柏原	10月7日(金) 12:45~13:00	奥村	有	有	
7月4日	春日	10月12日(水) 13:30~13:45	西山	有	有	
7月4日	青垣	10月12日(水) 14:30~14:45	中川	無	無	
7月4日	氷上	10月12日(水) 15:30~15:45	辻	有	有	
8月2日	上中	10月26日(水) 15:55~16:10	高谷	有	有	
9月2日	小浜	10月21日(金) 13:50~14:10	垂谷	有	無	
9月5日	白糸	10月6日(木) 11:25~11:45	亀谷	有り	無	
9月8日	市島	10月12日(水) 12:45~13:00	生水	有	有	
9月12日	三方	10月28日(金) 14:15~	金森	有	無	
9月15日	高浜	10月11日(火) 13:40~14:00	北原	有	無	
9月20日	名田庄	10月26日(水) 14:10~14:30	岡本	有	無	
9月26日	豊岡南	10月19日(水) 15:05~15:20	金山	有	無	
10月4日	峰山	10月19日(水) 15:15~	片山			希望者6名 対象
10月5日	大宮	10月19日(水) 15:40~16:00	片山	有	有	希望者3名 対象
10月7日	久美浜	11月15日(火) 16:40~17:00	背戸柳	有	無	
10月12日	山南	10月17日(月) 15:30~16:00	樽井			希望者2名 対象
10月13日	白糸	11月25日(金) 19:35~20:05	竹内	有	無	保護者のみ 対象
10月18日	朽木	11月7日(火) 13:00~13:20	辻	有	有	
10月26日	高龍	11月17日(木) 15:30~16:00	三川	有	有	希望者2名 対象

(出典 学生課資料)

## インターンシップ参加企業等一覧 (H17年度)

綾部市天文館  
 株式会社アズクリエイト  
 株式会社インダ  
 上田建設株式会社  
 株式会社エナミ精機  
 NHK大阪放送局  
 オムロン株式会社  
 カルビー株式会社  
 加美電機株式会社  
 株式会社金下工務店  
 金下建設株式会社  
 花王株式会社 和歌山工場  
 株式会社川嶋建設  
 関西電力株式会社原子力補修訓練センター  
 キリンビバレッジ株式会社 舞鶴工場  
 株式会社京都インクス  
 技研電子株式会社  
 向洋電機株式会社  
 国土交通省近畿地方整備局舞鶴港湾事務所  
 国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所  
 株式会社城南電器工業所  
 星和電機株式会社  
 太陽機械工業株式会社  
 株式会社田中工務店  
 株式会社第一土木  
 株式会社T A S  
 株式会社ティ・アイ・ディ  
 電波工業株式会社  
 東洋電機株式会社  
 東レ株式会社滋賀事業所  
 トクデン株式会社 マキノ工場  
 内藤建設株式会社  
 長浜キャノン株式会社  
 株式会社ニチゾウテック京都事業所  
 ニチゾウ電子制御株式会社  
 株式会社日進製作所  
 日本電算シバウラ株式会社  
 株式会社氷上製作所  
 兵庫県土整備部篠山土木事務所  
 富士通サポート&サービス株式会社  
 株式会社堀内機械 京都工場  
 舞鶴市  
 株式会社舞鶴計器  
 松田土木株式会社  
 三菱電機ビルテクノサーズ株式会社  
 有限会社美和設計  
 宮津市  
 村田機械株式会社  
 (株)モリタ製作所  
 山下工業株式会社  
 吉村建設工業株式会社  
 株式会社吉住工務店

(出典 学生課資料)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

該当なし。

(改善を要する点)

本校の「教育理念」，「教育方針」及び「学習・教育目標」は，学校概要，学生募集要項，学校案内，ウェブページなどを通して教職員，学生そして社会に広く公表されているが，周知状況については教員と専攻科課程生の理解度に比べて，準学士課程生の理解度はやや低く、準学士課程生に対する周知方法に改善の余地がある。

## (3) 基準 1 の自己評価の概要

本校は，教育理念を「広く工学の基礎と教養を身につけ，問題発見・解決能力・創造力，国際感覚豊かな実践的技術者を育成する。もって，産業の発展に寄与すること，並びに北近畿地域の教育，文化の基盤を支えることを使命とする。」と定め，教育方針として「(1) 実験，実習，演習，ものつくりを重視する (2) 基礎に立ち返って考えさせる (3) 自ら学ぼうとする意欲を育てる (4) 豊かな教養と国際性を育む」を掲げている。さらに，それらの教育理念と教育方針を踏まえ，具体的な学習・教育目標が設けられている。

準学士課程では，一般教育と専門教育を一貫して行い，将来，専門分野で活躍できるように，基礎知識の修得と実践的応用力を育成する。専攻科課程では，準学士課程での実践教育の特徴を生かしながら，高度の学問と技術を追求し，創造性・人間性豊かで，より独創的な技術開発能力を備えた中核的技術者を育成する。準学士課程及び専攻科課程で養成しようとする人材像，また卒業時（修了時）に備えるべき資質や学力は，観点 1－1－①で詳細に述べた通り，学校教育法第70条の2が定める高等専門学校の目的，「高等専門学校は，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。」を踏まえて策定したものである。

また，教職員及び学生に対して，本校の教育理念，教育方針，学習・教育目標が，学校概要，学生便覧，シラバス，中期目標・計画，ウェブページなどを通して周知されている。学習・教育目標は，絶えず学生の目に触れるように教室に掲示してある。目的の周知状況について教員と学生を対象にアンケートを実施し，周知方法に関してやや問題は残るものの，概ね理解されていることが明らかとなっている。

社会への公表は，ウェブページ，学校概要・学校案内・学生募集要項の送付及び配布，中学訪問，入試説明会，中学校要請による進路説明会等を通して実施している。その他にもインターンシップ受入企業・機関に送付するなど，本校の目的を広く社会に知ってもらうべく努めている。

## 基準 2 教育組織（実施体制）

## (1) 観点ごとの分析

観点 2-1-① 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点到に係る状況）

本校に設置されているのは、機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、建設システム工学科の4学科であり、機械工学科ではあらゆる「ものづくり」の基盤をなす機械工学、電気情報工学科では電気電子工学と情報通信工学、電子制御工学科では実践的なメカトロニクス技術、建設システム工学科では生活基盤建設整備のための技術を学び、工学の幅広い分野にわたって学科が構成されている。平成 18 年度から建設システム工学科に都市環境科目履修コースと建築科目履修コースを開設して社会のニーズに対応させ、教育目的達成の上でより適切なものとなった。

資料 2-1-①-1

学則第 1 条 舞鶴工業高等専門学校は、教育基本法及び学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

学則第 8 条 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

学 科	学 級 数	入 学 定 員
機械工学科	1	40人
電気情報工学科	1	40人
電子制御工学科	1	40人
建設システム工学科	1	40人

（出典 舞鶴工業高等専門学校学則）

（分析結果とその根拠理由）

本校は学則第 1 条に定められた目的のもとに、「広く工学の基礎と教養を身につけ問題発見・解決能力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を養成する」ことを教育理念としており、学科の構成はこの目的に整合したものであり、また設置基準に適合している。

以上のことから、本校の学科の構成は、教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点 2-1-② 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校には専攻科が設置され、電気・制御システム工学専攻と建設・生産システム工学専攻の2専攻が置かれている。前者は、本科の電気情報工学科と電子制御工学科を基盤に、後者は、建設システム工学科と機械工学科を基盤にして、それぞれの工学分野のより精深で高度な事項を教授し、研究を指導することを目的にしている。修業年限は2年である。

資料 2-1-②-1	
学則第39条 専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。	
学則第40条 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。	
専 攻	入 学 定 員
電気・制御システム工学専攻	8 人
建設・生産システム工学専攻	8 人
学則第43条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えて在学することはできない。	
(出典 舞鶴工業高等専門学校学則)	

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の構成は、本科の4つの専門学科を基礎にしており、本校の目的と教育理念に整合し学校教育法の規定に適合している。

以上のことから、本校の専攻科の構成は、教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点 2-1-③ 全学的なセンターを設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校には、全学的センターとして情報科学センターと地域共同テクノセンターが設置されている。

情報科学センターは校内LANを支える施設として、ネットワークの整備・構築、保守と維持の活動を通じて、本校の教育課程を効果的に展開し、また研究活動を行うための不可欠のインフラ維持改善に機能している。さらに、基礎情報教育や専門の情報処理教育に利用されている(資料 2-1-③-1)。情報科学センター施設内の46台のコンピュータのほかにマルチメディア教室(図書館3階)



に 45 台, 専攻科棟 2 階に 30 台のコンピュータを備えた情報演習室があり, 授業に活用されている (資料 2-1-③-2, 色つきは, センター及びマルチメディア教室での授業を表す)。放課後でも, 利用申請をすれば, 情報科学センター施設を平日午後 10 時まで学生が自由に利用できる (資料 2-1-③-1)。また, e-learning システムが導入され, 学生は情報科学センター端末から英語の自主学習ができるようになっている。

地域共同テクノセンターは地域企業との共同研究を円滑に行うための中核施設である (資料 2-1-③-3)。その目的どおりに共同研究の場として利用されているほか, 教育目的として特許研修会, 学生の卒業研究, 専攻科生の特別研究の場として利用されている (資料 2-1-③-4, 資料 2-1-③-5)。

資料 2-1-③-1

## 情報科学センター利用細則

第 2 条 センター及びネットワークは, 次の各号に掲げる研究及び業務等に利用することができる。

- (1) 学生に対する情報処理教育
- (2) 学生の工学実験, 卒業研究
- (3) 教職員の学術研究
- (4) 事務管理
- (5) その他センター長が特に必要と認めた業務

(出典 学生便覧69頁)

平成18年度授業時間割表

本 科 専 攻 の 別 ク ラ ス	曜日 時間	月					火					水						
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
	時刻	9:00~ 10:30	10:40~ 12:10	13:00~ 14:30	14:40~ 16:10	16:20~ 17:50	9:00~ 10:30	10:40~ 12:10	13:00~ 14:30	14:40~ 16:10	16:20~ 17:50	9:00~ 10:30	10:40~ 12:10	13:00~ 14:30	14:40~ 16:10	16:20~ 17:50		
本 科	1	1	数学ⅠA 小松	化学Ⅰ 宮崎昭	数学ⅠC 大嶋	特活	現代文 田村	物理Ⅰ 宮野 【物理実験室】	数学ⅠA 小松	古文 村上	古文 村上	日本史 三川	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	
		2	数学ⅠB 小松	物理Ⅰ 宮野【物実】	数学ⅠC 野間	特活	現代文 田村	物理Ⅰ 宮野 【物理実験室】	数学ⅠA 小松	古文 村上	現代文 田村	日本史 三川	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	
		3	数学ⅠA 大嶋	数学ⅠC 背戸柳	日本史 三川	特活	現代文 田村	化学Ⅰ 小松	英会話Ⅰ 外国人講師	数学ⅠA 小松	古文 村上	現代文 田村	日本史 三川	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水
		4	現代文 田村	数学ⅠA 大嶋	数学ⅠB 梅垣	特活	現代文 田村	化学ⅠC 背戸柳	化学Ⅰ 小松	英会話Ⅰ 外国人講師	古文 村上	現代文 田村	日本史 三川	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水
	2	1	工作実習Ⅰ 川勝【工場】	数学ⅡA 倉谷	化学Ⅱ 宮崎昭	特活	物理Ⅱ 丸山 【物理実験室】	英会話Ⅱ 外国人講師	数学ⅡC 松井	生物(小谷) 第二合併	生物(小谷) 第二合併	情報処理Ⅱ 谷川	情報処理Ⅱ 谷川	総合英語ⅡA 倉谷	総合英語ⅡB 倉谷	総合英語ⅡA 倉谷	総合英語ⅡB 倉谷	
		2	UNIX総論 兼道【センター】 C言語実習 兼道【センター】	英会話Ⅱ 外国人講師	数学ⅡA 倉谷	特活	化学Ⅱ 宮崎昭	総合英語ⅡA 倉谷	数学ⅡC 松井	地学(河野) 【2-2】	地学(河野) 【2-2】	電気情報工学実験Ⅰ 金山・竹澤 【電気工学実験室等】	電気情報工学実験Ⅰ 金山・竹澤 【電気工学実験室等】	数学ⅡC 小松	数学ⅡC 小松	数学ⅡC 小松	数学ⅡC 小松	
		3	電子工学 和田	総合英語ⅡA 倉川	物理Ⅱ 丸山【物実】	特活	数学ⅡC 松井	総合英語ⅡB 倉谷	生物(小谷) 第二合併	生物(小谷) 第二合併	生物(小谷) 第二合併	電子制御実験Ⅱ 和田	電子制御実験Ⅱ 和田	数学ⅡA 伊藤	数学ⅡB 伊藤	数学ⅡA 伊藤	数学ⅡB 伊藤	
		4	建設材料学 岡本	数学ⅡA 伊藤	英会話Ⅱ 外国人講師	特活	総合英語Ⅰ 清水	数学ⅡC 松井	地学(河野) 【2-4】	地学(河野) 【2-4】	総合英語ⅡA 倉川	総合英語ⅡB 倉川	電子制御実験Ⅱ 和田	電子制御実験Ⅱ 和田	数学ⅡA 伊藤	数学ⅡB 伊藤	数学ⅡA 伊藤	数学ⅡB 伊藤
	3	M	工作実習Ⅱ 川勝【工場】	総合英語ⅡB 倉川	応用物理 馬場	特活	工作実習Ⅱ 川勝【工場】	総合英語ⅡB 倉川	前期 総合英語ⅡA	前期 総合英語ⅡA	前期 総合英語ⅡA	前期 総合英語ⅡA	前期 総合英語ⅡA	前期 総合英語ⅡA	前期 総合英語ⅡA	前期 総合英語ⅡA	前期 総合英語ⅡA	
		E	アナログ回路 馬場	回路理論 片山	アナログ回路 北原	特活	アナログ回路 馬場	回路理論 片山	アナログ回路 北原	アナログ回路 馬場	アナログ回路 馬場	アナログ回路 馬場	アナログ回路 馬場	アナログ回路 馬場	アナログ回路 馬場	アナログ回路 馬場	アナログ回路 馬場	
		S	万学 野間	情報処理Ⅲ 野間	総合英語Ⅱ 田村	特活	万学 野間	情報処理Ⅲ 野間	総合英語Ⅱ 田村	万学 野間	万学 野間	万学 野間	万学 野間	万学 野間	万学 野間	万学 野間	万学 野間	
		C	人間論 倉谷	測量実習Ⅱ 西蔵・加登	測量実習Ⅱ 西蔵・加登	特活	人間論 倉谷	測量実習Ⅱ 西蔵・加登	測量実習Ⅱ 西蔵・加登	人間論 倉谷	人間論 倉谷	人間論 倉谷	人間論 倉谷	人間論 倉谷	人間論 倉谷	人間論 倉谷	人間論 倉谷	人間論 倉谷
4	M	法学 梅原	熱力学 辻	人間と文化ⅣA 倉谷	特活	法学 梅原	熱力学 辻	人間と文化ⅣA 倉谷	人間と文化ⅣA 倉谷	人間と文化ⅣA 倉谷	人間と文化ⅣA 倉谷	人間と文化ⅣA 倉谷	人間と文化ⅣA 倉谷	人間と文化ⅣA 倉谷	人間と文化ⅣA 倉谷	人間と文化ⅣA 倉谷		
	E	新道設計 野間	電子制御 吉水	人間と文化ⅣB 倉谷	特活	新道設計 野間	電子制御 吉水	人間と文化ⅣB 倉谷	人間と文化ⅣB 倉谷	人間と文化ⅣB 倉谷	人間と文化ⅣB 倉谷	人間と文化ⅣB 倉谷	人間と文化ⅣB 倉谷	人間と文化ⅣB 倉谷	人間と文化ⅣB 倉谷	人間と文化ⅣB 倉谷		
	S	電子制御 野間	電子制御 吉水	人間と文化ⅣC 倉谷	特活	電子制御 野間	電子制御 吉水	人間と文化ⅣC 倉谷	人間と文化ⅣC 倉谷	人間と文化ⅣC 倉谷	人間と文化ⅣC 倉谷	人間と文化ⅣC 倉谷	人間と文化ⅣC 倉谷	人間と文化ⅣC 倉谷	人間と文化ⅣC 倉谷	人間と文化ⅣC 倉谷		
	C	測量実習Ⅲ 西蔵【現】	測量実習Ⅲ 西蔵【現】	人間と文化ⅣD 倉谷	特活	測量実習Ⅲ 西蔵【現】	測量実習Ⅲ 西蔵【現】	人間と文化ⅣD 倉谷	人間と文化ⅣD 倉谷	人間と文化ⅣD 倉谷	人間と文化ⅣD 倉谷	人間と文化ⅣD 倉谷	人間と文化ⅣD 倉谷	人間と文化ⅣD 倉谷	人間と文化ⅣD 倉谷	人間と文化ⅣD 倉谷		
5	M	環境工学 山口	人間と社会ⅤB 倉谷	設計実習Ⅱ 谷川【谷併2】	特活	環境工学 山口	人間と社会ⅤB 倉谷	設計実習Ⅱ 谷川【谷併2】	設計実習Ⅱ 谷川【谷併2】	設計実習Ⅱ 谷川【谷併2】	設計実習Ⅱ 谷川【谷併2】	設計実習Ⅱ 谷川【谷併2】	設計実習Ⅱ 谷川【谷併2】	設計実習Ⅱ 谷川【谷併2】	設計実習Ⅱ 谷川【谷併2】	設計実習Ⅱ 谷川【谷併2】		
	E	通信工学Ⅰ 新池	人間と社会ⅤC 倉谷	電子制御 野間	特活	通信工学Ⅰ 新池	人間と社会ⅤC 倉谷	電子制御 野間	通信工学Ⅰ 新池	通信工学Ⅰ 新池	通信工学Ⅰ 新池	通信工学Ⅰ 新池	通信工学Ⅰ 新池	通信工学Ⅰ 新池	通信工学Ⅰ 新池	通信工学Ⅰ 新池		
	S	振動工学 金森	人間と社会ⅤD 倉谷	画像処理 奥村	特活	振動工学 金森	人間と社会ⅤD 倉谷	画像処理 奥村	振動工学 金森	振動工学 金森	振動工学 金森	振動工学 金森	振動工学 金森	振動工学 金森	振動工学 金森	振動工学 金森		
	C	構造力学Ⅲ 武田	人間と文化ⅤC 倉谷	施工管理 森尾	特活	構造力学Ⅲ 武田	人間と文化ⅤC 倉谷	施工管理 森尾	構造力学Ⅲ 武田	構造力学Ⅲ 武田	構造力学Ⅲ 武田	構造力学Ⅲ 武田	構造力学Ⅲ 武田	構造力学Ⅲ 武田	構造力学Ⅲ 武田	構造力学Ⅲ 武田		

(出典 学生課資料)

資料2-1-③-2 続き

上段 前期授業

下段 後期授業 (平成18年3月20日)

木					金				
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
情報リテラシーI 原(小野) [センター]	英会話I (外国人講師)	アート&デザイン (竹原) [第2台併]	保体I 小野 総合英語IB 吉水		総合英語IA 吉水	地 理 (福本)			
英会話I (外国人講師)	情報リテラシー 原(小野) [センター]	化学I 宮崎昭	地 理 (福本)		アート&デザイン (竹原) [第2台併]	化学I 宮崎昭	工学基礎 M白藤・辻 E金山・東田 山田・竹澤 S川田(ゼナ)		
アート&デザイン (竹原) [第2台併]	保体I 梅垣	地 理 (福本)			情報リテラシー 竹内(小野) [センター]	物理I 宮野	C岡本		
数学IA 大橋	アート&デザイン (竹原) [第2台併]	総合英語IA 松井	日本史 三川		地 理 (福本)	情報リテラシー 竹内(小野) [センター]			
古文 村上	総合英語IB 松井				アート&デザイン (竹原) [第2台併]				
工作法I 高田	総合英語IIA 宮崎	総合国語I (清水)			世界史 三川	数学IIA 亀谷	保体II (潮野)		
工作実習I 川勝「工場」	総合英語IIB 宮崎				数学IIA 亀谷	総合英語IIB 宮崎	世界史 三川	物理II 丸山 【物理実験室】	
交流回路 東田	総合国語I (清水)	総合英語IIA 宮崎			化学II 宮崎昭	総合英語IIB 伊藤	数学IIA 伊藤	総合英語IIA 丸山	
情報処理II 西岡 [CAD/CAM]	英会話II (外国人講師)	世界史 三川			数学IIA 伊藤	総合英語IIB 伊藤	化学II 梅垣	数学IIB 宮崎昭	
演習実習I 四藤・永井	物理II 丸山【物実】	総合英語IIA 丸山			数学IIA 伊藤	物理II 丸山【物実】	保体II 梅垣	化学II 宮崎昭	
データ処理 原(三輪) [マルチ]	化学II 宮崎昭	総合英語IIB 丸山			物理II 丸山【物実】	応用物理 馬場	数学IIB 伊藤	世界史 三川	
前期 総合英語III A	総合国語II 田村	前期 数学III A 伊藤 [3M] 亀谷 [3E] 背戸柳 [3C] 小松 [3S]		日	設計製図III 白藤 [CAD]	電磁気学I 馬場	人間論 壺谷	アルゴリズム論 丹下 【マルチ】	
後期 総合英語III B	総合国語II 村上「視」	後期 数学III B 伊藤 [3M] 亀谷 [3E] 背戸柳 [3C] 小松 [3S]			CAD演習I 仲川 [CAD/CAM]	水理学I 三輪	人間論 壺谷	情報処理III 川 [CAD/CAM]	保体III (島山・北野)
荒川 梅井 松井 宮崎 (外国人講師)	人間論 壺谷				水理学I 三輪	保体III (島山・北野)	情報処理III 西岡 [CAD/CAM]	地盤工学I 森尾	
確率 前小松「視」	電気工学 岩崎	経済学 法 学	応用数学I (有川)		機械設計法 川勝 (4M)	前 数値解析 高谷「マルチ」 後 工業外国語 講師 (外国人講師)	情報処理III 西岡 [CAD/CAM]	地盤工学I 日下部	
微分積分 亀谷 [4M]	法 学 梅原	応用数学I (有川)	応用物理 丸山		電子工学I 新池 (4E)	材料力学 野間 (4S)	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
物理III A	総 合 英 語 IV A 吉水「マルチ」等 流体工学 大橋	応用数学I (伊藤公)	応用数学II (伊藤公)		材料力学 野間 (4S)	前 数値解析 高谷「マルチ」 後 工業外国語 講師 (外国人講師)	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
期 宮野 [4E]	応用数学I (有川)	保体IV 小野	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	機械工学実験II 辻・高田・西山・鈴木・生水 材料力学III 生水	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
化学III A	法 学 梅原	応用数学I (有川)	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	電気工学実験IV 北原・平池・片山 「電気工学実験室」等	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
統 計 後伊藤「視」	総 合 英 語 IV A 吉水「マルチ」等 流体工学 大橋	応用数学I (伊藤公)	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	保体V 梅垣	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
代数学 背戸柳 [4E]	応用数学I (有川)	保体IV 小野	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
物理III B	応用数学I (有川)	保体IV 小野	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
期 宮野 [4M]	卒業研究	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
化学III B	卒業研究	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
期 宮野 [4S]	卒業研究	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
制御工学	卒業研究	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
鈴木・生水	卒業研究	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
制御工学	卒業研究	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
鈴木・生水	卒業研究	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
工業英語 (外国人講師)	卒業研究	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
工業外国語II 奥村	卒業研究	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
計測工学 仲川	卒業研究	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
設計製図 武田・岡本	卒業研究	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
保体V 梅垣	卒業研究	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
日本文化論 村上 [大講義室]	※ 特別研究 北原・金森・金山・中川・片山・仲川・竹澤 田・奥村・松木・川田・新池・平池・天野	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
デジタル信号処理 野田「種継演習」	※ 特別研究 岡本・森尾・岩崎 生水・西山・篠原・高谷・三輪	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
地域計画 岡	※ 特別研究 北原・金森・金山・中川・片山・仲川・竹澤 田・奥村・松木・川田・新池・平池・天野	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
パワーエレクト ロニクス 中川	※ 特別研究 岡本・森尾・岩崎 生水・西山・篠原・高谷・三輪	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
水工学特論 三輪	※ 特別研究 北原・金森・金山・中川・片山・仲川・竹澤 田・奥村・松木・川田・新池・平池・天野	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
地盤工学設計論 森尾	※ 特別研究 岡本・森尾・岩崎 生水・西山・篠原・高谷・三輪	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
	※ 特別研究 北原・金森・金山・中川・片山・仲川・竹澤 田・奥村・松木・川田・新池・平池・天野	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	
	※ 特別研究 岡本・森尾・岩崎 生水・西山・篠原・高谷・三輪	卒業研究	法 学 梅原		材料力学 野間 (4S)	制御工学II 金森	水理学II 島山・北野	地盤工学I 日下部	

(出典 学生課資料)

資料 2-1-③-3

## 舞鶴工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程

第2条 センターは、産学官の共同研究の推進及び地域産業との連携並びに発展に 寄与するとともに、本校における教育研究の向上発展に資することを目的とする。

第3条 センターは、次の各号の業務を行う。

- (1) 地域産業界等との共同研究，技術交流推進に関すること。
- (2) 地域に開かれた体験教育等に関すること。
- (3) 総合技術開発力のある学生の育成に関すること。
- (4) 学科の枠を超えた横断的な研究及び協力支援に関すること。
- (5) その他センターの管理運営に関すること。

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集 )

## (分析結果とその根拠理由)

本校の情報科学センターは、授業に有効に利用されているだけでなく、放課後にも多くの学生に利用されており、教育を遂行するために不可欠のものとなっている。地域共同テクノセンターは、地域企業との共同研究を円滑に行うための中核施設であり、共同研究の場として利用されているほか、教育目的として特許研修会、学生の卒業研究、専攻科生の特別研究の場として利用されている。

以上のことから、本校の全学的センターは教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

資料2-1-③-4

外部資金導入のための取組状況(H13~H17)

開始年度	外部資金導入のための取組状況	所管課及び教職員	現状	備考
17				
13				
16				

\* 外部資金の導入を図るため、他部署において特に努力している事業があれば具体的に記入ください。

様式4-1 (記載例)

地域共同テクノセンター等使用状況一覧(H16~H17)

年度	使用目的	使用年月日	使用人数	使用者	目的
16	技術相談(16年度年報、p104)で38件	平成16年度			
	2軸ロボット並びに倒立振り子の制御系解析/設計	平成16年5月13日 ~7月15日まで8日	23名/日	電子制御工学科:川田昌克	④
平成16年度小計					
17	テクノセンター運営委員会#1	平成17年4月25日	9名	機械工学科:辻正	④
	テクノセンター運営委員会#2	平成17年5月18日	10名	機械工学科:辻正	④
	テクノセンター運営委員会#3	平成17年5月26日	6名	機械工学科:辻正	④
	テクノセンター運営委員会#4	平成17年6月20日	7名	機械工学科:辻正	④
	テクノセンター運営委員会#5	平成17年9月5日	5名	機械工学科:辻正	④
	テクノセンター運営委員会#6	平成17年11月14日	6名	機械工学科:辻正	④
	特許・契約相談会#1	平成17年6月30日	2名	機械工学科:辻正	④
	特許・契約相談会#2	平成17年9月21日	4名	機械工学科:辻正	④
	特許・契約相談会#3	平成17年9月27日	2名	機械工学科:辻正	④
	特許研修会打合せ#1「新規性・特許性の見出し方」	平成17年6月23日	6名	機械工学科:辻正	④
	特許研修会打合せ#2「技術MAP・特許MAP、発明考案概要」	平成17年7月14日	6名	機械工学科:辻正	④
	特許研修会打合せ#3「研究における特許法(知的財産法)」	平成17年9月8日	6名	機械工学科:辻正	④
	特許研修会打合せ#4「発明考案の活性化と誘導、発明説明」	平成17年11月14日	6名	機械工学科:辻正	④
	技術相談:「冷却装置内の風の流れについて」	平成17年10月19日	2名	機械工学科:西山等	④
	技術相談:「新型モーターの試作について」	平成17年6月6日	3名	機械工学科:川勝邦夫	④
	技術相談:「締結部品の破損面について」	平成17年7月4日	3名	機械工学科:川勝邦夫	④
	技術相談:「薄板構造物のたわみ量測定について」	平成17年9月13日	2名	機械工学科:川勝邦夫	④
	技術相談:「機械図面(断面図示)の解釈について」	平成17年10月7日	2名	機械工学科:川勝邦夫	④
	技術相談:「人づくり(若手技術者)プランについて」	平成17年10月17日	3名	機械工学科:川勝邦夫	④
	技術相談:「小ねじ(アルミニウム)の疲労試験について」	平成17年7月15日	4名	機械工学科:白藤中生	④
	技術相談:「小ねじ(若手技術者)に関して、治具図面の検討会」	平成17年10月21日	4名	機械工学科:白藤中生	④
技術相談:「小ねじ疲労試験、完成治具の検討会」	平成17年12月2日	3名	機械工学科:白藤中生	④	
技術相談:「京都府環境・機械金属振興センターの実習相談」	平成17年10月31日	2名	機械工学科:白藤中生	④	
技術相談:「京都府北部におけるコンクリート用細骨材の調査」	平成17年7月7日	3名	建設システム工学科:岡本寛昭	④	
技術相談:「ボースコンクリート製品の性能評価」	平成17年10月28日	2名	建設システム工学科:岡本寛昭	④	
情報システム開発支援室:2軸ロボット並びに倒立振り子の制御系解析/設計	平成16年5月26日 ~7月19日まで8日	21名/日	電子制御工学科:川田昌克	④	
平成17年度小計					

\* 使用者は自校の場合は専攻分野を、他施設の場合は施設名を記載した後氏名を記載  
\* 目的欄には、右記使用目的区分を記載ください。①共同・委託研究等、②教育の研究、③学生の卒業研究、④その他

(出典 地域共同テクノセンター資料)

資料2-1-③-5

様式4-2 (記載例)

地域共同テクノセンター等内設備稼働状況一覧(H16~H17)

年度	設置機械名	使用年月日	稼働時間	使用者	目的
16	情報システム開発支援室:「ロボットアーム実験装置」	後期・毎週月曜日	2~4時間	電子制御工学科:竹内敬治	④特別実験
	情報システム開発支援室:「2軸ロボットシステム」	平成16年5月13日 ~7月15日まで8日	3時間/日	電子制御工学科:川田昌克	④
	情報システム開発支援室:「倒立振り子システム」	平成16年5月13日 ~7月15日まで8日	3時間/日	電子制御工学科:川田昌克	④
17	構造解析支援室:「FEM解析」	平成17年4月~	10時間/週	機械工学科:白藤中生	③卒業研究
	構造解析支援室:「オープンカレッジでの操作指導」	平成17年7月29日、30日	計4時間	機械工学科:白藤中生	④
	構造解析支援室:「3D-CAD基本操作講習」	平成17年11月8日、9日	計4時間	機械工学科:白藤中生	④
	構造解析支援室:「3D-CAD講習会」	平成17年8月29日、30日	計11時間	教育研究支援センター:大和辰徳	④
	情報システム開発支援室:「ロボットアーム実験装置」	後期・毎週月曜日	2~4時間	電子制御工学科:竹内敬治	④特別実験
	情報システム開発支援室:「2軸ロボットシステム」	平成16年5月26日 ~7月19日まで8日	3時間/日	電子制御工学科:川田昌克	④
	情報システム開発支援室:「倒立振り子システム」	平成16年5月26日 ~7月19日まで8日	3時間/日	電子制御工学科:川田昌克	④

\* 使用者は自校の場合は専攻分野を、他施設の場合は施設名を記載した後氏名を記載  
\* 目的欄には、右記使用目的区分を記載ください。①共同・委託研究等、②教育の研究、③学生の卒業研究、④その他

(出典 地域共同テクノセンター資料)

観点2-2-① 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

教育課程全体の企画調整と教育課程の有効な展開のための検討・運営体制の中心となっているのは、準学士課程については教務委員会、専攻科課程については専攻科委員会である(資料2-2-①-1)。

教務委員会は、概ね毎月1回開催され、教育活動に係る広範な重要事項を審議してきた。平成17年度は、教務委員会の下にFD部会、混合学級部会、教育制度部会、カリキュラム部会の4つの専門部会が設置され活動した。平成18年度は、FD部会は評価委員会の下に移され、混合学級部会は学年ごとの学年担任会議を置くことで解消した。教育制度部会は、教務委員会本体に吸収された。教育活動の改善に直接係わるFD部会は、ほぼ毎月1回開催され、授業公開(平成13年度後期より4学科・2部門でそれぞれ年2回実施)と授業アンケート(平成9年度より通年・後期開講の全ての科目に実施、平成16年より前期開講科目にも実施)の改善に向けての検討・実施とフィードバックを行っている。平成17年度より試行を始めた授業参観型授業公開(2週間の期間内に教員各自が最低1回他の教員の授業を自由に参観し、自分の教育改善の参考とする)及び科目間連絡ネットワークの活動(観点2-2-②参照)の他、FD講演会・学習会(パネル・ディスカッション)の企画・実施など、教育課程の改善と実施に向けての活動を行ってきた。専攻科委員会も概ね毎月1回開催され、専攻科課程の教育活動に係る広範な重要事項を審議してきた。上記委員会等の議事概要は訪問調査時の閲覧資料として提示する。

資料2-2-①-1

#### 教務委員会規則

第3条 委員会は校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を協議する。

- (1) 教育課程の編成及び改廃に関する事項
- (2) 学校行事に関する事項
- (3) 授業時間割の編成に関する事項
- (4) 学生の編入学及び進学に関する事項
- (5) 定期試験及び学業成績に関する事項
- (6) 課外教育に関する事項
- (7) その他教務に関する事項

#### 専攻科委員会規則

第3条 専攻科委員会は、校長の諮問に応じて、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成及び実施に関すること。
- (2) 教育計画及び授業時間の編成に関すること。
- (3) 入学者選抜に関すること。
- (4) 入学、退学、転学、休学、復学及び修了に関すること。
- (5) 試験及び学業成績に関すること。

(以下、省略)

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

(分析結果とその根拠理由)

本校では教務委員会と専攻科委員会が組織として整備され、教育課程に係る重要事項を審議し、企画・実施するなどの活動を行っている。

以上のことから、教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制と教育課程を有効な展開に展開するための検討・運営体制は整備され、教育活動に係る必要な活動を行っている。

#### 観点 2-2-② 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

一般科目及び専門科目を担当する教員との連携は、教務委員会が主導しての教員同士の話し合いや相互のシラバスの参照等により、適宜機能的に行われてきた。その連携の中で作られた科目系統図を資料として揚げておく(資料 2-2-②-1)。

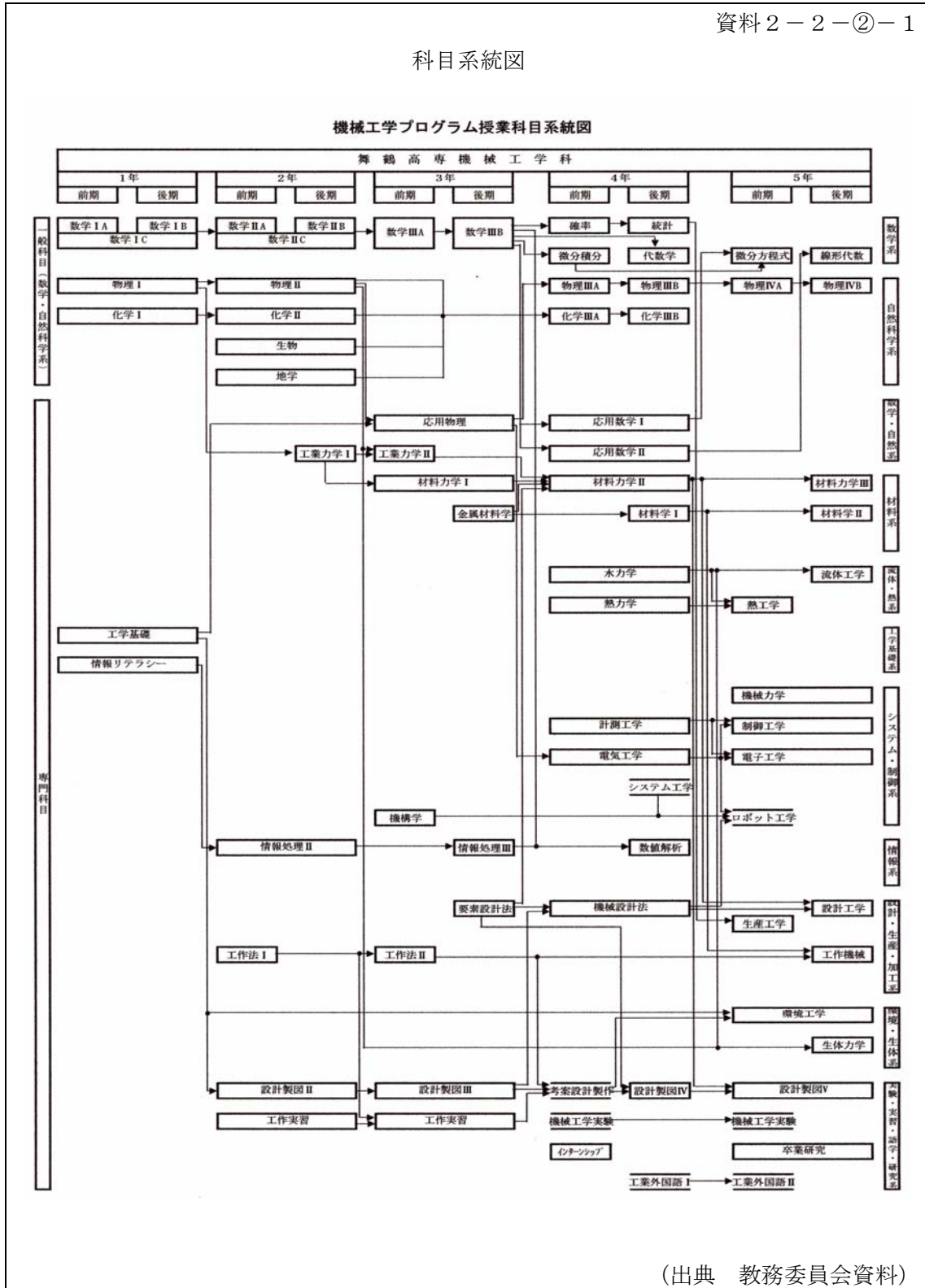
これに加えて、平成 17 年度より科目群連絡ネットワークを構築して教員間の連携を強めるために、「科目群連絡会」を実施することとした。前期には、1. 数学系、2. 電気電子系、3. 制御系、4. 材料力学系、5. 倫理社会環境の 5 つであり(資料 2-2-②-2)、後期には 1. 英語系、2. 熱流体エネルギー系、3. 力学ダイナミクス系、4. 情報系の 4 つの科目群連絡会が実施された。これらは全て、一般科目担当教員と専門科目担当教員との連携によるものである。それぞれの連絡会での情報交換や話し合いは、各授業内容の相互理解を深め、授業科目相互の調整と連携を強め、教育効果を高める効果があると考えている。この試みはまだ緒についたばかりではあるが、今後、教員間連携の一層の強化に効果を上げることが期待される。

(分析結果とその根拠理由)

本校においては、一般科目及び専門科目を担当する教員との連携は、従来から適宜機能的に行われてきたが、教員間の連携を強めるための「科目群連絡会」を導入することにより組織的に連携を強化するようにしている。このように、一般科目及び専門科目を担当する教員との連携が、機能的に行われている。

資料 2 - 2 - ② - 1

科目系統図





## 平成 17 年度 科目群連絡会 第 1 回会議成果

科目群		(1) 各授業内容の相互理解	(2) 授業内容のフローについて	(3) 教育効果を高める改善案	(4) 達成目標の水準と評価
1. 数学系 (共通)	リ-ガ-：小松 幸恵 委員：5 名 科目数：6 科目	科目群連絡会（数学系）の科目および、その他の 4、5 年生の数学系の科目の授業内容について、授業担当者が説明し、確認した。	(1) 専門上の関係 ○必須数学Ⅰ(4S)では、学科からの要請で、微分方程式を前期に授業している。 ○5 年の微分方程式では、微分方程式を EXCEL で数値的に解いている。各専門学科でも微分方程式を数値解析する授業がある。例えば、S では計算機工学Ⅱ。 (2) 数学一般 5 年の統計学で標準を教える時間が少ない。4 年の統計で学習する機会、検定も取っているが、その他に、品質管理や分散分析、目標分析についても取っている。 (3) 線形代数 ○数学Ⅱで、4 年の応用数学Ⅱ、5 年選択科目の線形代数の 3 年間で既述している。授業の内容に重複が見られるが、大学へ編入する学生のことや、5 年の線形代数が選択科目であることを考慮するとやむを得ない。 ○建設システム工学のみ応用数学Ⅱを 5 年生で授業しているが、5 年選択科目の線形代数との関係から、応用数学Ⅱを 4 年生で授業することが望ましい。 (4) 微分積分 ○微分積分が 4 年の選択科目になっているが、専門に必要なものでないか？全ての学生が微分積分を学習する方がよいのではないか。 ○現状では、微分積分は選択科目であるから、学生に選択の自由があつてよいのではないか。 (5) 複素関数論（応用解析Ⅰ、Ⅱ） ○専攻科の応用解析で複素関数論を授業しているが、S ではラプラス変換の授業で複素関数論を教えている。 ○高専によっては、複素関数論を本専で授業している。 ○応用解析Ⅱを専攻科 1 年生で授業すれば、教育効果が上がるのではないか。 ○応用解析Ⅱを必修科目から選択科目にしてはどうか。	4、5 年では自然系の選択科目を履修している。現状では、科目の内容ではなく、単位取得の容易さや成績評価を基準に科目選択しており問題である。選択科目に関するガイダンスで、科目の履修や目的を説明したり、科目選択のモデルを学生に明示した方がよいのではないか。	(1) 専攻科入試での数学の成績から考え、専攻科での数学の授業についていけない学生が出るのも当然か。 (2) 応用解析Ⅰと応用解析Ⅱの評価をもう少し厳しくしないと（少なくとも、正則関数の性質を 1 年で覚えるようでは）応用解析Ⅲを理解させるのは難しい。 (3) 具体例の計算を通して学生に達成感を与えることや、中間試験的なものやレポートを課すのもひとつの方策ではないか。
		(1) 各授業内容の相互理解	(2) 本専と専攻科の連携	(3) 数学と専門の連携	(4) 教育効果を高める改善案
2. 電気電子系	リ-ガ-：竹内 敬治 委員：8 名 科目数：8 科目	各担当者が順に教科の概要と授業内容について説明し、相互理解を深めた。	8 科目以外の電気電子系担当科目および数学関連科目について、各担当者が科目間の関連性を説明し、本専と専攻科の科目間のつながりおよび担当教員が配属している事項を紹介した。電気工学では、通信工学や信号処理関連科目で、電子制御工学では制御工学と電子回路関連科目で本専と専攻科の連携ができていくことが確認された。しかし、本専における 2 科目が専攻科でひとつになるために、専攻科での講義において学生が出身学科に配慮が必要であることを複数の教員が感じており、本専科目についても学科間連携による教科担当などの工夫の必要性について意見が出された。	今回対象とした数学科目は、線形代数に関する科目であった。数学担当員からは、2 年生の「数学Ⅲ」では高校レベルのベクトルに関する内容。6 年生では行列を盛り込み大学 1 年 2 年のレベルに設定している。専門科目と連携については、対象の数学科目が工学の基礎的な基礎であるという認識から、個別工学科目との連携というより工学の基礎科目としてどのように内容を検討するのかが重要になるのではないかと意見が示された。	①本専と専攻科の関連科目のつながりに関して、電気情報工学科と電子制御工学科の本専科目内容を両学科で検討してはどうか。 ②工学の基礎科目としての数学の内容を専門学科と共同でチェックしてみてもどうか。
	3. 制御系 (ES)	リ-ガ-：金森 潤 委員：6 名 科目数：9 科目	各担当者が順に教科の概要と授業内容について説明し、相互理解を深めた。	本専と専攻科との連携、すなわち授業内容の流れに焦点を当てて話し合った。電子制御工学科では、制御工学Ⅰ、Ⅱとシステム制御の 3 科目（計 6 単位）を開設しているのに対し、電気情報工学科では、制御工学（2 単位）のみと比較的少ない。そこで、電気情報工学出身の学生が、専攻科における制御工学特論やシステム制御工学に無理なくついて行けるかどうか論点となり、意見交換が行われた。その結果を要約すると次のようになる。①システム制御工学は必修でもあるので、基礎に重点を置き、電気情報工学出身の学生でも無理なく修習できるように講義内容を工夫する。（今までもそうしてきた）②制御工学特論では、電気情報工学出身の学生の方が積極的に質問し、成績も良かったので、今とことろ特に問題ないと思われる。③電気情報工学科の制御工学は 1 科目だけではあるが、3 年生から専門科目の中でラプラス変換を、4 年生から選修応答など教えているので、古典制御の枠組みでは電子制御工学と遜色ない。④システム制御工学では基礎に重点を置き、制御工学特論では先端的な制御理論の紹介に重点を置くべきであり、そのためには、システム制御工学を前期に、制御工学特論を後期に配属してほしい。⑤電気情報工学科の担当教員への要請として、ローグリーンコーダなどのセンサー関連の講義を、もう少し増やしてほしい。⑥制御系 CAD である MATLAB を両学科共同で導入してはどうか（役員歳費経費など）。	制御関連科目においては、微分方程式、線形代数、ラプラス変換の知識が極めて重要であることが確認された。数学と制御関連科目との連携について話し合った結果を要約すると下記のとおりである。①線形代数については、応用数学や一般の数学科目で教えているので、数学と専門の連携はうまく行っているとはいえない。②複素関数論を教えないので、ラプラス変換の授業は出さない。③専門科目では、数学をツールとして使いこなすことに重点をおいて教えるべきである。使い方がわかれば興味が出て、数学本来の理解が繋がる。④微分積分・重積分が選択となっているので、今後の見直しが必要である。⑤ 1 年～3 年までの数学+α をしっかりと教えて欲しい。そうすれば、専門の授業は何とかなると考える。

(出典 教務委員会資料)

## 資料 2 - 2 - ② - 2 続き

## 平成 17 年度 科目群連絡会 第 1 回会議成果

科目群	(1) 各授業内容の相互理解	(2) 数学と専門の連携	(3) 本科と専攻科の連携	(4) 教育効果を高める改善案
4. 材料力学系 (CM) リ-ダ- : 岡本 寛昭 委員 : 8 名 科目数 : 12 科目	各担当者から授業科目の概要について説明を受けた後、質疑応答を行った。各科目において使用する数学の範囲とレベル、科目の関連性などについて相互理解を深めた。 その他以下の指摘があった。 ・物理ⅣB (丸山) は内容が電子や原子核を取り扱う現代物理学で、材料力学系とは無関係であり、材料力学系科目群ではない。 ・コンクリート構造学 (岡本) を材料力学系科目群に入れるべきである。 今後、材料力学系科目群の科目構成を見直す必要がある。	一般に工学から見た数学と純粋数学の間に問題を取り扱う際の違いが指摘される。ここでは、専門科目と数学の進捗について論議し、以下のことが意見交換された。 ・専門科目で必要とする数学の事項を事前に学べるようカリキュラムをバランスよく整備する必要がある。 ・例えば、5 年や専攻科の専門科目で微積分や重積分を使用している。しかし、数学の授業としては、4 年選択科目の「微積分」で微積分や重積分を学習するが受講者が少ない。専門科目において微積分や重積分をどのように理解させているのか、これに対して担当者から使法的解法で急場をしのいでいる。との回答があった。 ・三角関数などの初等数学をもっとしっかり勉強させるべきである。 ・数学の科目で学生の実力を考慮すると一部極めてレベルが高い内容が見受けられる。 以上の議論を踏まえ、工学を学ぶ学生は数学を順序だてて勉強し、専門科目の問題に適用できるような方策が重要であることが確認された。	本科と専攻科の連携については、次回 (1 月) に議論する予定である。	数学と専門科目の学習項目を整理した表を作成すべきである。
5. 倫理社会環境 (共通) リ-ダ- : 和田 優 委員 : 5 名 科目数 : 5 科目	各担当者から、授業科目の概要について互いに説明し、相互理解を深めた。 今後、3 年の人間と社会 (宗教 : 吉永先生) もグループに入れる。	法学、経済学は基礎知識としての位置付け、経済学も同一群とすべきである。 法学の授業では第 7 週に技術者倫理と PL 法の説明をしている。しかし、法と倫理と道徳は本質的には別の学問である。技術者倫理とは何か一人人間の倫理とどう違うのか。 ・法学は過失責任を問題としている (例えば公害等) が、PL 法などは無過失責任、客観的に存在する不良を問題とする。 ・経済学は人間生活を豊かにすることや、人間にとって必要なものを作っているかを問う学問に対して、技術者倫理は技術者のモラルを問う学問である。	本科と専攻科の連携	(4) 教育効果を高める工夫 3 年の人間論を含めて、全体のフローチャートを作るべき。JABEE のための科目群連絡会にせず、全体を通して科目の流れを明確にすべきである。

(出典 教務委員会資料)

**観点 2-2-③ 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。**

(観点に係る状況)

学級担任への支援として、教務委員会と学生課が毎年「学級担任のしおり」(資料 2-2-③-1)を作成して配布している。まだ高専に慣れていない 1 年生の教育活動を円滑に実施するために、平成 14 年度から副担任制度を設け(資料 2-2-③-2)、1・2 年生では混合学級部会を開催し(資料 2-2-③-3, 資料 2-2-③-4)支援している。平成 18 年度から、混合学級部会は各学年の学年担任会議の整備によって発展的に解消された。その他、4 月には全学級担任で行う担任会議を開催している。また 1 年生から 3 年生で毎週 1 単位時間実施している特別活動について実施記録を作成し、それらをまとめて公開して各担任の工夫を共有できるような支援体制を整備している。また、担任は適宜学生課職員の助言・協力を得ることができるようになっている。1 年生の入学直後に行われる新入生合宿研修も、担当クラスの学生をよく知ることができる絶好の機会となっており、1 年生を担当する教員にとっての支援となっている。これらの支援体制の教員評価アンケートの結果を資料として挙げる(資料 2-2-③-5)。

課外活動の中心となるクラブ・同好会活動に対しては、原則として 2 名以上の指導教員を配置するほか(資料 2-2-③-6)、学外からの専門コーチを配置し(資料 2-2-③-7)、また希望する指導教員には変形労働時間制を導入するなどの、支援体制をとっている。これらの支援体制についての教員評価アンケートの結果も資料 2-2-③-5 に示されている。

学級担任は、特別活動の他にも、教室清掃活動等の生活指導、学生との面談などを通じて、学生一人一人の個性と、その学習・課外活動、学校・寮での生活状況全般を把握し、また学生との交流を通じて学校に親しませ、学生が楽しくかつ有意義に学校生活を送れるように支援している。また学校と保護者との間の意思疎通のために、後援会支部総会の開催時の面談及び必要に応じての保護者と面談も実施しその目的を達成している。

クラブ活動は、学生が興味を持って取り組んでいる課外活動であり、顧問教員が指導・援助を行うことで学生への信頼を獲得する機会となっており、本校の教育活動への支援となっている。

(分析結果とその根拠理由)

学級担任とクラブ顧問等の活動は、学生が本校の教育目的の下で充実した学生生活を送るために重要な役割を果たしており、その活動を支援するための体制も整えられている。

以上のことから、教育活動を円滑に実施するための支援体制は機能している。

## 学級担任のしおり目次

## 目 次

1. 学級運営	1
【前担任との引継, 同学年担任との連絡, 専門学科との連絡】	
【留学生・編入生】	
【運営】	
【特別活動 (1～3年生)】	
2. 学級組織と教室	1
2-1. 学級組織	1
【学生会クラス委員】	
【週番】	
【掃除当番】	
2-2. 教室	1
【座席配置】	
【設備・備品・机・椅子・壁等】	
【黒板・掲示板】	
【その他】	
3. 学生の指導	2
3-1. 学習指導	2
【日常の学習指導】	
【授業態度】	
【定期試験時の指導】	
【履修単位確認票 (2～5年生)】	
【追認願 (2～5年生)】	
【インターンシップ (4年生)】	
3-2. 進路指導	2
【進路決定】	
【就職指導】	
【進学指導】	
【退学・転学・休学・復学】	
【転科 (1～2年生)】	
3-3. 生活指導	3
① 出欠	
【欠席・欠課】	
【病欠】	
【遅刻・早退】	
【忌引】	
【公欠】	
【出席停止】	
② 身だしなみ	
③ アルバイト	
④ 万引き・自転車窃盗	
⑤ 盗難防止	
【自転車】	
【金銭管理】	
【ロッカー】	
【盗難発生時】	

## 資料 2-2-③-1 続き

## 学級担任のしおり目次・続

⑥ 学生相談 【カウンセラー・学生相談員・保健室】 【セクシャルハラスメント】	
3-4. 寮生の指導 .....	5
① 寮生 【寮生活の把握】 【訪問】 【寮務主事・寮務係との連携】	
② 寮生外の寮訪問 【寮生への面会】	
3-5. 通学生の指導 .....	5
① 自宅外通学生 【住所・生活状況の把握】 【訪問】 【その他】 【女子学生】	
② 自宅通学生 【生活状況の把握】 【家庭訪問】	
3-6. 車両使用に関する指導 .....	5
【車両使用許可】	
3-7. クラブ活動の指導 .....	6
【サークル加入届】 【顧問との連携】	
3-8. 学校行事の指導 .....	6
【行事全般】 【始業式】 【身体計測・健康診断（内科・歯科検診等）】 【新入生合宿研修（新1年生）】 【交通安全講習会（2～5年生・専攻科生）】 【進学説明会・進路相談会（4・5年生）】 【環境美化・球技大会】 【学生会総会】 【4年見学旅行】 【高専祭】 【マラソン大会】 【卒業証書授与式】	
4. 保護者との連絡 .....	6
【日常的な連絡】 【問題行動把握】 【成績表の記入】 【後援会支部総会】	
5. 事務的業務 .....	7
5-1. 授業料免除申請 .....	7
【申請の時期】 【申請学生との面接】 【選考】	

## 学級担任のしおり目次・続々

5-2. 奨学金申請 .....	7
【申請の時期】	
【緊急採用】	
【申請学生との面談】	
【選考】	
【奨学生の異動】	
5-3. 学生の表彰 .....	8
6. 突発的事態への対応 .....	8
6-1. 学校管理下での事故等 .....	8
【応急措置・連絡】	
6-2. 学生の身柄引き取りについて .....	8
【事実の把握】	
【保護者との連携】	
【処分・事後の指導】	
7. 年間行事・提出書類一覧 .....	10
8. 参考書類	
・学校伝染病の出席停止期間基準表	
・学生の身柄引き取りについて	

資料 2-2-③-2

## 平成 18 年度校務分担表

平成 18 年 4 月 3 日現在

主事・主事補	教務主事	金山光一	教務主事補	樽井武；背戸柳実；西山山重康；奥村幸彦；高谷富也	
	学生主事	竹内敬治	学生主事補	荒川吉孝；小野伸一郎；篠原正浩；片山英昭；和田優；仲川力	
	寮務主事	三川譲二	寮務主事補	吉永進一；小松幸恵；谷川博哉；吉永澤智樹；川田昌克；四蔵茂雄	
専攻科長	中川重康				
専攻長	電気・制御システム工学専攻		和田優 建設・生産システム工学専攻		
学科(部門)長	人文科学部門	樽井武	自然科学部門	伊藤直人	
図書部長	北原紀之		辻正		
情報科学センター長	片山英昭		樽井武		
国際交流センター長	奥村幸彦		白藤中生		
学級担任・副担任	学年学級	1-1	1-2	1-3	1-4
	担任	吉永進一	竹澤智樹	奥村幸彦	小野伸一郎
	副担任	白藤中生	松井信義	背戸柳実	川田昌克
	学年学級	2-1	2-2	2-3	2-4
	担任	丸山兼泰	村上美登志	伊藤直人	荒川吉孝
運営会議	委員長	校 長			
	委員	金山光一；竹内敬治；三川譲二；樽井武；伊藤直人；生水雅之；平地克也；金森満			
	委員	岡本寛昭；篠原正浩；北原紀之；片山英昭；奥村幸彦；辻正；中川重康；事務部長			
	委員	岡本寛昭；篠原正浩；北原紀之；片山英昭；奥村幸彦；高谷富也；庶務課長；会計課専門職員；(学術情報係長)			
	委員	高谷富也			
情報化推進委員会	部長	高谷富也			
	委員	樽井武；背戸柳実；大嶋毅；仲川力；鈴木立人；山田博；加登文学；野瀬佳正			
データベース部会	部長	田中金計課専門職員			
	委員	眞柄賢一；畑亮次；能勢嘉朗；石井貴弘			
企画室	室長	金山光一；竹内敬治；三川譲二；川勝邦夫；玉井総務係長；芦田出納係員			
	委員	西山等			
新カリキュラム特別委員会	委員長	樽井武；背戸柳実；辻正；篠原正浩；金山光一；片山英昭；竹澤智樹；和田優			
	委員	川田昌克；高谷富也；四蔵茂雄；学生課長；(学生課専門職員；教務係長)			
評価委員会	委員長	校 長			
	委員	金山光一；竹内敬治；三川譲二；樽井武；松井信義；宮野敏男；梅垣浩二；岩崎和春；生水雅之；北原紀之；新池一弘；金森満；仲川力；岡本寛昭；三輪浩；事務部長			
FD部会	部長	金 森 満			
	委員	梅原康生；梅垣浩二；辻正；竹澤智樹；四蔵茂雄；庶務課長；学生課長；(庶務課専門職員)			
広報委員会	委員長	校 長			
	委員	荒川吉孝；三川譲二；伊藤直人；篠原正浩；山田博；川田昌克；三輪浩；庶務課長			
専攻科委員会	委員長	中川重康			
	委員	樽井武；背戸柳実；岩崎和春；金山光一；和田優；高谷富也；学生課長；学生課専門職員			
教務委員会	委員長	金山光一			
	委員	樽井武；村上美登志；大嶋毅；背戸柳実；西山等；中川重康；奥村幸彦；高谷富也			
カリキュラム部会	部長	学生課長；学生課専門職員；教務係長			
	委員	西山等			
学生委員会	委員長	樽井武；背戸柳実；新池一弘；川田昌克；高谷富也；学生課長			
	委員	竹内敬治			
進路指導部会	委員長	荒川吉孝；能谷茂弘；田村修一；小野伸一郎；梅垣浩二；篠原正浩；(機械新任職員)；東田剛志			
	委員	片山英昭；和田優；仲川力；岡本寛昭；三輪浩；加登文学；学生課長；学生係長			
学業委員会	部長	白藤中生			
	委員	高田聡男；谷川博哉；平地克也；東田剛志；野間正泰；西岡勝博；武田八郎；森尾敏			
教育プログラム(PIE)委員会	委員長	生水雅之；岡昭二；片山英昭；学生課長；学生係長			
	委員	三川譲二			
図書館運営委員会	委員長	松井信義；吉永進一；伊藤直人；小松幸恵；野間正泰；谷川博哉；山田耕一郎；竹澤智樹			
	委員	山田博；丹下裕；西岡勝博；川田昌克；四蔵茂雄；永井宏；学生課長；寮務係長			
情報科学センター運営委員会	委員長	篠原正浩			
	委員	金山光一；竹内敬治；三川譲二；樽井武；村上美登志；宮野敏男；北原紀之；鈴木英岳			
教育研究支援センター運営委員会	委員長	奥村幸彦；武田八郎；加登文学；学生課長；(学生課専門職員)			
	委員	北原紀之			
地域共同テクノセンター運営委員会	委員長	亀谷 睦；加登文学；庶務課長；(学術情報係長)			
	委員	片山英昭			
国際交流センター運営委員会	委員長	宮崎操；背戸柳実；鈴木立人；仲川力；三輪浩；庶務課長；(庶務係長)			
	委員	奥村幸彦			
国際交流センター運営委員会	委員長	丸山兼泰；川勝邦夫；学生課長；(技 術 係 長)			
	委員	辻正			
国際交流センター運営委員会	委員長	田村修一；宮崎昭仁；山田耕一郎；丹下裕；町田秀和；永井宏；庶務課長；(庶務課専門職員；庶務係長)			
	委員	樽井武			
国際交流センター運営委員会	委員長	天野龍潤；森尾敏；庶務課長；学生課長；(庶務課専門職員；庶務係長)			
	委員	天野龍潤；森尾敏；庶務課長；学生課長；(庶務課専門職員；庶務係長)			

上より 8 番目の学級担任・副担任の欄を参照

(出典 庶務課資料)

資料 2 - 2 - ③ - 3

## 第 1 回混合学級部会報告

日時 平成 17 年 1 月 7 日 (月) 13:30 ~ 16:30

場所 多目的会議室

出席者 丸山, 伊藤, 宮崎, 荒川, 竹澤, 西岡, 馬場, 小松, 田村

記録 馬場

- 学年担任会議への変更について  
学年ごとの担任会議の方がよい。
- HR シラバスについて  
学年毎がよい。  
シラバスは前年度につくるので来年度担任をシラバス締め切り前の早い時点で決めてほしい。
- その他

(以下省略)

(出典 教務委員会資料)

資料 2 - 2 - ③ - 4

## 第 2 回混合学級部会報告

日時 平成 18 年 1 月 23 日 (月) 15:40 ~ 17:15

場所 多目的会議室

出席者 丸山, 伊藤, 竹澤, 荒川, 馬場, 小松, 田村, 白藤

記録 馬場

## ○ HR について

シラバスを作成するにあたって, 例年急に HR の時間を利用して各委員会から講演会等を行うとの通知があり, 詳細なシラバスは無理である。

したがって年間 30 回の内, どのようなことに使用するかを現行に会わせて考えた。

## 1) 1 年

教務関係 : 年 4 回 (TOEIC 2 回, 履修手引き 1 回, その他 1 回 た  
とえば単位とか勉強, TOEIC についてとか)

厚生関係 : 年 2 回 (問題行動の防止, 喫煙とか)

寮務関係 : 年 2 回 (集団生活, 寮の規則, 問題行動等)

専門関係 : 年 4 回

1 年生で将来どんなことを学ぶのかとか, どのところにいけるのかとか, 1 年から 2 年生のように専門を学びたいという要望がある。さいわい同時刻に HR があるので, 学科ごとに分けて教室で話をしてもらいたい。ここで各学科の宣伝もしてもらえれば, 転科の希望も減るのではないか。

(出典 教務委員会資料)



資料 2-2-③-5

## 教員へのアンケート集計表

◎学級担任について（未経験の方はお気づきの点のみの回答で結構です）

1. 学級担任の経験はありますか。

ある	ない
39	4

2. 次に挙げるものが、「学級担任が行う教育活動」を円滑に実施するための物的ならびに人的支援体制としてどの程度機能しているか、5段階評価で、評価してください(5が最高点, 1が最低点です)。

支 援 体 制	5	4	3	2	1	計	平均
学級担任のしおり	5	8	19	4	1	37	3.3
副担任制度（1年生のみ）	3	3	13	7	8	34	2.6
各学年ごとの担任会議（1・2年）	4	11	10	2	4	31	3.3
全学級担任会議(4月)	7	6	16	4	4	37	3.2
教務委員会の混合学級部会とその活動	1	8	16	6	3	34	2.9
特別活動報告書の提出と公開	2	6	13	10	5	36	2.7
新入生合宿研修の実施（1年）	10	8	12	3	0	33	3.8

3. 上記 2. に挙げたものの他に「学級担任が行う教育活動」を円滑に実施するための物的ならびに人的支援(体制)として機能していると、あなたが考えられるものがあれば、それを挙げ（複数回答可）、同じく 5 段階評価で、評価してください(5が最高点, 1が最低点です)。(上位 4 位まで集計)

物的ならびに人的支援(体制)として機能していると考えられるもの	5	4	3	2	1	総点
学科の会議	1	1	2			15
進路ガイダンス	2	1				14
学生課職員の助言・協力	1	1				9
学寮委員会と学生委員会, 寮務係		1	1			7

4. 現在は存在しないが、「学級担任が行う教育活動」を円滑に実施するための物的ならびに人的支援(体制)としてどのようなもの、どのようなことが必要だと考えられますか。あればそれを挙げ、同じく 5 段階評価で、その重要度を示してください(5が最高点, 1が最低点です)。(上位 4 位まで集計)

必要とする物的ならびに人的支援(体制)	5	4	3	2	1	総点
混合学級の再検討・廃止	3					15
コピー代・電話代など, 担任活動の経費の負担	1	1	1	1		14
担任への他の校務分担の免除	2					10
新任教員への指導方法のガイダンス	2					10

(出典 庶務課資料)

## 資料 2 - 2 - ③ - 5 続き

5. 学級担任が行う活動そのものが（本校の）教育活動を円滑に実施するための支援(体制)としてどのように役立っているとお考えですか。重要だと思ふものから挙げてください。

回答数の多かったものと回答人数を挙げる。

○学生へのきめ細かな個人指導。 6人

○クラスのまとめ役として学生の社会性育成。授業，行事，連絡事項の周知徹底。 5人

○成績不良学生・進路選択への支援。 5人

◎クラブ顧問について（未経験の方はお気づきの点のみの回答で結構です）

1. クラブ顧問の経験はありますか。

ある	ない
41	2

2. 次に挙げるものが、「課外活動の指導教員が行う教育活動」を円滑に実施するための物的ならびに人的支援体制としてどの程度機能しているか，5段階評価で，評価してください(5が最高点，1が最低点です)。

支 援 体 制	5	4	3	2	1	計	平均
クラブ顧問会議	5	8	16	6	4	39	3.1
学外からの専門コーチの採用	14	10	9	2	2	37	3.9
引率に係る費用の学校からの支払い	16	9	10	4	2	41	3.8
変形労働時間制の実施	7	6	14	7	7	41	3.0

3. 上記2. に挙げたものの他に「課外活動の指導教員が行う教育活動」を円滑に実施するための物的ならびに人的支援(体制)として機能していると，あなたが考えられるものがあれば，それを挙げ(複数回答可)，同じく5段階評価で，評価してください(5が最高点，1が最低点です)。(複数の教員が評価したのは次の一つだけである)

物的ならびに人的支援(体制)として機能していると考えられるもの	5	4	3	2	1	総点
学生係からの援助	1	1				9

4. 現在は存在しないが，「課外活動の指導教員が行う教育活動」を円滑に実施するための物的ならびに人的支援(体制)としてどのようなもの，どのようなことが必要だと考えられますか。あればそれを挙げ，同じく5段階評価で，その重要度を示してください(5が最高点，1が最低点です)。(複数の教員から必要が指摘されたのは次の一つのみ)

必要とする物的ならびに人的支援(体制)	5	4	3	2	1	総点
大会運営時の校務分担への配慮(免除)	2					10

資料 2 - 2 - ③ - 5 続き

5. 課外活動の指導教員が行う活動そのものが（本校の）教育活動を円滑に実施するための支援（体制）としてどのように役立っているとお考えですか。重要だと思えるものから挙げてください。

回答数の多かったものと回答人数を挙げる。

○授業の場以外での学生とのコミュニケーションによって、学生の気質や考え方が把握でき、教育活動に役立つ。 5人

○学生の人間的形成・学習意欲の向上につながる。 4人

○学生・保護者との信頼関係が深まる。 2人

○学生に礼儀心を植え付け、しつけができる。 2人

（出典 庶務課資料）

資料 2 - 2 - ③ - 6

## 平成18年度 クラブ・同好会顧問一覧表

平成18年4月12日

クラブ名	顧問名		クラブ名	顧問名	
陸上競技	小野伸一郎	生水 雅之	弓道	川勝 邦夫	梅垣 浩二
	奥村 幸彦	西山 等	自動車	白藤 中生	野間 正泰
男子バスケットボール	篠原 正浩	西岡 勝博		谷川 博哉	
女子バスケットボール	亀谷 睦	永井 宏	アマチュア無線	金山 光一	
男子バレーボール	田村 修一	金森 満	吹奏楽	荒川 吉孝	西山 等
女子バレーボール	小松 幸恵	丹下 裕		馬場 秀和	山田 博
ソフトテニス	片山 英昭	宮崎 昭仁		山田耕一郎	
	三輪 浩		プログラマーズ	三輪 浩	片山 英昭
卓球	仲川 力	加登 文学	コミュニティ	舩木 英岳	
柔道	三川 謙二	東田 剛志	技術科学研究会	西山 等	
	背戸柳 実	山田耕一郎	電子制御研究会	町田 秀和	川田 昌克
	宮崎 操			仲川 力	
剣道	梅垣 浩二	梅原 康生	同好会	顧問名	
サッカー	和田 優	岡 昭二	ボクシング	天野 耀鴻	
	新池 一弘	鈴木 立人	ストリートバスケット	篠原 正浩	(主事補)
	永井 宏	新任教員	フットサル	荒川 吉孝	(主事補)
硬式野球	四蔵 茂雄	川勝 邦夫	フリークライミング	川勝 邦夫	
	樽井 武	荒川 吉孝	モータースポーツ	岡本 寛昭	(主事補)
ハンドボール	高田 暁男	村上美登志	軽音楽	小野伸一郎	(主事補)
バドミントン	伊藤 直人	丸山 兼泰	自然科学研究会	奥村 幸彦	
	北原 紀之	武田 八郎	ボランティア	和田 優	(主事補)
	宮野 敏男	加登 文学	囲碁・将棋	背戸柳 実	
水泳	川田 昌克	垂谷 茂弘	文学研究会	村上美登志	
	谷川 博哉		鉄道研究会	吉永 進一	
テニス	舩木 英岳	中川 重康	E S S	樽井 武	
	竹澤 智樹	和田 優	マルチメディアリサーチ	吉永 進一	
	竹内 敬治	辻 正	シビックデザイン	高谷 富也	
護身武術	岡本 寛昭		華道	小松 幸恵	
空手道	大嶋 毅				
ローイング	亀谷 睦	谷川 博哉			

※チーフ顧問は左上太字

(出典 学生課資料)

資料 2 - 2 - ③ - 7

平成 18 年度クラブ(同好会)指導コーチ一覧表

この資料については、学外者の個人情報が含まれているため、訪問調査時の閲覧資料とする。

(出典 学生課資料)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

一般科目担当教員と専門科目担当教員の連携を円滑に行うため、「科目群連絡会」が設置され機能している点が優れている。

(改善を要する点)

該当なし

## (3) 基準 2 の自己評価の概要

本校は学則第 1 条に定められた目的のもとに、「広く工学の基礎と教養を身につけ問題発見・解決能力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を養成する」ことを教育理念としており、学科の構成はこの目的に整合したものであり、また設置基準に適合している。また、専攻科の構成は、上記の本校の目的と教育理念に整合しており、学校教育法の規定に適合している。本校の情報科学センターは、授業において十分利用されているだけでなく、数多くの学生が放課後等に利用しており、教育を遂行するために不可欠のものとなっている。本校では教務委員会と専攻科委員会が組織として整備され、この二つの委員会及び教務委員会・評価委員会の下に置かれた部会が重要事項を審議し、企画・実施するなどの必要な活動を行っている。一般・専門の教員間の連携は「科目群連絡会」などを通じて機能的に行われている。学級担任とクラブ顧問等の活動は、学生が本校の教育目的の下で充実した学生生活を送るために重要な役割を果たしており、その活動を支援するための体制も整えられている。

## 基準3 教員及び教育支援者

## (1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到係る状況)

本校の一般科目(人文科学部門, 自然科学部門)教員は, 資料3-1-①-1, 資料3-1-①-2, 一般科目の非常勤講師は資料3-1-①-3に示すとおりである。教育課程に基づいて担当科目を教授するため各専門分野において十分な実績を有する21名の専任の一般科目担当教員を配置している。この教員組織は学校教育法(第70条の7)及び高等専門学校設置基準(第6条, 第9条)を十分に満たしている。本校では国際性を身につけることを目的に, 英語コミュニケーション能力を身につけさせるため, 英語音声学・英文学, 英語教育学等を専門分野とする5名の専任教員と4名の外国人非常勤講師を重点的に配置している。

(分析結果とその根拠理由)

教育課程に基づいて担当科目を教授するため各専門分野において十分な実績を有する教員を, 学校教育法(第70条の7)および高等専門学校設置基準(第6条, 第9条)を満たすように配置している。以上のように, 教育の目的を達成するために必要な一般科目教員が適切に配置されている。

資料3-1-①-1

## 教員現員表(校長を除く)

平成18年4月1日現在

科目	職名	教授	助教授	講師	助手	合計	備考		
		現員	現員	現員	現員	現員			
一般科目	人文科学部門科学	倫理哲学		垂谷			1		
		歴史	三川					1	
		地理						0	
		法学 経済学		梅原				1	
		国語	村上	田村				2	
		英語	樽井 荒川	松井 宮崎(操)	吉永			5	
		第二 外国語						0	
	自然科学部門科学	数学	伊藤 背戸柳	大嶋 小松				4	
		物理	丸山	宮野				2	
		化学			宮崎(昭)			1	
		保健・ 体育		小野	梅垣			2	
		応用 数学		亀谷				1	
		応用 物理	馬場					1	
合計		8	10	3		21			

(出典 庶務課資料)

## 学科・部門別教員一覧 (平成18年3月現在)

## 人文科学部門

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
樽井 武 (文学修士)	教授	・教務主事補	①総合英語Ⅲ ②英語演習 ③Communicative English ④人間と言語Ⅰ (上級英語A) ⑤人間と言語Ⅳ (上級英語B) ⑥人間と文化Ⅲ (上級英語Ⅱ) ⑦時事英語 ⑧時事工業英語 ⑨特別英語	英語音声学	①英語のスピーチリズムと日本人の英語 ②E-learning を利用した英語リズムの獲得
村上 美登志 (文学博士)	教授	・安全衛生委員会委員長	①古文 ②総合国語Ⅱ ③人間と文化Ⅱ (国語国文) ④国文学 ⑤日本文化論	①日本・中世文学 ②漢文学 ③唱導文学 (含む声明学)	①延慶本『平家物語』研究 ②太山寺本『曾我物語』研究 ③和製類書研究 ④中世説話研究 ⑤仏舞研究
荒川 吉孝 (文学修士)	教授	・学生主事補 ・学級担任 (1-4)	①総合英語Ⅱ ②英語表現Ⅱ ③人間と言語Ⅳ (上級英語B) ④人間と言語Ⅸ (上級英語C)	英文学	①エリザベス朝演劇と夢の伝統 ②ジェイムズⅠ世の『悪魔学』
梅原 康生 (法学修士)	助教授		①法学 ②経済学 ③人間と社会Ⅳ (現代日本の経済と法)	行政法	①特殊行政組織法 ②国家の不作为責任
宮崎 操 (教育学修士)	助教授	・学生相談室長 ・学級担任 (1-2) ・学生相談部会 部会長	①総合英語Ⅰ ②英語演習 ③Communicative English ④応用英会話 ⑤人間と文化Ⅲ (TOEIC リーディング) ⑥人間と言語Ⅸ (TOEIC リスニング)	①英語教育学 ②通訳理論	①通訳教育法の英語教育への導入・シャドーイング ②英語のつまずき
三川 諠二 (文学修士)	助教授	・寮務主事	①日本史 ②世界史 ③人間と社会Ⅱ (現代日本の政治)	日本近現代史	①民主党論 ②芦田均論 ③ダグラス・マッカーサー論 ④占領下の地方自治体・地域

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
松井 信義 (文学修士)	助教授		①総合英語Ⅰ, Ⅱ ②英語表現Ⅱ ③英語演習 ④Communicative English	英語学 (English Linguistics)	①語用論 (Pragmatics) ②語法・文法 (Usage & Grammar)
垂谷 茂弘 (文学修士)	助教授	・部門長 ・学級担任 (2-1)	①人間論 ②哲学 ③人間と文化Ⅰ (心と魂)	宗教と心理学の宗教哲学的研究	①ユング思想 ②力動精神医学の思想的立場づけ
田村 修一 (博士 [文学])	助教授	・寮務主事補 ・学級担任 (2-4)	①現代文 ②総合国語Ⅱ ③日本語 (留学生科目)	日本近代文学	①芥川龍之介の文学 ②阿部知二の文学 ③日本近代文学史
吉永 進一 (文学修士)	講師	・寮務主事補	①総合英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ ②英語演習 ③Communicative English ④人間と社会Ⅲ (現代社会と宗教)	①近代アメリカ思想 ②日米比較宗教文化研究	①ウィリアム=ジェームズ研究 ②日米間における宗教交流史 ③明治の英学者平井金三とアメリカにおける仏教宣布 ④近代日本における霊的思想の興隆に見られるアメリカ霊的思想の影響

(出典 舞鶴高専年報・第3号2006年4月)



## 資料 3-1-①-2 続き

自然科学部門					
氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
馬場 秀和 (工学士)	教授	・学級担任 (2-2) ・混合学級部会 部会長	①応用物理 ②電気磁気学 I ③アナログ回路 ④デジタル回路 ⑤電気情報工学実験Ⅲ ⑥特別実験 ⑦アナログ電子回路	超音波	非線形音響
伊藤 直人 (理学修士)	教授	・寮務主事補 ・学級担任 (1-3) ・学寮制度部会 部会長	①数学 I A, I C, II C, III A, III B ②統計 ③微分方程式	①微分方程式 ②数学教育	①微分方程式の工学分野 への応用 ②統計解析
丸山 兼泰 (博士 [工学])	教授	・学級担任 (1-1)	①物理 I, II, IV A, IV B ②応用物理	①物理教育 ②統計物理(パ ーコレーション ン)	①物理の教材開発 ②パーコレーションの実 験とシミュレーション
大嶋 毅 (工学士)	助教授		①数学 I A, I B, I C ②工学基礎 ③流体工学	流体工学	一般化差分法
宮野 敏男 (博士 [理学])	助教授		①物理 II, III A, III B ②物性論 ③電子計測工学 ④特別演習	①固体物理学 ②固体化学	①不定比金属酸化物の微 細構造の研究 ②組成適応 (アダプティ ブ) 構造の計算機シミ ュレーション
亀谷 睦 (理学博士)	助教授	・部門長	①数学 I A, I B, III A, III B ②微分積分 ③線形代数 ④集合と位相 ⑤応用解析 3	微分方程式	①複素領域における偏微 分方程式 ②KAM 理論
背戸柳 実 (理学修士)	助教授	・教務主事補	①数学 II A, II B, III A, III B ②代数学 ③応用解析 2	①微分代数 ② p 進解析	①常微分方程式の Liouville 解 ②級数解の p 進収束半径
小野 伸一郎 (教育学士)	助教授	・学生主事補	保健体育 I, II, IV, V	①運動生理学 ②運動方法学	①女子長距離選手のウェ イトコントロール指標 ②ジュニア期の暑熱環境 下トレーニング ③青少年期の生活習慣が 体力に及ぼす影響

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
小松 幸恵 (博士 [理学])	助教授	・寮務主事補 ・学級担任 (2-3)	①数学 II A, II B, III A, III B ②確率 ③応用解析 1	微分方程式	①単独保存則方程式の周 期解 ②粘弾性体方程式の周 期解
宮崎 昭仁 (博士 [理学])	講師		化学 I, II, III A, III B	①分析化学 ②錯体化学 ③社会地球化学 ④環境化学	①新機能的リガンドのト ポロジーを用いたナ ノテクノロジー ②物質移動の社会地球 化学的地域研究
野間 正泰 (工学修士)	講師	・学級担任 (4 S)	①数学 I C ②力学 ③電子計測実験 ④材料力学 ⑤卒業研究	①トライボロジ ー ②可視化情報計 測	マルチパッドジャーナル 軸受内の潤滑油流れに関 する研究
梅垣 浩二 (体育学修士)	講師		保健体育 I, II, IV, V	スポーツバイオ メカニクス	ハンマー投げの加速のメ カニズムとその技術

(出典 舞鶴高専年報・第 3 号 2006 年 4 月)

資料3-1-①-3

## 非常勤講師一覧表(平成18年度)

平成18年4月時点

学科	氏名	担当授業科目	期間	当初採用・年月日	担当授業 時間数(週)	担当・クラス	講義・曜日	備考
人文	A	総合国語1	通年	H16.4.9	4 4	2C,2S 2M,2E	火 木	東舞鶴高校講師
	B	地理	前期	H17.4.11	4 4	1-1,1-2 1-3,1-4	木 金	大学院生
	C	人間と言語VC 人間と社会IVA	通年	H16.9.6	2 2	5共通 4共通	月	神戸大学大学院 国際協力研究所特別研究生
	D	アート&デザイン	通年	S55.4.1	8	1全	木 金	若狭現代美術研究所
	E	人間と言語IVB(中国語)	通年	H18.4.10	2	4共通	月	新規
	F	英会話 I 実践英会話 I、II	通年	H16.9.30	6 2	1-1,1-2,1-4 4年、5年	火、木 火	クリスマス・イングリッシュマスターズ講師
	G	英会話 II、実践英会話 I、II 総合英語 III A(12)、III B(12)	通年	H17.10.12	4、2 2	2-2,2-4,4年5年 3年	月、火 火	
	H	英会話 I、実践英会話 I、II 総合英語 III A(13)、III B(13)、III A(14)、III B(14)	通年	H15.4.1	2、2	1-3,4年,5年 3年	火、木 火、木	クリスマス・イングリッシュマスターズ舞鶴校講師
	I	英会話 II、実践英会話 I、II 総合英語 III A(11)、III B(11)	通年	H18.4.10	4、2 2	2-1,2-3,4年5年 3年	火、木 木	新規
	J	人間と言語IVA(ドイツ語) 人間と文化IVC	通年	H16.4.9	2 2	4共通 5共通	月	京都光華女子大学非常勤講師
自然	K	応用数学 I	通年	H16.4.9	6	4M,4E,4C	木	大学院生
	L	応用数学 II	通年	H16.9.30	6	4M,4E,5C	火	大学院生
	M	応用数学 I 応用数学 II	通年	H14.4.1	2 2	4S 4S	木	大学院生
	N	数学 II C	通年	H11.4.1	6	2-1,2-3,2-4	火	新規 舞鶴高専非常勤講師(H11.4~16.3)
	O	化学1 生物	通年	H12.4.1	4 4	1-3,1-4 2共通	火	EM小谷塾
	P	地学	通年	H12.4.1	4	2共通	火	無職
	Q	保健体育 II	通年	H17.4.11	4 2	2-2,2-3 2-1	火 金	東舞鶴高校講師
	R	保健体育 III(剣道)	通年	H16.4.9	4 4	3M,3E 3S,3C	水 金	無職
	S	保健体育 III(柔道)	通年	H16.4.9	4 4	3M,3E 3S,3C	水 金	無職

(出典 庶務課資料)

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育理念である「広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を育成する」ことを達成するために専門4学科に適切な専門科目の教員を、資料3-1-②-1、資料3-1-②-2のとおり配置し、非常勤講師を資料3-1-②-3のとおり配置している。この教員組織は学校教育法（第70条の7）および高等専門学校設置基準（第6条、第7条、第9条）を十分に満たしている。各学科9名から11名の専任の21専門科目担当教員を配置し、教育課程の編成に対応した組織となっている。

(分析結果とその根拠理由)

教育目的を達成するために、各学科の教育課程に対応した専門分野の教員を採用し、専門分野に対応した科目を担当させている。教員の数等は、設置基準を満足している。

以上のように、教育の目的を達成するために必要な専門科目担当教員が適切に配置されている。

資料3-1-②-1

## 教員現員表(校長を除く)

平成18年4月1日現在

科目	職名	教授	助教授	講師	助手	合計	備考
		現員	現員	現員	現員	現員	
専門科目	機械 工学科	川勝 辻 岩崎 生水	高田 白藤 西山 篠原 谷川		鈴木 山田(耕)	11	
	電気 情報 工学科	北原 新池 金山 平地 中川	東田 片山 竹澤	船木	山田(博) 丹下	11	
	電子 制御 工学科	竹内 天野 和田 金森	西岡 奥村	野間 町田 仲川 川田		10	
	建設 システム 工学科	武田 岡本 森尾 高谷	岡 四蔵 三輪		加登 永井	9	
合計		17	13	5	6	41	

(出典 庶務課資料)

資料 3 - 1 - ② - 2

## 機械工学科

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
牧野 州秀 (工学博士)	教授	・学級担任 (5M)	①熱力学 ②工業外国語 I ③熱工学 ④機械工学実験 I, II ⑤卒業研究	①熱伝達 ②熱伝導	①相変化を伴う熱伝達 ②非定常熱伝導
川勝 邦夫 (工学修士)	教授		①工作実習 I, II ②機構学 ③考案設計製作 ④設計製図IV ⑤機械設計法 ⑥ロボット工学 ⑦卒業研究 ⑧インターンシップ ⑨特別演習	①機械設計 ②溶接工学	①廃ガラス瓶粉碎装置の 試作設計 ②小型風力発電装置の試 作
辻 正 (博士 [工学])	教授	・教務主事補 ・地域共同テク ノセンター長	①計測工学 ②機械力学 ③卒業研究 ④動的設計論	①原動機工学 ②動力・エネル ギープラ ント工学	①高効率発電システムの 開発 ②「炭酸ガス排出量削減」 「燃料多様化」に対応し た新発電方式の研究
岩崎 和春 (博士 [工学])	教授		①電気工学 ②材料学 I ③卒業研究 ④電子物理 ⑤先端材料工学 ⑥特別研究 ⑦特別演習 ⑧材料科学	①材料物性工 学 ②材料物理化 学	ゾルゲル法による微粒子・ 薄膜合成とキャラクタリ ゼーション
生水 雅之 (博士 [工学])	教授	・学科長	①金属材料学 ②工作法 II ③機械工学実験 I, II ④材料力学 III ⑤工業外国語 II ⑥卒業研究 ⑦特別研究 ⑧特別実験 ⑨特別演習 ⑩弾塑性力学 ⑪材料加工学	材料強度学	①コースティック法に よる応力拡大係数の実 験的評価に関する研究 ②マイクロメカニクス による先進複合材料の 創製に関する研究 ③超鉄鋼の環境強度評価 に関する研究
高田 暁男 (博士 [工学])	助教授	・学級担任 (4M)	①工学基礎 ②工作法 I ③設計製図 II ④要素設計法 ⑤材料学 II ⑥工作機械 ⑦機械工学実験 II ⑧卒業研究	①材料力学 ②機械材料	鉛系及び非鉛系はんだの クリープ及びクリープ破 断に関する研究

(出典 舞鶴高専年報・第 3 号 2006 年 4 月)

資料 3 - 1 - ② - 2 続き

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
白藤 中生 (工学士)	助教授	・就職委員長 ・学級副担任 (1-1) ・進路指導部会 部会長	①情報リテラシー ②工学基礎 ③工業力学Ⅰ, Ⅱ ④設計製図Ⅲ ④システム工学 ⑤生産工学 ⑥卒業研究	①材料 ②材料力学 ③設計工学	材料の高温低サイクル疲 勞
西山 等 (博士〔工学〕)	助教授	・教務主事補 ・カリキュラム 部会部会長 ・新カリキュラ ム特別委員会 委員長	①数値解析 ②水力学 ③生体力学 ④機械工学実験Ⅱ ⑤卒業研究 ⑥特別研究 ⑦特別実験 ⑧特別演習 ⑨流体力学 ⑩レオロジー	①流体工学 ②生体力学	①コラプシブルチューブ 流れに関する研究 ②音声生成機構に関する 研究 ③ミミズ型ロボットの開 発
篠原 正浩 (博士〔工学〕)	助教授	・学生主事補 ・建設・生産シ ステム工学専 攻長	①情報処理Ⅲ ②材料力学Ⅱ ③機械工学実験Ⅰ ④設計工学 ⑤卒業研究 ⑥先端材料工学 ⑦特別研究 ⑧特別実験 ⑨弾塑性力学	複合材料の成 形・加工とそ の評価	FRPの衝撃吸収特性に 関する研究
谷川 博哉 (博士〔工学〕)	助教授	・寮務主事補 ・学級担任 (3M)	①工学基礎 ②情報処理Ⅱ ③材料力学Ⅰ ④機械工学実験Ⅰ ⑤流体工学 ⑥卒業研究 ⑦設計製図Ⅴ ⑧特別研究	流体力学	①振動重力場における流 体の挙動 ②触媒内流れに関する研 究
鈴木 立人 (工学修士)	助手		①機械工学実験Ⅰ, Ⅱ ②制御工学 ③卒業研究 ④特別研究	①制御工学 ②計測工学	①路面形状の変更による 道路騒音の低騒音化 ②介護用車椅子の補助動 力制御
山田 耕一郎 (博士〔工学〕)	助手		(H18.1.1 着任)	①計算力学 ②材料力学	①微細加工に関する計算 機シミュレーション ②マイクロ/マクロ間の相 互作用を考慮したマル チスケールリング手法の 開発

(出典 舞鶴高専年報・第3号2006年4月)

資料3-1-②-2 続き

## 電気情報工学科

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
北原 紀之 (工学博士)	教授	・学科長 ・図書館長	①アナログ信号処理 ②電気磁気学Ⅱ ③工学基礎研究 ④電気情報工学実験Ⅳ ⑤卒業研究 ⑥特別研究 ⑦特別演習 ⑧電磁気応用工学	画像処理	①監視システムに関する研究 ②位相相関法に基づく画像のパンorama画像変換 ③3次元復元に関する研究
新池 一弘 (博士〔学術〕)	教授		①電気情報工学実験Ⅰ ②工学基礎研究 ③電気電子工学 ④通信伝送工学 ⑤卒業研究 ⑥特別実験 ⑦応用通信工学	システム工学	①協同学習に関する研究 ②言語処理に関する研究
平地 克也 (博士〔工学〕)	教授	・寮務主事補 ・学級担任 (3E)	①エネルギー工学 ②工学基礎研究 ③電気機器 ④制御工学 ⑤電気情報工学実験Ⅳ ⑥卒業研究 ⑦特別研究 ⑧特別演習	パワーエレクトロニクス	インバータ, DC/DC コンバータ, UPS 等各種電力変換装置の研究
金山 光一 (博士〔工学〕)	教授	・教務主事 ・専攻科長 ・情報化推進室長	①電気情報工学実験Ⅰ ②工学演習 ③工学基礎研究 ④通信工学概論 ⑤卒業研究 ⑥技術者倫理 ⑦特別研究 ⑧特別実験 ⑨電子デバイス工学	①デバイス工学 ②超音波エレクトロニクス	①圧電デバイスの研究 ②ダイヤモンド膜の合成と評価・応用研究 ③磁気センサーによる非破壊検査技術に関する研究 ④RFID タグに関する研究
中川 重康 (博士〔工学〕)	教授	・教務主事補 ・電気・制御システム工学専攻長	①インターフェース ②電気情報工学実験Ⅱ ③デジタル信号処理 ④工学基礎研究 ⑤卒業研究 ⑥特別研究 ⑦特別実験 ⑧パワーエレクトロニクス	①電力工学 ②太陽エネルギー利用	①太陽エネルギー利用の効率化に関する研究 ②磁気センサによる非破壊検査技術に関する研究

(出典 舞鶴高専年報・第3号2006年4月)

資料3-1-②-2 続き

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
東田 剛志 (学士〔工学〕)	助教授	・学級担任 (4-E)	①工学基礎 ②交流回路 ③UNIX概論 ④C言語 ⑤電気情報工学実験Ⅲ ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究	画像処理	ニューラルネットワークを用いた道路標識の認識
片山 英昭 (博士〔工学〕)	助教授	・学生主事補 ・情報科学センター長 ・学級担任 (5-E)	①回路理論 ②アルゴリズム論 ③数値解析 ④工学基礎研究 ⑤情報システム論 ⑥電気情報工学実験Ⅳ ⑦卒業研究	情報システム工学	①公開情報コンセントへの認証システムの開発 ②デジタル画像用透かしの開発 ③Webカメラ(MOBOTIX)の用途開発
竹澤 智樹 (博士〔理学〕)	助教授	・学級副担任 (1-2)	①電気情報工学実験Ⅰ ②工学基礎研究 ③光電子工学 ④ロボット工学 ⑤卒業研究 ⑥電磁気計測	物性物理学	第一原理電子状態計算による物性評価 ・物質設計 ・超伝導 (Pd, Fe) ・高圧物性 (水素)
船木 英岳 (博士〔工学〕)	講師		①ネットワーク論 ②電気情報工学実験Ⅲ ③工学基礎研究 ④コンピュータグラフィックス ⑤卒業研究 ⑥ネットワークシステム論 ⑦特別研究 ⑧特別演習 ⑨情報工学	①並列処理 ②画像処理 ③ネットワーク	複数画像を用いた立体視
山田 博 (博士〔工学〕)	助手		①情報リテラシー ②電気情報工学実験Ⅱ ③工学演習 ④工学基礎研究 ⑤卒業研究 ⑥特別研究	超電導工学	①高温超伝導体の非破壊評価法の研究 ②Y系高温超伝導体の作製と評価

(出典 舞鶴高専年報・第3号2006年4月)



資料3-1-②-2 続き

## 電子制御工学科

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
竹内 敬治 (工学修士)	教授	・学生主事 ・人権・セクハラ防止委員会 委員長	①情報リテラシー ②制御回路実験 ③計算機工学Ⅱ ④卒業研究 ⑤統計学 ⑥特別実験 ⑦デジタル電子回路	制御工学	①ロバスト安定性 ②マイクロコンピュータの 応用
天野 耀鴻 (工学博士)	教授		①電子制御実験 ②ロボット工学Ⅰ, Ⅱ ③制御工学Ⅱ ④電子機器制御 ⑤卒業研究	①パワーエレクトロニクス ②インテリジェント制御 ③モーションコントローラ	①電気機器及び制御システム ②ロボットマニピュレータ ③インテリジェント制御システム
和田 優 (博士〔工学〕)	教授	・寮務主事補 ・学級担任 (3S)	①電子工学 ②電子制御実習 ③電子回路Ⅰ, Ⅱ ④卒業研究 ⑤特別研究 ⑥特別演習 ⑦応用人間工学	①光エレクトロニクス ②半導体レーザ ③人間工学	①BCNナノ薄膜からの電子放出に関する研究 ②半導体レーザの人工栽培に関する研究 ③スポーツビジョンと球技能力に関する研究
金森 満 (博士〔工学〕)	教授	・学科長 ・FD部会部長	①電気磁気学 ②CAD演習Ⅱ ③制御工学Ⅱ ④振動工学 ⑤卒業研究 ⑥ロボットシステム制御 ⑦特別研究 ⑧特別実験 ⑨知識制御工学	①制御理論 ②メカトロニクス ③振動制御	①制御入力の制限を考慮したAnti-windup制御器の設計 ②PICを用いた無線制御に関する研究 ③電磁石の磁界解析とその応用
西岡 勝博 (工学士)	助教授	・学級副担任 (1-4)	①情報処理Ⅱ ②工業外国語Ⅰ ③システム制御 ④制御工学実験 ⑤卒業研究 ⑥特別実験 ⑦制御工学特論	システム制御	①歩行ロボット ②制御系CAD

(出典 舞鶴高専年報・第3号2006年4月)

資料 3-1-②-2 続き

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
奥村 幸彦 (博士〔工学〕)	助教授	・教務主事補 ・教育研究支援 センター長	①熱工学 ②電子計測実験 ③工業外国語Ⅱ ④卒業研究 ⑤画像処理 ⑥画像工学 ⑦エネルギー工学 ⑧特別研究 ⑨特別演習	①熱工学 ②エネルギー 工学 ③プラズマ理 工学	①高電圧パルス印加による ダイヤモンドの微結晶化 制御と平滑膜の合成(ダ イヤモンド半導体膜の製 作) ②石炭の高効率燃焼, クリ ーン燃焼技術に関する研 究 ③電極の電流損傷の定量的 評価と大電流アーク抑制 方法の検討
町田 秀和 (工学修士)	講師	・学級担任 (5S)	①計算機工学Ⅰ ②制御回路実験 ③電子回路Ⅲ ④CAD演習Ⅲ ⑤卒業研究 ⑥特別研究 ⑦特別実験 ⑧特別演習 ⑨デジタル信号処理	①ハードウェ ア(IC)実現 ②デジタル 信号処理	①PLL/PWM/PID モータコン トローラの解析と実現 ②Java 言語による Web ベー スの教育システム(CAI) の開発 ③DSP によるリアルタイム 信号処理
仲川 力 (博士〔工学〕)	講師	・学生主事補	①情報処理Ⅲ ②電子制御実験 ③CAD演習Ⅰ ④計測工学 ⑤卒業研究 ⑥システム設計学 ⑦特別研究 ⑧建設メカトロニクス	機械工学	①クローラ走行体の走行性 能に関する研究 ②人工筋肉の開発
川田 昌克 (博士〔工学〕)	講師	・学生主事補	①電子制御実験 ②制御工学Ⅰ ③制御工学実験 ④卒業研究 ⑤特別研究 ⑥システム制御工学	制御工学	①非線形制御とその実シス テムへの応用 ②ディスクリプタ表現を利用 した制御系設計

(出典 舞鶴高専年報・第3号2006年4月)

資料3-1-②-2 続き

## 建設システム工学科

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
武田 八郎 (博士〔工学〕)	教授	・学級担任 (4C)	①鋼構造学 ②構造力学Ⅱ,Ⅲ ③設計工学 ④構造解析 ⑤設計製図Ⅱ ⑥景観工学 ⑦卒業研究 ⑧特別実験 ⑨応用構造工学 ⑩メンテナンス工学	①構造工学 ②地震工学 ③維持管理工学	①桁-柱構造物の耐荷力について ②鋼製門形ラーメンの耐荷性能と変形性能について ③腐食鋼材の残存耐力について
岡本 寛昭 (博士〔工学〕)	教授	・学科長	①工学基礎 ②建設材料学 ③建設システム工学実験Ⅰ ④コンクリート構造学Ⅰ,Ⅱ ⑤設計製図Ⅱ ⑥卒業研究 ⑦特別研究 ⑧特別実験 ⑨材料科学 ⑩メンテナンス工学	①コンクリート工学 ②建設材料学	①コンクリートの締固めにおけるモニタリング ②フライアッシュを用いたセメント混合物の物性 ③京都府北部の骨材調査 ④劣化コンクリート構造物の品質検査
川合 茂 (博士〔工学〕)	教授	・教育プログラム(PIE)委員会委員長	①水理学Ⅰ ②応用水工学Ⅰ,Ⅱ ③建設システム工学実験Ⅲ ④環境工学 ⑤河川工学 ⑥卒業研究 ⑦特別研究 ⑧特別実験 ⑨水工学特論	水工学	①由良川の河川動態について ②洪水災害発生時における情報と避難について
森尾 敏 (博士〔工学〕)	教授	・学級担任 (3C)	①地盤工学Ⅰ,Ⅱ ②建設システム工学実験Ⅱ ③工業外国語 ④岩盤工学 ⑤卒業研究 ⑥施工管理学 ⑦特別研究 ⑧特別実験 ⑨地盤工学設計論	①地盤工学 ②土質力学 ③耐震工学	①舞鶴地区の液状化危険度マップの作成 ②活断層を想定した強震動予測 ③強震時における表面波寄与率の定量的評価 ④ペットボトルによる液状化現象の解析
岡 昭二 (工学修士)	助教授	・学級副担任 (1-3)	①CAD ②都市計画 ③交通工学 ④計画学 ⑤卒業研究 ⑥数理計画学 ⑦特別演習 ⑧地域計画	①都市計画,地域計画,交通計画 ②CADの使い方	①地域経済の成長と環境制約について ②都市マスター・プランの作成方法について ③街並と街路構成の関係

(出典 舞鶴高専年報・第3号2006年4月)

資料3-1-②-2 続き

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
高谷 富也 (学術博士)	助教授	・教務主事補 ・学級担任 (5C) ・教育制度部会 部会長	①データ処理 ②構造力学Ⅰ ③設計製図Ⅰ ④数値解析 ⑤構造解析 ⑥耐震工学 ⑦卒業研究 ⑧応用情報工学 ⑨特別研究 ⑩特別実験 ⑪動的設計論	①構造・耐震工 学 ②振動工学 ③動土質	①海底パイプラインの耐 波・耐震安定性評価に関 する研究 ②海洋基礎構造物の耐波安 定性に関する研究 ③地中防振壁による振動遮 断効果に関する研究
四蔵 茂雄 (博士〔工学〕)	助教授	・寮務主事補	①測量学Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ ②測量実習Ⅰ, Ⅱ ③リモートセンシング ④建設システム工学実験Ⅲ ⑤卒業研究	①環境工学 ②環境経済学 ③環境社会学 ④環境政策学	①途上国のエネルギー環境 問題 ②循環型社会形成の政策論
三輪 浩 (博士〔工学〕)	助教授		①情報リテラシー ②応用情報処理 ③データ処理 ④水理学Ⅱ ⑤建設システム工学実験Ⅲ ⑥海岸工学 ⑦卒業研究 ⑧特別研究 ⑨特別実験 ⑩特別演習 ⑪水圏環境学 ⑫環境防災論	①水工水理学 ②土木環境シ ステム	①人為的インパクトによる 河床形態の変動機構 ②閉鎖性水域における流れ と物質循環機構
加登 文学 (博士〔工学〕)	助手		①情報リテラシー ②CAD ③建設システム工学実験Ⅱ ④測量実習Ⅱ ⑤工業外国語 ⑥卒業研究 ⑦特別研究	①地盤工学 ②土質力学	①地盤材料の力学特性に関 する研究 ②地震時の地盤震動に関す る研究
永井 宏 (博士〔工学〕)	助手		①情報リテラシー ②応用情報処理 ③建設システム工学実 験Ⅰ, Ⅲ ④測量実習Ⅰ ⑤卒業研究	①基礎構造学 ②地盤工学	①パイルド・ラフト基礎の 支持力・変形特性

(出典 舞鶴高専年報・第3号2006年4月)

資料3-1-②-3

## 非常勤講師一覧表(平成18年度)

平成18年4月時点

学科	氏名	担当授業科目	期間	当初採用・年月日	担当授業 時間数(週)	担当・クラス	講義・曜日	備考
機械	T	情報リテラシー	通年	H12.4.1	4	1-1.1-2 1-3.1-4	木 金	宮津無線
	U	環境工学	通年	H12.4.1	2	5M	月	無職
電気	V	工業英語	通年	H16.9.30	2	5E	木	無職
建設	W	水理学Ⅱ、応用水工学Ⅰ 応用水工学Ⅱ、河川工学	通年, 後期 前期, 通年		6	4C、4C 5C、5C	金	新規 無職
	X	建築概論	後期	H16.4.9	2	5C	月	西井正志設計室 (H11~H13本校非常勤)
	Y	工業外国語	通年	H16.9.30	2	4C	金	無職

(出典 庶務課資料)

観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

「高度の学問と技術を追求し、創造性・人間性豊かで、より独創的技術開発能力を兼ね備えた中核的技術者」を育成し、またその研究を指導するために、担当科目に専門分野が対応するような教員を配置している(資料3-1-③-1)。専攻科の授業科目担当教員は全員が専任教員であって資料3-1-③-2に示すような専門分野における優れた研究業績を有する大学評価・学位授与機構に認定された教員が担当し、最新の技術に対応した高いレベルの授業を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科では準学士課程の上に、より高度の学問を追及し研究を指導するため、科目に対応した適切な教員を配置している。専攻科の授業担当教員は常勤教員であり、大学評価・学位授与機構に認定されている。

以上より、専攻科の目的を達成するために必要な授業科目担当教員が適切に配置されているといえる。

資料 3 - 1 - ③ - 1

## &lt;専攻科一般科目&gt;

平成18年4月1日現在

氏名	職名	学位	担当科目	学年	専門分野
構井 武	教授	文学修士	(必修) 時事英語	(1・前)	英語音声学
			時事工業英語	(1・後)	
			特別英語	(12・前)	
村上 美登志	教授	文学博士	日本文化論	(1・前)	①日本・中世文学②漢文学 ③唱導文学(含む声明学)
			国文学	(1・後)	
宮野 敏男	助教授	博士(理学)	物性論	(1・前)	①固体物理学②固体化学
亀谷 睦	助教授	理学博士	集合と位相	(1・後)	微分方程式

## &lt;専攻科専門共通科目&gt;

氏名	職名	学位	担当科目	学年	専門分野
岩崎 和春	教授	博士(工学)	先端材料工学	(1・前)	①材料物性工学②材料物理化学
金森 満	教授	博士(工学)	ロボットシステム制御	(2・前)	①制御理論②マイクロ③振動制御
金山 光一	教授	博士(工学)	(必修) 技術者倫理	(2・後)	①デバイス工学②超音波エレクトロニクス
背戸柳 実	教授	理学修士	(必修) 応用解析2	(1・後)	①微分代数②p進解析
高谷 富也	教授	学術博士	応用情報工学	(1・前)	①構造・耐震工学②振動工学③動土質
岡 昭二	助教授	工学修士	数理計画学	(2・前)	①都市計画,地域計画,交通計画②CADの使い方
宮野 敏男	助教授	博士(理学)	電子計測工学	(1・前)	①固体物理学②固体化学
亀谷 睦	助教授	理学博士	(必修) 応用解析3	(2・前)	微分方程式
篠原 正浩	助教授	博士(工学)	先端材料工学	(1・前)	複合材料の成形・加工とその評価
奥村 幸彦	助教授	博士(工学)	画像工学	(1・前)	①熱工学②エネルギー工学 ③ガラス・マテリアル工学
			エネルギー工学	(2・前)	
小松 幸恵	助教授	博士(理学)	(必修) 応用解析1	(1・前)	微分方程式
仲川 力	講師	博士(工学)	システム設計学	(1・後)	機械工学
船木 英岳	講師	博士(工学)	ネットワークシステム論	(2・前)	①並列処理②画像処理③ネットワーク

## &lt;電気・制御システム専門科目&gt;

氏名	職名	学位	担当科目	学年	専門分野
馬場 秀和	教授	工学士	アナログ電子回路	(1・後)	超音波
竹内 敬治	教授	工学修士	デジタル電子回路	(1・前)	制御工学
川勝 邦夫	教授	工学修士	インターンシップ	(1・前)	①機械設計②溶接工学
北原 紀之	教授	工学博士	電磁気応用工学	(1・前)	画像処理
和田 優	教授	博士(工学)	応用人間工学	(1・後)	①光エレクトロニクス②半導体レーザー③人間工学
新池 一弘	教授	博士(学術)	応用通信工学	(1・後)	システム工学
天野 耀鴻	教授	工学博士	知識制御工学	(2・前)	①パワーエレクトロニクス②インテリジェント制御③モーションコントローラ
金山 光一	教授	博士(工学)	電子デバイス工学	(1・前)	①デバイス工学②超音波エレクトロニクス
中川 重康	教授	博士(工学)	パワーエレクトロニクス	(2・前)	①電力工学②太陽エネルギー利用
西岡 勝博	助教授	工学士	制御工学特論	(1・後)	システム制御
片山 英昭	助教授	博士(工学)	(必修) 情報工学	(1・後)	情報システム工学
町田 秀和	講師	工学修士	デジタル信号処理	(1・後)	①ハードウェア(IC)実現②デジタル信号処理
川田 昌克	講師	博士(工学)	(必修) システム制御工学	(1・後)	制御工学

## &lt;建設・生産システム専門科目&gt;

氏名	職名	学位	担当科目	学年	専門分野
武田 八郎	教授	博士(工学)	応用構造工学	(1・後)	①構造工学②地震工学 ③維持管理工学
			メンテナンス工学	(1・後)	
川勝 邦夫	教授	工学修士	インターンシップ	(1・前)	①機械設計②溶接工学
岡本 寛昭	教授	博士(工学)	(必修) 材料科学	(1・前)	①コンクリート工学②建設材料学
			メンテナンス工学	(1・後)	
辻 正	教授	博士(工学)	動的設計論	(1・後)	①原動機工学②動力・エネルギープラント工学
岩崎 和春	教授	博士(工学)	(必修) 材料科学	(1・前)	①材料物性工学②材料物理化学
森尾 敏	教授	博士(工学)	地盤工学設計論	(2・後)	①地盤工学②土質力学③耐震工学
生水 雅之	教授	博士(工学)	(必修) 弾塑性力学	(1・前)	材料強度学
			材料加工学	(1・後)	
高谷 富也	教授	学術博士	動的設計論	(1・後)	①構造・耐震工学②振動工学③動土質
岡 昭二	助教授	工学修士	地域計画	(1・後)	①都市計画,地域計画,交通計画②CADの使い方
西山 等	助教授	博士(工学)	流体力学	(1・前)	①流体工学②生体力学
			レオロジー	(1・後)	
三輪 浩	助教授	博士(工学)	水圏環境学	(1・前)	①水工水理学②土木環境システム
			水工学特論	(2・前)	
			環境防災論	(1・前)	
篠原 正浩	助教授	博士(工学)	(必修) 弾塑性力学	(1・前)	複合材料の成形・加工とその評価

(出典 庶務課資料)

人文科学部門

樽井 武

学会発表

ITによる英語のリズム学習, 日本教育工学会第21回全国大会講演論文集, pp.799-800, (2005.10), 樽井 武, 荻原立也

その他

English Speech Rhythm and the Japanese Learner, a Temporal Study, PhD thesis, (2006.1), The University of Reading

村上 美登志

査読付論文

「佛舞」の原風景—その音楽的相承を中心に—, 立命館大学日本文学会, 論究日本文学, Vol.82, pp.1-8, (2005.5), 村上美登志, 富田成美, 斎藤千恵, 内藤由直, 佐々木清次, 安藤勝志, 増田茂恭, 近衛典子

著書

中世文学の諸相とその時代 II, 和泉書院, pp.1-439, (2006.3), 村上美登志

学会発表

「佛舞」の世界, 日本文学会平成17年度(第49回)大会(立命館大学主催), (2005.6), 村上美登志

その他

(会田実)著『『曾我物語』その表象と再生』書評, 早稲田大学国文学会, 国文学研究, Vol.147, pp.63-65, (2005.10), 伊藤 剣, 高津希和子, ■武彦, 小澤 純, 田村景子, 中川秀太, 金井清一, 村上美登志, 篠原 進

(出典 舞鶴高専年報・第3号2006年4月)



## 機 械 工 学 科

辻 正

## 国際会議

Cycle Optimization and High Performance Analysis of Gas Engine-Gas Turbine Combined Cycles, Proceedings of ASME Turbo Expo 2005, (2005.6), GT2005-68352, Tadashi Tsuji

A Basic Plan of a Demonstration Ship with Zeolite Production Plant for Water Environment Preservation, Proceedings of the 7th International Symposium on Marine Engineering, Tokyo, (2005.10), ID Number 094, Tadashi Tsuji, Kunio Kawakatsu, Nakao Shirafuji and Hitoshi Nishiyama

## 特許

エアリフトポンプ, 2005-306549, (2005.10), 辻 正, 西山 等, 川勝邦夫, 白藤中生

岩崎 和春

## 査読付論文

ゾルゲル法による BaTiO<sub>3</sub> 微粒子の合成, 粉体および粉末冶金, Vol.52, No.4, pp.261-266, (2005.4), 岩崎和春, 酒井一宏, 井上誠, 佐々木勇一

Production Conditions of Acicular Magnetic Metal Nanoparticles for Magnetic Recording, Materials Transactions, Vol.46, No.6, pp.1368-1377, (2005.6), Kazuharu Iwasaki, Takuya Itoh and Tsutomu Yamamura

ゾルゲル法による La, Mn ドープ BaTiO<sub>3</sub> 微粒子の合成, 粉体および粉末冶金, Vol.53, No.1, pp.26-30, (2006.1), 岩崎和春

ゾルゲル法による La, Mn ドープ BaTiO<sub>3</sub> 微粒子の合成, 舞鶴高専紀要, Vol.41, pp.1-5, (2006.3), 岩崎和春, 酒井一宏

## 学会発表

ゾルゲル法による In<sub>2</sub>O<sub>3</sub> - SnO<sub>2</sub> 系透明導電膜の合成, 粉体粉末冶金協会講演概要集平成 17 年度秋季大会, 1-65A, pp.210, (2005.11), 岩崎和春, 浅井圭介

生水 雅之

## 査読付論文

ランダム分布する異方性楕円体介在物を含む複合材料の弾性特性, 日本計算工学会論文集, Web No.20050015, (2005.5), 八木圭一朗, 林 政, 生水雅之, 廣瀬 元

コースティックス法による異材接合界面の応力拡大係数の測定に及ぼすヤング率比の影響, 舞鶴高専紀要, No.41, pp.6-11, (2006.3), 生水雅之, 林 政, 広瀬幸雄

ランダム分布する異方性楕円体介在物を含む複合材料の弾性特性—第 2 報: Reuss モデルに基づく基礎理論およびその数値計算例—, 日本計算工学会論文集, Web No.20060012, (2006.3), 八木圭一朗, 生水雅之, 廣瀬 元, 林 政

資料 3 - 1 - ③ - 2 続き

**著書**

[図解] 教育現場における危機管理マニュアル, 学事出版, 全 106 頁, (2005.6), 生水雅之, 廣瀬元, 齊藤徹

**国際会議**

Examination and Experimental Determination of Stress Intensity Factor for Wood by Caustics Method, Proceedings of the 15th International Offshore and Polar Engineering, pp.519-523 (2005.6), Toshiya Mori, Masayuki Shozu, Hajime Hirose

Elastic Properties of Composite Materials with Anisotropic Ellipsoidal Inhomogeneities, Proceedings of the 15th International Offshore and Polar Engineering, pp.524-529 (2005.6), Keiichiro Yagi, Lei Che, Masayuki Shozu, Hajime Hirose

Residual Stress Generated by Grinding of Fine Grain Rolling Steel, Proceedings of the 15th International Offshore and Polar Engineering, pp.524-529, (2005.6), Zhijian Huang, Masahide Gotoh, Masayuki Shozu, Yukio Hirose

**学会発表**

結晶粒微細化鉄鋼材料の材料強度学的研究 ① (応力腐食割れき裂発生挙動), 平成 17 年度連合講演会概要集 (日本鉄鋼協会・日本金属学会北陸信越支部共催), p.26, (2005.12), 黄志堅, 生水雅之, 後藤昌英, 広瀬幸雄

結晶粒微細化鉄鋼材料の材料強度学的研究 ② (熱処理の影響), 平成 17 年度連合講演会概要集 (日本鉄鋼協会・日本金属学会北陸信越支部共催), p.27, (2005.12), 栗田耕道, 後藤昌英, 生水雅之, 広瀬幸雄

西山 等

**国際会議**

A Basic Plan of a Demonstration Ship with Zeolite Production Plant for Water Environment Preservation, Proceedings of the 7th International Symposium on Marine Engineering, CD-ROM (41\_3.pdf), (2005.10), Tadashi Tsuji, Kunio Kawakatsu, Nakao Shirafuji and Hitoshi Nishiyama

**特許**

エアリフトポンプ, 特願 2005-306549, (2005.10), 辻 正, 西山 等, 川勝邦夫, 白藤中生

篠原 正浩

**査読付論文**

SMC 構造物における剛性予測用 CAE システムの開発に関する研究, 材料, Vol.54, No.5, pp.513-517, (2005.5), 片山傳生, 篠原正浩, 箱谷昌宏, 新阜直征

(出典 舞鶴高専年報・第 3 号 2006 年 4 月)

## 電気情報工学科

北原 紀之

## 国際会議

Estimation of Tiredness Level Based on Analysis of Running Form, The 6-th Japan-Korea International Symposium on Kansei Engineering p.378, (2005), Hideaki Katayama, Noriyuki Kitahara, Shinji Hasegawa and Hidetake Funaki

## 学会発表

終日撮影環境下における低解像度画像の文字認識に関する基礎研究, 平成 17 年電気学会電子・情報システム部門大会講演論文集, pp.901-902, (2005.9), 長谷川真司, 北原紀之, 片山英昭, 船木英岳

降雨量の変化を伴う車番認識精度の基礎研究, FIT2005 (第 4 回情報科学フォーラム講演論文集), pp.47-48, (2005.9), 長谷川真司, 北原紀之, 片山英昭, 船木英岳

時間的視差を利用した三次元復元に関する基礎的研究, 平成 17 年電気関係学会関西支部連合大会講演論文集, G306, (2006.11), 辻晃弘, 北原紀之, 片山英昭, 長谷川真司, 船木英岳

寮内ネットワークシステムの改善, 平成 17 年電気関係学会関西支部連合大会講演論文集, G260, (2006.11), 上本真澄, 片山英昭, 北原紀之, 船木英岳, 長谷川真司

フレーム付きナンバープレートの抽出・認識に関する基礎研究, 平成 17 年電気関係学会関西支部連合大会講演論文集, G278, (2006.11), 湯川智子, 長谷川真司, 北原紀之, 片山英昭, 船木英岳

固有空間法による陸支コードの認識, 平成 17 年電気関係学会関西支部連合大会講演論文集, G322, (2006.11), 伊崎嘉洋, 北原紀之, 片山英昭, 長谷川真司, 船木英岳

夜間におけるナンバープレートの抽出と認識, 平成 17 年電気関係学会関西支部連合大会講演論文集, G327, (2006.11), 中尾元泰, 片山英昭, 北原紀之, 長谷川真司, 船木英岳

接線情報を用いたハフ変換による楕円検出, 電気学会関西支部高専研究発表講演論文集, pp.25-26, (2006.3), 仲井英剛, 北原紀之

ハフ変換にフーリエ近似を用いた楕円検出, 電気学会全国大会講演論文集, p.185, (2006.3), 仲井英剛, 北原紀之, 片山英昭, 船木英岳

新池 一弘

## 国際会議

An Algorithm for Extracting Important Sentences from Paper Submitted by Students, Proc. of the IASTED International Conference on Education and Technology, pp.49-54, (2005.7), Kazuhiro Shin-ike

(出典 舞鶴高専年報・第3号2006年4月)

金山 光一**学会発表**

静電結合と表皮効果による導体形状の非破壊測定, 電気関係学会関西支部連合大会講演論文集 (電気学会他共催), G2-15, p.G44, (2005.11), 梅田千種, 竹岡勇伍, 山田 博, 中川重康, 金山光一

異なる昇温速度を用い TFA-MOD 法により作製した Y-123 膜の超電導特性と X 線解説結果, 電気関係学会関西支部連合大会講演論文集 (電気学会他共催), G7-37, p.G173, (2005.11), 光野克紀, 尾藤愛香, 山田 博, 金山光一, 中川重康, 山崎裕文

電子デバイス応用のための高品質ダイヤモンド膜の燃焼合成, 第 43 回燃焼シンポジウム講演論文集 (日本燃焼学会主催), pp.504-505, (2005.12), 奥村幸彦, 金山光一, 田原雅哉, 寺木陽亮

ECM を用いたナノメートルオーダ微小変位測定法の研究, 電気学会関西支部高専卒研発表会論文集 (電気学会主催), pp.15-16, (2006.3), 塩見知裕, 金山光一

燃焼炎ダイヤモンド膜-Au 接合素子の接触電位差の温度特性, 電子情報通信学会学生会研究発表講演論文集 (電子情報通信学会主催), C2-2, p.48, (2006.3), 田原雅哉, 奥村幸彦, 金山光一

**その他**

新しい単位算定方法への対応, 関西工学教育協会高専部会秋季セミナー (関西工学教育協会), (2005.11), 金山光一

片山 英昭**国際会議**

Estimation of Tiredness Level Based on Analysis of Running Form, The 6-th Japan-Korea International Symposium on Kansei Engineering p.378, (2005), Hideaki Katayama, Noriyuki Kitahara, Shinji Hasegawa and Hidetake Funaki

**学会発表**

寮内 LAN ネットワークシステムの改善, 電気関係学会関西支部連合大会論文集 (電気関係 6 学会関西支部主催), G260, (2005.11), 上本真澄, 山梶喜弘, 片山英昭, 北原紀之, 船木英岳, 長谷川真司

フレーム付きナンバープレートの抽出・認識に関する基礎研究, 電気関係学会関西支部連合大会論文集 (電気関係 6 学会関西支部主催), G228, (2005.11), 湯川智子, 長谷川真司, 北原紀之, 片山英昭, 船木英岳

夜間におけるナンバープレートの抽出と認識, 電気関係学会関西支部連合大会論文集 (電気関係 6 学会関西支部主催), G327, (2005.11), 中尾元康, 片山英昭, 北原紀之, 長谷川真司, 船木英岳

終日撮影環境下における低解像度画像の文字認識に関する基礎研究, 電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集 (電気学会主催), pp.901-902, (2005.9), 長谷川真司, 片山英昭, 北原紀之, 船木英岳

降雨量の変化を伴う車番認識精度の基礎研究, 第 4 回情報科学技術フォーラム講演論文集 (情報処理学会, 電磁情報通信学会主催), pp.47-48, (2005.9), 長谷川真司, 片山英昭, 北原紀之, 船木英岳

船木 英岳**学会発表**

インターネットカメラの画像を用いた移動体の検出, 日本産業技術教育学会第 48 回全国大会講演論文集, p83, (2005.8), 船木英岳, 北原紀之, 片山英昭, 長谷川真司, 日置幸男

## 電子制御工学科

天野 耀鴻

## 査読付論文

Robust Current Control Systems of Synchronous Reluctance Motors, 舞鶴工業高等専門学校紀要, Vol.41, pp.33-41, (2006.3), Yoko Amano

## 国際会議

Robust Current Control System of Synchronous Reluctance Motors Using Inverse LQ Design Method, 2004 IEEE Industry Applications Conference 40th IAS Annual Meeting, P19/5, (2005.10), Yoko Amano and Satoshi Ogasawara,

## 学会発表

ILQ 設計法を用いた同期リラクタンス電動機のロバスト電流制御システム, 平成 17 年電気学会産業応用部門大会講演論文集, pp.I-191-196, (2005.9), 天野耀鴻, 高見 弘, 小笠原悟司

ニューラルネットワークを用いた風力発電系の同定システム, 平成 17 年電気学会産業応用部門大会講演論文集, pp.II-107-108, (2005.9), 安達玄紀, 天野耀鴻, 梶原宏之

和田 優

## 査読付論文

低温堆積した窒化炭素ホウ素 (BCN) 薄膜の電界電子放出特性, 舞鶴高専紀要, No.41, pp.25-32, (2006.3), 和田 優, 木村千春, 杉野 隆

## 学会発表

年少期の視機能と球技運動能力について, 日本人間工学会関西支部大会講演論文集 (日本人間工学会), pp.89-90, (2005.12), 米田 悠, 田中裕崇, 和田恵理子, 和田 優

鉄/Si 基板上に堆積した窒化炭素ホウ素 (BCN) 薄膜からの電界電子放出特性, 第 11 回高専シンポジウム講演要旨集 (高専シンポジウム協議会主催), B-9, p.101, (2006.1), 岡本幸一, 和田 優, 岡田邦彦, 杉野 隆

金森 満

## 学会発表

LMI に基づく動的 anti-windup 制御器の設計, 第 48 回自動制御連合講演会講演論文集 (計測自動制御学会主催), I2-25, pp.935-936, (2005.11), 谷口正人, 金森 満

西岡 勝博

## 学会発表

マスタースレーブシステムによる歩行ロボットの体感学習環境の実現, 第 12 回研究成果発表会 (中山隼雄科学技術文化財団主催), 財団レポート第 13 号, pp.34-35, (2005.10), 西岡勝博

(出典 舞鶴高専年報・第 3 号 2006 年 4 月)

奥村 幸彦

**著書**

Summary of Decade's Results in Basic Coal Utilization-BRAIN-C Program (Published by NEDO and JCOAL), pp.1-92, (2005.11), Ken Okazaki and Yukihiro Okumura (charge of section: Investigation of gasification reaction model based on the generalization of volatile component release and char reaction)

**国際会議**

Effect of pressure on coal-pyrolysis products, Proceedings of the International Conference on Coal Science and Technology, 2P306, pp.1-13, (2005.10), Yukihiro Okumura, Hiroaki Tominaga, Toru Yamashita, Akimitsu Akimoto and Ken Okazaki

**学会発表**

フラッシュチェーンモデルによる熱分解生成物の予測-低速昇温・加圧下における収率精度の検証-, 第 14 回日本エネルギー学会大会講演要旨集 (日本エネルギー学会主催), pp.36-37, (2005.8), 奥村幸彦, 富永浩章, 山下 亨, 秋本明光, 岡崎 健

草本系バイオマスの熱分解・ガス化-大気圧と加圧下データの比較-, 第 43 回燃焼シンポジウム講演論文集 (日本燃焼学会主催), pp.288-289, (2005.12), 奥村幸彦, 岡田卓哉, 岡崎 健

電子デバイス応用のための高品質ダイヤモンド膜の燃焼合成, 第 43 回燃焼シンポジウム講演論文集 (日本燃焼学会主催), pp.504-505, (2005.12), 奥村幸彦, 金山光一, 田原雅哉, 寺木陽亮

大気圧および加圧下における草本系バイオマスの熱分解・ガス化, 石炭学会議発表論文集 (日本エネルギー学会主催), pp.109-110, (2005.11), 奥村幸彦, 岡崎 健

燃焼炎ダイヤモンド膜-Au 接合素子の接触電位差の温度特性, 電子情報通信学会学生会研究発表講演論文集 (電子情報通信学会主催), C2-2, p.48, (2006.3), 田原雅哉, 奥村幸彦, 金山光一

原子比による草本バイオマスの熱分解・ガス化収率予測, 第 81 期定時総会講演会講演論文集 (日本機械学会関西支部主催), p.2-26, (2006.3), 奥村幸彦, 岡崎 健

町田 秀和

**著書**

いまからはじめる電子工作, オーム社, 全 265 頁, (2006.3), 町田秀和

**学会発表**

PLL/PWM 方式による位置サーボ系の FPGA 実現, 第 48 回自動制御連合講演会 CD-ROM 集, H1-12, 町田秀和, 関本敬

川田 昌克

**学会発表**

冗長な Descriptor アプローチと Dilation アプローチの関係について, 第 5 回 SICE 制御部門大会資料 (計測自動制御学会主催), pp.583-587, (2005.5), 川田昌克

**その他**

LMI 求解のための MATLAB 用フリーウェア SeDuMi, YALMIP の紹介, 舞鶴高専情報科学センター年報, No.34, pp.91-106, (2006.3), 川田昌克

### 建設システム学科

武田 八郎

#### 査読付論文

ウェブに腐食を受けた鋼桁のせん断強度について, 舞鶴高専紀要, No.41, pp.42-48, (2006.3), 武田八郎, 皆谷裕介, 古川昌典

岡本 寛昭

#### 学会発表

フライアッシュを用いたセメント系混合物の基礎的検討, 土木学会関西支部年次学術講演概要, V-13, (2005.5), 椿野裕記, 岡本寛昭

鉄筋加振法による付着強度への影響, 土木学会関西支部年次学術講演概要, V-40, (2005.5), 楠田 健, 岡本寛昭

コンクリート締固め過程における内部振動機の負荷と先端加速度について, 土木学会全国大会第 60 回年次学術講演会講演概要集, V, (2005.9), 鈴木立人, 岡本寛昭

コンクリート強度検査による地域貢献, 平成 17 年度工学・工業教育研究講演会講演論文集 (日本工学教育協会), pp.114-115, (2005.9), 岡本寛昭, 阿波和利

(出典 舞鶴高専年報・第 3 号2006年 4 月)

高谷 富也**査読付論文**

繰り返し载荷を受けるパイプライン周辺地盤の間隙水圧応答について, 海洋開発論文集, Vol.20, pp.449-454, (2004.7), 高谷富也, 小河史枝

繰り返し载荷を受けるパイプライン—地盤系の応答特性について, 舞鶴工業高等専門学校紀要, No.40, pp.61-68, (2005.3), 高谷富也

e-Learning システムの構築とその教育効果について, 舞鶴工業高等専門学校紀要, No.40, pp.69-79, (2005.3), 高谷富也, 野瀬佳正

繰り返し载荷を受けるパイプライン挙動と地盤特性の関係について, 海洋開発論文集, Vol.21, pp.957-962, (2005.7), 高谷富也

繰り返し水平载荷を受けるパイプライン挙動と地盤特性の関係について, 舞鶴工業高等専門学校紀要, No.41, pp.49-55, (2006.3), 高谷富也

**国際会議**

Pore Pressure Build Up Response Due to Horizontal Cyclic Loading of Pipeline, Proceedings of the 3rd International Conference on Advances in Structural Engineering and Mechanics (ASEM'04), CD-ROM, S6C, (2004.8), Tomiya Takatani and Fumie Ogawa

Pipeline-Seabed Interaction Analysis Subjected to Horizontal Cyclic Loading, Proceeding of International Symposium on Frontiers in Offshore Geomechanics (ISFOG-2005), pp.629-635, (2005.9), Tomiya Takatani

Pore Pressure Build Up Response Analysis for Pipeline on Seabed Subjected to Horizontal Cyclic Loading, Proceedings of the 11th International Conference of IACMAG, pp.353-360, (2005.6), Tomiya Takatani

Pipeline-Seabed Interaction Analysis for Horizontal Cyclic Loading of Pipeline, Proceedings of the 16th International Offshore and Polar Engineering Conference (ISOPE-2005), Vol.2, pp.115-122, (2005.6), Tomiya Takatani

Vibration isolation of gas/water-filled cushion wall barrier, Proceedings of the 2nd International Symposium on Environmental Vibrations-Prediction, Monitoring, Mitigation and Evaluation (ISEV2005), pp.453-459, (2005.9), Tomiya Takatani and Yoshinori Kato

**その他**

紙ベース資料のスキャナ読み取りによる電子ファイル化について—成績評価資料等の pdf 化を目指して—, 舞鶴工業高等専門学校情報科学センター年報, No.34, pp.48-56, (2006.3), 高谷富也, 加登文学, 永井 宏

Oracle Database 10g の紹介 第 1 部 インストールと管理, 舞鶴工業高等専門学校情報科学センター年報, No.34, pp.107-116, (2006.3), 能勢嘉朗, 大嶋毅, 渡邊真, 高谷富也

(出典 舞鶴高専年報・第 3 号 2006 年 4 月)



## 資料 3 - 1 - ③ - 2 続き

Oracle Database 10g の紹介 第 2 部 Oracle HTML DB について, 舞鶴工業高等専門学校情報科学センター年報, No.34, pp.117-128, (2006.3), 能勢嘉朗, 大嶋毅, 渡邊真, 高谷富也

市民生活向上を考慮した舞鶴市前島の空間デザインについて, 舞鶴工業高等専門学校情報科学センター年報, No.34, pp.25-32, (2006.3), 大塩清太郎, 高谷富也

インターネットを利用した自己学習支援システムの構築について, 舞鶴工業高等専門学校情報科学センター年報, No.34, pp.33-47, (2006.3), 釣田好基, 高谷富也

地域活性化を目指した舞鶴市しおじ・浜の空間デザインについて, 舞鶴工業高等専門学校情報科学センター年報, No.34, pp.25-32, (2006.3), 渡邊健志, 高谷富也

### 三輪 浩

#### 国際会議

Effect of Bed Degradation and Aggradation on Transformation of Alternate Bar Morphology, Proceedings of the 4th IAHR Symposium on River, Coastal and Estuarine Morphodynamics, Vol.I, pp.471-479, (2005.10), Hiroshi Miwa, Atsuyuki Daido and Tomohito Katayama

#### 学会発表

水みちの変動に及ぼす土砂供給量変化の影響, 平成 17 年度土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集, II-32, (2005.5), 三輪 浩, 片山智仁, 大崎香織, 前川恭子

水みちの変動に及ぼす土砂流入条件の影響, 第 60 回土木学会年次学術講演会講演概要集, 第 II 部門, pp.179-180, (2005.9), 三輪 浩, 湯浅陽一, 藤田裕和

(出典 舞鶴高専年報・第 3 号 2006 年 4 月)

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

教育理念に謳う「広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者」を育成すべく、教員の年齢構成に配慮しているため、年齢別構成表（資料3-1-④-1）に示すとおり特定の範囲の年齢に著しく偏ってはいない。教員組織の活動をより活性化するために、教員採用には公募を行い、学位取得者の比率及び採用前経歴の構成に配慮している（資料3-1-④-2）。教員公募（資料3-1-④-3）では年齢構成と専門分野及び実績を考慮している。また、教員の教育研究レベルを維持向上するため国内外機関への教員を派遣している（資料3-1-④-4）。その他、毎年FDパネルディスカッションを開催し、教員組織の活性化を図っている。

高専機構の中期計画では「教員の学位取得者の割合」を「専門科目（理系の一般科目を含む）担当の教員については博士の学位を持つ者などが全体として70%以上とし、理系以外の一般科目担当の教員については、修士以上の学位を持つ者などが全体として80%以上となるようにする」としている。本校では専門4学科と自然科学部門の博士号取得者が72%、人文科学部門の修士以上の学位取得者が80%であり、既にこの目標を達成している。同様に「教授および助教授について、採用された学校以外の学校、企業、機関などで勤務経験を持つ者が全体として60%以上」の目標に対しても、本校では73%に達しており多様な背景を持つ教員組織となっている。「民間企業出身者の教員構成割合」は23%であり、「国内外における研究活動への教員派遣、国際会議への参加」も近年増加している。教員の採用においても、本校及び学科・部門の中期計画に応じて、外国人・女性教員と民間企業出身者を採用しておりその構成割合を増やしていく方向にある。

また、教育、研究及び学校運営、地域社会とのかかわりで顕著な功績を挙げた者を表彰する特別功労者制度を独自に整備し、実施している（資料3-1-④-5）。

（分析結果とその根拠理由）

本校における教員の年齢層は特定の年齢層に偏らず、若年層から高齢者層まで広く分布しており、均衡ある年齢構成ができています。高専機構の中期計画における「優れた教員の割合」目標に対して本校は既にこの目標を達成している。同様に「教授および助教授について、採用された学校以外の学校、企業、機関などで勤務経験を持つ者が全体として60%以上」の目標に対しても、本校では目標を達成しており多様な背景を持つ教員組織となっている。また「国内外における研究活動への教員派遣、国際会議への参加」の目標に対しても増加している。その他、独自の表彰制度も実施されている。

以上より、学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられていると判断できる。

## 資料3-1-④-1

年齢別構成表 (平成18年4月1日時点)

年齢は平成19年3月31日時点

学科名	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	建設システム工学科	人文科学部門	自然科学部門
年齢	教4, 助教5, 助2	教5, 助教3, 講1 助2	教4, 助教2, 講4	教4, 助教3, 助2	教4, 助教5, 講1	教4, 助教5, 講2
63	(教授) (助教)	(助教)	(教授)	(教授) (助教)		(教授) 【応用物理】
62						
61		(教授)	(助教)			(教授) 【数学】 (助教) 【数学】
60	(助教)			(教授)		
59	(教授)				(教授) 【英語】	
58						
57	(教授)		(教授)	(教授)	(助教) 【法学】	
56			(教授)		<del>(助教)</del> 【英語】	
55					(教授) 【古文】 (教授) 【日本史】 (助教) 【英語】	
54		(教授)				
53					(教授) 【英語】	(助教) 【物理】
52	(教授)	(教授) (教授)	(教授)		(助教) 【哲学】	(教授) 【物理】
51						(助教) 【数学】
50					(講師) 【英語】	
49		(教授)		(教授)		(教授) 【数学】 (講師) 【化学】
48						
47	(助教)			(助教)	(助教) 【国語】	
46			(講師)	(助教)		(助教) 【保健体育】
45						
44	(助教)		(講師)			
43						(講師) 【保健体育】
42						
41	(助教)					
40		(助教) (助教)	(助教)			
39	(助手)	(講師)	(講師)			
38						
37			(講師)			<del>(助教)</del> 【数学】
36						
35						
34		(助手)				
33	(助手)			(助手)		
32						
31						
30				(助手)		
29						
28		(助手)				

網掛けは女性

資料3-1-④-2

平成18年4月1日

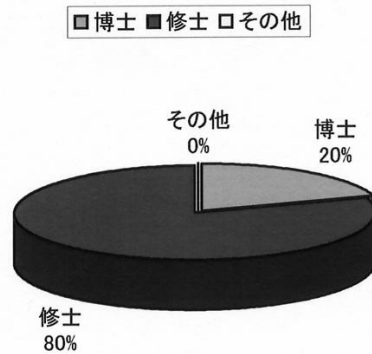
## &lt;人文学科&gt;

博士	2
修士	8
その他	0
合計	10

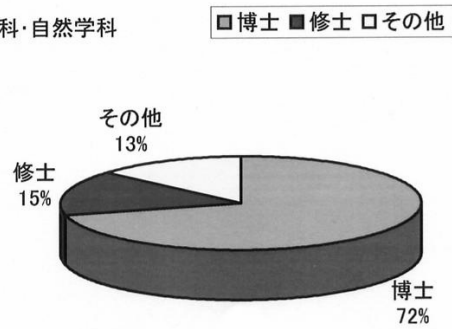
## &lt;専門学科・自然学科&gt;

博士	37
修士	8
その他	7
合計	52

人文学科



専門学科・自然学科

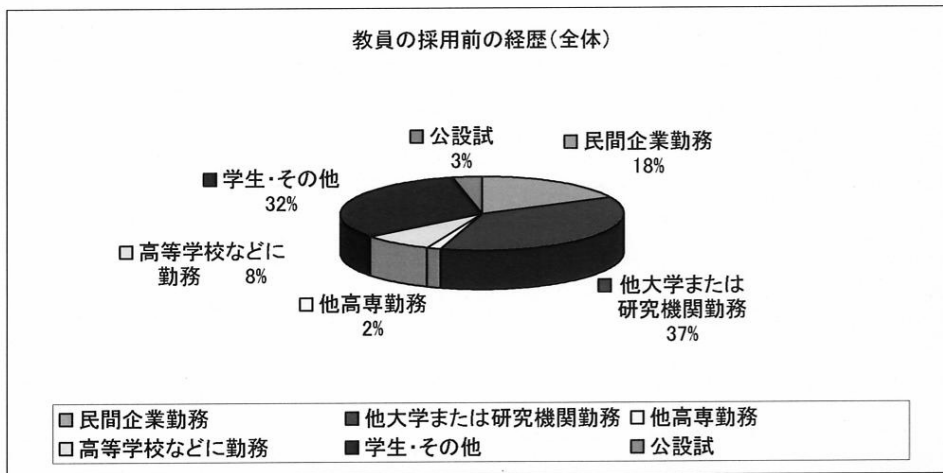


(出典 庶務課資料)

資料 3 - 1 - ④ - 2 続き

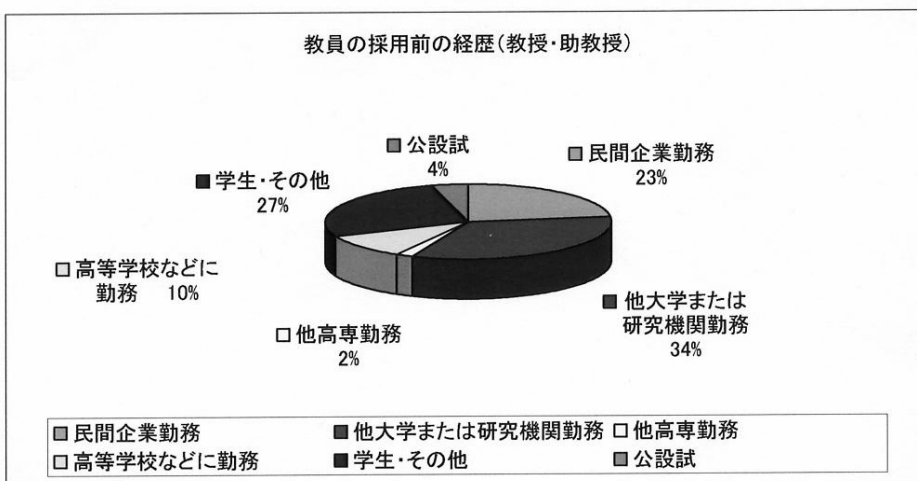
平成18年4月1日

民間企業勤務	11
他大学または研究機関勤務	23
他高専勤務	1
高等学校などに勤務	5
学生・その他	20
公設試	2
合計	62



平成18年4月1日

民間企業勤務	11
他大学または研究機関勤務	16
他高専勤務	1
高等学校などに勤務	5
学生・その他	13
公設試	2
合計	48



(出典 庶務課資料)

資料 3 - 1 - ④ - 3

舞高専人第 1 2 5 号

平成 1 7 年 8 月 2 5 日

関係大学(学部)長  
関係企業 人事担当部長 殿  
各高等専門学校長

舞鶴工業高等専門学校長  
小野 紘一  
【公印省略】

### 教員公募について (依頼)

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび本校では、下記のとおり教員を公募することになりました。

つきましては、貴機関関係者へ御周知くださいますとともに適任者の推薦についてよろしくお願いいたします。 敬具

#### 記

1. 公 募 人 員 教 授 1 名
2. 所 属 機械工学科
3. 専 門 分 野 機械力学(振動工学)または制御工学に関連する分野
4. 担 当 科 目 上記専門分野関連科目・卒業研究等
5. 応 募 資 格 以下の(1)～(3)の条件を全て満たす者
  - (1) 50才程度の方(応募締切日現在)
  - (2) 担当科目の教授能力を有する方で、博士の学位を有する方
  - (3) 高等専門学校の教育・研究に強い意欲を持ち、専攻科を担当できると共に、学生指導・クラブ活動等の指導にも理解と情熱のある方
6. 採 用 予 定 日 平成 1 8 年 4 月 1 日
7. 提 出 書 類
  - (1) 履歴書(A4判市販用紙に自筆し、写真貼付)
  - (2) 研究業績一覧(現在から過去順に、著書、論文、口頭発表等に分け、その年月、単著・共著の区別、掲載誌名、発表機関名などを明記)
  - (3) 主要研究業績(5点以内)の別刷、またはコピーを各3部(ただし、著書の場合は1部で可)
  - (4) 現在の研究分野の概要(1000字程度)
  - (5) 着任後の高専における教育・研究に対する抱負(1500字程度)
  - (6) 推薦書または応募者本人の所見を伺える方の氏名、連絡先等を記載した書類
  - (7) 公的診療機関発行の健康診断書(第2次選考対象者のみ、健康診断に要する費用は自己負担)

提出書類(2)は、<http://www.maizuru-ct.ac.jp> から、著書・論文等一覧の書式をダウンロードしてご使用下さい。また、(4)～(6)の提出書類は、A4判任意様式とします。
8. 応 募 締 切 平成 1 7 年 1 1 月 3 0 日 (水) 必着
9. 選 考 方 法 第 1 次 選 考 : 書 類 審 査  
第 2 次 選 考 : 面 接 (健康診断書持参、旅費・宿泊費等は自己負担)  
(第 1 次 選 考 通 過 者 対 して、実 施 日 時 等 を お 知 ら せ し ま す。)
10. 応 募 書 類 提 出 先 〒625-8511 京都府舞鶴市宇白屋234番地  
国立舞鶴工業高等専門学校 庶務課人事係 (Tel.) 0773-62-8862
11. 問 合 せ 先 教員選考委員会委員長 機械工学科教授 生水 雅之  
(Tel. & Fax.) 0773-62-8930 E-mail : shozu@maizuru-ct.ac.jp  
(不在の場合は、上記庶務課人事係までご連絡下さい。)
12. そ の 他 応募書類は、封書に「機械工学科教授 応募書類在中」と朱書きのうえ、簡易書留で郵送してください。なお、原則として応募書類は返却しませんが、特に返却を希望される方は、その旨をお知らせ下さい。

以 上

(出典 庶務課資料)

## ■在外研究員 派遣者一覧

年度	学科	氏名	期間	主たる渡航先	研究課題
61	自然	中西 靖忠	10月	フランス、モンペリエ ラングドック工科大学	微分方程式の幾何学化について
元	機械	野田 進	10月	アメリカ合衆国、アトランタ他 ジョージア工科大学他	乱流予混合火炎の構造に関する研究
5	電気	北原 紀之	10月	カナダ、トロント トロント大学	熱電磁流動現象の数値解析モデルに関する研究
	制御	野間 正泰	10月	オランダ、デルフト デルフト工科大学	円筒形スクイズフィルムダンパに関する研究
6	建設	川合 茂	5月	アメリカ合衆国、フォートコリンズ コロラド州立大学	流砂及び土石流に関する研究
7	人文	梅原 康生	10月	ドイツ連邦共和国、ミュンヘン ミュンヘン大学	ドイツの経済行政法及び特殊法人の構造の研究
9	自然	宮野 敏男	10月	スウェーデン、ストックホルム ストックホルム大学アーレニウス研究所	不定比金属複合酸化物の構造の研究
11	制御	金森 満	10月	アメリカ合衆国、バークレー カリフォルニア大学バークレー校	メカニカルシステムのロバストサーボ制御に関する研究
13	人文	吉永 進一	2月	アメリカ合衆国、フラトン カリフォルニア州立大学フラトン校	近代日本仏教への西教神秘思想の影響について
	機械	高谷 富也	10月	オーストラリア、ネッドランド 西オーストラリア大学	海洋基礎構造物周辺地盤の応答特性に関する研究

## ■国際研究集会派遣研究員 派遣者一覧

年度	学科	氏名	開催期間	開催地(国名)	研究集会名
9	建設	高谷 富也	11/2~11/7	武漢市(中華人民共和国)	第9回地盤工学におけるコンピュータとその応用に関する国際会議
10	建設	高谷 富也	5/24~5/29	モントリオール(カナダ)	第8回海洋および極地工学に関する国際会議
11	機械	高谷 富也	5/30~6/4	プレスト(フランス)	第9回海洋および極地工学に関する国際会議
	機械	高谷 富也	8/23~8/25	ソウル市(大韓民国)	第1回応用構造工学と応用力学に関する国際会議
12	機械	高谷 富也	5/28~6/2	シアトル(アメリカ合衆国)	第10回海洋および極地工学に関する国際会議
	建設	三輪 浩	9/26~9/29	ソウル市(大韓民国)	第4回水科学・水工学に関する国際会議
13	建設	三輪 浩	11/3~11/5	カイロ(エジプト) ※社会情勢不安により辞退	第8回河川流砂に関する国際シンポジウム
14	建設	三輪 浩	9/18~9/21	ワルシャワ(ポーランド)	第5回水科学・水工学に関する国際会議
15	建設	高谷 富也	5/25~5/30	ホノルル(アメリカ合衆国)	第13回海洋および極地工学に関する国際会議
	人文	村上美登志	8/20~8/31	昆明市(中華人民共和国) ※SARS流行で中止のため辞退	中日民俗化学術シンポジウム -口承文学と民間信仰-
	自然	野間 正泰	8/25~8/28	ソレント(イタリア)	第7回流れの制御・計測・可視化国際シンポジウム

## ■情報処理関係内地研究員 派遣者一覧

年度	学科	氏名	期間	研究機関	研究課題
61	機械	西岡 勝博	10月	京都大学 工学部	不動点近似による2点境界値問題の数値解法と制御系への応用
2	電気	山根 敏	10月	埼玉大学大学院理工学研究科	溶接ロボットへの画像処理技術を用いたファジィ適応制御の応用
3	機械	金森 満	10月	同志社大学 工学部	磁気ダンパの最適設計と振動制御への応用
4	建設	高谷 富也	10月	神戸大学 工学部	地中構造物による散乱波動場の数値解析とCGを利用した波動伝播現象の可視化に関する研究
5	機械	西山 等	10月	金沢大学 工学部	弾性境界壁を有する流動問題の数値シミュレーション
6	機械	谷川 博哉	10月	同志社大学 工学部	スロッシングに関する実験的研究及び数値シミュレーション
7	機械	藤原 正浩	10月	同志社大学 工学部	複合材料の成形加工の数値シミュレーション
8	電気	森 和義	10月	大阪電気通信大学 工学部	モフォロジカルフィルタリングのパスブゾナー信号処理への応用

(出典 創立40周年記念誌)

## 資料3-1-④-4 続き

## ■内地研究員 派遣者一覧

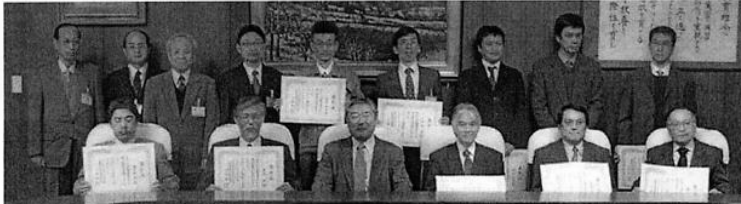
年度	学科	氏名	研究期間	研究機関	研究題目
61	人文	梅原 康生	6月	京都大学 法学部	西ドイツ特殊行政組織法及び日本の国家賠償法の研究
63	機械	井瀧 弘昭	10月	立命館大学 理工学部	高温強度材料の損傷量ならびにき裂発生を検出手法に関する研究
元	電気	中川 重康	10月	豊橋技術科学大学 工学部	ケーブル系統1線地絡時における波形解析
2	機械	白藤 中生	10月	立命館大学 理工学部	ニッケル基一方方向凝固超合金の高温多軸低サイクル疲労
3	土木	三輪 浩	10月	立命館大学 理工学部	沖積河道の河床形態と流砂機構の相互作用に関する研究
4	機械	町田 秀和	10月	京都大学 工学部	メカニカルシステムのロバスト適応制御
5	自然	背戸柳 実	10月	京都産業大学 理学部	形式言語とオートマトンの代数的理論
6	建設	岡 昭二	10月	岐阜大学 工学部	地域計画における評価方法に関する研究
7	自然	宮崎 昭仁	10月	京都大学 化学研究所	新機能性リガンドの分析化学
8	制御	仲川 力	10月	長岡技術科学大学 工学部	クローラシューと走行路面の動的相互作用の研究
9	建設	四蔵 茂雄	10月	長岡技術科学大学 工学部	開発途上国における廃棄物管理のための新規バイオプロセスの開発
	機械	高田 暁男	10月	立命館大学 理工学部	電子デバイス用はんだの力学特性評価に関する研究
10	人文	三川 譲二	6月	立命館大学 法学部	GHQ/SCAP文書を活用しての占領下日本の政党政治の実相についての研究
11	人文	村上美登志	6月	大阪女子大学 学芸学部	仏教文学(安居院唱導と学文)研究
	機械	鈴木 立人	10月	関西大学 工学部	ハイブリッド式介助用車椅子の最適設計と制御への応用
12	制御	奥村 幸彦	10月	東京工業大学 工学部	高電圧高周波放電による化学反応の能動的制御と機能性材料の製作
13	機械	生水 雅之	10月	金沢大学大学院 自然科学研究科	接合体の強度評価に関する研究
14	自然	小松 幸恵	10月	大阪大学大学院 理学研究科	非線型微分方程式の周期解について
15	人文	垂谷 茂弘	6月	甲南大学大学院 人文科学研究科	ユング思想における「臨床と宗教心理論の関係」

(出典 創立40周年記念誌)




## 特別功労者

2004年度表彰(2005.11.22)






JABEE特別委員長	川合茂
ABEE特別委員会委員	樽井武 背戸柳実 篠原正浩 北原紀之 金森満 岡本寛昭
ABEE特別委員会協力委員	野間正泰 西山等 松木英岳 川田昌克 三輪浩 加登文学

2003年度表彰(2004.11.24)

塩見 堯	自然科学部門・名誉教授	校務運営:元寮務主事、自然科学部門長
	<ol style="list-style-type: none"> <li>寮務主事補として8年間学寮運営に尽力した後、寮務主事として3年5ヶ月に渡り学寮運営に携わった。</li> <li>自然科学部門長として通算5年間、自然科学部門をまとめた。</li> <li>関西工学教育協会高専部会幹事として、舞鶴高専を代表して工学教育の発展に尽力した。</li> </ol>	

2002年度表彰(2003.6.6)



西村萬平	電気工学科・教授	校務運営:教務主事、JABEE特別委員長
	<ol style="list-style-type: none"> <li>教務主事として3期6年間、教務関係で尽力し、特に、選択制の導入、混合学級の実現に貢献した。</li> <li>JABEE特別委員会委員長として、調査、計画、実行に当たり、電気工学プログラム、電子制御工学プログラムの試行審査実現に努力した。</li> <li>将来計画検討委員会施設整備専門部会長として、校舎改修の3年計画を実現させた。</li> </ol>	
川勝邦夫	機械工学科・教授	校務運営:学生主事、地域共同テクノセンター長
	平成14年度国立高等専門学校教員顕彰において、全国高専からただ一人選ばれる文部科学大臣賞を受賞した。この顕彰は、教育、校務、地域への貢献、国際協力への貢献が高く評価されたものである。	
樽井 武	人文科学部門・教授	教育活動:英語教育
	<ol style="list-style-type: none"> <li>教室にビジュアル・オーディオ機器を持ち込み、効果的、レベルの高い授業を展開した。</li> <li>English Hut 550(英語の学び学舎)を開設し、授業時間以外の英語教育を行った。</li> <li>夏季休業中に英語合宿を主宰し、英語教育に貢献した。</li> <li>TOEIC,STEP(英検)の受験指導を強化し、英語教育の強化を図った。</li> </ol>	

<http://web.maizuru-ct.ac.jp/kouhou/outline/servis.html>

2005/11/30

特別功労者

2/3 ページ

	5. 英語のTEOIC,STEPのスコアを単位化し、英語へのMotivationを高めた。	
福永重智	会計課・課長	校務運営:施設整備専門部会
	校舎改修をはじめ、教育環境の整備に向けて多大な功績を残した。	

(出典 ウェブページ)

## ○職務上功績が特に顕著な者の表彰に関する申合せ

平成15年3月11日校長裁定

## (趣旨)

第1条 舞鶴工業高等専門学校職員表彰規程(以下「規程」という。)第2条第1項第1号に規定する職務上功績が特に顕著な者(以下「特別功労者」という。)の表彰に関し、規程第8条に基づき、この申合せを定める。

## (特別功労者の表彰)

第2条 特別功労者の表彰は、本校の教育、研究及び学校の運営に関し、また、地域社会とのかかわりで特に顕著な功績等をあげた者で、次の各号のいずれかに該当する者について行う。

- (1) 講義、演習、実験・実習において、自らの工夫等により分かりやすく、かつレベルの高い教育を効果的に行った者(教育活動関係)
- (2) 教科書の編纂、プリントの作成、情報機器を用いた教材の開発などで、教育効果を高めることに功績があった者(教育活動関係)

<http://web.maizuru-ct.ac.jp/kouhou/outline/servis.html>

2005/11/30

## 特別功労者

3/3 ページ

- (3) 学級運営に優れた成果を収めた者(特別教育活動関係)
- (4) クラブ運営を積極的に支援し、顕著な成績を収めることに著しく貢献した者(特別教育活動関係)
- (5) 各種委員会において、その優れた成果に大きく功績した者(校務運営関係)
- (6) 学校運営事務において、優れた成果をあげた者(校務運営関係)
- (7) 研究活動において顕著な業績をあげた者(研究活動、地域活動関係)
- (8) 技術指導、公開講座、共同研究、受託研究などで、地域社会の信頼を高めた者(研究活動、地域活動関係)
- (9) その他、本校の名声を高めるなど、特に顕著な功績等をあげた者

## (特別功労者の選考)

第3条 校長は、前条に掲げる特別功労者を選考するため、特別功労者選考委員会(以下「委員会」という。)を置く。

## (組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
  - (2) 学生主事
  - (3) 寮務主事
  - (4) 専攻科長
  - (5) 事務部長
  - (6) その他校長が必要と認めた者
- 2 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。  
3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

## (推薦方法)

第5条 推薦者(各学科(部門)長、各専攻長、各種委員会委員長及び事務部長)は、別紙様式1及び様式2により候補者を委員会あて推薦することができる。ただし、自薦によることができる。

## (表彰を受ける者の決定)

第6条 表彰を受ける者は、委員会の選考により、校長がこれを決定する。

## (表彰の方法)

第7条 表彰は、校長が表彰状を授与して行う。

2 表彰は年1回行う。ただし、特に必要があると認めるときは、この限りではない。

## (事務)

第8条 委員会に関する事務は、庶務課において行う。

## 附則

この申合せは、平成15年3月11日から施行する。

(出典 ウェブページ)

観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

本校では、教員の採用や昇格は「舞鶴工業高等専門学校教員選考基準」(資料3-2-①-1)及び「舞鶴工業高等専門学校教員選考内規」(資料3-2-①-2)に基づいて運用されている。教員の採用や昇格の際には、選考委員会が書類選考を行い、その上で面接と審査を行い総合的に判断して選考している。判断の基準は一次・二次選考評価シート(訪問調査時の閲覧資料として提示可能)に基づく。採用基準を学位、専門分野、年齢、これまでの教育業績、研究業績、着任後の教育・研究、地域貢献等に対する抱負、ものづくりの経験などの項目に区分し、それぞれの細目を定め、採用の目的に対応した重み付けを行って厳正に審査を行っている。また非常勤教員の採用にあたっては、「常時勤務を要しない教員の選考に関する申合せ」(資料3-2-①-3)に基づいて厳正に審査し採用している。

(分析結果とその根拠理由)

教員の採用や昇格は「舞鶴工業高等専門学校教員選考基準」及び「舞鶴工業高等専門学校教員選考内規」に明確に定められ、学位、専門分野、年齢、これまでの教育業績、研究業績、教育・研究、地域貢献に対する抱負、ものづくりの経験などの項目について、目的に対応した審査を行っている。

## 第 6 章 庶務・人事(舞鶴工業高等専門学校教員選考基準)

## ○舞鶴工業高等専門学校教員選考基準

(趣旨)

第 1 条 舞鶴工業高等専門学校における教授、助教授、講師及び助手の採用及び昇任の選考は、教育公務員特例法(昭和24年法律第 1 号)第 13 条及び教育公務員特例法施行令(昭和24年政令第 6 号)第 3 条に基づき、この基準により行う。

(教授の選考)

第 2 条 教授については、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教授上の能力を有する者と認められる者について選考を行う。

- (1) 博士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者
- (2) 大学(短期大学を含む。以下同じ。)又は高等専門学校において教授、助教授又は専任の講師の経歴(外国においてこれらに相当する教員としての経歴を含む。)のある者
- (3) 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者
- (4) 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者
- (5) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(助教授の選考)

第 3 条 助教授については、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教授上の能力を有する者と認められる者について選考を行う。

- (1) 前条各号のいずれかに該当する者
- (2) 大学又は高等専門学校において助手又はこれに準ずる職員としての経歴(外国においてこれらに相当する教員としての経歴を含む。)のある者
- (3) 修士の学位(外国においてこれらに相当する教員としての経歴を含む。)
- (4) 特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者
- (5) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(講師の選考)

第 4 条 講師については、次の各号のいずれかに該当する者について選考を行う。

- (1) 第 2 条又は前条に規定する教授又は助教授となることのできる者
- (2) 高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。)において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する者と認められる者
- (3) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有する者と文部科学大臣が認めた者

(助手の選考)

第 5 条 助手については、次の各号のいずれかに該当する者について選考を行う。

- (1) 学士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)又は準学士の称号(外国におけるこれに相当する称号を含む。)を有する者
- (2) 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

附 則

この基準は、平成10年3月3日から施行する。

6 - 2 3 - 1

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

---

**第6章 庶務・人事(舞鶴工業高等専門学校教員選考内規)****○舞鶴工業高等専門学校教員選考内規**

**第1条** 舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教授、助教授及び講師並びに助手（以下「教員」という。）の選考（第3条に規定するものを除く。）は、本校教員選考基準によるもののほか、この内規の定めるところによる。

**第2条** 舞鶴工業高等専門学校長（以下「校長」という。）は、必要と認めた場合には、教員選考委員会（以下「選考委員会」という。）を発足させ、審査を求めるものとする。

2 選考委員会は、被選考教員が属する学科（部門）及びそれ以外の学科（部門）から少なくともそれぞれ1名を含めた教員3名以上5名以内をもって構成するものとし、原則として、被選考教員が属する学科（部門）からの選考委員は、半数を超えるものとする。

**第3条** 専攻科担当教員の選考委員会は、被選考教員が担当する専攻及びそれ以外の専攻の担当教員のうちからそれぞれ1人を含めた専攻科担当教員3人以上5人以内をもって構成するものとする。

**第4条** 選考委員会に教員選考委員会委員長（以下「委員長」という。）を置く。

2 委員長は、当該委員の互選によるものとし、教授をもってこれに充てる。この場合、被選考教員の属する学科（部門）からの教授が当たることが望ましい。

3 委員長は、当該選考委員会を総括する。

**第5条** 選考委員会は、第2条に提案された教員候補者について、本校教員選考基準による資格審査を行うものとする。

**第6条** 第2条の選考委員会は、次の委員をもってそれぞれ構成する。

(1) 教授の選考については、教授により審査を行うものとする。

資料3-2-①-2続き

第6章 庶務・人事(舞鶴工業高等専門学校教員選考内規)

(2) 助教授の選考については、助教授以上により審査を行うものとする。

(3) 講師及び助手の選考については、講師以上により審査を行うものとする。

**第7条** 委員長は、選考審査業務開始後3か月以内に教員選考委員会審査結果報告書(別紙様式)をまとめ、審査の経過及びその結果を校長に報告するものとする。

**第8条** 校長は、選考委員会で行った審査結果を考慮の上、決定するものとする。

**第9条** 常時勤務を要しない教員の選考については、この選考内規にかかわらず、別に定める舞鶴工業高等専門学校の常時勤務を要しない教員の選考に関する申合せに基づき選考を行うものとする。

**第10条** この内規の解釈について、疑義が生じたときは、校長が決定する。

附 則

この内規は、平成10年3月3日から実施する。

附 則

この内規は、平成12年4月1日から実施する。

附 則

この内規は、平成13年4月1日から実施し、改正後の第8条の規程は、平成13年1月6日から適用する。

附 則

この内規は、平成14年4月1日から実施する。

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

第6章 庶務・人事（舞鶴工業高等専門学校の常時勤務を要しない教員の選考に関する申合せ）

○ 舞鶴工業高等専門学校の常時勤務を要しない教員の選考に関する申合せ

（趣旨）

第1条 舞鶴工業高等専門学校の常時勤務を要しない教員（以下「非常勤講師」という。）の任用については、法令等に定めるもののほか、この申合せによるものとする。

（資格）

第2条 非常勤講師は、高等専門学校設置基準（平成13年文部科学省令第48号）に定める講師以上の資格を有し、本校の教育方針に沿った教育指導ができる者で、原則として、次の各号に該当する者とする。

(1) 当該年度の4月1日現在で、満63歳未満の者とする。ただし、余人をもってかえがたい場合には、原則として満65歳未満の者とする。

(2) 健康で勤務に支障がない者

（条件）

第3条 非常勤講師は、特殊な専門知識・技術を必要とする内容の授業科目を担当させる場合に任用するものとする。ただし、校長が、特に必要と認めた場合には、必要最小限度の授業時間数を非常勤講師の任用により補うことができる。

（任用期間）

第4条 非常勤講師の任用期間は、1年以内とする。ただし、必要かつ、余人をもってかえがたい場合には5年を限度として任用を更新することができるものとする。

（任用計画）

第5条 学科（部門）長は、非常勤講師の任用計画がある場合は、別記様式1の非常勤講師任用計画書及び別記様式2の教員選考個人調書に記入の上、教務主事を経て、前年度の11月末日までに校長に提出するものとする。

この場合において、当該非常勤講師の担当授業科目等については、あらかじめ、教務委員会の審議を経しておくものとする。

（任用計画の調整）

第6条 校長は、非常勤講師の資格その他の事由により、前条に基づき提出された任用計画に調整が必要であると認めた場合には、教務主事及び当該学科（部門）長の意見を聴いて調整を行うものとする。

（選考）

第7条 校長は、前2条により提出された当該任用計画に基づき選考し、その旨を当該の学科（部門）長に通知するものとする。

（任用計画の変更）

第8条 前条により決定された任用計画に変更が生じた場合には、当該学科（部門）長は、速やかに第4項の規定に準じて、任用計画変更調書を教務主事を経て校長に提出するものとする。

第6章 庶務・人事（舞鶴工業高等専門学校の常時勤務を要しない教員の選考に関する申合せ）

第9条 校長は、第5項及び第6項の規定に準じて、当該任用計画の変更にに基づき選考し、その旨当該学科（部門）長に通知するものとする。

（担当時間数）

第10条 非常勤講師の担当時間数は、週8時間以内とする。

附 記

1 この申合せは、平成10年3月3日から実施する。

2 非常勤講師任用手続要領（昭和59年6月19日制定）及び舞鶴工業高等専門学校非常勤講師採用についての申合せ事項（昭和54年4月1日制定）は、廃止する。

附 記

この申合せは、平成13年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成14年4月1日から実施する。

附 記

この申合せは、平成15年4月1日から実施する。



資料 3-2-①-3 続き

第 6 章 庶務・人事（舞鶴工業高等専門学校の常時勤務を要しない教員の選考に関する申合せ）

別紙様式 1

平成 年度 非常勤講師任用計画書

〔 学科（部門）〕

授業科目	受 講 クラス	毎週の 時間数	担当(予定)者名	本務	新 規 継 続 の 別	備 考	
						講義の 曜 日	住 所
					新・継		
					新・継		
					新・継		
					新・継		
					新・継		
					新・継		
					新・継		
					新・継		

- 注) 1 次年度分を11月末日までに学生課教務係へ提出してください。  
2 提出後変更が生じたときは、速やかに連絡してください。

資料 3 - 2 - ① - 3 続き

第 6 章 庶務・人事（舞鶴工業高等専門学校の常時勤務を要しない教員の選考に関する申合せ）

別紙様式 2

教員資格認定個人調書

舞鶴工業高等専門学校

ふりがな 氏 名	男・女	本 籍 地	
	(年 月 日生満 才)	現 住 所	
担当授業科目		最終学歴	
学 位		資格・免許	
教育・研究・ 技術に関する 職歴の概要			(期間)
			計 年 月
教育・研究・ 技術上の業績			
学科 (部門) 長 所見	採用の理 由・推 薦 経 緯		
	身 体 ・ 人 物 等		
	そ の 他 特 記 事 項		
記入責任者	学科(部門)長 ㊦ 平成 年 月 日記入		

6 - 25 - 4

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

(観点に係る状況)

本校では教育活動に関して自己点検・評価部会が定期的な評価を実施している。その実施項目は授業公開と授業アンケートである。授業公開は平成13年度後期から実施し、授業アンケートは平成9年度から始めた。授業公開は年2回前・後期に開催され、教員相互による評価が実施されている(資料3-2-②-1, 資料3-2-②-3)。また授業アンケートは1教員2科目について、各設問5段階評価で学生による授業評価が年1回実施されている(資料3-2-②-2, 資料3-2-②-3)。アンケートの総合分析結果を公開し、各教員にも個別の分析結果がフィードバックされ教員の授業の改善に寄与している(資料3-2-②-4)。このように教員の教育の質の向上させるためのシステムが整備され、実際に評価が行われている。また、高専機構主催による教員の自己評価と教員相互による評価も行われており、平成14年度には本校教員が文部科学大臣賞を受賞した(資料3-2-②-5)。

(分析結果とその根拠理由)

教員の教育活動に対する定期的な評価については自己点検・評価委員会(部会)を中心に、授業公開と授業アンケート、教員の自己評価が実施されている。以上のように、教員の教育の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われている。

資料3-2-②-1

授業公開実施日程一覧表

授業科目	学年・組	実施教員	実施日時	実施場所
数学ⅠC	1-2	講師 野間正泰	平成17年9月7日(水) 2限目 10:40~12:10	1-2教室 (B棟4階)
計算機工学Ⅰ	3S	講師 町田秀和	平成17年9月7日(水) 3限目 13:00~14:30	CAD/CAM教室 (制御棟3階)
人間と文化Ⅰ (心と癒し)	4年選択	助教授 垂谷茂弘	平成17年9月7日(水) 4限目 14:40~16:10	5E教室 (低学年棟3階)
工作法Ⅱ	3M	教授 生水雅之	平成17年9月9日(金) 3限目 13:00~14:30	3M教室 (B棟2階)
電気機器	4年選択	教授 平地克也	平成17年9月14日(水) 3限目 13:00~14:30	4E教室 (低学年棟4階)
地盤工学Ⅰ	3C	教授 森尾敏	平成17年9月16日(金) 1限目 9:00~10:30	3C教室 (B棟2階)

授業公開実施日程一覧表

授業科目	学年・組	実施教員	実施日時	実施場所
水力学	4年選択	助教授 西山等	平成18年1月18日(水) 3限目 13:00~14:30	4M教室 (低学年棟4階)
ロボット工学	5E	助教授 竹澤智樹	平成18年1月20日(金) 2限目 10:40~12:10	5E教室 (低学年棟3階)
測量学Ⅰ	2C	助教授 四蔵茂雄	平成18年1月23日(月) 1限目 9:00~10:30	2-4教室 (B棟3階)
数学ⅡB	2-2	助教授 背戸柳実	平成18年1月24日(火) 2限目 10:40~12:10	2-2教室 (B棟3階)
電子回路Ⅱ	4S	教授 和田優	平成18年1月27日(金) 3限目 13:00~14:30	4S教室 (低学年棟4階)
英語表現Ⅱ	2-3	教授 荒川吉孝	平成18年1月30日(月) 2限目 10:40~12:10	2-3教室 (B棟3階)

(出典 庶務課資料)

資料3-2-②-2

平成17年9月

教 員 各 位

校 長

### 授業アンケートの実施について

標記の件について、以下の要領に従って実施したいと考えていますので、協力方よろしくお願い致します。アンケートは無記名方式で行い、マークカードを用いて処理します。この調査が、これからの授業改善の有効な資料となりますよう学生の公正な意見が聞けるようご配慮ください。

#### 記

- (1) アンケートは、9月7日(水)から9月21日(水)の間に実施してください。
- (2) アンケート用紙とカードの入った封筒は、事前にメールボックスに入れておきます。
- (3) 授業終了前に、アンケート用紙とカードを配付してください。
- (4) 回答はすべて学生アンケート実施要領に従ってカードに記入させてください。
- (5) 記入が終了したらカードとアンケート用紙を回収してください。カードの順序は関係ありませんが、コーナーを揃えて回収してください。
- (6) 回収したカードとアンケート用紙は、所定の封筒に入れて教務係に返却してください。

なお、ご不明の点がありましたら、金森教員か片山教員にお尋ねください。

(出典 学生課資料)

## 第4回 自己点検・評価部会議事概要

日時 平成16年12月7日(火) 16:00~16:55  
場所 校長室  
出席者 別紙のとおり

## 議 事

1. 平成16年度前期授業公開のまとめについて  
今回のまとめ担当(森尾, 中川委員)の森尾委員から, 資料1に基づいて説明があり, このまとめは, 部会名で全教員に公開することとなった。
2. 平成16年度後期授業公開の実施期日について  
金山部会長から, 実施期日が諮られ, 審議の結果, 1月24日(月)から28日(金)の間に実施することで, 了承された。
3. 授業アンケートの実施期日等について  
金山部会長から, 実施期日等が諮られ, 審議の結果,
  - ①実施期日: 1月11日から1週間。
  - ②実施方法等: 本科, 専攻科の授業を含めて, 1教員2科目を実施(前期実施分は除く。)する。なお, 実施については, 金森委員(授業改善WG座長)に一任することとなった。  
また,
  - ①金山部会長から, 設問事項について5段階評価で回答することとなっているが, 学生と教員あての文言が違っているので訂正したい旨報告があった。
  - ②金森委員から, データ整理の手伝いを野瀬技術専門職員にお願いしているが, あと2名技術職員の手伝いをお願いしたい旨依頼があり, 庶務課長から, このことについては, 教育研究支援センター長に相談願いたい旨回答があった。
4. その他
  - (1) 金森委員から, 資料3に基づいて報告があった。
  - (2) 校長から, 次のとおり報告があった。
    - ①機構本部から認証評価の受審希望年度の問い合わせがあり, 本校は平成18年度受審で回答した。
    - ②平成17年度に外部評価を受ける。
    - ③認証評価を受けるにあたり, どの委員会が担当するか, また, 教務主事主体で実行WGを立ち上げるか, 早急に決めなければならない。
    - ④認証評価受審は, 全校上げて取り組まなければならないことである。このことについては, 学科, 部門の教員にも伝達願いたい。
  - (3) 庶務課長から, 後期授業公開のまとめは, 人文科学部門長, 電子制御工学科長の順番になっていることが確認された。

以 上

(出典 庶務課資料)

## 「学生による授業アンケート」の集計について

集計担当

教務委員会FD部会

## 目次

1. 授業アンケートの質問内容について
2. 統計データについて
3. 科目シートについて
4. 科目シートへの記入のお願い

## 1. 授業アンケートの質問内容について

授業アンケートの質問をその内容によって5つのカテゴリに分け、カテゴリ内で番号を振っています。カテゴリと質問内容は、以下の通りです。科目シート内のグラフは、以下の質問と対応しています。

<b>A: 教育内容について</b>	
A1	他の科目とのつながりを説明して授業が進められましたか
A2	この科目の内容は期待したとおりでしたか
A3	実社会での事例を説明して授業が進められましたか
A4	この科目はあなたの将来にとって役に立つと思いますか
<b>B: 熱意・責任感について</b>	
B1	シラバスに記述されている授業内容や方法は参考になりましたか
B2	授業はほぼ時間通り始まり、時間通りに終わっていましたか
B3	教える態度に熱意や情熱が感じられましたか
B4	よく準備された授業でしたか
<b>C: 教育技術について</b>	
C1	授業の進む速さは適切でしたか
C2	黒板、プリント、及びプロジェクタなどの使用は効果的でしたか
C3	説明がわかりやすく、よく理解できましたか
C4	先生は学生とのコミュニケーションを保つよう授業展開をしましたか
C5	小テスト、宿題、演習課題は講義内容を理解するために効果的でしたか
<b>D: 成績評価について</b>	
D1	成績の評価は適正でしたか
D2	試験問題は講義内容に照らして適切でしたか
<b>E: 学生の自己評価について</b>	
E1	シラバスを授業前に読みましたか
E2	授業の予習、復習を行いましたか
E3	授業に積極的に取り組みましたか
E4	授業中あるいは授業後に不明な点を教員に質問しましたか

各質問について、回答の内容は以下の通りです。

0	マークの記入がない、正しいマークではない、二つ以上にマークしているなどの、いわゆる無効票
1	全然当てはまらない場合
2	あまり当てはまらない場合
3	だいたい当てはまる場合
4	よく当てはまる場合
5	非常によく当てはまる場合

## 2. 統計データについて

アンケートを集計し、以下のような統計データを求めました。太枠がついている項目は、科目シート内のグラフの表示データとして使用しています。

## 各科目についてのデータ

<b>質問毎のデータ</b>	
得点	回答「1」～「5」をそれぞれ1～5点とし、科目内の合計を求める。
有効回答数	回答「1」～「5」の各回答数の、科目内の合計を求める。
平均点	[得点] ÷ [有効回答数] で求める。
<b>カテゴリ毎のデータ</b>	
得点	カテゴリ内の全質問の[得点]の合計を求める。
有効回答数	カテゴリ内の全質問の[有効回答数]の合計を求める。
平均点	[得点] ÷ [有効回答数] で求める。

(出典 教務委員会FD部会資料)

## 全科目についてのデータ

質問毎のデータ	
得点	質問毎の[得点]を、アンケートが実施された全科目について合計する。
有効回答数	質問毎の[有効回答数]を、アンケートが実施された全科目について合計する。
平均点	$[得点] \div [有効回答数]$ で求める。
分散	$\{ [「1」の回答数(の全科目についての合計)] \times (1-[平均点])^2 + [「2」の回答数] \times (2-[平均点])^2 + [「3」の回答数] \times (3-[平均点])^2 + [「4」の回答数] \times (4-[平均点])^2 + [「5」の回答数] \times (5-[平均点])^2 \} \div [有効回答数]$ で求める。
標準偏差	$([分散])^{1/2}$ で求める。
カテゴリ毎のデータ	
得点	カテゴリ内の全質問の[得点]の合計を求める。
有効回答数	カテゴリ内の全質問の[有効回答数]の合計を求める。
平均点	$[得点] \div [有効回答数]$ で求める。

## 3.科目シートについて

ひとつの科目のアンケート結果を、ひとつのシートに表示しています。内容は以下のとおりです。

## 科目情報

シートの最上段にその科目を識別できる情報が記入されている。

## アンケートの回答状況

## I カテゴリ別評価

- ・各カテゴリの平均点をレーダーチャートで示す。
- ・四角と実線はその科目の[平均点]を示し、丸と淡線は全科目の[平均点]を示す。
- ・専攻科の科目は中間試験を行わないため、カテゴリD(成績評価についてのカテゴリ)のデータは集計しない。
- よって、本科の科目はカテゴリA～Eの五角形のレーダーチャート、専攻科の科目はカテゴリA～C,Eの四角形のレーダーチャートである。

## II 学生の自己評価

- ・カテゴリE内の質問毎の[平均点]を棒グラフで示す。
- ・更に、全科目の質問毎の[平均点]を黒丸で示し、[標準偏差]をエラーバーで示す。
- ・グラフ右下の「科目平均点」はその科目のカテゴリEの[平均点]、「全体平均点」は全科目についてのカテゴリEの[平均点]である。

## III 教員の評価

- ・本科の科目はカテゴリABCD内の質問毎の[平均点]、専攻科の科目はカテゴリABC内の質問毎の[平均点]を棒グラフで示す。
- ・更に、全科目の質問毎の[平均点]を丸で示し、その[標準偏差]をエラーバーで示す。
- ・グラフ右下の「科目平均点」は、棒グラフ内に示されている質問全ての[得点]の合計と[有効回答数]の合計を求め、除算して求めた平均点である。「全体平均点」は、本科の科目はカテゴリABCDの、専攻科の科目はカテゴリABCの、[得点]の合計と[有効回答数]の合計を求め、それらを全科目について合計した後、除算して求めた平均点である。

## 授業・教員への要望、コメント

アンケート用紙の裏に書かれた要望等が記入されている。  
コメントが多い場合、各コメントを“/”で区切って並べている場合があります。特別な意味合いはありません。

科目シートの「II 学生の自己評価」、及び「III 教員の評価」と表示されているセルにマウスカーソルを持っていくと、質問内容が表示されます。ご活用下さい。

## 4.科目シートへの記入のお願い

各科目シートは、「課題分析」及び「今後の改善策」の欄のみ編集可能となっています。  
担当科目のアンケート集計結果を分析し、「課題分析」及び「今後の改善策」の欄に記入してください。

「課題分析」及び「今後の改善策」の文章は六行以内でご記入下さい。  
なお、一行の文章が長い場合(60文字程度以上)、書き込み欄の幅に合わせて文字が縮小されるようになっています。

(出典 教務委員会FD部会資料)

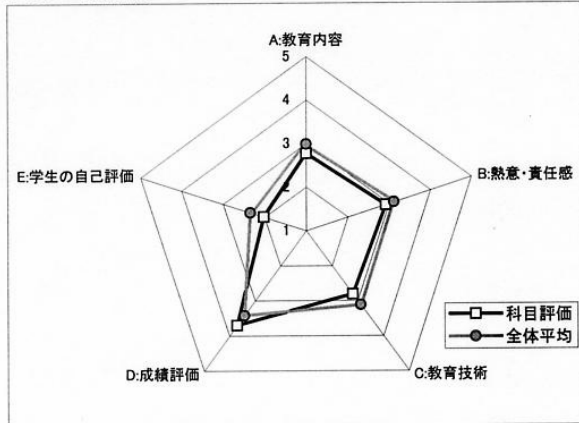


資料3-2-②-4 続き

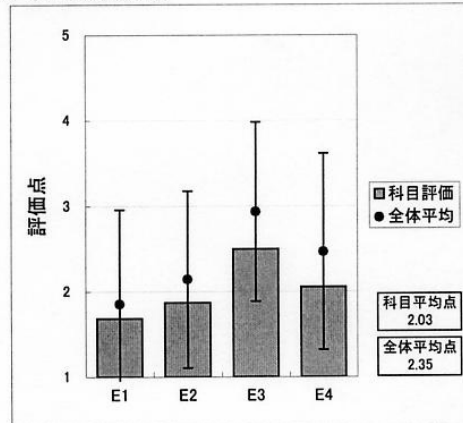
アンケート実施時期	クラス	学期	科目名	必須・選択の別	所属学科	担当者

アンケート回答状況

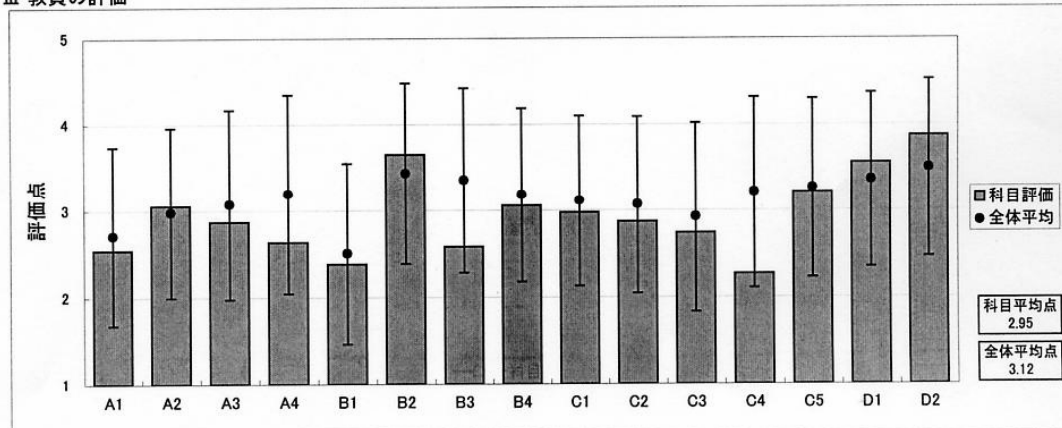
I カテゴリ別評価



II 学生の自己評価



III 教員の評価



授業・教員への要望、コメント

課題分析

今後の改善策

(出典 教務委員会FD部会資料)

## 川勝教授 文部科学大臣賞受賞

今年度から国立高等専門学校協会（国専協）主催による教員顕彰制度が実施されることになり、全国の国立高等専門学校（54校）教員の中から、高等専門学校における教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等において顕著な功績があったと認められる者を顕彰することになりました。

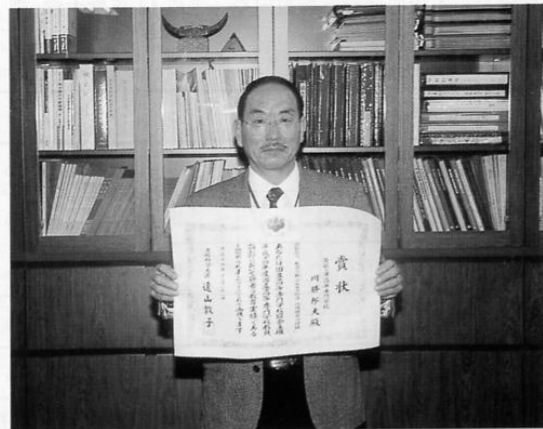
この制度は、通常、教員は研究業績（研究論文等）によって評価されることが多く、授業や課外活動等の学生指導を含めた教育業績を評価するシステムが構築されていなかったため、国専協第四常置委員会で平成12年10月から1年半にわたる審議、検討を重ね、文部科学省と相談しながらようやく実施の運びとなったものです。

このたび、本校から推薦していた機械工学科川勝邦夫教授が、荣誉ある平成14年度国立高等専門学校教員顕彰の「文部科学大臣賞」（最も優秀な教員1名に授与される賞）に輝きました。

顕彰式が、去る11月21日（木）17時から東京・千代田区の学士会館で国専協総会（全国の国立高等専門学校の校長が全員出席する）の席上挙行され、文部科

学省高等教育局徳久専門教育課長から賞状が授与されました。

川勝教授は、実践的科目の組み合わせ教育方法開拓による「ものづくり教育」の提唱及び寮務主事、学生主事としての貢献が高く評価されたもので、顕彰式では顕彰者を代表して、これまで学生指導等に頑張ってきたことが認められ、努力が報われたなど、喜びの挨拶もされました。



（出典 学校だより「舞鶴高専」第92号）

観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

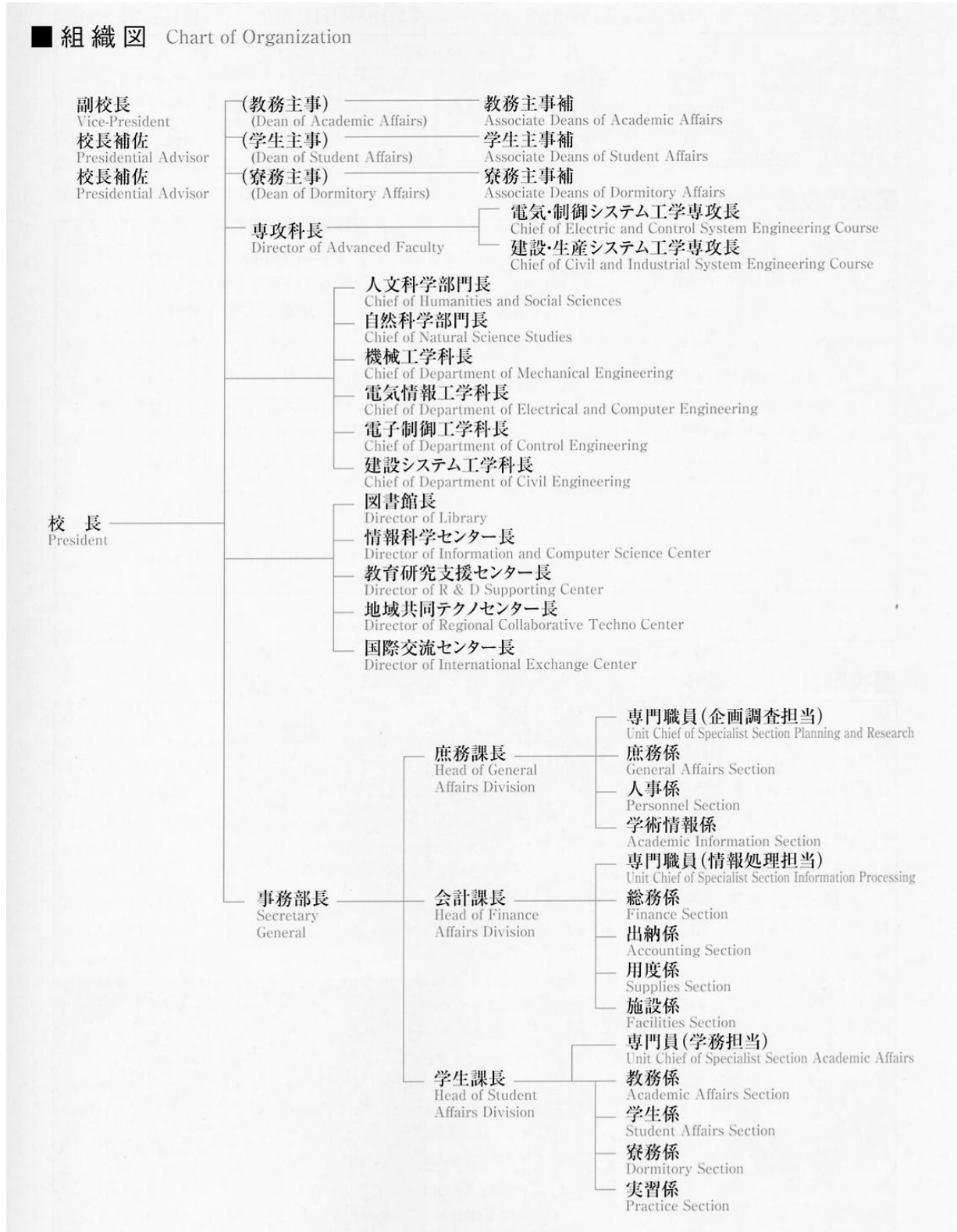
資料3-3-①-1, 資料3-3-①-2, 資料3-3-①-3に示すように, 専攻科会議, 教員会議, 運営会議, 各種委員会, 学科(部門)会議, 学級担任会議等への支援や校長, 主事, 科長, センター長等を補佐するための事務職員が適正に配置され機能している。例えば, 専攻科会議では学生課の, 教員会議および運営会議では庶務課, 会計課および学生課の, 各種委員会ではそれぞれ担当分掌に応じて庶務課, 会計課および学生課の, 学級担任会議では学生課の事務職員が支援している。学科(部門)会議では必要に応じて庶務課, 会計課および学生課の事務職員が支援している。また特別な知見を要する業務を担当する事務職員として, 庶務課専門職員, 会計課専門職員, 学生課専門員が配置されている。また教育研究支援センターにおいて, 各学科, 情報科学センター及び地域共同テクノセンターの教育・研究支援に関し, 技術に係わる専門的業務を組織的かつ効率的に行うため技術職員が配置されている。これらの教育支援者には, 能力開発のための各種研修にも参加させている(資料3-3-①-4, 資料3-3-①-5)。

(分析結果とその根拠理由)

教育課程を展開するために必要な各種会議および各種委員会への支援と補佐の事務体制が整備されている。また, 教育研究支援センター所属の技術職員が配置され, 教育・研究支援の体制が整えられている。

以上のように, 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員, 技術職員等の教育支援者が適切に配置されている。

■ 組織図 Chart of Organization



(出典 平成18年度学校概要)

## 舞鶴工業高等専門学校教員組織規程

## 第 1 章 総則

## (趣旨)

第 1 条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成 16 年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 1 号。以下「規則」という。）第 5 条及び舞鶴工業高等専門学校学則（昭和 40 年 4 月 1 日施行。以下「学則」という。）第 12 条の規定に基づき、舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）における内部組織及び会議等に関する事項を定め、もって校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

## 第 2 章 組織

## (設置)

第 2 条 本校に教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

2 前項に規定する職のほか、主事補、専攻科長、専攻長、学科長、部門長、図書館長、情報科学センター長、教育研究支援センター長、地域共同テクノセンター長及び国際交流センター長並びに学級担任を置く。

## (任期)

第 3 条 前条第 1 項に定める各職の任期は 2 年、同条第 2 項に定める各職（専攻科長、図書館長、情報科学センター長、教育研究支援センター長、地域共同テクノセンター長及び国際交流センター長を除く。）の任期は 1 年とする。各職に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前条の各職は、再任することができる。

## (主事の業務)

第 4 条 規則第 5 条及び学則第 10 条に定める三主事の業務は、次のとおりとする。

## (1) 教務主事

- ア 教育計画及び教育課程編成の立案並びに実施に関すること。
- イ 入学、退学、休学、進級及び卒業の認定に関すること。
- ウ 指導要録に関すること。
- エ 教員の研究に関すること。

## (2) 学生主事

- ア 学生の補導、厚生及び課外教育に関すること。
- イ 学生の個人相談及び集団指導に関すること。
- ウ 学生の規律の保持及び事故の処理並びに保健指導に関すること。

## (3) 寮務主事

- ア 寮生の指導及び厚生に関すること。
- イ 寮生の個人相談及び集団指導に関すること。
- ウ 寮生の規律の保持及び事故の処理並びに保健指導に関すること。

2 教務主事は、校長が事故あるときは、その職務を代行する。

## (主事補)

第 5 条 主事補は、教務主事補、学生主事補及び寮務主事補とし、それぞれ若干人置くものとする。

2 主事補は、教授、助教授又は講師をもって充て、校長が任命する。

3 主事補は、主事の職務を補佐する。

## (専攻科長)

第 6 条 学則第 38 条に定める専攻科に専攻科長を置き、専攻科担当の教授のうちから校長が任命する。

## 資料3-3-①-2 続き

- 2 専攻科長は、校長の命を受け、専攻科の管理運営に関することを掌理する。
- 3 専攻科長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、専攻科長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (専攻長)
- 第6条の2 専攻科の専攻ごとに専攻長を置き、専攻科担当の教授又は助教授のうちから専攻科長の推薦に基づき、校長が任命する。
- 2 専攻長は、専攻科長の職務を補佐する。
- (学科長及び部門長)
- 第7条 機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科及び建設システム工学科に学科長を置き、人文科学部門及び自然科学部門に部門長を置くものとする。
- 2 学科長及び部門長(以下「学科(部門)長」という。)は、その学科及び部門(以下「学科(部門)」という。)に所属する教授をもって充て、学科(部門)において候補者を選出の上、校長に推薦する。推薦のあった候補者について、学科(部門)における審議内容を参考にして、校長が決定し、任命するものとする。
- 3 学科(部門)長は、それぞれの学科(部門)の管理運営及び連絡調整に関することをつかさどる。
- (図書館長)
- 第8条 本校に図書館長を置き、教授又は助教授のうちから校長が任命する。
- 2 図書館長は、校長の命を受け、図書館及び視聴覚教室等の管理運営に関することを掌理する。
- 3 図書館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、図書館長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (情報科学センター長)
- 第8条の2 本校に情報科学センター長を置き、教授又は助教授のうちから校長が任命する。
- 2 情報科学センター長は、校長の命を受け、情報科学センターの管理運営に関することを掌理する。
- 3 情報科学センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、情報科学センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (地域共同テクノセンター長)
- 第8条の3 本校に地域共同テクノセンター長を置き、教授又は助教授のうちから校長が任命する。
- 2 地域共同テクノセンター長は、校長の命を受け、地域共同テクノセンターの管理運営に関することを掌理する。
- 3 地域共同テクノセンター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、地域共同テクノセンター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (教育研究支援センター長)
- 第8条の4 本校に教育研究支援センター長を置き、教授又は助教授のうちから校長が任命する。
- 2 教育研究支援センター長は、校長の命を受け、教育研究支援センターの管理運営に関することを掌理する。
- 3 教育研究支援センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、教育研究支援センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (国際交流センター長)
- 第8条の5 本校に国際交流センター長を置き、教授又は助教授のうちから校長が任命する。
- 2 国際交流センター長は、校長の命を受け、国際交流センターの管理運営に関することを掌

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

理する。

- 3 国際交流センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、国際交流センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(学級担任及び学級副担任)

第9条 学級担任は、各学級に1名置くものとする。

- 2 校長が必要と認めたときは学級副担任を置くことができる。  
3 学級担任及び学級副担任は、講師以上の教員をもって充て、校長が任命する。  
4 学級担任は、校長の命を受け、学級の運営及び学習指導並びに生活指導の任に当たる。  
5 学級副担任は、学級担任を補佐し、学級担任不在のときはその業務を代理する。

### 第3章 会議

(設置)

第10条 校務の運営に関し、協議、連絡調整を円滑に行うため、次の会議等を置く。

- (1) 運営会議
  - (2) 教員会議
  - (3) 学科(部門)会議
  - (4) 学級担任会議
  - (5) 委員会
- (運営会議)

第11条 運営会議は、校長の諮問に応じ、各学科(部門)間の連絡調整を図るとともに、校務の企画と運営に関することを協議する。

第11条の2 運営会議は、校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、各学科(部門)長、図書館長、情報科学センター長、教育研究支援センター長、地域共同テクノセンター長、国際交流センター長、事務部長及び課長をもって構成する。

2 校長が必要と認められた場合は、その他の教職員を出席させることができる。

第11条の3 運営会議は、校長が主宰し、その議長となる。

第11条の4 運営会議は、毎月(8月を除く。)第3火曜日に開催するものとする。ただし、必要があるときは、日程を変更し若しくは臨時に開催することができる。

第11条の5 運営会議の事務は庶務課において処理する。

(教員会議)

第12条 教員会議は、運営会議における審議、決定事項にかかる報告及び教務、厚生補導(学寮の厚生補導を含む。)、その他学校運営に関する周知事項について連絡調整し、並びに次の事項について審議する。

- (1) 学生(専攻科を含む)の入学、進級及び卒業、修了の認定に関すること。
- (2) その他校長が必要と認めた事項

第12条の2 教員会議は、校長、教授、助教授、専任の講師及び助手をもって構成する。

- 2 校長は、教員会議に事務部長及び課長を出席させる。  
3 校長が必要と認められた場合は、その他の職員を出席させることができる。

第12条の3 教員会議は、校長が主宰し、その議長となる。

第12条の4 教員会議は、偶数月(8月を除く。)及び1月並びに3月に開催するものとする。ただし、必要があるときは、臨時に開催することができる。

第12条の5 教員会議の事務は、庶務課において処理する。

(学科(部門)会議)

第13条 学科(部門)会議は、各学科(部門)に置くものとし、学科(部門)内の運営及び連絡調整について協議する。

- 2 学科(部門)会議は、学科(部門)長が主宰し、その議長となる。

(学級担任会議)

第 14 条 学級担任会議は、担任学級の指導について連絡協議する。

(委員会)

第 15 条 本校に次の委員会を置き、校長の諮問に応じ、特定の重要事項について協議する。

- (1) 将来計画検討委員会
- (2) 評価委員会
- (3) 広報委員会
- (4) 国際交流委員会
- (5) 情報化推進委員会
- (6) 入学試験委員会
- (7) 専攻科委員会
- (8) 教務委員会
- (9) 学生委員会
- (10) 学寮委員会
- (11) 教育プログラム (PIE) 委員会
- (12) 新カリキュラム特別委員会
- (13) 知的財産委員会
- (14) 環境保全委員会
- (15) 放射線障害防止委員会
- (16) 重点研究等推進委員会
- (17) 図書館運営委員会
- (18) 情報科学センター運営委員会
- (19) 教育研究支援センター運営委員会
- (20) 地域共同テクノセンター運営委員会

2 委員会についての必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、昭和 50 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、昭和 53 年 12 月 19 日から施行する。

附 則

この規程は、昭和 58 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、昭和 59 年 7 月 17 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 4 年 1 月 14 日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成 6 年 5 月 19 日から施行する。ただし、第 3 条、第 7 条、第 17 条及び第 21 条の改正規定は、平成 5 年 4 月 1 日から、第 6 条の改正規定は、平成 6 年 4 月 1 日から適用する。

2 土木工学科に置かれる学科主任は、改正後の第 6 条の規定にかかわらず、土木工学科が存続する間は、存続するものとする。

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)



資料 3-3-①-2 続き

附 則

- 1 この規程は、平成 10 年 3 月 3 日から施行し、平成 10 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 第 7 条及び第 7 条の 2 の規定にかかわらず、この規定によりはじめて選出された者の任期は、平成 11 年 3 月 31 日までとする。

附 則

この規程は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 13 年 7 月 24 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 18 年 3 月 20 日から施行する。

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

## ○舞鶴工業高等専門学校事務組織規程

### 第1章 総則

#### (目的)

**第1条** この規程は、国立学校設置法施行規則第36条、第37条及び舞鶴工業高等専門学校学則第11条、第12条に基づき、舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び所掌事務の範囲を定めることを目的とする。

### 第2章 事務組織

#### (事務部)

**第2条** 本校に事務部を置き、事務部に庶務課、会計課及び学生課の3課を置く。

**第3条から第5条まで** 削除

#### (事務部長及び課長)

**第6条** 事務部に事務部長を、各課に課長を置き事務職員をもって充てる。

2 事務部長は校長の命を受け、事務部の事務を総括する。

3 課長は上司の命を受け課の事務を処理する。

#### (専門員)

**第6条の2** 事務部の学生課に学務担当の専門員を置き、事務職員をもって充てる。

2 専門員は、上司の命を受け、課の所掌事務のうち高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を直接処理するとともに専門的見地から課長を補佐する。

#### (専門職員)

**第6条の3** 事務部の庶務課及び会計課に専門職員を置き、事務職員をもって充てる。

2 専門職員は、上司の命を受け、課の所掌事務のうち専門知識又は経験を必要とする特定又は一定範囲の分野の事務を直接処理する。

#### (係の設置)

**第7条** 各課の事務を分掌させるため、次の係を置く。

庶務課 庶務係、人事係、図書係

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

会計課 総務係，出納係，用度係，施設係

学生課 教務係，学生係，寮務係，実習係

(係長及び主任)

**第8条** 各係に係長を置き管理運営上必要ある場合には係に主任を置くことができる。

2 係長及び主任は，事務職員又は技術職員をもって充てる。

3 係長は，上司の命を受け，係の事務を処理する。

3 主任は，係長を補佐し所掌事務を処理する。

### 第3章 事務分掌

(庶務課)

**第9条** 専門職員は，次の事務をつかさどる。

- (1) 将来計画策定に係る企画調整に関すること。
- (2) 自己点検・評価及び外部評価に関すること。
- (3) 学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。
- (4) 産学官連携に関する専門的事項に関すること。
- (5) 情報公開に関する専門的事項に関すること。
- (6) その他企画調整に係る事務のうち特定の専門的事項に関すること。

**第9条の2** 庶務係においては，次の事務をつかさどる。

第9条の2 庶務係においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 学校の事務に関し，総括及び連絡調整すること。
- (2) 制度及び組織に関すること。
- (3) 儀式，会議その他諸行事に関すること。
- (4) 公印（会計関係の公印を除く）の管守に関すること。
- (5) 公文書の授受，発送及び郵便切手類の受け払いに関すること。
- (6) 渉外及び秘書事務に関すること。
- (7) 国際学术交流に関すること。
- (8) 内地研究員及び在外研究員に関すること。
- (9) 科学研究費の申請その他学術団体との連絡に関すること。
- (10) 民間等との共同研究及び受託研究の受入等に関すること。
- (11) 発明及び特許出願等に関すること。
- (12) 職員の身分証明及び他の係に属さない諸証明に関すること。
- (13) 学校概要，校報等の編集発行に関すること。（他の係に属するものを除く。）

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

- (14) 電話交換業務及び校内放送に関すること。
- (15) 校内の警備取締りに関すること。
- (16) 指定統計調査，他の係に属さない諸調査及び諸報告に関すること。（他の課の所掌に係るものを除く。）
- (17) その他，他の課，係の所掌に属さない事務に関すること。

**第10条** 人事係においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 職員の任免，分限，懲戒及び服務等に関すること。
- (2) 職員の給与に関すること。
- (3) 職員の定員，職階及び級別定数の管理に関すること。
- (4) 職員の勤務評定に関すること。
- (5) 職員の研修に関すること。
- (6) 国家公務員共済組合長期給付及び退職手当に関すること。
- (7) 職員の災害補償に関すること。
- (8) 職員の栄典，表彰に関すること。
- (9) 人事記録の作成保存に関すること。
- (10) 職員の健康管理及び福利厚生に関すること。
- (11) 職員の勤務時間，休暇及び宿日直に関すること。
- (12) 通勤手当及び諸手当に関すること。
- (13) 出張に関すること。
- (14) 人事に関する調査統計及び報告に関すること。
- (15) その他人事に関すること。

**第11条** 図書係においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 図書原簿の保管に関すること。
- (2) 図書の分類に関すること。
- (3) 図書目録の作成に関すること。
- (4) 図書の受入れ及び整理保管に関すること。
- (5) 図書の閲覧及び貸出に関すること。
- (6) 文献及び視聴覚資料の収集に関すること。
- (7) 学術文献の交換に関すること。
- (8) 読書相談及び指導等に関すること。
- (9) 紀要等の編集発行に関すること。
- (10) 図書に関する調査統計及び報告に関すること。
- (11) その他図書館に関すること。

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

(会計課)

**第12条** 専門職員は、次の事務をつかさどる。

- (1) 事務用電子計算機利用の総括及び連絡調整に関すること。
- (2) 事務用電子計算機システムの維持管理及び運転操作の総括に関すること。
- (3) 事務用電子計算機システムの調査、分析、開発、設計の総括に関すること。
- (4) 事務用電子計算機システムのデータ及びプログラム等の保護管理に関すること。
- (5) 事務電算化要員養成に係る教育、研修の企画立案に関すること。
- (6) 校内LANの事務処理に係る利用の総括及び連絡調整に関すること。
- (7) その他事務用電子計算機に係る事務処理に関すること。

**第13条** 総務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 課内の事務の総括及び連絡調整に関すること。
- (2) 予算及び決算に関すること。
- (3) 支出負担行為に関すること。
- (4) 会計に属する諸規程の立案に関すること。
- (5) 会計関係の公印の管守に関すること。
- (6) 会計検査及び監査に関すること。
- (7) 国家公務員共済組合短期給付等に関すること。
- (8) 奨学寄付金委任経理金に関すること。
- (9) 科学研究費の経理に関すること。
- (10) 校内の整備、清掃及び用務に関すること。
- (11) 課の所掌に係る調査統計及び報告に関すること。(他の係の所掌に係るものを除く。)
- (12) その他会計事務で他の係の所掌に属さない事務に関すること。

**第14条** 出納係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 債権の管理に関すること。
- (2) 収入、支出及び計算証明に関すること。
- (3) 歳入歳出外現金及び有価証券に関すること。
- (4) 前渡資金に関すること。
- (5) 給与等の支給及び所得税等の徴収に関すること。

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

(6) 歳入、歳出に関する調査統計及び報告に関すること。

(7) その他出納に関する事務を処理すること。

**第15条** 用度係においては、次の事務をつかさどる。

(1) 物品の購入、検収、取得出納及び保管に関すること。

(2) 物品の修理、保全及び処分に関すること。

(3) 物品の入札及び契約に関すること。

(4) 物品の寄付受領及び管理換に関すること。

(5) 一般競争参加者の資格の審査に関すること。

(6) 物品の計算証明に関すること。

(7) 自動車の整備、運行及び安全管理に関すること。

(8) 印刷室の印刷機器の使用、業務及び印刷機器の保全に関すること。

(9) 物品の調査統計及び報告に関すること。

(10) その他用度に関すること。

**第16条** 施設係においては、次の事務をつかさどる。

(1) 国有財産の維持管理及び処分に関すること。

(2) 国有財産の計算証明に関すること。

(3) 国有財産の防火管理に関すること。

(4) 公務員宿舎に関すること。

(5) 施設の立地計画及び環境整備に関すること。

(6) 施設整備、営繕工事の企画立案及び施行監督に関すること。

(7) 工事の入札及び契約に関すること。

(8) 土地、建物、電気、ガス、水道、電話、冷暖房施設等の維持保全に関すること。

(9) 施設に関する調査統計及び報告に関すること。

(10) その他、施設整備に関すること。

(学生課)

**第17条** 専門員は、次の事務をつかさどる。

(1) 入学者の選抜に係る特定の専門的事項に関すること。

(2) 教育課程の編成及び実施に関し、専門的見地から指導・助言を行うこと。

(3) 教育指導計画の実施に係る専門的事項に関し、専門的見地から指導・助言を行うこと。

(4) 外国人留学生に係る専門的事項に関すること。

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

(5) その他学務に係る事務のうち、重要な企画、調査及び連絡調整に関すること。

**第 18 条** 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 課内の事務の総括及び連絡調整に関すること。
- (2) 学生の募集及び入学者の選抜に関すること。
- (3) 学生の修学指導に関すること。
- (4) 授業及び試験に関すること。
- (5) 教育課程に関すること。
- (6) 学生の入学、休学、復学及び退学に関すること。
- (7) 学生の進級及び卒業に関すること。
- (8) 学生の校外実習及び見学に関すること。
- (9) 学生の学籍に関すること。
- (10) 学生の学業成績の記録及び整理保管に関すること。
- (11) 教科書及び教材、教具等に関すること。
- (12) 学生証、成績証明書その他学生の諸証明に関すること。
- (13) 学生便覧の編集に関すること。
- (14) 課の所掌に係る調査統計及び報告に関すること。（他の係の所掌に係るものを除く。）
- (15) その他教務に関すること。

**第 19 条** 学生係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の課外教育に関すること。
- (2) 学生の奨学金に関すること。
- (3) 授業料の減免、徴収猶予等経済援助に関すること。
- (4) 学生の賞罰に関すること。
- (5) 学生団体及び集会等に関すること。
- (6) 学生の印刷物等の配布許可及びピラ、ポスター等の掲示に関すること。
- (7) 学生の厚生施設の管理運営及び施設、設備の使用に関すること。
- (8) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
- (9) 学生の職業指導及び就職あっせんに関すること。
- (10) 学生旅客運賃割引証及び通学証明書に関すること。
- (11) 日本体育・学校健康センター等の事務に関すること。
- (12) 学生に関する調査統計及び報告に関すること。

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

(13) その他学生の厚生補導に関すること。

**第20条** 寮務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学寮の管理運営に関すること。
- (2) 学生の入寮及び退寮に関すること。
- (3) 寮生の外出及び外泊に関すること。
- (4) 寮生の生活指導に関すること。
- (5) 寄宿寮の免除に関すること。
- (6) 学寮施設設備の保全及び整備に関すること。
- (7) 学寮の警備及び防火に関すること。
- (8) 寮生の保健衛生及び福利厚生に関すること。
- (9) 寮生に対する貸与物品に関すること。
- (10) 寮生の郵便物接受に関すること。
- (11) 寮務に関する調査統計及び報告に関すること。
- (12) その他寮務に関すること。

**第21条** 実習係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 実習指導計画の立案及び指導に関すること。
- (2) 実習工場の管理運営に関すること。
- (3) 実習用機械器具類の保守管理に関すること。
- (4) 実習用材料の準備及び保管に関すること。
- (5) 実習工場の災害事故防止に関すること。
- (6) 実習の調査統計及び報告に関すること。
- (7) その他実習に関すること。

**附 則**

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成11年2月25日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

**附 則**

この規程は、平成12年4月1日から施行する。



## ○舞鶴工業高等専門学校教育研究支援センター規程

## (設置)

第1条 舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）に教育研究支援センター（以下「センター」という。）を置く。

## (目的)

第2条 センターにおいては、各学科、情報科学センター及び地域共同テクノセンターの教育・研究支援に関し、技術に係わる専門的業務を組織的かつ効率的に行う。

## (技術部門)

第3条 センターは、第1技術部門及び第2技術部門の2部門で構成する。

2 各部門においては、次の業務を行う。

区 分	業 務 内 容
第1技術部門	機械・建設システムの工学に関する技術的業務
第2技術部門	電気・情報処理・電子制御の工学に関する技術的業務

## (センター長)

第4条 センターにセンター長を置き、教授のうちから校長が任命する。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (技術長等)

第5条 センターに、次の各号に掲げる職員を置き、技術職員のうちから校長が任命する。

(1) 技術長

(2) 技術部門長

(3) 技術部門員

2 技術長は、センター長を補佐し、各技術部門の業務を統括するとともに技術部門長及び技術部門員の技術的な指導・助言並びに技術業務を行う。

3 技術部門長は、技術部門の業務を整理するとともに技術部門員の技術的な指導・助言並びに技術業務を行う。

4 技術部門員は、技術業務を行う。

## (運営委員会)

第6条 センターに、本校技術職員の教育・研究支援業務に関する円滑な運

営に関し、必要な事項を審議するため、教育研究支援センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 各学科、情報科学センター及び地域共同テクノセンターへの教育・研究支援に関する基本的事項
- (2) 実習工場の運営体制に関すること。
- (3) 教育・研究に関し、各学科、情報科学センター及び地域共同テクノセンターの連絡調整に関すること。
- (4) 技術職員の研修に関すること。
- (5) その他センターの目的を達成するために必要な事項  
（運営委員会の組織）

第7条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 各学科長
- (3) 情報科学センター長
- (4) 地域共同テクノセンター長
- (5) 庶務課長及び学生課長
- (6) 技術長及び部門長  
（会議の運営）

第8条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

（事務）

第9条 技術職員の組織に関する事務及び運営委員会の事務は、学生課において処理する。

（雑則）

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

この規程は、平成10年1月12日から施行し、平成10年4月1日から適用する。

資料 3 - 3 - ① - 4 続き

附 則

この規程は、平成13年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年 1 0 月 9 日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年 4 月 1 日から施行する。

舞鶴工業高等専門学校教育研究支援センター組織図



(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

## 教育研究支援センター

教育研究支援センター長 奥村 幸彦

教育研究支援センターは、新しい時代の“ものづくり”教育に対応する高専教育の核となるように変革を要求されています。すなわち、これまで行ってきた教育支援に加えて、研究支援をも視野にいたした体制と技術が要求されています。

平成 17 年度は、中期計画目標に掲げた（１）教育支援のレベル向上、（２）研究支援としての技術職員の研究への参画、（３）安全管理意識の向上を実現するための第一歩として、次の技術修得および研修を行いました。

### 1. 教育支援のレベル向上について

- ①平成 17 年度京都大学新採用職員研修に派遣  
日時：平成 17 年 4 月 4～8 日，場所：京都大学  
参加者 技術職員 大和辰徳，大西邦明
- ②近畿地区国立高等専門学校懇談会に派遣  
日時：平成 17 年 9 月 26 日，場所：ホテルアウィーナ大阪  
参加者 センター長 奥村幸彦，技術長 阿波和利，技術専門職員 中田良平
- ③平成 17 年度京都大学技術職員研修（第 30 回）に派遣  
日時：平成 18 年 2 月 1～2 日，場所：京都大学  
参加者 技術職員 大和辰徳

### 2. 研究支援としての技術職員の研究への参画について

- ①平成 17 年度西日本地域国立高等専門学校等技術職員特別研修  
日時：平成 17 年 8 月 24～26 日，場所：豊橋技術科学大学  
参加者 技術職員 畑 亮次
- ②国際フロンティア産業メッセ 2005 に派遣  
日時：平成 17 年 8 月 4～5 日，場所：神戸国際展示場  
参加者 技術職員 能勢嘉朗
- ③PATOLIS 講習会[Web 操作(1)コース]  
日時：平成 17 年 8 月 23 日，場所：関西特許情報センター  
参加者 技術職員 大和辰徳
- ④知的財産の講習会  
日時：平成 17 年 10 月 17 日，場所：奈良工業高等専門学校  
参加者 技術職員 大和辰徳
- ⑤平成 17 年度特許流通促進セミナーに派遣，他 1 件  
日時：平成 17 年 8 月 26 日，平成 17 年 11 月 16 日  
場所：クレオ大阪中央ホール，ヒルトンプラザウエスト  
参加者 技術職員 大和辰徳
- ⑥特許流通フェア 2006 大阪 に派遣  
日時：平成 18 年 1 月 26～27 日，場所：インテックス大阪 3 号館  
参加者 技術職員 大和辰徳，能勢嘉朗

### 3. 補講，研究等の支援について

教育研究支援センターでは、講義への支援以外にも留学生、転科生に対する CAD や実験の補講、授業評価の電算化支援、オープンキャンパスへの支援、各教員室、事務室等のパソコンへの OS・アプリケーションのインストール、修理等の支援を積極的に行っています。

[補講，卒研支援]

(出典 舞鶴高専年報・第 3 号 2006 年 4 月)

資料 3 - 3 - ① - 5 続き

- ①機械工学科の留学生，転科生，学生に対する CAD 等の補講：のべ 168.9 時間  
担当：技術専門職員 中田良平(18 時間)，技術職員 石井貴弘(56.4 時間)，能勢嘉朗(34.1 時間)，  
寺田英毅(30.8 時間)，大和辰徳(29.6 時間)
- ②電気情報工学科の留学生，転科生，学生に対する実験等の補講：のべ 107 時間  
担当：技術専門職員 森内基隆(80 時間)，福村一実(27 時間)
- ③電子制御工学科の留学生，転科生，学生に対する実験等の補講：のべ 145.5 時間  
担当：技術専門職員 真柄賢一(73 時間)，技術職員 畑 亮次(72.5 時間)
- ④建設システム工学科の留学生，転科生，学生に対する実験等の補講：のべ 126 時間  
担当：技術長 阿波和利(34 時間)，技術職員 大西邦明(92 時間)

## [研究等の支援]

- ①コンクリート圧縮強度試験および鋼材の引張試験  
総計：85 件，本数：253 本（コンクリート 82 件 244 本，鋼材 3 件 9 本）  
担当：技術長 阿波和利，技術職員 大西邦明
- ②ねじ部品の引張り疲労試験  
担当：技術職員 石井貴弘，能勢嘉朗
- ③舞鶴高専データベース構築およびグループウェア構築への支援  
担当：技術専門職員 真柄賢一，技術職員 畑 亮次，能勢嘉朗，石井貴弘
- ④学寮無線 LAN 構築支援  
担当：技術専門職員 野瀬佳正
- ⑤授業アンケート電算整理への支援  
担当：技術専門職員 野瀬佳正，技術職員 寺田英毅，石井貴弘，能勢嘉朗
- ⑥JABEE の水準に対する達成度確認票作成（学生課）の支援  
担当：技術職員 石井貴弘
- ⑦HP の構築，Web Class による学生の授業アンケートの作成，集計  
担当：技術専門職員 野瀬佳正，技術職員 能勢嘉朗
- ⑧特許アドバイザー（地域共同テクノセンター運営委員会研究特許推進部会）として特許取得の支援  
担当：技術職員 大和辰徳
- ⑨「環境整備アドバイザー」として支援  
担当：技術職員 大西邦明
- ⑩保健室事務処理支援  
担当：技術専門職員 野瀬佳正

## 4. 安全管理意識の向上について

- ①溶接技術講習会（アーク溶接特別教育）へ派遣  
日時：平成 17 年 12 月 9，10 日  
内容：労働安全衛生法で定められた，業務に必要な特別教育（講習，実技）  
場所：舞鶴西総合会館，ユニバーサル造船  
参加者 技術職員 能勢嘉朗，寺田英毅，石井貴弘
- ②ガス溶接作業主任者の資格を取得  
日時：平成 17 年 12 月 15 日  
技術職員 能勢嘉朗，寺田英毅，石井貴弘

## 5. その他

- ①3D-CAD 入門講座支援  
日時：平成 17 年 8 月 29，30 日，担当：技術職員 大和辰徳
- ②機械工学科公開講座支援「第 1 回，第 2 回 親子で作ろう自分だけのストラップ」  
日時：平成 17 年 10 月 2 日，平成 17 年 12 月 4 日，  
担当：技術職員 寺田英毅，石井貴弘，能勢嘉朗

(出典 舞鶴高専年報・第 3 号 2006 年 4 月)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

高専機構の中期計画における「教員の学位取得者の割合」目標を既に達成し、また「教授および助教授について、採用された学校以外の学校、企業、機関などで勤務経験を持つ者の割合」の目標も達成しており、高専に望まれている多様な背景を持つ教員による教員組織となっている。独自の表彰制度も実施され、地域社会への貢献など、教員組織の活動をより活発化するための措置が講じられている。さらに、授業参観型授業公開、FDパネルディスカッションなど教育の質の向上と改善に向けての新しい試みが実施されていることなどが優れていると判断される。

### (改善を要する点)

教員の構成における外国人・女性教員の割合が少ないことについて改善を要する。

## (3) 基準3の自己評価の概要

一般科目担当教員及び専門科目担当教員は、高等専門学校設置基準に定められている人員を厳選して採用・配置し、科目間連絡会などを通じて相互に連携を図る体制を整え、各自の資質を高める工夫をしている。学生に国際性を身につけるため英語コミュニケーション能力を身に付ける教育に重点を置き、英語担当教員を強化している。専門科目の担当教員の配置については、学校の目的を達成できるように、教員の専門分野を考慮した適切な人選と配置を行っている。専攻科担当教員については、業績等を考慮し専攻科の目的を達成できる教員組織を編成しており、大学評価・学位授与機構による認定を受けている。

教員組織の活動を活発化するために、年齢別構成、性別構成、教員の専門分野と実務経歴に配慮するとともに、授業公開や授業アンケートの実施、FDパネルディスカッションなどを実施している。

教員の採用や昇格には舞鶴工業高等専門学校教員選考基準及び舞鶴工業高等専門学校教員選考内規が定められており、これに基づいて適切に運用がなされている。非常勤教職員の採用にあっても、明文化された規定に基づいて厳正に実施されている。

教員の教育活動に対する定期的な評価については、授業公開と授業アンケート、教員の自己評価が実施されており、これを自己点検・評価委員会（部会）を中心に組織的に教育の質の向上と改善の活動が実施されている。

また、事務職員、技術職員等の教育支援者の配置については、明文化された規程に基づいて配置され、各種会議および各種委員会への支援と補佐の事務体制や教育研究支援センターの教育・研究支援の体制が整えられている。

## 基準 4 学生の受入

### (1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点到る状況）

準学士課程では、平成 15 年度に資料 4-1-①-1 に示すアドミッション・ポリシーを定めた。本校では、問題発見・解決能力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者の育成を目指し、(1)「ものづくり」を通して、自立した人間を目指す人、(2)自ら学ぼうとする姿勢を持ち、中学校の学習内容を十分理解している人、(3)社会のルールを守っていろいろな人と協調していける人、を設定している。中学校の学習内容を十分理解しているかについては、入学者選抜試験の合否判定において得点順に順位を決め合格者を決定していることに対応している。さらに、学科別のポリシーが設定されている。アドミッション・ポリシーは、資料 4-1-①-1 に示す学生募集要項および資料 4-1-①-2 に示すウェブページで公開している。学生募集要項は、資料 4-1-①-3 に示す京都府全域、滋賀県全域、福井県嶺南地域、兵庫県丹波・但馬・播州地域及び大阪府北部の二府三県にまたがる中学校、教育委員会、進学塾、報道機関などに配布している。また、編入学生募集要項は、資料 4-1-①-4 に示すとおり高等学校、教育委員会、進学塾、報道機関などに配布している。本校の全教員にも学生募集要項を配布し周知を図っている。

教職員 109 名（教員 61、職員 48）を対象にアドミッション・ポリシーの認知度を把握するためアンケートを実施した。回収率は 56%である。その結果を資料 4-1-①-5 に示す。アドミッション・ポリシーの存在を知っている教職員が 67%、知らないが 33%であった。アドミッション・ポリシーを知らないが 33%を示したが、入試業務に関わりがない職員の認知度が低いことによるものと思われる。知っていると回答した教職員にどの程度知っているかを設問した結果、大まかに把握している 41%、ごく一部知っている 11%、掲載されている書類やウェブページを知っている 39%、内容は知らない 9%、という結果となった。アドミッション・ポリシーの存在を知っている教職員の 91%は概要を理解していることが明らかとなり周知されていると考えられる。準学士課程の学生募集に関する情報は資料 4-1-①-6 に示すとおりウェブページで公開している。

留学生については我が国政府による国費留学生とマレーシア政府派遣留学生を受け入れているが、その選抜は政府で実施するため本校では選抜業務に関わっていない。

専攻科においては平成 14 年度に資料 4-1-①-7 に示す 4 項目のアドミッション・ポリシーを定めた。すなわち、優れた資質の技術者を養成するため、(1) 技術社会の中核を担う者として社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人、(2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち自主的に学習・研究する意欲が高く十分な基礎学力を身につけている人、(3) コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり自己の考えを適切に表現することができる人、(4) しっかりと社会性と倫理観をもち、そして自ら考え、適切に行動できる人、を挙げている。アドミッション・ポリシーは、資料 4-1-①-7 に示すとおり専攻科学生募集要項および資料 4-1-①-8 に示

すとおりのウェブページで公開している。専攻科学生募集要項は、資料 4-1-①-9 に示す京都府全域、滋賀県全域、福井県嶺南地域、兵庫県丹波・但馬・播州地域及び大阪府北部の二府三県の高専・専修学校に配布し、本校の全教員にも配布している。専攻科課程の学生募集に関する情報は資料 4-1-①-10 に示すとおりのウェブページで公開している。

教職員を対象に専攻科のアドミッション・ポリシーの認知度調査アンケートを実施した。結果を資料 4-1-①-5 に示す。大まかに把握している 27%、ごく一部知っている 23%、掲載されている書類やウェブページを知っている 39%、内容は知らない 11%、という結果を得た。アドミッション・ポリシーの存在を知っている教職員の 89% は概要を理解していることが明らかとなり周知されていると考えられる。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程における入学者選抜と編入学生選抜、および専攻科入学者選抜においてアドミッション・ポリシーは明確に定められ、教職員に周知され、学生募集要項に明示されている。また、ウェブページで公開されており、社会に広く公表されている。

#### 資料 4-1-①-1

#### 4. 入学生受入方針（舞鶴高専アドミッション・ポリシー）

本校では、工学の基礎と教養を身につけ、活動力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者の育成に努めています。そのため、次のような人の入学を期待しています。

- ① 「ものづくり」を通して、自立した人間を目指す人
- ② 自ら学ぼうとする姿勢を持ち、中学校の学習内容を十分理解している人。
- ③ 社会のルールを守って、いろいろな人と協調していける人

##### ●機械工学科

機械工学科では、理論と現象を正確に理解し、いろいろな事態に的確に判断ができ、それを実行できる行動力を持った技術者の育成を目指しています。機械工学は、あらゆる「ものづくり」の基盤をなす学問であるからです。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

- 「ものづくり」が好きな人、関心がある人。
- 「自動車」や動くものが好きな人、関心がある人。
- 「ロボット」が好きな人、関心がある人。

##### ●電気情報工学科

電気情報工学科では、将来に渡って「発想の泉」となる工学基礎科目の上に立ち、電気・電子系及び情報系科目の幅広い分野を勉強します。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

- 電気・電子、情報・通信分野に関心がある人。
- ハードウェア、ソフトウェアなどの「ものづくり」ができるようになりたい人。
- 「自分の志」を抱いて、基礎科目を継続的に学習できる人。

##### ●電子制御工学科

電子制御工学科では、メカトロニクス技術者の育成を目指し、電子・電気系、制御・計測系、機械系及び情報系の幅広い分野を勉強します。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

- ロボットの制御や操作に興味のある人。
- コンピュータグラフィックやデザインに興味のある人。
- 「もののしくみ」に興味を持ち、好奇心旺盛な人。

##### ●建設システム工学科

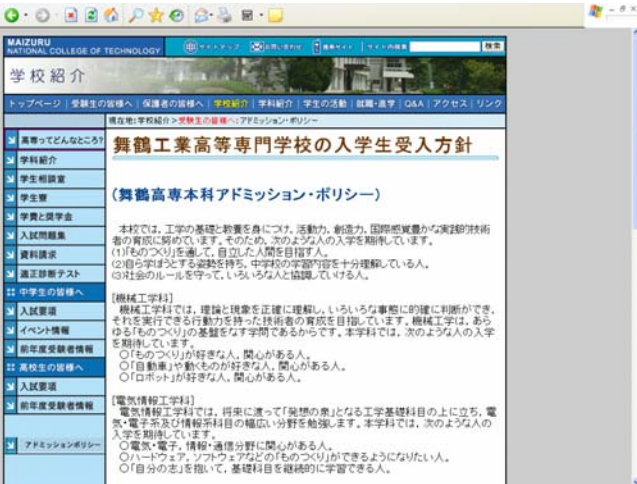
建設システム工学科では、21世紀の住みよい社会を創ることを目的として、その計画、運営、維持を行うことのできる素養を身につけるための勉強をします。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

- 自然環境と調和したまちづくりに熱意を持っている人。
- 災害に強く、安全な社会環境づくりに興味を持っている人。
- 建設技術に関する知識を習得し、地域社会の発展に貢献したい人。

(出典 平成 18 年度学生募集要項)



## 資料 4-1-①-2



MAIZURU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

学校紹介

トップページ | 受験生の皆様へ | 保護者の皆様へ | 学科紹介 | 学生の活動 | 就職・進学 | GSA | アクセス | リンク

現在地: 学校紹介 > 受験生の皆様へ > アドミッション・ポリシー

### 舞鶴工業高等専門学校の入学生受入方針

(舞鶴高専本科アドミッション・ポリシー)

本校では、工学の基礎と教養を身に付け、活動力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者の育成に努めています。そのため、次のような入学生を期待しています。

(1)「ものづくり」を通して、自立した人間を目指す人。  
 (2)自ら学ぶとする姿勢を持ち、中学校の学習内容を十分理解している人。  
 (3)社会のルールを守って、いろいろな人と協働している人。

【機械工学科】  
 機械工学科では、理論と現象を正確に理解し、いろいろな事態に的確に判断ができ、それを実行できる行動力を持った技術者の育成を目指しています。機械工学は、あらゆる「ものづくり」の基礎をなす学問であるからです。本学科では、次のような入学生を期待しています。  
 ○「ものづくり」が好きで、関心がある人。  
 ○「自動車」や「動くもの」が好きで、関心がある人。  
 ○「ロボット」が好きで、関心がある人。

【電気情報工学科】  
 電気情報工学科では、将来に渡って「夢の泉」となる工学基礎科目の上に立ち、電気・電子系及び情報系科目の幅広い分野を勉強します。本学科では、次のような入学生を期待しています。  
 ○電気・電子、情報・通信分野に関心がある人。  
 ○ハードウェア、ソフトウェアなどの「ものづくり」ができるようになりたい人。  
 ○「自分の志」を掲げて、基礎科目を継続的に学習できる人。

(出典 本校ウェブページ, <http://www.maizuru-ct.ac.jp/>)

## 資料 4-1-①-3

平成18年度学生募集要項の作成及び送付について

標記のことについて、下記のとおり作成してよろしいか伺います。  
 なお、作成の上は、別紙のとおり送付してよろしいか併せて伺います。

記

1. 内 容 別添のとおり (活字等は平成17年度版を参照)
2. サ イ ズ A4
3. 色 打ち合わせによる
4. 作成部数 2,500部
5. 送 付 先
 

文部科学省高等教育局専門教育課長	1部 (別紙1)
国立高等専門学校機構理事長	1部 (別紙4)
中学校 (送付用・入試説明会用)	1,900部 (別紙2)
教育委員会	44部 (別紙3)
進 学 塾	120部 (別紙5)
報道関係機関等	2-4部 (別紙6)
直接申込者分 (オプ・ソレックス <sup>®</sup> とも)	200部
本校関係者	80部
予 備	130部

※送付先一覧は別紙のとおり
6. 校 正 2回
7. 完成期日 平成17年8月26日 (金)

(出典 学生課資料)

## 資料 4-1-①-4

## 平成 18 年度編入学生募集要項について

標記のことについて、下記のとおり作成してよろしいか、伺います。  
 なお、決裁の上は別紙のとおり送付してよろしいか併せて伺います。

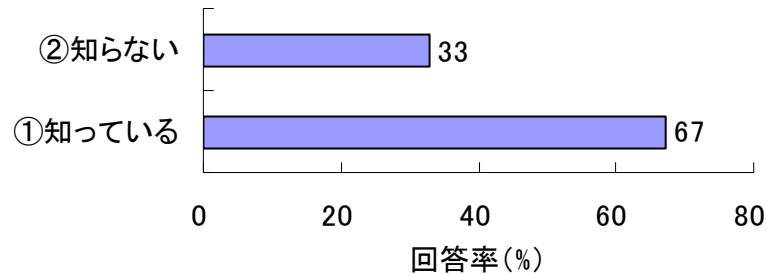
## 記

- |                   |   |                   |           |      |           |       |                 |        |                 |     |                 |       |       |                |       |
|-------------------|---|-------------------|-----------|------|-----------|-------|-----------------|--------|-----------------|-----|-----------------|-------|-------|----------------|-------|
| 1. 内 容            | 別添のとおり(平成 17 年度版を参照)  |                   |           |      |           |       |                 |        |                 |     |                 |       |       |                |       |
| 2. サ イ ズ          | A 4 判   |                   |           |      |           |       |                 |        |                 |     |                 |       |       |                |       |
| 3. 作成枚数           | 4 0 0 部   |                   |           |      |           |       |                 |        |                 |     |                 |       |       |                |       |
| 1. 配 布 先          | <table border="0"> <tr> <td>文部科学省(高等教育局専門教育課)</td> <td>1 部(別紙 1)</td> </tr> <tr> <td>機構本部</td> <td>1 部(別紙 2)</td> </tr> <tr> <td>各高等学校</td> <td>7 8 × 2 部(別紙 3)</td> </tr> <tr> <td>各教育委員会</td> <td>1 2 × 1 部(別紙 4)</td> </tr> <tr> <td>進学塾</td> <td>6 3 × 1 部(別紙 5)</td> </tr> <tr> <td>本校関係者</td> <td>8 0 部</td> </tr> <tr> <td>予備等(志願者への配布含む)</td> <td>8 7 部</td> </tr> </table> | 文部科学省(高等教育局専門教育課) | 1 部(別紙 1) | 機構本部 | 1 部(別紙 2) | 各高等学校 | 7 8 × 2 部(別紙 3) | 各教育委員会 | 1 2 × 1 部(別紙 4) | 進学塾 | 6 3 × 1 部(別紙 5) | 本校関係者 | 8 0 部 | 予備等(志願者への配布含む) | 8 7 部 |
| 文部科学省(高等教育局専門教育課) | 1 部(別紙 1)   |                   |           |      |           |       |                 |        |                 |     |                 |       |       |                |       |
| 機構本部              | 1 部(別紙 2)   |                   |           |      |           |       |                 |        |                 |     |                 |       |       |                |       |
| 各高等学校             | 7 8 × 2 部(別紙 3)   |                   |           |      |           |       |                 |        |                 |     |                 |       |       |                |       |
| 各教育委員会            | 1 2 × 1 部(別紙 4)   |                   |           |      |           |       |                 |        |                 |     |                 |       |       |                |       |
| 進学塾               | 6 3 × 1 部(別紙 5)   |                   |           |      |           |       |                 |        |                 |     |                 |       |       |                |       |
| 本校関係者             | 8 0 部   |                   |           |      |           |       |                 |        |                 |     |                 |       |       |                |       |
| 予備等(志願者への配布含む)    | 8 7 部   |                   |           |      |           |       |                 |        |                 |     |                 |       |       |                |       |
| 5. 校 正            | 2 回   |                   |           |      |           |       |                 |        |                 |     |                 |       |       |                |       |
| 6. 完成期日           | 平成 1 7 年 6 月 1 0 日(金)   |                   |           |      |           |       |                 |        |                 |     |                 |       |       |                |       |

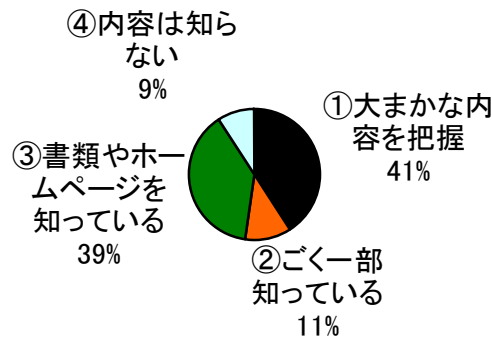
(出典 学生課資料)

資料 4-1-①-5

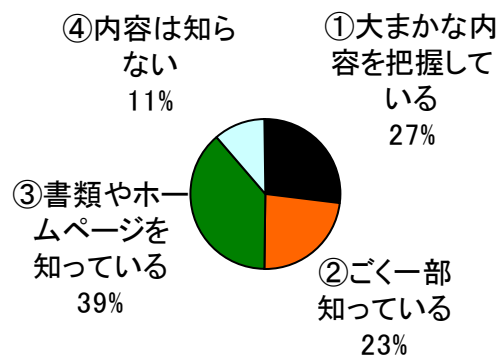
教職員対象のアドミッション・ポリシーに関するアンケート結果  
 (教職員 109 名 (教員 61, 職員 48), 回答数 61, 回収率 56%)



設問1. 本校の本科および専攻科の入学試験においてアドミッション・ポリシーが設けられていることをご存知ですか。



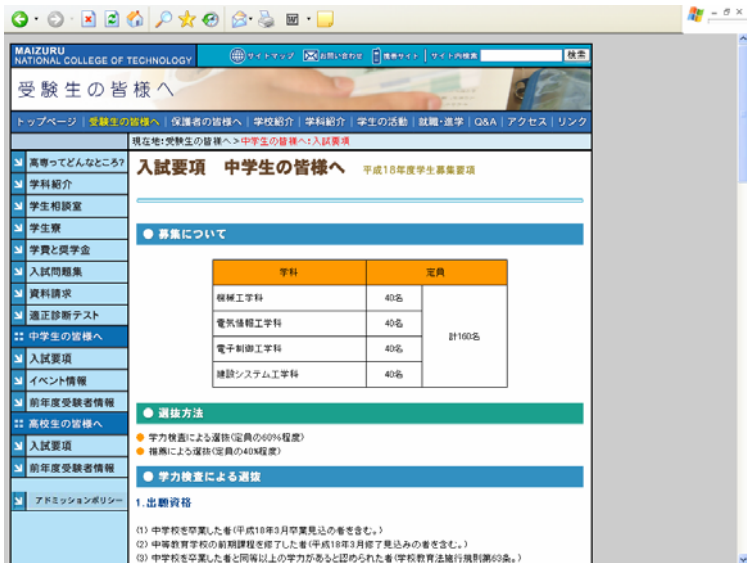
設問2. 設問1.で「①知っている」と答えた人に聞きます。本科のアドミッション・ポリシーをどの程度ご存知ですか。



設問3. 設問1.で「①知っている」と答えた人に聞きます。専攻科のアドミッション・ポリシーをどの程度ご存知ですか。

(出典 評価委員会資料)

資料 4-1-①-6



MAIZURU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

受験生の皆様へ

現在地:受験生の皆様へ>中学生の皆様へ>入試要項

入試要項 中学生の皆様へ 平成18年度学生募集要項

● 募集について

学科	定員
機械工学科	40名
電気情報工学科	40名
電子制御工学科	40名
建設システム工学科	40名
	計160名

● 選抜方法

- 学力検査による選抜(定員の60%程度)
- 推薦による選抜(定員の40%程度)

● 学力検査による選抜

1. 出願資格

(1) 中学校を卒業した者(平成18年3月卒業見込の者を含む。)

(2) 中等教育学校の前期課程を修了した者(平成18年3月修了見込みの者を含む。)

(3) 中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者(学校教育法施行規則第69条。)

(出典 本校ウェブページ <http://www.maizuru-ct.ac.jp/>)

資料 4-1-①-7

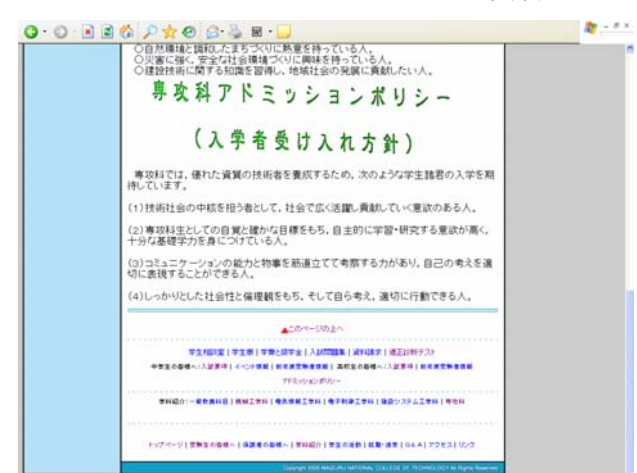
## 7. 専攻科のアドミッションポリシー (入学者受入方針)

専攻科では、優れた資質の技術者を養成するため、次のような学生諸君の入学を期待しています。

- (1) 技術社会の中核を担う者として、社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人。
- (2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち、自主的に学習・研究する意欲が高く、十分な基礎学力を身につけている人。
- (3) コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり、自己の考えを適切に表現することができる人。
- (4) しっかりとした社会性と倫理観をもち、そして自ら考え、適切に行動できる人。

(出典 平成18年度専攻科学生募集要項)

資料 4-1-①-8



○自然環境と調和したまちづくりに熱意を持っている人。  
○災害に強い安全な社会環境づくりに興味を持っている人。  
○建設技術に関する知識を習得し、地域社会の発展に貢献したい人。

専攻科アドミッションポリシー  
(入学者受け入れ方針)

専攻科では、優れた資質の技術者を養成するため、次のような学生諸君の入学を期待しています。

- (1) 技術社会の中核を担う者として、社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人。
- (2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち、自主的に学習・研究する意欲が高く、十分な基礎学力を身につけている人。
- (3) コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり、自己の考えを適切に表現することができる人。
- (4) しっかりとした社会性と倫理観をもち、そして自ら考え、適切に行動できる人。

このページの上へ

学生紹介 | 学生寮 | 学生と通学 | 入学の準備 | 選抜方法 | 選正診断テスト  
中学生の皆様へ(入試要項) | 入学の準備 | 専攻科の募集 | 入試要項 | 専攻科の募集要項  
〒910-0001 舞鶴市  
学科紹介 | 機械工学科 | 電気情報工学科 | 電子制御工学科 | 建設システム工学科 | 専攻科  
トップページ | 受験生の皆様へ | 保護者の皆様へ | 学校紹介 | 学生の活動 | 就職・進学 | Q&A | アクセス | リンク  
Copyright ©2006 Maizuru National College of Technology. All Rights Reserved.

(出典 本校ウェブページ <http://www.maizuru-ct.ac.jp/>)

## 資料 4 - 1 - ① - 9

別 紙

(同)

平成18年度専攻科学生募集要項の作成及び送付について

標記について、下記のとおり作成してよろしいか伺います。  
 なお、決裁のうえは、別紙のとおり送付してよろしいか併せて伺います。

記

送 付 先 等

文部科学省高等教育局専門教育課	2部 (別紙 1)
独立行政法人国立高等専門学校機構	3部 (別紙 1)
教育委員会	14部 (別紙 2)
高専	62部 (別紙 3)
専修学校	29部 (別紙 3)
工科系短期大学	12部 (別紙 3)
報道機関	8部 (別紙 4)
志願者用	80部
教職員・予備	90部
計	300部

## I 平成18年度専攻科学生募集要項

1. 規 格 A4判 冊子型
2. 用 紙 別添見本のとおり
3. 体 裁 別添見本のとおり。表紙の色は打合せによる
4. 印 刷 墨一色。
5. 製 本 無線 表紙くるみ
6. 作成部数 300部
7. 校 正 2回
8. 完成時期 平成17年5月6日(金)
9. そ の 他 本仕様で明示していない事項については、係員の指示による。

\*専攻科運営部会における平成18年度専攻科学生募集要項作成に係る協議経緯

- ・第5回(9月16日) : 日程等を了承。  
(出願資格及びJABEE関係の見直し:継続審議)
- ・第12回(12月24日) : JABEE関係の見直しを了承。
- ・第14回(1月17日) : 出願資格の見直しを了承。
- ・第15回(2月21日) : 見直した出願資格の募集要項への記載を了承。

\* 発注は4月初旬(17年度予算)

(出典 学生課資料)

## 資料 4 - 1 - ① - 10

2004.4.15 更新 (これは正式な書類ではありません。正式な要項は、学生課教務係まで請求してください。)

## 平成17年度専攻科学生募集要項

### 1. 募集人員

電気・制御システム工学専攻 8名  
建設・生産システム工学専攻 8名

### 2. 選抜方法

入学者の選抜は、推薦による選抜、学力による選抜(前期・後期)、社会人特別選抜とし、次のとおり実施する。

選抜区分	試験期日	選抜人数
推薦による選抜	平成16年6月12日(土)	各専攻とも定員の半数程度
学力試験による選抜	前期 平成16年7月3日(土) 後期 平成16年11月13日(土)	各専攻とも定員の半数程度
社会人特別選抜	平成16年11月13日(土)	若干名

### 3. 推薦による選抜

1. 出願資格  
平成17年3月に高等専門学校を卒業見込みの者で、在籍学校長が、成績、人物、健康ともに優れていると認め推薦する者
2. 出願手続  
(1) 願書交付期間

(出典 本校ウェブページ <http://www.maizuru-ct.ac.jp/>)

観点 4-2-①： アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

準学士課程の入学者選抜は、資料 4-2-①-1 に示すとおり推薦選抜と学力選抜の二通りの方法で実施している。推薦選抜の入学定員は、平成 16 年度から各学科とも入学定員の 40% である。推薦選抜では、数学、理科および英語の教科について小テストを実施して中学校の学習内容を十分理解しているかどうかを検査し、面接では学生募集要項に示すアドミッション・ポリシーに対応した質問を設けて学科別に適合性を照査している。面接時の質問内容は訪問調査時の閲覧資料として提示する。学力選抜は、理科・英語・数学・国語・社会の 5 教科による学力検査及び出身中学校長から提出された調査書の記載事項を総合評価し、準学士課程のアドミッション・ポリシーに沿って合否を判定している。

準学士課程 4 年次への編入学選抜は、資料 4-2-①-2 に示すとおり各学科において若干名募集し、学力検査、調査書、面接の結果を総合評価し、合否を決定する。面接ではアドミッション・ポリシーを照査する質問により評価を行なっている。面接における質問内容は訪問調査時の閲覧資料として提示する。いずれの選抜においてもアドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れがなされている。

専攻科の入学者選抜方法は、資料 4-2-①-3 に示すとおり推薦選抜、学力選抜(前期・後期)、社会人特別選抜の三通りを実施している。推薦選抜は推薦書、調査書及び面接(専門科目に関する口頭試問を含む)の内容を総合評価し合否を判定する。学力選抜は学力検査、面接及び調査書の内容を総合評価し合否を判定する。社会人特別選抜は小論文、面接、業務経歴書、調査書の内容の総合判定により行う。健康診断書提出は平成19年度から廃止する。面接では専攻科のアドミッション・ポリシーに沿った質問により適合性を評価している。面接における質問内容は訪問調査時の閲覧資料として提示する。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程入学者選抜においては、推薦選抜で小テストおよび面接を実施することでアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入方法が採用されており、入学者選抜が適切に行われている。

準学士課程 4 年次への編入学選抜においてもアドミッション・ポリシーに沿って学生の受入方法が採用されており、編入学生の選抜が適切に実施されている。

専攻科の入学者選抜では、面接においてアドミッション・ポリシーの適合性をチェックする選抜方法が採用されており、入学者選抜が適切に行われている。

## 資料 4-2-①-1

**平成18年度 学生募集要項**

**舞鶴工業高等専門学校**  
〒625-8511 舞鶴市字白屋234番地  
電話 (0773) 62-5600(代表)  
62-8881  
(学生課教務係直通)

**募集人員**  
各学科の募集人員は、下記のとおりです。

学 科	入 学 定 員	
機 械 工 学 科	40 名	計 160名
電 気 情 報 工 学 科	40 名	
電 子 制 御 工 学 科	40 名	
建 設 シ ス テ ム 工 学 科	40 名	

**選 抜 方 法**  
入学者の選抜は、**学力検査**によるものと、**推薦**によるものの二つの方法で行います。推薦による募集人員は、各学科とも入学定員の40%程度です。

**学力検査による選抜**

**1. 出 願 資 格**

- (1) 中学校を卒業した者（平成18年3月卒業見込みの者を含む。）
- (2) 中等教育学校の前期課程を修了した者（平成18年3月修了見込みの者を含む。）
- (3) 中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者（学校教育法施行規則第63条）

**2. 願 書 受 付**

- (1) 受 付 期 間  
平成18年1月30日(月)から2月3日(金)までです。郵送の場合も2月3日までに必着のこと。  
受付時間は、毎日午前9時から午後4時までです。
- (2) 受 付 場 所  
舞鶴工業高等専門学校 学生課教務係

**3. 出 願 の 手 続**  
志願者は、次の書類をとりまとめ、本校所定の封筒により出身中学校長を経て、本校学生課教務係に提出してください。ただし、出願資格(3)に該当する者は直接本校に出願手続をしてください。  
郵送の場合は必ず**書留郵便**にしてください。

(出典 平成18年度学生募集要項)

## 資料 4-2-①-2

**平成18年度 編入学生募集要項**

**舞鶴工業高等専門学校**  
〒625-8511 舞鶴市字白屋234番地  
電話 (0773) 62-8881  
(学生課教務係直通)

**1. 募集学科・募集人員・編入学年**

学 科 名	募 集 人 員	編 入 学 年
機 械 工 学 科	若 干 名	第 4 学 年
電 気 工 学 科		
電 子 制 御 工 学 科		
建 設 シ ス テ ム 工 学 科		

**2. 出 願 資 格**

学 科 名	対 応 学 科
機 械 工 学 科	高等学校のすべての学科(普通科を含む)
電 気 工 学 科	
電 子 制 御 工 学 科	
建 設 シ ス テ ム 工 学 科	

上記の対応学科を平成18年3月卒業見込の者、又は卒業した者。

**3. 願 書 受 付**

- (1) 受 付 期 間  
平成17年6月27日(月)から7月1日(金)まで（7月1日必着）。  
受付時間は、毎日午前9時から午後4時まで。
- (2) 受 付 場 所  
舞鶴工業高等専門学校 学生課教務係

(出典 平成18年度編入学生募集要項)

## 資料 4-2-①-3

## 平成18年度舞鶴工業高等専門学校専攻科学生募集要項

## I 募集人員

- 電気・制御システム工学専攻 8名
- 建設・生産システム工学専攻 8名

## II 選抜方法

入学者の選抜は、推薦による選抜、学力による選抜(前期・後期)、社会人特別選抜とし、次のとおり実施する。

選 抜 区 分	試 験 期 日	選 抜 人 数
推 薦 に よ る 選 抜	平成17年6月11日(土)	各専攻とも定員の半数程度
学 力 検 査 に よ る 選 抜	前 期 平成17年7月2日(土)	各専攻とも定員の半数程度
	後 期 平成17年11月12日(土)	
社 会 人 特 別 選 抜	平成17年11月12日(土)	若干名

## III 推薦による選抜

## 1. 出願資格

平成18年3月に高等専門学校を卒業見込みの者で、在籍学校長が、成績、人物、健康ともに優れていると認め推薦する者

## 2. 出願手続

## (1) 願書受付期間

平成17年6月1日(水)から平成17年6月7日(火)

(郵送の場合は、6月7日(火)必着とする。)

受付時間は、午前9時から午後4時まで

## (2) 受付場所

舞鶴工業高等専門学校学生課教務係

〒625-8511 舞鶴市宇白屋234

## (3) 出願に必要な書類

出 願 書 類 等	摘 要
1. 入 学 願 書	本校所定の用紙に必要事項を記入したもの。
2. 受 験 票 写 真 票	写真票は、写真を所定の位置に貼付する。写真は、上半身・脱帽・正面・無背景(縦5cm×横4cm)で、出願以前3か月以内に撮影したもの。
3. 調 査 書	本校所定の用紙により、学校長が作成し、密封したもの。
4. 健 康 診 断 書	本校所定の用紙により、平成17年4月以降の健康診断に基づき作成し、学校長が証明したもの。

(出典 平成18年度専攻科募集要項)



観点 4-2-②： アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が行われているどうかを検証するため、準学士課程 1 年生を対象にアンケート調査を行なった。その結果を資料 4-2-②-1 に示す。回収率は 94% である。設問 1 「受験する際にアドミッション・ポリシーの存在を知っていたか。」については、42% が「知っていた」、42% が「知らなかった」、と拮抗している。設問 2 “知っていた” と回答した人に「あなたは受験時に本校のアドミッション・ポリシーに合っていると思っていましたか。」については、「合っていた」、「一部合っていた」を合算すると 83% となる。アドミッション・ポリシーを理解して志望したことを示している。設問 3 「あなたは、現在、本校のアドミッション・ポリシーに合った学生であると思いますか。」については、27% が合っていると回答し、合っていない 15% を上回った。しかし、「わからない」が 58% と高い割合を示している。

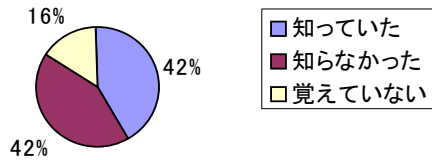
専攻科学生を対象に行なったアンケート結果を資料 4-2-②-2 に示す。回収率は 74% である。設問 1 「受験する際にアドミッション・ポリシーの存在を知っていたか。」については、23% が「知っていた」、58% が「知らなかった」と回答し認知度が低かった。設問 2 “知っていた” と回答した人に「あなたは受験時に本校のアドミッション・ポリシーに合っていると思っていましたか。」については、「合っていた」と「一部合っていた」を合計すると 87% でありアドミッション・ポリシーを理解して志望したことを示している。設問 3 「あなたは、現在、本校のアドミッション・ポリシーに合った学生であると思いますか。」については、23% が「はい」、23% 「いいえ」と回答している。しかし、「わからない」が 54% と高い割合を示している。

専攻科選抜の面接における設問について専攻科委員会で協議され（資料 4-2-②-3）、アドミッション・ポリシーの項目ごとに質問内容が分類整理され改善された。

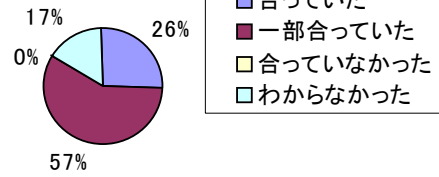
（分析結果とその根拠理由）

アドミッション・ポリシーの認知度を検証するためのアンケート調査結果は、アドミッション・ポリシーの存在を知っていた者が準学士課程 1 年では 42%、専攻科課程では 23% を示し、専攻科課程の認知度が低いことが明らかとなった。“アドミッション・ポリシーの存在を知っていた” と回答した人に「あなたは受験時に本校のアドミッション・ポリシーに合っていると思っていましたか。」との設問には、「合っていた」と「一部合っていた」を合計すると、準学士課程では 83%、専攻科では 87% を示した。アドミッション・ポリシーを理解した上で、入学していることが明らかとなった。

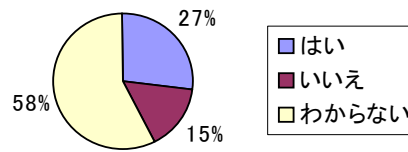
資料 4 - 2 - ② - 1



**設問1.** 本校では入学生受入方針(アドミッション・ポリシー)を設けていますが、あなたは本校を受験する際、その存在を知っていましたか。



**設問2.** “知っていた”と回答した人に聞きます。あなたは受験時に本校の入学生受入方針に合っていると思っていましたか。

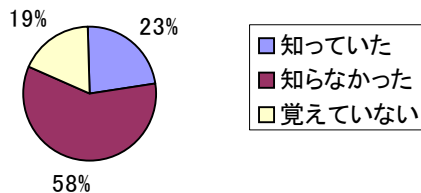


**設問3.** あなたは、現在、本校の入学生受入方針に合った学生であると思えますか。

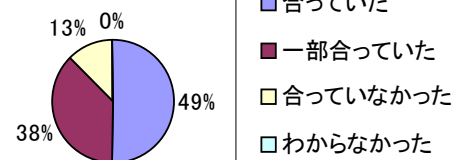
準学士課程のアドミッション・ポリシーに関するアンケート結果 (回収率 94%)

(出典 庶務課資料)

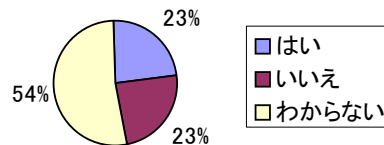
資料 4 - 2 - ② - 2



**設問1.** 本校では入学生受入方針(アドミッション・ポリシー、求める学生像)を設けていますが、あなたは本校を受験する際、その存在を知っていましたか。



**設問2.** “知っていた”と回答した人に聞きます。あなたは受験時に本校の入学生受入方針に合っていると思っていましたか。



**設問3.** あなたは、現在、本校の入学生受入方針に合った学生であると思えますか。

専攻科のアドミッション・ポリシーに関するアンケート結果 (回収率 74%)

(出典 庶務課資料)

## 第 3 回 専攻科 委員会 議事 概要

日 時 平成 17 年 6 月 13 日 (月) 16:20~18:25  
場 所 専攻科 会議室  
出 席 者 金山 委員長 (専攻科 長)、中川 (電気・制御)、篠原 (建設・生産)、樽井・背戸 柳 (一般科目)、金森 (電気・制御)、岩崎 (建設・生産)、森尾 (建設・生産) 各委員  
学生 課長、専門員

## 協議 事項

1. 平成 18 年度 専攻科 推薦 入学 試験 合格 者 について  
専攻科 長から、別紙 資料 1-1 (参考 1) により、6 月 11 日 (土) に実施 した 平成 18 年度 専攻科 推薦 入学 試験 について 説明 があり、協議 の結果、電気・制御 システム 工学 専攻 の受験 者 6 名 全員、並び に建設・生産 システム 工学 専攻 の受験 者 6 名 のうち ~~受験 者 5 名 を除い~~ 5 名 を合格 候補 者 とすることが 了承 され、6 月 14 日 (火) の専攻科 会議 に諮問 することになった。  
次に、アドミッション ポリシー に対応 した 面接 質問 例 の必要性 の観点 から、別紙 資料 1-2 「専攻科 アドミッション ポリシー と面接 質問 項目 との対応 (案)」が提示 され、委員 各位 で検討 のう え 6 月 20 日 までに 意見 を出す ことになった。
2. 平成 18 年度 専攻科 入学 者 選抜 方法 (学力) について  
専攻科 長から、別紙 資料 2-1~6 により、平成 18 年度 専攻科 入学 者 選抜 方法 (学力) について 説明 があり、協議 の結果、面接 点 に係る 評価 項目 を専攻科 アドミッション ポリシー の表現 に変更 する等 原案 を一部 修正 のう え 了承 された。  
なお、別紙 資料 2-4 の「Ⅱ 社会 人 特別 選抜」については、次回 委員会 で検討 することになった。
3. 「JABEE 認定 修了 証書」の書式 について  
専攻科 長から、別紙 資料 3 により、6 月 6 日 付け メール による 専攻科 委員会 で意見 聴取 をお願い した 「JABEE 認定 修了 証書」の書式 について 説明 があり、協議 の結果、原案 のとおり 了承 された。なお、文字 の配列、字体 等を 勘案 のう え、早急 に見積 金額 について 算定 することになった。
4. その他  
専攻科 長から、別紙 資料 4-1~2 「出張 報告 平成 17 年度 (第 26 回) 実務 訓練 シンポジウム に参加 して」(平成 17 年 6 月 1 日 出席 川勝 教授) について 説明 があり、同 教授 の「感想」である インターンシップ の教育的 位置 付け の明確 化が、本校 専攻科 にとっても 今後 の検討 課題 であることを 確認 した。

(出典 学生 課資料)

観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

過去 5 年間の準学士課程入学選抜志願倍率と入学者数を資料 4-3-①-1 に示す。学科毎の志願倍率は 0.8~2.7 倍の範囲で推移している。建設システム工学科において平成 16 年度および平成 17 年度に志願者数が定員割れを生じているが、入学者決定には第 2 志望以下の志願者を認めているため入学定員は確保した。全学科の実入学者は入学定員に対して 1.0~1.1 倍の範囲で推移しており適正である。また、平成 18 年度から建設システム工学科ではコース制を導入したことにより志願倍率は大幅に増加した。全学科の志願者数合計については、低下傾向にあるものの定員以上の水準を保持している。志願者増を図るため、教員による中学校訪問、体験入学、パンフレットの配布、各中学校主催の入学説明会への参加などを積極的に行っている。試験会場はこれまで本校、京都府京都市、兵庫県豊岡市の 3 会場で実施してきたが、平成 18 年度から、滋賀県近江八幡市と兵庫県三田市に会場を増設し、資料 4-3-①-2 に示す 5 会場設け、遠隔地からの受験に便宜を図っている。

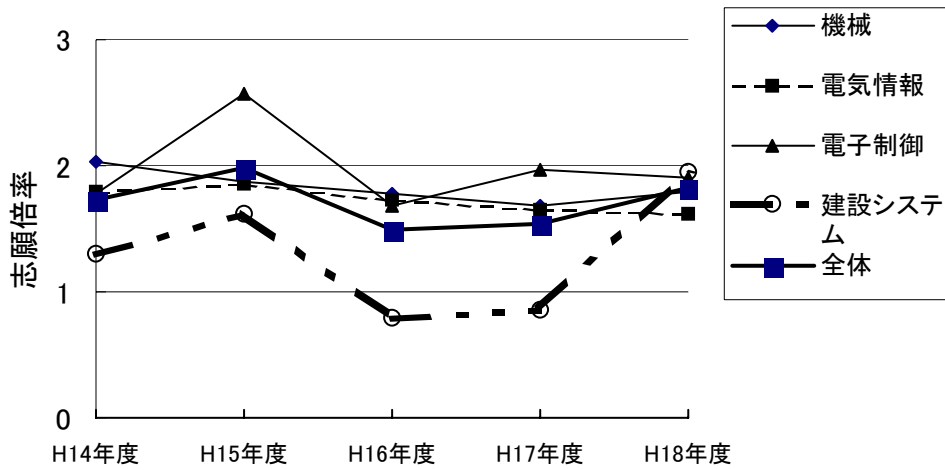
最近 5 年間における準学士課程 4 年への編入学選抜志願者数と編入学者数を資料 4-3-①-3 に示す。編入学定員は若干名である。いずれの学科も志願者数を確保し、毎年数名の入学者を受け入れている。

専攻科創設からこれまでの専攻科課程入学選抜志願者数および入学者数の実績を資料 4-3-①-4 に示す。実入学者は入学定員に対して 1.0~2.0 倍の範囲で推移している。近年、入学者数は定員の 50%~90% 増しで推移しているが、施設・スタッフ面からみて十分許容される範囲である。また、志願倍率についてはいずれの専攻も十分な水準を確保している。

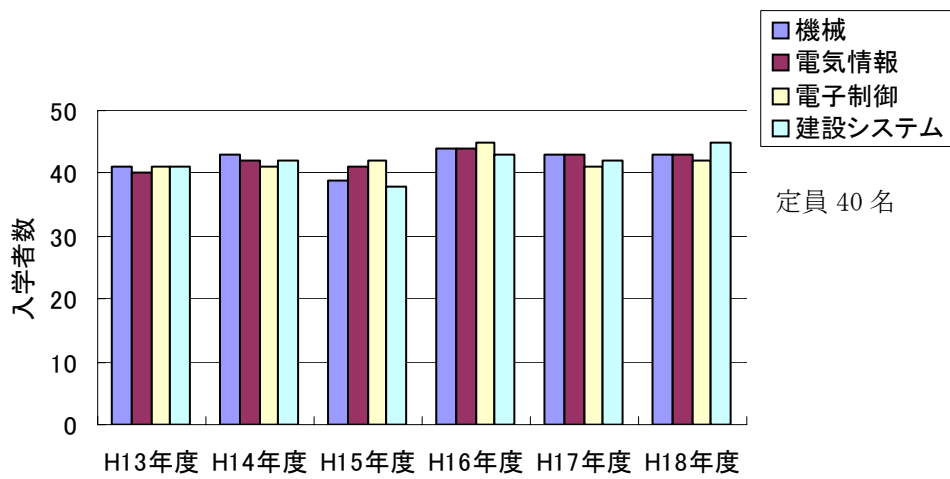
(分析結果とその根拠理由)

準学士課程入学者、準学士課程 4 年次への編入学者及び専攻科の入学者は、入学定員と比較して適正な数となっており、入学定員と実入学者数との関係の適正化も図られている。

資料 4 - 3 - ① - 1



準学士課程の志願倍率



準学士課程の入学者数の推移

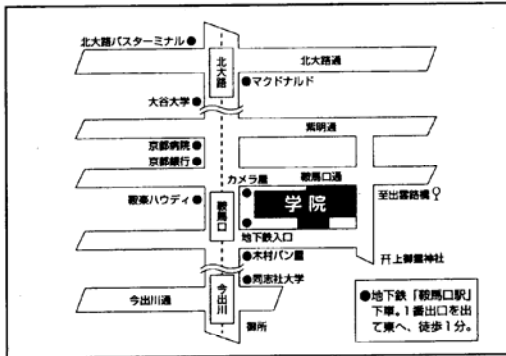
(出典 学生課資料)

### 10. 学力検査会場案内図

#### 舞鶴会場案内図 (裏表紙参照)

#### 京都會場案内図

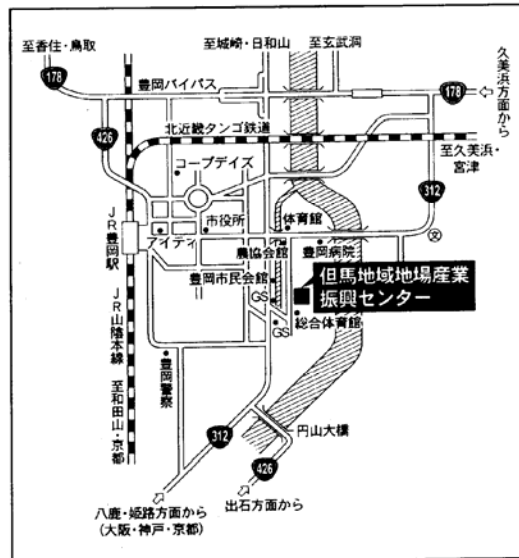
関西文理学院  
京都市北区烏丸通鞍馬口東入ル



<b>地下鉄</b> 地下鉄鞍馬口駅下車スグ 竹田から(17分) 京都から(10分) 四条から(7分) 国際会館から(4分) 三条京阪から(9分) 二条から(10分) 山科から(18分) 醍醐から(28分)	<b>徒歩</b> 北大路バスターミナルから(7分) 烏丸今出川から(10分)
<b>京阪</b> 三条京阪で地下鉄乗り換え(9分) 出町柳下車(徒歩18分)	<b>市バス</b> 「三条京阪」から 37「出雲路橋」下車徒歩5分 「四條河原町」から 37「出雲路橋」下車徒歩5分

#### 豊岡会場案内図

但馬地域地場産業振興センター  
豊岡市大磯町1番79号  
JR豊岡駅から1.6km  
円山大橋詰から1.7km



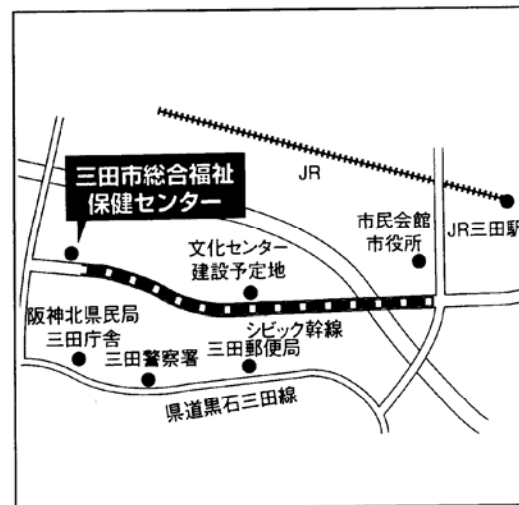
#### 滋賀会場案内図

G-NETしが  
滋賀県立男女共同参画センター  
近江八幡市鷹飼町80-4  
JR近江八幡駅南口より500m(徒歩10分)  
または、近江バス、JRバスで  
男女共同参画センター・鷹飼南下車

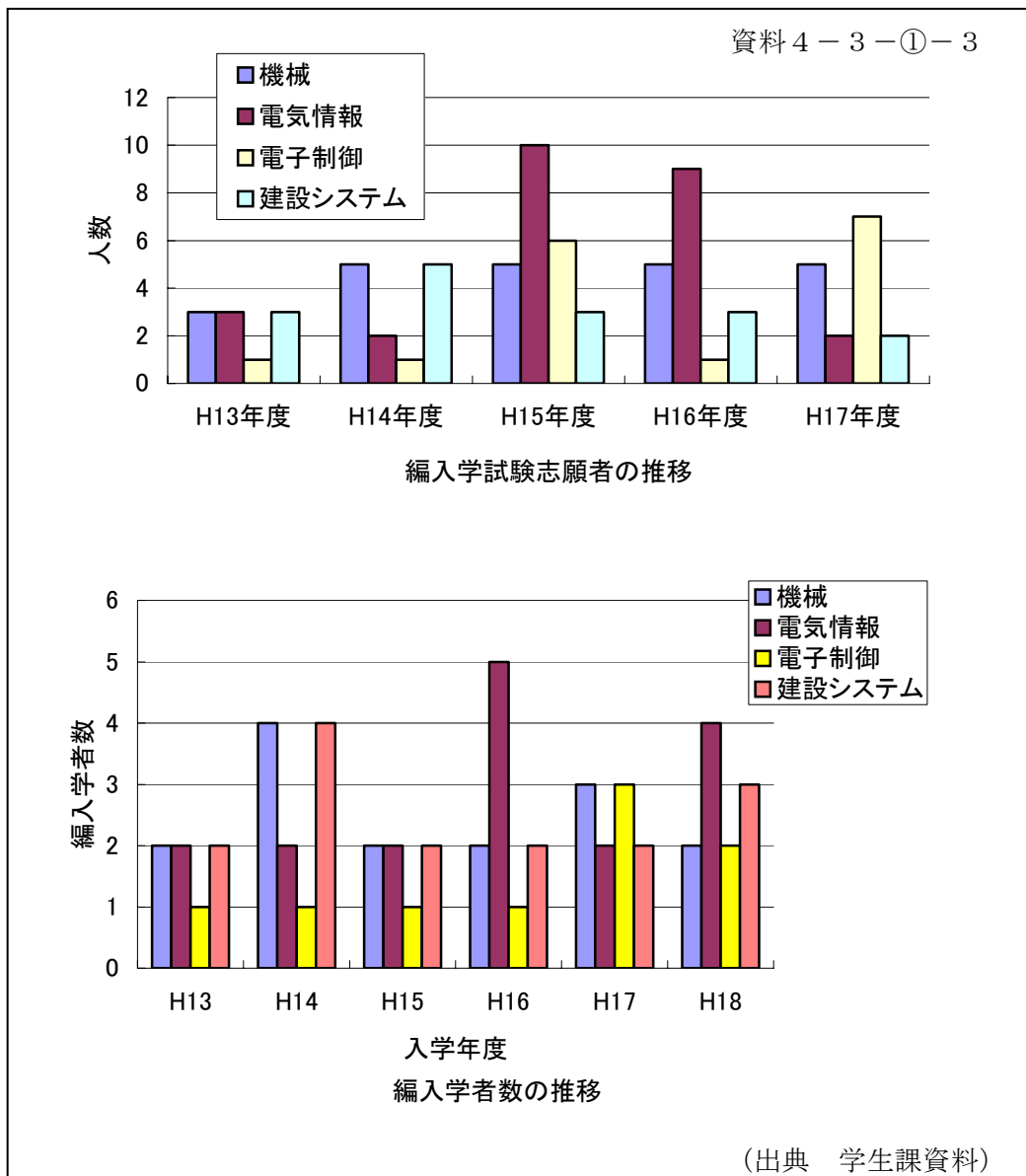


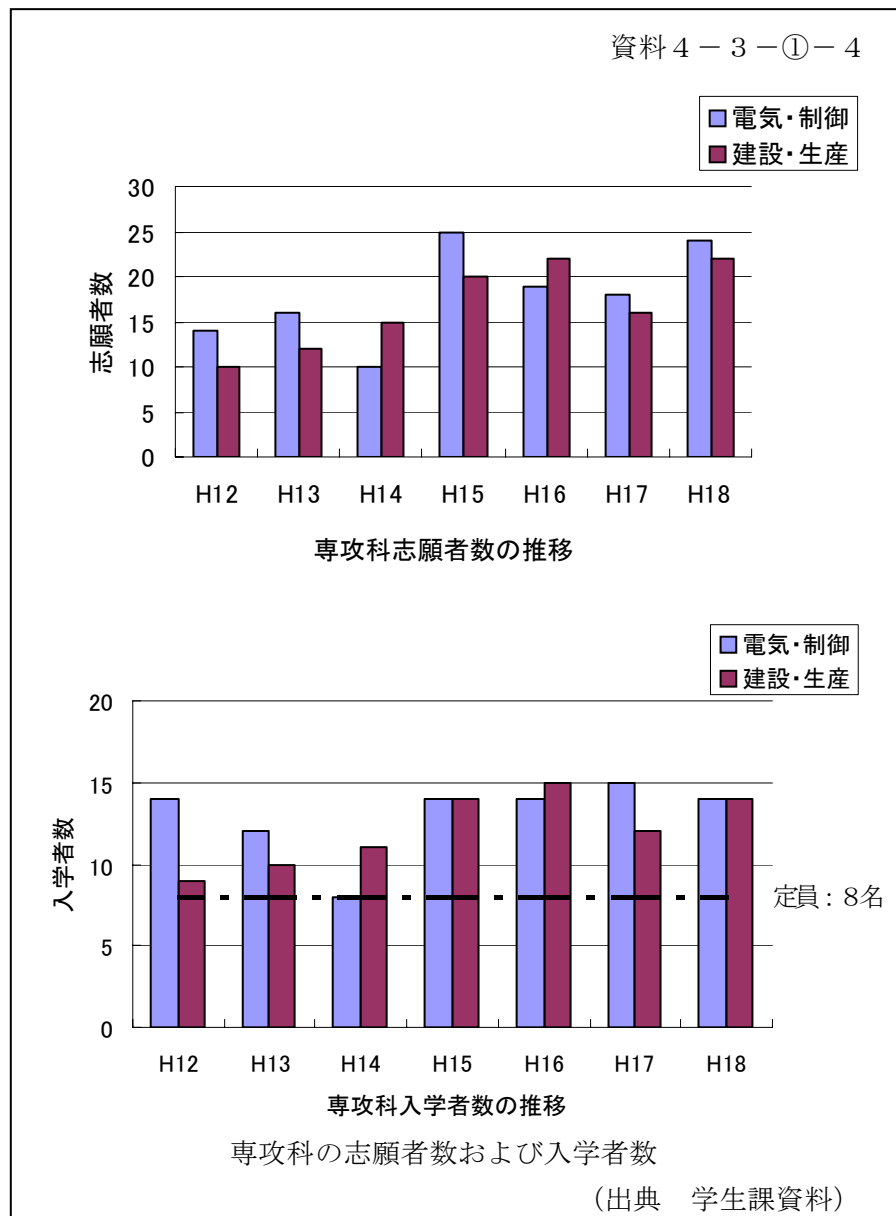
#### 三田会場案内図

三田市総合福祉保健センター  
三田市川除675  
JR三田駅から徒歩15分



(出典 平成18年度学生募集要項)





## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

入学選抜は、多様な学生を受け入れるため、多様な方法で実施されている。京都府、滋賀県、福井県、兵庫県、大阪府の二府三県にわたる広範囲な地域の人に受験機会を提供し、遠隔地の受験者にも便宜を図っている。

専攻科入学選抜は、前期において推薦選抜と学力選抜を、後期において社会人特別選抜と学力選抜を実施しアドミッション・ポリシーに沿った人材を広く集めるための工夫をしている。

### (改善を要する点)

準学士課程入学者選抜におけるアドミッション・ポリシーを、中学生にわかりやすい平易な表現に改善すべきである。



### (3) 基準 4 の自己評価の概要

アドミッション・ポリシーが明確に定められ、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜および専攻科入学者選抜が実施されている。また、受験対象関係機関へ通知、教職員への周知、将来の学生を含め社会への公表も十分に行われている。

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入方法が採用されており、入学者選抜へ適切に反映されている。

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が行われているかどうかをアンケート調査により検証している。その結果、アドミッション・ポリシーの存在を知っていた者が準学士課程 1 年では 42%、専攻科課程では 23%を示し、専攻科課程の認知度が低い。“アドミッション・ポリシーの存在を知っていた”と回答した人に対する「あなたは受験時に本校のアドミッション・ポリシーに合っていると思っていましたか。」との設問では、「合っていた」と「一部合っていた」を合計すると、準学士課程では 83%、専攻科では 87%を示しておりアドミッション・ポリシーを理解した上で、入学していることが明らかとなった。

入学定員と実入学者数との関係については、準学士課程の実入学者は入学定員に対して 1.0~1.1 倍の範囲で推移しており、適正である。専攻科課程の実入学者は入学定員に対して 1.0~2.0 の範囲で推移しており、本校の施設・スタッフ面からこの状況は十分許容可能な範囲であり適正である。

## 基準5 教育内容及び方法

## (1) 観点ごとの分析

## ＜準学士課程＞

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

## （観点到係る状況）

学校教育法に定められた「深く専門の学芸を教授」するため、低学年に一般科目を多く配置し、学年進行で専門科目の割合が高まる楔形の科目配置となっている（資料5-1-①-1及び2）。専門科目の体系性については、基礎となる一般科目を低学年に、また高学年に専門（基礎）科目を配置している（資料5-1-①-3）。科目配置の趣旨は「学生募集要項」（資料5-1-①-4）に記載されており、科目系統図（資料5-1-①-5）としてウェブページに公開されている。

学校の教育の目的に沿った体系性については、講義の進度にあわせた実験・実習科目を配当するとともに（資料5-1-①-1）第2学年以降の実習科目として創造性を育成するための科目（観点5-2-③参照）を組み込んでいる。さらに本校の教育理念の観点から、英語教育において低学年時に基礎的文法等を重視した講義を中心とした授業科目を配当し、高学年になるにつれて専門性を高めた講義や会話力の育成を図る科目構成としている（資料5-1-①-2）。







## 学科の紹介

## ■ 機械工学科

本学科は、あらゆる産業の基幹となる機械工学分野において、単なる「ものづくり」だけではなく自然と調和のとれた高度の技術開発に貢献できる技術者の育成を目指しています。

- ① 系統化されたカリキュラムにより、機械工学の基盤から先端的機械技術に至るまでの幅広い分野の学習をします。
- ② 総合的な判断力や分析能力を高めるため、実験、実習、製図等の実践的科目を各学年に積極的に導入しています。
- ③ 情報系科目によって、問題の解決、装置の設計・開発のために効果的にコンピュータを活用できる能力を養います。

## ■ 電気情報工学科

本学科では、コンピュータを使った電気・電子系及び情報系科目を2本の柱とする教育体制を組み、将来にわたって技術革新に柔軟に対応できる技術者養成を目指しています。

- ① コンピュータを使った情報系科目を低学年より取り入れています。
- ② 電気情報工学科独自のコンピュータシステムを導入し、授業に積極的に取り入れています。
- ③ 系統立てたカリキュラムで教育内容が学年で途切れる事なく、基礎から応用までを広く学習します。
- ④ 低学年から実験を行い、授業で学んだことを実験で確かめることができます。
- ⑤ 高学年では、応用科目を多く取り入れ、各学生の個性に応じた選択科目を履修できるようにしています。

## ■ 電子制御工学科

本学科は、ロボットのような機械と電気を一体化させたメカトロニクス分野の製品、並びにそれらの生産システムを開発・設計できる、いわゆるメカトロニクス技術者を育成することを目的としています。

- ① 「ものづくり」に従事する技術者に必要な、コンピュータや電気・電子工学及び機械工学に関する基礎科目を学習します。
- ② 電子回路やコンピュータをメカトロ製品に組み込むための技術を演習、実験を通して習得します。
- ③ 制御工学や情報工学などを応用し、メカトロ製品の高性能化、知能化を図ることのできる視野の広い技術者を育成します。

## 学科の紹介

## ■ 建設システム工学科

本学科は、平成18年度から学科の内容を再編し、“都市環境科目履修コース”と“建築科目履修コース”にコース分けします。都市環境科目履修コースは、道路、橋、トンネル、河川、港湾などの社会基盤の建設や都市環境について学びます。建築科目履修コースは建物や住宅の計画、設計、施工について学び、建築士（1級、2級、木造）の資格取得を目標にします。3年次までは共通授業で建設の基礎を習得し、4年次にコース分けを行い、それぞれの専門知識を習得します。両コース基礎学力の徹底習得と実験学習を重視し、地域社会に貢献できる都市環境技術者および建築技術者を育成します。

（出典 平成18年度学生募集要項10頁）

各学年の専門科目と科目内容の対応表 (機械工学科)

機械工学科専門科目系統図(2006年度入学生)

分類	1年	2年	3年	4年	5年								
専門基礎	工学基礎			応用数学 I 応用数学 II	統計学*D								
	情報リテラシー	→	情報処理 II	→	情報処理 III	→	数値解析 計算機工学 II *A 数値解析*B	画像処理*C グラフィックス*D					
							計画学*D						
							材料力学*B 工業外国語 I 工業外国語*B	施工管理学*C 工業外国語 II					
	材料		工業力学 I	→	工業力学 II 材料力学 I 金属材料学	→	材料力学 II	→	材料力学 III 材料学 I 材料学 II				
					流体・熱							水力学*A 熱力学	→
システム・制御													
	応用物理	→	電気工学 電気機器*A 電子工学 I *B	→	電子計測*C 電子物理*D								
			機構学		→	ロボット工学							
	設計・生産・加工		工作法 I	→	要素設計法 工作法 II	→	機械設計法*B	→	設計工学 工作機械 生産工学				
環境・生体											環境工学*A	→	環境工学 生体力学
											実験・実習		
設計製図 III	→	設計製図 IV											
工作実習 I	→	創造設計製作 インターンシップ	→	設計製図 V *C 卒業研究									
工作実習 II	→	機械工学実験 I		→	機械工学実験 II								
専門科目履修単位数合計	4	8	16	28~29	37								

- |  |   |
|--|---|
| 水力学 * A<br>環境工学 * A<br>電気機器 * A<br>計算機工学 II * A              | 設計製図 V * C<br>施工管理学 * C<br>電子計測 * C<br>画像処理 * C |
| 数値解析 * B<br>機械設計法 * B<br>材料力学 * B<br>工業外国語 * B<br>電子工学 I * B | 統計学 * D<br>計画学 * D<br>電子物理 * D<br>グラフィックス * D   |

(出典 ウェブページ)



(分析結果とその根拠理由)

本校の教育理念に沿って、卒業時の到達目標及び各学年の修了時の到達目標を具体的に定め、これに対応するように授業科目を適切に配置している。

以上のことから、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程の体系性が十分に確保されている。また、授業の内容が教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっている。

**観点 5-1-②：** 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

(観点に係る状況)

各クラスの代表学生と校長との「フリートーキング」を実施し、学生のニーズに配慮している（議事録は、閲覧資料として提示可能）。また、第4学年以上の一部の授業科目について学科相互に履修を認めている（資料5-1-②-1）。さらにタイのKing Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang、韓国のKorea University と交流協定を結んでおり、今後交換留学及び単位の相互認定を行う予定である（資料5-1-②-2）。その他、語学検定による単位認定も行っている（資料5-1-②-3）。留学生には、資料5-2-①-2に示すように「日本語」に関する補充授業を行っている（資料5-1-②-4）。

資料5-1-②-1

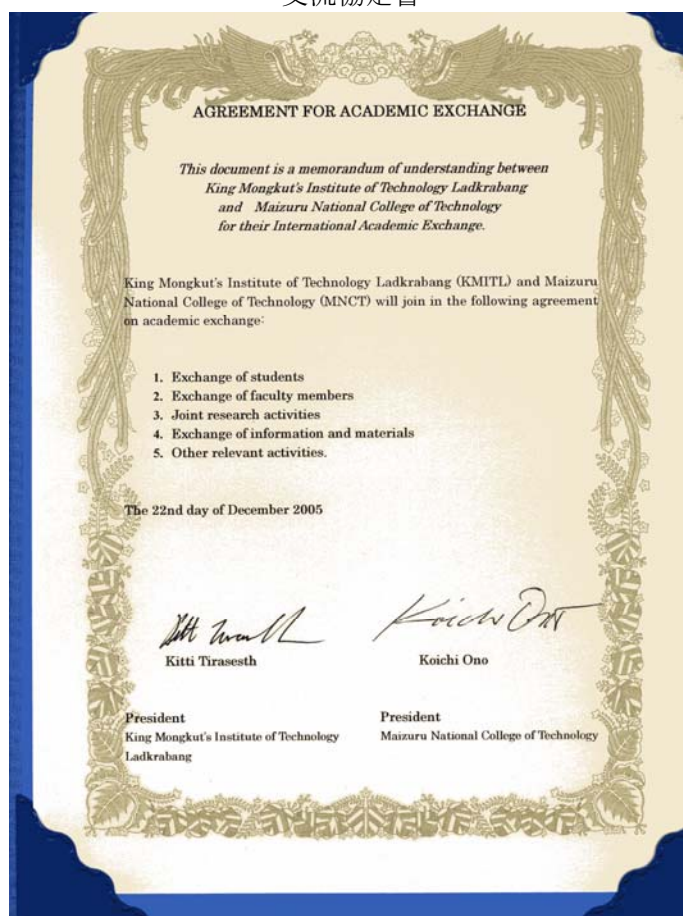
#### 5. 専門共通科目選択の履修手続き

4, 5年生の専門科目には学科を越えて履修可能な専門共通選択科目があります。他学科の科目の履修を希望する学生は、並列開講科目の手続きと同様の方法で手続きをして学習して下さい。なお、他の学科の専門共通選択科目の履修手続きを行った学生は、属する当該学科の専門共通選択科目の辞退願を提出する必要はありません。また、履修科目受講(控)に各自記入し、常に受講状況を確認しながら学習を進めて下さい。

(出典 履修の手引 2頁)

資料 5 - 1 - ② - 2

## 交流協定書



(出典 庶務課資料)

資料 5 - 1 - ② - 3

## 技能審査の種類及び単位数一覧表

技能審査の名称・資格等	単 位	備 考	
実用英語技能検定 (英 検)	1 級	8	一般科目・専門科目以外の資格認定の授業科目として学年修了又は卒業に必要な単位数に加算することができる。
	準1級	6	
	2 級	4	
	準2級	2	
国際コミュニケーション 英語能力テスト (T O E I C)	8 5 0	8	
	7 0 0	6	
	5 0 0	4	
	4 0 0	2	

(出典 平成18年度学生便覧62頁)

## 資料5-1-②-4

## 平成17年度外国人留学生日本語補講実施報告

舞鶴工業高等専門学校長 殿

平成18年 2月10日

人文科学部門長 垂谷 茂弘

外国人留学生全員に対する、日本語補講を下記の通り実施いたしましたので報告いたします。

教 科	担 当 者	実 施 日	実施場所・時間	内 容
日本語補講	講師 吉永 進一	平成17年 1月30日(月)	一般ゼミナール室 17:15 ~ 19:15 (2時間)	日本の文化 日本の伝統を生かした映画の鑑賞と 解説
日本語補講	教授 村上 美登志 助教授 田村 修一	平成17年 1月23日(水)	10:00~17:00 (7時間)	日本文化研究 舞鶴・福井を中心とした文化遺跡等 を实地踏査
日本語補講	助教授 宮崎 操	平成17年 12月10日(日)	一般ゼミナール室 15:00 ~ 18:00 (3時間)	日本における通訳・翻訳事情
日本語補講	教授 荒川 吉孝	平成18年 1月14日(土)	一般ゼミナール室 9:00 ~12:00 (3時間)	日本人の季節感 四季の歌をCD等で味わう。併せて、 季節感に富む日本映画を鑑賞する。
日本語補講	助教授 松井 信義	平成18年 1月17日(火) 1月23日(月)	一般ゼミナール室 19:30 ~ 21:00 " (3時間)	日本語の理解と表現
日本語補講	教授 樽井 武	平成17年 12月18日(日)	一般ゼミナール室 9:00 ~12:00 (3時間)	日本語の音声特徴 (音声分析装置を用いた留学生の母 国語との比較)
日本語補講	助教授 三川 譲二 助教授 垂谷 茂弘	平成17年 2月 4日(土)	10:00~17:00 (7時間)	舞鶴の近現代：引き上げ記念館、れ んが博物館、中央公民館を訪ねて、 近現代の舞鶴の歴史と文化に触れ る。
日本語補講	助教授 梅原 康生	平成17年 12月23日(金)	一般ゼミナール室 13:00 ~ 17:00 (4時間)	日本とアジアの政治・経済事情
			(計32時間)	

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

他学科の授業科目の履修を行える工夫がされている。国際化対応として、外国大学との交流協定を通して海外留学の途を開いている。学生ニーズへの対応として、校長とのフリートーキングを実施し、留学生には日本語や日本文化修得の特別カリキュラムを編成している。

以上のことから、学生のニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程となるよう配慮されていると判断される。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

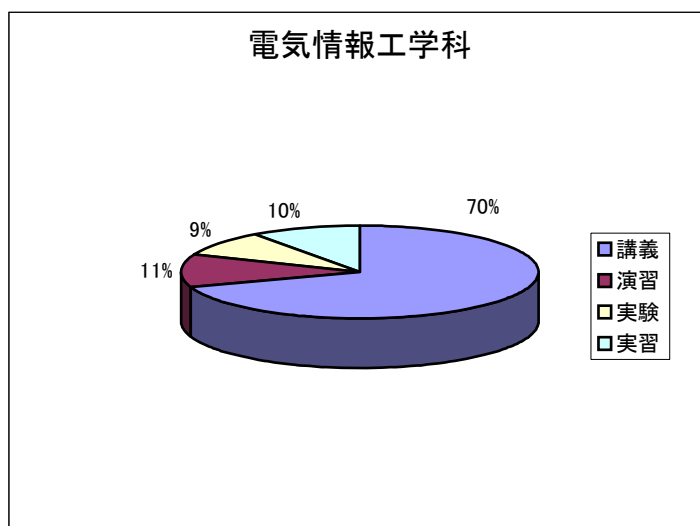
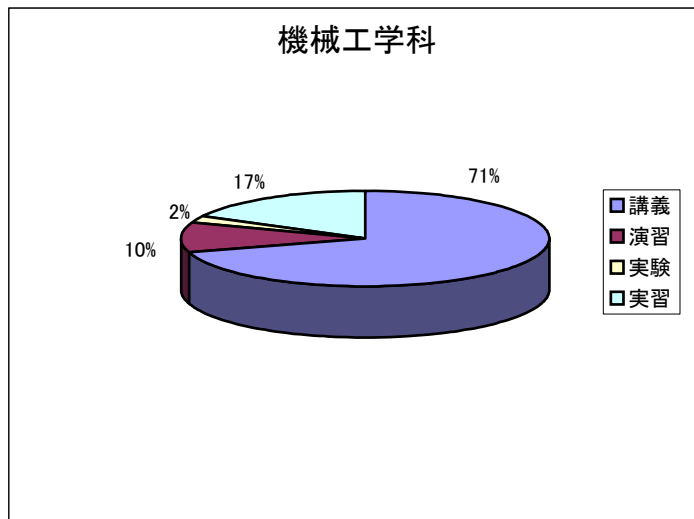
(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。)

(観点に係る状況)

専門科目では、授業形態として講義、演習、実験・実習が採用されている。低学年では基礎知識を教授する講義科目を中心とし、高学年では専門的な知識を教授する講義科目及び実践力育成を図る実験・実習科目の比率が高まる構成になっている(資料5-2-①-1及び2)。英語教育では、本校の教育理念に沿って、低学年で基礎的な文法等を重視し、高学年で読解力や会話力の育成を図る工夫がなされている(資料5-2-①-3)。また、「情報リテラシー」を導入し、講義・実習を通して情報基礎の修得を行わせる工夫を行っている(資料5-2-①-4)。

資料5-2-①-1

開講総単位数178単位に対する講義科目及び実験・演習・実習科目の割合



(出典 学生課資料)

平成18年度 授業時間割(月～水)

本校専攻の別	曜日	月					火					水							
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
本	1	9:00～10:30	数学ⅠA 小松	化学Ⅰ 宮崎昭	数学ⅠC 大嶋	特活		現代文 田村	物理Ⅰ 宮野 【物理実験室】	数学ⅠA 小松	総合英語ⅠB 吉水		古文 村上	日本史 三川	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠA 吉水	14:40～16:10	16:20～17:50	
		10:40～12:10	数学ⅠB 青戸穂	物理Ⅰ 宮野【物表】	数学ⅠC 野間	特活		現代文 田村	物理Ⅰ 宮野 【物理実験室】	数学ⅠA 小松	総合英語ⅠB 吉水		現代文 田村	総合英語ⅠA 吉水	総合英語ⅠB 青戸穂	総合英語ⅠB 青戸穂	14:40～16:10	16:20～17:50	
		13:00～14:30	数学ⅠA 大嶋	数学ⅠC 青戸穂	日本史 三川	特活		化学Ⅰ (小谷)	総合英語Ⅰ (外国人講師)	化学Ⅰ (小谷)	総合英語ⅠA 松井		総合英語ⅠA 松井	総合英語ⅠB 松井	総合英語ⅠA 松井	総合英語ⅠB 松井	総合英語ⅠB 松井	14:40～16:10	16:20～17:50
		14:40～16:10	現代文 田村	数学ⅠA 大嶋	数学ⅠB 大嶋	特活		数学ⅠC 青戸穂	化学Ⅰ (小谷)	化学Ⅰ (小谷)	総合英語Ⅰ (外国人講師)		物理Ⅰ 宮野 【物理実験室】	総合英語ⅠA 松井	総合英語ⅠB 松井	総合英語ⅠB 松井	総合英語ⅠB 松井	14:40～16:10	16:20～17:50
	2	9:00～9:30	工作実習Ⅰ 川勝【工場】	数学ⅡA 亀谷	化学Ⅱ 宮崎昭	特活		物理Ⅱ 丸山	総合英語Ⅱ (外国人講師)	数学ⅡC (松井)	生物(小谷) 第二合併		設計製図Ⅱ 高田・鈴木	情報処理Ⅱ CAD実習室	総合英語ⅡA 谷川	総合英語ⅡB 宮崎	14:40～16:10	16:20～17:50	
		10:40～12:10	UNIX編纂 中山【センター】	英語Ⅱ (外国人講師)	数学ⅡB 亀谷	特活		化学Ⅱ 宮崎昭	総合英語ⅡA 谷川	数学ⅡB (松井)	生物(小谷) 第二合併		電気情報工実習Ⅰ 金山・竹澤	電気工実習Ⅰ 電学実習室	数学ⅡC 小松	総合英語ⅡB 宮崎	14:40～16:10	16:20～17:50	
		13:00～14:30	電子工学 野間	総合英語ⅡA 亀谷	物理Ⅱ 丸山【物表】	特活		数学ⅡC (松井)	総合英語Ⅱ (清水)	生物(小谷) 第二合併	地理(河野) 【2-2】		電子制御実習 和田	電子制御実習 A229	数学ⅡA 伊藤	数学ⅡB 伊藤	14:40～16:10	16:20～17:50	
		14:40～16:10	建築材料学 野間	数学ⅡA 伊藤	総合英語Ⅱ (外国人講師)	特活		総合英語Ⅰ (清水)	数学ⅡC (松井)	地理(河野) 【2-2】	総合英語ⅡA 谷川		応用情報処理 専攻・本学【7-6】	建設学Ⅰ 岡本・永井	保体Ⅱ 堀垣	保体Ⅱ 堀垣	14:40～16:10	16:20～17:50	
	3	9:00～9:30	材料工学Ⅰ 川勝【工場】	工作実習Ⅱ 川勝【工場】	工学力学Ⅱ 白藤	特活		工作実習Ⅱ 川勝【工場】	総合英語Ⅱ 田村	前期 総合英語ⅢA 川勝			前期 数学ⅢA 伊藤【3M】	前期 伊藤【3M】	前期 伊藤【3M】	前期 伊藤【3M】	14:40～16:10	16:20～17:50	
		10:40～12:10	アナログ回路 馬場	回路理論 片山	アナログ回路 北原	特活		電気情報工実習Ⅱ 中山・新池・山田 A106・A107・A224	後期 総合英語ⅢB 川勝	後期 総合英語ⅢA 川勝			後期 伊藤【3M】	後期 伊藤【3M】	後期 伊藤【3M】	後期 伊藤【3M】	14:40～16:10	16:20～17:50	
		13:00～14:30	力学 野間	情報処理Ⅲ 川勝【CAD/CAM】	電子回路Ⅰ 和田	特活		電子制御・制御応用・CAD 工学実習Ⅱ	前期 総合英語ⅢB 川勝	前期 総合英語ⅢA 川勝			後期 伊藤【3M】	後期 伊藤【3M】	後期 伊藤【3M】	後期 伊藤【3M】	14:40～16:10	16:20～17:50	
		14:40～16:10	人間論 津谷	測量実習Ⅱ 四森・加登	特活			CAD Ⅰ・加登	前期 総合英語ⅢB 川勝	前期 総合英語ⅢA 川勝			後期 伊藤【3M】	後期 伊藤【3M】	後期 伊藤【3M】	後期 伊藤【3M】	14:40～16:10	16:20～17:50	
4	9:00～9:30	法 梅原	熱力学 止	人間と文化ⅣA 善谷 【4M】	保体Ⅳ 梅垣		前期 実践総合英語Ⅰ (外国人講師)	材料工学Ⅱ 藤原	総合英語ⅣA 吉水・マエノ等	応用数学Ⅱ (船野)		計測工学 谷川・新井	水力学 西山	情報工学実習Ⅰ 生木・藤原・谷川・鈴木・山田	設計製図Ⅳ 川勝・鈴木 【CAD】	14:40～16:10	16:20～17:50		
	10:40～12:10	工学演習 金山・山田	保体Ⅳ 梅垣	人間と文化ⅣB 村上	情報処理Ⅳ 船木【セナ】		後期 総合英語ⅣB	経済学 梅原	応用数学Ⅱ (船野)	工学基礎研究 全員		電気情報 片山【値】	電気情報 平地	電気工実習Ⅲ 馬場・東田・松本	電気工実習Ⅲ 馬場・東田・松本	14:40～16:10	16:20～17:50		
	13:00～14:30	測量学Ⅲ 四森【視】	測量学Ⅲ 四森【視】	人間と文化ⅣC 佐々木	電子回路Ⅱ 和田		工学力学Ⅱ 川勝	前期 工学力学Ⅱ 川勝	前期 工学力学Ⅱ 川勝	前期 工学力学Ⅱ 川勝		前期 伊藤【3M】	前期 伊藤【3M】	前期 伊藤【3M】	前期 伊藤【3M】	前期 伊藤【3M】	14:40～16:10	16:20～17:50	
	14:40～16:10	都市計画 野間	測量学Ⅲ 四森【視】	人間と文化ⅣD 佐々木	人間と社会ⅣA 金		交通工学 岡	前期 工学力学Ⅱ 川勝	前期 工学力学Ⅱ 川勝	前期 工学力学Ⅱ 川勝		後期 伊藤【3M】	後期 伊藤【3M】	後期 伊藤【3M】	後期 伊藤【3M】	後期 伊藤【3M】	14:40～16:10	16:20～17:50	
5	9:00～9:30	環境工学 (開口)	人間と社会ⅤB 三川 【5M】	設計製図Ⅴ 谷川・山田 【合併2】	総合英語 梅垣		前期 総合英語ⅤA	保体Ⅴ 小野	卒業研究			ロボット工学 川勝	機械工学 山田(・)・新井	生産工学 山田	熱工学 山田	14:40～16:10	16:20～17:50		
	10:40～12:10	通信工学Ⅰ 新池 【SS】	人間と社会ⅤC 吉水 【5E】	電子制御 竹澤 【SE】	電子制御 竹澤 【SE】		後期 総合英語ⅤB	通信工学Ⅱ 金山	卒業研究			制御工学 平地	保体Ⅴ 小野	ロボット工学 竹澤	電子工学Ⅱ 片山	14:40～16:10	16:20～17:50		
	13:00～14:30	振動工学 金山	人間と社会ⅤD 梅原 【SS】	測量学Ⅲ 四森【視】	測量学Ⅲ 四森【視】		前期 工学力学Ⅱ 川勝	電子制御 天野	卒業研究			システム制御 西園	計測工学 伊藤	前期 工学実習 川勝	前期 工学実習 川勝	14:40～16:10	16:20～17:50		
	14:40～16:10	構造力学Ⅲ 武田	人間と社会ⅤE 佐々木 【SC】	測量学Ⅲ 四森【視】	測量学Ⅲ 四森【視】		後期 実践総合英語Ⅱ (外国人講師)	応用数学Ⅱ (船野)	卒業研究			計測工学 伊藤	計測工学 伊藤	前期 工学実習 川勝	前期 工学実習 川勝	14:40～16:10	16:20～17:50		

資料5-2-①-2 続き

平成18年度 授業時間割(木～金)

本専攻の別	科目	曜日	木					金						
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
時間	時間	時間	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50		
本	1	1	情報リテラシー 白藤(小野沢) [センター]	英会話 I (外国人講師)	アート&デザイン (竹原) [第2台併]	保体 I 小野		総合英語 I A 吉永	地 理 (福本)					
		2	英会話 I (外国人講師)	情報リテラシー 前丹F(小野沢) 後山田(小野沢) [センター]	化学 I 宮崎昭	地 理 (福本)		保体 I 小野	化学 I 宮崎昭					
		3	アート&デザイン 竹原 [第2台併]	保体 I 梅垣				アート&デザイン 竹原 [第2台併]	総合英語 I A 吉永	アート&デザイン 竹原 [第2台併]				
		4	数学 I A 大嶋	アート&デザイン 竹原 [第2台併]	総合英語 I A 松井	日本史 三川		地 理 (福本)	情報リテラシー 前加取(小野沢) 後永中(小野沢) [センター]					
	2	1	工作実習 I 川勝「工場」	総合英語 II B 宮崎	総合国語 I (清水)			世界史 三川	数学 II A 亀谷	保体 II (兼野)				
		2	交流回路 東田	総合英語 II B 宮崎	総合国語 I (清水)			数学 II A 亀谷	世界史 三川	物理 II 丸山 [物理実験室]				
		3	情報処理 II 西岡 [CAD/CAM]	英会話 II (外国人講師)	世界史 三川			化学 II 宮崎昭	伊藤 総合英語 II B 荒川	総合英語 II A 荒川	数学 II B 伊藤			
		4	測量実習 I 四蔵・永井 データ処理 (森谷・三輪「マルチ」)	物理 II 丸山 [物実]	化学 II 宮崎昭	総合英語 II A 荒川		数学 II A 伊藤	伊藤 数学 II B 丸山 [物実]	伊藤 数学 II B 丸山 [物実]	伊藤 三川			
	3	M	前期 総合英語 III A	総合国語 II 田村	前期 数学 III A 伊藤 [3M] 亀谷 [3E]		日	設計製図 III 白藤(CAD)	応用物理 馬場	製作法 II 生本				
		E	後期 総合英語 III B	総合国語 II 村上「視」	後期 数学 III B 伊藤 [3M] 亀谷 [3E]			電気磁気学 I 馬場	人 間 論 栗谷	アルゴリズム論 丹下 [マルチ]				
		S	荒川 梅井 松井 宮崎 (外国人講師)	人間論 栗谷	後期 数学 III B 伊藤 [3M] 亀谷 [3E]			CAD演習 I 仲川 [CAD/CAM]	情報処理 III 川 [CAD/CAM]	情報処理 III 西岡 [CAD/CAM]	保体 III (高山・北野)			
		C		応用物理 馬場	青戸欄 [3C] 小松 [3S]			水理学 I 三輪	保体 III (高山・北野)	地盤工学 I 斎原				
	4	M	確 率 前小松「視」	電気工学 岩崎	経済学 梅原	応用数学 I (有川)	本	機械設計法 川勝 (4M)	新 造 設 計 製 作 川勝・山田 [CAD実習室]・「工場」	システム工学 生本・山田	システム工学 白藤 [CAD]			
		E	物理 III A 化学 III A 宮崎昭 [4S]	法 学 梅原	応用数学 I (有川)	応用物理 丸山		電子工学 I 新池 (4E)	計測工学 新任・鈴木 信守 [理理 II 中川「七ツ」]	電気磁気学 II 北原	総合英語 I A 吉永「マルチ等」	電気磁気学 II 北原		
		S	統計 後伊藤「視」	総合英語 IV A 吉永「マルチ等」	応用数学 I (伊藤公)	応用数学 II (伊藤公)		材料力学 野間 (4S)	電気磁気学 金森	電気磁気学 II 川田	熱工学 奥村 [CAD/CAM]	CAD演習 II 金森 CAD		
		C	物理 III B 宮野 [4E]	応用数学 I (有川)	保体 IV 小野	法 学 梅原		前 数値解析 高谷 [マルチ] 後 工業外国語 (外国人講師)	地盤工学 II 岡本・永井 白土部	水理学 II 日下部	工学実験 III (電機) 四蔵・永井 調構造学 武田			
	5	M	新習上工 鈴木・生本	卒業研究	卒 業 研 究		本	機 械 工 学 実 験 II 辻・高田・西山・鈴木・生本	電子物理 岩崎	前期				
		E	工業英語 (外国人講師)	卒業研究	卒 業 研 究			電気工学実験 IV 北原・平地・片山 「電気工学実験室」等	設計工学 藤原	電子物理 岩崎	後期 微分方程式 伊藤 [物実] 物理 IV A 丸山 [視]			
		S	工業外国語 II 奥村	卒業研究	卒 業 研 究			保体 V 梅垣	電子回路 III 町田	電子物理 岩崎	統計学 竹内			
		C	設計製図 武田・岡本 保体 V 梅垣	卒業研究	卒 業 研 究			新習上工 II 金森	応用上工 II 日下部	電子物理 岩崎	統計学 岡 (SC)	後期 線形代数 亀谷 [5M] 物理 IV B 丸山 [視]		
						河川工学 日下部	海洋工学 三輪							

(出典 学生課資料)





## 資料5-2-①-4

科 目 名	学 年	前 期 2 時 間 後 期 2 時 間 2 単 位	教 員 名
情報リテラシー Information Literacy	1		小野澤 光洋・白藤中生, 山田 博, 竹内敬治, 加登文学/三輪 浩 e-mail: miyamu@mx.nkansai.ne.jp, sirafuji, yamada, takeuchi, kato/miwa @maizuru-ct.ac.jp
<b>【講義の概要および目標とする学力レベル】</b>			
<b>概 要</b> Windows 等に関する講義と実習を行いながら、情報処理の基本概念と技術を理解する。又、各種アプリケーションソフトを幅広く使用し、情報処理の基本技術を習得すると共に、情報活用の有効性を体験・学習する。		<b>達成目標</b> 1. 情報処理の基本概念と基礎技術の理解。 2. 情報処理の基本技術の習得。 3. 情報活用の有効性の学習。	
<b>【教科書、参考書等】</b> 教科書：畑中勝守・前野賀彦 編著 「情報リテラシー」 ナカニシヤ出版			
<b>【授業計画】</b>			
週	内 容	達成目標	教科書参照ページ
第1週	コンピュータの利用について		
第2週	コンピュータの概論、マウスの基本操作、キータイプ練習	1	p1 - p21
第3週	ネットワーク入門、電子メールの基本知識と操作及び設定	1、2	＃
第4週	エディタ等を使っての文字入力の実習、ファイルの操作の基礎	2	p22 - p26
第5週	ウィンドウ操作の基礎、データ操作の基礎	2、3	＃
第6週	インターネットの基本知識と操作	1、2	p27 - p41
第7週	まとめの演習問題		
★前期中間試験			
第8週	ワープロソフトを使っての簡単な文書作成	1	p43 - p70
第9週	＃	2	＃
第10週	＃	3	＃
第11週	まとめの演習問題		
第12週	表計算ソフトを使っての簡単な計算処理	1	p79 - p106
第13週	＃	2	＃
第14週	＃	3	＃
第15週	まとめの演習問題		
★前期末試験			
第16週	表計算ソフトの応用	2、3	p116 - p117
第17週	データベース機能の活用	1、2	p121 - p129
第18週	＃	2、3	＃
第19週	プログラミングの基礎	1	
第20週	＃	2	
第21週	＃	3	
第22週	まとめと演習		
★後期中間試験			
第23週	プレゼンテーションソフトの活用	1	p143 - p156
第24週	＃	2	＃
第25週	インターネットによる課題研究	2、3	
第26週	＃	2、3	
第27週	課題研究のプレゼンテーションデータの作成	2、3	
第28週	＃	2、3	
第29週	研究結果の発表会	2、3	
第30週	＃	2、3	
★学年末試験			
<b>【成績評価の方法】</b> 試験の成績(60%)と研究発表の課題報告の内容(20%)および受講状況やレポートの提出状況(20%)等を総合的に判断して評価する。			
<b>【備考】</b>			

(出典 平成18年度シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

講義，演習，実験，実習を適切に組み合わせ，目的とする学力等を身に付けさせる工夫を行っている。また，一般・専門，学科の区分を超えた視点から学習指導内容・方法の工夫を行っている。

以上のことから，教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

**観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って，適切なシラバスが作成され，活用されているか。**

(観点到に係る状況)

養成する人材像や卒業時に身につけるべき資質・学力を，学科毎に明確に定めており，シラバスの作成の際，十分に留意している。シラバスの様式は，第1～3学年用及び第4，5学年用に分け，当該科目の学力レベル及び到達目標がわかりやすいように工夫されている。また，自主学習の指針となるよう毎授業の内容を記述しているほか，成績評価方法を明示する様式となっている（資料5-2-②-1及び2）。シラバスの作成要項は，資料5-2-②-3に示す通りである。

資料5-2-②-1

## シラバス(第1～3学年用)様式

科 目 名	学 年	前期 時間 後期 時間 単 位	教 員 名 研 究 室 内 線 電 話 e-mail:	
<b>【講義の概要および目標とする学カレベル】</b>				
概 要			達成目標	
<b>【教科書, 参考書等】</b> 教科書:				
<b>【授業計画】</b>				
週	内 容		達成目標	教科書参照ページ
第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週	シラバス内容の説明			
★前期中間試験				
第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週				
★前期末試験				
第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週	シラバス内容の説明			
★後期中間試験				
第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週				
★学年末試験				
<b>【成績評価の方法】</b>				
<b>【備考】</b>				

(出典 学生課資料)

資料5-2-②-2

## シラバス(第4, 5学年用)様式

科 目 名	学 年	前期 時間 後期 時間 単 位	教 員 名 研 究 室 内 線 電 話 e-mail:
【授業目的】  【Course Objectives】			
【達成目標】		【Outcomes/Aims】	
【学習・教育目標】			
【キーワード】			【学習保証時間】
【授業方法】		【学習方法】	
【履修上の注意】		【カリキュラムの位置付け】 1. 先行して履修すべき科目  2. 後で履修する関連科目  3. 同時に履修する関連科目	
【定期試験の実施方法】			
【評価方法】			

資料5-2-②-2 続き

## シラバス(第4, 5学年用)様式

<b>【教科書・教材等】</b>			
<b>【参考書・参照 URL 等】</b>			
<b>【授業計画】</b>			
週	内 容	達成目標	教科書参照ページ
第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週	シラバス内容の説明		
★前期中間試験			
第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週			
★前期末試験			
第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週	シラバス内容の説明		
★後期中間試験			
第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週			
★学年末試験			
<b>【学生へのメッセージ】</b>			

(出典 学生課資料)

## シラバス作成要領

平成18年1月

本校には、1～3年生用および4・5・専攻科生用の2種類のシラバスの様式がある。それぞれのシラバス作成に関する留意事項を記述するとともにシラバス例を示しておく。

シラバスの作成と提出について

1. シラバスの作成は、ワードファイルによるものを原則とし、2種類のシラバス様式に関する留意事項を参照の上、様式およびシラバス例に従って入力する。
2. いずれのシラバスについても、全科目第1週及び第16週の授業では「シラバス内容の説明」を記入する。
3. 作成したシラバスをプリントアウトした原稿を部門長・学科長・専攻科長へ、更に原稿ファイルを電子メールにて学生課教務係の担当者あてに提出する。なお、提出された原稿はそのまま写真製版されるので、内容等に間違いのないよう十分注意すること。

原稿ファイル提出先【学生課教務係：

】

4. 一太郎のファイル様式もあるので、必要な場合は教務係へ連絡して入手する。
5. 原稿ファイルの様式（フォーマット）は写真製版するので変更しない。
6. 提出原稿は入念に推敲の上、最終稿として提出する。
7. 提出するファイル名は、科目コード表を参考にして担当科目に相当する番号を付ける。 【例：1234.doc】

1～3年生用シラバス様式に対する留意事項

1. 「科目名」は、邦文名と欧文名を記入する。研究室はA棟，B棟，S棟，T棟○階（部屋番号）と記入する。
2. 「講義の概要及び目標とする学力レベル」欄には、達成目標を4項目以上箇条書きで記述する。
3. 授業計画は週ごとに内容を記入し、達成目標欄には週ごとの内容に対応する達成目標の番号を記入する。授業で教科書を用いる場合は参照ページを記入する。なお、教科書を用いない場合には教科書参照ページ欄は削除する。
4. 実験・実習など、週ごとの説明がなじまない科目については、複数の週にまとめて記入する。
5. 「成績評価の方法」は、試験の予定、レポートなどの提出物の予定、成績の評価法など、第三者が見てわかりやすく記入する。
6. 「備考」は、受講上の注意などについて記入する。
7. 複数で授業を担当する場合は、担当者間でまとめて提出する。

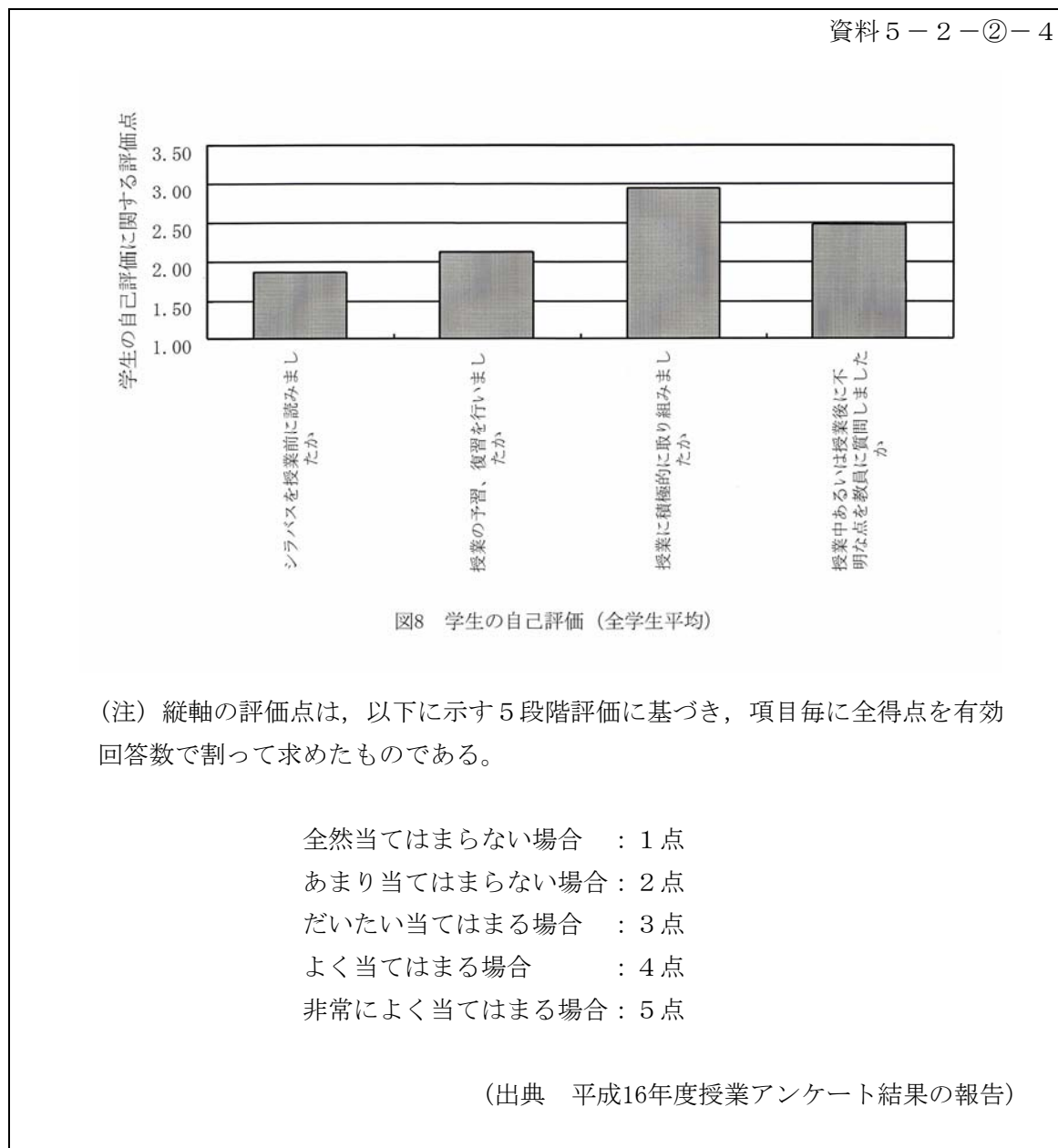
4・5年生及び専攻科生用シラバス様式に対する留意事項

1. 「科目名」は、邦文名と欧文名を記入する。専攻科科目において必修の場合は必修と明記する。研究室は、A棟、B棟、S棟、T棟○階(部屋番号)と記入する。
2. 「授業目的」「Course Objectives」は、学習内容・教育目標について記入する。
3. 「達成目標」「Outcomes/Aims」は、目標とする個別の学力レベルが分かるように5項目以上箇条書きで記述する。
4. 「学習・教育目標」は、下記URLにある「学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ」を参照のうえ、本校の学習・教育目標(A)～(H)のどれに当てはまるかを記入する。  
<http://web.maizuru-ct.ac.jp/kouhou/outline/JABEE/index.html>
5. 「キーワード」は、できる限り欧文名も記入する。
6. 「学習保証時間」は、実質授業時間で記入する。通常、通年1コマの場合、1.5時間×30週=45時間となる。
7. 「授業方法」は、具体的な授業の進め方、何に役立つかなど具体的に記述する。
8. 「履修上の注意」は、履修にあたっての注意事項等を記入する。
9. 「学習方法」は、自宅での予習・復習・宿題の進め方、レポートなどの提出物の出し方など具体的に記述する。
10. 「定期試験の実施方法」は、試験の実施方法、持ち込み可能なものなどを具体的に記述する。
11. 「評価方法」は、定期試験、レポート、演習問題の解答等の配点など、成績の評価法が第三者にも分かるようにできるかぎり具体的に記述する。また“出欠状況”や“平素の学習態度”は含めない。どうしても含める場合は、その評価基準と評価方法が明確に分かるように記述する。
12. 「カリキュラムの位置付け」は、前述のURLにある「各学科別に見た専攻科科目への流れ」を参照して、学習の流れが分かるように、(1)先行して履修すべき科目、(2)後で履修する関連科目、(3)同時に履修する関連科目について記入する。
13. 「教科書・教材等」は、授業において使用する教科書、教材等について記入する。
14. 「参考書・参照URL等」は、授業あるいは学生の自習において参考となる参考書・参照URL等を記入する。
15. 「授業計画」は、レジュメに従って週ごとの内容を記入する。達成目標欄には週ごとの内容に対応する達成目標の番号を記入する。授業で教科書を用いる場合は参照ページを記入する。なお、教科書を用いない場合には教科書参照ページ欄は削除する。実験・実習など週ごとの説明がなじまない科目については、複数の週にまとめて記入する。
16. 「学生へのメッセージ」は、学生の勉学に対する学習意欲を増進するように記入する。

以上

(出典 学生課資料)

「シラバスを授業の前に読みましたか」の設問に対して、全学生の平均値が2を下回っており、学生はあまりシラバスを活用していないという結果になっている（資料5-2-②-4）。



(分析結果とその根拠理由)

科目毎の学力レベル及び具体的到達目標が、学生に十分に理解されるようにシラバスは作成されており、授業内容や成績評価についても明確に定められている。教員によるシラバスの活用は良くなされているが、学生自身のシラバスの活用については、今後改善を要する。



観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

第4学年の実習科目において、創造性を育成するためのプログラムが組み込まれ、平成18年度から全学科でPBL方式の授業を行っている（資料5-2-③-1）。

インターンシップは、第4学年において実施している（資料5-2-③-2）。実習の成果はレポートにまとめて提出させるとともに、受入先の企業の指導者に対しても学生の評価をお願いしている（資料5-2-③-3～5）。

資料5-2-③-1

科 目 名	学 年	前期6時間 3単位	教 員 名	川勝 邦夫
創造設計製作 Engineering research production	4		研 究 室	A棟3階(A-310)
			内線電話	8933
			e-mail:	kawakatu@maizuru-ct.ac.jp
<b>【授業目的】</b> 各自のアイデアに基づき、新型軸継手を設計製作する。ただし条件は、入出力軸径を20mmとするこの課題の取り組みを通して、 1. 3学年までに学んだ設計製図、工作法、要素設計法、工作実習等の知識・技術の関連を理解する、 2. アイデア→基本設計→計画図作成→部品図作成→加工→組立→試運転→報告書作成→成果発表に至る一連の「ものづくり」システムを体験する。				
<b>【Course Objectives】</b> Students will study production system through the design of new couplings based on student's own ideas.				
<b>【達成目標】</b> 1. ものづくりのプランニングが出来る。 2. アイデアに基づきものを作ることが出来る。 3. 試運転により調整することが出来る。 5. 報告書の作成が出来る 4. 成果発表が出来る。			<b>【Outcomes/Aims】</b> Students will be able to : 1.plan of production systems. 2. produce new couplings based on their own ideas. 3.adjust with test working. 4.make of report. 5.presentation.	
<b>【学習・教育目標】</b> (C)				
<b>【キーワード】</b> ものづくり教育、 軸継手 Production education, coupling			<b>【学習保証時間】</b> 4.5時間×15週=67.5時間	
<b>【授業方法】</b> 1. 二人で一課題を取り組む。 2. 特殊部品については、各自負担とする。 3. 適宜、進捗チェックや取り組みについて質問する。			<b>【学習方法】</b> 1. 事前にシラバスを見て、取り組みのスケジュールを確認する。 2. 進捗計画は、各自が把握する。 3. 進捗に応じて、CAD演習室、実習工場、HR を使用する。	
<b>【履修上の注意】</b> 毎時間、実習が伴うので実習服を着用すること。			<b>【カリキュラムの位置付け】</b> 1. 先行して履修すべき科目  設計製図Ⅱ・Ⅲ、要素設計法  2. 後で履修する関連科目  設計製図Ⅴ  3. 同時に履修する関連科目  設計製図Ⅳ、機械設計法	
<b>【定期試験の実施方法】</b> 前期中間、期末試験は、行わない。				
<b>【評価方法】</b> 完成した作品(80%)と取り組み課題についての報告書・図面一式(10%)及びプレゼンテーション(10%)を総合評価する。				

資料 5-2-③-1 続き

<b>【教科書・教材等】</b> 自作プリント		
<b>【参考書・参照 URL 等】</b>		
<b>【授業計画】</b>		
週	内 容	達成目標
第 1 週	シラバス内容の説明、考案設計製作の概要説明・班分け	4M教室に集合
第 2 週	基本設計(資料調査等)	4M教室、図書館
第 3 週	何を設計製作するか決定する	進度チェック 1 4M教室、図書館
第 4 週	計画図作成	CAD演習室
第 5 週	同上	同上
第 6 週	部品加工図作成	進度チェック 2 同上
第 7 週	同上	同上
★前期中間試験		
第 8 週	部品加工図作成	CAD演習室
第 9 週	部品製作	進度チェック 3 実習工場
第 10 週	同上	同上
第 11 週	同上	同上
第 12 週	同上	進度チェック 4 同上
第 13 週	組立・調整	同上
第 14 週	報告書作成	CAD演習室、4M教
第 15 週	作品発表会	共通実験室 (A-326)
★前期末試験		
第 16 週		
第 17 週		
第 18 週		
第 19 週		
第 20 週		
第 21 週		
第 22 週		
★後期中間試験		
第 23 週		
第 24 週		
第 25 週		
第 26 週		
第 27 週		
第 28 週		
第 29 週		
第 30 週		
★学年末試験		
<b>【学生へのメッセージ】</b> 各自のアイデアをもとに、新型軸継ぎ手を設計製作する取り組みを通して、「ものづくり」のシステムを理解すると同時に、製作した軸継ぎ手が「完成したときの喜び」を体験して欲しい。 この喜び体験が、機械工学への関心をさらに高めてくれることと確信する。		

(出典 2006シラバス)

## 舞鶴工業高等専門学校インターンシップの 履修に関する規程（準学士課程）

### （趣旨）

第1条 この規程は、舞鶴工業高等専門学校学則第14条第2項の規定に基づく別表第2に掲げるインターンシップの履修に関し必要な事項を定める。

### （目的）

第2条 本校が開設するインターンシップは、企業等の現業において就業体験を通じて専門分野における知識・技術・業務に触れながら実務能力を深め、学生の新たな学習意欲を高めることを目的とする。

### （実施機関）

第3条 学生がインターンシップを受ける国若しくは地方公共団体の機関又は会社等の法人（以下「実施機関」という。）は、当該学科長、学級担任及び教務主事と協議の上、校長が選定する。

### （実施時期及び期間）

第4条 インターンシップの実施時期は、原則として夏季休業期間中とし、その期間は5日以上とする。

### （申込書及び誓約書の提出）

第5条 インターンシップの履修を受けようとする学生（以下「実習生」という。）及びその保護者は、インターンシップ申込書（第1号様式）及び誓約書（第2号様式）に必要事項を記入の上、学級担任を経て校長及び実施期間に提出しなければならない。

2 校長が必要と認めた場合には、前項の申込書及び誓約書は、実施期間の指定する申込書及び誓約書に替えることができるものとする。

### （就業心得）

第6条 実習生は、本校並びに実施期間の定める諸規則及び実施期間の責任者の指示に従って就業するものとする。

### （修了報告）

第7条 実習生は、インターンシップ修了後、速やかにインターンシップ実施証明書（第3号様式）を学級担任を経て学生課教務係へ提出するものとする。

2 単位の認定は、教務委員会の議を経て校長が行う。

3 インターンシップの単位認定は、5日～9日の実施を1単位、10日以上の実施を2単位のいずれかの単位を履修したものとする。

資料 5-2-③-2 続き

(保険及び経費)

第 8 条 インターンシップの実施に要する経費は、実習生の負担とし、傷害保険に加入するものとする。

(雑則)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、インターンシップの実施に必要な事項は、別に定める。

(事務)

第 10 条 インターンシップの実施に必要な事務は、学生課において処理する。

附 則

- 1 この規程は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 舞鶴工業高等専門学校インターンシップ実施規程（平成 11 年 7 月 6 日制定）は、廃止する。

(出典 平成18年度学生便覧54頁)

資料 5-2-③-3

## インターンシップ報告書

平成 17 年 8 月 31 日

舞鶴工業高等専門学校長 殿

機械工学科 4 年  
氏名

下記のとおりインターンシップが終了しましたので報告します。

実 習 先	長浜キャノン株式会社
実 習 先 所 在 地	滋賀県長浜市国友町 1280 番地
実 習 期 間	平成 17 年 8 月 1 日～8 月 12 日                      10 日間
実習の目的	ものづくりを通して社会生活を体験すること。
実習の内容	実際にセル生産ラインに入り、標準化規格に基づいてプリンタの包装作業を行った。次第にその作業に慣れてくると COMET と呼ばれるプリンタの画質検査も加わり、商品のナンバーリストの出し方など、様々な作業を教えてもらった。
実習の成果	人と人の関わりや会社とはどんなものがわかった。具体的には、会社にはいろいろな組織や部署がある。それぞれ違う職種だが、同じ目標を掲げることによって会社が成り立っていることがわかった。また、工場の中がどうなっているのか、どのように作られているのかがわかった。
感 想	まず、会社の広さに驚いた。工場では、無人車が動いていた、見たこともないような機材が多数置いてあり、からくりのあるセルラインなど、見るものすべてが新鮮であった。朝早くから出勤して、ずっと立ち仕事で初めは辛く感じた。また、厳しい言葉や注意も受けたが、実際に商品ができるまでの工程を体験でき、職場の人達にも良くしていただき、色々なことが学べたので、とても充実した 2 週間であった。

(出典 平成 17 年度インターンシップ報告書)

## 舞鶴工業高等専門学校インターンシップ成績評価実施要領

## (目的)

第1 この実施要領は、舞鶴工業高等専門学校インターンシップの履修に関する規程（以下「規程」という。）第9条の規定に基づき、インターンシップの成績評価に関し、必要な事項を定める。

## (成績評価)

第2 インターンシップの成績評価は、次の各号に掲げる評価を総合して行う。

- (1) インターンシップ受け入れ先の評価
- (2) インターンシップ報告書に対する評価
- (3) インターンシップ報告会における評価  
(インターンシップ受け入れ先の評価)

第3 前項(1)に掲げるインターンシップ受け入れ先の評価とは、インターンシップ実施証明書(規程第3号様式)に記載されている受け入れ先企業が行った5段階評価を、インターンシップ成績評価表(第1号様式。以下「成績評価表」という。)に定める方法により再評価したものをいい、担任又は専攻科長(以下「担任等」という。)が実施し、成績評価表に記載する。

## (インターンシップ報告書に対する評価)

第4 第2項(2)に掲げるインターンシップ報告書に対する評価とは、インターンシップの履修に当たり、学生に提出を義務付けたインターンシップ報告書について、担任等が成績評価表に定める方法により評価したものをいい、担任等が成績評価表に記載する。

## (インターンシップ報告会)

第5 学科長又は専攻科のインターンシップ担当教員(以下「学科長等」という。)は、当該学科等で行うインターンシップ報告会(以下「報告会」という。)についての計画を定め、インターンシップ報告会実施計画書(第2号様式)を夏季休業終了日までに学生課教務係に提出しなければならない。

- 2 報告会は、専門学科所属の教員又は専攻科担当教員の中から少なくとも3名が評価者となり、夏季休業終了後1ヶ月以内実施するものとする。
- 3 報告会は、インターンシップを履修した学生(以下「実習生」という。)一人当たり発表5分、質疑応答3分を標準として実施する。

## (報告会における評価)

第6 第2項(3)に掲げるインターンシップ報告会における評価とは、学科等が実施する報告会における実習生の発表内容について、インターンシップ報告会評価表(第3号様式。以下「報告会評価表」という。)に定める方法により評価したものをいう。

資料5-2-③-4 続き

2 学科長等は、報告会の実施後速やかに成績評価表に報告会における評価を記載し、報告会評価表及びインターンシップ成績評価書（第4号様式。以下「成績評価書」という。）とともに、学生課教務係に提出するものとする。

（成績の認定）

第7 インターンシップの成績は、学科長等から提出された成績評価表、報告会評価表及び成績評価書に基づき、教務委員会又は専攻科委員会の議を経て、校長が認定する。

（成績評価表等の保存）

第8 学科長等から提出された成績評価表、報告会評価表及び成績評価書は、学生課教務係において5年間保管する。

附 則

この実施要領は、平成18年4月1日から施行する。

（出典 運営会議資料）



資料5-2-③-5

第3号様式

## インターンシップ実施証明書

機 関 名	舞鶴工業高等専門学校		学科 ・学年	工学科 学年		
氏 名			期 間	年 月 日～ 年 月 日		
実施場所				実働	日間	
テ ー マ						
評 価	評 価	<input type="checkbox"/> 優れている <input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 劣る				
	実務態度 について 総合所見					
	出欠状況 (日数)	出 勤	欠 勤	遅 刻	早 退	
		日	日	日	日	
備 考						

年 月 日

上記のとおり実務経験を実施したことを証明いたします。

実施機関名

責任者氏名

印

(出典 平成18年度学生便覧57頁)

(分析結果とその根拠理由)

創造工学に関する科目を設け、PBL方式で授業を実施して創造性の育成を図っている。また、インターンシップは企業等における実践力の育成を目指し、第4学年で実施している。

以上のことから、創造性を育む教育方法の工夫を行っており、インターンシップの活用が十分に行われている。

**観点5-3-①：** 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

資料5-3-①-1に示す規則を定め、学年の修了及び卒業に必要な修得単位数を規定している。この規則に基づき科目毎のシラバスに評価方法を明示し、成績評価・単位認定が行われている。

進級および卒業認定は、前述資料に基づき全教員による会議において判定を行っている(学年末成績一覧表および学年末不合格科目一覧については、訪問調査時に提示可能)。また、仮進級に係る規定を設けているが、学年制の趣旨を損なわないために、「追試験」、「再試験」の実施条件を定め、厳格かつ慎重に実施されている(資料5-3-①-2)。これらの規則は、学生便覧及び年度当初のガイダンスで周知を図っている(資料5-3-①-3)。

舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の  
課程の修了及び卒業の認定に関する規則（準学士課程）

第1章 総則

（目的）

第1条 この規則は、舞鶴工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第15条に規定する学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定等について定めることを目的とする。

第2章 学業成績の評価

（学業成績の評価）

第2条 学業成績の評価は、学期評価及び学年評価を行う。

2 学業成績の評価は、当該教科目について予め目標とした事項を学生が習得したか否か、また、学生の能力、それまでの学力の下で期待されるレベルまで達成されたか否かについて行うものとする。

3 前項に規定される評価は、可能な限り客観的かつ総合的でなければならない。

第3条 学業成績の評価は、100点法によって行う。

2 評価の区分は、次の区分基準により評語で示すことができる。

- (1) 100～90 A+
- (2) 89～80 A
- (3) 79～70 B
- (4) 69～60 C
- (5) 59～0 F

3 学期評価は、試験の成績、出欠状況並びに平素の学習状況を総合して評価するものとする。

4 各科目担当教員は、学業成績の評価の基礎となる試験の成績、出欠状況、平素の学習状況、授業外課題の履修結果等を保存しなければならない。

5 学生が評価の基礎について説明を求める場合は、各科目担当教員はこれを開示しなければならない。

6 期末試験を行うことなく、学業成績の評価を行う場合は、事前に成績評価の基礎となる資料を教務委員会に提出しなければならない。

7 教務委員会は、前項の学業成績の評価について審議し、教務主事の承認を受けるものとする。

8 学年評価は、原則としてその学年の各学期評価を平均したものとする。

9 学年評価においては、欠席時間数が出席すべき総時間数の3分の1を超える科目の評価は、59点以下とする。

第 4 条 故意に試験に欠席したと認められた者、又は懲戒処分のため試験を受けることができなかった者の当該科目の試験の成績は零点とする。

(不正行為者等に対する措置)

第 5 条 試験中不正行為を行った者は、当該時間以後の試験を受けさせず、当該試験期間中の全科目の試験の成績を零点とし、懲戒を加える。

### 第 3 章 試験

(種類)

第 6 条 試験は、次の 4 種類とする

- (1) 期末試験
- (2) 中間試験
- (3) 追試験
- (4) 再試験

(期末試験)

第 7 条 期末試験は、各学期末に実施する。

(中間試験)

第 8 条 中間試験は、各学期の中間に実施する。

(追試験)

第 9 条 追試験は、病気その他やむを得ぬ理由により試験に欠席した場合、又は過年度において当該科目の単位を修得できなかった者に限り実施することができる。

2 科目担当教員は、追試験を実施する場合、教務委員会に予め試験の方法及び評価方法について届け出るとともに教務主事の承認を受けておくものとする。

(再試験)

第 10 条 再試験は、学年評価において 59 点以下の評価の科目がある場合、教員会議の議を経て実施することができる。

- 2 再試験は、その実施が決定された日から速やかにこれを実施するものとする。
- 3 科目担当教員は、前項の再試験の成績に基づく再評価を速やかに文書で提出しなければならない。

### 第 4 章 学年の課程の修了、進級並びに卒業の認定

(定義)

第 11 条 学則別表第 1 及び第 2 に規定する各学年修了時又は卒業時に修得すべき単位数を、学年修了単位数又は卒業単位数という。

2 学年修了単位数又は卒業単位数を満たす、それぞれの学年で修得すべき単位数を、年間必要単位数という。

資料 5-3-①-1 続き

## (進級認定)

第 11 条の 2 校長は、教員会議の議を経て、学年評価において当該年度で履修した科目のうち、年間必要単位数を満たす科目の学年評価において各科目の評価が 60 点以上である者を各学年の課程を修了したものと認定し、進級させる。

2 学年評価において 59 点以下の科目について第 10 条の再試験が行われた場合には、再試験の成績に基づく再評価を用いて、前項により進級認定を行うことができる。

## (留年)

第 12 条 次の各号のいずれかに該当する者は、進級を認めず原学年にとどめる。

(1) 学年修了単位数を満たす科目のうち 60 点未満の評価を受けた科目の総単位数が 7 単位以上の者

(2) 欠席日数が年授業日数の 3 分の 1 を超える者

(3) 特別活動の欠席時数が年間総時数の 3 分の 1 を超える者

2 原学年にとどめられた者は、所定の科目を再履修するものとする。同一学年に引き続き 2 回留年となる者は、以後の在学を認めない。ただし、休学した者についてはこの限りではない。

## (仮進級)

第 13 条 校長は、教員会議の議を経て、第 11 条の 2 及び第 12 条に該当しない者の仮進級の可否を決定する。

## (修了認定の特例)

第 14 条 校長は、特別の事情がある場合、学年修了単位数を満たす各科目の学年評価が 50 点以上である者を、教員会議の議を経て、当該学年の課程を修了した者と認定することができる。

## (卒業認定)

第 15 条 校長は、教員会議の議を経て、卒業単位数を満たす科目の学年評価が各科目 60 点以上である者を、本校全学年の課程を修了したものと認定し卒業させる。

## (在学年数)

第 16 条 第 13 条、第 14 条及び第 15 条の認定においては、第 11 条の 2 第 2 項の規定を準用する。

## (在学年数)

第 17 条 全在学年数は 7 年までとする。ただし、休学期間は在学年数に算入しない。(補則)

第 18 条 この規則の実施について必要な事項は、別に定める。

## 附 則

この規則は、平成 18 年 11 月 1 日から施行する。

(出典 平成 18 年度学生便覧 45-47 頁)

資料5-3-①-2

## 追試験について（準学士課程）

学業成績評価に関する規則第9条の追試験は、次の理由による場合に限り実施されるので、該当する学生は学級担任又は教科担当教員に申し出て指示を受けること。

- (1) 病気による場合、ただし医師の診断書の提出が必要である。
- (2) 公欠扱いにされた場合
- (3) 忌引の場合
- (4) 過年度未修得の場合（追試験を希望する学生は担任と相談の上、4月中に手続きを行うこと）
- (5) その他校長の承認した場合

## 再試験について（準学士課程）

学業成績評価に関する規則第10条の再試験は、次の理由による場合に限り実施されるので、該当する学生は学級担任又は教科担当教員に申し出て指示を受けること。

- (1) 再試験は、再試験を希望する時点の当該学年修了後退学を予定している場合、または再試験を希望する時点で学年が5年生であって、学年修了または卒業するのに必要な単位数に対して、不足単位数が6単位以内の学生に限り、校長によって許可されることがある。
- (2) 再試験が可能な科目は、欠席時数が出席すべき総時間数の3分の1を超えない科目であること。
- (3) その他校長の承認した場合

(出典 平成18年度学生便覧49-50頁)

資料5-3-①-3

## 履修の手引(本科生用)

## 目次

科目の履修及び単位の取扱いについて .....	1
並列開講科目の履修手続 .....	3
平成17年度授業科目及び修得単位数 .....	7
履修科目内容概略 .....	13
一般科目 .....	13
専門共通選択科目 .....	18

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

成績評価等に係る詳細な規則を定め、学生に周知を図っている。科目毎の成績評価の適切性を担保するため、シラバスの様式にも配慮している。また、進級・卒業判定会議は慎重かつ厳格な運営を行っている。

以上のことから、成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、それらが適切に実施されている。

**観点 5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。**

(観点に係る状況)

第1～3学年において週1単位時間の特別活動を行っている(資料5-4-①-1)。学級担任には、年度当初に指導の一助として「学級担任のしおり」を配布されており、各担任が計画・立案した様々な取り組みがなされている(資料5-4-①-2及び3)。また、新入生合宿研修、研修旅行および環境美化活動を実施し、人間の素養の涵養に役立てている。(資料5-4-①-4～6)。

資料 5-4-①-1

舞鶴工業高等専門学校学則

(教育課程)

第14条 本校の教育課程は、授業科目及び特別活動をもって編成する。

2 学年ごとの授業科目及びその単位数は、一般科目にあつては別表第1、専門科目にあつては別表第2のとおりとする。

3 各授業科目の単位数は、30単位時間の履修を1単位として計算するものとする。

4 前項の規定にかかわらず、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

5 特別活動は、第1学年から第3学年まで各学年30単位時間を実施するものとする。

(出典 平成18年度学生便覧 5頁)

## 資料 5-4-①-2

## 目次

1. 学級運営の方針・計画	1
1-1. 学級運営の方針	1
1-2. 学級運営の計画	1
2. 学級組織と教室	1
2-1. 学級組織	1
2-2. 教室	2
3. 学習指導	2
3-1. 学生の成績履歴	2
3-2. 日常の学習指導	3
3-3. 定期指導時の指導	3
3-4. 進路指導	3
4. 生活指導	4
4-1. 出欠の把握	4
4-2. 身だしなみ	5
4-3. 校外生活	5
4-4. 盗難防止	5
4-5. 寮生の指導	6
4-6. 下宿生の指導	6
4-7. 女子学生の指導	6
4-8. 自宅通学生の指導	6
4-9. 車両使用に関する指導	7
4-10. クラブ活動の指導	7
4-11. 学生相談室・保健室等との連携	7
5. 学校行事の指導	7
5-1. 学校行事の指導	7
6. 保護者との連絡	8
6-1. 日常的な連絡	8
6-2. 定期試験ごとの連絡	8
6-3. 後援会支部総会	8
7. 事務的業務	9
7-1. 身上書の活用	9
7-2. 授業料免除申請	9
7-3. 奨学金申請	9
8. 突発的事態への対応	10
8-1. 学校管理下での事故等の場合	10
8-2. 学生の身柄引き取りについて	10

(出典 学級担任のしおり)



資料5-4-①-3

## 平成17年度 特別活動(HR)年間実施記録

1年1組担任 丸山 兼泰

時間数	月 日	内 容
1	4/11	4月行事予定連絡, 1年間の方針と注意事項
2	4/18	合宿研修についてのレポート, クラス委員等の選出
3	4/25	本校創立40周年式典の連絡, 学校だよりの原稿について
4	5/ 9	5月行事予定連絡, 「進路について」の講話
5	5/16	環境美化活動の連絡, 球技大会の選手選出, 座席替え
6	5/23	前期中間考査の注意, クラス目標の決定「仲良く, 元気なクラス」
7	5/30	前期中間考査の注意, 掃除
8	6/13	前期中間試験と次の試験の対策について, 掃除
9	6/20	寮生活の諸問題と対策について, 掃除
10	6/27	校長講話「社会がどんな人を必要としているか」, 成績票配布
11	7/ 4	7月行事予定連絡, 入寮制度の改正についての説明, 掃除
12	7/11	夏休み中の諸注意, 連絡(授業変更, 補講日など), 大掃除
13	8/11	9月行事予定連絡, 前期期末試験について
14	9/ 5	海外派遣学生(2名)報告会
15	9/12	高専祭の諸注意, 前期期末試験の諸注意, 掃除
16	10/ 3	10月行事予定連絡, 座席替え, 後期掃除当番について
17	10/17	講演会「正しく自分を愛すること」木下明美(ジャーナリスト)
18	10/24	学業成績について学生便覧を用いた説明・確認
19	10/31	マラソン大会の連絡, 成績不振学生との面談
20	11/14	講演会「宇宙科学と地球環境」若松謙一(岐阜大)
21	11/21	11月行事予定連絡, 校長とのフリートーキングの代表者選出
22	11/28	校長とのフリートーキングのテーマ決定, 後期中間テストの注意
23	12/12	12月行事予定連絡, 個人写真の撮影, アンケート(入学動機等)
24	12/19	校長とのフリートーキングの報告会(1年全員)
25	1/10	1月行事予定連絡, 雪害に関する連絡
26	1/16	座席替え, 転学科に関する説明
27	1/23	学年末試験について, 閉寮日の説明
28	1/30	TOEIC試験の実施
29	2/ 6	2月行事予定連絡, 転学科に関する説明
30	2/13	学年末試験について, 4月からの予定について

(出典 学生課資料)

## 平成17年度 新入生合宿研修実施要項

1. 目的 集団生活における友情，互助，寛容等の精神を学び，教職員と寝食を共にすることにより，相互信頼と規律遵守の態度を身に付けることを目的とする。
2. 期 日 平成17年4月14日(木)～4月15日(金)
3. 場 所 国立若狭湾少年自然の家（小浜市田島区大浜）
4. 対 象 新入生全員
5. 日 程 別紙のとおり
6. 費 用 学生負担 2,730円（研修旅行積立金から控除）
7. 引 率 学生主事，主事補，学級担任，副担任，学生係職員（計13名）
8. 服 装 往復路とも体育の服装とし，靴は運動靴とする
9. 携行品 上履き(体育館シューズ)，洗面具，石鹸，タオル2本，着替え，セーター(ジャンパー)，寝間着，健康保険証，ビニールカップ，ノート，筆記具，その他
10. その他
  - (1) 合宿場所への飲食物の持ち込みは厳禁。
  - (2) 携行品(特に運動靴)には名前を書いておくこと。
  - (3) 乗り物酔い(バス・船)をする者は，予め学生係まで申し出るとともに，各自で酔い止めの薬を用意しておくこと。
  - (4) 合宿場所での活動内容に応じて，「役割分担及び班編制表」のとおりクラス毎に班分け等を行う。なお，役割の内容は下記のとおりである。

総括班長	引率指導者との連絡，クラス全体のまとめ
班長	総括班長との連絡，班全体のまとめ，班活動の運営，人員の確認，各係との連絡
副班長	班長の補助，活動の記録，消灯と戸締まりの確認
寝具係	シーツ，枕カバーの受け取りと返納，毛布整理の点検
清掃係	清掃分担の指示・点検，ごみ処理と忘れ物点検
食事係	食事の世話と後片づけの点検
活動係	活動場所・集合時刻の確認，活動用物品の借用と返納，ラジオ体操の指導，ゲーム等の準備と後片づけ
保健係	けが人・病人の世話，入浴順序の確認，入浴後の整理点検

(出典 新入生合宿研修 生活のしおり 3頁)

資料 5 - 4 - ① - 5

## 舞鶴工業高等専門学校研修旅行実施要領

## (目的)

1. 研修旅行は、授業で修得した専門の知識・技術を効果的に発展向上させるため、実社会の研究施設等の実地見学を行うことにより、幅広い教養を育成するとともに、国際的な見聞を広め、豊かな人間性と優れた技術者としての資質を養うことを目的とする。

## (計画)

2. 教務主事所管のもとに、当該学年の学級担任が学科長と協力の上計画を策定し、校長の許可を得て実施する。これに関する事務は学生課教務係で行う。なお、学級担任及び学科長は旅行計画を決定し、研修旅行実施伺(様式1)を6月末日までに教務係へ提出する。

## (実施時期)

3. 第4学年で実施し、原則として夏季休業後に実施する。

## (見学先)

4. 見学先は、国内又は海外の教育研究機関・事業所等とし、原則として2カ所とする。

## (引率)

5. 引率者は、当該学級担任を含む教員2名とする。

## (行程)

6. 旅行行程は、本校・目的地間の往復とする。

## (経費)

7. 必要な経費は学生の負担とし、本校から目的地間往復の経費を負担する。

## (位置付け)

8. 授業の一環として実施する。

## (不参加者)

9. 旅行に参加しない者は、その理由を、学級担任を経て校長に届け出て許可を得るものとする。

10. 旅行の不参加者は、旅行期間中も登校し、学科長からの指示を受けて与えられた課題を行うものとする。

## (報告書)

11. 引率の学級担任等は、研修旅行が今後より一層有意義な行事となるよう研修旅行報告書(様式2)を実施後速やかに提出する。

## 附 則

この実施要領は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 学生課資料)

資料5-4-①-6

## 平成17年 秋の環境美化一斉清掃 実施要項

1. 目的：本活動は、環境に対する関心や意識を高め、本校の学習環境の整備を図ることを目的に、全学生及び教職員が全校をあげて本校の環境美化に取り組むため、校内及びその周辺部の一斉清掃を行う。
2. 日時：平成17年10月13日(木)午前9時～10時
3. 場所：本校構内・学寮・外周道路及び白屋川(一部外周南東側道路を含む)。
4. 対象：全学生及び教職員
5. 実施方法：清掃区域は、別表のとおりクラス別に指定された区域を清掃する。主な作業は、ごみ拾い、空き缶回収、廃棄物回収、草刈り、刈草回収等である。
6. 集合場所：学生は、図書館北側広場に午前9時に集合し、学級担任の点呼を受けること。
7. 指導体制：厚生補導部会委員・学寮委員会委員・学級担任・学生会役員・事務部課長・専門員・専門職員・各係長
8. その他：一斉清掃終了後、スポーツフェスタ(球技大会)となるので、学生の服装は体操服でよい。

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

毎週行われる特別活動によって、人間の素養の涵養に資する取り組みを行っている。また、様々な学校行事を通して、他人や社会との関わり方を身に付けられるよう配慮している。

以上のことから、特別活動の実施などを通して人間としての素養が涵養されるよう配慮している。

**観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。**

(観点に係る状況)

毎年度、学生指導体制と指導方針(資料5-4-②-1)が立てられている。また、外部講師を招いて各種講話を開催している(資料5-4-②-2)。各クラブには顧問を配置し、その指導の下、活動を行っている(資料5-4-②-3及び4)。優れた実績をあげているクラブも多く、学生の人間の素養の涵養に大きく貢献している(資料5-4-②-5及び6)。

資料 5-4-②-1

## 学生委員会議事概要

1. 日 時 平成17年4月4日(金) 9:00～10:35
2. 場 所 中会議室
3. 出席者 竹内委員長, 荒川, 小野, 梅垣, 篠原, 鈴木, 片山,  
竹澤, 長谷川, 仲川, 川田, 三輪, 加登各委員
- 陪席者 橋本学生係長

## 4. 協議事項

## (1) 本年度の指導方針について

委員長から昨年度の活動実績を元に継続性を維持しつつ, 委員の意見を参考に新しい取り組みも取り入れていきたい旨の説明があり, 委員各位への協力依頼があった。その中で生活指導に関連し, 2月16日の火遊び事件の処分と処分に至るまでの経緯等の説明があった。

## ○ 学生生活指導

ルールを守り, 健全な学生生活を送るための支援  
社会人としての常識を身につける指導

## ○ 交通ルールの遵守

交通安全のルールを守り, 安全運転のための支援  
交通安全講習会の実施と迷惑路上駐車禁止指導

## ○ 学内の環境美化

綺麗になった学校を美しく保つための活動の継続実施  
美しさを維持するための校内美化運動の推進

## ○ 課外活動の活性化や学生会活動の活性化

学生生活にメリハリをつけるための活動を支援  
人格の陶冶と社会性やボランティア精神を育てる活動

## (2) 役割分担について(先頭の教員がチーフ)

業務	担当者	業務	担当者
新入生合宿研修	仲川・梅垣・長谷川	事件・事故	小野・三輪・竹澤
交通安全指導	小野・松井・長谷川	学生会・クラブ指導	片山・荒川
生活指導(禁煙)	川田・三輪・鈴木	マラソン大会	篠原・梅垣・竹澤・加登
高専祭指導	仲川・川田・加登	講演会の企画と運営	荒川・岩崎・松井
校内美化	篠原・岩崎・鈴木	全校大会の準備	主事補・梅垣
主事の代理	小野	(健康指導)	(坂根看護師)

## (3) 交通安全講習会の開催

別紙により受講確認の協力要請があった。

(出典 学生委員会資料)

資料 5 - 4 - ② - 2

## 学生対象講演会・講習会一覧

		平成16年度	平成17年度
交通安全講習会	期 日	4月12・13日	
	場 所	視聴覚教室	
	講 師	舞鶴東警察署	
	対 象	バイク・車両持ち込み予定者	
	参加人数	375	364
	リーダーシップ セミナー	期 日	5月14・15日
場 所		こぶし荘	城山荘
講 師		中学教諭	消防署
		秋原栄人	課長
対 象		学生会	寮生会
参加人数		34	38
薬物乱用防止 講習会	期 日	11月22日	11月21日
	場 所	視聴覚教室	視聴覚教室
	講 師	舞鶴東警察署 生活安全課長	舞鶴東警察署 生活安全課係長
	対 象	3年	3年
	参加人数	143	151
エイズ防止及び タバコの害に ついての講演会	期 日	1月31日	2月6日
	場 所	視聴覚教室	視聴覚教室
	講 師	中丹東保健所技師	中丹東保健所技師
	対 象	2年	2年
	参加人数	145	158
カウンセリング 講演会	期 日	6月14日	実施せず
	場 所	視聴覚教室	—
	講 師	本校カウンセラー	—
	対 象	1年	—
	参加人数	174	—
人権講演会	期 日	11月15日	10月17日
	場 所	視聴覚教室	視聴覚教室
	講 師	ジャーナリスト	ジャーナリスト
		木下明美	木下明美
	対 象	1年	1年
	参加人数	168	172

(出典 学生課資料)

資料5-4-②-3

## 平成17年度クラブ・同好会顧問一覧表

平成17年4月19日

クラブ名	顧 問 名		クラブ名	顧 問 名	
陸上競技	小野伸一郎	生水 雅之	護身武術	岡本 寛昭	
	奥村 幸彦	西山 等	空手道	大嶋 毅	鈴木 立人
男子バスケボール	篠原 正浩	西岡 勝博	ローイング	亀谷 睦	牧野 州秀
	森尾 敏	町田 秀和	弓道	川勝 邦夫	宮崎 操
女子バスケボール	亀谷 睦	永井 宏	自動車	白藤 中生	野間 正泰
男子バレーボール	田村 修一	川合 茂		谷川 博哉	
	金森 満		アマチュア無線	金山 光一	
女子バレーボール	小松 幸恵	伊藤 直人	吹奏楽	西山 等	馬場 秀和
	丸山 兼泰			長谷川真司	荒川 吉孝
ソフトテニス	片山 英昭	三輪 浩	フットボール コミュニティ	山田 博	
	宮崎 昭仁			三輪 浩	片山 英昭
卓球	仲川 力	平地 克也	技術科学研究会	船木 英岳	
	加登 文学			西山 等	辻 正
柔道	三川 譲二	東田 剛志	電子制御 研究会	金森 満	岩崎 和春
	背戸柳 実			町田 秀和	川田 昌克
剣道	梅垣 浩二	吉永 進一	同好会名	仲川 力	竹澤 智樹
	梅原 康生			顧問名	
サッカー	岡 昭二	和田 優	ボクシング	天野 耀鴻	
	鈴木 立人	森尾 敏	ストリートバスケット	東田 剛志	
	新池 一弘		フットサル	森尾 敏	
硬式野球	樽井 武	川勝 邦夫	フリークライミング	川勝 邦夫	
	四蔵 茂雄	荒川 吉孝	モータースポーツ	野間 正泰	
ハンドボール	高田 眺男	村上美登志	軽音楽	牧野 州秀	
	松井 信義		自然科学研究会	奥村 幸彦	
バドミントン	伊藤 直人	丸山 兼泰	ボランティア	山田 博	
	北原 紀之	武田 八郎	囲碁・将棋	背戸柳 実	
	宮野 敏男		文学研究会	村上美登志	
水泳	垂谷 茂弘	川田 昌克	鉄道研究会	吉永 進一	
	谷川 博哉		E S S	樽井 武	
テニス	船木 英岳	中川 重康	マルチメディアサーチ	吉永 進一	
	竹内 敬治	和田 優	ビジュアルデザイン	高谷 富也	
	竹澤 智樹		華道	小松 幸恵	

※チーフ顧問は左上太字

(出典 学生課資料)

資料 5-4-②-4

## 夏季合宿クラブ一覧

クラブ名	人数	合宿期間	合宿場所
弓道	11(2)	7月22日(金)～27日(水) 7月29日(金)～30日(土)	男子 合宿所 女子 青葉会館
吹奏楽	21(4)	7月22日(金)～31日(日)	男子 研修所, 女子 青葉会館
サッカー	13	7月22日(金)～8月1日(月)	合宿所
陸上競技	15(2)	8月1日(月)～6日(土)	男子 合宿所, 女子 青葉会館
硬式野球	16	8月1日(月)～30日(火)	合宿所
技術科学研究会	7	7月22日(金)～8月30日(火)	7月合宿所, 8月研修所
電子制御研究会	9(1)	7月22日(金)～8月30日(火)	研修所
プログラマーズコミュニティ	14	7月22日(金)～8月30日(火)	研修所
男子バレーボール	14	8月20日(土)～28日(日)	合宿所
男子バスケットボール	6	8月9日(火)～19日(金)	合宿所
自動車	4 2	8月1日(月)～8日(月) 8月18日(木)～22日(月)	研修所

( )は、女子学生数内数

女子学生の合宿中は、顧問教員が青葉会館2階の研修室で宿泊指導を行う。

## 使用施設一覧

場 所	期 間
第1体育館	7月22日(金)～8月30日(火) (7/27～8/1を除く)
第2体育館	7月22日(金)～27日(水), 8月9日(火)～28日(日)
武道場(剣道場)	7月22日(金)～8月30日(火)
トレーニングセンター	7月22日(金)～8月30日(火)
第1グラウンド	7月22日(木)～8月6日(土)
野球場	7月22日(金)～8月30日(火)
合宿所	7月22日(金)～8月30日(火)
合宿研修所	7月22日(金)～8月30日(火)
学生食堂	7月22日(金)～8月30日(火)
青葉会館(2階)	7月22日(金)～8月6日(土)
創造工房(A-116)	7月22日(金)～8月30日(火)
図書館1階	7月22日(金)～8月30日(火)
制御応用実験室	7月22日(金)～8月30日(火)
FA実験室	7月22日(金)～8月30日(火)
少人数教室(B-406,B-407)	7月22日(金)～8月30日(火)
実習工場	7月22日(金)～8月30日(火)

(出典 学生課資料)



資料5-4-②-5

## 課外活動成績一覽

## 《体育系》

## 第40回近畿地区高等専門学校体育大会

## 【団体戦】

硬式野球		3位
バレーボール(男子)		3位
陸上競技(男子総合)		3位

## 【個人戦】

## [陸上競技] 男子

400m	氏家 陽一	2位
800m	吉田 允	2位
5000m	毛呂 繁晴	2位
走高跳	杉田 一貴	2位
砲丸投	田中 達也	2位
やり投	熊谷 将吾	3位

## [陸上競技] 女子

800m	曾根 由輝子	2位
------	--------	----

## [バドミントン] 女子

シングルス	大村 遙	3位
-------	------	----

## [柔道] 男子

90キログラム級	工藤 康平	3位
73キログラム級	土井川 雄士	3位

## [水泳] 男子

400Mメドレーリレー		2位
100M背泳ぎ	大宅 宗明	優勝
200M背泳ぎ	鳥井 亮吾	2位
800M自由形	鳥井 亮吾	3位

## 第38回全国高等専門学校体育大会

## [陸上競技] 女子個人

800m	曾根 由輝子	7位
------	--------	----

## 第40回舞鶴・ナホトカ姉妹都市通信競技会

## [陸上競技] 男子個人

走高跳	武田 康助	優勝
三段跳	久留米 和之	優勝
砲丸投	田中 達也	優勝
円盤投	又吉 賢太郎	優勝

## 第7回若狭高浜はまなすマラソン大会

男子個人 10km	毛呂 繁晴	優勝
女子個人 10km	谷口 有佳	優勝

## 第3回神戸全日本女子ハーフマラソン大会

個人	曾根 由輝子	14位
	谷口 有佳	16位

## 平成15年近畿地区高等専門学校駅伝競走大会

男子団体	優勝(大会新記録)
------	-----------

## 第28回舞鶴市民ロードレース大会

男子個人 10km	宮崎 浩企	優勝
女子個人 10km	谷口 有佳	優勝

## 第17回天の橋立ハーフマラソン大会

一般男子 29歳以下の部		
個人	吉田 允	優勝

## 2004大阪国際女子マラソン

個人	谷口 有佳	98位
----	-------	-----

## 第54回京都学生柔道大会

男子団体第2部		3位
---------	--	----

## 第50回舞鶴市青少年柔道大会

男子個人 86キログラム級	梶原 治	2位
男子個人 65キログラム級	桑原 弘	3位

## 第32回舞鶴サッカー選手権大会

優勝

## 第29回舞鶴フットサル選手権大会

準優勝, 3位

## 第58回国民体育大会秋季大会山岳競技

クライミング競技少年男子	奥井 健吾	優勝
--------------	-------	----

## 《文化系》

## 第14回全国高専プログラミングコンテスト

課題部門団体	審査員特別賞
--------	--------

## 第17回Hondaエコノパワー燃費競技鈴鹿大会

グループV団体	3位
---------	----

## 第16回舞鶴市吹奏楽連盟アンサンブル

コンテスト 団体	銀賞
----------	----

## 第8回近畿・中部地区高専将棋大会

男子個人	小谷 賢章	敢闘賞
------	-------	-----

## アイデア対決・全国高等専門学校ロボット

## コンテスト2003 近畿地区大会

団体	優勝及び特別賞(ホンダ技研)
----	----------------

## アイデア対決・全国高等専門学校ロボット

## コンテスト2003 全国大会

団体	ベスト8
----	------

## 《学生会》

## 第39回献血運動推進全国大会

団体	厚生労働大臣表彰
----	----------

(出典 2003年度 舞鶴高専年報)

資料5-4-②-6

表1 ロボコン参加の実績

回	年度	競技名	ロボット名	チーム形態	登録選手	指導教官	成績
		期日・会場(近畿地区大会/全国大会)					
1	1988	乾電池カー・スピードレース 8/11 NHKCT01 スタジオ					不参加
2	1989	アウトバス・フットボール 8/12 横浜・新都市ホール	ダンク君	有志	岩見慎也・富森知史・吉竹伸	小西経男	1回戦敗退
3	1990	ニュートロンスター 8/22 国立代々木競技場第2体育館	つるつるパッパロー	有志	慶原義高・井ノ口勝幸・小林省三	小西経男	予選敗退
4	1991	ホットタワー 10/20 奈良高専第1体育館/11/3 国技館	まんじ丸	有志	今石正夫・奥藤昭憲・小谷健一郎	小西経男	地区1回戦敗退
5	1992	ミステリーサークル 11/1 大阪府立高専体育館/11/15 国技館	ちーちゃん	有志	寺島彰一・中西裕幸・須川英樹	西山 等	地区1回戦敗退
6	1993	ステップダンス 10/24 明石高専体育館/11/21 国技館	ダンシングクレーン	技術科学研究会	芳賀健治・坪根太平・桑原直樹	小西経男	地区優勝/全国2回戦進出
7	1994	スペースフライヤー 10/30 けいはんプラザ/11/20 国技館	ハイレチャッタ号	技術科学研究会	今石正夫・小川泰弘・田村寿裕	西山 等	地区2回戦(初戦)敗退
8	1995	ドリムタワー 11/5 神戸市立高専体育館/11/19 国技館	舞っちゃった号	技術科学研究会	山田悟・梅垣祥志・坪根太平	仲川 力	地区2回戦進出
9	1996	テクノカウボーイ 10/20 舞鶴文化公園体育館/11/17 国技館	パワースクラム号	技術科学研究会	平井義雄・高萩道徳・田村寿裕	小西経男	地区1回戦敗退
10	1997	花開蝶来 10/12 新宮市立総合体育館/11/23 国技館	Vスベック	技術科学研究会	高萩道徳・梅垣祥志・八木信矢	西山 等	地区2回戦(初戦)敗退・アイデア賞
11	1998	生命上陸 10/18 大和歌山市多目的体育館/11/22 国技館	円盤パパンパン	電子制御研究会	ジェイノ森藤・宮川 学・山田真弘	仲川 力	地区2回戦(初戦)敗退
12	1999	ジャンプタワー・ザ・フューチャー 10/17 大阪府立高専体育館/11/28 国技館	Vスベック2	技術科学研究会	田村寿裕・高萩道徳・山田 悟	西山 等	地区優勝/全国ベスト4
13	2000	ミレニアム・メッセージ 10/29 明石高専体育館/12/3 国技館	BIG-BANG	電子制御研究会	宮川 学・赤塚友一・菅 博	仲川 力	地区1回戦敗退
14	2001	Happy Birthday 39 10/28 和歌山高専第1体育館/11/25 国技館	トレジャーハンター	技術科学研究会	豊福勝広・中田祥吾・岡橋明広	西山 等	地区1回戦敗退・技術賞/全国1回戦敗退・技術賞
15	2002	プロジェクトBOX 11/10 神戸市立高専体育館/11/24 国技館	～輪舞～	電子制御研究会	赤塚友一・田中邦裕・伊野哲也	町田秀和	地区1回戦敗退
16	2003	鼎(KANAE) 10/19 舞鶴文化公園体育館/11/23 国技館	EGG MEN	技術科学研究会	中田祥吾・ウズナサン・一色恵介	西山 等	地区準優勝/全国1回戦敗退
			翔鶴	電子制御研究会	福井英夫・室 務・トング	小西経男	地区2回戦進出・技術賞
			コミカルトレイン	技術科学研究会	中田祥吾・大西伸介・岡橋明広	西山 等	地区準優勝
			旋鶴	電子制御研究会	福井英夫・梅上丈陽・遠水浩治	小西経男	地区1回戦敗退
			ザ・コパンザメ	技術科学研究会	岡本 学・山下佳明・岡野洋輔	西山 等	地区1回戦敗退
			鶴の架け橋	電子制御研究会	足立直哉・八木精洋・吉岡和紀	小西経男	地区1回戦敗退
			Carbonism	技術科学研究会	山下佳明・仲野郁馬・尾谷紀明	西山 等	地区1回戦敗退
			昇鶴	電子制御研究会	前田哲也・藤谷伸一・近藤和将	小西経男	地区準決勝進出/パフォーマンス賞/全国1回戦敗退
			STRENGTH	技術科学研究会	岡本 学・上島伸一・山下佳明	西山 等	地区2回戦進出・関西電力賞
			一鶴千金	電子制御研究会	川畑智史・宮地 誠・竹村昌俊	小西経男	地区準優勝/全国1回戦敗退
			異形	技術科学研究会	野間亮佑・佐藤 晋・宮城 勇	西山 等	地区準決勝進出
			真・TSURU ホーダイ	電子制御研究会	大音 仁・倉野一俊・川畑智史	町田秀和	地区2回戦進出
			drauflosgehen	技術科学研究会	野間亮佑・宮城 勇・石割崇夫	西山 等	地区1回戦敗退
			拍手鶴采	電子制御研究会	藤井崇史・倉野一俊・東小路雅彦	町田秀和	地区優勝・特別賞(本田技研)/全国ベスト8

表2 プロコン入賞の歴史

回	年度	開催場所	部門名	テーマ名	成績
1	1990	京都市	自由部門	CCDカメラ画像を入力とする3次元CADシステム	優秀賞
2	1991	大分市	自由部門	パソコン制御によるスロットレーシングゲーム	優秀賞
3	1992	仙台市	課題部門	ADMICS ～アドベンチャーゲーム形式の多目的CAIシステム～	特別賞
			自由部門	Phantom Vision・Personal Computerによる鳥瞰立体視システム	最優秀賞
4	1993	名古屋市	自由部門	愛玩動物育成シミュレーションシステム Cackle Pets	最優秀賞
5	1994	富山市	自由部門	Performer!	最優秀賞
6	1995	函館市	競技部門	衛星の移動による誤差を考慮した面積測定システム	6位
			課題部門	料理支援エキスパートシステム ～メッシー君Super～	審査委員特別賞
			自由部門	コンピュータ利用支援仮想人格エージェント"春菜"	特別賞
7	1996	北九州市	課題部門	Personaware -Human Softwareへの挑戦	優秀賞
			自由部門	マルチメディア英単語検索システム POCKET	特別賞
			競技部門	Maze Invader	特別賞
8	1997	長岡市	課題部門	ピアノレッスンサポートシステム「くらびーあ」	特別賞
9	1998	明石市	課題部門	レリーフメーカー	審査委員特別賞
			競技部門	Z.M.O.D (Zigzag Moving Octavanal Dice)	3位
10	1999	浜市	課題部門	風作～風制作支援システム～	特別審査委員特別賞
11	2000	津市	課題部門	poiSpeed2000 ～ゴミ削減支援システム～	最優秀賞
12	2001	鶴岡市	課題部門	あいのり Revolution2!	優秀賞
			自由部門	Cooking Spirits ～食生活支援システム～	審査委員特別賞
			自由部門	パソコンに愛を!! ～Love is given to a personal computer～	敢闘賞
13	2002	金沢市	自由部門	LOTANIR RING ～通隔ボランティア支援システム～	敢闘賞
14	2003	八王子市	自由部門	審判育成計画～俺がルールブックだ!～	審査委員特別賞
15	2004	新居浜市	課題部門	音小町 - Oto no Komachi -	審査委員特別賞

(分析結果とその根拠理由)

学生委員会を中心に全教員が学生指導を行うとともに、教員は少なくとも1つのクラブ等顧問となり課外活動における学生指導を行っている。

以上のことから、生活指導や課外活動等を通して、人間の素養の涵養を図っている。

## <専攻科課程>

観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

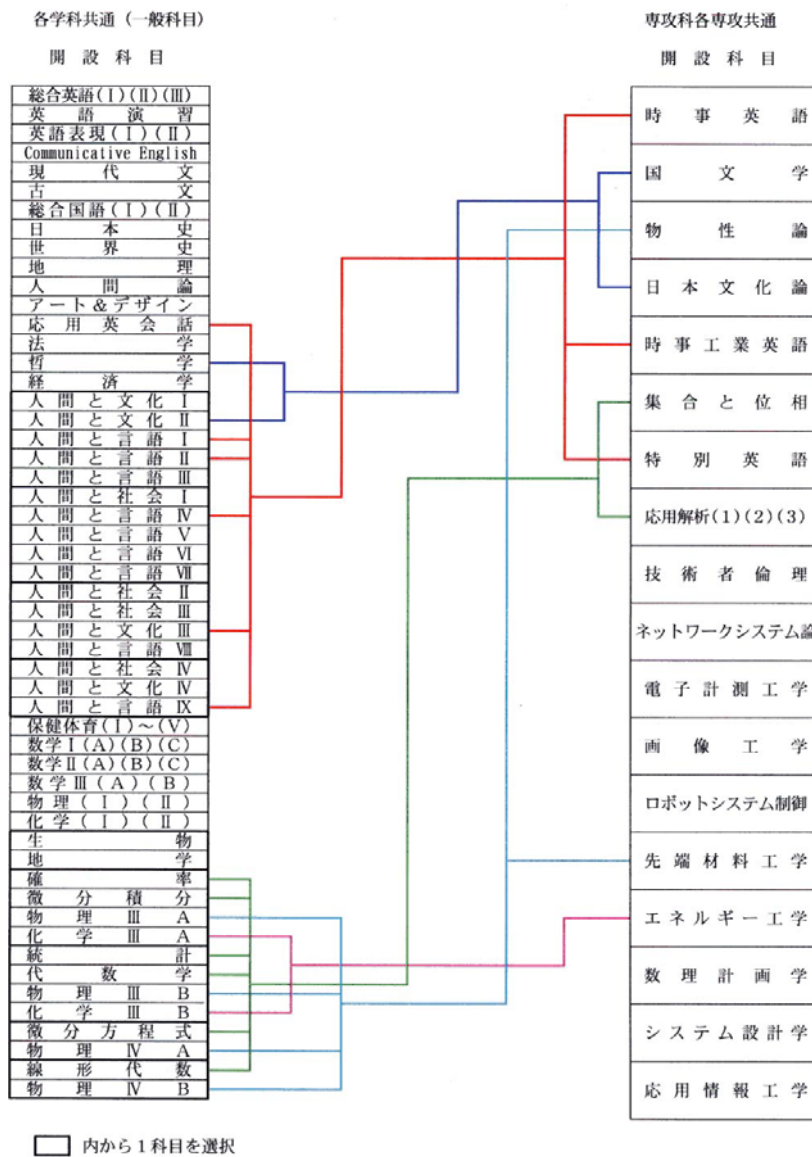
(観点に係る状況)

資料5-5-①-1～5に示す準学士課程の科目と専攻科課程の科目関連図に示すように準学士課程との連携を考慮した教育課程となっている。本校では、準学士課程4年5年と専攻科課程による「生産・情報基礎工学教育プログラム」(資料5-5-①-6)を設置し、準学士課程との連携を密にしている。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程の科目は、準学士課程の科目との連続性を十分考慮して開設されており、専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携を十分考慮した教育課程となっている。

専攻科と基礎となる学科等との関連図



(出典 平成17年度・教育の実施状況等の審査に係る追加書類)

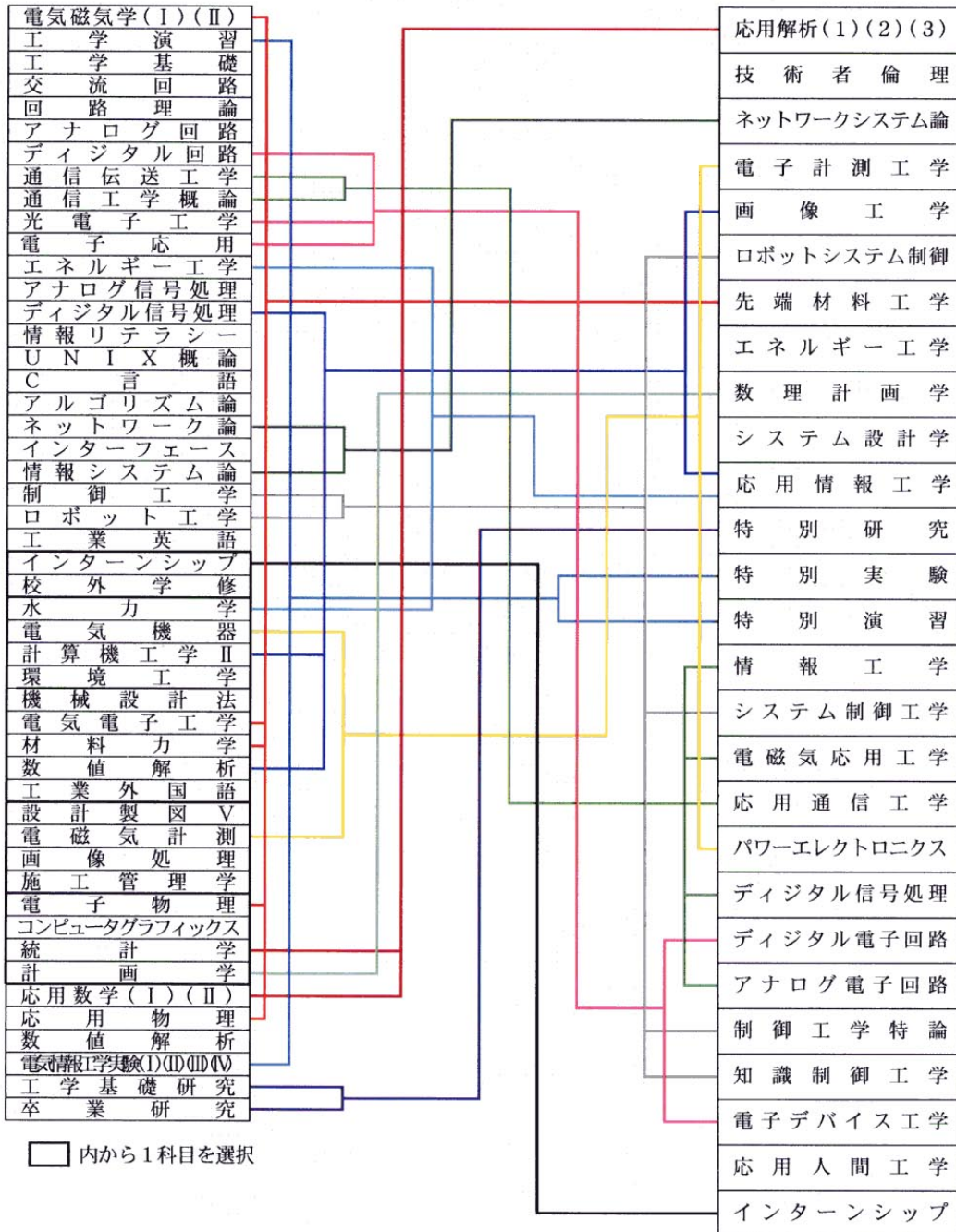
専攻科と基礎となる学科等との関連図

電気情報工学科

専攻科電気・制御システム工学専攻

開設科目

開設科目



(出典 平成17年度・教育の実施状況等の審査に係る追加書類)

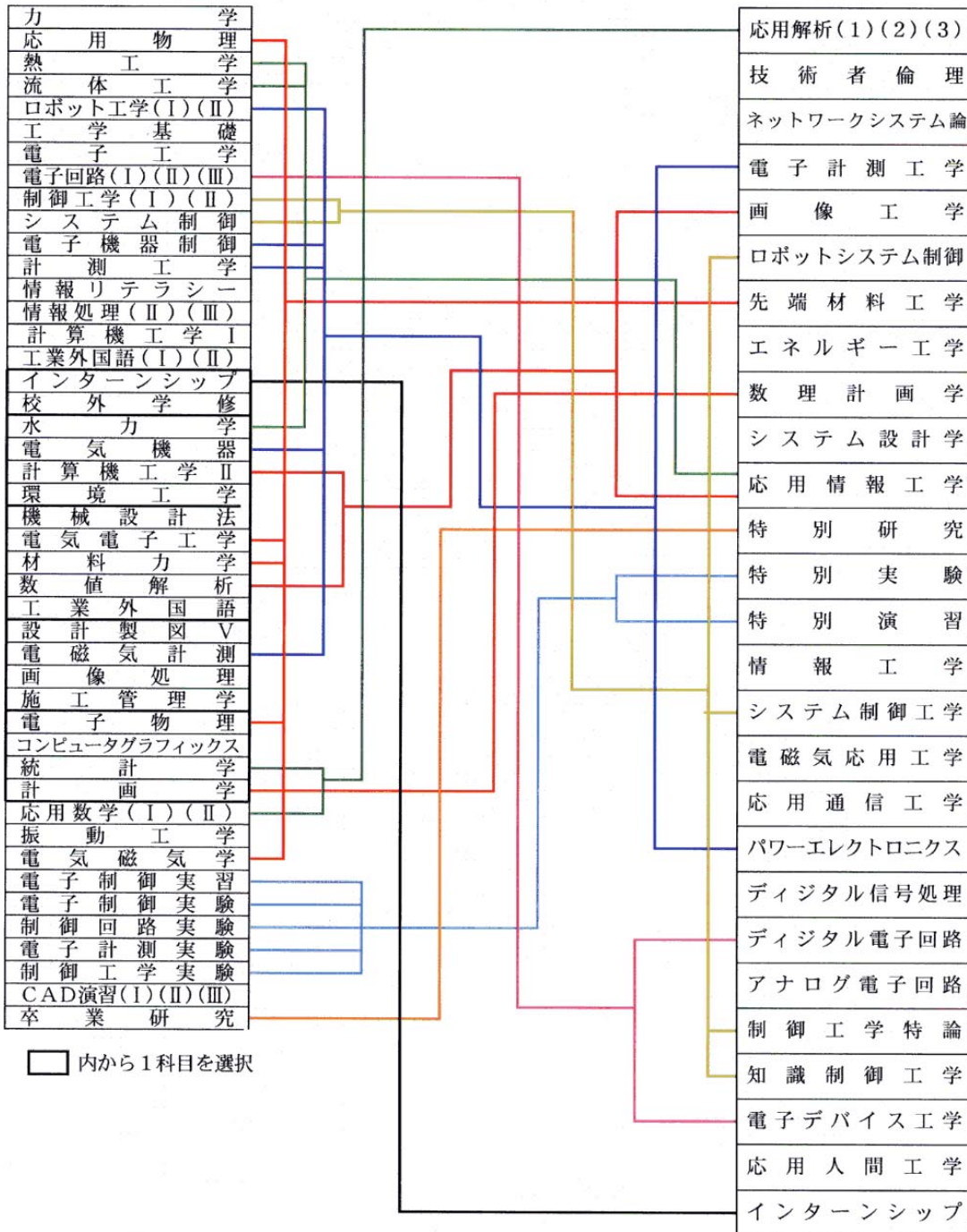
専攻科と基礎となる学科等との関連図

電子制御工学科

専攻科電気・制御システム工学専攻

開設科目

開設科目



(出典 平成17年度・教育の実施状況等の審査に係る追加書類)

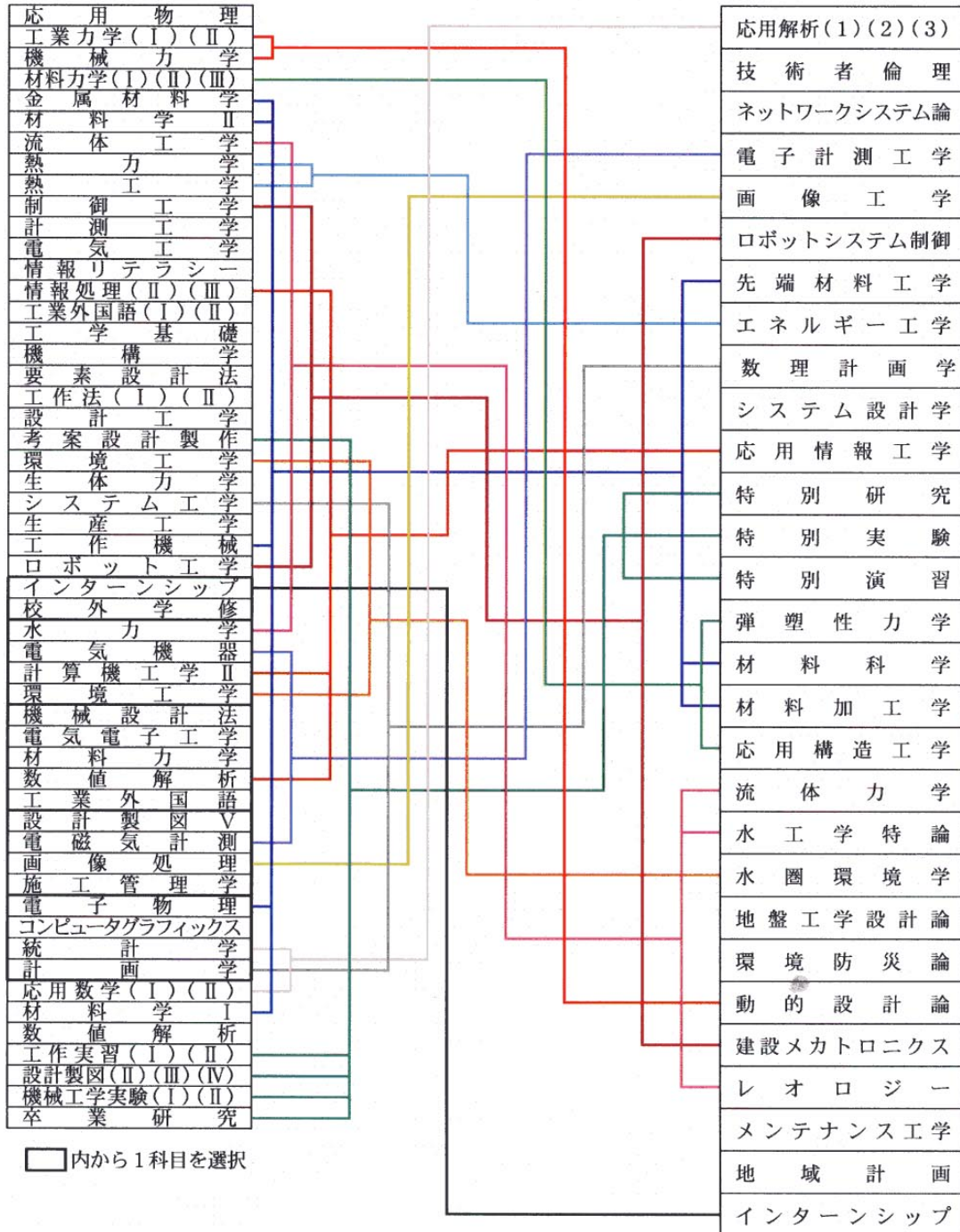
専攻科と基礎となる学科等との関連図

機 械 工 学 科

専攻科建設・生産システム工学専攻

開 設 科 目

開 設 科 目



(出典 平成17年度・教育の実施状況等の審査に係る追加書類)



資料 5-5-①-5

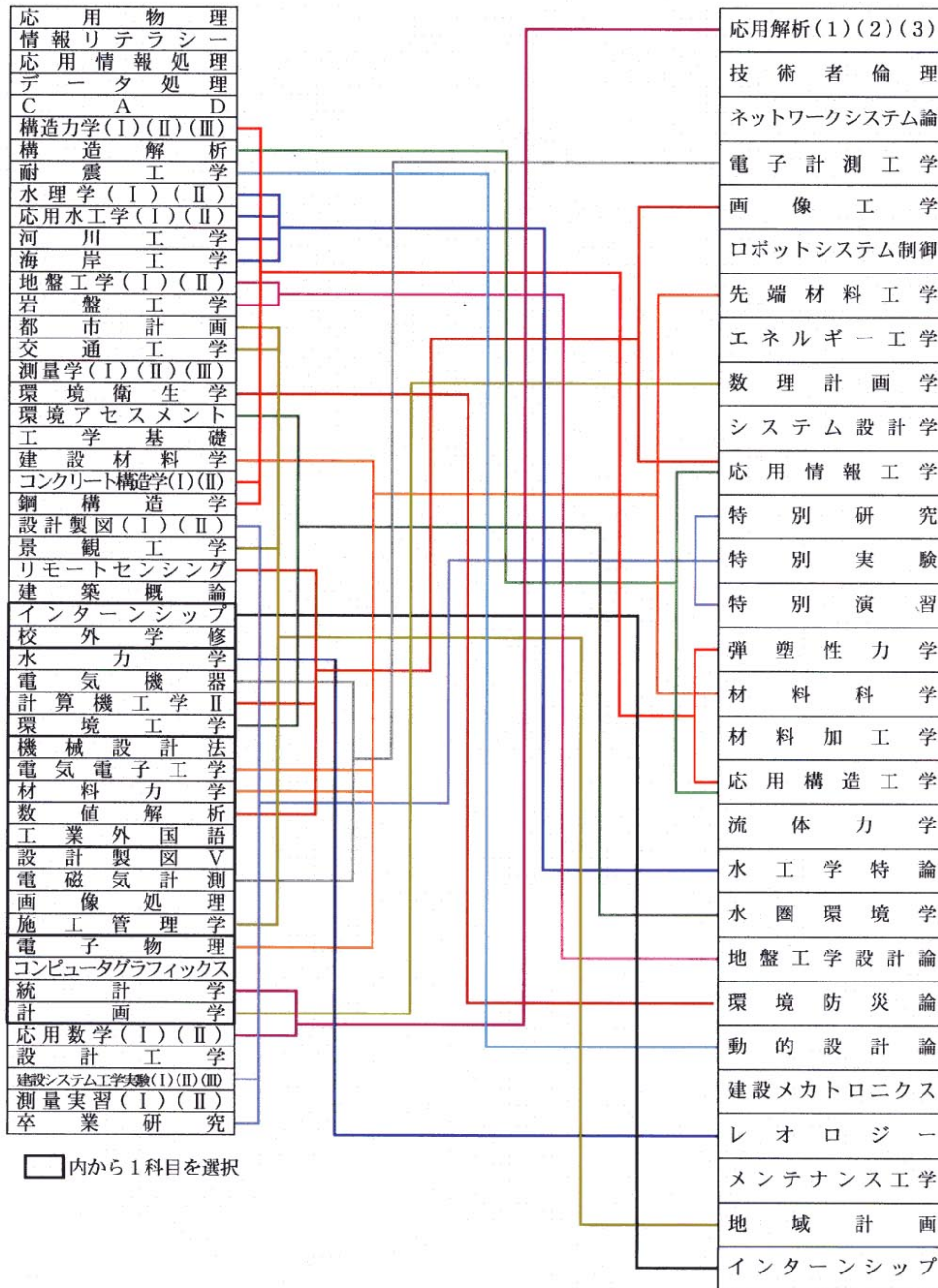
専攻科と基礎となる学科等との関連図

建設システム工学科

専攻科建設・生産システム工学専攻

開設科目

開設科目



(出典 平成17年度・教育の実施状況等の審査に係る追加書類)

## 1. 「生産・情報基礎工学 (Production and Information Engineering)」教育プログラムについて

本校では、国際的に通じる、より良い教育を進めるために「生産・情報基礎工学」教育プログラムを設けています。本教育プログラムは、本科4・5学年と専攻科1・2学年で構成される4年間の教育プログラムで、本科4学科と専攻科を1つにまとめたものです。

「生産・情報基礎工学」という名前は、IT成熟時代に即した「ものづくり」教育を目指しているという意味です。このプログラムのもと、カリキュラムは、工学基礎教育を基盤として、学生それぞれの目指す得意分野（専門）を学習していくように設計されています。また、幅広い工学の基礎を学べるように、いずれの学年においても専門共通科目を設定し、どの得意分野（専門）からも異分野の専門科目を学べるようにしています。

この4年間の教育プログラムで取得できる総単位数及びその学習時間数は次のとおりです。

総取得単位数	総学習時間数（時間）
133 以上	2,385 以上

この内容を分類して示しますと下表のようになります。

	修得単位数	学習時間数（時間）
人文・社会科学系の学習	13 以上	270 以上
数学・自然・情報系の学習	15 以上	270 以上
専門分野の学習	100 以上	1,935 以上

（出典 平成17年度専攻科学習の手引）

観点 5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

専攻科の目的を資料 5-5-②-1 に、専攻科修了者像を資料 5-5-②-2 に、各専攻の教育方針を 5-5-②-3 に示す。これに沿って体系化された各専攻の教育課程は資料 5-5-②-4, 5 に示す。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科の教育の目的及び修了者像に照らして、専攻毎の専門分野の科目、共通専門の科目及び一般科目が適切に配置されている。したがって、教育課程の体系性が確保されており、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっている。

資料5-5-②-1

学則 第39条（専攻科課程）

専攻科は，高等専門学校の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導することを目的とする。

（出典 舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料5-5-②-2

専攻科修了者像

専攻科では，次のような資質を備えた人材を育てようとしています。

- （1）実践的な技術者として，幅広い工学の基礎と深い専門領域の学識を修得し，これらをエンジニアリングの実務と技術革新に活用できる。
- （2）技術開発力のある技術者として，課題の発見とその解決に取り組む探求能力，粘り強いチャレンジ精神と独創力を身につける。
- （3）21世紀の地球人として，多面的な視点から社会の様々な問題に関心を持ち，そのあり方を問うことのできる素養と国際感覚を身につける。
- （4）専門職業人として，人間性豊かな調和のとれた思考力と実行力を備える。

（出典 平成17年度・専攻科学習の手引）

#### 電気・制御システム工学専攻

電気情報工学科，電子制御工学科のいずれかの課程で修得した基礎学力を基盤に，ソフトウェア，通信，電子回路，制御技術およびメカトロニクス等に関連する最新の技術教育を行います。

#### [職業／活躍できる分野]

電気機器，運輸，通信および情報システム分野で実力を発揮できる設計・開発・管理能力を備えた電気・制御システム技術者の育成を目指します。

#### 建設・生産システム工学専攻

建設システム工学科，機械工学科のいずれかの課程で修得した基礎学力を基盤に，先端材料，水圏環境，動的設計およびシステム設計等の技術教育を行います。

#### [職業／活躍できる分野]

都市建設システムおよび機械生産システム等の分野で実力を発揮できる，独創性豊かな研究開発型の技術者の育成を目指します。

(出典 2006年学校案内)

## 6. 専攻科の学年別配当単位数

電気・制御システム工学専攻教育課程表

区分	授業科目	単位数	1年		2年		備考
			前期	後期	前期	後期	
一般科目	◎時事英語	2	2				集中講義
	国文学	2		2			
	物性論	2	2				
	日本文化論	2	2				
	時事工業英語	2		2			
	集合と位相	2		2			
	特別英語	2					
一般科目開設単位計	14	6(2)	6	(2)			
一般科目 修得単位	4以上						
専門科目	◎応用解析 1	2	2				
	◎応用解析 2	2		2			
	◎応用解析 3	2			2		
	◎技術者倫理	2				2	
	ネットワークシステム論	2			2		
	電子計測工学	2	2				
	画像工学	2	2				
	ロボットシステム制御	2			2		
	先端材料工学	2	2				
	エネルギー工学	2			2		
	数理計画学	2			2		
	システム設計学	2		2			
	応用情報工学	2	2				
	専門共通科目開設単位計	26	10	4	10	2	
専門共通科目 修得単位	18以上						
専門科目	◎特別研究	14	2	2	4	6	
	◎特別実験	4	2	2			
	◎特別演習	4			2	2	
	◎情報工学	2		2			
	◎システム制御工学	2		2			
	電磁気応用工学	2	2				
	応用通信工学	2		2		2	
	パワーエレクトロニクス	2					
	デジタル信号処理	2		2			
	デジタル電子回路	2	2				
	アナログ電子回路	2		2			
	制御工学特論	2		2			
	知識制御工学	2			2		
	電子デバイス工学	2	2				
応用人間工学	2		2				
インターンシップ	2	2					
専門専攻科目開設単位計	48	12	18	10	8		
専門専攻科目 修得単位	40以上						
専門科目開設単位計	74	22	22	20	10		
専門科目 修得単位	58以上						
一般・専門科目開設単位合計	88	28	28	20	10		
		(2)		(2)			
一般・専門科目 修得単位 合計	62単位以上						

(注) 特別英語(2)は夏季集中講義。1・2年共通科目

(注) ◎印は必修科目

資料5-5-②-5

建設・生産システム工学専攻教育課程表

区分	授業科目	単位数	1年		2年		備考
			前期	後期	前期	後期	
一般科目	◎時事英語	2	2				集中講義
	国文学論	2		2			
	物性論	2	2				
	日本文化論	2	2				
	時事工業英語	2		2			
	集合と位相	2		2			
	◎特別英語	2	(2)				
	一般科目開設単位計	14	6(2)	6	(2)		
	一般科目 修得単位	4以上					
専門科目	◎応用解析1	2	2				
	◎応用解析2	2		2			
	◎応用解析3	2			2		
	◎技術者倫理	2				2	
	ネットワークシステム論	2			2		
	電子計測工学	2	2				
	画像工学	2	2				
	ロボットシステム制御	2			2		
	先端材料工学	2	2				
	エネルギー工学	2			2		
	数理計画学	2			2		
	システム設計学	2		2			
	応用情報工学	2	2				
		専門共通科目開設単位計	26	10	4	10	2
	専門共通科目 修得単位	18以上					
専門科目	◎特別研究	14	2	2	4	6	
	◎特別実験	4	2	2			
	◎特別演習	4			2	2	
	◎弾塑性力学	2	2				
	◎材料科学	2	2				
	材料加工学	2		2			
	応用構造工学	2		2			
	流体力学	2	2				
	水工学特論	2			2		
	水圏環境学	2	2				
	地盤工学設計論	2			2		
	環境防災論	2	2				
	動的設計論	2		2			
	建設メカトロニクス	2		2			
	レオロジー	2		2			
	メンテナンス工学	2		2			
地域計画	2		2				
インターンシップ	2	2					
	専門専攻科目開設単位計	52	16	18	10	8	
	専門専攻科目 修得単位	40以上					
	専門科目開設単位計	78	26	22	20	10	
	専門科目 修得単位	58以上					
	一般・専門科目開設単位合計	92	32	28	20	10	
			(2)		(2)		
	一般・専門科目 修得単位 合計	62単位以上					

(注) 特別英語(2)は夏季集中講義。1・2年共通科目

(注) ◎印は必修科目

- 7 -

(出典 平成17年度専攻科学習の手引)

観点 5-5-③： 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他専攻の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点到に係る状況）

資料 5-5-③-1 に示すように，厳選した必修科目を設定した上で学生のニーズに対応できるように幅広い選択科目を設定している。大学で修得した単位も認定され（資料 5-5-③-2, 3）他高専との単位互換も可能である（資料 5-5-③-4, 5）。単位互換は「特別英語」（資料 5-5-③-6）に適用されている（資料 5-5-③-7）。学校長と専攻科課程生とのフリートーキングを行い，学生のニーズや要望を収集している。また，海外の大学との国際交流協定が締結され，国際性を養う教育の基盤が整備されている。社会からの要請に対応し資料 5-5-③-8, 9 に示す「インターンシップ」を実施している。

（分析結果とその根拠理由）

適切な選択必修制，大学で取得した単位の認定，他高専との単位互換協定，学校長と専攻科生のフリートーキング，国際交流協定及びインターンシップの実施により，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮した編成となっている。

資料5-5-③-1

(第3条関係)

平成 年 月 日

## 平成17年度 履 修 届

舞鶴工業高等専門学校長 殿

電気・制御システム工学専攻 1年

学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

区分	授業科目	単位数	記入欄		担当教官名	備考
			前期	後期		
一般科目	◎時事英語	2	○			
	国文学	2				
	物性論	2				
	日本文化論	2				
	時事工業英語	2				
	集合と位相	2				
	特別英語	2				夏季集中講義
	単位数小計					
専門科目	◎応用解析1	2	○			
	◎応用解析2	2		○		
	電子計測工学	2				
	画像工学	2				
	先端材料工学	2				
	システム設計学	2				
	応用情報工学	2				
		単位数小計				
	◎特別研究	4	○	○		前期2,後期2
	◎特別実験	4	○	○		前期2,後期2
	◎情報工学	2		○		
	◎システム制御工学	2		○		
	電磁気応用工学	2				
	応用通信工学	2				
デジタル信号処理	2					
デジタル電子回路	2					
アナログ電子回路	2					
制御工学特論	2					
電子デバイス工学	2					
応用人間工学	2					
インターンシップ	2					
	単位数小計					
単位数合計						

(注) ○印は必修科目

(出典 平成17年度専攻科学習の手引)



資料5-5-③-2

(大学における単位の認定)

第9条 大学において修得した単位は、10単位（一般科目2単位以内、専門共通科目4単位以内、専門専攻科目8単位以内）を超えない範囲で、専攻科における授業科目とみなし、その単位を認定することができる。

(出典 平成17年度専攻科学習の手引)

資料5-5-③-3

## 大学における単位の専攻科認定申請書

平成 年 月 日

舞鶴工業高等専門学校長 殿

平成 年度入学

システム工学専攻

氏名 \_\_\_\_\_

大学において下記の科目を単位取得したので、専攻科の単位として認定いただきますよう成績証明書を添付し、申請します。

記

区分	授 業 科 目 名	単位数	取 得 大 学 名	備 考
一般 科目				
専門 共通 科目				
専 門 専 攻 科 目				
単 位 合 計				

※認定出来る単位数は10単位までとする。

(出典 平成17年度専攻科学習の手引)

## 和歌山工業高等専門学校と舞鶴工業高等専門学校間 における単位互換に関する協定書

和歌山工業高等専門学校と舞鶴工業高等専門学校（以下「高専」という。）は、教育研究交流の一環として、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を支援するため、次により単位互換を行う。

（受入れ）

- 第1条 受入れの身分は、特別聴講学生とする。
- 2 特別聴講学生として入学できる者は、所属高専の専攻科1年、2年生とする。
- 3 入学を希望する学生は、所属高専の校長の承認を得たうえ、特別聴講学生願書を所定の期日までに所属高専に提出しなければならない。
- 4 前項により書類を受理した高専は、受入れ高専に、特別聴講学生としての許可を求める。
- 5 受入れる学生数及び受入れ手続きは、受入れ高専で決める。

（成績評価）

- 第2条 成績の評価については、受入れ高専で定める評価基準によるものとする。
- 2 受入れ高専において取得した単位は、所属高専の定めるところにより所属高専の単位として認めることができる。

（授業料等）

- 第3条 特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料は、相互に不徴収とする。

（その他）

- 第4条 この協定の改廃、疑義については、その都度協議するものとする。

上記協定の証として、協定書を2通作成し、双方は各1通を所持するものとする。

平成16年 5 月 20日

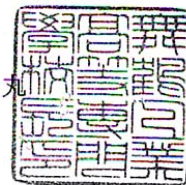
和歌山工業高等専門学校長

山 本



舞鶴工業高等専門学校長

荻野文丸



（出典 学生課資料）

資料5-5-③-5



神戸市立工業高等専門学校と舞鶴工業高等専門学校間に  
おける単位互換に関する協定書

神戸市立工業高等専門学校と舞鶴工業高等専門学校（以下「高専」という。）は、教育研究交流の一環として、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を支援し、単位互換（以下「特別聴講制度」という。）を行うため、協定書を締結する。

（受入れ）

第1条 受入れの身分は、神戸市立工業高等専門学校においては科目等履修生、舞鶴工業高等専門学校においては特別聴講学生（以下「特別聴講生」という。）とする。

- 2 特別聴講生は、高専の専攻科1年、2年生とする。
- 3 特別聴講生は、所属高専の校長の承認を得たうえで、願書を所定の期日までに所属高専に提出しなければならない。
- 4 前項により書類を受理した高専は、特別聴講生としての許可を受入れ高専に求める。
- 5 受入れ人数及び受入れ手続きは、受入れ高専の定めるものとする。

（成績評価）

第2条 成績の評価については、受入れ高専が定める評価基準によるものとする。

- 2 受入れ高専で取得した単位は、所属高専の定めるところにより所属高専の単位として認めることができる。

（その他）

第3条 この協定の改廃、疑義については、その都度協議するものとする。

上記協定の証として、協定書を2通作成し、双方は各1通を所持するものとする。

平成17年 8月 1日

神戸市立工業高等専門学校 校長 西野 種 夫



舞鶴工業高等専門学校 校長 小野 紘



（出典 学生課資料）

資料 5 - 5 - ③ - 6

科 目 名	学 年	夏期合宿 2 単位	教 員 名 樽井 武 研 究 室 A 棟 3 階 (A-303) 内 線 電 話 8907 e-mail: tanui@maizuru-ct.ac.jp
特別英語 Special English	1		
<b>【授業目的】</b> 1. 適切な語の意味を選択し、文法構造を把握し英語を正確に速く聴く力の養成 2. 日本語と英語の音声構造の比較に基づいた実践的な英語の発音訓練を通した英語を話す力の養成 <b>【Course Objectives】</b> 1. Skills for cogent and rapid listening of English through accurate identification of word meanings, and grammatical Structures 2. Practical English speaking skills through proper English pronunciation based on comparisons of different phonetic features between Japanese and English			
<b>【達成目標】</b> TOEIC (230 - 480); 英検 (準 2 級 A/B - ) 1. 適切な語の意味を選び、文の文法構造が理解できる。 2. 英語の母国語話者に通じる英語が話せる。		<b>【Outcomes/Aims】</b> TOEIC (230 - 480); STEP (2 <sup>nd</sup> A/B - ) 1. Students will be able to identify and use the meanings of words and understand the syntactic structures of sentences. 2. Students will be able to speak English comprehensively to native speakers of English	
<b>【学習・教育目標】</b> ( E )			
<b>【キーワード】</b> 日本人の話す英語の音声特徴, 日本人の英語、文の構造 Phonetic features of English spoken by Japanese, <i>Japanese English</i> , Sentence structures		<b>【学習保証時間】</b> 1.5 時間 × 30 週 = 45 時間	
<b>【授業方法】</b> 夏期合宿 (5 泊 6 日を予定) で集中講座として、英語の 4 技能を基礎から鍛え直す特別な英語学習の機会である。 授業時には、全ての学生を平等に指名しながら学習を進めていくので、必ず自分の考えや意見が発表できるよう準備しておくこと。		<b>【学習方法】</b> 1. シラバスを参考に、教材の該当箇所を予習し、理解できるところと理解できないところを明確にしておく。 2. 授業では、理解できなかったところ、疑問点等を中心に学習する。	
<b>【履修上の注意】</b>		<b>【カリキュラムの位置付け】</b> 1. 先行して履修すべき科目 時事英語  2. 後で履修する関連科目 時事工業英語  3. 同時に履修する関連科目	
<b>【定期試験の実施方法】</b> 試験を 1 回行う。持ち込みは認めない。			
<b>【評価方法】</b> 小テスト (20%)、英語の誤りに関する課題 (20%) および試験 (60%) の割合で評価する。			

資料5-5-③-7

## 平成17年度特別英語(夏期合宿)受講者名簿

氏名	学校名	専攻名	学年	備考
	和歌山高専	メカトロニクス	1	特別聴講学生 合宿 1
	〃	〃	〃	〃 〃 2
	〃	〃	〃	〃 〃 3
	〃	〃	〃	〃 〃 4
	〃	エコシステム	〃	〃 〃 5
	〃	〃	〃	〃 〃 6
	〃	〃	〃	〃 〃 7
	神戸市立高専	都市	1	〃 〃 8
	〃	〃	〃	〃 〃 9
	〃	〃	〃	〃 〃 10
	〃	〃	〃	〃 〃 11
	〃	〃	2	〃 〃 12
	〃	〃	〃	〃 〃 13
	〃	〃	〃	〃 〃 14
合 計 14名				

(出典 学生課資料)

資料5-5-③-8

## 平成16年度インターンシップ履修者一覧

No.	専攻	氏名	実習先	実習状況					受入先の		判定	
				テーマ	実習期間	実働	欠勤	遅刻	評価	単位	認定	
1	CM		港湾航空技術研究所	豊浦砂の破壊特性の把握	7.26～8.6	10	0	0	優	2		
2	CM		阪神高速道路公団	高速道路の補修・維持管理	8.2～8.27	20	0	0	良好	2		
3	CM		大舞工業株式会社	作業現場内安全衛生管理	8.2～8.12	10	0	0	優	2		
4	CM		大舞工業株式会社	作業現場内安全衛生管理	8.2～8.12	10	0	0	優	2		
5	CM		ソイルエンジニアリング	地盤調査	8.16～8.27	12	0	0	優	2		
6	ES		(株)ティ・アイ・デイ	ビジネスマン・エンジニア基礎	7.26～7.30	*5	0	0	優			

\*10日未満

(出典 学生課)

## 平成17年度インターンシップ履修者一覧

No.	専攻	氏名	実習先	実習状況					受入先の		判定	
				テーマ	実習期間	実働	欠勤	遅刻	評価	単位	認定	
1	ES		電波工業(株)	メガワット電源 : UPSの製造及び検査	7.25～8.6	10	0	0	良好	2		

(出典 学生課)

科 目 名	学 年		教 員 名
インターンシップ Internship	1	夏期 2 単位	川勝 邦夫 研究室 A棟3階 (A-310) 内線電話 8933 e-mail: kawakatu@maizuru-ct.ac.jp
<b>【授業目的】</b> 企業、公団、地方自治体、国の機関における一定期間の就業体験を通じ、社会人としてのマナー、仕事に対する責任感、技術者の役割、技術の重要性を学ぶ。また、自らの職業意識を高め、将来の就職に対する強い問題意識を持って、勉学に取り組めるようにする。 <b>【Course Objectives】</b> Through employment experiences for a fixed period in a company, a public corporation or an organization of a local self-governing body (or a country), students study the manners as member of society, a sense of responsibility over work, an engineer's role and technical importance. Moreover, students raise their occupational consciousness and can tackle study with a strong awareness for a future employment.			
<b>【達成目標】</b> 1、社会人としてのマナーや仕事に対する責任感を学び、自らのマナーや責任感を向上することができる。 2、「ものづくり」の技術の大切さを説明できる。 3、就職意識を高め、今後の勉学の動機付けを見出すことができ、就職の対策を立てることができる。		<b>【Outcomes/Aims】</b> Students will be able to: 1.study the manners as a member of society , a sense of responsibility over work, and improve their manners and sense of responsibility, 2.explain the importance of the technology of the making of things, 3.raise the consciousness to employment, find out the motivation of future study and plan a measure of job hunting.	
<b>【学習・教育目標】</b> (C)			
<b>【キーワード】</b> インターンシップ、ものづくり、工場実習 internship, making of things, factory practice		<b>【学習保証時間】</b> 8 時間×10 日間=80 時間	
<b>【授業方法】</b> 1、原則として、夏期休業中に10日間以上、企業、公団、地方自治体、国の機関等に出向いて研修をする。 2、受講申し込みは、「インターンシップ履修に関する規定」に従い「申込書」と「誓約書」を担任に提出する。 3、研修終了後は、「インターンシップ実施証明書」を担任に提出する。		<b>【学習方法】</b> 1、研修プログラムは、受け入れ機関が指定する場合と、事前打ち合わせをする場合がある。 2、経費については、打ち合わせ先に一任する(日当あり/なし、交通費あり/なし、宿舍あり/なし)。 3、傷害保険に加入する。	
<b>【履修上の注意】</b> 本校学生として恥ずかしくない態度で臨むこと、また、学習の一環であることを認識し取り組むこと。		<b>【カリキュラムの位置付け】</b> 1. 先行して履修すべき科目  2. 後で履修する関連科目  3. 同時に履修する関連科目	
<b>【定期試験の実施方法】</b> なし			
<b>【評価方法】</b> インターンシップ終了後、インターンシップ報告書、及びインターンシップ実施証明書を提出する。 これらをもとに、専攻科委員会にて審議し、可否を判定する。			

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。）

（観点に係る状況）

資料5-6-①-1の⑪～⑭に授業形態ごとの学習時間が示されている。講義科目が全体の38%、演習が8%、実験が12%、研究が42%である。演習・実験・研究の授業内容を資料5-6-①-2～4に示す。学習指導法の工夫では「特別英語」が夏期合宿の形で実施され（資料5-5-③-6）、全員がTOEICの試験を受けている（資料5-6-①-5）。学習指導法の工夫についてアンケート調査を行った結果を資料5-6-①-6に示す。

（分析結果とその根拠理由）

以上のように、教育の目的に照らして、講義、演習、実験等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。



資料 5 - 6 - ① - 1

資料2.2.2

## 総学習保証時間数

No.	項目	単位数	時間	備考(説明)
①	本科を卒業するのに必要な単位数	167		卒業認定基準
②	本科1年から3年までで履修可能な最大単位数	92		低学年で最大限単位を修得したと想定
③	本科4年5年で履修できる保健体育の単位数	4		保健体育の単位は含めない。
④	本科4年5年で保証する単位数	71		④=①-②-③
⑤	卒業研究(必須)の単位数と学習時間	15	225.0	15h/1単位
⑥	本科インターンシップ、技能検定等により修得でき、かつ、卒業に必要な単位数に参入できる最大単位数	10		インターンシップは学習保証時間に含まない。技能検定等により修得できる単位については、学習保証時間に含まない。(舞鶴工業高等専門学校技能検定等合格に係る単位認定に関する規程・第5条)
⑦	講義科目及び実験・実習・演習科目の単位数と時間	46	1035.0	22.5h/1単位, 単位:⑦=④-⑤-⑥ 時間:⑦=46×22.5
⑧	本科4年5年で保証する単位と学習時間	71	1260.0	単位:⑧=④, 時間:⑧=⑤+⑦
⑨	専攻科を修了するのに必要な単位数	62		修了認定基準 観点 5 - 6 - ①
⑩	専攻科のインターンシップの単位数	2		インターンシップは学習保証時間に含まない
⑪	特別実験(必須)	4	135.0	特別実験は33.75h/1単位
⑫	特別演習(必須)	4	90.0	特別演習は22.5h/1単位
⑬	特別研究(必須)	14	472.5	特別研究は33.75h/1単位
⑭	講義科目の単位数と学習時間	38	427.5	単位数:⑭=⑨-⑩-⑪-⑫-⑬, 11.25h/1単位 時間:⑭=38×11.25
⑮	専攻科で保証する学習時間		1125.0	⑮=⑪+⑫+⑬+⑭
⑯	本プログラムが保証する単位数	133		⑯=④+⑨
⑰	本プログラムが保証する学習時間		2385.0	⑰=⑧+⑮

(出典 生産・情報基礎工学プログラム自己点検書  
引用・裏付資料編, 平成16年9月1日)

科 目 名	学 年	必 修 前期 4 時間 後期 4 時間 4 単位	教 員 名 【授業内容の欄に記載】 研 究 室 内 線 電 話 e-mail:
特別演習 Seminar & Special Practice	2		
<b>【授業目的】</b> 1 専門分野における研究開発に携わるための一般的な能力を育成する。 2 専門分野における特別な演習及び技術英文や話題性のある原書講読を通じて、基礎的能力を育成する。 3 演習内容を的確に記述し報告書にまとめる能力を育成する。 <b>【Course Objectives】 Students will acquire the following:</b> 1 General faculty for engineers or researchers in their special fields 2 Fundamental faculty for engineers or researchers through special practices and reading special engineering topics 3 Skills for writing reports on engineering practices precisely			
<b>【達成目標】</b> 1 JPEG で最もよく利用されている基本 DCT 方式を応用しカラー画像を作成できる。 2 技術英文の文法を理解でき、基本的な技術英文の読み書きができる。 3 画像処理関係の英語の専門用語を習得し、画像処理関係の英語の専門書を読み理解できる。 4 知的財産権について理解し、特許出願書が作成できる。 5 電導率に関する理解を深め、関連する英語論文を読み理解できる (2000年ノーベル賞受賞論文)。 6 電子回路のICチップ化の技術を理解し、関連する英語文献を読み理解できる。 7 パワーエレクトロニクスを新しい学問の一分野として確立させた著名な英語文献を読み理解できる。		<b>【Outcomes/Aims】 Students will be able to:</b> 1 Make color image files through the most popular DCT method for JPEG 2 Understand English grammar and read and write basic English engineering manuscripts. 3 Read and understand English books concerning image processing. 4 Understand on intellectual property rights and make patent applications. 5 Read and understand English papers concerning electrical conductivity (Nobel prize paper in 2000). 6 Understand techniques of IC tips and to read the related English references. 7 Read and understand English papers which have established power electronics as a new important discipline.	
<b>【学習・教育目標】 ( D ) ( G )</b>			
<b>【キーワード】</b> 演習、カラー画像、技術英文、画像処理、半導体、光デバイス、伝導率、ICチップ Practice, Color image, Engineering English document, Image processing, Semi-conductor, Optical device, Electric conductivity, IC tip			<b>【学習保証時間】</b> 3 時間×30 週=90 時間
<b>【授業方法】</b> 幅広い横断的なテーマを通じて授業を行う。技術英文法、原書講読、論文講読を通じて、関連する先端的なトピックスを紹介しつつ演習を行う。4 週毎に各担当教員が得意とする分野について担当する。テーマ毎に内容をレポートにまとめて提出する。		<b>【学習方法】</b> 授業に臨む態度として、積極的・主体的に演習に取り組む必要がある。テーマに関して担当教員と積極的にディスカッションを行い、学生と担当教員との双方向のコミュニケーションが十分とれるようにする。学習成果を的確に記述しレポートにまとめる。	
<b>【履修上の注意】</b>		<b>【カリキュラムの位置付け】</b> 1. 先行して履修すべき科目、項目 画像工学関連科目、電子デバイス関連科目、数学関連科目、英語関連科目、電子回路関連科目、電気物理関連科目、特別実験  2. 後で履修する関連科目 なし  3. 同時に履修する関連科目 特別研究	
<b>【定期試験の実施方法】</b> 定期試験は行わず、演習課題に関するレポートの提出を義務づける。			
<b>【評価方法】</b> 提出されたレポートの内容、演習の成果などを総合的に勘案し、担当教員毎に評価する。これらの平均を求め総合的な成績を評価する。			

**【教科書・教材等】**

演習テーマ毎に各担当教員が指導書を配布する。

**【参考書・参照 URL 等】****【授業内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週～第5週 JPEGにおける静止画像圧縮(担当教員: 船木)
- 第2週 静止画像の表現とJPEGの概要
- 第3週 基本DCT方式における圧縮の原理(1)
- 第4週 基本DCT方式における圧縮の原理(2)
- 第5週 JPEGのデータ構造とフォーマット
- 第6週～第9週 技術英語演習(担当教員: 奥村)
- 第6週 技術英語を読み、訳す
- 第7週 工学表現の演習(目的、原因・理由、調査、影響、可能・能力、使用の表現)
- 第8週 工学表現の演習(手段・方法、必要、結果、一致、変化、相違、関係の表現)
- 第9週 技術英語を書く(簡潔かつ多くの情報量を組み込む技術英文独特の書き方)
- 第10週～第13週 原著輪読(担当教員: 北原)
- 第10週 Epipolar geometry in stereo, motion and object recognition(1)
- 第11週 Epipolar geometry in stereo, motion and object recognition(2)
- 第12週 Epipolar geometry in stereo, motion and object recognition(3)
- 第13週 Epipolar geometry in stereo, motion and object recognition(4)
- 第14週～第17週 知的財産権: 特許(担当教員: 和田)
- 第14週 知的財産権とは
- 第15週 知的財産権の創出と活用
- 第16週 特許からみた産業発展史
- 第17週 特許出願: 出願書類の書き方
- 第18週～第21週 原書講読(担当教員: 宮野)
- 第18週 Possible High  $T_c$  Superconductivity in the Ba-La-Cu-O System (1).
- 第19週 Possible High  $T_c$  Superconductivity in the Ba-La-Cu-O System (2).
- 第20週 Possible High  $T_c$  Superconductivity in the Ba-La-Cu-O System (3).
- 第21週 Possible High  $T_c$  Superconductivity in the Ba-La-Cu-O System (4).
- 第22週～第25週 原書輪読(担当教員: 町田)
- 第22週 Digital systems design and Prototyping using Field Programmable Logic(1).
- 第23週 Digital systems design and Prototyping using Field Programmable Logic(2).
- 第24週 Digital systems design and Prototyping using Field Programmable Logic(3).
- 第25週 Digital systems design and Prototyping using Field Programmable Logic(4).
- 第26週～第29週 原書輪読(担当教員: 平地)
- 第26週 Power Electronics - Emerging from Limbo (1).
- 第27週 Power Electronics - Emerging from Limbo (2).
- 第28週 Power Electronics - Emerging from Limbo (3).
- 第29週 Power Electronics - Emerging from Limbo (4).
- 第30週 オフィスアワー, 必要に応じて担当教官とディスカッション

**【学生へのメッセージ】**

演習を通じて、主体的、積極的に課題に取り組む姿勢を身につけてほしい。国際化がますます進む中で、技術者・研究者として、英語の専門書や論文の読解力は益々重要になってきている。本演習では担当教員が得意とする分野のトピックスを英文の原書または論文を通じて学ぶことができるので、専門用語を修得できるとともに、専門書や論文の読み方を修得することができる。中でも電導率に関する英語論文として2000年度のノーベル化学賞受賞論文が取り上げられている。どのような着想で研究が進められ、どのような過程を経て大発見に結び付いたのかなど、問題意識を持って取り組むとおもしろいと思う。また、画像処理、半導体、光デバイス、ICチップなどの最先端の話題が紹介される。技術者あるいは研究者としての素養を体得すると共に、必要に応じて自ら原書や英語論文を読むことができるように、英語文献の基礎的読解力をぜひ身につけて欲しい。

科目名	学年	必修 前期 6 時間 後期 6 時間 4 単位	教員名 【授業内容の欄に記載】 研究室 内線電話 e-mail:
特別実験 Advanced Experiments	1		
<b>【授業目的】</b> 1 専門分野における研究開発に携わるための基礎的能力を育成する。 2 基礎となる工学現象に関する事項について実験データに基づいて論考する能力を育成する。 3 実験内容を的確に記述し報告書にまとめ上げる能力を育成する。 <b>【Course Objectives】 Students will acquire:</b> 1 Skills for successful making achievement of experiments and the basic faculty for engineers or researchers in their special field 2 The faculty for deliberations regarding engineering problems based on experimental data 3 Skills for writing reports on engineering experiments precisely			
<b>【達成目標】</b> 1 マニュアルを参照して、機器やシステムの操作、データの収集ができる。 2 実験データの意味をそしゃくでき、理論と実験結果の両面から考察し結論を導き出せる。 3 実験結果を的確に記述できリポートを作成できる。 4 実験に臨む心構え、実験中の態度・姿勢を体得している。		<b>【Outcomes/Aims】 Students will be able to:</b> 1 Operate equipment and experimental systems referring the directions and to obtain the experimental data. 2 Consider the meanings of the physical data and to derive conclusions theoretically and experimentally. 3 Write reports on experiments correctly and precisely. 4 Successfully complete preparations and acquire appropriate way of thinking for conducting experiments.	
<b>【学習・教育目標】 (D)(G)</b>			
<b>【キーワード】</b> 実験, 工学現象, シミュレーション, 実験システム, 装置, リポート, Experiment, Engineering phenomena, Simulation, Experimental system, Equipment, Report			<b>【学習保証時間】</b> 4.5 時間×30 週=135 時間
<b>【授業方法】</b> 第 1 回目はオリエンテーションを行い、実験テーマ、実験室の場所、班分けなどについて説明する。前期 4 テーマ、後期 4 テーマの実験を行う。各テーマの実験は 3 週間で完了する。テーマ毎にそれぞれの担当教員が指導し、オムニバス形式で実施する。実験を実施しない時間はオフィスアワーとし、学生と担当教員が実験結果について議論する。		<b>【学習方法】</b> 1. 実験に先立ち、実験テーマの概要、関連する基礎的事項を調べ、実験の目的や目指す内容をよく理解する。 2. 実験方法の説明をよく聴き、実験手順をしっかりと理解する。レポートで何を報告しなければならないかを把握する。 3. 実験中は真剣に鋭く現象を観察する。実験データの物理的意味をよく考える。 4. 十分考察し、自分自身の結論を導き出すこと。レポート作成においては、報告内容を的確に記述する。	
<b>【履修上の注意】</b>		<b>【カリキュラムの位置付け】</b> 1. 先行して履修すべき科目、項目 制御工学関連科目、情報処理関連科目、エネルギー工学、電気電子回路関連科目、振動工学、論理回路、電気磁気学関連科目、ロボット工学、通信工学 I 2. 後で履修する関連科目 制御工学関連科目、パワーエレクトロニクス、技術者倫理、デジタル信号処理、ロボットシステム制御、特別演習、特別研究 3. 同時に履修する関連科目 システム制御工学、デジタル電子回路、応用情報工学、応用通信工学、アナログ電子回路、電子デバイス工学、電子計測工学、電磁気応用工学、特別研究	
<b>【定期試験の実施方法】</b> 定期試験は行わず、各実験テーマのレポートの提出を義務づける。各テーマで与えられた演習課題もレポートに含まれる。			
<b>【評価方法】</b> テーマ毎のレポートを担当教員が評価する。各テーマの評価を平均して、総合的な成績を評価する。 実験の無断欠席は原則として不合格(60点未満)とする。正当な理由で欠席した場合に限り補講を行う。			

(出典 平成17年度専攻科学習の手引)

**【教科書・教材等】**

実験テーマ毎に、担当教員が指導書を配布する。

**【授業内容】****(前期)**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週-第4週 倒立振子の安定化制御実験 (担当教員：西岡)
  - 第2週 実験内容の説明, Matlab/Simulink によるシミュレーション実験
  - 第3週 実機による倒立振子の安定化実験
  - 第4週 実験データの整理, 理論の再認識と結果の考察
- 第5週-第7週 太陽エネルギー予測に関する実験 (担当教員：中川)
  - 第5週 太陽光発電設備データの説明, 取り扱いおよび解析内容の決定
  - 第6週 太陽光発電設備データの解析
  - 第7週 太陽光発電設備における考察
- 第8週-第10週 ニューラルネットワークによる文字認識実験 (担当教員：町田)
  - 第8週 ニューラルユニットの理解, 2入力ゲートの重み手計算
  - 第9週 階層型パーセプトロンによる EXOR の学習実験
  - 第10週 ホップフィールドの連想記憶ネットによる文字認識実験
- 第11週-第13週 PLL回路の実験 (担当教員：馬場)
  - 第11週 位相検出回路の実験
  - 第12週 電圧制御発信器(VCO), ループフィルタの実験
  - 第13週 PLL回路の実験
- 第14週-第15週 オフィスアワー, 必要に応じて担当教官とディスカッション

**(後期)**

- 第16週-第18週 圧電振動子の動作解析 (担当教員：金山)
  - 第16週 等価回路理論の説明と各種コンデンサの測定
  - 第17週 圧電振動子の特性測定
  - 第18週 データ解析とレポート作成
- 第19週-第21週 磁気浮上システムの制御系設計と実験 (担当教員：金森)
  - 第19週 線形化および制御系設計, Matlab/Simulink によるシミュレーション実験
  - 第20週 鉄球の磁気浮上位置決め制御実験
  - 第21週 実験データの整理, 理論の再認識と結果の考察, レポート課題の演習
- 第22週-第24週 2軸ロボットの運動制御実験 (担当教員：竹内)
  - 第22週 平面運動における力学解析
  - 第23週 2軸ロボットの制御実験
  - 第24週 2軸ロボットの制御シミュレーションとまとめ
- 第25週-第27週 マイクロ波回路の実験 (担当教員：新池)
  - 第25週 導波管伝送の原理, ガンダイオードの発振, 減衰器の取り扱い, 周波数の測定, 管内波長の測定
  - 第26週 負荷インピーダンスの測定, ホーンアンテナの放射指向性測定
  - 第27週 スミス図表の取り扱い, アンテナ指向性の演習, レポートの取りまとめ
- 第28週-第30週 オフィスアワー, 必要に応じて担当教官とディスカッション

**【学生へのメッセージ】**

将来、技術者あるいは研究者として、実験によって何か新しい真理を見出そうとする場合や、開発した技術や商品を実験的に検証しようとする場面など、実験に直面することが多くあると思う。実験は一般的に費用がかかり、時間と労力も必要となる。したがって、実験の目的を果たせるように、細心の注意と十分な準備が必要である。また、実験データは貴重なものであり大切にしなければならない。場合によっては知的財産ともなり得るほどである。そのため、実験においては、正確さ、鋭い観察力、適切なデータ整理・分析・解析が必要であり、データを最大限有効に活用する能力が要求される。本実験を通じて、将来必要なこれらの基礎的素養を体得してほしい。

さらに、実験は報告書にまとめ報告を終えて初めて完了する。実験を行うことと報告書の提出は1セットであり、報告書の提出無くして実験が完了することはあり得ない。報告書にまとめることにより、知的財産として保管できるだけでなく、同じ実験を繰り返す必要がなくなり、成果を第三者と共有することができ、実験結果を一層価値あるものとする事ができる。よりよいレポートが書けるように努力してほしい。

(出典 平成17年度専攻科学習の手引)

## 資料 5 - 6 - ① - 4

科 目 名	学 年	必 修 前期 12 時間 後期 18 時間 10 単位	教 員 名 下記の通り 研 究 室 内 線 電 話 e-mail:
特別研究 Graduation Thesis Research	2		
<b>【授業目的】</b> 1. 建設・生産システム工学専攻の専門分野における技術者、研究者としての基礎的素養を、各々の研究テーマを通じて体得させることを目的とする。 2. 具体的には、研究テーマを遂行するために必要な文献調査、独創的発想、研究計画と意志決定、シミュレーション、実験的検証などの方法を実践により体得することを目指す。 3. また、得られた結果に基づいて工学現象を論考すると共にその内容を的確に記述し、研究論文としてまとめる能力を養う。さらに、得られた研究成果を効果的に説明できる能力を育成する。			
<b>【Course Objectives】</b> 1. The aim of this course is to master fundamental knowledge needed as an engineer in the specialized field of Civil and Industrial System Engineering Course through the study of each research theme. 2. Concretely, this course aims to master the methods necessary for the accomplishment of the research theme through practical means such as literature investigation, having an original idea, making research plans, decision-making, simulation, and experimental investigation. 3. This course also aims for students to master the ability to examine matter related to the engineering phenomena based on observation derived results and describe them exactly. It also aims to raise the student's ability to write a thesis and explain the derived results effectively.			
<b>【達成目標】</b> 1. 研究成果を的確に記述し、論文としてまとめることができる。 2. 研究成果を効果的に説明ならびに発表することができる。 3. 研究プログラムの節目において、指導教員とのディスカッションなどにより研究方針の決定ができる。		<b>【Outcomes/Aims】</b> Students will be able to : 1. describe research results exactly and write a thesis. 2. explain research results and make presentation effectively. 3. decide their research approach through the discussion with their advisor towards the end of their research.	
<b>【学習・教育目標】</b> (C) (G)			
<b>【キーワード】</b> 文献調査, 独創性, 研究計画, 意志決定, シミュレーション, literature investigation, original idea, research plan, decision-making, simulation			<b>【学習保証時間】</b> 9時間×15週+13.5時間×15週=337.5時間
<b>【授業方法】</b> 一年生で着手した研究テーマを継続して深耕・発展させる。2年次は、大学評価・学位授与機構に対する10月上旬の論文提出との関係もあり、指導教員と十分に議論、調整を進め、遅滞なく研究成果をまとめることが重要である。指導教員は研究環境の整備と緊密な研究指導に努め、学生に研究のダイナミズムを体得させる。		<b>【学習方法】</b> 研究を進める過程において、指導教員による指導・支援のもと、学生自ら興味と問題意識を持ち、自主的・継続的に研究に取り組むことが必要である。研究に必要な技法について、実務を通して幅広く体得するように努力すること。実験室・研究室には日参することが大切である。(記録簿に従事時間を記入)	
<b>【履修上の注意】</b>		<b>【カリキュラムの位置付け】</b> 1. 先行して履修すべき科目 授業科目全般 2. 後で履修する関連科目 授業科目全般 3. 同時に履修する関連科目 授業科目全般	
<b>【定期試験の実施方法】</b> 定期試験は行わず、特別研究論文および特別研究報告(4 or 6頁)の提出を義務づける。12月に中間発表会、翌1月に本発表を義務づける。			
<b>【評価方法】</b> 2回の研究発表、研究概要および特別研究論文について評価する。研究発表の評価は指導教員全員で、特別研究論文は主査および数名の副査で評価し、発表と論文を総合して最終的な評価とする。			

## 【研究テーマ (テーマ例一覧)】

1. In-Sn および Cd-Sn アセチルアセトナートの熱分解を利用した ITO および CTO 薄膜の合成 (岩崎教員)  
研究内容: 液相合成法 (ゾルゲル法) を利用して In-Sn および Cd-Sn アセチルアセトナート薄膜を形成, 熱分解による ITO および CTO 薄膜の合成法を確立する. この安価な合成法による薄膜をディスプレイ材料に応用する.
2. フライアッシュを用いた新しい建材の開発 (岡本教員)  
研究内容: フライアッシュを用いたセメント系混合物を既存のコンクリート製造設備を活用して新しい機能性建材を開発することを目指す. 製法や配合を確立した上で, その建材の力学物性性状および機能性状を検討する.
3. 内部パイププレートによるコンクリートの締固め過程の追跡 (岡本教員)  
研究内容: 内部パイププレートによる締固め過程を把握するシステムを開発する目的で, パイププレートに生じる負荷を観測しコンクリートの締固め過程を追跡できる手法について実験検討する.
4. 由良川の洪水解析について (川合教員)  
研究内容: 洪水記録より, 越水量や越水河岸高を調べ, その成果を用いて由良川の洪水解析を行う.
5. 由良川における断面拡幅工事と河床変動について (川合教員)  
研究内容: 断面拡幅工事によって引き起こされる河床変動の実態を調べ, 河床変動計算で河床変動の将来予測を考える.
6. 2004年23号台風による由良川水害の検証 (川合教員)  
研究内容: 2004年の台風23号による水害について, 降雨および出水の特徴を調べるとともに, 洪水流解析を行って, 大野ダムの洪水軽減効果を明らかにする.
7. 開繊炭素繊維基材を用いた複合材料の力学的特性 (篠原教員)  
研究内容: 先進複合材料の素材として開発された開繊炭素繊維基材を用いて, 種々の組み合わせの積層板を成形し, その積層パターンと力学的特性の関係を明らかにする.
8. 微細粒鋼の環境強度に関する破壊力学的研究 (生水教員)  
研究内容: 人工海水中における微細粒鋼板(フェライト粒径 4~5 $\mu\text{m}$ )の破壊強度に及ぼす結晶粒径の影響を明らかにする.
9. 流体-地盤-構造物系の動的応答特性に関する研究 (高谷教員)  
研究内容: 流体-地盤-構造物系の波浪解析や地震時の動的応答解析を行い, 耐波安定性や耐震安全性に関する検討を行う.
10. ヘドロ回収のためのエアリフトポンプに関する研究 (西山教員)  
研究内容: 湖底・海底に堆積したヘドロを回収するためのエアリフトポンプの諸特性を明らかにする.
11. 混合砂河床における水みち河床の変動に関する研究 (三輪教員)  
研究内容: 混合砂河床において流量や供給土砂量の変化が水みちの変動に与える影響を明らかにする.
12. 有限要素法を用いた地盤内応力の評価 (森尾教員)  
研究内容: 有限要素法を用いて, 種々の載荷状態における地盤内応力を予測し, 理論解との比較検討を行う. また, トンネル, 共同溝の掘削, 軟弱地盤での盛土の施工等, 現実の現場への適用性を検討する.

別紙2

平成17年8月31日

全 学 生 へ

校 長 小 野 紘 一

## TOEICの受験について

この試験は、英語によるコミュニケーション能力を向上させるため、今年度から全学生(専攻科生含む)に受験させることにし、下記の日程により実施する。

なお、受験料の個人負担は下記のとおりです。学校の指示に従って納入してください。

## 記

## TOEIC

Test of English for International Communication の略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストであり、世界約60ヶ国で実施されています。

## TOEIC Bridge

基礎的なコミュニケーション英語能力を評価する世界共通のテスト

第1学年 1,000円×2回=2,000円 (今年度は1,000円)

第2, 3学年 1,000円

第4学年 1,500円×2回=3,000円 (今年度は1,500円)

第5学年 1,500円

専攻科1学年 1,500円 (他高専等からの入学者は3,000円)

専攻科2学年 1,500円

## 日 程

学 年	5月	9月	12月	1月
1	○			○
2				○
3				○
4	□			□
5			□	
専1	△	□		
専2			□	

○ TOEIC Bridge試験

□ TOEIC試験

△ 他校からの入学者のためのTOEIC試験

※ 今年度は9月から実施。

(出典 学生課資料)



表1 教材の工夫事例

科目名	教員名	内容
日本文化論 国文学	村上	全国の大学・短大・高専用に作成した自著を教科書として使用している。また、要点を纏めたレジュメ等も必要に応じ適宜配布しながら、講義に活用している。
物性論	宮野	授業の資料は多くの教科書・参考書・研究書から授業の内容に沿って再構成して作っている。
応用通信工学	新池	電気工学科と電子制御工学科では学習内容が異なるため、本科との連携を配慮して自主教材を使用している。
応用人間工学	和田	講義では板書せず、プロジェクタを使用し、配布資料として事前に配布する。関連したビデオを視聴させ、機器やパソコンソフトを使って体験させている。
電磁気応用工学	北原	自主教材を作成。自作のテキスト、演習問題とその解答を配布している。
デジタル信号処理	町田	Texas Instrument 社のユニバーシティプログラム制度を活用し、無償提供されるDSPボードを使ったデモや演習を行っている。
アナログ電子回路	馬場	PLL回路の講義において、特別実験で使用した回路図をコピーして教材に利用し、実験と講義の連携を十分配慮した授業を行っている。
ロボットシステム制御	金森	本科との連携を考慮して、要点を纏めた自著のテキストを作成し配布している。
地域計画	岡	毎週の授業に当日もしくは近日の新聞やマスコミに取り上げられた地域計画に関するトピックスをレポートとして提出させている。レポートの中から授業の課題を見つけている。

(出典 庶務課資料)

資料 5-6-①-6 続き

表 2 情報機器の活用事例

科目名	教員名	内容
日本文化論 国文学	村上	毎回科目に関わるビデオを 20 分程度使用し、要所や纏め等の区切りの折には、パワーポイントを用いて講義をしている。
ロボットシステム制御 特別実験	金森	ロボットアームの動作をビデオで解説している。磁気浮上システムのコントローラを MATLAB により設計させている。また、実験データの解析や処理をコンピュータで行っている。
システム制御工 学	川田	最初の 3 週のみ、プロジェクトを利用して最先端の事例を紹介している。
応用通信工学	新池	インターネット等を利用して最新の通信情報等を紹介している。
応用情報工学 動的設計論 特別実験	高谷	資料やプログラム、演習課題等をウェブ上で配信している。
材料加工学	生水	材料加工の先端技術の紹介にパワーポイントを用いている。
特別演習	和田	特許についての講義とケーススタディとして、パソコンを使った電子申請方法を行っている。
特別実験	西山	表計算ソフト MS-Excel を用いた表計算流体力学の数値実験を行っている。
特別実験	森尾	地盤データ（ボーリングデータ）を与え、地震時の液状化に対する危険度 F I を EXCELL により計算させている。

表 3 小人数授業や対話・討論型授業事例

科目名	教員名	内容
応用通信工学	新池	受講者は 15 名と小人数である。授業にはプリント学習、プレゼンテーション学習等を採用している。
特別演習	宮野	論文の内容について議論している。
特別演習	川勝	対話形を心がけている。

(出典 庶務課資料)

資料5-6-①-6 続き

表4 フィールド型授業事例

科目名	教員名	内容
応用人間工学	和田	企業での生産形態を知るために工場見学を実施したことがあるが、交通費等が当方負担となるために、昨年度は実施していない。校長裁量経費で実施を予定。
特別演習	川勝	ユニバーサル造船（株）を見学

表5 その他の工夫を組み込んだ事例

科目名	教員名	内容
日本文化論 国文学	村上	短歌作成等の学習指導を実施し、一方的講義に陥らないように気を付けている。
応用通信工学	新池	課題解決型学習，グループ学習等を採用している。
電磁気応用工学	北原	講義ばかりでは集中力の持続が困難であり，理解度を把握できないので，必ず関連する問題を解かせる。解答は成績評価の40%に含まれるので，学生が主体的に授業に参加する。また，不明な点を聞く，ヒントなどを与えるなど対話的に授業が進められ，退屈する暇を与えないようにしている。その際，理解度もチェックするようにしている。
アナログ電子回路	馬場	大事なところでは，できる限り質問や問題を出し，どの程度理解しているかをチェックしている。
水圏環境学	三輪	講義内容に応じて，近年の研究成果を適時紹介している。
レオロジー	西山	日常生活に関連するレオロジーの話題について，学生各自が課題設定し，その課題について授業時間外に調査・検討・実験などを行い，授業期間最後の2週で口頭発表させている。（学生の調査・検討・実験などの作業期間はおよそ1ヶ月）

(出典 庶務課資料)

観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

創造性は主として特別研究と授業方法の工夫によって養っている。創造性を育む教育方法についてのアンケート調査結果を資料5-6-②-1に示す。「インターンシップ」を実施しており（資料5-5-③-8及び9）、単位認定は資料5-6-②-2に示すとおり、多面的な評価に基づいて行っている。

（分析結果とその根拠理由）

特別研究及び各授業科目の工夫により創造性が育まれるようになっており、「インターンシップ」が活用されている。

資料5-6-②-1

専攻科における創造教育（PBLなど）の実施状況（平成18年3月現在）

専攻名	ES CM どちらかに○	科目名	特別研究	担当者氏名	金山光一
<p>創造性を育む教育内容の概要</p> <p>特別研究では、燃焼炎ダイヤモンド膜の電子デバイス応用の可能性探索ということで、PBL的なテーマ設定をしています。</p> <p>参考資料名 特になし</p>					

専攻名	ES CM どちらかに○	科目名	レオロジー	担当者氏名	西山 等
<p>創造性を育む教育内容の概要</p> <p>建設・生産システム工学専攻1年後期の本科目において、日常生活に密接に関係するレオロジーについて、学生各自が設定したテーマのもと、授業時間外において調査・検討・実験・考察を行わせ、授業期間内の最後の2週にわたって順番にプレゼンテーション（7分程度）させ、質問に答えさせている。本課題の説明はプレゼンテーション期日の一ヶ月前に行い学生の問題設定の意識付けを行う以外は、すべて学生の自発性・自主性に委ねている。プレゼンテーションには、パワーポイントを用いずに白板を用いて説明させている。これは人前でものごとをわかりやすく説明することの難しさを感じ取らせるためである。また、本課題で取り組んだ内容はレポートにまとめ提出させている。</p> <p>学生が設定するテーマは様々であるが、材料の入手のし易さから食品系を扱ったものが多く、その変形や流動挙動を調べたものが多い。</p> <p>このような取り組みを通して学生の創造的能力の高さを実感しているところである。</p> <p>参考資料名 平成17年度専攻科学習の手引、シラバス、pp.124-125.</p>					

(出典 庶務課資料)

資料 5 - 6 - ② - 1 続き

専攻名	ES CM どちらかに○	科目名	特別演習	担当者氏名	和田 優
創造性を育む教育内容の概要					
<p>私の担当の中で、具体的な特許申請の実習をしています。</p> <p>PBL といえるかどうか分かりませんが、自分で特許になりそうなアイデア（特別研究の内容とは全く無関係）を出してもらい、そのアイデアを検討し、それを実際に特許申請用紙に書かせます。授業の評価はその内容と申請書の書き方で評価します。</p> <p>また、今年から6月を私の担当としてもらいましたので、受講生が出したアイデアの中で素晴らしいものがあれば、9月末締切りのパテントコンテンツに応募させます。</p>					
参考資料名					
産業財産権標準テキスト 特許編					

専攻名	ES CM どちらかに○	科目名	応用通信工学	担当者氏名	新池 一弘
創造性を育む教育内容の概要					
<p>応用通信工学では、教員の講義以外に課題解決型学習を採用している。学生を数人のグループに分け、移動体通信に関するプレゼンテーションや、アンテナの製作等を行っている。</p>					
参考資料：インターネット，本校図書館の書籍					

(出典 庶務課資料)

## 専攻科 1 年生インターンシップ報告会の試行要領

(目的)

1. この実施要領は、舞鶴工業高等専門学校（以下、「本校」という）専攻科 1 年生が夏期休業中に行ったインターンシップの成績評価を目的として、その実施方法を定める。

(インターンシップの成績評価)

2. 「インターンシップの成績評価」に用いる評価とは、次の各号に掲げるものとする。
  - (1) インターンシップ受け入れ先の評価
  - (2) インターンシップ報告書の評価
  - (3) インターンシップ報告会の評価

(インターンシップ受け入れ先の評価)

3. 第 2 項第 1 号に掲げる「インターンシップ受け入れ先の評価」は、受け入れ先企業からの報告書に記載されている 5 段階評価をいう。この評価は、受け入れ先企業からの報告書に基づき専攻長が行い、「インターンシップ成績評価表」(様式 1) に記載する。

(インターンシップ報告書の評価)

4. 第 2 項第 2 号に掲げる「インターンシップ報告書の評価」は、インターンシップを行った学生が記述した報告書をいう。この評価は、学生が記述したインターンシップ報告書に基づき専攻長が行い、「インターンシップ成績評価表」(様式 1) に記載する。

(インターンシップ報告会)

5. 第 2 項第 3 号に掲げる「インターンシップ報告会の評価」は、インターンシップを実施した専攻科 1 年生がインターンシップ報告会において行った発表についての評価をいう。専攻科長は、インターンシップ報告会の実施について専攻科委員会で審議し、「インターンシップ報告会実施計画書」(様式 2) を 8 月末までに学生課教務係に提出する。
6. インターンシップ報告会には、少なくとも 3 名の教員を持って実施し、評価者とする。
7. 専攻科長は、9 月中にインターンシップ報告会を実施する。なお、報告会の評価に際しては、「インターンシップ報告会評価表」(様式 3) により評価を行う。なお、学生一人当たり発表 5 分～7 分、質疑応答 3 分を基準とする。

(インターンシップ報告会の評価結果)

8. 専攻科長は、専攻長が記載した「インターンシップ成績評価表」(様式 1) にインターンシップ報告会評価結果を記載する。インターンシップ報告会実施後、すみやかに「インターンシップ成績評価書」(様式 4)、「インターンシップ成績評価表」および「インターンシップ報告会評価表」を学生課教務係に提出する。

(インターンシップの成績評価)

9. 専攻科委員会は、専攻長から提出された「インターンシップ成績評価書」、「インターンシップ成績

(出典 学生課資料)

評価表」および「インターンシップ報告会評価表」について審議し、インターンシップの成績を決定する。

(インターンシップの成績評価の証明と記録の保存)

10. 専攻科委員会で審議された「インターンシップ成績評価書」、「インターンシップ成績評価表」および「インターンシップ報告会評価表」は学生課教務係において5年間保存する。

附 則

- 1 この実施要領は、平成17年 月 日から施行する。

## 評価の流れ

1. 科目担当者は、受け入れ先企業からの報告書および学生が記述したインターンシップ報告書に基づき「インターンシップ成績評価表」に評価点を記載する。
2. 専攻長は、「インターンシップ報告会実施計画書」を8月末までに学生課教務係に提出する。なお、3年生に聴講させるため、少なくとも1回の発表は月曜日4時限目に実施できるように計画することが望ましい。
3. 専攻長は、9月中にインターンシップ報告会を実施し、「インターンシップ成績評価表」に評価点を記載する。その「インターンシップ成績評価表」に基づき「インターンシップ成績評価書」を作成する。
4. 専攻長は、「インターンシップ成績評価書」、「インターンシップ成績評価表」および「インターンシップ報告会評価表」を学生課教務係に提出する。
5. 専攻科委員会は、「インターンシップ成績評価書」、「インターンシップ成績評価表」および「インターンシップ報告会評価表」に基づいて、インターンシップの成績を決定する。

(出典 学生課資料)



観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

教育目標の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成されている。講義科目のシラバスの一例を資料5-6-③-1に示す。授業目的、達成目標、学習・教育目標、授業方法、学習方法、カリキュラムの位置付け、授業計画を明示することにより、学生が予習復習するのに役立つように毎年工夫している。「シラバスを授業の前に読みましたか」の回答として、学生の平均値が5点満点で2を下回っている(資料5-6-③-2)。

(分析結果とその根拠理由)

教育課程の編成の趣旨に沿ってシラバスが作成されている。内容が適切に整備され専攻科生全員に配布されている。しかしながら学生のシラバス活用が十分ではないことが判明しており、シラバスの更なる改善と利用を促す工夫が必要である。

資料 5 - 6 - ③ - 1

科目名	学年	後期 2 時間 2 単位	教員名 新池 一弘 研究室 A棟 3 階 (A-317) 内線電話 8962 e-mail: sin-ike@maizuru-ct.ac.jp
応用通信工学 Applied Communication Engineering	1		
<p><b>【授業目的】</b> 移動体通信に必要なアンテナと電波伝搬の基礎概念について学習する。マクスウェルの方程式を用いて電磁波の放射、伝搬機構について学習する。アンテナの構造、特性について学ぶ。電磁波の大気中、電離層、宇宙空間（衛星通信）、大地中の伝搬、海上の伝搬等について学びます。以上の項目を中心に解説する。微積分、ベクトル解析の基本的な事柄を理解しておけば電磁波解析は理解できるよう、演習を交えて授業を進める。</p> <p><b>【Course Objectives】</b> Study will learn about the antennas required for the communications and the electromagnetic wave propagation phenomenon using Maxwell's equations. The first lectures focus on the structure and characteristics of the several basic antennas. These are followed by lectures on the propagation characteristics in the ground, sky, ionosphere, and space (satellite) communication. As preparation for this subject, it is desirable that students have some knowledge of the elementary electromagnetic theory, transmission lines and basic vector analysis.</p>			
<p><b>【達成目標】</b> (1) マクスウェルの方程式、ベクトル波動方程式を説明できること。 (2) アンテナの利得計算ができること。 (3) 平面波の伝搬特性を理解し、面波の反射と屈折が理解でき屈折率、反射係数が求められること。 (4) 地表波及び対流圏の伝搬特性を説明でき、短波、超短波及び極超短波の電離層伝搬を説明できること。</p>		<p><b>【Outcomes/Aims】</b> Students will be able to: (1) Explain Maxwell's equations and vector wave equations. (2) Calculate the gain constant of antennas. (3) Understand the propagation characteristics of the plane wave and reflection from plane boundary. (4) Explain the wave propagation characteristic of the earth, the troposphere and the ionosphere in the case of variety frequency regions.</p>	
<p><b>【学習教育目標】 (B)</b></p>			
<p><b>【キーワード】</b> マクスウェルの方程式、電波工学、アンテナ、電波伝搬。 Maxwell's equation, Radio wave engineering, Antennas, Electromagnetic wave propagation.</p>			<p><b>【学習保証時間】</b> 1.5 時間 × 15 週 = 22.5 時間</p>
<p><b>【授業方法】</b> (1) 電磁誘導、アンペールの法則など電磁気学の基本公式を理解すること、ベクトルの基本演算 (grad, div, rotを含む演算)、ストークスの定理など復習しながら授業を進める。 (2) 無線工学の重要なところに絞って説明するのでノートを取れるように進める。 (3) 大切な事項はレポート提出があるので、授業中理解できるよう学習する。</p>		<p><b>【学習方法】</b> (1) 電磁気学、ベクトル解析の取りか使いができるようになること。 (2) 無線工学の重要なところに絞って説明するので必ずノートを整理しておくこと。 (3) 大切な事項はレポート提出があるので、数式の取扱い、物理的意味を理解すること。</p>	
<p><b>【履修上の注意】</b> 授業では関数電卓を使用することがあるので持参すること。</p>		<p><b>【カリキュラムの位置付け】</b> 1. 先行して履修すべき科目 電磁気学、応用電磁気学、ベクトル解析  2. 後で履修する関連科目 移動体通信アンテナの設計制作、衛星放送  3. 同時に履修する関連科目 応用情報工学、特別実験。</p>	
<p><b>【定期試験の実施方法】</b> 通常の定期試験を実施する。</p>			
<p><b>【評価方法】</b> 定期試験の結果 (70%)、その他、課題等の提出状況 (30%) を考慮して成績評価する。</p>			

資料 5 - 6 - ③ - 1 続き

【教科書・教材等】		
教科書：虫明「アンテナ・電波伝搬」（コロナ） 教材：必要に応じて資料を配布する。		
【参考書・参照 URL 等】		
参考書：安達，佐藤「電波工学」（森北 出版），大友，小園，熊沢「ワイヤレス通信工学」（コロナ）， 稲垣「電磁波工学」丸善，J.A. Stratton「Electromagnetic Theory」McGraw-Hill.		
【授業計画】		
週	内 容	教科書参照ページ
第 1 週	電波工学の最近の動向，モバイル技術の将来性，衛星放送の将来性，電磁波の通信手段としてのこれからの可能性。	
第 2 週	ベクトル解析の基本と電磁誘導の法則。Maxwell の方程式と波動方程式（平面波の解，平面波の減衰と伝搬特性，波動方程式の演習問題）。	6～13
第 3 週	電磁波の放射と微小ダイポールによる放射（ダイポールアンテナによって生ずる電磁界を求める練習問題）。	13～21
第 4 週	アンテナの諸定数（放射指向性，入力インピーダンス）。	22～30
第 5 週	アンテナの諸定数（実行面積などアンテナの性能に関する演習）。	31～39
第 6 週	アンテナ素子（直線状アンテナからの放射と入力インピーダンス）。	43～50
第 7 週	アンテナの配列（アンテナ系のインピーダンス，指向性，利得）。	57～67
第 8 週	各種線状アンテナ（長波および中波用アンテナ，超短波用アンテナ）。	69～81
第 9 週	立体アンテナ（スロットアンテナ，反射器）。	88～99
第 10 週	電波伝搬の基本特性である減衰，屈折，反射，電磁波の偏波特性（反射係数の演習問題）。	128～135
第 11 週	大気圏，地上波の電波伝搬。	142～150
第 12 週	成層圏のような不均質媒質中での電波伝搬。	150～156
第 13 週	電離層のような磁気異方性媒質中の電波伝搬の基本特性，電気的特性。	160～171
第 14 週	電離層による電磁波の反射，屈折，透過の伝搬特性（衛星通信）について長波，中波，短波，超短波を例にとり解説する。	171～175
第 15 週	中波，短波，超短波の対流圏，山岳及び市街地の電波伝搬（移動体通信の現状），通信路の確保とフェージング。	176～183
★ 定期試験		
【学生へのメッセージ】		
<p>移動体通信はこれからますます重要な通信技術としてその利用が見込まれている。新しいモバイル通信のデバイスも開発されている。アンテナの開発と電波伝搬の解析技術はますます大切な技術になっている。このような無線通信技術の基本特性を理解することは，今後ますます重要となる。これまで学んだ電磁気学，交流回路理論，ベクトル解析の基本を復習しながら授業を進めることによりアンテナ・電波伝搬の重要な概念を学んでください。学生時代，基礎理論を確実に身につけておくことはこれから特に重要になります。</p>		

資料 5 - 6 - ③ - 2

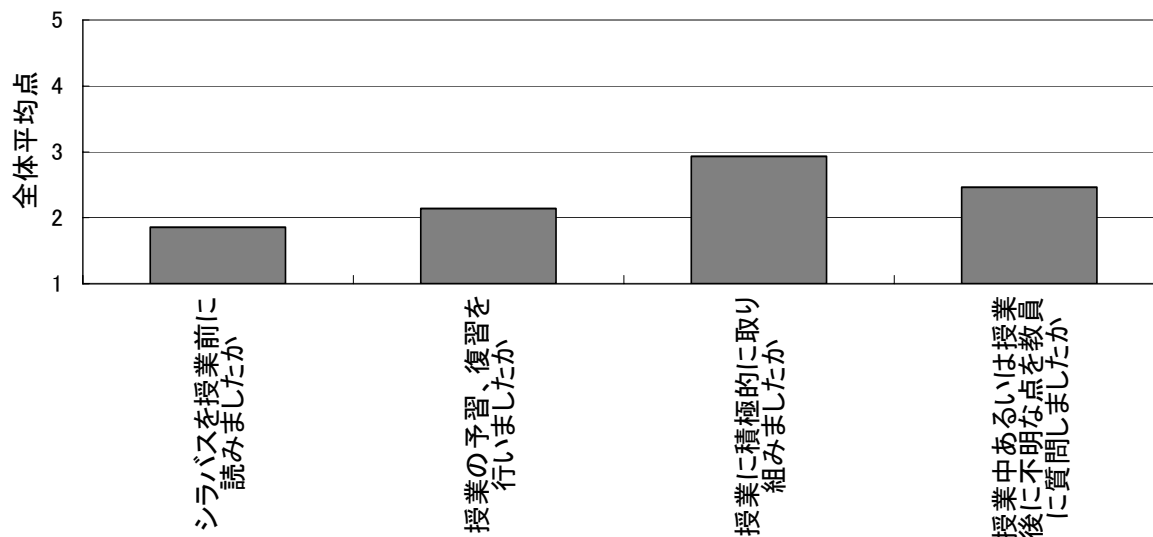


図8 学生の自己評価の各設問の全体平均点

(出典 平成17年度授業アンケート結果の報告 (公開用))

観点 5 - 7 - ①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

（観点に係る状況）

資料 5 - 7 - ① - 1 に、研究テーマの説明から配属までのスケジュールを示す。資料 5 - 7 - ① - 2 に研究発表会のプログラム及び指導グループを示す。研究発表は年 2 回行い、特別研究論文の評価は、主査と数名の副査により行う。成果発表の場として、舞鶴市内の会場で実施した研究発表会のプログラムを資料 5 - 7 - ① - 3 及び 4 に示す。資料 5 - 7 - ① - 5 に、専攻科生による学会発表等の実績を示す。

（分析結果とその根拠理由）

学生の要望や興味を十分考慮した研究テーマ選択ができるように配慮され、学生一人につき 1 テーマが与えられ、原則として複数の指導教員で指導しており、指導体制が整備されている。年 2 回の発表会、主査・副査による特別研究論文の評価、及び、学会等や舞鶴市内での発表が実施されており、専攻科で修学するにふさわしい研究指導が行われている。

資料5-7-①-1

平成17年4月5日

電気・制御システム工学専攻  
担当教員各位

専攻長

## 特別研究テーマ説明会について

下記のとおり、ES専攻について特別研究テーマの説明会を開催いたします。現状では、平成17年度専攻科シラバス、研究テーマ（テーマ名一覧）に基づいて、説明会の説明順を記載しております。ご都合の悪い方がおられましたら、中川まで連絡ください。これ以外に、テーマ説明をご希望される方がおられましたら、中川までご連絡ください。時間設定をさせていただきます。

なお、特別研究の指導体制は昨年通り、グループ指導となっております。従いまして、学生が研究指導を申し出た場合、いずれかの研究グループに所属していただくこととなります。

## 記

## テーマ決定までのスケジュール

## 1. テーマ説明

日時	1年特別研究第1週目 4月14日（木）2, 3時限	
場所	専攻科棟3階講義室	
内容	テーマの概要説明, 一人10分程度	
説明順	時間	グループ 教官名（○印 グループ代表）
	10:40～11:10	電子デバイス・電子回路 ○金山, 和田, 奥村
	11:10～11:50	システム制御・メカトロニクス ○金森, 天野, 仲川, 川田
	13:00～13:30	情報, コンピュータ ○北原, 新池, 船木
	13:30～14:00	電気電子通信 ○中川, 平地, 山田

## 2. テーマ質問日

日時	第1週目 4月14日（木）3時限, 4時限
	第2週目 4月21日（木）2時限
場所	各教官の研究室および実験室
内容	テーマ, 設備などについてディスカッション

## 3. 配属決定

日時	第2週目 4月21日（木）3時限, 4時限
場所	専攻科棟3階講義室
内容	学生の希望調査および配属決定

以上

(出典 平成17年度・専攻長による配布資料)

電気・制御システム工学専攻2年生

## 平成17年度 特別研究発表プログラム

- ・ 日時 平成18年1月26日(木) 10:40~14:30
- ・ 発表：10分(予鈴8分)、質疑応答：5分

発表予定時刻	発表番号	学生氏名	研究題目	研究室
座長 和田 10:40-10:55	1	岡本 幸一	BCN膜の特性向上に関する研究	和田
10:55-11:10	2	田原 雅哉	燃焼炎ダイヤモンド膜を用いた電子デバイス応用に関する研究	金山
11:10-11:25	3	松本 努	画像処理による乱流拡散火炎の反応解析	奥村
11:25-11:40	4	草壁 亮	ディスクリプタ表現を利用したツインロータヘリコプタの多目的制御に関する研究	川田
11:40-11:55	5	吉田 明弘	冗長なディスクリプタ表現を利用した倒立振子のゲインスケジュールド制御に関する研究	川田
11:55-12:10	6	江崎 路夫	太陽光発電システムにおける発電電力への積雪の影響	中川
12:10-13:00	休 憩			
座長 平地 13:00-13:15	7	辻 晃弘	単眼車載カメラによる状況認識に関する基礎的研究	北原
13:15-13:30	8	上本 真澄	寮内 LAN での認証システムに関する研究	片山
13:30-13:45	9	関本 敬	PLL/PWM による位置サーボ系の FPGA 実現	町田
13:45-14:00	10	森 雅則	人工筋肉の開発と実験	仲川
14:00-14:15	11	東山 正宗	有限要素法を用いたアウトロータ型リラクタンス電動機の電磁界解析と設計	天野
14:15-14:30	12	安達 玄紀	風力発電システムのインテリジェント適応レギュレータに関する研究	天野

## 特別研究指導グループ

指導グループ名	指導教員名	学生名
電子デバイス・ 電子回路	○金山 和田 奥村	田原 雅哉 岡本 幸一 松本 努
システム制御・ メカトロニクス	○金森 天野 町田 仲川 川田	安達玄紀、東山 正宗 関本 敬 森 雅則 草壁 亮、吉田明弘
情報・ コンピュータ	○北原 片山 船木	辻晃弘 上本真澄
電気電子通信	○平地 中川 山田	江崎路夫、岡田豪(休学)

(出典 学生課資料)

## 舞鶴高専・テクノシンポジウムプログラム

日 時 平成17年1月27日(木) 13:30~17:00

場 所 舞鶴市商工観光センター, コンベンションホール, 展示交流室

キーノートスピーチ: コンベンションホール(5階)

13:30~14:00 「由良川について」

講 師: 川合 茂 (建設システム工学科教授)

司 会: 金森 満 (専攻科長)

講演A室: コンベンションホール(5階)

14:10~15:30 建設・生産システム工学専攻 座長: 篠原 正浩 (専攻長)

- |    |   |       |
|----|---|-------|
| A1 | フライアッシュを用いた新しいセメント系混合物の初期水和反応特性                                   | 梶原 治  |
| A2 | Monolith Converter 内流れの数値シミュレーション                                 | 神庭 温  |
| A3 | ゾルゲル法によるBaTiO <sub>3</sub> およびLa, Mn ドープBaTiO <sub>3</sub> 微粒子の合成 | 酒井 一宏 |
| A4 | Sn-8Zn-3Bi はんだのクリープおよびクリープ破断特性                                    | 佐藤 利博 |
| A5 | 想定断層を用いた舞鶴市での地震動予測  | 中野 真吾 |
| A6 | 舞鶴市の液状化危険度マップの作成  | 長谷川 央 |
| A7 | 単純せん断試験機による若狭砂の液状化特性  | 山本 哲也 |

15:40~17:00 電気・制御システム工学専攻 座長: 中川 重康 (専攻長)

- |     |                                  |       |
|-----|----------------------------------|-------|
| A8  | 大地中の電波伝播の数値解析に関する基礎的研究           | 依藤 泰介 |
| A9  | プラズマプロセスにおける気相反応に関する研究           | 大門 克也 |
| A10 | 電界放出ディスプレイ用BCN膜の高性能化に関する研究       | 宮谷 淳  |
| A11 | 電子デバイス応用のための高品質'ダイヤモンド'膜の研究      | 川畑 智史 |
| A12 | FeZrN 薄膜を用いたFGセンサによる漏洩磁束探傷法の基礎研究 | 田中 一弘 |
| A13 | 部分線形化によるアクロバットの振り上げ安定化制御に関する研究   | 喜虎 勇氣 |
| A14 | 上体を有する2足歩行ロボットの制御                | 南 裕樹  |

(裏面に続く)

(出典 学生課資料)

資料5-7-①-4

## 講演B室：展示交流室（4階）

14:10～15:30 電気・制御システム工学専攻 座長：和田 優

B1 カラー画像による人物挙動解析に関する研究	畑 裕也
B2 撮影画像の人物の照合監視システム	福元 康人
B3 青紫色レーザ用サファイアベース基板の劈開技術に関する研究	桑田 邦広
B4 高品質ダイヤモンド合成のためのプラズマ反応解析	釘崎 竜
B5 マルチスポット励起マイクロ波プラズマ源の研究	林 亜美
B6 ニューラルネットを用いた同期リラクスモータの適応制御	山本玲緒奈
B7 アクチュエータの飽和を考慮したモデル規範形適応制御に関する研究	笹川 大介

15:40～16:30 建設・生産システム工学専攻 座長：岡本 寛昭

B8 FRTP射出成形品の衝撃特性に関する研究 —初期繊維長の影響—	青木 晋平
B9 段差における介助用車椅子の補助力制御	高倉 洋
B10 由良川における断面拡幅と河床変動について	竹田 一貴
B11 由良川における堤防整備と洪水流について	野木 章平

(出典 学生課資料)



資料 5-7-①-5

## 専攻科生による学会発表・論文等（平成16年度～平成17年度）

題目	学会名・講演会名など	発表年月
フライアッシュを用いた新しいセメント系混合物の開発	土木学会関西支部平成 16 年度年次学術講演概要, V-27	2004 年 5 月
バイブレータの負荷によるコンクリートの締固め過程の把握	土木学会関西支部平成 16 年度年次学術講演概要, V-28	2004 年 5 月
PIC を用いた太陽電池における MPPT 制御装置の開発	パワーエレクトロニクス学会創設記念大会講演論文集, p. 25	2004 年 11 月
燃焼炎ダイヤモンド膜の誘電正接熱処理温度依存性	平成 16 年電気関係学会関西支部連合大会, G7-11, p. G174.	2004 年 11 月
燃焼炎ダイヤモンド膜の誘電特性に及ぼす合成条件の影響	平成 16 年電気関係学会関西支部連合大会, G7-12, p. G175	2004 年 11 月
三次元有限要素法による三相型両サイド DC 回転機の電磁界解析とその設計	国立舞鶴工業高等専門学校紀要, Vol. 40, pp. 51/55,	2005 年 3 月
ニューラルネットを用いた同期リラクタンスモータの適応制御	国立舞鶴工業高等専門学校紀要, Vol. 40, pp. 51/55,	2005 年 3 月
カラー画像による人物挙動解析に関する研究	電子情報通信学会 2005 年総合大会情報システムソサエティ総合大会特別号 p. 67	2005 年 3 月
撮影画像の人物の照合監視システム	電子情報通信学会 2005 年総合大会情報システムソサエティ総合大会特別号 p. 54	2005 年 3 月
燃焼炎ダイヤモンド膜の電気特性に及ぼす熱処理温度の影響	電子情報通信学会 2005 年総合大会, C-6-1, p. 8	2005 年 3 月
フライアッシュを用いたセメント系混合物の基礎的検討,	土木学会関西支部平成 17 年度年次学術講演概要, V-13	2005 年 5 月
鉄筋加振法による付着強度への影響	土木学会関西支部平成 17 年度年次学術講演概要, V-40	2005 年 5 月
ニューラルネットワークを用いた風力発電系の同定システム	平成 17 年電気学会産業応用部門大会講演論文集, II-107/108,	2005 年 9 月
時間的視差を利用した三次元復元に関する基礎的研究	電気関係学会関西支部連合大会講演論文集 p. G306	2005 年 11 月
PLL/PWM 方式による位置サーボ系の FPGA 実現	第 48 回自動制御連合講演会	2005 年 11 月
LMI に基づく動的 anti-windup 制御器の設計	第 48 回自動制御連合講演会	2005 年 11 月
フォワード型 DC/DC コンバータの励磁電流の測定	パワーエレクトロニクス学会、第 161 回定例研究会講演予稿集、pp. 20,	2005 年 12 月
UPS に適した新しい昇降圧チョッパ回路の特性	パワーエレクトロニクス学会、第 161 回定例研究会講演予稿集、pp. 6,	2005 年 12 月
年少期の視機能と球技運動能力について	日本人間工学会 関西支部大会 講演論文集 pp. 89-90	2005 年 12 月
鉄/Si 基板上に堆積した窒化炭素ホウ素 (BCN) 薄膜からの電界電子放出特性	第 11 回高専シンポジウム (長岡) p. 101	2006 年 1 月
燃焼炎ダイヤモンド膜-Au 接合素子の接触電位差の温度依存性	電子情報通信学会学生会研究発表講演会	2006 年 3 月

(出典 庶務課資料)

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績の評価と単位認定、修了に係る要件は「専攻科学習の手引」(資料5-8-①-1)に記載され、学生に周知されている。資料5-8-①-2は、修了認定が行われた専攻科会議の資料であり、規程に基づいて専攻科課程の修了が認定されている。成績評価の元となる定期試験答案などの資料は、各担当教員でファイリングされ保管されている。

(分析結果とその根拠理由)

「専攻科の単位の修得に関する規程」は十分学生に周知されている。成績評価と単位認定、修了認定について本規程で明確に定められており、組織的に修了が認定されている。

## 舞鶴工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程

## (趣旨)

第1条 舞鶴工業高等専門学校学則第46条第3項の規定に基づき、専攻科の修得に必要な単位の修得については、この規程の定めるところによる。

## (授業)

第2条 授業の1単位時間は、標準45分とする。

2 授業は、講義、演習、実験及び実習のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。

3 授業科目の単位の計算方法は、1単位時間の履修時間を授業時間及び授業時間外に必要な学習をあわせて45時間とし、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。

## (履修方法)

第3条 授業科目の履修に当たっては、年度当初に、別に定める履修届を提出しなければならない。

## (試験)

第4条 試験は定期試験、追試験及び再試験とする。

2 定期試験は、各学期末に一定期間定めて実施する。

3 追試験は、病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受けられなかった者に対して実施する。

4 再試験は、特別事情があるとき、運営委員会の議を経て実施することができる。

## (成績評価)

第5条 成績は、授業科目ごとに第4条に規定する試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価する。

2 成績の評価は、次の区分による。

評 定	A+	A	B	C	F
評 点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0

## (単位の認定)

第6条 前条第2項の規定に基づき、A+、A、B及びCに評価された科目については、当該授業科目の単位の修得した者と認定する。

## (再履修)

第7条 単位を認定されなかった授業科目は、別に定める「再履修願い」を提出し、

次年度において再履修することができる。

(修了に必要な単位)

第8条 専攻科の修了に必要な単位は62単位以上とし、一般科目にあつては4単位以上、専門共通科目にあつては18単位以上、専門専攻科目にあつては40単位以上修得するものとする。

(大学における単位の認定)

第9条 大学において修得した単位は、10単位(一般科目2単位以内、専門共通科目4単位以内、専門専攻科目8単位以内)を超えない範囲で、専攻科における授業科目とみなし、その単位を認定することができる。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成13年4月1日から施行する。

2 平成12年度に入学した者に係る大学において修得した単位の認定については、改正後の第9条の規定にかかわらず、従前の16単位まで認定することができる。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年12月7日から施行する。

(出典 平成17年度専攻科学習の手引)

資料5-8-①-2

## 第5回専攻科会議議事概要

日 時 平成18年3月1日(水) 15:35～16:10  
場 所 大会議室  
出席者 別紙のとおり

## I. 諮問事項

## ○専攻科修了認定について

各専攻長から、配付資料1, 2に基づき認定単位の取得状況の説明があり、休学者3名(電気・制御システム専攻の建設・生産システム専攻の )と認定単位62を満たしていない3名(建設・生産システム専攻の )を除く25名(電気・制御システム専攻12名, 建設・生産システム専攻13名)の修了認定について審議した結果、異議なく了承された。

なお、本件審議の中で、再履修、追試験、再試験の関係が不明確ではないかとの指摘があったので、4月新学期に間に合うよう専攻科委員会で検討するよう校長から指示があった。

## II. その他

## ○認定専攻科における教育の実施状況等の審査結果について

専攻科長から、先に提出していた5年目審査である本校専攻科における教育の実施状況等については、このたび独立行政法人大学評価・学位授与機構で「適」と認められた旨の報告があった。

また専攻科長から、次回5年後の審査は、教員の半数以上の交代があると見込まれることから、専攻科担当教員全員の過去5年間の教育研究業績の提出が必要となるので、今後は毎年、各人の教育研究業績が累積できるよう準備を進めている旨の報告があった。

以 上

(出典 庶務課資料)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

＜準学士課程＞ 学校共通の目標のひとつとして「英語によるコミュニケーション能力の向上」と定め、低学年に基礎的文法等を重視した授業科目を、高学年になるにつれてより専門性を高めた講義や会話力の育成を図る科目構成を設定している。国際化への対応として、タイのKing Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang, 韓国のKorea Universityと交流協定を結び、海外留学の途を開いている。また「各クラスの代表学生と校長とのフリートーキング」を実施し、学生のニーズに対して配慮を行っている。さらに、創造性を養う科目を設けPBL方式で授業を実施している。

＜専攻科課程＞ 準学士課程4年5年と専攻科課程から成る「生産・情報基礎工学教育プログラム」を設置して準学士課程と専攻科課程の連携を密にしている。学生の多様なニーズや社会からの要請等に対応するため、学校長と専攻科生とのフリートーキングを行い、学生のニーズや要望を正確に把握している。また、海外の大学との国際交流協定が締結され、国際性を養う教育の基盤が整備されている。英語コミュニケーション能力向上のため「特別英語」を開講し、他高専との単位互換を行い単位を修得しており、高専間連携として優れた取組となっている。研究指導では、原則として複数教員指導体制をとっており、学会発表等学校外での研究発表を実施しており、研究指導が適切かつ良好に行われている。

(改善を要する点)

＜準学士課程＞ 学生のシラバス活用度が低く、改善を要する。

＜専攻科課程＞ シラバスが学生に十分活用されておらず改善を要する。

## (3) 基準5の自己評価の概要

＜準学士課程＞ 本校の教育理念に沿って卒業時の到達目標及び各学年の修了時の到達目標を具体的に定めて授業科目を決定し、各科目を適切に配置している。他学科の授業科目の履修を可能とし、国際化対応として語学検定の単位認定を行い、外国大学との交流協定を通して海外留学の途を開いている。留学生のニーズに対応するため、日本語や日本文化についてのカリキュラムを編成している。学習指導法では、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせ、目的とする学力と技能を身に付けさせる工夫を行っている。「情報リテラシー」やコミュニケーション英語教育など一般科目・専門科目、学科を超えた視点から学習指導内容や方法の工夫を行っている。シラバスは、各科目の到達目標が学生に理解されるよう具体的に記述されており、授業内容や成績評価についても明示されている。創造能力の育成については、講義・演習科目を組み合わせ、総合的な育成を図っている。社会ニーズへの対応として、インターンシップを活用し、「企業等における実践力の育成」を目指し、社会が求める能力の育成を図っている。成績評価・単位認定や進級・卒業認定に関する規定が組織として策定され学生に周知されており、これらの規定に従って成績評価、単位認定、進級・卒業認定が慎重かつ厳格に実施されている。人間としての素養を涵養する取り組みは、特別活動、新入生合宿研修、研修旅行、環境美化活動を通して行われている。また、生活指導面や課外活動等を通して、教育の目的「自ら学ぼうとする意欲を育てる」の涵養を図っている。

<専攻科課程> 準学士課程との連携を密にした教育課程となっており「生産・情報基礎工学教育プログラム」を設置している。教育の目的及び修了者像に照らして学習・教育目標が設定され、適切に科目が配置され、体系的が確保されている。選択必修制、大学の単位の認定、単位互換協定、インターンシップの活用、校長と学生のフリートーキング、国際交流協定により、学生の様々なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請に対応している。講義、演習、実験、研究の授業形態のバランスが教育の目的に照らして適切であり、学習指導法の工夫がなされている。特別研究及び各授業科目の工夫により、創造性が生まれ、インターンシップが活用されている。教育課程の編成の趣旨に沿ってシラバスが作成され、その内容は適切であるが、学生の活用は不十分であり改善を要する。研究指導においては、学生の興味を配慮して研究テーマを設定している。指導体制は原則として複数教員指導としている。成績評価、単位の認定、修了認定は、「専攻科の単位の修得に関する規程」に明確に定められ、学生に周知されている。単位の認定及び修了の認定は、この規程に基づいて組織的に適切に行われている。

## 基準 6 教育の成果

## (1) 観点ごとの分析

観点 6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到に係る状況）

準学士課程では本校の教育目的に沿って作成されたカリキュラムに基づき、各学年の修了と進級並びに卒業の認定を、学年末に開催する全教員出席による進級認定会議と卒業認定会議によって厳正に行っている。卒業認定会議では、学業成績・欠課時数一覧表などの会議資料を基に、学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力がふさわしいと認められた場合に、全教員の同意に基づき卒業の認定がなされる（資料 6-1-①-1）。

準学士課程 5 年生に対し、卒業時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等に関する達成度調査のためのアンケートを行っている。資料 6-1-①-2 は、アンケートの質問項目 1 から 14 と各質問に対するアンケート結果の上位群下位群分析（以下、GP 分析と略記）を示す。ヒストグラムの横軸はアンケートの質問番号，縦軸は各アンケート項目に達成できたと考えている学生数を正の値，達成できたと考えていない学生数を負の値で示している。これより、学生は、多くの項目で卒業時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等が達成できたと考えている。しかし、アンケート項目の「豊かな教養と国際性を育む教育を受けることができましたか。」および、「豊かな人間性，国際性，協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける能力を養うことができましたか。」については、達成できていないと考えている学生が多く、今後改善していく必要がある。

資料 6-1-①-1

舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに  
学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則

第 2 章 学業成績の評価

（学業成績の評価）

第 2 条 学業成績の評価は、学期評価及び学年評価を行う。

- 2 学業成績の評価は、当該教科目について予め目標とした事項を学生が習得したか否か、また、学生の能力、それまでの学力の下で期待されるレベルまで達成されたか否かについて行うものとする。
- 3 前項に規定される評価は、可能な限り客観的かつ総合的でなければならない。

（出典 舞鶴工業高等専門学校学生便覧）



## 資料 6—1—①—1 続き

第 3 条 学業成績の評価は、100 点法によって行う。

2 評価は、次の区分基準により評語で示すことができる。

- (1) 100～90 A+ (2) 89～80 A (3) 79～70 B (4) 69～60 C  
(5) 59～0 F

3 学期評価は、試験の成績、出欠状況並びに平素の学習状況を総合して評価するものとする。

4 各科目担当教員は、学業成績の評価の基礎となる試験の結果、出欠状況、平素の学習状況、授業外課題の履修結果等を保存しなければならない。

5 学生が評価の基礎について説明を求める場合は、各科目担当教員はこれを開示しなければならない。

6 期末試験を行うことなく、学業成績の評価を行う場合は、事前に成績評価の基礎となる資料を教務委員会に提出しなければならない。

7 教務委員会は、前項の学業成績の評価について審議し、教務主事の承認を受けるものとする。

8 学年評価は、原則としてその学年の各学期評価を平均したものとする。

9 学年評価においては、欠席時間数が出席すべき総時間数の 3 分の 1 を超える科目の評価は、59 点以下とする。

第 4 条 故意に試験に欠席したと認められた者、又は懲戒処分のため試験を受けることができなかった者の当該科目の試験の成績は零点とする。

(不正行為者等に対する措置)

第 5 条 試験中不正行為を行った者は、当該科目の試験の成績を零点、学年評価を 59 点以下とし、懲戒を加える。

### 第 3 章 試験

(種類)

第 6 条 試験は、次の 4 種類とする。

- (1) 期末試験  
(2) 中間試験  
(3) 追試験  
(4) 再試験  
(期末試験)

第 7 条 期末試験は、各学期末に実施する。

(中間試験)

第 8 条 中間試験は、各学期の中間に実施する。

(追試験)

第 9 条 追試験は、病気その他止むを得ぬ理由により試験に欠席した場合、又は過年度において当該科目の単位を修得できなかった者に限り実施することができる。

2 科目担当教員は、追試験を実施する場合、教務委員会に予め試験の方法及び評価方法について届け出るとともに教務主事の承認を受けておくものとする。

(出典 舞鶴工業高等専門学校学生便覧)

## 資料 6—1—①—1 続き

(再試験)

第 10 条 再試験は、学年評価において 59 点以下の評価の科目がある場合、運営委員会の議を経て実施することができる。

- 2 再試験は、その実施が決定された日から速やかにこれを実施するものとする。
- 3 科目担当教員は、前項の再試験の成績に基づく再評価を速やかに文書で提出しなければならない。

#### 第 4 章 学年の課程の修了，進級並びに卒業の認定

(定義)

第 11 条 学則別表第 1 及び第 2 に規定する各学年修了時又は卒業時に修得すべき単位数を、学年修了単位数又は卒業単位数という。

- 2 学年修了単位数又は卒業単位数を満たす、それぞれの学年で修得すべき単位数を、年間必要単位数という。

(進級認定)

第 11 条の 2 校長は、運営委員会の議を経て、学年評価において当該学年で履修した科目のうち、年間必要単位数を満たす科目の学年評価において各科目の評価が 60 点以上である者を各学年の課程を修了したものと認定し、進級させる。

(卒業認定)

第 15 条 校長は、運営委員会の議を経て、卒業単位数を満たす科目の学年評価が各科目 60 点以上である者を、本校全学年の課程を修了したものと認定し、卒業させる。

(出典 舞鶴工業高等専門学校学生便覧)

## 資料 6—1—①—2

#### 準学士課程 5 年生による教育評価アンケート分析結果

アンケート項目

- 問 1. 実験，実習，演習，ものつくりを重視する教育を受けることができましたか。
- 問 2. 基礎に立ち返って考える教育を受けることができましたか。
- 問 3. 自ら学ぼうとする意欲を育てる教育を受けることができましたか。
- 問 4. 豊かな教養と国際性を育む教育を受けることができましたか。
- 問 5. 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し，それを応用することができる能力を養うことができましたか。
- 問 6. 専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる能力を養うことができましたか。
- 問 7. 修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する能力を養うことができましたか。
- 問 8. 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる能力を養うことができましたか。

(出典 評価委員会 教育評価アンケート結果)

## 資料 6—1—①—2 続き

## 準学士課程5年生による教育評価アンケート分析結果

問 9. 豊かな人間性, 国際性, 協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける能力を養うことができましたか。

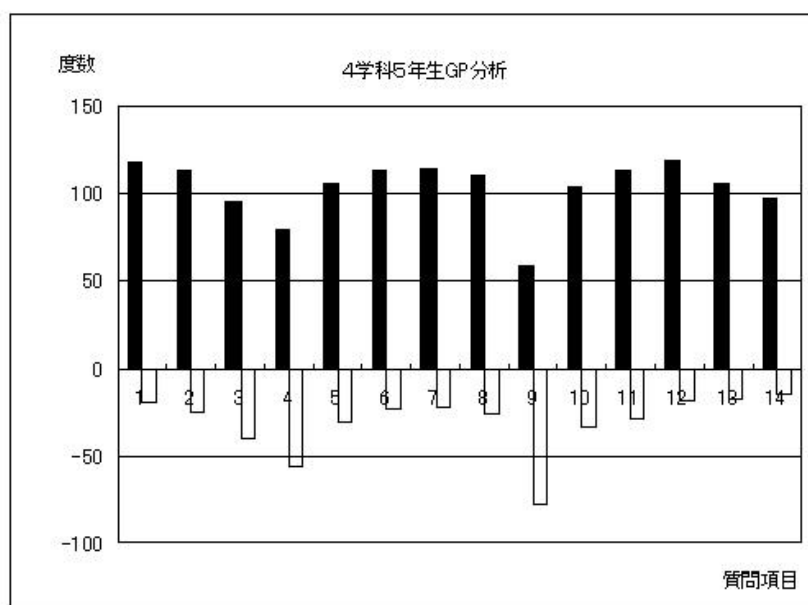
問 10. 技術が持つ地球的, 社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し, 説明することができる能力を養うことができましたか。

問 11. 課題の提案・報告などを効果的に記述し, 説明することができる能力を養うことができましたか。

問 12. コンピュータはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる能力を養うことができましたか。

問 13. 学科の目標に適する企業に就職することができましたか。

問 14. 学科の目標に適する大学に進学することができましたか。



(出典 評価委員会 教育評価アンケート)

専攻科課程では, 本校の教育目的に沿ってカリキュラムが編成され, 「専攻科学習の手引き」には, 学生が適切な選択科目を履修できるよう履修モデルを掲載している(資料 6—1—①—3～6)。専攻科では各科目担当教員が単位認定し, 修了条件を満たしているかどうかを専攻科委員会で確認している(資料 6—1—①—7)。専攻科委員会では, 学業成績・欠課時数一覧表などの資料を基に, 学生が修了時に身に付ける学力や資質・能力について, その達成状況の把握・評価を行い, 課程修了の認定を行っている。

評価委員会では, 専攻科課程 2 年生に対し, 本校専攻科の教育がその目的に沿って行われているかを把握・評価するためのアンケート調査を行っている。資料 6—1—①—8 は, アンケートの質問項目 1 から 10 と各質問に対するアンケート結果の GP 分析を示す。横軸はアンケートの質問番号, 縦軸は各アンケート項目に達成できたと考えている学生数を正の値, 達成できたと考えていない学生数を負の値で示している。これより, 学生は, 多くの項目で卒業時に身に付ける学力や資質・能力, 養成する人材像等が達成できたと考えていることが分かる。しかし, アンケート項目の「豊か

な人間性、国際性、協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける能力を養うことができましたか。」については、達成できていないと考えている学生が多く、今後改善していく必要がある。

資料6-1-①-3

## 7. 履修モデル

(1) 電気・制御システム工学専攻における履修モデル(本科が電気工学科の場合)

区分	授業科目	単位数	履修学期				履修例	担当教官	備考
			1年		2年				
			前期	後期	前期	後期			
一般科目	時事英語	2	2				◎	樽井 武 村上美登志 宮野 敏男 村上美登志 樽井 武 亀谷 睦 樽井 武	
	国文学	2	2				○		
	物性論	2	2						
	日本文学	2	2						
	時事工業英語	2		2					
	集合と位相	2		2			○		
	特別英語	2	2	2					
一般科目開設単位計	14	8	6	2		6		4単位以上	
専門科目	応用解析1	2	2				◎	小松 幸恵 背戸柳 実 亀谷 睦 金山 光一 船木 英岳 宮野 敏男 奥村 幸彦 金森 満 岩崎・篠原 幸彦 奥村 昭二 岡 力 仲川 富也	
	応用解析2	2		2			◎		
	応用解析3	2		2			◎		
	技術者倫理	2			2		◎		
	ネットワークシステム論	2		2			○		
	電子計測工学	2	2				○		
	画像工学	2	2				○		
	ロボットシステム制御	2		2			○		
	先端材料工学	2	2				○		
	エネルギー工学	2		2			○		
	数理計画法	2		2			○		
	システム設計	2	2				○		
	応用情報工学	2	2				○		
	専門共通科目開設単位計	26	10	4	10	2	20		
専門科目	特別研究	14	2	2	4	6	◎	船木 英岳 川田 昌克 北原 紀之 新池 一弘 中川 重康 町田 秀和 竹内 敬治 馬場 秀和 西岡 勝博 金森 満 金山 光一 和田 優 川勝 邦夫	
	特別実験	4	2	2			◎		
	特別演習	4		2	2		◎		
	情報工学	2		2			◎		
	システム制御工学	2		2			◎		
	電気応用工学	2	2				○		
	応用通信工学	2		2			○		
	パワーエレクトロニクス	2		2			○		
	デジタル信号処理	2		2			○		
	デジタル電子回路	2	2				○		
	アナログ電子回路	2		2			○		
	制御工学特論	2		2			○		
	知識制御工学	2		2			○		
	電子デバイス	2	2				○		
応用人間工学	2		2			○			
インターンシップ	2	2				○			
専門専攻科目開設単位計	48	12	18	10	8	44		40単位以上	
専門科目開設単位計	74	22	22	20	10	64			
一般・専門科目開設単位合計	88	30	28	22	10	70		62単位以上	

(注) ◎印は必修科目

(出典 舞鶴工業高等専門学校専攻科学習の手引)

## (2) 電気・制御システム工学専攻における履修モデル (本科が電子制御工学科の場合)

区分	授業科目	単 位 数	履修学期				履修例	担当教官	備 考		
			1年		2年						
			前 期	後 期	前 期	後 期					
一般科目	時 事 英 語	2	2				◎	樽井 武			
	国 文 学	2		2			○	村上美登志			
	物 性 論	2	2				○	宮野 敏男			
	日 本 文 化 論	2	2				○	村上美登志			
	時 事 工 業 英 語	2		2				樽井 武			
	集 合 と 位 相	2		2				亀谷 睦			
	特 別 英 語	2	2		2			樽井 武			
一般科目開設単位計		14	8	6	2		6		4単位以上		
専門科目	応 用 解 析 1	2	2				◎	小松 幸恵			
	応 用 解 析 2	2		2			◎	背戸柳 実			
	応 用 解 析 3	2			2		◎	亀谷 睦			
	技 術 者 倫 理	2			2		◎	金山 光一			
	ネットワークシステム論	2			2		○	船木 英岳			
	電 子 計 測 工 学	2	2				○	宮野 敏男			
	画 像 工 学	2	2				○	奥村 幸彦			
	ロボットシステム制御	2			2		○	金森 満			
	先 端 材 料 工 学	2	2					岩崎・篠原			
	エ ネ ル ギ ー 工 学	2			2		○	奥村 幸彦			
	数 理 計 画 学	2			2			岡 昭二			
	シ ス テ ム 設 計 学	2		2			○	仲川 力			
	応 用 情 報 工 学	2	2					高谷 富也			
	専門共通科目開設単位計		26	10	4	10	2	20			18単位以上
	専門科目	特 別 研 究	14	2	2	4	6	◎			
特 別 実 験		4	2	2			◎				
特 別 演 習		4			2	2	◎				
情 報 工 学		2		2			◎	船木 英岳			
シ ス テ ム 制 御 工 学		2		2			◎	川田 昌克			
電 磁 気 応 用 工 学		2	2				○	北原 紀之			
応 用 通 信 工 学		2		2				新池 一弘			
パ ワ ー エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス		2			2		○	中川 重康			
デ ィ ジ タ ル 信 号 処 理		2		2			○	町田 秀和			
デ ィ ジ タ ル 電 子 回 路		2	2				○	竹内 敬治			
ア ナ ログ 電 子 回 路		2		2			○	馬場 秀和			
制 御 工 学 特 論		2		2			○	西岡 勝博			
知 識 制 御 工 学	2			2		○	金森 満				
電 子 デ バ イ ス	2	2				○	金山 光一				
応 用 人 間 工 学	2		2			○	和田 優夫				
イ ン タ ー ネット	2	2					川勝 邦夫				
専門専攻科目開設単位計		48	12	18	10	8	44		40単位以上		
専門科目開設単位計		74	22	22	20	10	64				
一般・専門科目開設単位合計		88	30	28	22	10	70		62単位以上		

(注) ◎印は必修科目

(出典 舞鶴工業高等専門学校専攻科学習の手引)

(3) 建設・生産システム工学専攻における履修モデル (本科が機械工学科の場合)

区分	授業科目	単位数	履修学期				履修例	担当教官	備考
			1年		2年				
			前期	後期	前期	後期			
一般科目	時事英語	2	2				◎	樽井 武志	
	外国文学	2		2			○	村上美登志	
	物性論	2	2				○	宮野 敏男	
	日本文化論	2	2				○	村上美登志	
	時事工業英語	2		2			○	樽井 武志	
	集合と位相	2		2			○	樽井 武志	
	特別英語	2	2				○	樽井 武志	
一般科目開設単位計		14	8	6	2		6		4単位以上
専門科目	応用解析1	2	2				◎	小松 幸恵	
	応用解析2	2		2			◎	背戸 柳実	
	応用解析3	2			2		◎	樽井 武志	
	技術者倫理	2			2		◎	金山 光一	
	ネットワークシステム論	2			2		○	鈴木 英岳	
	電子計測工学	2	2				○	宮野 敏男	
	画像工学	2	2				○	奥村 幸彦	
	ロボットシステム制御	2			2		○	金森 満	
	先端材料工学	2	2				○	岩崎・篠原	
	エネルギー工学	2			2		○	奥村 幸彦	
	数理計画法	2			2		○	岡 昭二	
	システム設計	2			2		○	仲川 力	
	応用情報工学	2	2				○	高谷 富也	
専門共通科目開設単位計		26	10	4	10	2	20		18単位以上
専門科目	特別研究	14	2	2	4	6	◎		
	特別実験	4	2	2			◎		
	特別演習	4			2	2	◎		
	弾塑性力学	2	2				◎	篠原・生水	
	材料科学	2	2				◎	岡本・岩崎	
	材料加工学	2		2			○	生水 雅之	
	応用構造工学	2		2			○	武田 八郎	
	流体力学	2	2				○	西山 等	
	水工学特論	2			2		○	川合 茂	
	水圏環境学	2	2				○	三輪 浩	
	地盤工学設計論	2			2		○	森尾 敏	
	環境防災論	2	2				○	三輪 浩	
	動的設計論	2		2			○	辻・高谷	
	建設メカトロニクス	2		2			○	仲川 力	
	レオロジー	2		2			○	西山 等	
	メンテナンス工学	2		2			○	武田・岡本	
	地域計画	2		2			○	岡 昭二	
インターンシップ	2	2				○	川勝 邦夫		
専門専攻科目開設単位計		52	16	18	10	8	44		40単位以上
専門科目開設単位計		78	26	22	20	10	64		
一般・専門科目開設単位合計		92	34	28	22	10	70		62単位以上

(注) ◎印は必修科目

(出典 舞鶴工業高等専門学校専攻科学習の手引)

## (4) 建設・生産システム工学専攻における履修モデル (本科が建設システム工学科の場合)

区分	授業科目	単位数	履修学期				履修例	担当教官	備考
			1年		2年				
			前期	後期	前期	後期			
一般科目	時事英語	2	2				◎	樽井 武志	
	国文学論	2	2				○	村上美登志	
	物性文化論	2	2				○	宮野 敏男	
	日本工業英語	2	2				○	村上美登志	
	集合と位相	2	2					樽井 武志	
	特別英語	2	2	2				亀谷 睦	
一般科目開設単位計		14	8	6	2		6		4単位以上
専門科目	応用解析 1	2	2				◎	小松 幸恵	
	応用解析 2	2	2				◎	背戸柳 実睦	
	応用解析 3	2		2			◎	亀谷 睦	
	技術者倫理	2			2		◎	金山 光一	
	ネットワークシステム論	2		2			◎	船木 英岳	
	電子計測工学	2	2				○	宮野 敏男	
	画像工学	2	2				○	奥村 幸彦	
	ロボットシステム制御	2		2			○	金森 満	
	先端材料工学	2	2		2		○	岩崎・篠原	
	エネルギー工学	2		2			○	奥村 幸彦	
	数理計画学	2		2			○	岡 昭二	
	システム設計学	2	2				○	仲川 力	
応用情報工学	2	2				○	高谷 富也		
専門共通科目開設単位計		26	10	4	10	2	20		18単位以上
科目	特別研究	14	2	2	4	6	◎		
	特別実験	4	2	2			◎		
	特別演習	4			2	2	◎		
	弾塑性力学	2	2				◎	篠原・生水	
	材料科学	2	2				◎	岡本・岩崎	
	材料加工学	2		2			○	生水 雅之	
	応用構造工学	2		2			○	武田 八郎	
	流体力学	2	2				○	西山 等	
	水工学特論	2		2			○	川合 茂	
	水圏環境学	2	2				○	三輪 浩	
	地盤工学設計論	2		2			○	森尾 敏	
	環境防災論	2	2				○	三輪 浩	
	動的設計論	2		2			○	辻・高谷	
	建設メカトロニクス	2		2			○	仲川 力	
	レオロジー	2		2			○	西山 等	
メンテナンス工学	2		2			○	武田・岡本		
地域計画	2		2			○	岡 昭二		
インターシップ	2	2				○	川勝 邦夫		
専門専攻科目開設単位計		52	16	18	10	8	44		40単位以上
専門科目開設単位計		78	26	22	20	10	64		
一般・専門科目開設単位合計		92	34	28	22	10	70		62単位以上

(注) ◎印は必修科目

(出典 舞鶴工業高等専門学校専攻科学習の手引)

資料 6—1—①—7

## 舞鶴工業高等専門学校専攻科委員会規則

## (目的)

第1条 舞鶴工業高等専門学校教官組織規程（昭和50年4月1日制定）第28条第3項の規定に基づき、舞鶴工業高等専門学校専攻科委員会（以下「専攻科委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (組織)

第2条 専攻科委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 専攻科長
- (2) 教務主事
- (3) 専攻長
- (4) 各専攻，一般科目で専攻科を担当する教官 各1人
- (5) 学生課長

2 前項目第4号の任期は1年とし、再任は妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任委員の残任期間とする。

## (審議事項)

第3条 専攻科委員会は、校長の諮問に応じて、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成及び実施に関すること。
- (2) 教育計画及び授業時間の編成に関すること。
- (3) 入学者選抜に関すること。
- (4) 入学，退学，転学，休学，復学及び修了に関すること。
- (5) 試験及び学業成績に関すること。
- (6) 学生の進学及び就職に関すること。
- (7) 学生の厚生補導に関すること。
- (8) その他専攻科の運営に関すること。

## (委員会)

第4条 専攻科委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長は、委員会の協議について校長に報告する。
- 4 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名した委員が、その職務を代行する。

## (委員以外の出席)

第5条 専攻科委員会が必要と認めた場合には、委員以外の者の出席を求めて、意見を聞くことができる。

## (委員会の運用)

第6条 専攻科委員会は、他の委員会と密接な関係があり調整を必要とする場合、又は他の委員会で審議することがふさわしいと判断した場合には、それぞれ調整し、又は審議を依頼することができる。

## (事務)

第7条 専攻科委員会の事務は、学生課専門職員で処理する。

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)



資料 6—1—①—8

## 専攻科 2 年生による教育評価アンケート分析結果

## 設問項目

問 1. 在籍学科を回答して下さい。

[1] 電気・制御システム工学専攻 [2] 建設・生産システム工学専攻

問 2. 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができる能力を養うことができましたか。

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

問 3. 専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができる能力を養うことができましたか。

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

問 4. 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する能力を養うことができましたか。

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

問 5. 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる能力を養うことができましたか。

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

問 6. 豊かな人間性、国際性、協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける能力を養うことができましたか。

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

問 7. 技術が持つ地球的、社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができる能力を養うことができましたか。

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

問 8. 課題の提案・報告などを効果的に記述し、説明することができる能力を養うことができましたか。

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

問 9. コンピュータはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる能力を養うことができましたか。

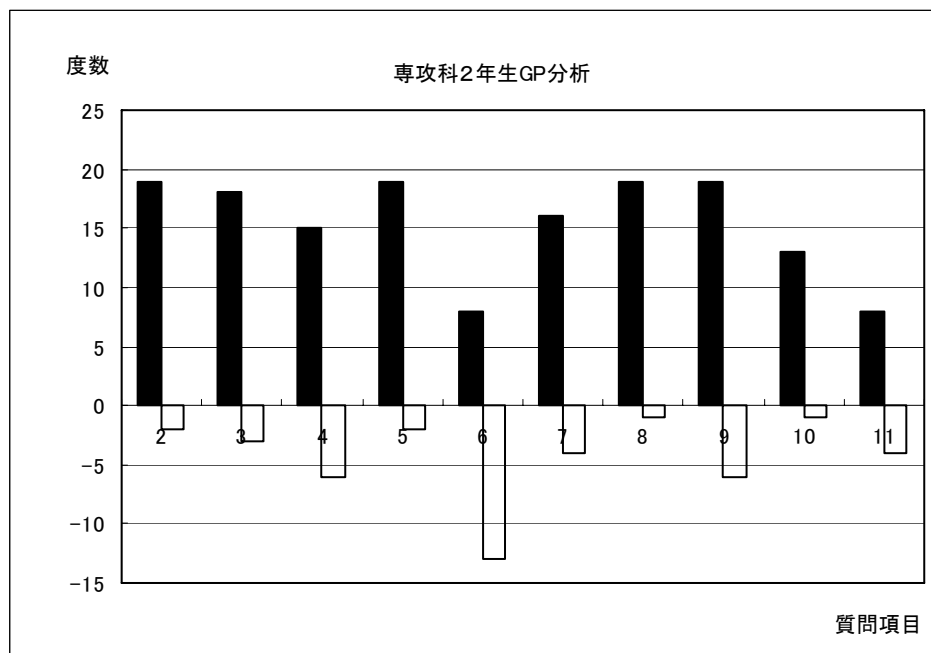
[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

問 10. 学科の目標に適する企業に就職することができましたか。

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

問 11. 学科の目標に適する大学に進学することができましたか。

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足



(出典 評価委員会 教育評価アンケート結果)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程，専攻科課程ともに，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力，資質・能力及び養成する人材像等について明示されており，その達成状況は，進級・卒業・修了認定会議および準学士課程，専攻科課程の卒業（修了）によるアンケートにおいて把握・評価されており，適切な取組が行われている。

**観点 6-1-②：** 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について，単位取得状況，進級の状況，卒業（修了）時の状況，資格取得の状況等から，あるいは卒業研究，卒業制作などの内容・水準から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

準学士課程および専攻科課程における在学・休学者・退学者・留年者の状況は，資料 6-1-②-1 及び 2 のとおりである。資料 6-1-②-3 は，各年度における各学科の進級率と学校全体の進級率を示している。同資料に示した進級率は，年度当初の在籍学生数に対する年度末の在籍学生数の割合を百分率で表したものである。過去 4 年間の全学科の進級率は，95.7 (%) ～97.1 (%) で推移している。

準学士課程では，最終学年の卒業研究において，学生が身に付ける学力や資質・能力が総合的に育成され，評価される。すなわち，卒業研究指導教員の指導の下に卒業研究を行い，学生が仕上げた卒業論文と取組の状況を指導教員が評価すると共に，各学科の卒業研究発表会での発表・質疑により，参加教員の評価も加えて学生の学力や資質・能力が総合的に評価されている。

専攻科課程では 2 年間特別研究を行い，特別研究論文の一部は学修レポートにまとめ，大学評価・学位授与機構に提出し審査の上，学位を取得している。このことは学生の学力が一定の水準以上に達していることを示している。さらに，修了者の約半数の学生が学協会等で研究成果を発表しており，特別研究の水準の高さを裏付けている（資料 6-1-②-4 及び 5）。

資料6-1-②-1

在学および休学者の状況（準学士課程・専攻科課程）

平成13年度

平成14年3月末現在

校長	事務部長	教務主事 学生主事 寮務主事	学生課長 庶務課長	専門職員 教務係長 学生係長 寮務係長 庶務係長			
<b>平成14年3月学生数月報</b>							
学年 学科	1	2	3	4	5	計	備 考
機 械	40	41	(1) 36 (2)	(2) 43 (3)	41 (1)	(3) 201 (6)	1.上段( )は、女子 学生数で内数  2.下段( )は、休学 者で内数
電 気	(7) 41 (1)	(11) 42 (1)	(14) 42	(8) 37	(7) 40	(47) 202 (2)	
電子制御	(4) 41	(3) 40	(3) 44	(3) 41 (1)	(1) 38 (1)	(14) 204 (2)	
建設システム	(3) 41	(5) 39	(8) 37	(10) 39	(3) 38	(29) 194	
本 科 計	(14) 163 (1)	(19) 162 (1)	(26) 159 (2)	(24) 160 (4)	(10) 157 (2)	(93) 801 (10)	
電気・制御	12	14	/	/	/	26	
建設・生産	10	9	/	/	/	19	
専攻科計	22	23	/	/	/	45	
全校生合計	/	/	/	/	/	846	/
備 考							












(出典 学生課資料)

資料6-1-②-1 続き

在学および休学者の状況（準学士課程・専攻科課程）

平成14年度

平成15年3月末現在












校 長 	事務部長 	教務主事  学生主事  寮務主事 	学生課長  庶務課長 	専門職員 教務係長  学生係長  寮務係長  庶務係長 				
平成15年3月学生数月報								
学科 学年	機 械	電 気	電子制御	建設システム	電気・制御	建設・生産	計	備 考
1-1	11	(2) 11	10	(1) 10			(3) 42	1. 上段 () は、女子 学生数で内数  2. 下段 () は、休学 者で内数
1-2	11	(1) 11	(1) 11	(2) 10			(4) 43	
1-3	10	(2) 11	9	(2) 11			(4) 41	
1-4	11	(1) 10	(1) 10	(2) 11			(4) 42	
小 計	43	(6) 43	(2) 40	(7) 42			(15) 168	
2	40	(6) 36	(4) 39	(2) 38			(12) 153	
3	43	(11) 38	(3) 40	(5) 37 (1)			(19) 158 (1)	
4	(1) 33	(14) 42 (1)	(3) 41 (1)	(7) 36			(25) 152 (2)	
5	(2) 41	(8) 37	(3) 41	(10) 40			(23) 159	
合 計	(3) 200	(45) 196 (1)	(15) 201 (1)	(31) 193 (1)			(94) 791 (3)	
1					7	9	16	
2					11	9	20	
全校生合計	(3) 200	(45) 196 (1)	(15) 201 (1)	(31) 193 (1)	18	18	(94) 826 (3)	
備 考								

(出典 学生課資料)

資料 6-1-②-1 続き

在学および休学者の状況（準学士課程・専攻科課程）

平成 15 年度

平成 16 年 3 月末現在								
校 長 	事務部長 	教務主事  学生主事  寮務主事 	学生課長  庶務課長 	専 門 員 教務係長  学生係長  寮務係長  庶務係長 				
平成 16 年 3 月学生数月報								
学科 学年	機 械	電 気	電子制御	建設システム	電気・制御	建設・生産	計	備 考
1-1	10	(2) 10	(1) 11	(1) 9			(4) 40	1, 上段 () は, 女子 学生数で内数  2, 下段 () は, 休学 者で内数
1-2	10	(1) 10	(1) 11	(3) 10			(4) 41	
1-3	(1) 10	(2) 11	(2) 11	(2) 9			(5) 41	
1-4	10	(2) 11	(1) 9	(1) 10			(3) 40	
小 計	(1) 40	(7) 42	(1) 42	(7) 38			(16) 162	
2-1	10	(2) 12	(1) 11	(1) 9			(4) 42	
2-2	11	(2) 9	(1) 10	(2) 9			(4) 39	
2-3	(1) 11	(1) 9	(1) 10	(1) 10			(4) 40	
2-4	(1) 11	(1) 9	(1) 10	(1) 8			(4) 38	
小 計	(2) 43	(6) 39	(3) 41	(5) 36			(16) 159	
3	38	(6) 33 (1)	(2) 38	(1) 34			(9) 143 (1)	
4	38	(9) 39 (1)	(3) 43	(5) 37 (1)			(17) 157 (2)	
5	(1) 33	(14) 41 (1)	(3) 39 (1)	(9) 36 (1)			(27) 149 (3)	
合 計	(4) 192	(42) 194 (3)	(12) 203 (1)	(27) 181 (2)			(85) 770 (6)	
1					(1) 14	14 (1)	(1) 28 (1)	
2					7	9	16	
全校生合計	(4) 192	(42) 194 (3)	(12) 203 (1)	(27) 181 (2)	(1) 21	(1) 23	(86) 814 (7)	
備 考								













(出典 学生課資料)

資料 6-1-②-1 続き

在学および休学者の状況（準学士課程・専攻科課程）

平成 16 年度

平成17年3月末現在

校長 	事務部長 	教務主事  学生主事  寮務主事 	学生課長  庶務課長 	専門員  教務係長  学生係長  寮務係長  庶務係長 
---	---	---	--	---

## 平成16年度 3月学生数月報

【本科】		学科	機 械	電気情報	電 気	電子制御	建設システム	計	備 考
学年									
1	1	11	(3) 11	/	/	11	(1) 10	(4) 43	1. 上段( )は女子で内数 2. 下段( )は休学者数 で内数
	2	11	(3) 11			(1) 11	(1) 10	(5) 43	
	3	11	(2) 11			(1) 12	(1) 10	(4) 44	
	4	(1) 11	(2) 11			(1) 11	(1) 10	(4) 43	
	小計	(1) 44	(10) 44			(2) 45	(4) 40	(17) 173	
2	1	10	(2) 10	(2) 9	(2) 9	(4) 38			
	2	(1) 10	(1) 10	(2) 10	(2) 9	(4) 39			
	3	(1) 11	(2) 9	(1) 10	(1) 9	(4) 39			
	4	11	(2) 11	(2) 10	(2) 8	(4) 40			
	小計	(2) 42	(7) 40	(7) 39	(7) 35	(16) 156			
3	(2) 44	(6) 36	(2) 40	(5) 32	(15) 152				
4	38	(4) 36	(2) 40	(1) 35	(7) 149				
5	37	(2) 38	(3) 43	(5) 36	(17) 154				
合計	(5) 205	(10) 44	(26) 150	(9) 207	(22) 178	(72) 784			

(備考)

## 【専攻科】

専攻	電気・制御システム	建設・生産システム	計	備 考	学生総計
1	14	16	30	1. 上段( )は女子で内数	(73)
2	(1) 14	(1) 13	(1) 27		
合計	(1) 28	(2) 29	(1) 57	(3) (7)	

(備考)

(出典 学生課資料)

資料6-1-②-2

休学者および退学者の状況（準学士課程・専攻科課程）

## 休学者・退学者数

科	年度	1 3		1 4		1 5		1 6		1 7	
	学年	休学	退学	休学	退学	休学	退学	休学	退学	休学	退学
M	1		3		2						
	2						1		1	1	
	3	2	2				3		1		
	4	3	1	2	5		6		3		
	5	1									
	小計	6	6	2	7	0	10	0	5	1	0
E	1	1	3					1		1	
	2	1	2	1	2		4	1	3		2
	3		3		2	1	3	3	5	3	2
	4			1		2	1	3	1	3	1
	5					1		1	1		
	小計	2	8	2	4	4	8	9	10	7	5
S	1		1				1				1
	2				2		3		3		
	3	1	3				1		1	2	
	4	1		2	2	1		1		2	
	5	1									
	小計	3	4	2	4	1	5	1	4	4	1
C	1				1				3	2	2
	2		2		1		2		1	1	1
	3		1	1	2		5		2		
	4		1		3	1	1		2		
	5					1			1		
	小計	0	4	1	7	2	8	0	9	3	3
合計		11	22	7	22	7	31	10	28	15	9

M: 機械工学科, E: 電気工学科, S: 電子制御工学科, C: 建設システム工学科

(出典 学生課資料)

資料6-1-②-2 続き

留年者の状況（準学士課程・専攻科課程）

平成13年度留年者

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	計
機械工学科	0	0	2	2	1	5
電気工学科	1	1	0	0	0	2
電子制御工学科	1	1	0	1	1	4
建設システム工学科	1	1	1	0	1	4
準学士課程計	3	3	3	3	3	15
電気・制御	0	0				0
建設・生産	1	1				2
専攻科計	1	1				2
全校生合計						17

平成14年度留年者

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	計
機械工学科	1	0	1	0	0	2
電気工学科	1	1	1	1	0	4
電子制御工学科	1	2	0	2	0	5
建設システム工学科	0	1	2	1	1	5
準学士課程計	3	4	4	4	1	16
電気・制御	0	0				0
建設・生産	1	1				2
専攻科計	1	1				2
全校生合計						18

(出典 学生課資料)



資料6-1-②-2 続き

## 留年者の状況（準学士課程・専攻科課程）

## 平成15年度留年者

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	計
機械工学科	0	1	1	2	1	5
電気工学科	0	0	2	1	1	4
電子制御工学科	0	1	0	1	1	3
建設システム工学科	0	1	0	1	1	3
準学士課程計	0	3	3	5	4	15
電気・制御	0	0				0
建設・生産	1	2				3
専攻科計	1	2				3
全校生合計						18

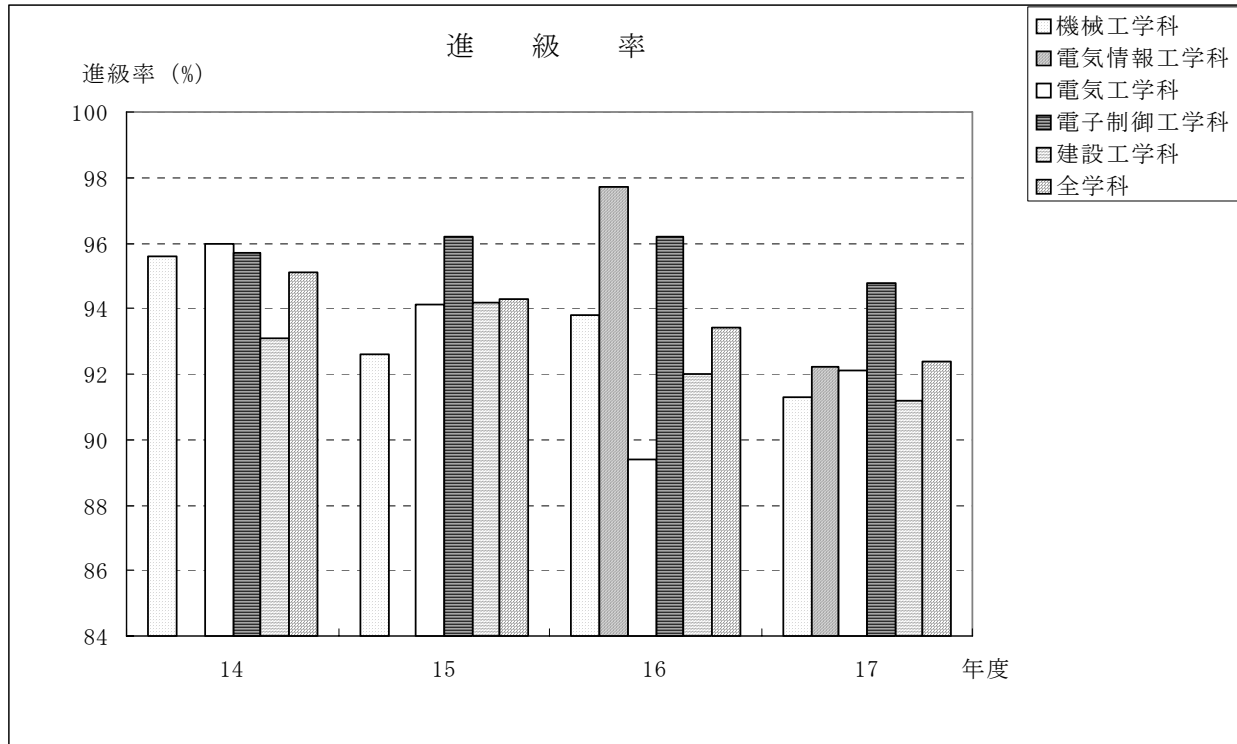
## 平成16年度留年者

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	計
機械工学科	0	1	1	6	0	8
電気工学科	1	2	1	2	1	7
電子制御工学科	0	0	1	2	0	3
建設システム工学科	3	1	1	1	1	7
準学士課程計	4	4	4	11	2	25
電気・制御	0	0				0
建設・生産	1	1				2
専攻科計	1	1				2
全校生合計						27

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ② - 3

各学科および学校全体の進級率の推移



(出典 学生課資料)

専攻科特別研究報告集

*Bulletin of Graduation Thesis Research  
of  
Advanced Faculty*

第 4 号  
平成 17 年 3 月

*No. 4  
March, 2005*

舞鶴工業高等専門学校  
*Maizuru National College of Technology*

(出典 学生課資料)

## 専攻科特別研究報告集目次

## — 目 次 —

## 【電気・制御システム工学専攻】

電子デバイス応用のための高品質ダイヤモンド膜の合成	川畑 智史	1
部分線形化によるアクロバットの振り上げ安定化制御に関する研究	喜虎 勇氣	7
高品質ダイヤモンド合成のためのプラズマ反応解析	釘崎 竜	13
青色レーザー用サファイアベース基板の劈開技術に関する研究	桑田 邦広	19
アクチュエータの飽和を考慮したモデル規範形適応制御に関する研究	笹川 大介	23
FeZnN 薄膜を用いた FG センサによる漏洩電束探傷法の基礎研究	田中 一弘	27
プラズマプロセスにおける気相反応に関する研究	大門 克也	31
カラー画像による人物挙動解析に関する研究	畑 裕也	37
マルチスロット励起マイクロ波プラズマ源の研究	林 亜美	41
撮影画像の人物の照合監視システム	福元 康人	47
上体を有する2足歩行ロボットの制御	南 裕樹	51
電界放出ディスプレイ用 BCN 膜の高性能化に関する研究	官谷 洋	57
ニューラルネットを用いた同期リラクタンスマータの適応制御に関する研究	山本 玲緒奈	61
大地中の電波伝播の数値解析に関する基礎的研究	依藤 泰介	65

(出典 学生課資料)

## 専攻科特別研究報告集目次

## 【建設・生産システム工学専攻】

F R T P 射出成形品の衝撃特性に関する研究 —初期繊維長の影響— .....	青木 賢平 .....	71
フライアッシュを用いたセメント系混合物の初期水和反応特性 .....	梶原 治 .....	75
Monolith Converter 内流れの数値シミュレーション .....	神庭 温 .....	79
ゾルゲル法による BaTiO <sub>3</sub> および La, Mn ドープ BaTiO <sub>3</sub> 微粒子の合成 .....	酒井 一宏 .....	86
Sn-3Zn-3Bi はんだのクリープおよびクリープ破断特性 .....	佐藤 利博 .....	91
段差における介助車椅子の補助力制御 .....	高倉 洋 .....	95
由良川における断面拡幅と河床変動について .....	竹田 一貴 .....	101
想定断層を用いた舞鶴市での地震動予測 .....	中野 真吾 .....	107
由良川における堤防整備と洪水流れについて .....	野木 章平 .....	111
舞鶴市の液状化危険度マップの作成 .....	長谷川 央 .....	117
単純せん断試験機による若狭砂の液状化特性 .....	山本 哲也 .....	121

(出典 学生課資料)

## 資料 6 - 1 - ② - 5

## 専攻科課程学生による学会発表・論文等（平成17年度）

題目	学会名・講演会名など	発表年月
フライアッシュを用いたセメント系混合物の基礎的検討	土木学会関西支部年次学術講演概要, V-13,	2005年5月
2004年台風23号による由良川洪水について	土木学会関西支部講演概要集 II-40	2005年5月
2004年台風23号による由良川水害における避難について	土木学会関西支部講演概要集 II-41	2005年5月
水みちの変動に及ぼす土砂供給量変化の影響	平成17年度土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集, II-32	2005年5月
鳴き砂の土粒子形状と非排水単純せん断特性について	平成17年度土木学会関西支部年次学術講演会, III-25	2005年5月
舞鶴市の液状化危険度マップの作成	平成17年度土木学会関西支部年次学術講演会, III-41	2005年5月
2004年台風23号による由良川の被害と洪水	第60回土木学会年講概要集 II-64, pp.127-128	2005年9月
2004年台風23号による由良川水害時の避難について	第60回土木学会年講概要集 II-67, pp.133-134	2005年9月
水みちの変動に及ぼす土砂流入条件の影響	第60回土木学会年次学術講演会講演概要集, 第II部門, pp.179-180	2005年9月
舞鶴市の液状化危険度について	第60回土木学会年次学術講演会講演概要集, pp.317-318 (3-159)	2005年9月
Effect of Bed Degradation and Aggradation on Transformation of Alternate Bar Morphology	Proceedings of the 4th IAHR Symposium on River, Coastal and Estuarine Morphodynamics, Vol. I, pp.471-479	2005年10月
ゾルゲル法による $\text{In}_2\text{O}_3$ - $\text{SnO}_2$ 系透明導電膜の合成	粉体粉末冶金協会講演概要集平成17年度秋季大会, 1-65A, pp.210	2005年11月
撮影画像の人物の照合監視システム	電子情報通信学会 2005年総合大会情報システムソサエティ総合大会特別号 p.54	2005年3月
燃焼炎ダイヤモンド膜の電気特性に及ぼす熱処理温度の影響	電子情報通信学会 2005年総合大会, C-6-1, p.8	2005年3月
フライアッシュを用いたセメント系混合物の基礎的検討,	土木学会関西支部平成17年度年次学術講演概要, V-13	2005年5月
鉄筋加振法による付着強度への影響	土木学会関西支部平成17年度年次学術講演概要, V-40	2005年5月
ニューラルネットワークを用いた風力発電系の同定システム	平成17年電気学会産業応用部門大会講演論文集, II-107/108,	2005年9月
ILQ設計法を用いた同期リラクタンス電動機のロバスト電流制御システム	平成17年電気学会産業応用部門大会講演論文集, pp.I-191-196	2005年9月
LMIに基づく動的 anti-windup 制御器の設計	第48回自動制御連合講演会	2005年11月
PLL/PWM方式による位置サーボ系のFPGA実現	第48回自動制御連合講演会 CD-ROM集, H1-12,	2005年11月
時間的視差を利用した三次元復元に関する基礎的研究	平成17年電気関係学会関西支部連合大会講演論文集, G306	2005年11月
寮内ネットワークシステムの改善	平成17年電気関係学会関西支部連合大会講演論文集, G260	2005年11月
静電結合と表皮効果による導体形状の非破壊測定	電気関係学会関西支部連合大会講演論文集(電気学会他共催), G2-15, p.G44	2005年11月
異なる昇温速度を用い TFA-MOD法により作製した Y-123膜の超電導特性と X線解説結果	電気関係学会関西支部連合大会講演論文集(電気学会他共催), G7-37, p.G173	2005年11月
電子デバイス応用のための高品質ダイヤモンド膜の燃焼合成	第43回燃焼シンポジウム講演論文集(日本燃焼学会主催), pp.504-505	2005年12月

(出典 舞鶴高専年報-2005年度の教育・研究-)

## 資料 6 - 1 - ② - 5 続き

年少期の視機能と球技運動能力について	日本人間工学会関西支部大会講演論文集 (日本人間工学会), pp. 89-90	2005 年 12 月
フォワード型 DC/DC コンバータの励磁電流の測定	パワーエレクトロニクス学会、第 161 回定例研究会講演予稿集、pp. 20	2005 年 12 月
UPS に適した新しい昇降圧チョッパ回路の特性	パワーエレクトロニクス学会、第 161 回定例研究会講演予稿集、pp. 6,	2005 年 12 月
鉄/Si 基板上に堆積した窒化炭素ホウ素 (BCN) 薄膜からの電界電子放出特性	第 11 回高専シンポジウム講演要旨集 (高専シンポジウム協議会主催), B-9, p. 101	2006 年 1 月
燃焼炎ダイヤモンド膜-Au 接合素子の接触電位差の温度特性	電子情報通信学会学生会研究発表講演論文集 (電子情報通信学会主催), C2-2, p. 48	2006 年 3 月

## 準学士課程学生による学会発表・論文等 (平成 17 年度)

題目	学会名・講演会名など	発表年月
ゾルゲル法による BaTiO <sub>3</sub> 微粒子の合成	粉体および粉末冶金, Vol. 52, No. 4, pp. 261-266	2005 年 3 月
静電結合と表皮効果による導体形状の非破壊測定	平成 17 年電気関係学会関西支部連合大会, G2-15, p. G44	2005 年 11 月
固有空間法による陸支コードの認識	平成 17 年電気関係学会関西支部連合大会講演論文集, G322	2005 年 11 月
夜間におけるナンバープレートの抽出と認識	平成 17 年電気関係学会関西支部連合大会講演論文集, G327	2005 年 11 月
フレーム付きナンバープレートの抽出・認識に関する基礎研究	平成 17 年電気関係学会関西支部連合大会講演論文集, G278	2005 年 11 月
ゾルゲル法による La, Mn ドープ BaTiO <sub>3</sub> 微粒子の合成	舞鶴高専紀要, Vol. 41, pp. 1-5	2006 年 3 月
ハフ変換にフーリエ近似を用いた楕円検出	電気学会全国大会講演論文集, p. 185	2006 年 3 月
接線情報を用いたハフ変換による楕円検出	電気学会関西支部高専研究発表講演論文集, pp. 25-26	2006 年 3 月
ECM を用いたナノメートルオーダー微小変位測定法の研究	電気学会関西支部高専卒研発表会 pp. 15-16 (2006. 3)	2006 年 3 月

(出典 舞鶴高専年報-2005 年度の教育・研究-)

(分析結果とその根拠理由)

各学年における進級率は過去4年間では95.7～97.1%の範囲で推移しており、教育の成果や効果が上がっている。卒業研究においても本校の目的にかなう内容と水準を維持しており、準学士課程、専攻科課程のいずれにおいても学会等で発表し表彰もされており、教育の成果や効果が上がっている。

**観点6-1-③：** 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

現在まで準学士課程4,766名の卒業生と専攻科課程73名の修了生を世に送り出しており、地域を始めた企業への就職や大学・大学院への進学を果たしている（資料6-1-③-1～3）。就職に関しては、求人倍率が平均10倍を超え就職率100%を維持しており、本校卒業生の能力が高く評価されている。進学者数は専攻科と国公立大学への3年次編入を合わせて卒業生の40%を越えている。進学には推薦選抜と学力選抜の2通りがあり、いずれにおいても本校卒業生の能力が高く評価されていると判断される。

準学士課程卒業生の就職者と進学者の割合はほぼ6対4である。就職先は、各学科の専門分野を中心とした製造業と、時代の要請を反映して情報処理・サービス業が多く、近隣地域をはじめ近畿地区が多くなっている。平成12年度、13年度の卒業生に対し就職先が各学科の目標に合致しているか否かについてアンケート調査を行った（資料6-1-③-4）。同資料のグラフは、卒業生が就学した学科の目標に適した企業に就職しているか否かと、本校で学習した専門科目が業務に役立っているかをそれぞれ示している。学科の目標と就職企業との関連性に関するアンケートから、卒業生の約70%が学科の目標に適した企業に就職していることが分かる。本校で学習した専門科目と業務の関連性についても、約85%の卒業生が関連性ありと答えている。また、本校を卒業した学生の進学先は、本校専攻科や国立大学を中心とした大学の工学部に進学している（資料6-1-③-5）。専攻科の修了生については、平成13年度から平成17年度までの就職率は100%であり、毎年2～4名が国立大学を中心とした大学院へ進学している。



## 資料 6-1-③-1

「卒業・修了者の進路状況（準学士課程・専攻科課程）および大学への編入学等の状況（準学士課程）」

卒業者の進路状況（準学士課程）

平成 13 年度卒業生

区 分	卒 業 者 数	就 職 希 望 者 (a)	就 職 決 定 者 (b)	進 学 希 望 者	そ の 他 (含自営)	求 人 会 社 数 (社)	求 人 数 (人) (c)	求人倍数 (c)/(a)	就職決定率 (b)/(a)×100
機 械	40	26	26	12	2	242	243	9.3	100.0
電 気	40	23	23	15	2	269	270	11.7	100.0
電子制御	37	17	17	19	1	251	252	14.8	100.0
建設システム	37	18	18	14	5	92	92	5.1	100.0
合 計	154	84	84	60	10	854	857	10.2	100.0

修了者の進路状況（専攻科課程）

平成 13 年度修了生

区 分	修 了 者 数	就 職 希 望 者 (a)	就 職 決 定 者 (b)	進 学 希 望 者	そ の 他 (含自営)	求 人 会 社 数 (社)	求 人 数 (人) (c)	求人倍数 (c)/(a)	就職決定率 (b)/(a)×100
電気・制御	13	9	9	3	1	42	42	4.67	100.0
建設・生産	9	6	6	2	1	35	35	5.83	100.0
合 計	22	15	15	5	2	77	77	5.13	100.0

卒業者の進路状況（準学士課程）

平成 14 年度卒業生

区 分	卒 業 予 定 者 数	就 職 希 望 者 (a)	就 職 内 定 者 (b)	進 学 希 望 者	そ の 他 (含自営)	求 人 会 社 数 (社)	求 人 数 (人) (c)	求人倍数 (c)/(a)	就職内定率 (b)/(a)×100
機 械	32	21	21	11	0	233	238	11.3	100.0
電 気	40	23	23	15	2	268	271	11.7	100.0
電子制御	38	18	18	19	1	251	253	14.0	100.0
建 設 システム	35	19	19	14	2	82	87	4.5	100.0
合 計	145	81	81	59	5	834	849	10.4	100.0

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 1 続き

## 卒業者の進路状況（準学士課程）

平成 16 年度卒業生

区 分	卒 業 者 数	就 職 希 望 者 (a)	就 職 決 定 者 (b)	進 学 希 望 者	その他 (含自 営)	求 人 会 社 数 (社)	求人数 (人) (c)	求人倍 数 (c)/(a)	就職決定率 (b)/(a)×100
機 械	37	20	20	13	4	309	319	16.0	100.0
電 気	37	22	22	15	0	303	306	13.9	100.0
電子制御	43	22	22	21	0	305	311	14.1	100.0
建 設 システム	36	15	15	19	2	91	91	6.1	100.0
合 計	153	79	79	68	6	1,008	1,027	13.0	100.0

## 修了者の進路状況（専攻科課程）

平成 16 年度修了者

区 分	修 了 者 数	就 職 希 望 者 (a)	就 職 決 定 者 (b)	進 学 希 望 者	その他 (含自 営)	求 人 会 社 数 (社)	求人数 (人) (c)	求人倍 数 (c)/(a)	就職決定率 (b)/(a)×100
電 気 制 御	14	5	5	9	0	116	119	23.8	100.0
建 設 生 産	11	7	7	3	1	111	112	16.0	100.0
合 計	25	12	12	12	1	227	231	19.3	100.0

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 1 続き

「卒業・修了者の進学先一覧（準学士課程・専攻科課程）」

準学士課程											
大学名	編入学年度					大学名	編入学年度				
	13	14	15	16	17		13	14	15	16	17
宇都宮大学				1		高知大学			1		1
群馬大学		1				愛媛大学				1	1
千葉大学		1				九州工業大学	3	1	2	2	1
長岡技術科学大学	5	7	6	2	4	佐賀大学		1			
富山大学		1	1	1	1	熊本大学	1				1
金沢大学				1	1	鹿児島大学			1		
福井大学	4	6	4	1	1	滋賀県立大学					1
信州大学	1	4	3	2		大阪市立大学					1
山梨大学	1	1	2		1	姫路工業大学		1			
岐阜大学	2	2	1	3	2	岡山県立大学		1			
豊橋技術科学大学	7	6	8	8	7	愛知工科大学					1
名古屋工業大学				1		京都造形大学					1
三重大学		1	2	1	2	立命館大学	2	2	2	2	2
京都教育大学					1	龍谷大学			1		
京都工芸繊維大学			1			関西大学	1	2		3	1
大阪大学		1	2	1	1	大阪産業大学					1
和歌山大学	2		3	1	3	四天王寺国際佛教大学			1		
島根大学			1		1	東亜大学				1	
岡山大学				1		徳島文理大学	1		1		
広島大学					3	計	33	41	43	37	41
山口大学	2			1		・その他、北見工業大・北海道大・東北大・岩手大・秋田大・ 埼玉大・茨城大・東京工業大・電気通信大・東京大・静岡大・ 神戸大・鳥取大・長崎大・大阪府立大・大阪電気通信大等に 編入学の実績があります。					
徳島大学	1	1		2	1						
香川大学		1		1							

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 1 続き

準学士課程					
編入学年度	13	14	15	16	17
高専名					
舞鶴高専専攻科	18	16	26	22	27
福井高専専攻科	1		1		
豊田高専専攻科			2		
明石高専専攻科	1	1	2		
奈良高専専攻科					
津山高専専攻科			1		
呉高専専攻科					
神戸市立高専専攻科		2	1		
計	20	19	33	22	27

## 専攻科課程

編入学年度	14	15	16	17
大学院名				
室蘭工業大学大学院		1		
北陸先端科学技術大学院	2	2	1	
長岡技術科学大学大学院		1		
豊橋技術科学大学大学院				1
京都大学大学院情報学研究科				1
京都工芸繊維大学大学院工芸学科研究科				1
大阪大学大学院工学研究科		1		
徳島大学大学院工学研究科	1			1
九州工業大学大学院	1	1	1	3
早稲田大学大学院情報生産システム研究科				1
立命館大学大学院理工学研究科	1	2	1	3
合計	5	8	3	11

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 2

## 「卒業・修了者の就職先（準学士課程・専攻科課程）」

平成 13 年度就職先一覧（準学士課程）		
相生精機(株)	サンコール(株)	日本道路公団
アイサワ工業(株)	サントリー(株)	(株)日本ピーエス
アイテック阪神(株)	三洋電機サービス(株)	(株)ネオテクノ
(株)イシダ	CTCテクノロジー(株)	パナソニックエンジニアリング(株)
一志(株)	(株)スガナミ	阪神動力機械(株)
ウエスト電気(株)	第一精工(株)	光工業(株)
ウェルファイド(株)	(株)第一土木	(株)微生物化学研究所
(株)エクセディ	ダイキン工業(株)	日立メディコ(株)
(株)NTTドコモ関西	太陽機械工業(株)	富士ソフトABC(株)
(株)NTTファシリティーズ	翼システム(株)	(株)ベストハウジング
戎屋化学工業(株)	寺西建設(株)	(株)堀内機械
大阪資生堂(株)	TOWA(株)	(株)堀場製作所
奥村組土木興業(株)	東芝エレベータ(株)	前田道路(株)
オムロンフィールドエンジニアリング(株)	東レ・プレジジョン(株)	(株)丸屋建設
カスタム・パーツ・フタイ	トクデン(株)	三菱重工業(株)神戸造船所
(株)香山組	トステム(株)	三菱電機(株)関西業務センター
(株)川嶋建設	西日本旅客鉄道(株)	三菱電機ビルテクノサービス(株)
関西電力(株)	ニチコン(株)亀岡工場	ムラタシステム(株)
(株)カンセツ	ニチコンタンタル(株)	八千代町
技研電子(株)	ニチゾウ電子制御(株)	山崎建設(株)
キャンシステムアンドサポート(株)	(株)日研工作所	ユニチカ(株)
(株)共立合金製作所	(株)日産テクノ	(株)吉野工業所大阪工場
ケイコン(株)	(株)日新システムズ	吉村建設工業(株)
(株)小松製作所大阪工場	(株)日進製作所	レンゴー(株)
サクラインターネット(株)	日本電産(株)	

平成 13 年度就職先一覧（専攻科課程）	
伊根町	(株)高木製作所
三菱ウェルファーマ(株)	(株)日進製作所
(株)エクセディ	(株)日本工業試験所
音羽電機工業(株)	ネクストウェア(株)
(株)オリンピア	株)ビーエム昌和
京都機械工具(株)	横河ワイ・エフ・イー(株)
三幸通信工業(株)	(株)吉野工業所大阪工場
(株)システムラン	

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 2 続き

平成 14 年度就職先一覧(準学士課程)		
アイコム(株)	財務省印刷局	日本原子力防護システム(株)
(株)アズクリエイト	サントリー(株)	(有)パブリックプラン
一志(株)	三洋電機サービス(株)	阪神動力機械(株)
(株)エクセディ	自衛隊(曹候補生)	(株)半導体エネルギー研究所
NHK	(株)シビルピープル	富士ソフトABC(株)
(株)NTTファシリティーズ	新日本海事工業(株)	(株)古瀬組
戎屋化学工業(株)	SPECIAL BLEND(株)JAPAN	(株)堀場製作所
大阪シーリング印刷(株)	セコム(株)	(株)舞鶴設計所
オムロンフィールドエンジニアリング(株)	セントラル・コンピュータ・サービス(株)	(株)前川製作所
金下建設(株)	総合警備保障(株)	三浦工業(株)
(株)香山組	大舞工業(株)	三菱重工業(株)高砂製作所
カルビー(株)	太陽機械工業(株)	ムラテック販売(株)
カルビー(株)綾部工場	(株)翼システム	(株)モリタ製作所
カルビー(株)滋賀工場	(有)ディーシーティー・インコーポレーション	山本土木(株)
(株)カンセツ	トクデン(株)	ユニチカ(株)
キャノンシステムアンドサポート(株)	西日本旅客鉄道(株)	(株)吉野工業所
窪田工業(株)	ニチコン(株)亀岡工場	(株)吉野工業所大阪工場
ガンゼ(株)	ニチゾウ電子制御(株)	陸上自衛隊
ケイコン(株)	(株)日産テクノ	レンゴー(株)桂工場
コベルコシステム(株)	(株)日進製作所	レンゴー(株)京都工場
(株)小松製作所(コマツ)	日信電子サービス(株)	

## 平成 14 年度就職先一覧(専攻科課程)

アイコム(株)	(株)日産テクノ
伊根町役場	(株)ニッソーサービス
(株)エクセディ	(株)バンテクノ
岸本建設(株)	(株)日立ビルシステム
ソイルアンドロックエンジニアリング(株)	富士ソフトABC(株)
(株)テクモ	富士電機システムズ(株)

(出典 学生課資料)

## 資料 6 - 1 - ③ - 2 続き

アイテック阪神(株)	滋賀県	阪神動力機械(株)
アルプス電気(株)	(株)資生堂舞鶴工場	ヒエン電工(株)長田野工場
(株)イシダ	総合警備保障(株)	(有)フードプランニング
(株)エナミ精機	(株)第一土木	富士ソフトABC(株)
(株)エヌ・ティ・ティ ファシリティーズ	(株)大同キャスティングス	フジテック(株)
NECフィールディング(株)	太陽機械工業(株)	(株)古瀬組
エレックス工業(株)	太陽精機(株)	(株)ベルテックス
大阪ガス(株)	(株)ティエスティ	(株)ベンチャーセーフネット
大阪シーリング印刷(株)	東芝メディカルシステムズ(株)	(株)堀内機械
金下建設(株)	東洋電機(株)	(株)堀場製作所
関西電力(株)	同和鉱業(株)	本田技研工業(株)
キャノンシステムアンドサポート(株)	特殊電極(株)	舞鶴市
京セラミタジャパン(株)	トクデン(株)	(株)舞鶴設計所
(株)桑原組	(株)ナック	前田道路(株)
計測テクノ(株)	南海電設(株)	松下システムテクノ(株)
ケイコン(株)	西日本旅客鉄道(株)	松下電子部品(株)
(株)光輝	ニチゾウ電子制御(株)	(株)向茂組
光洋エンジニアリング(株)	(株)日進製作所	ムラテック販売(株)
(独)国立印刷局	日信電子サービス(株)	明光精器(株)
(株)コス	(株)ニッソーサービス	明治乳業(株)関西工場
三興コントロール(株)	日本コムシス(株)	明治乳業(株)京都工場
三洋電機(株)	日本電産(株)	(株)モリタ製作所
サンワテスコム(株)	日本電産シバウラ(株)	矢崎総業(株)
GMB(株)	ネクストウェア(株)	安田建設(株)
		(株)ユアサコーポレーション

平成 15 年度就職先一覧(専攻科課程)	
(株)アヤベニット	(株)日興技研
(株)エクセディ	ニチゾウ電子制御(株)
コベルコシステム(株)	日本サムスン(株)
GMB(株)	(株)日立アドバンスデジタル
東洋電波(株)	(株)日立メディコ

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 2 続き

平成 16 年度就職先一覧(準学士課程)		
アイテック阪神(株)	三洋電機(株)コンシューマ企業グループ	(特)日本放送協会(NHK)
(株)アルメックス	GMB(株)	ネクストウェア(株)
(株)池下設計	自衛隊	ヒエン電工(株)長田野工場
(株)イシダ	(株)JAL航空機整備東京	日立造船メタルワークス(株)
出光興産(株)	(株)セガ	富士ソフトABC(株)
(株)エクセディ	(株)ソイルエンジニアリング	フジテック(株)
NKE(株)	ダイキン工業(株)	富士電機システムズ(株)
(株)エヌ・ティ・ティ ファシリティーズ	壺山建設(株)	(株)堀場製作所
奥村組土木興業(株)	東海旅客鉄道(株)	(株)舞鶴設計所
オムロンフィールドエンジニアリング(株)	TOWA(株)	(株)ミツヨ ※(旧:(株)アカシ)
川崎重工業(株)	トランス・コスモス(株)	三菱電機ビルテクノサービス(株)
キヤノンシステムアンドサポート(株)	ナルックス(株)	村田機械(株)
京セラSLCテクノロジー(株)	ニチコン亀岡(株)	向井建設(株)
京セラ(株)滋賀蒲生工場	ニチゾウ電子制御(株)	ムラテック販売(株)
京都市	(株)日研工作所	明治乳業(株)関西工場
極東開発工業(株)	(株)日産テクノ	(株)モリタ製作所
近畿運輸局	(株)日進製作所	安川エンジニアリング(株)
窪田工業(株)	日新電機(株)	山崎建設(株)
ケイコン(株)	(株)ニッソーサービス	山本土木(株)
(独)国立印刷局	日東精工(株)	(株)吉野工業所
(株)小松製作所	日本貨物鉄道(株)関西支社	ライト工業(株)
サンコール(株)	日本電産(株)	レンゴー(株)京都工場
サンスイコンサルタント(株)		

平成 16 年度就職先一覧(専攻科課程)	
(株)エナミ精機舞鶴工場	太陽精機(株)
川崎重工業(株)	東洋電波(株)
GMB(株)	TOWA(株)
(株)城南電器工業所	(株)日本ピーエス
大成ロテック(株)	(株)堀場エステック
大鉄工業(株)	(株)森精機製作所

(出典 学生課資料)



## 資料 6 - 1 - ③ - 2 続き

## 修了者の進路状況（専攻科課程）

平成 14 年度修了者

区 分	修了 予定 者数	就 職 希望者 (a)	就 職 内定者 (b)	進 学 希望者	その他 (含自 営)	求 人 会社数 (社)	求人数 (人) (c)	求人倍 数 (c)/(a)	就職内定率 (b)/(a)×100
電 気 制 御	12	7	5	4	1	39	40	5.7	71.4
建 設 生 産	9	6	6	3	0	21	21	3.5	100.0
合 計	21	13	11	7	1	60	61	4.7	84.6

## 卒業者の進路状況（準学士課程）

平成 15 年度卒業生

区 分	卒 業 者 数	就 職 希望者 (a)	就 職 決定者 (b)	進 学 希望者	その他 (含自 営)	求 人 会社数 (社)	求人数 (人) (c)	求人倍 数 (c)/(a)	就職決定率 (b)/(a)×100
機 械	32	21	21	11	0	233	238	11.3	100.0
電 気	40	23	23	15	2	268	271	11.7	100.0
電子制御	38	18	18	19	1	251	253	14.0	100.0
建 設 システム	35	19	19	14	2	82	87	4.5	100.0
合 計	145	81	81	59	5	834	849	10.4	100.0

## 修了者の進路状況（専攻科課程）

平成 15 年度修了者

区 分	修 了 者 数	就 職 希望者 (a)	就 職 決定者 (b)	進 学 希望者	その他 (含自 営)	求 人 会社数 (社)	求人数 (人) (c)	求人倍 数 (c)/(a)	就職決定率 (b)/(a)×100
電 気 制 御	7	5	5	1	1	64	65	13.0	100.0
建 設 生 産	9	5	5	2	2	51	51	10.2	100.0
合 計	16	10	10	3	3	115	116	11.6	100.0

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 3

産業別就職状況

所在地別・産業別就職状況

平成14年3月卒業者就職状況一覧（本科）

4. 決定先の所在地域別状況

下段の数字は%

区分	京都府	大阪府	奈良県	兵庫県	滋賀県	福井県	中京地域	京浜地域	その他	合計
機 械	8	10		3	2			3		
	30.8	38.5		11.5	7.7			11.5		
電 気	7	8		1				7		
	30.4	34.8		4.4				30.4		
電子制御	6	7		1				3		
	35.3	41.2		5.9				17.6		
建設システム	3	4		5	1	1		4		
	16.7	22.2		27.7	5.6	5.6		22.2		
合 計	24	29		10	3	1		17		
	28.6	34.5		11.9	3.6	1.2		20.2		

(出典 学生課資料)

## 資料 6 - 1 - ③ - 3 続き

## 平成 14 年 3 月卒業生就職状況一覧（本科）

## 5. 決定先の業種別状況

下段の数字は%

区分	建設	食品	繊維	出版・印刷	紙・パルプ	化学	石油・石炭	ゴム・窯業	鉄鋼	非鉄金属	金属製品	機械	電気機器	輸送機器	精密機器	その他の製造	電力・ガス	運輸・通信	商業	コンビニ	スーパー	その他	公共団体	官公庁	合計
	機械	1			1	4						1	7	4	3	2			1	1		1			
	3.9			3.9	15.3						3.9	26.9	15.3	11.5	7.6			3.9	3.9		3.9				(100)
電気			1								1	7					1	1	1		8		3		23
			4.4								4.4	30.3					4.4	4.4	4.4		34.7		13.0		(100)
電子制御					1					1	3	2	4	1							4		1		17
					5.9					5.9	17.6	11.8	23.5	5.9							23.5		5.9		(100)
建設システム	15										2	11	13	7	3			1	3	2			1	1	18
	83.2										2.4	13.1	15.5	8.3	3.6			5.6					5.6	5.6	(100)
合計	15	1	1	1	5					2	11	13	7	3			1	3	2		13		4	1	84
	17.8	1.2	1.2		1.2	5.9				2.4	13.1	15.5	8.3	3.6			1.2	3.6	2.4		15.5		4.7	1.2	(100)

## 平成 14 年 3 月修了者就職状況一覧（専攻科）

## 4. 決定先の所在地域別状況

下段の数字は%

区分	京都府	大阪府	奈良県	兵庫県	滋賀県	福井県	中京地域	京浜地域	その他	合計
電気・制御	1	4				1	1	2		9
	11.1	44.5				11.1	11.1	22.2		(100.0)
建設・生産	2	2						2		6
	33.3	33.3						33.3		(100.0)
合計	3	6				1	1	4		15
	20.0	40.0				6.7	6.7	26.6		(100.0)

## 5. 決定先の業種別状況

下段の数字は%

区分	建設	食品	繊維	出版・印刷	紙・パルプ	化学	石油・石炭	ゴム・窯業	鉄鋼	非鉄金属	金属製品	機械	電気機器	輸送機器	精密機器	その他の製造	電力・ガス	運輸・通信	商業	コンビニ	スーパー	その他	公共団体	官公庁	合計
	電気制御					1						1	2	1					1		2				1
					11.1						11.1	22.2	11.1					11.1		22.2				11.1	(100)
建設生産					1						3		1								1				6
					16.7						50.0		16.7								16.7				(100)
合計					2						4	2	2					1		2	1			1	15
					13.3						26.7	13.3	13.3					6.7		13.3	6.7			6.7	(100)

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 3 続き

平成 15 年 3 月修了者就職状況一覧（本科）

## 4. 内定先の所在地域別状況

下段の数字は%

区 分	京都府	大阪府	奈良県	兵庫県	滋賀県	福井県	中京地域	京浜地域	その他	合 計
機 械	8	3	1	1			1	7		21
	38.0	14.3	4.8	4.8			4.8	33.3		100.0
電 気	5	9		1		1		7		23
	21.7	39.1		4.4		4.4		30.4		100.0
電子制御	6	5	1	1				5		18
	33.4	27.7	5.6	5.6				27.7		100.0
建 設 システム	9	4			4			2		19
	47.3	21.1			21.1			10.5		100.0
合 計	28	21	2	3	4	1	1	21		81
	34.5	25.9	2.5	3.7	4.9	1.3	1.3	25.9		100.0

## 5. 決定先の業種別状況

下段の数字は%

区 分	建 設	食 品	織 維	出 版 ・ 印刷	紙 ・ パ ル プ	化 学	石 油 ・ 石 炭	ゴ ム ・ 窯 業	鉄 鋼	非 鉄 金 属	金 属 製 品	機 械	電 気 機 器	輸 送 用 機 械	精 密 機 器	そ の 他 製 造	電 力 ・ ガ ス	運 輸 ・ 通 信	商 業	リ ー ス ・ レン タル	情 報 サ ー ビ ス	コ ン サ ル タ ン ト	そ の 他 サ ー ビ ス	公 回	官 公 庁	合 計
機 械	1	1				1					2	3	2	3	2	3							2	1		21
	5.0	5.0				5.0					9.5	14.0	9.5	14.0	9.5	14.0							9.5	5.0		100
電 気						1						4	8	2		1		1				6				23
						4.3						17.4	34.8	8.8		4.3		4.3				26.1				100
電子制御		1	1	1								2	2	3	1	1		1			1		4			18
		5.8	5.8	5.8								12.0	12.0	17.7	5.8	5.8		5.8			5.8		17.7			100
建 設 システム	12																1				1	2			2	19
	63.1																5.3				5.3	10.5	5.3		10.5	100
合 計	13	2	1	1		2					2	9	10	7	5	5	2	1	1		8	2	7	1	2	81
	16.0	2.5	1.2	1.2		2.5					2.5	11.1	12.3	8.7	6.2	6.2	2.5	1.2	1.2		9.8	2.5	8.7	1.2	2.5	100

平成 15 年 3 月修了者就職状況一覧（専攻科）

## 4. 内定先の所在地域別状況

下段の数字は%

区 分	京都府	大阪府	奈良県	兵庫県	滋賀県	福井県	中京地域	京浜地域	その他	合 計
電 気		2						3		5
制 御		40.0						60.0		100.0
建 設	1	3						2		6
生 産	16.7	50.0						33.3		100.0
合 計	1	5						5		11
	9.0	45.5						45.5		100.0

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 3 続き

## 5. 決定先の業種別状況

下段の数字は%

区分	建設	食品	繊維	出版・印刷	紙・パルプ	化学	石油・石炭	ゴム・窯業	鉄鋼	非鉄金属	金属製品	機械	電気機器	輸送用機械	精密機器	その他製造	電力・ガス	運輸・通信	商業	リース・レンタル	情報・サービス	コンサルタント	その他サービス	公団	官公庁	合計
電気												1	1	1							2					5
制御												20.0	20.0	20.0							40.0					100.0
建設	1											2									1	1		1	6	
生産	16.6											33.6									16.6	16.6		16.6	100.0	
合計	1 9.0											3 27.5	1 9.0	1 9.0							3 27.5	1 9.0		1 9.0	11 100.0	

平成 16 年 3 月卒業者就職状況一覧 (本科)

## 4. 内定先の所在地域別状況

下段の数字は%

区分	京都府	大阪府	奈良県	兵庫県	滋賀県	福井県	中京地域	京浜地域	その他	合計
機械	8	3	1	1			1	7		21
	38.0	14.3	4.8	4.8			4.8	33.3		100.0
電気	5	9		1		1		7		23
	21.7	39.1		4.4		4.4		30.4		100.0
電子制御	7	4	1	1				5		18
	38.9	22.2	5.6	5.6				27.7		100.0
建設	9	4			4			2		19
システム	47.3	21.1			21.1			10.5		100.0
合計	29	20	2	3	4	1	1	21		81
	35.8	24.7	2.5	3.7	5.0	1.2	1.2	25.9		100.0

## 5. 決定先の業種別状況

下段の数字は%

区分	建設	食品	繊維	出版・印刷	紙・パルプ	化学	石油・石炭	ゴム・窯業	鉄鋼	非鉄金属	金属製品	機械	電気機器	輸送用機械	精密機器	その他製造	電力・ガス	運輸・通信	商業	リース・レンタル	情報・サービス	コンサルタント	その他サービス	公団	官公庁	合計
機械	1	1			1						2	3	2	3	2	3							2	1	21	
	5.0	5.0			5.0						9.5	14.0	9.5	14.0	9.5	14.0							9.5	5.0	(100)	
電気					1							4	8	2				1			7				23	
					4.3							17.4	34.8	8.7				4.3			30.5				(100)	
電子制御	1	1	1									2	2	3	1	1		1		1			4		18	
	5.8	5.8	5.8									12.0	12.0	17.7	5.8	5.8		5.8		5.8			17.7		(100)	
建設	12																	1			1	2	1	2	19	
システム	63.1																5.3				5.3	10.5	5.3	10.5	(100)	
合計	13	2	1	1	2						2	9	10	7	5	4	2	1	1		9	2	7	1	2	81
	16.0	2.5	1.2	1.2	2.5						2.5	11.1	12.3	8.7	6.2	4.9	2.5	1.2	1.2		11.1	2.5	8.7	1.2	2.5	(100)

(出典 学生課資料)

## 資料 6 - 1 - ③ - 3 続き

平成 16 年 3 月修了者就職状況一覧（専攻科）

## 4. 内定先の所在地域別状況

下段の数字は%

区分	京都府	大阪府	奈良県	兵庫県	滋賀県	福井県	中京地域	京浜地域	その他	合計
電気		1		1				3		5
制御		20.0		20.0				60.0		100.0
建設	3	1	1							5
生産	60.0	20.0	20.0							100.0
合計	3	2	1	1				3		10
	30.0	20.0	10.0	10.0				30.0		100.0

## 5. 決定先の業種別状況

下段の数字は%

区分	建設	食品	繊維	出版・印刷	紙・パルプ	化学	石油・石炭	ゴム・窯業	鉄鋼	非鉄金属	金属製品	機械	電気機器	輸送用機器	精密機器	その他製造	電力・ガス	運輸・通信	商業	リース・レンタル	情報・サービス	コンサルタント	その他サービス	公団	官公庁	合計
電気													2						1		2					5
制御													40.0						20.0		40.0					(100)
建設			1									1	1	1								1				5
生産			20.0									20.0	20.0	20.0								20.0				(100)
合計			1									1	3	1					1		2	1				10
			10.0									10.0	30.0	10.0					10.0		20.0	10.0				(100)

平成 17 年 3 月卒業生就職状況一覧（本科）

## 4. 内定先の所在地域別状況

下段の数字は%

区分	京都府	大阪府	奈良県	兵庫県	滋賀県	福井県	中京地域	京浜地域	その他	合計
機械	6	5	1	1				6	1	20
	30.0	25.0	5.0	5.0				30.0	5.0	100.0
電気	6	7			2			7		22
	27.3	31.8			9.1			31.8		100.0
電子制御	9	3		1	1			8		22
	40.9	13.7		4.5	4.5			36.4		100.0
建設	4	4		1				6		15
システム	26.7	26.7		6.6				40.0		100.0
合計	25	19	1	3	3			27	1	79
	31.6	24.1	1.3	3.8	3.8			34.1	1.3	100.0

## 5. 決定先の業種別状況

下段の数字は%

区分	建設	食品	繊維	出版・印刷	紙・パルプ	化学	石油・石炭	ゴム・窯業	鉄鋼	非鉄金属	金属製品	機械	電気機器	輸送用機器	精密機器	その他製造	電力・ガス	運輸・通信	商業	リース・レンタル	情報・サービス	コンサルタント	その他サービス	公団	官公庁	合計
機械	1				1	1					1	2	1	4	2	2			2				3			20
	5.0				5.0	5.0					5.0	10.0	5.0	20.0	10.0	10.0			10.0				15.0			(100)
電気				1								3	5		1	1		2			4		3	1	1	22
				4.5								13.7	22.8		4.5	4.5		9.1			18.2		13.7	4.5	4.5	(100)
電子制御												5	7	1	1	1		1	1		2		2			22
												22.8	31.8	4.5	4.5	4.5		4.5	4.5		9.2		9.2		4.5	(100)
建設	8																	1			1	2	1		2	15
システム	53.3																	6.7			6.7	13.3	6.7		13.3	(100)
合計	8	1			1	1	1				1	10	13	5	4	4		4	3		7	2	9	1	4	79
	10.1	1.3			1.3	1.3	1.3				1.3	12.6	16.4	6.3	5.1	5.1		5.1	3.8		8.8	2.5	11.3	1.3	5.1	(100)

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 3 続き

平成 17 年 3 月修了者就職状況一覧（専攻科）

## 4. 内定先の所在地域別状況

下段の数字は%

区分	京都府	大阪府	奈良県	兵庫県	滋賀県	福井県	中京地域	京浜地域	その他	合計
電気	4		1							5
制御	80.0		20.0							100.0
建設	2	1	1	1		1		1		7
生産	28.5	14.3	14.3	14.3		14.3		14.3		100.0
合計	6	1	2	1		1		1		12
	50.0	8.3	16.8	8.3		8.3		8.3		100.0

## 5. 決定先の業種別状況

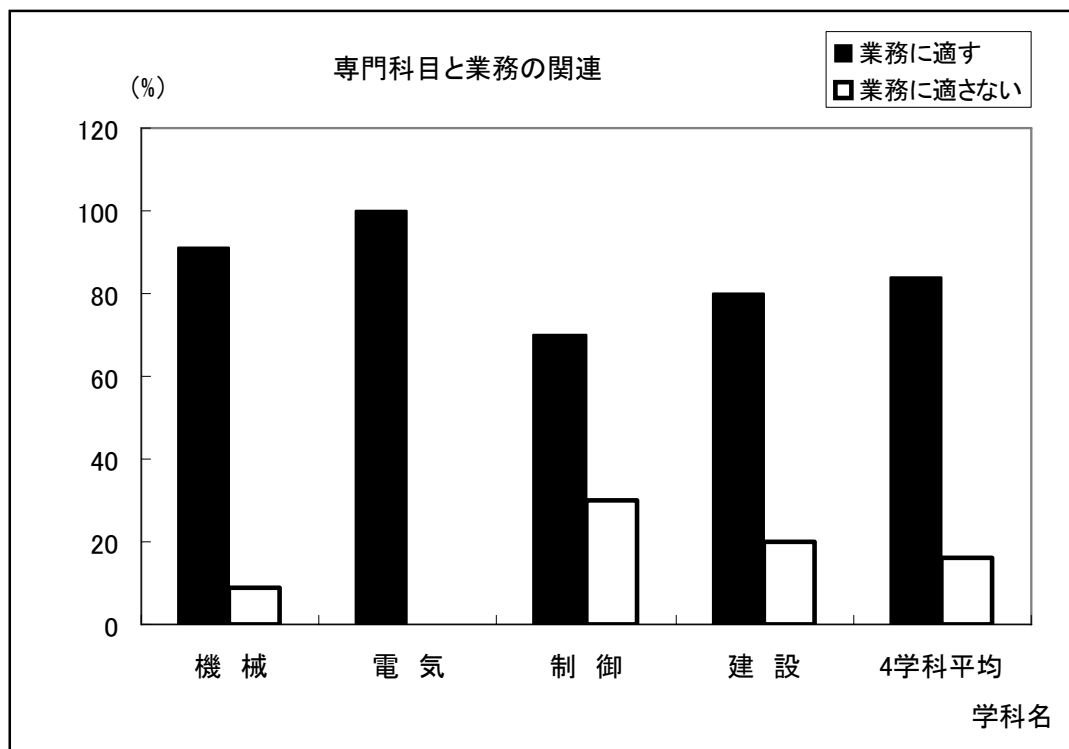
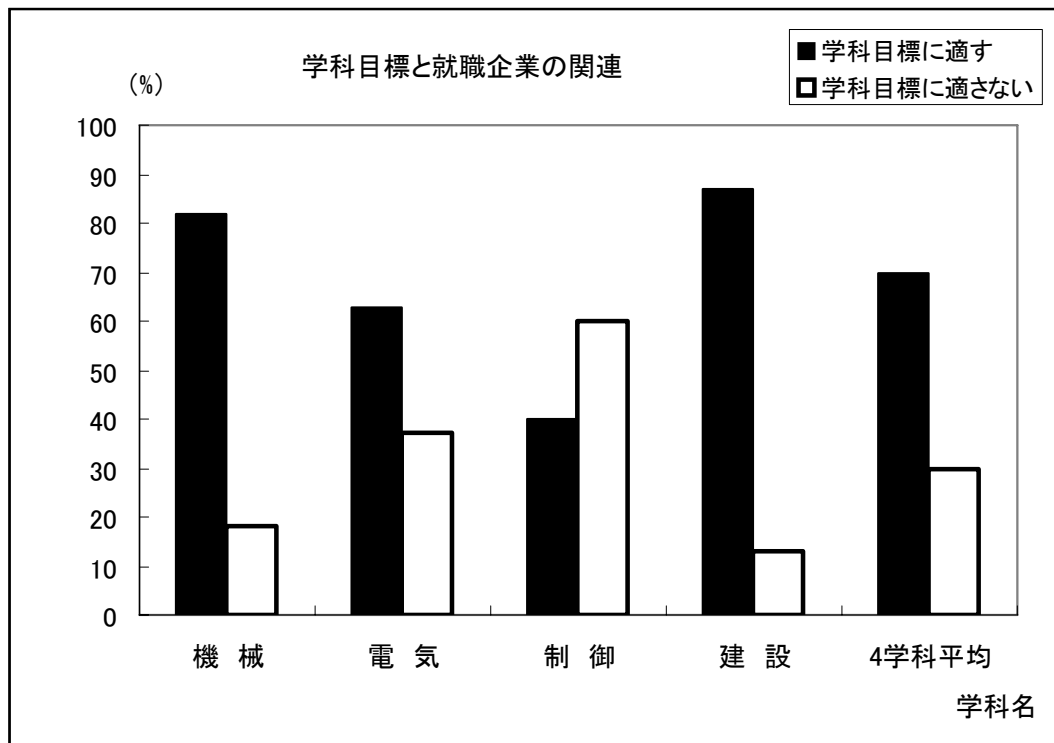
下段の数字は%

区分	建設	食品	繊維	出版・印刷	紙・パルプ	化学	石油・石炭	ゴム・窯業	鉄鋼	非鉄金属	金属製品	機械	電気機器	輸送用機器	精密機器	その他製造	電力・ガス	運輸・通信	商業	リース・レンタル	情報・サービス	コンサルタント	その他サービス	公共	官公	合計
電気												2	2			1										5
制御												40.0	40.0			20.0										(100)
建設	3											1	1	2												7
生産	42.8											14.3	14.3	28.6												(100)
合計	3											3	3	2		1										12
	25.0											25.0	25.0	16.7		8.3										(100)

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 4

平成 12 年度, 13 年度卒業生アンケート調査結果



(出典 学生課資料)



資料6-1-③-5

## 進学者と大学等名

準学士課程						準学士課程					
編入学年度						編入学年度					
高専名	13	14	15	16	17	大学名	13	14	15	16	17
舞鶴高専専攻科	18	16	26	22	27	宇都宮大学				1	
福井高専専攻科	1		1			群馬大学		1			
豊田高専専攻科			2			千葉大学		1			
明石高専専攻科	1	1	2			長岡技術科学大学	5	7	6	2	4
奈良高専専攻科						富山大学		1	1	1	1
津山高専専攻科			1			金沢大学				1	1
呉高専専攻科						福井大学	4	6	4	1	1
神戸市立高専専攻科		2	1			信州大学	1	4	3	2	
計	20	19	33	22	27	山梨大学	1	1	2		1
専攻科課程						岐阜大学	2	2	1	3	2
編入学年度						豊橋技術科学大学	7	6	8	8	7
大学院名						名古屋工業大学				1	
室蘭工業大学大学院			1			三重大学		1	2	1	2
北陸先端科学技術大学院	2	2	1			京都教育大学					1
長岡技術科学大学大学院			1			京都工芸繊維大学			1		
豊橋技術科学大学大学院					1	大阪大学		1	2	1	1
京都大学大学院情報学研究科					1	和歌山大学	2		3	1	3
京都工芸繊維大学大学院工学研究科					1	島根大学			1		1
大阪大学大学院工学研究科			1			岡山大学				1	
徳島大学大学院工学研究科	1				1	広島大学					3
九州工業大学大学院	1	1	1	3		山口大学	2			1	
早稲田大学大学院情報生産システム研究科					1	徳島大学	1	1		2	1
立命館大学大学院理工学研究科	1	2	1	3		香川大学		1		1	
合計	5	8	3	11		高知大学			1		1
						愛媛大学				1	1
						九州工業大学	3	1	2	2	1
						佐賀大学		1			
						熊本大学	1				1
						鹿児島大学			1		
						滋賀県立大学					1
						大阪市立大学					1
						姫路工業大学		1			
						岡山県立大学		1			
						愛知工科大学					1
						京都造形大学					1
						立命館大学	2	2	2	2	2
						龍谷大学			1		
						関西大学	1	2		3	1
						大阪産業大学					1
						四天王寺国際佛教大学			1		
						東亜大学				1	
						徳島文理大学	1		1		
						計	33	41	43	37	41

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校卒業生の就職率は創立以来100%を維持し、最近の進学者の割合は40%を超えている。専攻科修了生の就職率も100%であり、毎年大学院へも進学している。本校の卒業生は、各学科の目標に対応した企業に就職しており、本校で学んだ専門科目と業務との関連性が高いことが卒業生アンケートから検証されている。

以上より、教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績から、教育の成果や効果が上がっている。

**観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。**

(観点に係る状況)

平成9年度より学生による授業アンケートを実施している。アンケートの設問は自己点検・評価部会で平成15年度に見直された。

資料6-1-④-1に授業評価アンケートの設問項目を示す。資料6-1-④-2に、平成16年度に実施した授業アンケートの集計結果を示す。同資料中のグラフの縦軸は各設問の平均値を示す。同グラフから、設問E1「シラバスを授業前に読みましたか」に対しては、低学年に比べ高学年の学生のほうがよくシラバスを読んでいることが分かる。設問E2「授業の予習、復習を行いましたか」に対しては、3、4年生が低学年学生より低く改善する余地があるが、5年生は他の準学士課程の学生に比べてよく予習、復習をしていることが分かる。設問E3「授業に積極的に取り組みましたか」に対しては、各学年とも興味・関心を持ち積極的に取り組んでいる。設問E4「授業中あるいは授業後に不明な点を教員に質問しましたか」に対しては、学年進行と共に教員に質問する学生が増加していることが分かる。

専攻科課程の学生については、資料6-1-④-4より、学生の自己評価に関する全てのアンケート項目に関して、準学士課程の学生より高い評価をしている。

平成17年度に学生の学習達成度の評価と学校の意図する教育の成果や効果との関連性についてアンケート調査を実施した。準学士課程5年生には、卒業時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等に関する達成度調査を、専攻科課程2年生には、本校専攻科の教育がその目的沿って行われているかを調査した(資料6-1-④-3、資料6-1-④-4)。資料6-1-④-3は、準学士課程5年生に行った達成度調査のGP分析を示す。これより、学生は多くの項目で卒業時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等が達成できたと考えており、学習達成度評価および教育評価アンケート調査から、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているといえる。資料6-1-④-4は、専攻科課程2年生に対して調査した結果である。これより、学生は多くの項目で卒業時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等が達成できたと考えていることが分かる。従って、学習達成度評価および教育評価調査から、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているといえる。

**授業アンケートの設問項目****A：教育内容に関する設問項目**

- A 1：他の科目とのつながりを説明して授業が進められましたか
- A 2：この科目の内容は期待したとおりでしたか
- A 3：実社会での事例を説明して授業が進められましたか
- A 4：この科目はあなたの将来にとって役に立つと思いますか

**B：熱意・責任感に関する設問項目**

- B 1：シラバスに記述されている授業内容や方法は参考になりましたか
- B 2：授業はほぼ時間通り始まり，時間通りに終わっていましたか
- B 3：教える態度に熱意や情熱が感じられましたか
- B 4：よく準備された授業でしたか

**C：教育技術に関する設問項目**

- C 1：授業の進む速さは適切でしたか
- C 2：黒板，プリント，及びプロジェクタなどの使用は効果的でしたか
- C 3：説明がわかりやすく，よく理解できましたか
- C 4：先生は学生とのコミュニケーションを保つよう授業展開をしましたか
- C 5：小テスト，宿題，演習課題は講義内容を理解するために効果的でしたか

**D：成績評価に関する設問項目**

- D 1：成績の評価は適正でしたか
- D 2：試験問題は講義内容に照らして適切でしたか

**E：学生の自己評価に関する設問項目**

- E 1：シラバスを授業前に読みましたか
- E 2：授業の予習，復習を行いましたか
- E 3：授業に積極的に取り組みましたか
- E 4：授業中あるいは授業後に不明な点を教員に質問しましたか

(出典 平成 16 年度授業アンケート結果報告書)

資料 6 - 1 - ④ - 2

平成 16 年度授業アンケート (学生の自己評価)

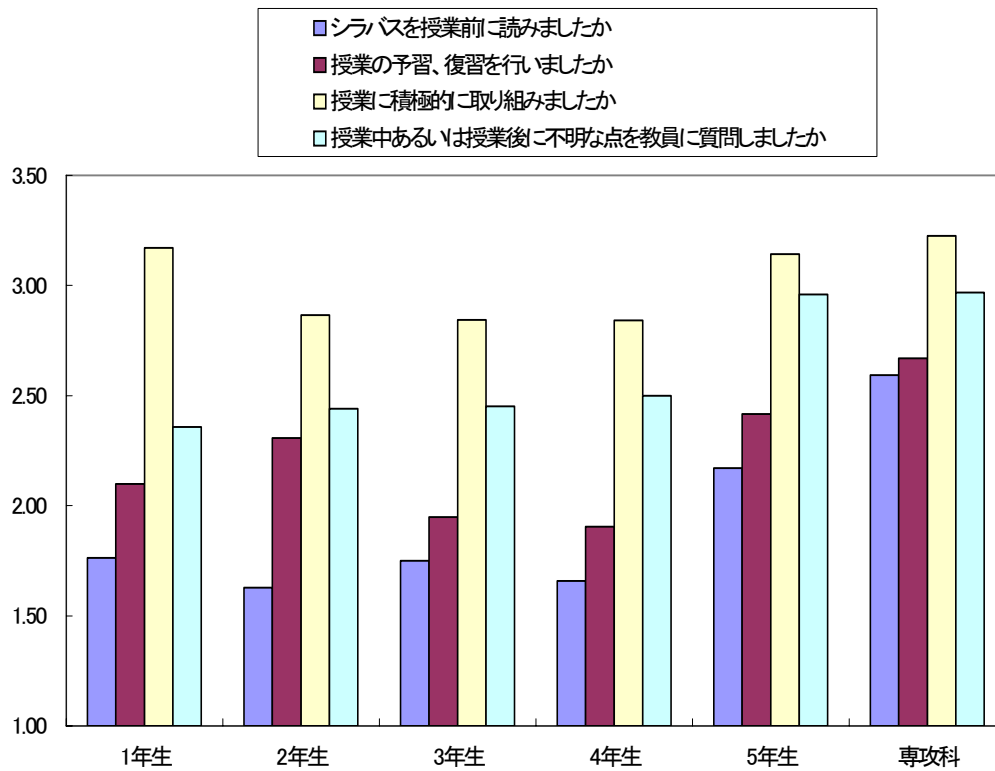
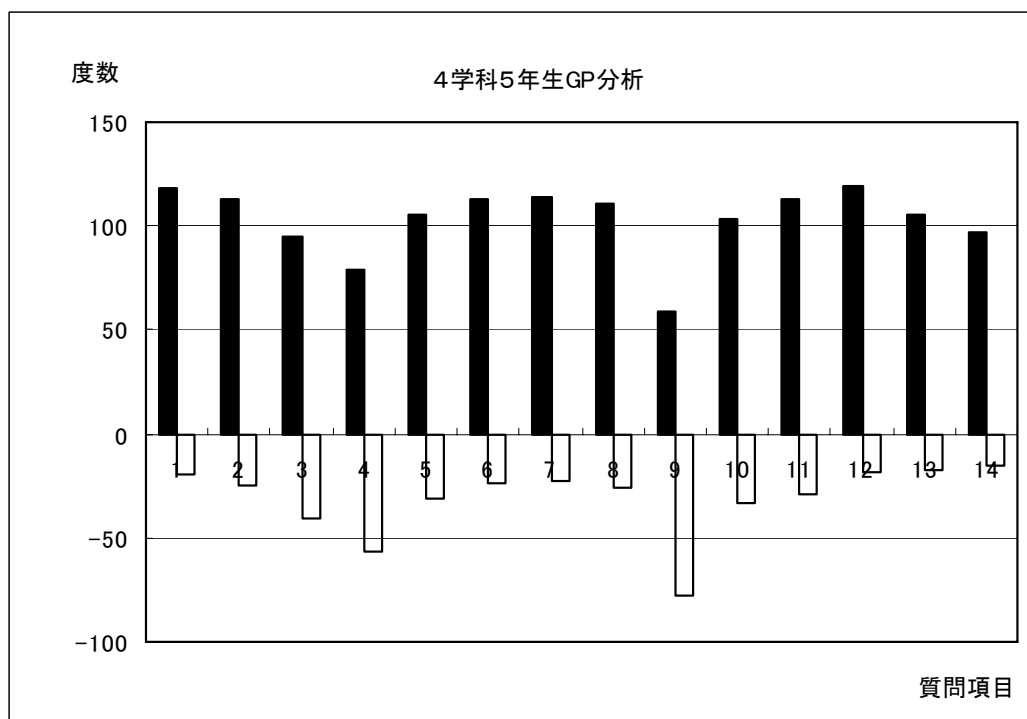


図 6 学生の自己評価(学年平均)

(出典 平成 16 年度授業アンケート結果報告書)

資料 6 - 1 - ④ - 3



問 1. 実験、実習、演習、ものつくりを重視する教育を受けることができましたか。

問 2. 基礎に立ち返って考える教育を受けることができましたか。

問 3. 自ら学ぼうとする意欲を育てる教育を受けることができましたか。

問 4. 豊かな教養と国際性を育む教育を受けることができましたか。

問 5. 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができる能力を養うことができましたか。

(出典 教育評価アンケート)

資料 6 - 1 - ④ - 3 続き

問 6. 専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができる能力を養うことができましたか。

問 7. 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する能力を養うことができましたか。

問 8. 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる能力を養うことができましたか。

問 9. 豊かな人間性、国際性、協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける能力を養うことができましたか。

問 10. 技術が持つ地球的、社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができる能力を養うことができましたか。

問 11. 課題の提案・報告などを効果的に記述し、説明することができる能力を養うことができましたか。

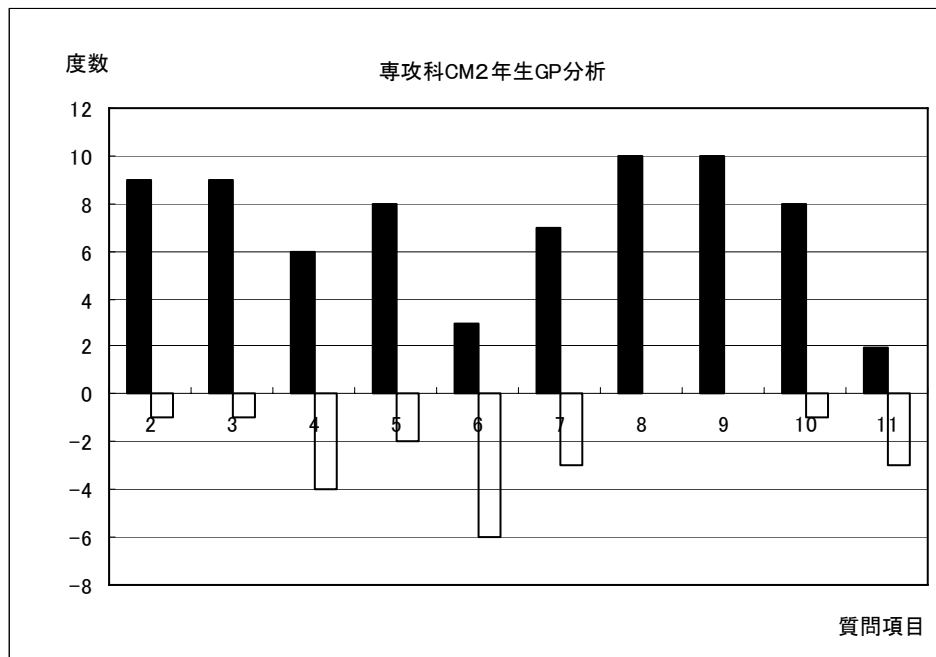
問 12. コンピュータはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる能力を養うことができましたか。

問 13. 学科の目標に適する企業に就職することができましたか。

問 14. 学科の目標に適する大学に進学することができましたか。

(出典 評価委員会 教育評価アンケート)

資料 6 - 1 - ④ - 4



(出典 評価委員会 教育評価アンケート)

資料 6 - 1 - ④ - 4 続き

- 問1. 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができる能力を養うことができましたか。
- 問2. 専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができる能力を養うことができましたか。
- 問3. 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する能力を養うことができましたか。
- 問4. 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる能力を養うことができましたか。
- 問5. 豊かな人間性、国際性、協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける能力を養うことができましたか。
- 問6. 技術が持つ地球的、社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができる能力を養うことができましたか。
- 問7. 課題の提案・報告などを効果的に記述し、説明することができる能力を養うことができましたか。
- 問8. コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる能力を養うことができましたか。
- 問9. 学科の目標に適する企業に就職することができましたか。
- 問10. 学科の目標に適する大学に進学することができましたか。

(出典 評価委員会 教育評価アンケート)

(分析結果とその根拠理由)

卒業時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について準学士課程 5 年生に達成度調査を行った。分析結果から，準学士課程では学校の意図する教育の成果や効果が上がっているといえる。専攻科課程の学生の調査結果から，準学士課程の学生より目的意識が高いことが窺われた。本校専攻科の教育がその目的に沿って行われているかを問う調査においても，肯定する結果が得られた。以上より，学生が行う学習達成度評価等から判断して，学校の意図する教育の成果や効果が上がっている。

**観点 6-1-⑤：** 卒業（修了）生や進路先などの関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。  
また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

資料 6-1-⑤-1，資料 6-1-⑤-2 に，本校卒業（修了）生に対する教育評価アンケート依頼文書とアンケート項目を示す。教育評価アンケートで得られた卒業生の意見を資料 6-1-⑤-3 に示す。教育評価アンケートに記載された意見や要望から，本校で学んだ基礎知識が実業務に適用でき，また本校での学生生活が技術者に必要な人間性や協調性を育むことができるなど，本校の教育の成果が上がっていることが分かる。

平成14年および17年度に舞鶴高専卒業生や進路先の関係者を対象に本校の教育に関するアンケートを実施している。資料 6-1-⑤-4 および資料 6-1-⑤-5 は，企業に対する教育評価アンケート依頼文書とアンケート項目を示す。企業による本校の教育評価アンケートで得られた意見や要望を資料 6-1-⑤-6 に示す。

これらのアンケート結果によれば，企業では本校の卒業（修了）生の学力や資質能力については，準学士課程卒業生はその課程の学習・教育目標を概ね満足しており，また専攻科課程の修了者は，該当課程の学習・教育目標を概ね満足していると判断できる。

資料 6—1—⑤—1

平成 17 年 11 月 日

舞鶴工業高等専門学校  
卒業生 各位舞鶴工業高等専門学校長  
小野 紘一

謹啓 貴下ますます御活躍の段、喜ばしく御拝察申し上げます。

さて、本校は独立行政法人大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）が定める高等専門学校評価基準に基づき、平成 18 年度に実施されます高等専門学校機関別認証評価を受けます。

機構が、国・公・私立高等専門学校からの求めに応じて実施する高等専門学校機関別認証評価は、我が国の高等専門学校の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資するよう、以下のことを目的として実施されます。

- ① 高等専門学校機関別認証評価に関して、機構が定める高等専門学校評価基準（以下「高等専門学校評価基準」という。）に基づいて、高等専門学校を定期的に評価することにより、高等専門学校の教育研究活動等の質を保証すること。
- ② 評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること。
- ③ 高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

そこで、この度、教育改善活動の一環として、卒業生の皆様に別紙のアンケートをお願いして、その結果を基に過去の教育システム、教育成果を点検・評価して、今後の教育の改善に反映させて頂くことにいたしました。

つきましては、御多忙な中、大変恐縮ではありますが、母校の発展のために別紙アンケートに御協力いただきたく何とぞよろしくお願い申し上げます。

なお、誠に勝手ながら、集計の都合上、同封の返信用封筒にて、平成 17 年 月 日（ ）までに御返送いただきますようよろしくお願い申し上げます。

最後に貴下のますますの御活躍、御発展を心より祈念しております。

謹白

追伸

御不明な点などありましたら、下記までお問い合わせ下さいますようお願いいたします。

電気情報工学科 教授 新池 一弘

TEL : 0773 (62) 8962 E-Mail :

(出典 庶務課資料)



## 卒業生による教育評価アンケート

本アンケートは、舞鶴工業高等専門学校の教育改善のための基礎データになるものです。個人的なデータ、ご回答を直接的に外部に公表することはありませんのでご協力よろしくお願いします。なお、ご回答に際しては、本アンケート用紙をご利用いただき、各設問に対するお答えは問1を除いて該当する数字を○で囲んで下さい。

## 1. 個人基礎データに関する質問

問1. あなたの年齢を [ ] 内に記入して下さい。

[ ]

問2. 出身学科を回答して下さい。

[1] 機械工学科 [2] 電気工学科 [3] 電子制御工学科 [4] 建設システム工学科, 土木工学科

問3. あなたの現在の勤務先(自営も含む)の業種をつぎの中から一つ選択して下さい。

[1] 製造業 [2] 建設業 [3] 電気・ガス・水道業 [4] 運輸・通信業 [5] 卸・小売業  
[6] サービス業 [7] 公務 [8] その他

問4. あなたの現在の職種は何ですか? 該当するものを一つ選択して下さい。

[1] 研究・開発 [2] 設計 [3] 製造・施工 [4] 営業・販売 [5] サービス [6] 企画・管理  
[7] 教育 [8] その他

問5. あなたの現在の職種の経験年数を回答して下さい。

[1] 1年未満 [2] 1年以上3年未満 [3] 3年以上6年未満 [4] 6年以上10年未満  
[5] 10年以上15年未満 [6] 15年以上

## 2. 業務に必要な知識、高専で学んだ知識に関する質問

## A. 「自然科学(数学、物理学、化学など)に関する知識とそれを応用する能力」について、お尋ねします。

問6. あなたの現在の業務では、これらが必要とされますか。

[1] 大いに必要 [2] ある程度必要 [3] どちらとも言えない [4] あまり必要ない [5] 全く不要

問7. 業務を遂行するうえで、高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。

(問6で [1] または [2] と回答した場合にお答え下さい。)

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

## B. 「高専で学んだ専門分野に関する知識(講義系科目)とそれを応用する能力」について、お尋ねします。

問8. あなたの現在の業務では、これらが必要とされますか。

[1] 大いに必要 [2] ある程度必要 [3] どちらとも言えない [4] あまり必要ない [5] 全く不要

問9. 業務を遂行するうえで、高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。

(問8で [1] または [2] と回答した場合にお答え下さい。)

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

## C. 「高専で学んだ専門分野に関する知識(実験・実習系科目)とそれを応用する能力」について、お尋ねします。

問10. あなたの現在の業務では、これらが必要とされますか。

[1] 大いに必要 [2] ある程度必要 [3] どちらとも言えない [4] あまり必要ない [5] 全く不要

問11. 業務を遂行するうえで、高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。

(問10で [1] または [2] と回答した場合にお答え下さい。)

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

## D. 「基本的な情報技術に関する知識とそれを応用する能力」について、お尋ねします。

問12. あなたの現在の業務では、これらが必要とされますか。

[1] 大いに必要 [2] ある程度必要 [3] どちらとも言えない [4] あまり必要ない [5] 全く不要

問13. 業務を遂行するうえで、高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。

(問12で [1] または [2] と回答した場合にお答え下さい。)

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

(出典 庶務課資料)

## E. 「英語に関する知識と英語によるコミュニケーション能力」について、お尋ねします。

問 14. あなたの現在の業務では、これらが必要とされますか。

- [1] 大いに必要 [2] ある程度必要 [3] どちらとも言えない [4] あまり必要ない [5] 全く不要

問 15. 業務を遂行するうえで、高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。

(問 14 で [1] または [2] と回答した場合にお答え下さい。)

- [1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

## F. 「いわゆる一般教養科目(倫理学、法学、経済学など)の知識とそれを応用する能力」について、お尋ねします。

問 16. あなたの現在の業務では、これらが必要とされますか。

- [1] 大いに必要 [2] ある程度必要 [3] どちらとも言えない [4] あまり必要ない [5] 全く不要

問 17. 業務を遂行するうえで、高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。

(問 16 で [1] または [2] と回答した場合にお答え下さい。)

- [1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

## G. 「卒業研究」についてお尋ねします。

問 18. 5 年生で実施した卒業研究の経験は、あなたの職務を遂行するうえで役立っていますか。

- [1] 多く役立っている [2] ある程度役立っている [3] どちらとも言えない
- 
- [4] あまり役立っていない [5] 全く役立っていない

## 3. 技術者意識に関する質問

問 19. 技術者として、「工学技術のもつ地球的、社会的影響力の重要性」を十分理解されていることとは思いますが、これを認識され始めたのはいつ頃ですか。

- [1] 高専入学以前 [2] 高専在学中 [3] 高専卒業後の実務体験をとおして [4] その他

問 20. 技術者として、「工学の発展に常に興味をもち、生涯学び続ける意欲」が大切であるとよく言われますが、ご自身をどのように評価されますか。

- [1] 非常に意欲的 [2] やや意欲的 [3] どちらとも言えない
- 
- [4] あまり興味も意欲もない [5] 全く興味も意欲もない

## 4. 舞鶴高専を卒業し、大学に編入学された方は以下の質問にお答えください。

進学先

- [1] 国立大学 [2] 公立大学 [3] 私立大学

大学卒業後の進路

- [1] 編入学先大学院進学 [2] 別の大学大学院進学 [3] 就職 [4] その他

(出典 庶務課資料)

資料 6—1—⑤—3

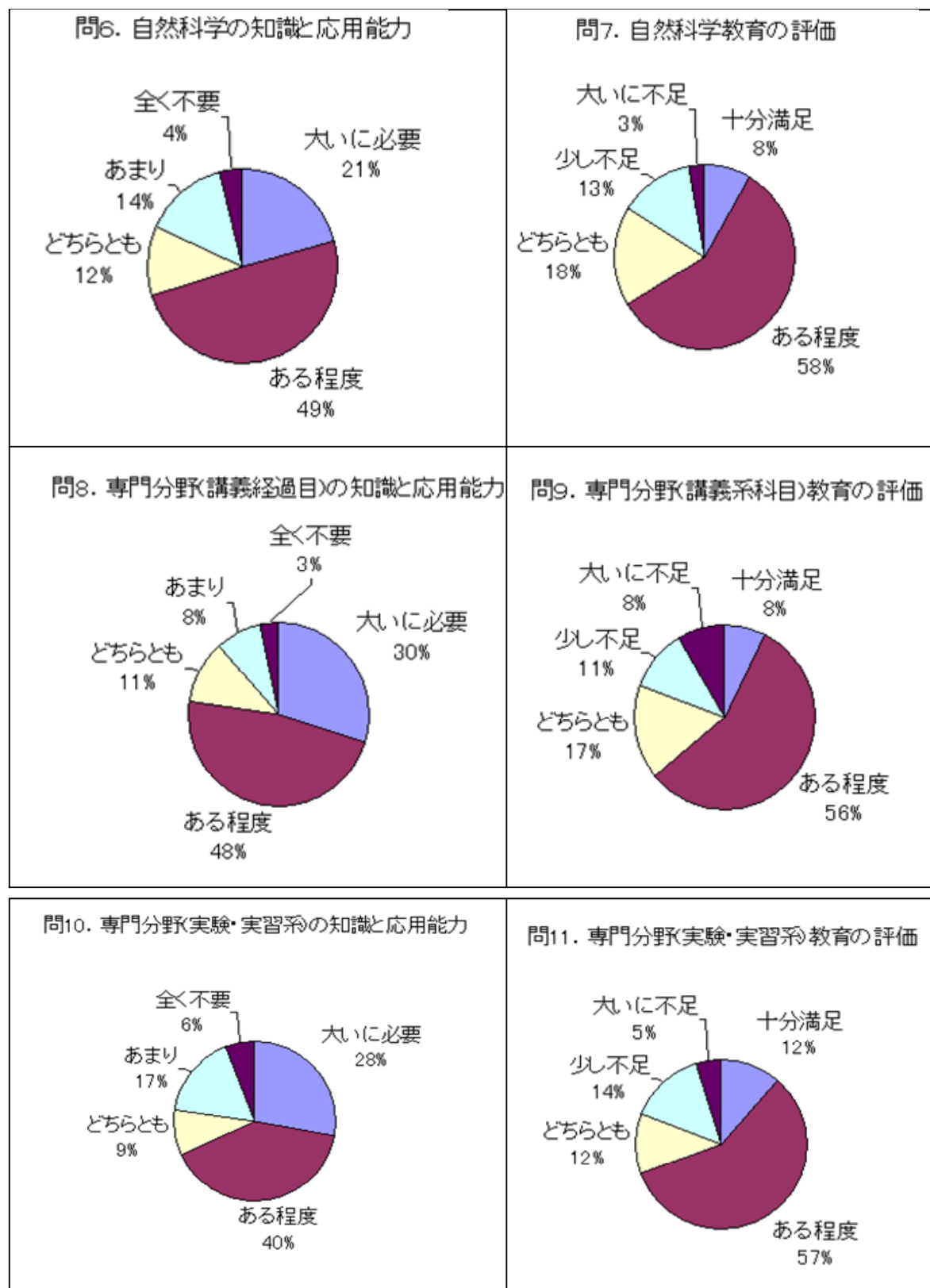
卒業生の意見

- ・ 高専で学んだ基礎知識は実業務において引用することができるので、様々な知識を学んだことは有意義であったと思っている。
- ・ 実社会の実践においては、高専生活における試験前の友人との資料のやりとりなどで、必要な情報はどこにあるのか調査把握し、引用する事象は、いまの業務段取りに十分生きている。
- ・ やるべきことをやらないと報われない高専生活の経験は、今の仕事生活中でいきている。

(出典 教育評価アンケート)

資料 6—1—⑤—3 続き

## 卒業生による教育評価アンケート結果



(出典 庶務課資料)

資料 6 - 1 - ⑤ - 4

## 企業に対する教育評価アンケート依頼文書

平成 17 年 月 日

人事担当者様

舞鶴工業高等専門学校長

小野 紘一

謹啓 貴社ますますご清栄のことと、お喜び申し上げます。また、平素は本校の教育に格段のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本校は独立行政法人大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）が定める高等専門学校評価基準に基づき、平成 18 年度に実施されます高等専門学校機関別認証評価を受けます。

機構が、国・公・私立高等専門学校からの求めに応じて実施する高等専門学校機関別認証評価は、我が国の高等専門学校の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資するよう、以下のことを目的として実施されます。

- ① 高等専門学校機関別認証評価に関して、機構が定める高等専門学校評価基準（以下「高等専門学校評価基準」という。）に基づいて、高等専門学校を定期的に評価することにより、高等専門学校の教育研究活動等の質を保証すること。
- ② 評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること。
- ③ 高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

そこで、この度、教育改善活動の一環として、各企業の人事担当者様に別紙のアンケートをお願いして、その結果を基に過去の教育システム、教育成果を点検・評価して、今後の教育の改善に反映させたく存じます。

つきましては、御多忙の中、大変恐縮ではありますが、本校の発展のために別紙アンケートに御協力いただきたく何とぞよろしくお願い申し上げます。なお、誠に勝手ながら、集計の都合上、同封の返信用封筒にて平成 17 年 月 日（ ）までに御返送下さいますようお願い申し上げます。

最後に貴社のますますのご隆盛を心より祈念いたします。

謹白

追伸

御不明な点などありましたら、下記までお問い合わせ下さいますようお願いいたします。

電気情報工学科 教授 新池 一弘

TEL : 0773 (62) 8962 E-Mail :

(出典 庶務課資料)

### 企業による舞鶴工業高等専門学校の教育評価アンケート

本アンケートは、舞鶴工業高等専門学校（以下、舞鶴高専）の教育評価の一環として行うもので、舞鶴高専の卒業生が舞鶴高専で受けた教育について企業側からの評価をいただき、今後の教育改善のための基礎資料とするものです。各企業様からいただきました個別のデータ、ご回答を直接的に外部に公表することはありませんので、ご協力よろしくお願いします。

評価の対象は、最近5年間に貴社に入社した舞鶴高専卒業生全員とし、以下の設問（1. 基礎データに関する質問を除く）につきまして、対象となる卒業生についての平均的な評価をいただきたく存じます。ご回答に際しましては、本アンケート用紙をご利用下さい。なお、企業名、回答者名、卒業生名は無記名で結構でございます。各設問に対するご回答は、所定の欄に数字を記入していただくものと、該当する数字を○で囲んでいただくものからなっていますのでよろしくお願いします。

#### 1. 基礎データに関する質問

問1. 貴社の業種をお答え下さい。

- [1] 製造業 [2] 建設業 [3] 電気・ガス・水道業 [4] 運輸・通信業 [5] 卸・小売業 [6] サービス業  
[7] 公務 [8] その他

問2. 貴社に在籍の①社員数、②高専卒の社員数、③舞鶴高専卒業生数

④最近5年間に入社した舞鶴高専卒業生数をお答え下さい。（概数で結構です）。

① \_\_\_\_\_人 ② \_\_\_\_\_人 ③ \_\_\_\_\_人 ④ \_\_\_\_\_人

問3. 最近5年間に入社した舞鶴高専卒業生の配属職種をお答え下さい。（複数の卒業生がおり、配属職種が異なる場合には該当職種をすべてお答え下さい）

- [1] 研究・開発 [2] 設計 [3] 製造・施工 [4] 営業・販売  
[5] サービス [6] 企画・管理 [7] 教育 [8] その他

#### 2. 最近5年間に入社した舞鶴高専卒業生（以下、評価対象者）が舞鶴高専で受けた教育の評価に関する質問

問4. 自然科学（数学、物理、化学など）の知識やそれを応用する能力に関して、評価対象者は舞鶴高専においてこれらの教育を十分に受けたと思われますか。

- [1] 十分すぎるほど受けたと思う [2] 十分に受けたと思う [3] どちらとも言えない [4] 不十分であると思う [5] 全く不十分である [6] わからない

問5. 専門分野の知識（基礎学力）やそれを応用する能力に関して、評価対象者は舞鶴高専においてこれら教育を十分に受けたと思われますか。

- [1] 十分すぎるほど受けたと思う [2] 十分に受けたと思う [3] どちらとも言えない  
[4] 不十分であると思う [5] 全く不十分である [6] わからない

問6. 専門分野の知識（基礎技術）やそれを応用する能力に関して、評価対象者は舞鶴高専においてこれらの教育を十分に受けたと思われますか。

- [1] 十分すぎるほど受けたと思う [2] 十分に受けたと思う [3] どちらとも言えない  
[4] 不十分であると思う [5] 全く不十分である [6] わからない

問7. 基本的な情報技術に関する知識やそれを応用する能力に関して、評価対象者は舞鶴高専においてこれらの教育を十分に受けたと思われますか。

- [1] 十分すぎるほど受けたと思う [2] 十分に受けたと思う [3] どちらとも言えない  
[4] 不十分であると思う [5] 全く不十分である [6] わからない

問8. 英語に関する知識や英語によるコミュニケーション能力に関して、評価対象者は舞鶴高専においてこれらの教育を十分に受けたと思われますか。

- [1] 十分すぎるほど受けたと思う [2] 十分に受けたと思う [3] どちらとも言えない  
[4] 不十分であると思う [5] 全く不十分である [6] わからない

問9. 経済学、法学、倫理学などの知識やそれを応用する能力に関して、評価対象者は舞鶴高専においてこれらの教育を十分に受けたと思われますか。

- [1] 十分すぎるほど受けたと思う [2] 十分に受けたと思う [3] どちらとも言えない  
[4] 不十分であると思う [5] 全く不十分である [6] わからない

問10. 評価対象者は、舞鶴高専での卒業研究などを通じて課題を探究する能力や課題を解決する能力を十分に身につけたと思われますか。

- [1] 十分すぎるほどつけたと思う [2] 十分につけたと思う [3] どちらとも言えない  
[4] 不十分であると思う [5] 全く不十分である [6] わからない

問11. 評価対象者は、舞鶴高専において地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養を身につけたと思われますか。

- [1] 十分すぎるほどつけたと思う [2] 十分につけたと思う [3] どちらとも言えない [4] 不十分であると思う [5] 全く不十分である [6] わからない

問12. 評価対象者は、舞鶴高専において論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を身につけたと思われますか。

- [1] 十分すぎるほどつけたと思う [2] 十分につけたと思う [3] どちらとも言えない  
[4] 不十分であると思う [5] 全く不十分である [6] わからない

問13. 評価対象者は、舞鶴高専において自主的、継続的に学習できる能力を身につけたと思われますか。

- [1] 十分すぎるほどつけたと思う [2] 十分につけたと思う [3] どちらとも言えない  
[4] 不十分であると思う [5] 全く不十分である [6] わからない

#### 3. ご意見・ご要望

舞鶴高専の教育に対するご意見・ご要望等ありましたら以下にお書きください。

（出典 庶務課資料）

## 進路先からのアンケート

- ・御校卒業生は、概ね優秀な人材が多く、当社においては高い評価をしています。専門的な教育のほか、人間教育等も多く取り入れられ、より立派な人材を輩出されますよう期待致します。
- ・高専らしく、より高度な技術教育をしていただくことにより、大学生よりもずっと早く即戦力になると思います。期待をしております。
- ・非常に優秀であると認識しております。今後少子化が進み、生徒が集めにくい状況となりますが、彼らの教育レベルを落とすことなく、維持向上されることを期待します。
- ・現在の在職者は大変優秀な社員です。貴校の教育が素晴らしいため、左記の通り回答させていただきました。当社も新人研修については更なる努力をしておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。
- ・現在高専卒社員には技術継承の柱となっております。高い技術力と未知のトラブルに対する探求心など、高卒あるいは大卒社員とは違ったものを持っています。今後もそのような教育を続けていただきたいと思います。
- ・知識や応用能力の教育は十分受けていると思われるが、それらの活用は本人の性格に左右される部分が多いため、人格(人間形成)に関しての教育もご検討願いたい。  
(例：積極性開発等)

(分析結果とその根拠理由)

卒業（修了）生からのアンケート結果から、多くの卒業（修了）生は、本校で受けた教育が業務に有用であり、業務を遂行するうえでの技術基盤となっていることに満足している。また進路先の関係者からも、本校の教育の成果や効果が上がっているとの回答が得られている。

以上より、卒業生（修了生）や進路先などの関係者から、卒業生（修了生）が在学中に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取組が実施されており、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっていると判断される。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

創立以来就職率100%を継続達成しており、就職先は本校で学んだ内容に対応している。このことは、教育の成果が十分達成されていることの証左であり優れている。

(改善を要する点)

該当なし

## (3) 基準 6 の自己評価の概要

準学士課程、専攻科課程ともに、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力、資質・能力及び養成する人材像等は、学校概要、学生便覧などに明示されており、これを実現するカリキュラムに沿って、学生の状況が把握され、年度末には進級認定会議および卒業認定会議等により達成状況を把握・確認し、教育の成果を評価している。

卒業生（修了生）の進路状況は、就職が厳しい状況であっても就職率100%を維持していること、進学者数が40%を超えていることから、企業及び大学側が本校卒業生の資質と能力を高く評価していることがわかる。また、進学者の増加は、卒業（修了）時点における実力が十分に備わっていることの証左である。学生が行う学習達成度評価が行われており、準学士課程および専攻科課程において、学校の意図する教育の成果や効果が上がっていることが確認されている。専攻科課程の学生は、準学士課程の学生より高い目的意識を持っていることも明らかとなっている。本校専攻科の教育がその目的に沿って行われているかを問う調査においても、肯定する結果が得られている。

また、卒業（修了）生や企業・進学先を対象として、学力や資質・能力などについての意見の聴取やアンケートを定期的に行っている。それらによれば卒業（修了）生および企業からの評価は良好である。以上のことから、教育の成果や効果が上がっているといえる。



## 基準7 学生支援等

## (1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学習を進める上でのガイダンスとして、オリエンテーション・ホームルームが整備され実施されている。新入生に対しては「新入生オリエンテーション」「新入生クラス別オリエンテーション」「専門学科のためのガイダンス」「新入生合宿研修説明」が実施されている(資料7-1-①-1)。合宿研修では新入生に「学習の進め方(手引書)」が配布されている。

資料7-1-①-1

平成17年度当初日程(入寮日から授業開始)

4月6日(水)	入寮日	
	9:00~11:00	入寮手続き(1号館)
	13:00~	入寮説明会(寮食堂)
	16:00~	入学式リハーサル(第一体育館)
4月7日(木)	入学式	
	11:00~	学生は10:30集合(第1体育館) 式後記念写真撮影
	新入生	
	13:00~	専門学科のためのガイダンス (新入生・編入生・留学生・学科長・学科の教員) M-B404 E-B405 S-B409 C-B412
	保護者	
	13:00~13:20	後援会支部懇談会(低学年棟)
	13:30~15:00	後援会総会(視聴覚教室)
	終了後	クラス担任と保護者との懇談(各クラス)
4月8日(金)	始業式・身体計測	
	9:00~	新入生オリエンテーション(視聴覚教室) (教務主事・学生主事・新入生・編入生・留学生)
	9:40~	新入生合宿研修説明(新入生のみ・主事補)
	9:50~	編入生・留学生クラス別オリエンテーション (留学生M-B214 E-B216 S-B216 C-A217) (編入生M-A204 E-A319 S-野間研 C-A217)
	10:10~10:50	新入生クラス別オリエンテーション (1-1 B404 1-2 B405 1-3 B409 1-4 B412)
	11:00~	始業式(第1体育館)
	終了後	2~5年はホームルームへ
	9:10~11:00	身体計測(全学生)
	13:10~15:30	(第2体育館)
	9:40~11:00	レントゲン(1・4・5・専)
	13:00~16:30	(図書館前)
	13:00~17:00	心電図(保健室)(1年生)
4月11日(月)	授業開始	

(出典 学生課資料)

準学士課程の学生に対しては、選択科目の履修説明会や担任による修得単位確認、特別活動としてのホームルーム、4・5年生に対する生産・情報基礎工学教育プログラム説明会が実施されている。専攻科生に対しては、1年次に「新入生オリエンテーション」（資料7-1-①-2）や生産・情報基礎工学教育プログラム達成度の自己確認シート（資料7-1-①-3）の説明会、さらに2年次に学位申請説明会（資料7-1-①-4）が実施されている。

## 資料7-1-①-2

## 平成17年度新入生オリエンテーション次第

1. 日時 平成17年4月8日（金）10:00～10:50  
2. 場所 専攻科棟3階大講義室  
3. 次第 ①10:00～教務関係説明 専攻科長

- ②10:15～ 専門員  
・更衣ロッカーキー、カードキーの説明  
・住居届の提出依頼  
・履修届の提出確認  
4月11日（月）までに必ず教務係に提出のこと

- ③10:20～各専攻説明 各専攻長  
・電気・制御は、3階講義室  
・建設・生産は、2階セミナー室  
\* 11:00から始業式があるので、10:50まで終了のこと。

（出典 学生課資料）





資料 7-1-①-4

## 学位申請説明会プログラム

1. 日 時 平成17年 6 月 6 日 (月) 13:30~14:30

2. 場 所 専攻科棟大講義室

3. プログラム

X1) 専攻科長挨拶 5分程度

同前

2) ビデオ放映 (「学士をめざして」) 15分程度

3) 説 明 (説明者: 専攻科長) 40分程度

① 学位申請の留意点等について

② その他

(出典 学生課資料)

学生が自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制として、オフィスアワー、担任・副担任がおかれている。

(分析結果とその根拠理由)

学習を進める上での支援は、新入生合宿研修で高専での勉強法の指導が行われている。未修得単位の追試験や個別の達成度の自己評価による確認指導など細部にわたって配慮されている。個々の学生に対する学習支援として、オフィスアワーが設定されている。

以上のことから、学生全体に対して、あるいは個々の学生に対して、自主的に学習を進める上で必要とされるガイダンスや相談・助言を行う支援体制が整備され、適切に実施・機能していると判断される。

**観点 7-1-②:** 自主的学習環境 (例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。) 及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

自主的に学習が進められる環境として、図書館、情報科学センターが整備されている。また放課後に教室が開放され、教員研究室前の廊下には机と椅子と間仕切りが設置されており、自主学習スペースあるいはコミュニケーションスペースとして学生に頻繁に利用されている。

図書館の利用規定や開館日及び開館時間は学生便覧 (資料 7-1-②-1) に掲載されている。館内には学習に必要な和洋書約 7 万 4 千冊が配架してあり、閲覧室 (70 席) で自由に閲覧できる。平成 16 年度の図書館利用者数・貸出冊数は、資料 7-1-②-2 に示すとおりである。

資料7-1-②-1

## 図書館開館日及び開館時間

原則として、日曜日・国民の祝日（振替休日を含む）及び年末年始（12月28日～1月4日）を除き、下記のとおり開館します。

曜日	区分	開館時間	
		通常	長期休業期間
月～金		8:30～22:00	8:30～17:00
土		13:00～18:00	閉館

※定期試験の前や試験期間中の日・祝日は、13時から18時まで開館します。

※臨時の休館や開館時間の変更等は、その都度掲示にて連絡します。

(出典 平成17年度学生便覧64頁)

資料7-1-②-2

資料4-1

平成16年度月別開館日数・入館者数・貸出冊数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日	時間内	19	18	22	16	7	20	20	20	18	18	19	11	208
	時間外	18	23	27	16	1	28	22	23	20	18	22	2	220
	延日数	22	23	27	19	7	28	24	25	22	21	22	11	251
入館者数	学生	1,714	1,902	2,065	1,717	147	2,225	1,275	1,734	1,373	1,295	1,540	45	17,032
	職員	26	21	21	17	7	27	28	23	26	28	22	47	293
	一般	0	2	24	4	4	3	4	2	0	0	1	0	44
	計	1,740	1,925	2,110	1,738	158	2,255	1,307	1,759	1,399	1,323	1,563	92	17,369
	1日平均	79.1	83.7	78.1	91.5	22.6	80.5	54.5	70.4	63.6	63.0	71.0	8.4	69.2
貸出冊数	学生	551	496	592	780	50	457	486	567	587	485	482	81	5,614
	職員	104	24	27	27	11	27	36	25	48	48	41	47	465
	一般	0	0	7	1	0	0	1	2	0	0	0	0	11
	計	655	520	626	808	61	484	523	594	635	533	523	128	6,090
	1日平均	29.8	22.6	23.2	42.5	8.7	17.3	21.8	23.8	28.9	25.4	23.8	11.6	24.3

(出典 平成17年度図書館運営委員会資料)

情報科学センターの利用細則が学生便覧（平成17年度66頁）に掲載されている。情報科学センター、マルチメディア室（図書館3階）、図書館閲覧室に、それぞれパソコンが47台、46台、6台設置され、全学生の利用が可能である。

福利厚生施設として、青葉会館1階に学生食堂と売店が営業している（資料7-1-②-3）。

## 食堂及び売店について

学生及び教職員の福利厚生のために、下記の施設を設けている。

- |   |      |                     |
|---|------|---------------------|
| 1 | 学生食堂 |                     |
|   | 営業品目 | 日替り弁当、カレーライス、丼物、麺類等 |
|   | 営業時間 | 平日の午前11時45分～午後1時    |
| 2 | 売店   |                     |
|   | 営業品目 | 文房具類、パン、牛乳等         |
|   | 営業時間 | 平日の午前8時40分～午後4時     |

(出典 平成17年度学生便覧98頁)

(分析結果とその根拠理由)

放課後や休日に、学生が自主的に学習できる、あるいは学生がコミュニケーションを図れる環境は、図書館・情報科学センター・教室・青葉会館・本館廊下自習スペースや専攻科棟リフレッシュコーナーなどが整備されている。利用実績からも、効果的に利用されていると判断できる。

以上のことから、自主的学習環境やキャンパス生活環境は、整備され、効果的に利用されていると判断できる。

観点 7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

(観点に係る状況)

学習支援に関する学生のニーズを把握する制度としては、FDパネルディスカッションにおける学生の意見聴取（資料 7-1-③-1）、学生による授業評価アンケートにおける自由記述、校長とのフリートーキングがある（資料 7-1-③-2）。また教員と専攻科生との「専攻科学生交流会」も行われている（資料 7-1-③-3）。そこで把握された学生のニーズの内容は、都度整理され改善に役立っている。

## (4) FDパネルディスカッションの開催

平成17年12月14日(水)大会議室において、FDパネルディスカッションを開催した。「よりよい授業改善を目指して」と題し、クラス代表学生と教員がディスカッションを行った。パネリストとして参加した四蔵委員から「平成16年度授業アンケート報告」、辻委員から「科目群連絡会報告」、松井委員から「授業公開・授業参観報告」の発表の他、学生代表の田中裕崇君から「授業・学校に対する要望」、平成16年度授業アンケート最高得点者の和田教員から「授業改善事例」の発表の後、参加者全員でディスカッションを行った。



学生代表・田中裕崇君の発表



和田教員の発表

(出典 舞鶴高専年報 - 2005年度の教育・研究活動-6頁)

## 資料7-1-③-2

送信日時： 2005年11月29日 14:34  
 添付： フリートーキング名簿.xls  
 件名： 校長とのフリートーキング参加予定者について

来る12月12日(月)15:30～開催予定の標記のことについて、別添のとおり参加者をお知らせします。

なお、以前にもお願いしておりましたが、下記事項について貴クラス参加者に周知ください。

- 内容 授業・学校行事・施設設備・進学就職・課外活動・学生生活・希望・その他
- クラスの意見をまとめておくこと。
- 学年毎話が重複しないよう事前に打ち合わせをしておくこと。

以上

\*\*\*\*\*

〒625-8511  
 京都府舞鶴市字白屋234番地  
 舞鶴工業高等専門学校  
 学生課・教務係長 白井知二  
 Tel. 0773(62)8881 FAX 0773(62)8889  
 E-mail

\*\*\*\*\*

(出典 学生課から担任への連絡)

## 資料7-1-③-3

(2) 専攻科学生交流会 12月には、専攻科生と教員が互いに親睦を深め、情報交換できる場として交流会を開催しました。2年生には、就職試験や大学院受験の体験談や苦労話をさせていただきました。これから進路を決めなければならない1年生にとって、この上ない参考になりました。また、研究のこと、学位論文試験のこと、教員や学校への要望などの話題が出て、運営スタッフにとっても参考になりました。ご参加いただいた専攻科担当教員の方々に感謝します。



交流会風景

(出典 舞鶴高専年報 - 2004年度の教育・研究活動-14頁)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、FDパネルディスカッション、授業評価アンケートの自由記述、専攻科学生交流会や留学生交流会、校長とのフリートーキングなどを通じて、学生のニーズを把握している。

以上のことから、学生支援に関する学生のニーズの把握は、適切に実施され始めたと判断できる。

観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

資格・検定試験に関して、本校では実用英語技能検定と国際コミュニケーション英語能力テスト (TOEIC) に対して、支援が行われている。

技能検定等合格に係る単位認定に関する規定が、学生便覧 (平成17年度57頁) に記載されてい



る。TOEICはスコアによって単位が認定されている（資料7-1-④-1）。いずれの試験も本校を試験会場として実施されている。特にTOEICの受験検定料は学校から補助がなされており、TOEIC Bridgeを含めて全学生に毎年受験させている（資料7-1-④-2）。平成16年度の受験者数と合格者数は、年報に示すとおりである（資料7-1-④-3）。

外国留学のための支援体制のひとつとして、タイのKing Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang及び韓国のKorea Universityと協定が締結され、海外留学の基盤が整備されている（資料7-1-④-4）。

資料7-1-④-1

別紙様式

学級担任

## 技能審査合格による単位認定申請書

年 月 日

舞鶴工業高等専門学校長 殿

工学科 年

氏名

下記のとおり技能審査に合格しましたので、本校における修得単位として認定くださるよう関係書類を添えて申請いたします。

記

1. 技能審査の種類等  実用英語技能検定 ( 級 )  
 TOEIC ( )
2. 認定を申請する単位数 単位
3. 添付書類  合格認定証(写)

別表

技能審査の種類及び単位数一覧表

技能審査の名称・資格	等	単位数	備 考
実用英語技能検定 (英検)	1 級	8	一般科目・専門科目以外の資格認定の授業科目として学年修了又は卒業に必要な単位数に加算することができる
	準1 級	6	
	2 級	4	
	準2 級	2	
国際コミュニケーション英語能力テスト (TOEIC)	850	8	
	700	6	
	500	4	
	400	2	

(出典 平成17年度学生便覧59頁)

別紙2

平成17年8月31日

全 学 生 へ

校 長 小 野 純 一

## TOEICの受験について

この試験は、英語によるコミュニケーション能力を向上させるため、今年度から全学生(専攻科生含む)に受験させることにし、下記の日程により実施する。  
なお、受験料の個人負担は下記のとおりです。学校の指示に従って納入してください。

## 記

## TOEIC

Test of English for International Communication の略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストであり、世界約60ヶ国で実施されています。

## TOEIC Bridge

基礎的なコミュニケーション英語能力を評価する世界共通のテスト

第1学年 1,000円×2回=2,000円 (今年度は1,000円)  
第2,3学年 1,000円  
第4学年 1,500円×2回=3,000円 (今年度は1,500円)  
第5学年 1,500円  
専攻科1学年 1,500円 (他高専等からの入学者は3,000円)  
専攻科2学年 1,500円

## 日 程

学 年	5月	9月	12月	1月
1	○			○
2				○
3				○
4	□			□
5			□	
専1	△	□		
専2			□	

○ TOEIC Bridge試験

□ TOEIC試験

△ 他校からの入学者のためのTOEIC試験

※ 今年度は9月から実施。

(出典 学生課資料, 学生掲示板掲示物)

- ・英語検定試験・TOEICテストを併会場として実施しました。英検受験者は、57名(第1回26名・第2回31名)、TOEIC受験者は、191名(第1回13名・第2回30名・第3回48名・第4回100名)でした。
- ・新しい試みとしては、人文科学部門のホームページを来年度までには開設しようと準備委員が懇意苦闘しているところです。

## 英検データ

年度	2001年			2002年			2003年			2004年		
	6月	10月	計	6月	1月	計	6月	10月	計	6月	10月	計
3級受験者	26	7	33	11	18	29	8	3	11	13	3	16
3級合格者	19	6	25	7	8	15	8	1	9	10	3	13
準2級受験者	14	17	31	42	112	154	14	6	20	7	18	25
準2級合格者	8	5	13	8	45	53	10	4	14	2	8	10
2級受験者	11	8	17	8	46	54	8	1	9	6	10	16
2級合格者	2	1	3	1	13	14	1	0	1	1	1	2

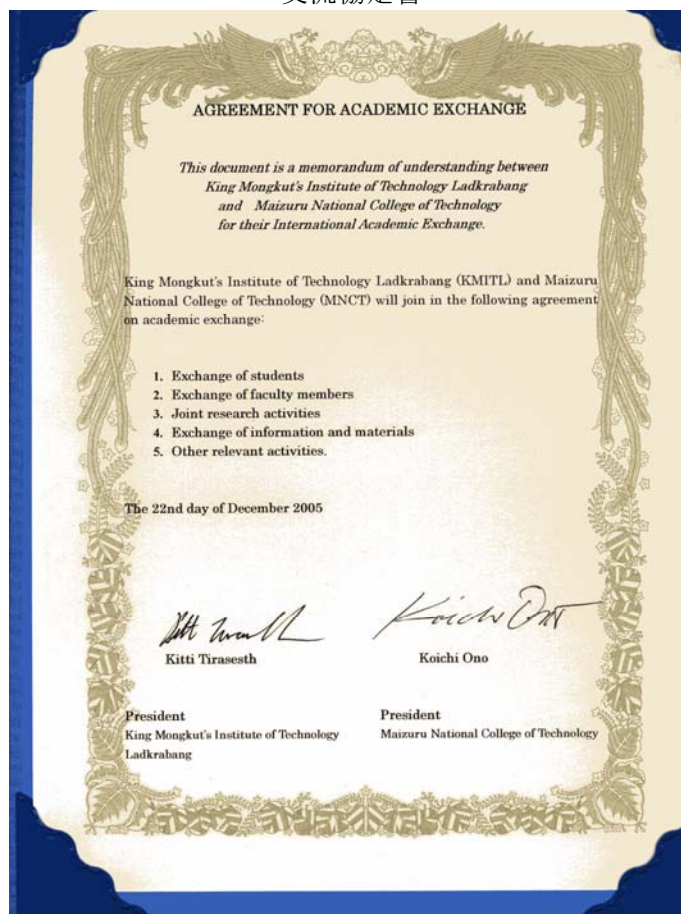
## TOEIC データ

2003年度										2004年度				
実施時期	第1回(5月21日)				第2回(1月22日)				平均	実施時期	(1月9日)			
	受験者	合格者	L	R	受験者	合格者	L	R			受験者	合格者	L	R
3年(Ad)	32	296	181	115	29	349	206	143	53	3年(Ad)	21	409	236	173
3年(普通)					53	281	174	107		3年(普通)	22	303	183	120
4年	48	283	170	113	52	328	194	134	45	4年	55	352	211	142
5年	53	318	196	122	29	366	219	147	48	5年	42	372	210	161
専攻科	30	284	172	112	20	334	188	146	50	専攻科	29	305	180	125

(出典 舞鶴高専年報 - 2004年度の教育・研究活動-15頁)

資料 7-1-④-4

## 交流協定書



(出典 庶務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

実用英語技能検定やTOEICテストの団体特別受験制度を活用しIPテストを実施しており、英語における資格試験や検定試験受講の支援体制が整備され機能している。外国留学のための支援基盤として海外大学との協定が締結されている。

以上のことから、資格試験や検定試験受験、外国留学のための支援体制は、整備され、機能していると判断できる。

**観点 7-1-⑤：** 特別な学習支援が必要な者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には、学習支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

留学生には指導教員とチューターが割当てられている（資料 7-1-⑤-1）。そしてチューター報告書（資料 7-1-⑤-2）に示すような学習支援が行われている。留学生に対して「日本語」（資料 2-1-③-2）や、専門教科特別補講（担当各学科教員）が開講されている（資料 7-1-⑤-3）。

資料 7-1-⑤-1

平成 17 年度外国人留学生名簿

17. 4. 20

入学年度	国籍	氏名	性別	学年	所属学科	年齢	生年月日	備考
15	スリ・ランカ		男	5	電子制御工学科	23		国費留学生 指導教員：町田 秀和
15	マレーシア		男	5	電子制御工学科	21		マレーシア政府派遣 指導教員：町田 秀和
16	インドネシア		男	4	機械工学科	21		国費留学生 指導教員：高田 純男 チューター：
16	モンゴル		男	4	電子制御工学科	21		国費留学生 指導教員：野間 正孝 チューター：
16	マレーシア		男	4	電子制御工学科	20		マレーシア政府派遣 指導教員：野間 正孝 チューター：
17	ベトナム		男	3	電気工学科 (電気機械工学科)	20		国費留学生 指導教員：平池 克也 チューター：
17	ラオス		男	3	建設システム工学科	19		国費留学生 指導教員：森尾 敏 チューター：
17	マレーシア		女	3	機械工学科	19		マレーシア政府派遣 指導教員：谷川 博哉 チューター：
17	マレーシア		男	3	機械工学科	19		マレーシア政府派遣 指導教員：谷川 博哉 チューター：
17	マレーシア		女	3	電子制御工学科	19		マレーシア政府派遣 指導教員：和田 優 チューター：

(出典 学生課資料)

資料 7-1-⑤-2

チューター報告書



平成 17 年 10 月 3 日

舞鶴工業高等専門学校長 殿

チューター  
学科・学年 電子制御工学科 5 年  
氏名 ...

平成 17 年 9 月の指導実施状況について、次のとおり報告します。

留学生氏名

指導年月日	指導時間	指導助言内容等
17年 9月 1日	22:00 ~ 23:00	試験レポート
年 月 2日	21:30 ~ 22:30	授業
年 月 3日	15:30 ~ 21:00	留学生との交流万博見学旅行
年 月 4日	13:00 ~ 23:30	学友会主催のパーティー
年 月 6日	21:00 ~ 23:00	12-9-26止指導の進捗について
年 月 7日	21:30 ~ 23:30	12-9-26止指導の進捗について
年 月 8日	23:00 ~ 23:00	レポートについて
年 月 13日	23:00 ~ 23:00	電子回路
年 月 19日	22:00 ~ 23:00	試験勉強
年 月 21日	22:00 ~ 23:00	情報処理
年 月 22日	22:00 ~ 23:00	化学、物理
年 月 22日	21:00 ~ 22:00	計測
年 月 27日	23:00 ~ 23:00	CAD
年 月 日	~	
年 月 日	~	
年 月 日	~	
年 月 日	~	
感想等	後半は主に前期末テストに備える質問等、12-9-26止情報処理のC言語や計算機工学・CADといふ、プログラム関係の学習が中心。	

(出典 学生課資料)

資料 7-1-⑤-3

平成17年度  
外国人留学生専門教科補講計画  
電子制御工学科4年

留学生名:

教科	担当教官	実施日	実施場所・時間	内容
流体工学	助教授 大嶋 毅	平成17年	教員研究室 13:00 - 16:00(3hrs)	ベルヌーイの定理とその応用
		10月29日(土)		
計算機工学	教授 竹内 敬治	平成17年	教員研究室 9:00 - 12:00(3hrs)	数値計算のアルゴリズム
		11月12日(土)		
材料力学	講師 野間 正泰	平成17年	教員研究室 13:00 - 15:00(2hrs)	丸棒のねじり 熱応力
		11月12日(土)		
電気磁気学	教授 金森 満	平成17年	教員研究室 13:00 - 16:00(3hrs)	電界と電位の計算
		11月19日(土)		
ロボット工学 I	教授 天野 耀鴻	平成17年	教員研究室 9:00 - 12:00(3hrs)	マニピュレータの制御法
		11月23日(水)		
熱工学	助教授 奥村 幸彦	平成17年	教員研究室 13:00 - 16:00(3hrs)	熱力学の法則
		11月26日(土)		
電子回路 II	教授 和田 優	平成17年	教員研究室 13:00 - 16:00(3hrs)	論理回路と演算回路
		12月10日(土)		
制御工学 I	講師 川田 昌克	平成17年	教員研究室 13:00 - 16:00(3hrs)	伝達関数の計算
		12月17日(土)		

(計 25 時間)

(出典 学生課資料)

資料 7-1-⑤-4

## 2. 留学生支援について

留学生の勉学及び日常生活を支援するため、毎年度当初、留学生指導連絡会(委員長:教務主事)を開催して当該年度の事業計画を協議し、見学旅行、交流会、相談員(チューター)及び日本語等補講等の経費を確保しています。また、留学生用図書購入、日本語教室設備(パソコンの更新等)及び学寮補食室設備の充実を図っています。(以下、行事実績)

見学旅行: 11月23日(火)日帰り、国立民俗学博物館(吹田市)、大阪城、海遊館(大阪市)

参加者: 留学生全員、町田教員(引率)

交流会: 2月15日(火)午後5時15分～、青葉会館学生食堂

参加者: 留学生、チューター全員、寮生会役員及び教職員 約50名

(出典 舞鶴高専年報 - 2004年度の教育・研究活動-38頁)

編入学生には、入学前に入学説明会が行われ(資料7-1-⑤-5)、入学後には補習措置が整備されている(資料7-1-⑤-6)。また転科生に対しても、補習措置が整備されている(資料7-1-⑤-7)。

資料 7-1-⑤-5

平成 16 年 月 日

教務主事  
寮務主事 殿  
(各) 学科長

教 務 主 事

平成 17 年度編入学生入学説明会の開催について

下記のとおり実施しますので、よろしくお願ひします。

記

1. 日 時 平成 16 年 12 月 24 日 (金) 13:00 ~
2. 場 所 中会議室 (本館棟 2 階)
3. 日 程 13:00 ~13:20 入学に対する心構え 教務主事  
13:20 ~13:30 入寮説明 寮務主事  
13:30 ~14:10 学科別説明 (学科毎に分かれて)  
学習に対する心構え 各学科長  
上記終了後~ 希望者のみ学寮見学

解 散

(送付資料) 学生便覧, シラバス, 寮生活のしおり, 履修の手引

\* 13 時まで中会議室 (本館棟 2 階) へ御参集ください。

(出典 学生課資料)

資料 7-1-⑤-6

(様式 4)

平成 17 年 8 月 1 日

教 務 主 事 殿

編入学生対象の補習措置報告書

下記のとおり、編入学生を対象とした補習措置の実施が終了しましたので報告いたします。

担当教員 川合 茂

補習対象者氏名	建設システム工 学科 氏名 (敬称名記入可)
補習科目名	水理学 I
補習担当者名	建設システム工 学科 氏名 川合 茂
	教育研究支援センター 部門 氏名
補習実施場所	別紙のとおり
補習時期	平成 17 年 5 月 18 日 ~ 平成 17 年 7 月 13 日 毎週 水 曜日 16:30 ~ 17:20 総回数 ( 6 ) 回 (1回50分)
補習報告	実施記録は別紙のとおり
備考	

様式 4-1

平成 17 年 8 月 1 日

教 務 主 事 殿

編入学生対象の補習実施記録

建設システム工学科 川合 茂

補習対象者氏名	建設システム工学科 氏名		氏名		
補習日	補習科目名	時間 (回)	担当者名	補習場所	補習内容 等
平成 17 年 5 月 18 日 (水)	水理学 I	1	川 合	川合研究室	英力チェック
平成 17 年 5 月 25 日 (水)	"	1	"	"	静水圧 1 (平塚 島く水圧)
平成 17 年 6 月 1 日 (水)	"	1	"	"	静水圧 2 (周面 に働く水圧) 等流 (学生から の質問)
平成 17 年 6 月 15 日 (水)	"	1	"	"	ベルヌーイの定 理
平成 17 年 6 月 29 日 (水)	"	1	"	"	招対静止
平成 17 年 7 月 13 日 (水)	"	1	"	"	浮体の安定
平成 年 月 日 ( )					
平成 年 月 日 ( )					
平成 年 月 日 ( )					
平成 年 月 日 ( )					
平成 年 月 日 ( )					
平成 年 月 日 ( )					
平成 年 月 日 ( )					
平成 年 月 日 ( )					
平成 年 月 日 ( )					
平成 年 月 日 ( )					

(出典 学生課資料)

資料7-1-⑤-7

## 参考資料

平成17年度 実習工場 留学生・転科生補習 一覧

ショップ	月日	時間	学生名	合計
仕上げ (石井)	4月12日(火)	14:16 ~ 16:10	3M	294分
	4月13日(水)	14:40 ~ 16:10		
	4月15日(金)	14:40 ~ 16:10		
	6月15日(水)	10:40 ~ 12:10	3S	
溶接 (能勢)	5月12日(木)	14:40 ~ 16:10	3M	340分
	5月17日(火)	14:40 ~ 16:10		
	5月18日(水)	14:40 ~ 16:10		
	5月19日(木)	13:30 ~ 14:40		
旋盤 (寺田)	6月1日(水)	10:40 ~ 12:10	3S	90分
	6月14日(火)	14:40 ~ 16:20	3M	260分
	6月21日(火)	14:40 ~ 17:20	3S	90分
6月22日(水)	10:40 ~ 12:10			
特殊機械 (中田)	9月12日(月)	15:00 ~ 17:00	3M	240分
	10月4日(火)	15:00 ~ 17:00	3S	90分
	6月29日(水)	10:40 ~ 12:10		

※

は留学生, は建設からの転科生

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校において特別な学習支援が必要な者は、留学生と編入学生と転科生である。留学生に対しては、指導教員やチューターによるサポートの下、日本語や専門科目の指導が行われている。また編入学生や転科生に対しては補習措置が整備され実施されている。

以上のことから、特別な学習支援が必要な者に対する学習支援体制は整備され、機能している。

観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生会への支援は学生係および学生委員会厚生補導部会が担当し、学生会規約、学生会組織図が学生便覧（平成17年度99頁）に掲載されている。

クラブ・同好会顧問一覧表を資料7-1-⑥-1に示す。顧問会議が年に1回開催されており、その議事項目を資料7-1-⑥-2に示す。対外試合引率費とクラブ活動費は主として後援会からの寄付金から支出されており（資料7-1-⑥-3）クラブ活動を支援している。また体育大会派遣等の補助基準は資料7-1-⑥-4の様に定められ、機能している。

平成17年度クラブ・同好会顧問一覧表

平成17年4月19日

クラブ名	顧問名	クラブ名	顧問名
陸上競技	小野伸一郎 生水 雅之 奥村 幸彦 西山 等	自動車	白藤 中生 野間 正泰 谷川 博哉
男子バスケ	藤原 正浩 西岡 勝博 森尾 敏 町田 秀和	アマチュア無線	金山 光一 西山 等 馬場 秀和
女子バスケ	亀谷 睦 永井 宏	吹奏楽	長谷川真司 荒川 吉孝 山田 博
男子バレー	田村 修一 川合 茂		
女子バレー	金森 満 小松 幸恵 伊藤 圓人 丸山 兼泰	アマガミ 3Sエフ 技術科学研究会	三橋 浩 片山 英昭 船木 英岳 西山 等 辻 正 金森 満 岩崎 和香
ソフトテニス	片山 英昭 三橋 浩 宮崎 昭仁	電子制御研究会	町田 秀和 川田 昌克 仲川 力 竹澤 智樹
卓球	仲川 力 平地 克也 加登 文学	同好会名	顧問名
柔道	三川 隼二 東田 剛志 袴戸 博 実	ボクシング	天野 龍鴻 東田 剛志
剣道	梅垣 浩二 吉永 進一 梅原 康生	ストリートバスケ	東田 剛志
サッカー	岡 昭二 和田 優 鈴木 立人 森尾 敏 新池 一弘	フットサル	森尾 敏 川勝 邦夫
硬式野球	橋井 武 川勝 邦夫 四藏 茂雄 荒川 吉孝	フーリング	川勝 邦夫
ハンドボール	高田 誠男 村上美登志 松井 啓義	モータースポーツ	野間 正泰
バドミントン	伊藤 圓人 丸山 兼泰 北原 紀之 武田 八郎 宮野 敏男	軽音楽	牧野 州秀 奥村 幸彦
水泳	垂谷 茂弘 川田 昌克 谷川 博哉	自然科学研究会	奥村 幸彦
テニス	船木 英岳 中川 重康 竹内 敬治 和田 優 竹澤 智樹	ボランティア	山田 博
護身武術	岡本 秀昭	囲碁・将棋	袴戸 博 実
空手道	大嶋 毅 鈴木 立人	文学研究会	村上美登志
ローイング	亀谷 睦 牧野 州秀	鉄道研究会	吉永 進一
弓道	川勝 邦夫 宮崎 操	E S S	橋井 武
		福祉ディパチ	吉永 進一
		光'ッヂ'グ'イ'	高谷 富也
		華道	小松 幸恵

(出典 平成17年度顧問会議資料)

平成17年7月7日

クラブ・同好会チーフ顧問 各位

学生主事 竹内 敬治

平成17年度 第1回顧問会議

1. 報告事項
  - (1) 課外活動指導上の跡手続きについて・・・資料1
  - (2) 後援会クラブ活動費の使用について・・・資料2
  - (3) 第42回近畿地区高専体育大会日程表について・・・資料3
  - (4) 第40回全国高専体育大会日程表について・・・資料4
  - (5) 後援会拠立金からの厚生補導設備等助成金について・・・資料5
  - (6) その他
2. 協議事項
  - (1) 平成16年度対外試合引率費及びクラブ活動費決算について・・・資料6
  - (2) 平成17年度対外試合引率費及びクラブ活動費予算案について・・・資料7
3. その他

(出典 平成17年度顧問会議資料)



平成16年度対外試合引率費及びクラブ活動費支出状況

サークル名	対外試合引率費			平成17年3月31日現在 クラブ活動費		
	予算額	支出額	残額	予算額	支出額	残額
陸上競技	60,000	64,580	△ 4,580	60,000	41,420	18,580
男子バスケットボール	26,000	8,420	17,580	45,000	60,040	△ 15,040
女子バスケットボール	0	0	0	55,000	58,890	△ 3,890
男子バレーボール	30,000	20,660	9,340	60,000	54,930	5,070
女子バレーボール	20,000	19,640	360	60,000	61,130	△ 1,130
ソフトテニス	0	0	0	35,000	41,000	△ 6,000
卓球	5,000	9,080	△ 4,080	40,000	33,250	6,750
柔道	30,000	59,600	△ 29,600	60,000	43,430	16,570
剣道	30,000	62,110	△ 32,110	10,000	12,250	△ 2,250
サッカー	100,000	64,250	35,750	100,000	128,580	△ 28,580
硬式野球	70,000	54,930	15,070	180,000	192,240	△ 12,240
ハンドボール	25,000	19,560	5,440	50,000	52,840	△ 2,840
バドミントン	5,000	1,940	3,060	40,000	39,480	520
水泳	0	0	0	30,000	15,500	14,500
テニス	0	0	0	65,000	64,900	100
護身武術	0	0	0	10,000	0	10,000
空手道	0	0	0	10,000	8,975	1,025
ローイング	0	0	0	100,000	97,756	2,244
弓道	0	0	0	40,000	34,000	6,000
自動車	30,000	16,760	13,240	25,000	29,684	△ 4,684
アマチュア無線	0	0	0	10,000	3,150	6,850
吹奏楽	120,000	90,100	29,900	20,000	17,493	2,507
理科学研究会	0	0	0	30,000	30,000	0
電子制御研究会	40,000	30,600	9,400	20,000	19,875	125
プログラマー・コミュニケーター	0	0	0	25,000	0	25,000
ボクシング	0	0	0	10,000	0	10,000
ストリート・バスケット	0	0	0	10,000	0	10,000
フットサル	0	0	0	10,000	0	10,000
モータースポーツ	5,000	0	5,000	5,000	0	5,000
フリークライミング	0	0	0	10,000	0	10,000
軽音楽	0	0	0	10,000	0	10,000
自然科学研究会	0	0	0	10,000	0	10,000
ボランティア	5,000	0	5,000	5,000	0	5,000
囲碁・将棋	10,000	14,250	△ 4,250	0	0	0
文学研究会	6,000	5,640	360	4,000	5,880	△ 1,880
鉄道研究会	5,000	2,580	2,420	5,000	8,984	△ 3,984
E S S	0	0	0	10,000	0	10,000
マフダデザイン	0	0	0	10,000	8,848	1,152
マフダデザイン	0	0	0	10,000	13,578	△ 3,578
茶道	0	0	0	10,000	10,000	0
共通経費(石炭)	0	0	0	50,000	40,425	9,575
予備費	28,000	18,680	9,320	251,000	142,376	108,624
合計	650,000	563,380	86,620	1,600,000	1,370,904	229,096

(出典 平成17年度顧問会議資料)

## 資料7-1-⑥-4

## 学生の体育大会派遣費等の補助基準

学生の、体育大会等に参加する補助については、次に定めるところによる。

## 1 補助の対象となる大会等

(1) 学校体育団体又は文化団体（高等専門学校や高等学校で組織された連盟や協会等をいう。）が主催し、都道府県若しくはそれ以上の地域を単位として開催される次の大会及び演奏会

- ① 近畿地区高等専門学校体育大会
- ② 近畿・東海・北陸・信越地区高等専門学校弓道大会
- ③ 近畿地区高等専門学校空手道大会
- ④ 近畿地区高等専門学校吹奏楽合同演奏会
- ⑤ 全国高等専門学校プログラミングコンテスト
- ⑥ アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト地区大会
- ⑦ 全国高等専門学校将棋大会
- ⑧ 全国高等学校野球選手権京都大会

(2) 上記の地区予選大会で選抜されたチーム又は個人が参加する全国大会

(3) (1)に準じ、特に会長が認めたもの。

2 上記(1)の①～⑧並びに(3)にかかる派遣は、原則として学校が認めた団体とし、各大会等の実施要項等に参加が認められたチーム数又は人数の範囲内とする。

3 上記⑤の全国高等専門学校プログラミングコンテスト、⑥の アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト及び⑦の全国高等専門学校将棋大会に参加する学生の対象とする人員については、下記4（人員の項）にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 全国高等専門学校プログラミングコンテスト

本選出場が認められたチームであって、募集要項に基づいて登録された学生について補助する。

(2) ロボットコンテスト

1チーム6名を標準とし、主催者負担のない学生について補助する。

(3) 全国高等専門学校将棋大会

参加チームは、団体戦の1チームとし、個人戦を兼ねるものとする。

## 4 補助額

	交通費	宿泊費	人員	参加料等
地区及び 全国大会	全額（送料、 特送料を含む。） 又はバス借上 料	1泊につき5,000円 ただし、実費額が5,000 円未満の場合は、その 額	各大会の実施 要項等で定め られた範囲内 で、本校が出 場登録をした 者	各大会等の実 施要項等で定 められた額

## 附 則

この基準は、平成14年4月1日から実施する。

## 附 則

この基準は、平成17年4月1日から実施する。

（出典 平成17年度顧問会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

課外活動に対する支援は、全ての教員が顧問等を分担し人的側面から効果的に実施されている。また学生の大会参加等における経済的支援体制も整備され機能している。

以上のことから、課外活動に対する支援体制は整備され機能している。

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況）

学生の生活面に係わる指導・相談・助言を行う体制として、学生相談室が青葉会館2階に設置されている（資料7-2-①-1）。また月に一度専門のカウンセラー（独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター医師）による相談も実施されている。その他に、交通安全講習会や各種講演会（人権講演会、薬物乱用防止講演会、エイズ防止およびタバコの害についての講演会）が毎年計画され実施されている（資料7-2-①-2）。

## 【学生相談室】

## 1. 学生相談室の開設

平成16年3月23日に初めて学生主事・看護師・学生係長・相談室員全員の顔合わせの会合をもち、平成16年度からの相談室開始に向けて、準備が始まった。その後2回の会議で、相談室の場所（青葉会館2階）、時間、曜日ごとの担当者等を決めて、平成16年5月から相談室を開始した。竹内学生主事からは研究室のノート型コンピューター、篠原正浩教員からはCDプレイヤーを当分貸与していただけた。また学生係から、備品の提供があり、少しは環境が整った。

相談員は決まった日に相談室に向かい、相談室開催の時間帯には居るという状態をまず作り出した。前期は相談者がほとんどゼロという日が続いた。6月の会議では学生が相談室に訪れない理由、P.R.の方法などについて話し合った。また相談室が殺風景なのでタペストリー・心が落ち着く音楽CDや学生の興味を引きそうなマンガも準備した。次に述べる研究会で、マンガも必要ではないか、というアドバイスを受けて購入してもらった。

この間、相談員は順次近畿学生相談研究会(KSCA)、近畿メンタルヘルス研究協議会等に参加し、カウンセリングの実際・事例、カウンセリングに関係のある分野の発達・臨床心理学の最近の動向、相談室のP.R.のしかた、他高専での経験等について学んできた。この3月末までには看護師も含めて全員が何かの研修に参加することになる。そこで学んだことは一人で持っているだけでは借しので、

次回3月末の会議で研修の結果を持ち寄って共有することになっている。

## 2. 学生相談の現状と課題

後期になって進路の相談などを廊下で、研究室で受けることがポツリ、ポツリ、と出てきた。学生たちは相談室の開催時間にはおこまいなく、自分の都合で、相談室ではなく研究室に飛び込んでくる。何回かの面談を研究室で受けてその後、次回は相談室で、というように相談室を活用、誘導するように仕向けている。

1月の会議ではこのような後期の状況が報告された。進路などではいっしょにインターネットで資料を探すなどしている。家族の死・家族のトラブルなど、私たち大人でも一人では抱えきれないことを背負っている事例もあって、相談室の重要性を感じる。また、筆者自身は相談室員を担当するようになってから、学生に対する見方・声かけが変わってきた。普段から観察して、心がうつろに見える学生にはこちらから声をかけて、まずは研究室において、と伝えている。また夏休み・春休み前に少しでも重荷をおろしてもらいたいと努力している。今後深刻な事例では担任・指導教員との連携をとることが必要だが、一方で学生のプライバシーもあり、そのバランスも考えねばならない。

(学生相談室長 宮崎 操記)

(出典 舞鶴高専年報 - 2004年度の教育・研究活動-10頁)

学生対象講演会・講習会一覧

		H16	H17
交通安全講習会	期日	4月12・13日	4月13・18日
	場所	視聴覚教室	
	講師	舞鶴東警察署員	
	対象	バイク・車両持ち込み予定者	
	参加人数	375	364
リーダーシップセミナー	期日	5月14・15日	5月20・21日
	場所	こぶし荘	城山荘
	講師	中学教諭	消防署
	対象	炊飯 米人	課長
	参加人数	34	38
薬物乱用防止講習会	期日	11月22日	
	場所	視聴覚教室	
	講師	舞鶴東警察署生活安全課長	
	参加人数	143	
エイズ防止及びタバコの害について講演会	期日	1月31日	
	場所	視聴覚教室	
	講師	中丹東保健所保健師・技師	
	参加人数	145	
カウンセリング講演会	期日	6月14日	
	場所	視聴覚教室	
	講師	本校カウンセラー	
	参加人数	174	
人権講演会	期日	11月15日	
	場所	視聴覚教室	
	講師	ジャーナリスト 木下 明美	
	参加人数	168	

(出典 学生課資料)

学生の経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制として、授業料免除や奨学金、寄宿料免除制度に応募するため学級担任などが推薦・面談を行うシステムが整備されている。これらの制度は、学生便覧（平成18年度93頁）に掲載されている。授業料免除者数や奨学生数は、年報に記載されている（資料7-2-①-3）。

資料7-2-①-3

奨学金の種類		学 生 数							
		1年	2年	3年	4年	5年	専1年	専2年	計
日本学生支援機構奨学金	第一種	21	18	19	24	41	9	7	139
	きぼう21(有利子)	該当せず			2	1		1	4
その他の奨学金	母子家庭奨学金		3	5	1	2			11
	京都府高等学校等修学資金	4	4	3					11
	京都府関係	3	1	2	1				7
	その他府県	1	4						5
	市町村修学資金	2	2	2	3				10
	法人等の奨学金	1	2		1				4

奨学金の種類		学 生 数							
		1年	2年	3年	4年	5年	専1年	専2年	計
前期	全額免除	15	11	9	3	7			45
	半額免除	2	3	2	6	1			14
後期	全額免除	13	9	8	5	9	1		45
	半額免除	1	3	1	2	4	1		12

入学料免除者数 …… 該当者なし  
 入学料徴収猶予者数 …… 1年 2名

(出典 舞鶴高専年報 - 2004年度の教育・研究活動-57頁)

(分析結果とその根拠理由)

学生の経済面に関する支援は、授業料の免除や徴収猶予および寄宿料免除や奨学金制度などが整備され、多くの学生に利用されている。学生の生活面に関する支援として学生相談室とカウンセラーを配置している。

以上のことから、学生生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制は整備され機能している。

観点7-2-②： 特別な支援が必要な者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には、生活面での支援が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

留学生に対して、病気や災害など健康を害する事態が生じた場合の支援として、災害共済給付契約や国民健康保険への加入、日本学生支援機構の外国人留学生医療費補助制度などの指導が行われている（資料7-2-②-1）。留学生は全員学生寮で生活しており、食習慣の違いにも配慮されており、学寮補食室の充実が図られている（資料7-1-⑤-4）。

障害のある学生がいる場合への対応として、エレベータやバリアフリー対策、障害者用トイレが設置されている。

## 資料7-2-②-1

## 留学生のための健康のしおり 目次

1. 日本の医療保険制度について	1	5. 国保と機構医療費補助Q&A	8
2. 国保について	1	Q1 国保への加入方法を教えてください。	8
(1) 国保への加入義務	1	Q2 機構医療費補助の範囲について教えてください。	8
(2) 国保への加入手続	2	Q3 交通事故にあつて入院しました。医療費を補助してもらえますか？	9
(3) 保険料の支払いについて	2	Q4 複雑骨折で入院して多額の医療費を支払うことになりました。どうしたらいいでしょうか？	9
(4) 医療費の国保負担と自己負担の関係について	2	Q5 医師からのすすめでコルセットを付けることになりましたが、それに対する機構医療費補助は支給されますか？	10
(5) 国保からの保険給付について	3	Q6 国保には加入していますが、深夜急に病気になるってしまったので、保険証と診察依頼書を持たずに近くの救急病院で診療を受け、医療費を全額支払いました。救急病院の備収室はありますが、機構医療費補助は受けられますか？	10
(6) 国保で受けられない診療等について	4	Q7 私の妻が出産することになりました。家族で国保に加入していますが、国保と日本学生支援機構から何か補助がありますか？	11
3. 機構の外国人留学生医療費補助制度について	4	Q8 健康には特に自信があり、病気になることがないのに、国保の保険料を支払っています。保険料が無駄だし、支払うのが負担なのでやめたいのですが。	12
(1) 制度の概要	4	「外国人留学生診療依頼書」について	13
(2) 補助を受けるために必要な条件	4		
(3) 機構医療費補助の内容について	5		
(4) 機構医療費補助申請の手続きについて	6		
4. その他の注意事項	6		
(1) 保険医療機関を利用する際に気を付けること	6		
(2) 交通事故について	7		
(3) 健康診断について	8		

(出典 留学生のための健康のしおり)

(分析結果とその根拠理由)

生活面で特別な支援が必要な学生は留学生である。彼らの学生寮における生活は、学生課や学寮委員会の支援によって支えられている。

以上のことから、生活面に関して特別な支援が必要とされる者への支援は、適切に行われていると判断できる。

観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の間として有効に機能しているか。

(観点到に係る状況)

生活の間としての学生寮のさまざまな規則（学寮規則、学寮日課表、寮生会規約・組織図、寮生会消防隊及び避難要領）は、学生便覧（平成18年度版111頁）に掲載されている。「寮生活のしおり」に、実際の寮生活上の注意点が詳細に記されている（資料7-2-③-1）。平成18年の学生寮現員は、資料7-2-③-2に示すとおりである。

学生寮が学習の間として有効に機能するように、資料7-2-③-1に示すように自習時間を

設定している。施設面では、各号棟各階に共用スペースとしての談話室の設置、無線LANが整備されている。

欠課や欠席の多い寮生に対する指導は、寮務係職員による毎朝の巡回や、教員による試験1週間前の低学年生の登校指導として行われている。また、寮生の安全確認のため、朝と夜に在寮点呼が行われている。

## 資料 7—2—③—1

## 2. 日常生活

## (1) 日 課

毎日の生活が規則正しく行われるように、下記のとおり日課が定められています。

日 課	月～木	金休日の前日	土	日(休日)
週番起床	7:10			—
全員起床	7:20		8:00	
洗面・清掃	7:25～7:40		8:00～8:10	
点 呼	7:40～7:55		—	
朝 食	8:00～8:50		8:15～9:00	
登 校	8:50		—	
昼 食	12:00～12:50		12:00～13:00	
夕 食	18:00～19:15		17:30～18:45	
入 浴	18:00～21:00			
自習時間	21:00～22:00	—	—	21:00～22:00
点 呼	女 子	21:30	—	21:30
	男 子	22:00	—	22:00
門 限	女 子	21:30		
	男 子	22:00		
消灯就寝	23:00 (但し、電気スタンドの使用を認める。)			

## (2) 点呼について

1日2回(朝・夜)在寮確認の点呼を行います。

- ① 低学年は、朝は食堂で、夜は自室前で週番による点呼を受けます。
- ② 高学年は、朝は自室前で、夜は食堂で週番等による点呼を受けます。
- ③ 上記の外に女子寮は、寮監による夜の直接点呼を実施する日もあります。

点呼までに帰寮できない場合は、所在確認のため必要ですから、寮監、指導寮生又は管理当直者(62-8885)へ必ず連絡してください。

## (3) 食事について

- ① 食堂はセルフサービス方式になっています。喫食カードと引き換えに所定の場所から料理を受け取ってください。
- ② 病気等の理由により献立表と異なる食事を希望する場合は、寮務係へ申し出てください。

## (4) 欠食について

- ① 備省等により欠食する場合は、喫食カードに4日前までにその旨を記入してください。  
なお、欠食が認められるのは金曜日の夕食から日曜日の夕食まで、及び休日の前日の夕食から休日の夕食までとなっています。
- ② その他、課外活動や就職・進学試験等やむを得ない理由で欠食する場合は、寮務係へ相談してください。

## (5) 自習時間について

- ① 自習時間は他人に迷惑をかけずに静かに勉強してください。
- ② 自室以外に学校の図書館も利用できます。

## (6) 風呂について

風呂は毎晩入ることができます。時間を厳守し、脱衣所に忘れ物のないようにしてください。

## (7) 美化・衛生について

寮は、たくさんの学生達が共同生活をする場です。お互いに迷惑にならないように居室は、毎日、整理・整頓しておきましょう。  
各自、燃えるゴミ、カン、ビン等きちんと仕分けして分別ゴミ箱(7分別)に出してください。  
また、分別ゴミ箱がいっぱいになっているときは、ゴミ集積場に出してください。

## (8) 門限について

- ① 男子寮は22時です。
- ② 女子寮は21時30分です。この時間に玄関の施設をします。

(出典 寮生活のしおり 4頁)

平成18年5月1日											
平成18年5月寮生数											
学生課寮務係											
クラス	学年	1学年	2学年	学科	3学年	4学年	5学年	専 1	専 2	計	備 考
1組		(2) 34	(3) 34	機 械	(1) [1] 26	(2) [2] 27	(2) [1] 23			(10) [4] 144	( )は女子で内数 [ ]は留学生で内数
2組		(3) 35	(2) 32	電 気	(7) [1] 28	(1) [1] 20	(2) [2] 18			(15) [2] 133	
3組		(3) 36	(3) 30	制 御	(2) [1] 34	(1) [1] 21	(2) [2] 15			(9) [3] 136	
4組		(5) 37	(2) 32	建 設	(3) [1] 17	(3) [1] 18	(2) [2] 10			(15) [2] 114	
				電・制				(2) 4	(2) 9	(4) 13	
				建・生					1	1	
		(13) 142	(10) 128		(13) [3] 105	(7) [5] 86	(6) [3] 66	(2) 4	(2) 10	(53) [11] 541	

**備考**

- 4月 4日 開寮
- 4月 5日 新入生入寮日（入寮説明会）
- 4月15日 新入生歓迎球技大会

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

学寮が生活及び勉学の間として機能するように、入寮時の説明会や日常生活における在寮点呼、消灯後の巡回、始業前の巡回や登校指導など、さまざまな配慮がなされている。また自習や談話ができる共用スペースの整備や、学寮におけるインターネット利用の利便性を高める無線LANが整備されている。

以上のことから、学寮は生活及び勉学の間として有効に機能していると判断できる。

## 観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生委員会進路指導部会が、準学士課程4年生と専攻科1年生を対象として11月に第1回進路ガイダンスを(資料7-2-④-1)、2月に第2回進路ガイダンスを行い、3月には進路懇談会として担任および専攻長と保護者・学生の三者面談を実施している(資料7-2-④-2)。その他、進学希望者向けのガイダンスを4月に行っている。これらの進路指導部会の運営状況は、年報に記載されている(資料7-2-④-3)。

大学編入の資料は学生課窓口および図書館1階ロビーに設置され学生が閲覧できるようになっており、また会社案内の資料は各学科5年担任研究室に設置されている。各学科5年担任は、就職の指導だけでなく、進学についても丁寧に指導している。

就職状況や進学状況は、年報(舞鶴高専年報-2004年度の教育・研究活動-60~65頁)に記載されている(資料7-2-④-4)。

資料7-2-④-1

平成16年11月24日

本科4年生へ  
専攻科1年生へ

就職委員長

進路関係資料の配布について

下記のとおり進路関係資料を配布します。

なお、配布資料のうち④・⑤・⑥については、平成17年1月11日(火)までに学級担任(専攻科進路指導担当教員)に提出してください。

記

(配布資料)

- ①平成17年度就職のしおり
- ②平成17年3月卒業(修了)予定者就職内定状況一覧
- ③求人票受付企業一覧(平成15年度~16年度)
- ④就職アンケート
- ⑤求職票
- ⑥誓約書
- ⑦舞鶴工業高等専門学校学生の大学編入学に関する申合せ
- ⑧本科学生進学一覧
- ⑨専攻科学生進学・就職一覧(平成13年度~15年度)

※④・⑤・⑥は、就職希望、進学希望にかかわらず全員提出してください。なお、進学希望者は④の就職アンケートの所感欄に進学希望と記入してください。

(出典 学生課資料)



平成17年2月 日

新5年生(予定)の保護者 各位  
 専攻科新2年生(予定)の保護者 各位

舞鶴工業高等専門学校長  
 萩野文丸  
 【公印省略】

## 進路懇談会の開催について

拝啓 早春の候、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。  
 本校の学校運営に関しましては、平素より格別の御高配、御尽力を賜り誠にありがとうございます。  
 つきましては、下記により「進路懇談会」を開催しますので万障お繰り合わせのうえ、就職・進学を問わず是非出席くださいますよう御案内申し上げますとともに、同封の返信葉書により出欠等を来る3月4日(金)までに御回答くださいますようお願いいたします。  
 なお、参考までに就職に関する資料を同封しますので御子息、御息女との話合いの資料として御利用ください。

敬 具

## 記

1. 日 時 平成17年3月13日(日) 10時～
2. 日 程 (午前の部)
  - 10時 ～ 10時30分 全学科・専攻科共通説明
  - 10時30分～12時30分 学級担任(専攻科は進路指導担当教員)との個別懇談
 (午後の部)
  - 13時 ～ 13時30分 全学科・専攻科共通説明
  - 13時30分～ 学級担任(専攻科は進路指導担当教員)との個別懇談
3. 場 所 ◎全学科・専攻科共通説明
  - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・視聴覚教室(図書館3F)
  - ◎学級担任(進路指導担当教員)との個別懇談
    - ・・・・・・・・学級担任(専攻科は進路指導担当教員)の研究室

- ※ 午前の部、午後の部どちらか一方に御出席ください。  
 ※ 学級担任との個別懇談を希望される場合は、同封の返信葉書に記入してください。  
 ※ 当日には、今回送付します「就職斡旋規程」・「平成17年3月卒業(修了)予定者就職内定状況一覧」・「平成17年3月卒業(修了)予定者就職内定会社一覧」・「卒業(修了)生就職企業一覧」・「平成17年度編入学・進路状況一覧」を持参してください。  
 ※ 当日の昼食は、各自で準備してください。

(出典 学生課資料)

## 【進路指導部会】

## 1. 進路指導部会の設立

本年度から就職委員会が発展的解消して「進路指導部会」が作られた。部会長は「就職委員長」と言う名前を受け継いでいる。就職開拓における配慮のためであろう。急遽組織の変更を行った為に予算措置が従来そのままであったことと、事務分掌に関する統一が出来ていなかったために、今年1年間で移行措置を取りながら、進路指導部会に移行した。

移行の理由は、進学者が5割位まで急上昇したことにより進学に関してこれまで以上に力を注ぐ必要があるためである。反面、不況の中であり、就職開拓にも力を入れる必要があり進路指導部会としての仕事は多くあった。

## 2. 年間行事

平成16年度に行った行事を下に示す。本年度から就職と進学を区別するように心がけた。

## 平成16年度 進路指導部会の行った行事の概略

年 月 日	行 事 内 容
H16. 5. 6	第1回進路指導部会
H16. 10. 14	第2回進路指導部会
H16. 11. 24	第1回進路ガイダンス
H17. 2. 3	第2回進路ガイダンス
H17. 3. 11	第3回進路指導部会
H17. 3. 13	進路懇談会（三者懇談会）

表には出ていないが、上記行事はほんの一部の仕事であり、上記以外の仕事年間活動の本務である。すなわち、就職に関しては、就職開拓のための会社訪問、来訪客の対応、学生への情報提供と指導、会社への学生の紹介業務等である。進学に関しては、募集大学の紹介、学校説明に来訪された学校の先生の対応、推薦文書類の作成である。

また、就職、進学共にトラブルも付きまとうものであるから、その処理のための出張なども含まれる。その他後援会支部への説明に出席した。

## 3. 就職関係

就職に関しては従前の形態をそのまま引き継いでいる。求人状況は2年連続で約2割強の増加で、本年度のは求人会社数は約500社であった。この数字でもまだ満足ではなく、就職開拓のための会社訪問等の活動を委員全員で行った。出張費など後援会の援助が非常に有り難く、有効に活用させていただいた。

求人に関しては年々応募時期が早期化しており、求人のための来訪客が1月頃から急増して来た。そのための対応は、他の学校行事とも重なり時間的余裕が無いため多忙を極めている。また会社訪問時期に関しても、4月前半に集中する傾向があり、応募書類も間に合わない場合も出て来ている。このように対応がますます難しくなる傾向である。

## 4. 進学関係

近年の少子化により、大学側も優秀な学生の入学を期待しており高専生の編入学を歓迎してもらっており、門戸が開けられている。国立大学では、推薦制度を設けている大学が30校以上あり、多くの学生が推薦入試で合格している。担任教員はこれに対する指導がかなりの時間に及び、特に推薦状などの書類作成には多大の時間を必要としている。他方、進学から就職へ、就職から進学へと途中で方針転換する学生や、自分の意志が何時までも決らない学生が増加しているように思われ、進路指導がますます難しくなって来つつある。

## 5. 専攻科の進路指導

専攻科の進路指導は、進路担当教授と研究担当教授の共同指導の形態となっている。人数が少ないことと、本科の時からの指導経験から問題は少ないように思う。就職・進学の割合も半々程度である。進学に関しては、直接大学院からの学校案内などによる一本釣的な募集が年間数件あり、これに対応する必要に迫られている。

(進路指導部会長 白藤中生記)

(出典 舞鶴高専年報 - 2004年度の教育・研究活動-9頁)

## 就職状況(本科)

求人及び内定状況 平成17年3月31日現在

区分	卒業 予定者 数	就職 希望者 (a)	就職 内定者 (b)	進学 希望者	その他 (含自営)	求人 会社数 (社)	求人数 (人) (c)	求人倍数 (c)/(a)	就職内定率 (b)/(a)×100
機械	37	20	20	13	4	309	319	16.0	100.0
電気	37	22	22	15	0	303	306	13.9	100.0
電子制御	43	22	22	21	0	305	311	14.1	100.0
建設システム	36	15	15	19	2	91	91	6.1	100.0
合計	153	79	79	68	6	1,008	1,027	13.0	100.0

求人会社数は、学科間の重複を含む。

内定先の所在地域別状況

区分	京都府	大阪府	奈良県	兵庫県	滋賀県	京浜地域	その他	合計
機械	6	5	1	1		6	1	20
	30.0	25.0	5.0	5.0		30.0	5.0	100.0
電気	6	7			2	7		22
	27.3	31.8			9.1	31.8		100.0
電子制御	9	3		1	1	8		22
	40.9	13.7		4.5	4.5	36.4		100.0
建設システム	4	4		1		6		15
	26.7	26.7		6.6		40.0		100.0
合計	25	19	1	3	3	27	1	79
	31.6	24.1	1.3	3.8	3.8	34.1	1.3	100.0

上段の数字は人数、下段の数字は%を示す。

内定先の業種別状況

区分	建設	食品	紙・パルプ	化学	石油・石炭	金属製品	機械	電気機器	輸送用機器	精密機器	その他製造	運輸・通信	商業	情報サービス	コンサルティング	その他サービス	公団	官公庁	合計
機械		1		1	1	1	2	1	4	2	2		2			3			20
		5.0		5.0	5.0	5.0	10.0	5.0	20.0	10.0	10.0		10.0			15.0			(100)
電気			1				3	5		1	1	2		4		3	1	1	22
			4.5				13.7	22.9		4.5	4.5	9.1		18.2		13.7	4.5	4.5	(100)
電子制御							5	7	1	1	1	1	1	2		2		1	22
							22.8	31.8	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	9.2		9.2		4.5	(100)
建設システム	8											1		1	2	1		2	15
	53.3											6.7		6.7	13.3	6.7		13.3	(100)
合計	8	1	1	1	1	1	10	13	5	4	4	4	3	7	2	9	1	4	79
	10.1	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	12.6	16.4	6.3	5.1	5.1	5.1	3.8	8.8	2.5	11.3	1.3	5.1	(100)

上段の数字は人数、下段の数字は%を示す。

(出典 舞鶴高専年報 - 2004年度の教育・研究活動-60頁)

(分析結果とその根拠理由)

進路指導部会は、各学科の4年と5年の担任や専攻長と協力し、3回の就職や進学のガイダンスと1回の進路懇談会(三者面談)を行い、就職の斡旋や進学の助言・指導を行っている。大学編入、会社案内の資料も学生が自由に閲覧できるように配慮されている。

以上のことから、就職や進学などの進路指導を行う体制は整備され、機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

国際コミュニケーション英語能力向上を図る支援としてTOEIC受験料を補助し、全学生が毎年受験させている。また、タイのKing Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang, 韓国のKorea Universityとの交流協定を締結し、海外留学実施の基盤が準備できている。学寮に無線LANの整備を行い、学生の国際的視野が拡大できるよう支援している点が優れている。

### (改善を要する点)

オフィスアワーの利用実績を把握するシステムを構築することが必要である。

## (3) 基準7の自己評価の概要

学生が学習を進める上でのガイダンスとして、入学・編入学時のオリエンテーション、選択科目の履修説明や修得単位数の確認指導、生産・情報基礎工学プログラムの説明会やそのプログラム達成度の確認指導、学位申請説明会（専攻科生対象）が実施されている。また学習を進める上での個別相談や助言として、オフィスアワーや担任・副担任による個別指導が実施されている。学生の自主的学習スペースとして、図書館・情報科学センター・教室・本館廊下のフリースペースなどが整備されている。学生が学習を進める上で感じている支援ニーズは、校長とのフリートーキング、専攻科生と教員の交流会、FDパネルディスカッション、学生による授業評価アンケートなどを通して把握されている。資格試験や検定試験を受験する上での支援は、実用英語技能検定と国際コミュニケーション英語能力テスト（TOEIC）に関して行われている。TOEICではスコアに応じて単位が認定され、その受験料は一部学校から補助され、全学生が受験するようになっている。学習を進める上で特別な支援が必要な学生は、本校では留学生、編入学生、転科生である。留学生には、指導教員とチューターが支援にあたり、日本語の授業と専門教科の補習授業が実施されている。編入学生と転科生には、専門教科の補習授業が実施されている。課外活動に対する支援として、全教員がクラブ顧問を分担して支援している。

生活面に係わる支援としては、指導・相談・助言を行う学生相談室が設置されており、学生の経済面に係わる支援として授業料や寄宿料の免除や徴収猶予及び奨学金の制度が整備されている。生活する上で特別な支援が必要な学生は本校では留学生であり、国民健康保険への加入や日本学生支援機構の外国人留学生医療費補助制度の利用などが指導されている。また、福利厚生施設として青葉会館1階に学生食堂と売店が設置されている。学寮が生活及び勉学の場として機能するような支援体制として、安全確認のための在寮点呼、消灯後の巡回、始業前の巡回、試験前の低学年生登校指導などが行われている。

就職や進学などの進路指導を行う体制として、学生委員会進路指導部会が各学科4年と5年の担任及び専攻長で組織され、毎年3回のガイダンスと1回の進路懇談会（三者面談）が実施されている。

## 基準 8 施設・設備

## (1) 観点ごとの分析

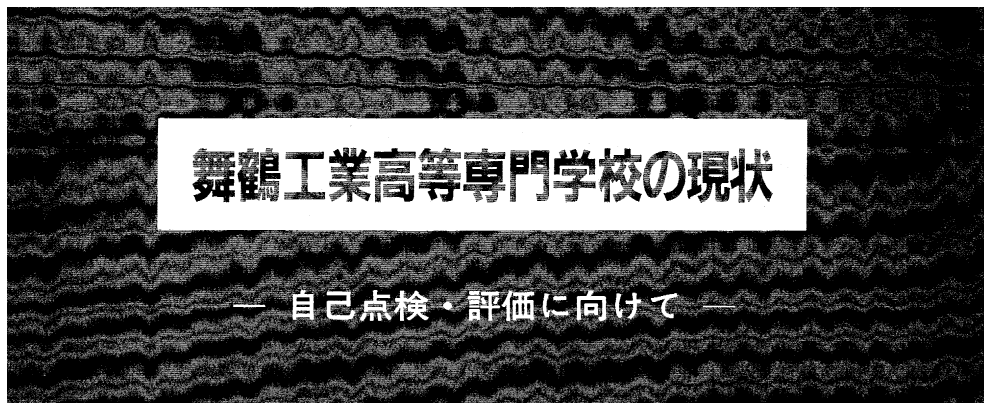
観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。

（観点到る状況）

舞鶴工業高等専門学校は昭和40年（1965年）に設置されて以来、本校の教育課程を実現するため、施設・整備の充実を図っている。施設・整備の現状、問題点および改善方策については、自己点検・評価報告書等により情報公開してきた（資料 8-1-①-1～3）。

資料 8-1-①-1

自己点検・評価報告書等による情報公開 1



該当箇所目次

5. 研究誌の発行状況と編集方針 .....	70
(1) 紀 要 .....	70
(2) 情報科学センター年報 —情報処理教育と研究の現状— .....	70
<b>IV. 施設設備</b>	
1. 教育研究設備の充実と教育研究環境の整備 .....	71
2. 教育研究設備の状況 .....	71
3. 図書館の利用状況 .....	72
<b>V. 国際交流</b>	
1. 国際協力と留学生の受け入れ状況 .....	75
(1) 現 状 .....	75

（出典 舞鶴工業高等専門学校の現状—自己点検・評価に向けて—平成 6 年 3 月）

# 舞鶴高専の現状と課題

## — 21世紀に向けての自己点検・評価報告書 —

### 該当箇所の目次

第3章 事務機構の現状と問題点	19
1 事務管理体制	19
2 教育支援体制	22
3 学校環境レベル	22
3・1 施設の整備状況	22
3・2 学生寮の整備状況	23
3・3 施設整備上の課題	23
第6章 附置センター及び各施設の現状と問題点	145
6・1 情報科学センター	145
I 情報科学センターの5年間の歩み	145
II 情報科学センターの利用状況	147
6・2 総合技術センター	149
① 経緯と現状	149
② 問題点と今後の対応	151
6・3 図書館	152
1 はじめに	152
2 図書資料について	152
3 学生の利用	153
4 教職員及び一般の利用	160
5 視聴覚機器の利用について	161
6 図書システムの電子化	164
7 学術情報センターとの接続	164
8 電子図書館化	165
9 施設設備の改善	165
6・4 視聴覚関連教室の現状と問題点	166
1 まえがき	166
2 主な施設と設備	166
3 利用状況	166
4 問題点等	166

(出典 舞鶴高専の現状と課題—21世紀に向けての自己点検・評価報告書—平成10年3月)

# 外部評価報告書

該当箇所の資料

## 3 外部評価実施要領

(平成12年9月4日, 自己点検・評価委員会決定)

### 3.1 趣旨

舞鶴高専における教育研究活動について、学外の有識者の方による評価及び提言をいただき、今後の教育研究の改善、改革の推進に資する。

### 3.2 外部評価委員会

- (1) 外部評価を実施するため、学外の有識者による外部評価委員会を置く。
- (2) 外部評価委員会の委員は別紙のとおりとする。

### 3.3 外部評価の実施

- (1) 資料による調査
- (2) 本校で実施するヒアリング
- (3) 校内施設の視察

## 外部評価関係資料一覧

- ① 科学研究費補助金関係
- ② 共同研究関係  
受託研究関係  
奨学寄附金関係
- ④ 年報関係
- ⑤ 施設・設備関係
- ⑥ 教官構成状況関係

(出典 外部評価報告書 平成13年3月)

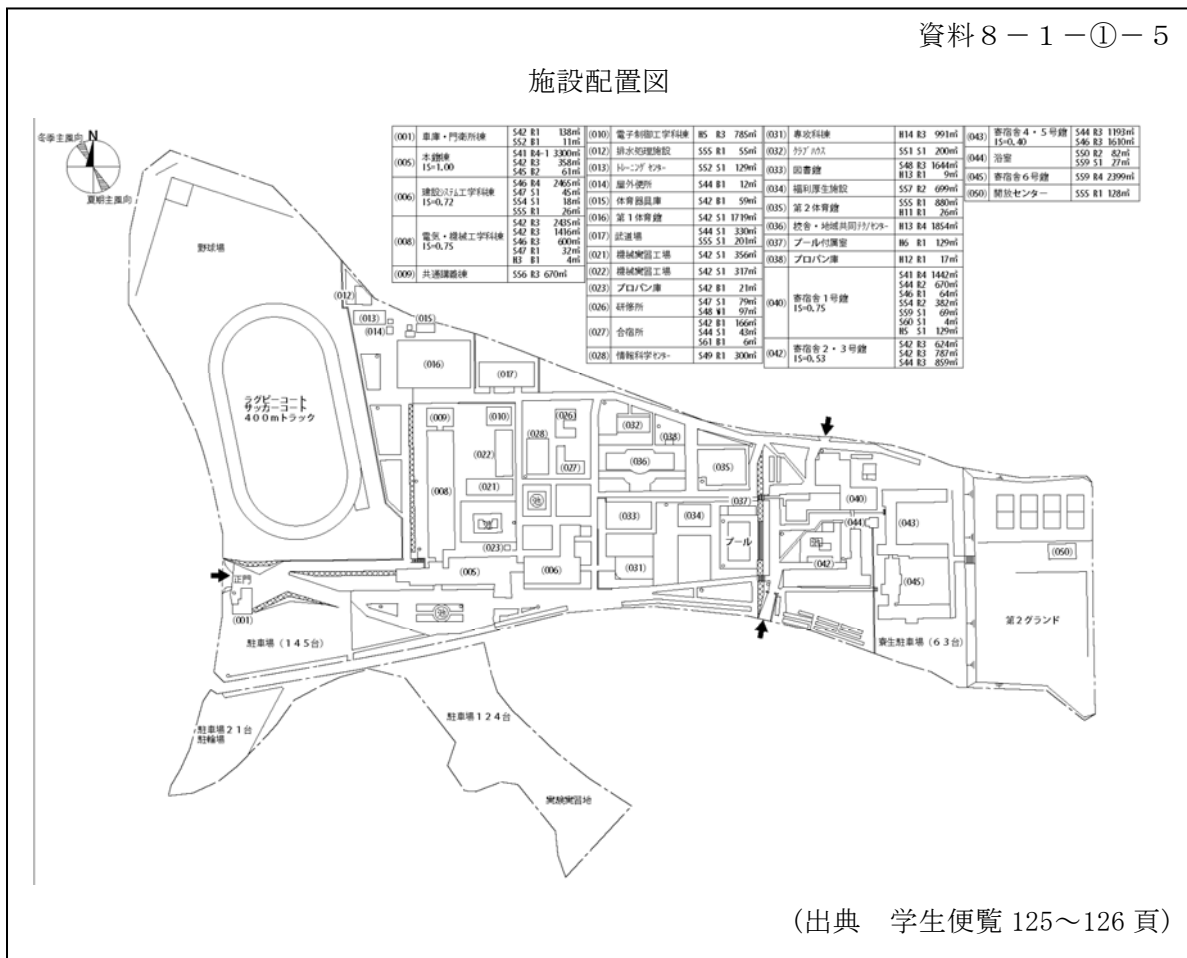
現在の施設・設備の状況を資料に基づいて述べる。資料 8-1-①-4, 5 は、校地および敷地内の各施設の配置状況を示す。

資料 8-1-①-4

校地内訳

総面積	内訳 [m <sup>2</sup> ]	
126,695 m <sup>2</sup>	校舎敷地	49,674
	学寮敷地	23,555
	運動場敷地	47,993
	実験実習地	754
	艇庫敷地	453
	職員宿舎(浜)	666
	職員宿舎(行永)	3,600

(出典 平成 17 年度学校概要 38 頁)





校舎、主要施設、体育施設、福利厚生施設等の現状は、資料 8-1-①-6～9 に示す通りである。平成13年には、地域共同テクノセンターを含む低学年棟が新設され、実験・講義室の充実が図られた。また、専攻科設置に伴い、平成14年には専攻科棟が新設された。平成14、15年には阪神大震災級の地震対策として校舎耐震補強工事を中心とした校舎改修が行われた。

資料 8-1-①-6

## 校舎の整備状況

名 称	構 造	総面積 [m <sup>2</sup> ]	完成年 (改修年)
管理部および一般教科棟	RC-4	3,719	昭和 41 年 (平成 14 年)
専攻科棟	RC-3	991	平成 14 年
機械工学科棟	RC-3	3,039	昭和 42 年 (平成 14 年)
電気情報工学科棟	RC-3	1,448	昭和 42 年 (平成 14 年)
電子制御工学科棟	RC-3	785	平成 5 年
建設システム工学科棟	RC-4	2,554	昭和 46 年 (平成 15 年)
共通講義棟	RC-3	670	昭和 56 年 (平成 14 年)
低学年棟	RC-4	1,854	平成 13 年

(出典 平成 17 年度学校概要 38 頁)

資料 8-1-①-7

## 主要施設の整備状況

名 称	構 造	総面積 [m <sup>2</sup> ]	完成年 (改修年)
地域共同テクノセンター	RC-4	1,854	平成 13 年
情報科学センター	RC-1	300	昭和 49 年
機械工学科実習工場	S-1	673	昭和 42 年
図書館	RC-3	1,653	昭和 48 年

(出典 平成 17 年度学校概要 38 頁)

## 資料 8-1-①-8

## 体育施設の整備状況

名 称	構 造 / 摘 要	総面積 [m <sup>2</sup> ]	完成年
第1体育館	S-1 / ステージ・アリーナ	1,719	昭和42年
第2体育館	S-1 / アリーナ	906	昭和55年
武道館	S-1 / 剣道場・柔道場	531	昭和44年
体育器具庫	B-1	59	昭和42年
トレーニングセンター	S-1	129	昭和52年
体育施設開放管理室	RC-1 / ミーティングルーム・更衣室など	128	昭和55年
プール	ステンレス 25m 7コース	付属室 129	平成6年
陸上競技場	400mトラック 8コース 夜間照明有	21,000	—
野球場	両翼85m 内野夜間照明有	10,000	—
第2グラウンド	ソフトボール場 1面 夜間照明有	7,000	—
テニスコート	クレイ2面・全天候2面 夜間照明有	2,600	—

(出典 会計課資料)

## 資料 8-1-①-9

## 福利厚生施設等の整備状況

名 称	構 造 / 摘 要	総面積 [m <sup>2</sup> ]	完成年
青葉会館	RC-2 / 食堂・学生相談室など	699	昭和57年
合宿所	S-1 / 宿泊施設	215	昭和42年
クラブハウス	S-1	200	昭和51年
艇庫	S-1	92	昭和51年

(出典 平成17年度学校概要 38頁)

教員研究室および教室には冷暖房機器が完備し教育・研究に快適な環境を提供している(資料8-1-①-10, 11)。また、教室・講義室には液晶プロジェクター・スクリーンや視聴覚機器を配備し、視聴覚教育・情報教育が可能な学習環境を整えており、資料8-1-①-11に見られるようにそれぞれの教室・講義室は有効に活用されている。

資料 8-1-①-10

## 教員研究室の整備状況

学 科 等	教員数 [人]	部屋数 [室]	総面積 [m <sup>2</sup> ]	空調の有無
人文科学部門	10	10	192	有
自然科学部門	12	12	300	有
機械工学科	11	11	270	有
電気情報工学科	10	11	292	有
電子制御工学科	9	9	231	有
建設システム工学科	10	10	260	有
専攻科	0	2	81	有

(出典 会計課資料)

資料 8-1-①-11

## 教室・講義室の整備状況

部屋名称	部屋数 [室]	面積 [m <sup>2</sup> ]	収容数 [人]	使用時間 *	設 備 等
クラスルーム	20	79	45~55	198	液晶プロジェクター・スクリーン、ビデオデッキ、OHP台(4年教室を除く)、空調有
少人数教室	7	47~63	30	3	空調有
日本語教室	1	47	12	2	空調有
第一合併教室	1	132	146	4.5	液晶プロジェクター・スクリーン、ビデオデッキ、OHP、テレビ、空調有
第二合併教室	1	126	80	13.5	液晶プロジェクター・スクリーン、ビデオデッキ、OHP、テレビ、空調有
視聴覚教室	1	217	216	9	液晶プロジェクター・スクリーン、ビデオデッキ、テレビ、空調有
専攻科講義室	3	38~81	15~35	22	液晶プロジェクター・スクリーン、空調有

\* 週あたりの平均の使用時間 [時間/週]

(出典 学生課資料)

「実験・実習，演習，ものづくりを重視する」教育方針のもと，多様な実験・実習・演習室が整備され，有効利用されている（資料 8-1-①-12）。それぞれの実験・実習・演習室には，その教育目的達成のため，種々の実験設備・機器等が整備されている。一例として機械工学科における実験室等の機器整備状況を資料 8-1-①-13 に示す。

資料 8-1-①-12

## 実験・実習・演習室等の整備状況

学 科 等	部屋数 [室]	総面積 [m <sup>2</sup> ]	使用時間 *	摘 要
人文科学部門	1	132	13	L. L 教室
自然科学部門	2	194	19	物理実験室，化学実験室
機械工学科	5	1068	40	熱工学実験室，材料金相学実験室，非破壊実験室， CAD 実習室，機械実習工場
電気情報工学科	6	780	78	計算機実習室，情報通信実験室，基礎電気実験室， 情報工学実験室，自然エネルギー実験室，電気工学実験室
電子制御工学科	9	726	95	プラズマ解析実験室，実験機材室，制御応用実験室， 計測応用実験室，電子デバイス実験室， ロボット工学実験室，メカトロニクス実験室， 電子制御実験室，CAD/CAM 実験室
建設システム工学科	5	523	14	水工学実験室，構造実験室，コンクリート材料実験室， 地盤工学実験室，環境工学実験室
専攻科	7	359	36	電気通信実験室，水圏環境実験室，材料実験室， 振動実験室，情報処理実験室，制御システム実験室， 情報演習室
情報科学センター	1	300	12.5	情報処理室
マルチメディア室	1	112	7	情報科学センター分室（マルチメディア室）
地域共同 テクノセンター	3	162	—	情報システム開発支援室，構造解析システム支援室， 試作室
共通実験室	8	1045	42	流れ学実験室，創造工房，計測制御システム工学実験室， 制御応用実験準備室，画像処理実験室/環境応用分析室， データ解析可視化室，工学実験室，福祉機器実験室

\* 週あたりの平均の使用時間 [時間/週]

(出典 会計課，学生課，各学科部門資料)

資料 8-1-①-13

## 機械工学科 実験室等の機器整備状況

部屋名称	収容数 「人」	面 積 [m <sup>2</sup> ]	設 備 等
機械実習工場	52	673	旋盤，立・横型フライス盤，各種ボール盤，形 削り盤，グラインダー，平面研削盤，帯鋸盤， NC フライス盤，パソコン一式，アーク溶接 機，マシニングセンター，FA システム
材料・金相学 実験室	12	153	オートグラフ万能材料試験機，シャルピー衝撃 試験機，各種硬さ試験機，走査型電子顕微鏡， クリープ試験機，ねじり試験機，高速切断機， 万能材料試験機，油圧式疲労試験機

## 資料 8-1-①-13 続き

## 機械工学科 実験室等の機器整備状況

部屋名称	収容数 「人」	面積 [m <sup>2</sup> ]	設 備 等
非破壊実験室	12	87	電気炉, 真空蒸着装置, 金属顕微鏡, 顕微鏡用モニター, 平面曲げ疲労試験機, 各種ひずみアンプ, 各種電源装置, パソコン一式
熱工学実験室	12	65	クーリングタワー, ガソリンエンジン, 高速度カメラ, データレコーダ, パソコン一式
共通実験室(A-115)	12	87	声道模型教材, AC サーボモータ, トルク変換機, レーザスキャン式 2次元変位センサー, 水素気泡発生装置, 小型回流水槽, 電磁流量計, 電磁血流計
CAD 実習室	52	110	パソコン, 液晶プロジェクター, スクリーン, A3 対応カラーレーザープリンター
共通実験室	12	170	液晶プロジェクター, スクリーン, レゴブロック, 電動車椅子

(注) : 機械実習工場は, 授業において本学科と電子制御工学科が使用する共有施設です。

(注) : 収容数は, 授業(実験・実習)時における最大収容数を示しています。

(出典 会計課, 機械工学科資料)

資料 8-1-①-12 に示された実験・実習・演習室では, 資料 8-1-①-13 および他の学科、専攻科にある設備を利用して, 「実験・実習, 演習, ものづくりを重視する」授業科目が展開され有効に活用されている。資料 8-1-①-13 に対応する例として資料 8-1-①-14 を示す。

## 資料 8-1-①-14

## 機械工学科 実験室使用状況

実験室名	科目名等	時間*	合計*
機械実習工場	工作実習 I	2	9
	工作実習 II	4	
	考案設計製作	3	
共通実験室 A-115	機械工学実験 I・II	4	4
共通実験室 A-326	機械工学実験 I・II	4	4
CAD 実習室	情報処理 II	2	11
	情報処理 III	1	
	設計製図 II	2	
	設計製図 III	2	
	設計製図 IV	2	
設計製図 V	2		
材料・金相学実験室	機械工学実験 I・II	4	4
非破壊実験室	機械工学実験 I・II	4	4
熱工学実験室	機械工学実験 I・II	4	4

\* 週当たり使用時間 (出典 平成 17 年度シラバス)

また、教育研究の展開にフレキシブルに対応して使用できる共通実験室（例えば、資料 8-1-①-14）を用意している。その使用要領を定め（資料 8-1-①-15）、教育研究活動を効率的に推進している。

資料 8-1-①-15

## ○舞鶴工業高等専門学校共通実験室使用要領

（趣旨）

第 1 条 この要領は、舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究活動の推進及び質の向上に資することを目的に、共通実験室の効率的な管理及び有効活用を図るため、共通実験室の使用に関し必要な事項を定める。

（使用資格）

第 2 条 共通実験室を使用できる者は、本校の教職員、学生及び共同研究等に参画する者で、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- （1）本校の教職員が独創的教育研究を実施するための施設がない場合
- （2）複数の学科の教職員が共同で教育研究を実施するための施設がない場合
- （3）民間等との共同研究及び受託研究等を実施するための施設がない場合
- （4）本校の教職員の監督の下、学生が研究を実施する施設がない場合
- （5）その他校長が本校の教育研究活動の推進及び質の向上に資すると認めた場合

（使用期間）

第 3 条 共通実験室の使用期間は、原則として 1 会計年度内とする。ただし、毎年度審査を受けることにより、3 会計年度を限度として延長することができる。

2 共通実験室の使用開始時期は、4 月とする。

3 前 2 項の規定にかかわらず、校長が特別な事由があると認めた場合は、この限りではない。

（使用・延長使用申込み）

第 4 条 第 2 条に定める使用資格を有する者（以下「使用資格者」という。）が共通実験室の使用又は延長使用を希望する場合は、使用申込書（別紙様式第 1）又は延長使用申込書（別紙様式第 2）により、使用資格者の代表者（本校の教職員に限る。）が、毎年 1 月末日までに校長に申し込まなければならない。

2 共通実験室及び設備等に変更を加える必要がある場合は、前項の申込書記載の際に当該変更内容について、書類を作成し申込書に添付しなければならない。

3 第 1 項に定める申込みの受付は、会計課総務係において行う。

（使用決定）

第 5 条 舞鶴工業高等専門学校施設整備計画専門部会（以下「専門部会」という。）は、前条による使用申込みがあった場合、第 2 条に規定する使用資格及び申込書の記載内容を確認の上、舞鶴工業高等専門学校将来計画検討委員会（以下「委員会」という。）に報告しなければならない。

2 委員会は、前項の報告を受け、共通実験室の使用について審議し、その審議結果を校長に報告しなければならない。

1 校長は委員会の審議を参考に、使用の可否について決定し、別紙様式第 3 により通知するものとする。

7-26-1

（出典 舞鶴工業高等専門学校規程集）

会議の規模・内容に応じた会議室、指導室が整備され、学生指導や進路指導に有効に活用されている（資料 8-1-①-16）。

資料 8-1-①-16

## 会議室等使用状況

部 屋 名 称	収容人数 [人]	総面積 [m <sup>2</sup> ]	使用時間*
大会議室	70	177	20
中会議室	20	63	35
多目的会議室	10	63	35
進路指導相談室	12	32	38

\*月あたりの平均の使用時間

(出典 庶務課, 学生課, 会計課資料)

以上述べてきたように本校では教育課程を実現できる施設・設備が整備され、有効に活用されている。これらの施設の管理は、舞鶴工業高等専門学校施設管理規則（資料 8-1-①-17）に従って行われている。

資料 8-1-①-17

## ○舞鶴工業高等専門学校施設管理規則

(趣旨)

第1条 この規則は、舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）に所属する建物及び土地並びにこれらの附属設備（以下「施設」という。）における秩序の維持並びに安全保持及び使用収益等（以下「管理」という。）の適正を期し、本校の教育、研究の円滑な運営を確保することを目的とする。

2 施設の管理については、他の法令及び本校規則又はこれらに基づく特別の定めのある場合を除くほか、この規則の定めるところによる。

(総括管理者等)

第2条 校長は総括管理者として、本校所属の施設の管理を総括する。

2 事務部長は総括管理補助者として校長を補佐し、施設の管理に関する事務の総括について企画及びその実施の任にあたる。

(管理者等)

第3条 会計課長は管理者、庶務課長及び学生課長は管理補助者として、事務部長の指揮監督のもと、本校に所属する施設の管理に関する事務を処理する。

2 管理者及び管理補助者（以下「管理者等」という。）が、出張、疾病、その他の用務により不在の場合は事務部長又はあらかじめ事務部長の指定する職員（以下「代理管理者等」という。）が管理者等に替ってその事務を代行するものとする。

(管理事務補助者)

第4条 事務部長（事務部長不在の場合は、管理者等（第3条第2項に定める代理管理者等を含む。以下同じ。）は、施設の管理上特に必要があると認めるときは、校長の承認を得て、本校所属の職員に施設の管理に関する事務補助の執行にあたらせることができる。

2 前項の指定を受けた職員は、管理者等の指揮のもとにこれを補助するものとする。

(施設使用者の義務)

第5条 本校の施設の使用を許可された者は、本校の規則等を遵守するとともに、総括管理者等（総括管理補助者、管理者等、代理管理者等、管理事務補助者を含む。）において、施設の管理上必要と認めて発する指示に従わなければならない。

(施設の使用調整)

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

近年の施設・設備の整備により（資料 8-1-①-18），老朽化した施設の改修が図られた。阪神大震災後，いち早く校舎の耐震改修工事が実施され安全性が確保された。また，エレベータ，校舎入り口スロープの設置により障害者にやさしいキャンパスづくりを行った。

資料 8-1-①-18				
施設整備状況				
年 度	教育・研究施設	福利厚生・ 課外活動施設	管理施設・ その他	経費区分
平成 17 年	実習工場外壁改修	福利施設外壁改修 野球場内野改修		施設整備費補助金 運営費交付金
平成 16 年	寄宿舎屋上防水			施設整備費補助金
平成 15 年	校舎耐震改修 武道場屋根改修	寄宿舎駐輪場		施設整備費 校費
平成 14 年	専攻科棟新営 校舎耐震改修	運動場改修		施設整備費
平成 13 年	低学年棟新営			施設整備費
平成 12 年	寄宿舎外部スロープ 図書館 3 階マルチメディア		駐車場整備	各所修繕 施設整備費
平成 11 年	第 2 体育館屋根改修 女子寮改修		太陽光発電設備 基幹環境整備	施設整備費

（出典 会計課資料）

（分析結果とその根拠理由）

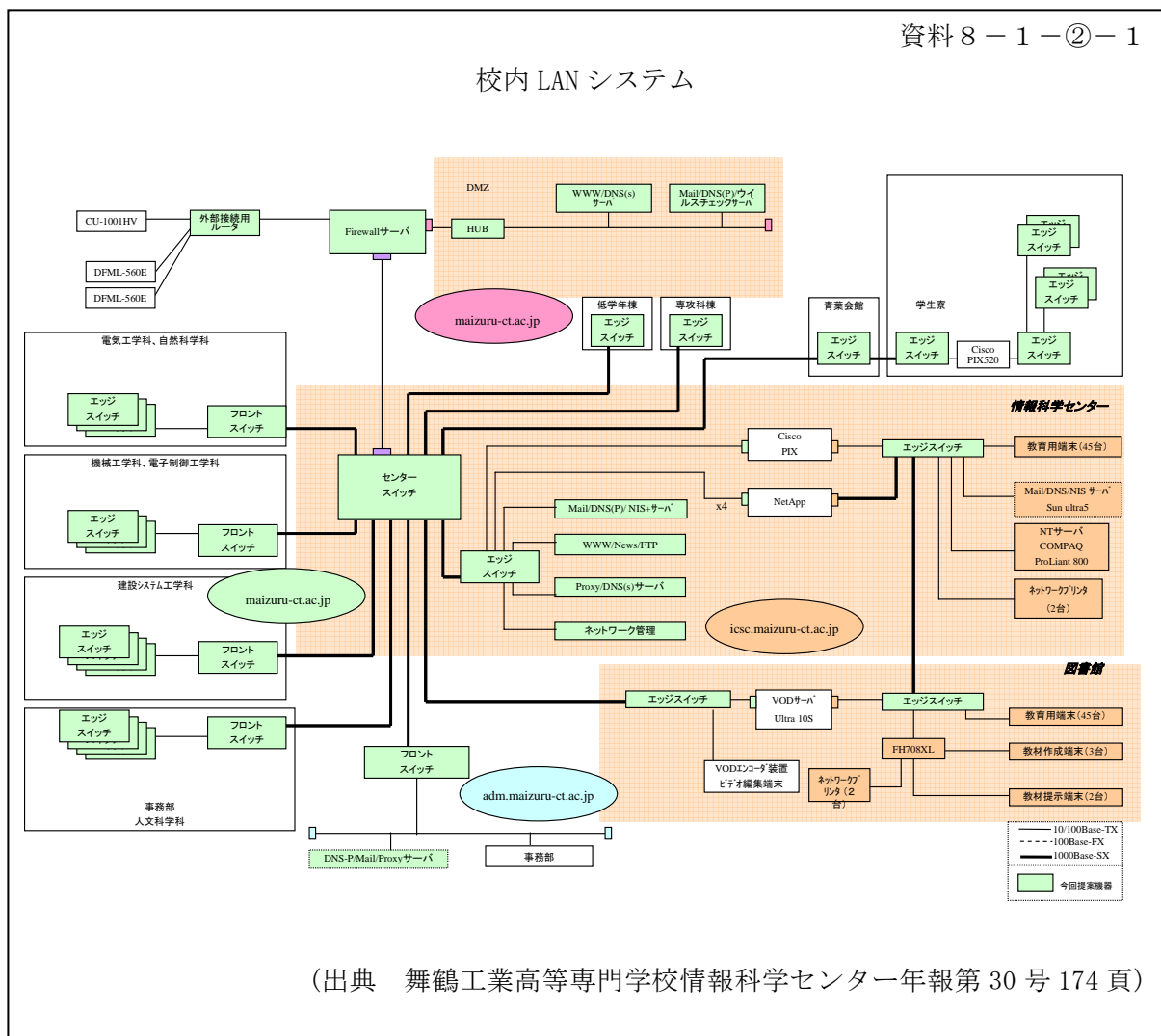
資料 8-1-①-4～11に見られる本校の施設・設備は，高等専門学校設置基準第22条，23条および24条に定められた要件を満たしている。本校の教育課程を実現する設備が，資料 8-1-①-12に見られるように整備されおり，これらは高等専門学校設置基準第25条，26条，27条および27条の2に定められた要件を満たしている。教室・実験室等は配備された設備とともに有効に活用されていることが，例えば資料 8-1-①-14から認められる。



観点 8-1-②： 教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

舞鶴工業高等専門学校校内には，高速光ネットワークをベースとするLANシステムが敷設されており（資料 8-1-②-1），教員研究室，事務室から情報科学センターのワークステーションおよびインターネットの利用が可能となっている（資料 8-1-②-2）。情報科学センターは情報科学に関する教育研究の推進及び学外との技術交流の中心的役割を果たすために設置されているセンターである。情報科学センター内には，一斉教育用に45台のワークステーションが設置され（資料 8-1-②-3），プログラミング教育や卒業研究，課外活動などに利用されている。さらに，情報科学センター分室（マルチメディア室）にも，共同利用のコンピュータ設備，並びに周辺機器が設置されている（資料 8-1-②-4）。授業内外における学生の利用可能パソコンは資料 8-1-②-5 のように整備されている。



資料 8-1-②-2

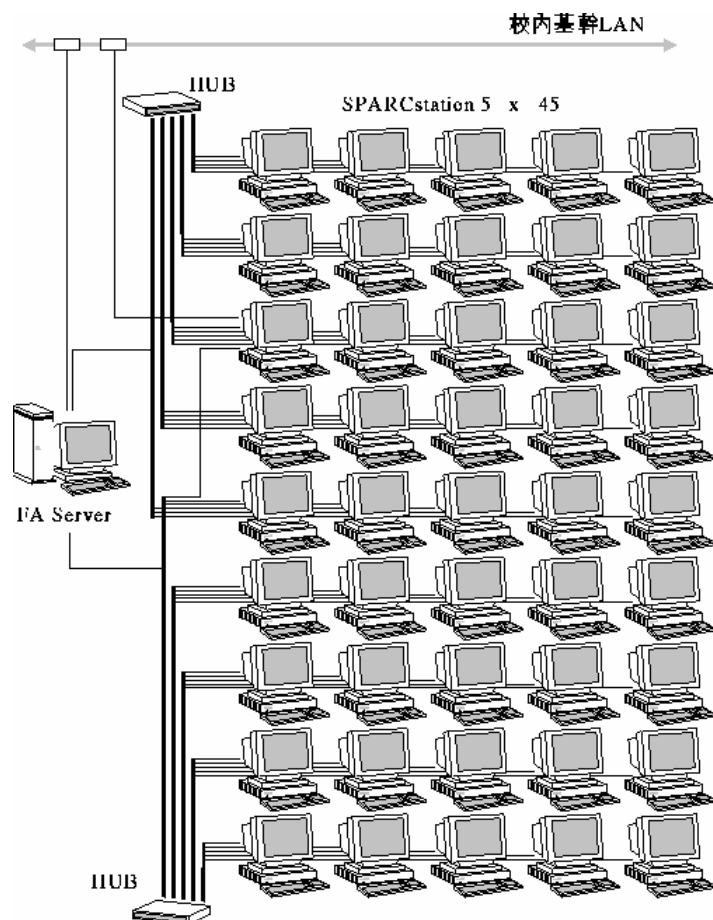
## 学内情報コンセント設置数

名 称	設置数	名 称	設置数
管理部および一般教科棟	99	専攻科棟	88
機械工学科棟	43	電気情報工学科棟	37
電子制御工学科棟	9	建設システム工学科棟	21
共通講義棟	4	低学年棟	12
地域共同テクノセンター	6	情報科学センター	85
機械工学科実習工場	2	図書館	7
学寮	無線 LAN		
		合 計	415

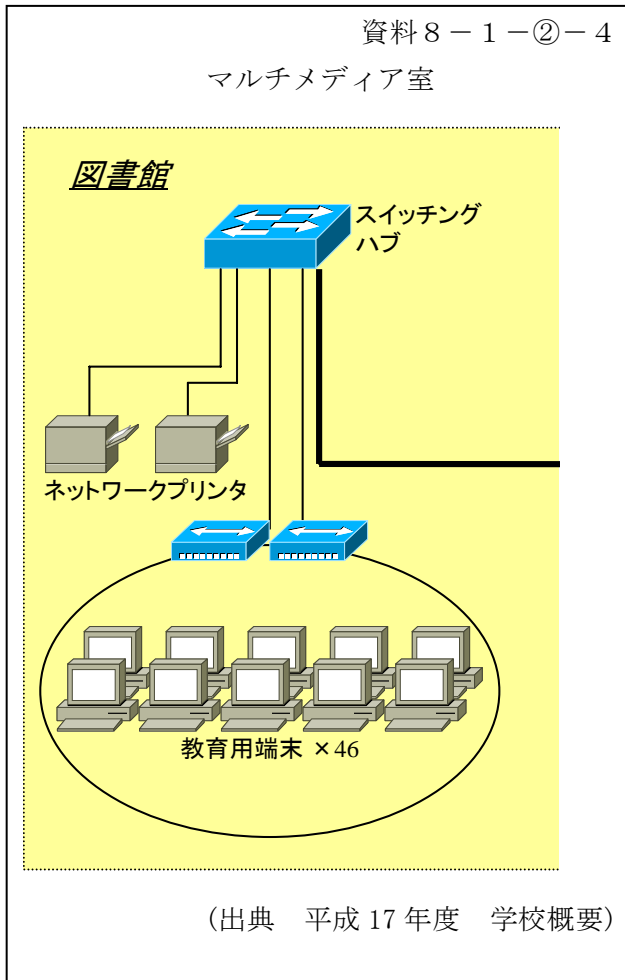
(出典 会計課資料)

資料 8-1-②-3

## 情報科学センター 教育用計算機システム



(出典 情報科学センターウェブページ)



資料 8-1-②-5

学生用の学内情報ネットワーク接続パソコン台数

学 科 等	授業時	授業外
機械工学科	13	13
電気情報工学科	84	84
電子制御工学科	46	46
建設システム工学科	15	15
専攻科	35	35
地域共同テクノセンター	16	16
情報科学センター	47	46
マルチメディア室	46	0
図書館	4	4
機械工学科実習工場	6	6
合 計	312	265

(出典 資産管理システム)

平成16年度、学校内の基幹ネットワークがイーサネット(10Mbps)から、現在のATM光ネットワーク(156Mbps)に更新されたことにより、校内各所からのセンター利用環境は飛躍的に向上した。将来のデータ通信のマルチメディア化にも十分対応するシステムであり、ソフトウェア開発から文書作成まで幅広く利用することができる。

平成17年度にはネットワークを学寮に拡大し、学寮サブネットを敷設し、学生が寮内から情報科学センターを利用できるようにした。さらに寮生の要望に応え、教員と寮生との共同作業により無線LANの自力構築を行った結果、各寮室からのネットワーク利用が可能となった。また、専用回線(100Mbps)により京都大学学術情報センターの大型計算機と京都デジタル疎水により接続し、インターネットに参加している。電子メール、ニュース、WWWなどのインターネットサービスの利用が可能で、国内外の研究機関、研究者と情報の交換が可能となっている。学校の情報もウェブページ(URLは<http://www.maizuru-ct.ac.jp/>)により公開している。

情報ネットワークおよび情報科学センターの管理・運営には情報科学センター規程を定めている(資料8-1-②-6)。情報科学センターの組織図を資料8-1-②-7に示す。各部門における管理運営・業務内容は資料8-1-②-8に示す通りである。情報科学センターの管理・運営の状況については、情報科学センター年報に報告している(資料8-1-②-9)。

## 資料8-1-②-6

## ○舞鶴工業高等専門学校情報科学センター規程

## (設置)

第1条 舞鶴工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、情報科学に関する教育研究の推進を行うため、舞鶴工業高等専門学校情報科学センター(以下「センター」という。)を置く。

## (業務)

第2条 センターに、次の各号の業務を行う。

- (1) 情報科学に関する教育研究の推進
- (2) 情報科学に関する共同研究の推進
- (3) 情報ネットワークに関する企画・立案及び管理運営
- (4) その他センターに関すること。

## (部門)

第3条 センターに、前条の業務を遂行するために、研究部門、教育部門及び機器運用部門を置く。

## (センター長)

第4条 センターに、舞鶴工業高等専門学校教官組織規程(昭和50年4月1日制定)第8条の2に規定する情報科学センター長(以下「センター長」という。)を置く。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

## (職員)

第5条 センターに、校長が必要と認めた場合には、次の職員を置くことができる。

- (1) 部門長
- (2) 部門員
- 2 部門長は、教授又は助教授のうちからセンター長の推薦に基づき校長が任命する。
- 3 部門長は、センター長の命を受け、部門の業務を掌理する。

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

資料 8-1-②-7

## 情報科学センター組織

情報科学センター長-----教育・研究部門--運営委員--部門員

情報科学センター	--機器運用・セキュリティ部門--運営委員--部門員
運営委員会	
	--広報担当委員

(出典 情報科学センターウェブページ)

資料 8-1-②-8

## 情報科学センター管理運営・業務内容

## (1) 教育・研究部門

- 1) 学内、学外（国際・民間・研究機関・公共団体等）共同研究の企画・立案及び実施。
- 2) 技術交流にかかる講演会の開催。
- 3) 年報の発行に関する事。
- 4) 情報処理教育に関する企画・立案及び連絡調整。
- 5) 一般社会人（小・中・高生含む）向けの公開講座及び講演会等の開設
- 6) その他情報科学にかかる研究及び情報処理教育に関する事。

## (2) 機器運用・セキュリティ部門

- 1) 情報関連機器の整備、運用に関する企画・立案。
- 2) 校内ネットワークの管理に関する事。
- 3) 校外とのネットワーク接続に関する事。
- 4) 情報関連機器の運用に関する協力助言（講習会の実施等）。
- 5) 校内セキュリティに関する事。
- 6) その他情報関連機器の管理・整備・運用に関する事。

## (3) 広報担当委員

- 1) 年報その他刊行物の発行に関する事。
- 2) その他情報科学にかかる広報に関する事。

(出典 情報科学センターウェブページ)

資料 8 - 1 - ② - 9

## 機器運用・セキュリティ部門報告

背戸柳 実<sup>1</sup>

### 1. まえがき

前年度まで情報科学センターは教育、研究、機器運用の3部門で運営されてきたが、人員の削減もあり、機器運用部門は、今年度より機器運用・セキュリティ部門として

- 1) 情報関連機器の整備・運用に関する企画・立案
- 2) 校内ネットワークの管理に関する事
- 3) 校外とのネットワーク接続に関する事
- 4) 情報関連機器の整備・運用に関する協力助言
- 5) 校内ネットワークのセキュリティに関する事
- 6) その他、情報関連機器の管理・整備・運用に関する事

を行うこととなった。

ここでは平成16年度機器運用・セキュリティ部門（背戸柳 実、片山 英昭、仲川 力、谷川 博哉、野瀬 佳正）が中心に行った情報科学センター設備の整備・運用の主だったものについて報告する。

### 2. 校内LAN, 教育用計算機システムの整備・運用の経過

#### 2. 1 ウィルス対策ソフトの導入

春季休業中にセンターの端末のOSを Windows2000 および Linux2.6 に変更した。また、マルチメディア教室も同様に Windows2000 に変更し、専攻科情報演習室と共にウィルス対策ソフトの導入も行った。

#### 2. 2 センター利用講習会とリモートウィルス検索

4月中に、背戸柳（専攻科学生）、谷川、山田、町田・仲川、三輪・加登（2年1～4組、3年各所属学科）、小野澤（1年全クラス）がそれぞれセンター利用講習会を実施した。

そのとき利用するためにセンター利用講習会用のPowerPointファイルを作成した。  
[http://web.maizuru-ct.ac.jp/center/gline/gl\\_stdnt.ppt](http://web.maizuru-ct.ac.jp/center/gline/gl_stdnt.ppt)

ウィルスに関しては、下記URALの独立行政法人 情報処理推進機構を参考にした。  
<http://www.ipa.go.jp/security/isg/virus.html>

今年度からは、センターの端末をリモートでウィルス検索を行うようにしたことに伴い、学生には電源を落とさずに、常にWindows2000のログイン画面とするよう指導した。

#### 2. 3 ウィルス感染

4月27日ある学生のPCより大量のクレスウィルスが検出されたので、対処した。

<sup>1</sup>舞鶴工業高等専門学校 情報科学センター 機器運用・セキュリティ部門主任

（出典 情報科学センター年報No, 33, 2005年, 3月, 58頁）

本校の情報セキュリティシステムは、ステートフルインスペクション型のファイアウォール(FW)であり、送信先および送信元IPアドレスによるパケットフィルタリングだけでなく、データの内容によるフィルタリングも可能となっている。

不正侵入検知(IDS)に関しては、FWで外部からの侵入を防いでいるが、セキュリティホールなどを通じて、不正に侵入することは可能である。そこで、ネットワークに流れるパケットを分析し、パターン照合により不正アクセスと思われるパケットを検出して、管理者に通報するシステムを導入し、セキュリティ度を高めている。

ウィルス対策ソフトの導入は、義務付けてはいないが、導入依頼は行っており、情報科学センターで学内の教職員で利用できるウィルス対策ソフトを購入している。

不適切なウェブページへのアクセスの制限は、Proxyで行っている。このソフトウェアの中で、キーワードによる閲覧禁止措置をとっている。

ユーザのアカウントは NIS+(Network Information Service Plus)により一括管理し、ユーザのファイルも NFS(Network File System)によって共有、管理している。

情報科学センターの学生の利用に当たっては、年度当初に利用講習会を実施し、利用に関する手続き・規則等の周知を図っている(資料 8-1-②-10, 11)。

## 資料 8-1-②-10

## 情報科学センター利用講習会 1

センター利用講習会の日程を以下のように決めましたので、お知らせいたします。都合が悪い場合には、再度お知らせ下さい。申請用紙は庶務課にコピーを依頼しておりますので、庶務課で受け取ってください。

また、今年度版の説明用PowerPointは以下のURLにあります。

[http://web.maizuru-ct.ac.jp/center/gline/gl\\_stdnt.ppt](http://web.maizuru-ct.ac.jp/center/gline/gl_stdnt.ppt)

\*修正など必要がありましたら、ご連絡下さい。

## 機械工学科

4/20水 2M 情報処理 2 講師：谷川先生予定 (交渉できていません)

4/20水 3M 放課後16:20- 講師：鈴木先生

4/21木 4M 放課後16:20- 講師：鈴木先生

4/22金 5M 放課後16:20- 講師：鈴木先生

## 電気情報工学科

2年 東田先生 18日 月曜 1コマ Unix概論の講義中に開催

3年 長谷川先生 18日 月曜 3コマ 情報処理 3の講義中に開催

4年 船木先生 18日 月曜 4コマ 情報処理 4の講義中に開催

5年 片山先生 12日 火曜 3コマ 卒業研究の講義中に開催

## 電子制御工学科

2S 西岡先生 情報処理I 月 1時限, 4/25 マルチメディア

3S 仲川先生 情報処理III 月 2時限, 4/18 情報科学センター

4S 竹内先生 計算機工学II 水 3時限, 4/27 情報科学センター

5S 町田 電子回路III 金 1時限, 4/15 情報科学センター

## 建設システム工学科

2C : 三輪先生, 4/20(水) 1限, 応用情報処理, マルチメディア

3C : 加登先生, 4/19(火) 1限, CAD, 情報科学センター

4C : 四蔵先生, 4/18(月) 1限, 測量学Ⅲ, マルチメディア

5C : 高谷先生, 4/19(火) 4限, 卒研, 情報科学センター

(出典 情報科学センター長からの電子メール)

## 情報科学センター利用講習会 2

平成 16 年 5 月 14 日

**学寮サブネットへの自己所有パソコンの接続について**

ネットワーク利用許可者に対する学寮サブネットへの自己所有パソコンの接続について、以下の日時・場所で講習会を開きます。

**日時：5 月 20 日(木) 消火訓練終了後****場所：図書館 視聴覚教室**

講習を受ける前には、次の「準備」をしておいて下さい。

**1. 「校内ネットワーク利用に関する指針 (学生向け)」をよく読む。**

ネットワーク利用講習会で配られた「校内ネットワーク利用に関する指針(学生向け)」の第 5 節(寮におけるネットワークの利用について)をよく読んでおく。

**2. サブネットに接続するパソコンの「物理アドレス」を調べる。**

パソコンの物理アドレス(16 進 12 桁の数値)を調べる。情報科学センターのホームページに物理アドレスの調べ方があります。参照してください。

**3. ウィルス対策ソフトがインストールされているか確認する。**

パソコンにウィルス対策ソフトがインストールされていない場合には寮務係りから CD を借りてインストールしておくこと。

**4. 「接続申請書」に必要事項を記入し、講習会に持参する。**

本校ホームページ「学内組織-情報科学センター-情報科学センターからのお知らせ」から「学寮サブネットへの接続申請書」をダウンロードし、必要事項(物理アドレス、ウィルス対策ソフト名を含む)を記入の上、講習会に持ってくる。

「記入要領」がホームページにあるので参照すること。

**5. その他**

原則としてノートパソコンのみを許可しています。デスクトップパソコンの場合は、キャスト付きパソコンラックなどを利用してラウンジへの持ち運びが可能であれば許可します。

不明な点があれば、背戸柳、片山、野瀬 に質問してください。

以上

(出典 情報科学センターウェブページ)



学生の情報科学センター利用に関する手続きは、資料 8-1-②-12 に示すように定めている。同様に、ネットワークの利用に関しては、ネットワーク利用願、学寮サブネットへの接続申請書を提出させ管理している。

資料 8-1-②-12

受付番号 第 号  
平成 年 月 日

## 情報科学センター等利用申請書

舞鶴工業高等専門学校  
情報科学センター長 殿

利用申請者	所 属	職 名	連絡先(TEL)	新規・継続の別	新規・継続
				氏 名	

舞鶴工業高等専門学校情報科学センター規程に基づき情報科学センター等を利用したい  
で申請します。

共同利用者 (学生)	所 属	職名(学年)	連絡先(TEL)	氏 名
課 題 名				
利 用 の 概 略 等 (目的・方法・処理)				
利用期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで			
使用端末機 の種別及び 機種名	<input type="checkbox"/> 利用者所属の端末機 <input type="checkbox"/> センター内端末機		<input type="checkbox"/> その他：	
			機種名：	

注)各氏名欄は、必ず本人が自署してください。

上記の利用申請を承認します。

承認年月日	舞鶴工業高等専門学校 情報科学センター長
平成 年 月 日	

(出典 学生便覧 68 頁)

校内ネットワークを用いた情報発信に関しては、教職員向けの指針（資料 8-1-②-13）、学生向けの指針（資料 8-1-②-14）を定め、適切な情報発信が行われるようにしている。その手続きを、例えば、資料 8-1-②-15に示すように定め、管理している。

資料 8-1-②-13

校内ネットワークを用いた情報発信に関する指針(教職員向け)

1/2 ページ

## 校内ネットワークを用いた情報発信に関する指針(教職員向け)

この指針は、本校ネットワークシステムの有効で適切な利用を図り、もって教育・研究あるいはこれらに関する業務が円滑に行われるよう設けられる。

### 学内でのサーバについて

1. サーバの立ち上げ・管理は、教官・技官・事務官が行う。学生が立ち上げ・管理しているサーバの基幹LANへの接続は認めない。
2. サーバを立ち上げるときは、事前に情報科学センターに、指定の様式に従って申請する。
3. 卒研などで学生にネットワークシステムおよびサーバ等を構築させるときには、必ず基幹LANと分離する。
4. サブネット(特にルータ管理、プロキシ、ファイアウォールを含む)を管理するもの(サブネット管理者)は、サブネット内で発生するあらゆる障害について責任を負うものとする。サブネット管理者は、教官・技官・事務官のいずれかである。
5. ここでいうサーバとは、http、メール、ニュース、ftp、gopher、archie、メーリングリスト、チャット、プロキシ、ファイアウォール、ルータなど、学内ネットワーク上でサービスを提供する可能性のある、あらゆるサーバのことである。

### ホームページによる情報発信について

ホームページによる情報発信については、次に挙げる一般的注意を守ること

1. 本校の良俗を乱すような発信をしない。
2. 特定の個人や団体を誹謗・中傷しない。
3. 著作権・肖像権を侵害しない。
4. プライバシーを侵害しない。
5. 違法行為を行わない。
6. 商業行為を行わない。

### 組織・教職員からの発信についての共通事項

1. 全ての情報発信は、舞鶴高専トップページあるいは所属組織のページからリンクする。
2. 舞鶴高専トップページからのリンクは、必ずセンター管理側で行う。
3. 各トップページには、情報発信責任者の氏名・所属・E-mailアドレスを明らかにする。
4. ホームページは、センターが管理している予め定められたディレクトリに置く。
5. ホームページのファイル名は、センター指定の書式とする。
6. 内容の更新を適宜行う。

### 組織からの発信

1. 発信したい組織は、ホームページの管理者をセンターに報告する。
2. 組織の管理者は、与えられたアカウントでWebサーバにログインし、そのホームディレクトリ内にホームページを作成する。
3. 与えられたアカウントのパスワードは、不正利用のないよう、管理者が管理するものとする。
4. 作成されたホームページは、その組織の責任において、問題点がないようチェックする。
5. ホームページの内容については、ホームページ管理者が責任を負うものとする。

[各学科からの発信]

[http://web.maizuru-ct.ac.jp/center/gline/staff/gl\\_staff.htm](http://web.maizuru-ct.ac.jp/center/gline/staff/gl_staff.htm)

2005/12/21

(出典 情報科学センターウェブページ)

資料 8 - 1 - ② - 14

平成 15 年 4 月 7 日 修正

## 校内ネットワークを利用に関する指針（学生向け）

情報科学センター

1. この指針は、学生が本校ネットワーク及びネットワークに接続される機器を利用するに際して、適切で円滑な運用が行われるよう設けられる。
2. 一般
  - (1) アカウントの取得  
ネットワークの利用を希望する場合、ネットワーク利用講習会を必ず受講し、利用許可を得ること。講習会を受講しない場合、教育用端末や学寮サブネットのアカウントは与えられない。
  - (2) 遵守すべき一般的事項
    - 1) 利用者は常にネットワークの有効で適切な利用を心がけること。また、ネットワーク管理者の指示に常に従うこと。
    - 2) 校内ネットワークはインターネットに接続されており、不正な利用が全世界的に影響を与える可能性があることを自覚すること。
  - (3) 禁止事項
    - 1) 利用者はネットワークに不利益を与える行為をしてはならない。また、これを行う旨脅迫する行為もしてはならない。
    - 2) 不正に他人のアカウントを使用したり、逆に他人に自己のアカウントを使用させたりしてはならない。
    - 3) 他人に迷惑をかける行為や他人の人権を損なう行為があってはならない。
    - 4) 商業行為を行ってはならない。
    - 5) 校内ネットワークやインターネットに限らず利用が許可されていないマシンへの不法侵入や設定の改ざんを行ってはならない。
    - 6) 自己所有マシンを校内ネットワークに接続してはならない。
    - 7) 上記 1)～6)の行為その他の違反行為があったときは、情報科学センター利用細則に基づき利用の停止を行う。
  - (4) 学生の利用可能なマシン  
本学学生は以下のマシンを利用して、校内ネットワークを利用することができる。これ以外のマシンを無断で利用したり、自己所有マシンを校内ネットワークに接続したりしてはならない。
    - 1) 全学生が共通利用可能なマシン
      - ・ 情報科学センター演習室のマシン
      - ・ 図書館マルチメディア室のマシン
      - ・ 専攻科棟情報演習室のマシン
      - ・ 図書館閲覧室にある情報科学センターのマシン
    - 2) 各学科で利用可能なマシン
      - ・ 各学科の実験室・演習室のマシン
      - ・ 各教官が研究室単位で管理するマシンのうち利用許可されたもの
    - 3) 専攻科で利用可能なマシン
      - ・ 専攻科棟情報演習室のマシン
    - 4) 寮で利用可能なマシン
      - ・ 寮でサブネットに接続が許可された自己所有のマシン

(出典 情報科学センターウェブページ)

資料 8 - 1 - ② - 15

別紙様式第 1 - 2 号

平成 年 月 日

## 各種ネットワークサーバーシステム開設願

舞鶴工業高等専門学校

情報科学センター長 殿

申請者	所 属	氏 名
		Ⓜ

舞鶴工業高等専門学校情報科学センター規程及びネットワーク利用の指針に基づき、下記のネットワークサービスを提供するサーバーシステムの開設を申し込みます。利用に当たっては、センター利用細則及びネットワーク利用の指針を遵守するとともに、ネットワーク利用モラルに欠けるような行為は一切致しません。また、責任を持って本システムの維持管理を行い、情報科学センターのネットワーク運営方針に従います。

ホ ス ト 名	
I P ア ド レ ス	
提 供 す る ネットワークサービス	

..... 切り取り .....

所属 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

上記について、各種ネットワークサーバーシステムの開設を許可します。

利用細則及びネットワーク利用の指針を遵守しない場合、又は本校の職員としての品位を著しく損なう行為を行ったと情報科学センター運営委員会が判断した場合には、該当するシステムを停止させ、更に、ネットワーク全体の利用許可を取り消すこともあり得る。

発 行 日	平成 年 月 日
利 用 期 限	平成 年 月 日
ホ ス ト 名	
I P ア ド レ ス	
提供するサービス	

舞鶴工業高等専門学校情報科学センター長印：

(分析結果とその根拠理由)

資料 8-1-②-1～5 に示した本校の情報ネットワーク施設・設備は、高等専門学校設置基準第23条2に定められた要件を満たしている。情報ネットワークの管理・運営は、資料 8-1-②-6～9 に示したように十分なセキュリティの下でなされている。従って、情報ネットワーク施設・設備、情報ネットワークの管理・運營業務、セキュリティシステムは整備されている。学生の情報ネットワーク利用については、講習会の実施、所定の手続き申請、情報発信の指針を定める他、授業での情報倫理教育により、不正利用の防止を図っている（資料 8-1-②-10～15, 17）。本校の教育目標に則してコンピュータスキルを身に付けた学生の育成のため、情報科学センターを利用した授業やネットワークを利用した授業が展開されており（資料 8-1-②-16）、また授業以外で利用できるパソコンが整備され（資料 8-1-②-5）、情報科学センターの夜間利用も可能となっている（資料 8-1-②-18, 19）。情報ネットワークを利用して、授業などの連絡、授業資料のwebでの公開、就職・進学情報の提供などの学生向けの情報サービスを行っている。このように本校の情報ネットワーク施設・設備は、十分有効に活用されている。

観点 8-2-①： 図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校の図書館の蔵書数は7万4千冊を超え，自然科学・工学関係が多く全体の約半分を占めている。蔵書の中でも，幅広い教養の涵養をめざして，哲学，歴史，文学等各分野の充実にも力を注いでいる。図書資料および視聴覚資料の概要は資料8-2-①-1～3に示す通りである。

資料 8-2-①-1

## 人文科学系蔵書内訳

	哲学	歴史	社会科学	芸術	言語	文学	合計
和書	3,617	5,385	6,037	3,000	2,647	9,200	29,886
洋書	270	93	427	52	325	1,114	2,281
合計	3,887	5,478	6,464	3,052	2,972	10,314	32,167

(出典 庶務課資料)

資料 8-2-①-2

## 自然科学・工学系蔵書内訳

	自然科学	総記	工学・技術	産業	合計
和書	11,755	10,969	19,746	646	43,116
洋書	2,414	172	1,636	14	4,236
合計	14,169	11,141	21,382	660	47,352

(出典 庶務課資料)

資料 8-2-①-3

## 視聴覚資料内訳

	人文科学系資料	自然科学系資料	工学系資料	合計
VHS	155	63	42	260
LD	154	0	11	165
DVD	312	4	22	338
合計	621	67	75	763

(出典 庶務課資料)

図書資料の選定は、教員による選定、ブックハンティングによる学生の選定、図書館投書箱による学生の希望図書の選定などによって行っている。学生の選定した図書については、図書館運営委員の教員によって検討した上で受け入れている。図書資料の選定状況については資料 8-2-①-4 に示す通りである。その内訳は資料 8-2-①-5 に示す通りである。また、視聴覚資料の受入状況は資料 8-2-①-6 に示す通りである。

資料 8-2-①-4

## 受入図書選定状況

	教職員選定	学生購入希望	ブックハンティング	その他	合計
平成 14 年度	1,282	13	135	210	1,640
平成 15 年度	886	46	138	148	1,218
平成 16 年度	754	41	146	190	1,131
平成 17 年度	149	13	165	178	505

(出典 庶務課資料)

資料 8-2-①-5

## 図書受入状況

	総記		人文科学系図書		自然科学系図書		工学系図書		合計	
	和書	洋書	和書	洋書	和書	洋書	和書	洋書	和書	洋書
平成 14 年度	457	2	564	65	152	17	350	33	1,523	117
平成 15 年度	358	26	355	8	129	13	314	15	1,156	62
平成 16 年度	300	1	457	55	87	2	222	7	1,066	65
平成 17 年度	220	2	124	7	29	0	116	7	491	16

(出典 庶務課資料)

資料 8-2-①-6

## 視聴覚資料受入状況

	人文科学系資料			自然科学系資料			工学系資料			合計
	VHS	LD	DVD	VHS	LD	DVD	VHS	LD	DVD	
平成 14 年度			7			3			16	26
平成 15 年度			50			0			1	51
平成 16 年度			20			1			0	21
平成 17 年度			49			0			5	54

(出典 庶務課資料)

図書館の一隅には、授業で使用している教科書、参考書を集めた教科書コーナーを設置している（資料 8-2-①-7）。これによって、教員が互いに他の授業で使用している教科書を知ることができる。また、専攻科学生にはより専門性の高い参考書を集めた専攻科コーナーを設け（資料 8-2-①-8）、学生の学習の助けとなっている。

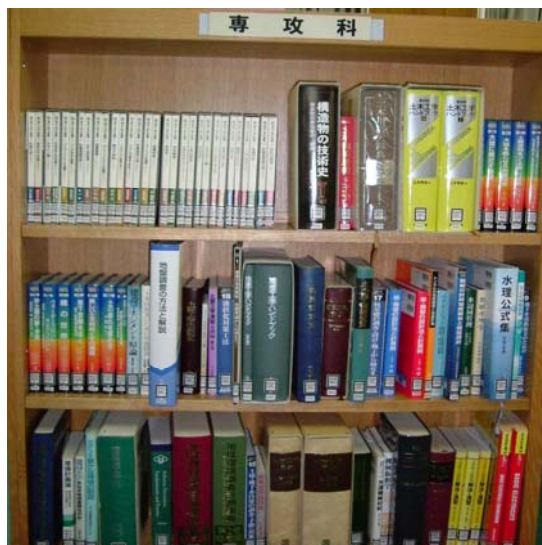
資料 8-2-①-7

教科書コーナー



資料 8-2-①-8

専攻科 参考書コーナー





教育研究上の資料としての研究関連の学術雑誌等の受入状況については、資料 8-2-①-9 に示す通りである。また、研究支援のために多くの学術雑誌の検索システムを用意している（資料 8-2-①-10）。

資料 8-2-①-9

## 学術雑誌購読数

学 科	平成 14 年度		平成 15 年度		平成 16 年度		平成 17 年度		平成 18 年度	
	和書	洋書	和書	洋書	和書	洋書	和書	洋書	和書	洋書
校 長	0	0	0	0	0	0	1	0		
人文科学部門	46	4	40	3	14	1	13	0		
自然科学部門	24	14	22	14	20	14	15	8		8
機械工学科	12	0	14	0	9	0	4	1		1
電気情報工学科	20	1	31	1	27	0	21	0		
電子制御工学科	23	0	24	0	20	0	15	0		
建設システム工学科	25	9	29	6	22	6	20	5		4
専攻科	0	0	0	0	0	0	0	0		
図書館	22	0	23	0	28	0	28	0		
情報科学センター	4	0	4	0	4	0	2	0		
留学生	1	0	2	0	2	0	2	0		
合 計	177	28	189	24	146	21	121	14		13

(出典 庶務課資料)

資料 8-2-①-10

## 学術雑誌の検索システム

国内学術雑誌検索	国外学術雑誌検索	研究支援サービス
NACSIS Webcat, 国内学協会発行 87誌, 電気学会出版物, <u>トランジスタ技術</u> , TRY! PC, DOS/V POWER REPORT, 日経サイエンス, 科学, 数学, Software Design, 月刊アスキー, <u>自動車関係文献データベース</u> , 原子力関係文献データベース, 超伝導体関係文献データベース, 体育の科学, 日本金属学会	新外国雑誌データベース, 英国物理学会, American Society for Microbiology, BMJ医学, High Wire Press, 生物学/医学など, その他 (名古屋大学作成データベース), アブストラクトデータベース, アメリカ・ヨーロッパ・カナダ博士論文検索, ASCE Transportation Engineering, ASME Transactions Journal: Applied Mechanics, ASME Transactions Journal: Engineering for Gas Turbines and Power, ASME Transactions Journal: Fluids Engineering, ASME Transactions Journal: Heat Transfer, Journal of American Ceramic Society, Nanostructured Materials, Scripta Materialia, Vaccine	長岡技術科学大学附属図書館 KANON (旧新外国雑誌目次データベース (SwetsScan))  サイエンス・ダイレクト (SD) コンソーシアム
		国立情報学研究所 Genii (ジーニイ) 学術コンテンツ・ポータルサイト CiNii (論文情報ナビゲータ)
		独立行政法人 科学技術振興機構 J D r e a m n e w

(出典 図書館ウェブページ)

資料 8-2-①-11

## 平成 16 年度 図書館利用状況

月	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出視聴覚資料数
4	22	1,740	655	44
5	23	1,925	520	28
6	27	2,110	626	33
7	19	1,738	808	20
8	7	158	61	0
9	28	2,255	484	23
10	24	1,307	523	12
11	25	1,759	594	18
12	22	1,399	635	73
1	21	1,323	533	72
2	22	1,563	523	68
3	11	92	128	15
合計	251	17,369	6,090	406

(出典 庶務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校図書館には、資料 8-2-①-1～3 に示したように図書資料および視聴覚資料が整備され、教育研究上必要な学術雑誌を系統的に収集している(資料 8-2-①-9)。また学生の学習レベルや学習目的に応じた資料の開架などの工夫を講じ、その利用の促進を図っている(資料 8-2-①-7, 8)。図書館所蔵資料および国内外学術雑誌の検索システムを用意し、学外の研究支援サービスに参加している(資料 8-2-①-10)。これらは高等専門学校設置基準第25条に定められた要件を満たしている。これらの図書資料は有効に利用されている(資料 8-2-①-11)。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育研究の展開にフレキシブルに対応して使用できる共通実験室を用意している。学生の情報ネットワーク利用には、講習会の実施、所定の手続き申請、情報発信の指針を定める他、授業での情報倫理教育により、不正利用の防止を図っている。平成17年度にはネットワークを学寮に拡大し、学寮サブネットを敷設した。さらに無線LANの自力構築を行い各寮室からのネットワーク利用が可能となった。学生の学習レベルや学習目的に応じた図書資料の開架などの工夫を講じたり、ブックハンティングや図書館投書箱による学生の希望図書の選定などによって図書館利用の促進を図っている。

(改善を要する点)

該当なし

## (2) 基準 8 の自己評価の概要

本校の施設・設備は、高等専門学校設置基準に定められた要件を満たしている。施設・整備の現状、問題点および改善方策については、自己点検・評価報告書等により情報公開してきた。教員研究室および教室には冷暖房機器が完備し、教室・講義室には液晶プロジェクター・スクリーンや視聴覚機器を配備し、視聴覚教育・情報教育が可能な学習環境を整えており、教育・研究に快適な環境を提供している。これらの施設、教室、実験室等は配備された設備とともに有効に活用されている。

本校の情報ネットワーク施設・設備は、高等専門学校設置基準に定められた要件を満たしている。情報ネットワークの管理・運営は、十分なセキュリティの下でなされている。本校の教育目標に則してコンピュータスキルを身に付けた学生の育成のため、情報科学センターを利用した授業やネットワークを利用した授業が展開されている。また授業以外で利用できるパソコンが整備され、学生の学習の便宜を図っている。情報ネットワークを利用して、授業などの連絡、授業資料のwebでの公開、就職・進学情報の提供などの学生向けの情報サービスを行っている。このように本校の情報ネットワーク施設・設備は、有効に活用されている。

本校図書館には、図書資料および視聴覚資料が整備され、教育研究上必要な学術雑誌を系統的に収集している。これらの図書資料は有効に利用されている。これらは高等専門学校設置基準に定められた要件を満たしている。図書館所蔵資料および国内外学術雑誌の検索システムや学外の研究支援サービスに参加することにより、本校の教育研究上のサービスに寄与している。

## 基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

## (1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点到に係る状況)

教育の状況について、準学士課程では、全学生の成績評価が、各教科の担当教員によって研究室からインターネットを介してCampus Assist システムにコンピュータ入力される。そのデータに基づき教務委員会の審議を経て成績表を該当する学生及び担任等に配付するとともに、本システムに一括管理される。必要なデータは、学科長、担任、教科担当が適宜 Download して利用できるようになっている。その利用例を資料 9-1-①-1 に示す。本システムは、成績評価に関する証明書の発行にも活用される。また、成績原簿及び答案・レポート等は、評価資料室(保管庫)(資料 9-1-①-2) または各自で保存することが、教員会議にて確認された(資料 9-1-①-3)。

資料 9-1-①-1

The screenshot shows the Campus Assist system interface in Microsoft Internet Explorer. The browser address bar shows the URL: https://101.34.12/cassist/login/default.asp. The page title is "Campus Assist 舞鶴工業高等専門学校". The user is logged in as "北原 紀之" (Kihara Noriyuki) for the "2005年度 後学期" (2005 Academic Year, Second Semester). The main content area displays a table titled "成績一覧表" (Performance Overview Table).

年度	試験	学年	クラス	作成日	詳細	ダウンロード
2005	学年末成績	5	電気	2006/02/24	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	後期中間成績	1	2組	2006/01/05	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	後期中間成績	2	2組	2006/01/05	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	後期中間成績	3	電気	2006/01/05	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	後期中間成績	4	電気	2006/01/05	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	後期中間成績	5	電気	2006/01/05	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	前期末成績	1	2組	2005/12/20	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	前期末成績	2	2組	2005/12/20	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	前期末成績	3	電気	2005/12/20	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	前期末成績	4	電気	2005/12/20	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	前期末成績	5	電気	2005/12/20	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	前期中間成績	1	2組	2005/12/21	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	前期中間成績	2	2組	2005/12/21	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	前期中間成績	3	電気	2005/12/21	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>
2005	前期中間成績	4	電気	2005/12/21	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">Download</a>

Page: [ 1 2 3 4 / 4 ] Results: 51 Hits

Navigation links: [\[異動状況一覧\]](#) [\[学生数一覧\]](#) [\[トップへ戻る\]](#) [\[ログアウト\]](#)

(出典 学生課資料)

資料9-1-①-2



評価資料室



評価資料室内部

(出典 学生課資料)

資料9-1-①-3

## 資料 1

March. 20, 2006

教員 各位

教務主事

成績原簿および答案・レポート等の保存について

## ●規則第3条第4項

「各科目担当教員は、学業成績の評価の基礎となる試験の成績並びに出欠状況、平素の学習状況、授業外課題の履修結果等を保存しなければならない。」に従って、

あるいは

## ●JABEEの基準5(1)

「シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの目標に対する達成度が評価されていること。」の確認資料として、

次の資料等の保存・保管をお願いします。

1. 成績原簿（あるいは成績算出表、いわゆる「閻魔帳」）
2. 答案・レポート、試験問題
3. その他、宿題、作品、卒業論文など成績評価の基礎となる資料

また平成21年度のJABEE本審査に向け、そのときになって慌てることのないよう

4. レジュメや講義ノートを作成・整理
  5. レポート一覧、宿題一覧の作成
- なども、出来る範囲で整備くださるようよろしくお願いいたします。

なお「成績原簿」については、各自のフォーマットで作成されていると思いますが、教務委員会で標準フォーマットを用意して、それを各自が自由に変更して使って頂くことを計画しております。

答案を保管庫に保管を希望される方は、お手数ですが、教務係で保管庫の鍵を借りて頂き、各先生方で搬入くださるようお願いいたします。

以上

(出典 教員会議資料)



## 総目次

はじめに	1
総目次	3
学校運営	5
目次	5
運営報告	6
学科・部門別教員一覧	39
教職員数	51
学校行事日程	52
教育活動	55
目次	55
学生数	56
入試状況	58
就職状況(本科)	60
就職状況(専攻科)	61
進学状況(本科)	62
進学状況(専攻科)	63
進路先一覧(本科)	64
進路先一覧(専攻科)	65
卒業研究題目	66
専攻科特別研究題目	68
校外実習先受入先(本科, 専攻科)	69
課外活動成績	70
課外活動に対する教員の活動状況	71
研究活動	73
目次	73
研究業績	74
校内重点研究適用状況	97
外部研究費受入	97
学協会委員及び学会・研究会等の開催協力	98
教員の活動状況	100
地域・社会活動	101
目次	101
地域・社会業績	102
地域共同テクノセンター技術相談	104
地域委員	105
報道記事	107
目次	107
報道記事一覧	108
編集後記	111

(出典 舞鶴高専年報—2004年度の教育・研究活動)

評価を適切に実施できる体制は、校長のリーダーシップの下に組織的に構成され、全教職員に校務分担表(資料9-1-①-4)として配布される。この表に基づく教育システムにおいて、評価委員会が、教務委員会・学生委員会・学寮委員会等で得られるデータを評価・検討する。

教育活動の実態を記載する「舞鶴高専年報」は、平成14年に第1号を発行して以来、平成17年度で第3号となり、上述の校務分担表の各種委員会、学科、部門および専攻科における活動の状況が、教職員及び学生にわかるように編集されている(資料9-1-①-5)。

(分析結果とその根拠理由)

教育の状況について、準学士課程および専攻科課程の学業成績に関する資料は、Campus Assist システムによって一括管理され、その根拠となる資料は、研究室および保管庫に収集・蓄積されてい

る。また、教育活動の実態を示すデータは、「舞鶴高専年報」に記録されている。さらに、校務分担表に従って教育システムが機能しており、評価を適切に実施できる体制が整備されている。

**観点 9-1-②：** 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

学生による授業アンケートは、平成 9 年度より毎年行われている。授業公開は、平成 14 年度より実施され、内外の評価者から評価を受けてきた。評価者からの評価に従って、授業公開担当者は授業改善計画を立て、それを教務委員会 FD 部会に提出する。その状況が、資料 9-1-②-1 に記載されている。

学生の授業評価、満足度評価、学習環境評価等の聴取は、教務委員会 FD 部会の開催するパネルディスカッションや校長とのフリートーキングで行われている。「よりよい授業改善を目指して」をテーマに開催されたパネルディスカッションの報告を記載する教務委員会 FD 部会の議事概要を資料 9-1-②-2 に示す。校長とのフリートーキングの概要の一部を資料 9-1-②-3 に示す。平成 17 年度の校長とのフリートーキングは、3 回開催され、学校や教育の改善に利用された。

資料 9-1-②-1

#### 14. 授業アンケートと授業公開

自己点検評価検討委員会のもとで学生による授業アンケートは平成 9 年度から毎年実施している。集計結果を各教員ごとにまとめて、当該クラスの平均値とともに各教員に配布している。教員の授業技術向上を目指した FD (Faculty Development) 活動の一環として、平成 14 年度から、授業公開を行い内外の評価者の評価を受けてきた。公開された教員からは授業改善報告書が提出されている。年間 12 名のペースで授業が公開されてきた。(資料参照)

(出典 国立舞鶴工業高等専門学校 創立 40 周年記念誌 9 頁)



平成 17 年 11 月 21 日

## 第 6 回 F D 部会議事概要

日 時 平成 17 年 11 月 21 日 (月) 16:20~17:15  
 場 所 多目的会議室  
 出席者 梅原, 四蔵, 竹澤, 辻, 松井, 金森  
 欠席者 梅垣, 中尾学生課長  
 記 録 金森

## 1. 取りまとめ報告

平成 16 年度授業アンケート, 科目群連絡会及び授業公開のとりまとめ報告が行われた。取りまとめの担当は次のとおり。

授業アンケート: 金森部会長, 科目群連絡会: 辻委員, 授業公開: 松井委員

## 2. F D パネルディスカッションについて (資料 1)

日 時: 平成 17 年 12 月 14 日 (水)

場 所: 視聴覚第一教室

テーマ: 一よりよい授業改善を目指して一

司会: 金森部会長

パネリスト 四蔵委員: 平成 16 年度授業アンケート報告 (7 分)

辻 委員: 科目群連絡会報告 (7 分)

松井委員: 授業公開・授業参観報告 (7 分)

田中裕崇 (学生代表): 授業・学校に対する要望 (7 分)

和田教員 (授業アンケート最高得点者): 授業改善事例 (7 分)

## 3. 後期授業公開の実施について

後期の授業公開を実施するか否かについて話し合った。授業参観を実施したので, 授業公開はやらなくてもよいという考え方もあるが, 下記の理由より後期授業公開を実施する方向で合意した。

- (1) 授業参観は, 気楽に他の授業を参観し, 良いところを取り込んで授業改善して行こうという趣旨であり, 授業公開とは趣旨が異なっている。
- (2) 授業参観は試行であり, 教員の反応や意見, 効果などをチェックした上で, 授業公開とのバランスを整える必要がある。

## 4. 授業アンケートの設問について

シラバスの設問の見直しを行い, 下記の改正が提案された。

- (1) 「シラバスを授業前に読みましたか。」を「シラバスを読みましたか。」あるいは「シラバスを活用しましたか。」に変える。
- (2) 「シラバスに記述されている達成目標は達成できましたか。」を追加する。
- (3) 「シラバスに記述されている授業内容や方法は参考になりましたか。」を「シラバスに沿って授業が進められましたか。」に変える。
- (4) 本年度は既に前期に実施しているので, 設問の改正は来年度からが望ましい。

## 5. 後期の科目群連絡会の計画, 授業アンケート集計結果のフォーマットが提案された。

配布資料: 後期・科目群連絡会計画

授業アンケート集計結果のフォーマット

以 上

(出典 学生課資料)

## 校長とのフリートーキング議事概要

日 時 平成 17 年 12 月 12 日 (月) 15:30~18:03

場 所 中会議室

参 加 者 小野校長 下記学生(記:白井教務係長)

1年	氏名	2年	氏名	3年	氏名
1-1	*	2-1	*	3M	*
	*		*		*
1-2	*	2-2	*		*
	*		*	3E	*
1-3	*	2-3	*		*
	*		*	3S	*
1-4	*	2-4	*		*
	*		*	3C	*
					*

## 内 容

今回のフリートーキングについて、どうしたら良い学校になるか、前向きに自由に意見を聞かせてもらいたい旨説明の後下記のような意見希望等があった。

## ○授業について

- ・本校のカリキュラムは悪い。例えば、電気回路(2・3年)や信号処理(2・3年)で微分方程式の内容があるので、もっと低学年の数学からそのような内容の授業内容にすべきである。
- ・英語の授業で声が小さいので聞き取れない先生がいる。  
説明の仕方が悪く、レベルが低い。
- ・世界史はシラバスと違う内容でやっている。
- ・化学のテストで良い点を取っているのに、悪い点が付けられた。(60が50)
- ・化学の授業が分かりにくい。黒板がメモ帳になっていて、全部書いてくれない。授業に遅く来る先生が多い。
- ・1年生から専門科目や実習をもっと増やして欲しい。
- ・教科書をそのまま黒板に書く先生がいる。
- ・頭がよいからしゃべりにくく、先生との距離がある。
- ・同一科目なのにクラスによってペースが違う。
- ・授業のスピードが速すぎる。
- ・成績の付け方が不公平で、点の低い者が高く付けられることがある。
- ・5分前に来て早く始める先生がいる。
- ・3年の電気・電子制御で資格、例えば基礎情報処理技術者等の取れる授業をして欲しい。
- ・他の高専の授業を見てみたい。
- ・90分授業は集中力がなくなる。(現在、50分授業を検討している。)
- ・混合学級の2年次進級時にクラス替えをして欲しい。(出席者の1年は全員賛成・2年以上は2人のみ賛成した。)
- ・自分は3年生であるが過去自分達がいた混合学級は良くなかった
- ・転科希望を出す際にどの学科がどの会社に就職出来るか情報が欲しい。  
(偏った専門でなく総合的知識が必要であり、就職先を短絡的に知る必要はない。)

・・・以降省略・・・

(出典 学生課資料抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

授業アンケート、授業公開及び校長とのフリーストーキングを通じて、継続的に学生の意見と要求が反映できる仕組みができています。従って、学生の意見の聴取が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

**観点 9-1-③： 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。**

(観点に係る状況)

過年度卒業生および就職先企業等への教育評価に関するアンケート調査は、平成 13 年度から実施されている。資料 9-1-③-1 及び資料 9-1-③-2 に、これらのアンケートの総合的な集計結果を示す。この結果によれば、「英語によるコミュニケーション」は業務における要求度が比較的高いにもかかわらず、卒業生の満足度が最も低く企業から見た教育評価も最も低い。これは英語教育の改善が最も必要であることを意味している。この結果を踏まえ、平成 14 年 1 月 16 日の第 8 回教務委員会議事概要（資料 9-1-③-3）に示すように、英語教育の改善に関する協議がなされ、外国人教師を 2 名充当した 3 年生 6 クラス編成の少人数教育に改善された。さらに、本校の目標に沿う国際交流の推進と国際性豊かな人材育成教育の一環として、カリキュラムを変更し、平成 18 年度から準学士課程 3 学年、4 学年で受講できなかった英語科目に継続性をもたせ、1 学年から 5 学年まですべての学年で英語教育を実施する（資料 9-1-③-4）。また、前述したように、専攻科課程でも英語力の向上を図るため、平成 14 年度から英語合宿を実施している。

資料 9-1-③-1

### 卒業生及び企業によるアンケート結果に基づく達成度評価

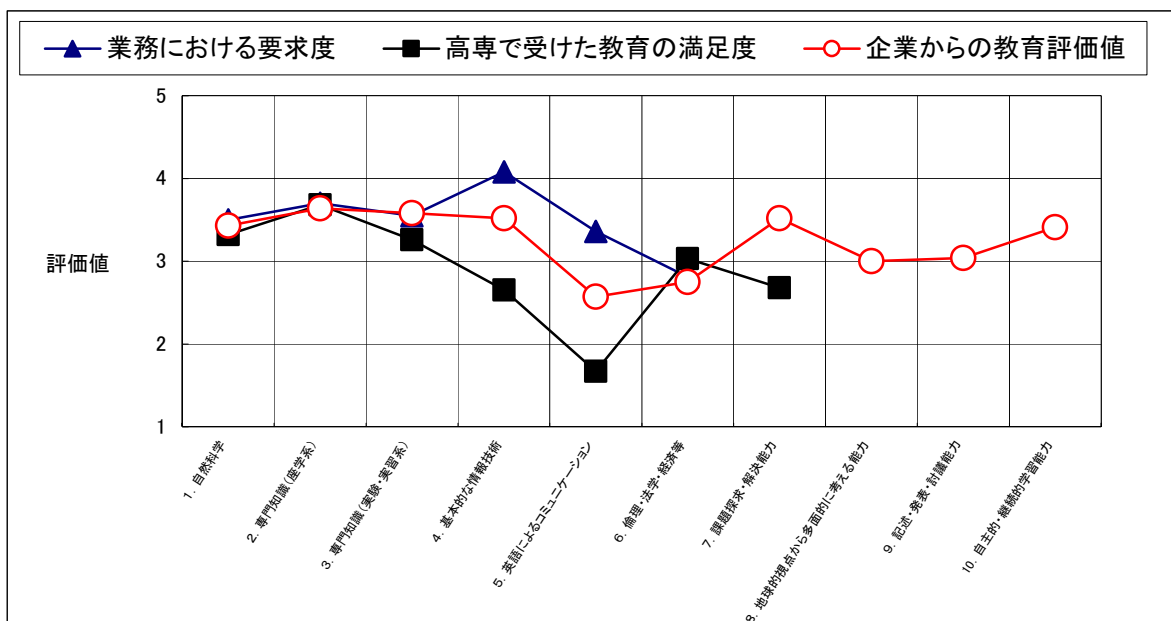
基礎データ：平成 10、11 年卒業生からの回答

平成 9 年 3 月～平成 13 年 3 月卒業生の就職先企業からの回答

評価項目	卒業生の業務における要求度	卒業生が本校で受けた教育の満足度	企業からの本校の教育に対する評価値
1. 自然科学	3.50	3.32	3.43
2. 専門知識（座学系）	3.70	3.68	3.64
3. 専門知識（実験・実習系）	3.55	3.26	3.58
4. 基本的な情報技術	4.08	2.65	3.52
5. 英語によるコミュニケーション	3.36	1.67	2.57
6. 倫理・法学・経済等	2.81	3.03	2.75
7. 課題探求・解決能力		2.68	3.52
8. 地球的視点から多面的に考える能力			3.00
9. 記述・発表・討議能力			3.04
10. 自主的・継続的学習能力			3.41

(出典 庶務課平成 13 年度資料)

資料 9-1-③-2



(出典 庶務課平成 13 年度資料)

資料 9-1-③-3

## 第 8 回 教務委員会 議事概要

日 時 平成 14 年 1 月 16 日 (水) 16:20~17:55  
 場 所 地域共同テクノセンター会議室  
 出席者 西村教務主事, 三川, 塩見, 伊藤, 中川, 片山, 竹内, 西山, 学生課長  
 (欠席)大橋, 高谷, 廣田, 金森, 中澤, 武田

## 協議事項

## 1. 混合学級の編成方針について

教務主事から、混合学級の編成方針について資料 1 により説明があり、協議の結果、一部を修正して別紙のとおりとすることで了承され、また実際のクラス編成については教務主事に一任することも併せて了承された。

## 6. その他

## (1) 英語教育について

教務主事から、JABEE において、高専の英語教育に対する評価が非常に厳しく、本校の JABEE 委員会からも教務委員会に対し、英語教育の改善について検討依頼がある予定で、本年度内に結論を得る必要があるため、協力願いたい旨要請があった。

## (2) 視聴覚機器の整備について

学生課長から、各教室においてビデオなどが使用できるように予算要求を進めていきたい旨発言があり、了承された。

## (3) 中途退学者の防止について

学生課長から、中途退学者を減らすための措置について、JABEE との関連を考慮する必要があるが、今後平均点の引き下げなどの検討をして欲しい旨要望があった。

委員からは、補講などの学習指導、アルバイトを含めた生活指導の必要性が指摘され、教科担当の教官だけの指導では無理であり、学校全体で取り組むこと、根気よく指導することが必要である旨意見があった。

## (4) 来年度の行事予定について

委員から、平成 14 年度の行事予定では、前期の期末試験が 3 週にわたって行われる予定になっていて、学生にとって厳しい状況となるため、2 週内で終了するよう変更することができないかとの要望があり、変更が可能かどうかを教務主事に検討してもらった。

以上

(出典 学生課資料)

## 第 2 回 教務委員会 カリキュラム部会 議事概要

記録者 西山 等

日 時 平成 17 年 11 月 28 日 (月) 16:20~19:00  
 場 所 多目的会議室  
 出席者 樽井, 背戸柳, 新池, 川田, 高谷, 西山  
 (欠席) 中川, 学生課長

## 協議事項

## 1. 英語科目の変更について

第 6 回教務委員会にて提出された平成 18 年度英語科目の変更について、資料①により部会長から説明があり、科目名称の変更、半年科目化等の変更事項の確認及び問題点の抽出とその対応について協議した。

## 協議内容

- ・ 1 年, 3 年の英語科目の変更については問題なし。
- ・ 2 年の英語科目については, 2 単位通年 1 コマの増となるが時間割作成上対応可能である。
- ・ 4 年の英語科目について原案では 1 単位増後期 1 コマ増となり, これをそのまま適用すると後期に 5 時限目を設定しなければならない。4 年生は科目数が多く毎日 4 時限目までであり, 5 時限目を設定することは学生への負荷がさらに増すことになる。したがって, カリキュラム部会としてはつぎの二つの案を提案する。
  - (案 1) 英語科目を 3 科目 3 単位とする。
  - (案 2) 法学の半期分あるいは経済学あるいは哲学を人文社会系の選択科目に組み入れ, 英語科目を 4 科目 4 単位とする。
- ・ 5 年の英語科目について原案では 2 単位増半期あたり 1 コマ増となり, 通年 5 時限目を設定しなければならず現実的ではない。したがって, カリキュラム部会としてはつぎの三つの案を提案する。
  - (案 1) 英語科目を 2 科目 2 単位とする。これに加えて前期の卒業研究の 1 コマ分 (現状の水曜日) において卒業研究の名の下で英語科目 1 科目分を実施する。
  - (案 2) 英語科目を 3 科目 3 単位とし, 前期のみ卒業研究の時間数を現状より 1 コマ分減らす。
  - (案 3) 英語科目を 3 科目 3 単位とするが, 1 科目のみ 4 時限目以後に通年 50 分の授業を行う。

(出典 学生課資料抜粋)

就職先の関係者の意見の聴取に関しては, 進路指導部会委員が, 冬季休業から春季休業にかけて就職先企業等を訪問して情報を収集する活動を続けている。本校学生の採用を依頼することが主目的ではあるが, これに加えて本校学生の評価並びに必要な知識や技術なども調査している (資料 9-1-③-5)。

平成 17 年度に調査された卒業生による教育評価アンケートに基づく達成度評価の集計表を資料 9-1-③-6 及び資料 9-1-③-7 に示す。これらのアンケート結果は, メールによって全教職員に周知された。

資料 9 - 1 - ③ - 5

## 資料 1

## 会社訪問報告書

H17年2月22日

生水 雅之

会社名	所在地	面談者	面談内容
日東精工株式会社	綾部市	人事総務部長 [ ] 人事総務部 [ ]	H17年度、高専卒は短大枠で入社試験を実施、受験者9名、3名採用。H18年度も短大枠で実施、M、E、Sで3名程度募集、地元出身者を希望。
株式会社堀場エステック	京都市	総務部人事勤労チーム [ ] 総務部人事勤労チーム [ ]	H17年度、大学高専で受験者250名、文理14名採用。3月下旬より選考開始し6月上旬で終了。H18年度理系6名、文系4名採用予定。
株式会社インダ	京都市	総務人事部人事課係長 [ ]	H17年度採用大卒院卒30名、高専卒5名。H18年度高専卒5名程度募集、入社試験は連休明けを予定、面

(出典 学生課資料)

## 資料 9 - 1 - ③ - 6

## 卒業生による教育評価アンケート

本アンケートは、舞鶴工業高等専門学校の教育改善のための基礎データになるものです。個人的なデータ、御回答を直接的に外部に公表することはありませんので、御協力よろしく申し上げます。なお、御回答に際しては、本アンケート用紙を御利用いただき、各設問に対するお答えは問 1 を除いて該当する数字を○で囲んでください。

## 1. 個人基礎データに関する質問

問 1. あなたの年齢を [ ] 内に記入してください。

[ ]

問 2. 出身学科を回答してください。

[1] 機械工学科 [2] 電気工学科 [3] 電子制御工学科 [4] 建設システム工学科, 土木工学科

問 3. あなたの現在の勤務先（自営も含む）の業種を次の中から一つ選択してください。

[1] 製造業 [2] 建設業 [3] 電気・ガス・水道業 [4] 運輸・通信業 [5] 卸・小売業  
[6] サービス業 [7] 公務 [8] その他

問 4. あなたの現在の職種は何ですか？ 該当するものを一つ選択してください。

[1] 研究・開発 [2] 設計 [3] 製造・施工 [4] 営業・販売 [5] サービス [6] 企画・管理  
[7] 教育 [8] その他

問 5. あなたの現在の職種の経験年数を回答してください。

[1] 1 年未満 [2] 1 年以上 3 年未満 [3] 3 年以上 6 年未満 [4] 6 年以上 10 年未満  
[5] 10 年以上 15 年未満 [6] 15 年以上

## 2. 業務に必要な知識、高専で学んだ知識に関する質問

A. 「自然科学(数学, 物理学, 化学)などに関する知識とそれを応用する能力」について、お尋ねします。

問 6. あなたの現在の業務では、これらが必要とされますか。

[1] 大いに必要 [2] ある程度必要 [3] どちらとも言えない [4] あまり必要ない [5] 全く不要

..... 中略 .....

問 17. 業務を遂行する上で、高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。

(問 16 で [1] または [2] と回答した場合にお答えください。)

[1] 十分満足 [2] ある程度満足 [3] どちらとも言えない [4] 少し不足 [5] 大いに不足

G. 「卒業研究」についてお尋ねします。

問 18. 5 年生で実施した卒業研究の経験は、あなたの職務を遂行する上で役立っていますか。

[1] 多いに役立っている [2] ある程度役立っている [3] どちらとも言えない  
[4] あまり役立っていない [5] 全く役立っていない

## 3. 技術者意識に関する質問

問 19. 技術者として、「工学技術のもつ地球的、社会的影響力の重要性」を十分理解されていることとは思いますが、これを認識され始めたのはいつ頃ですか。

[1] 高専入学以前 [2] 高専在学中 [3] 高専卒業後の実務体験をとおして [4] その他

問 20. 技術者として、「工学の発展に常に興味をもち、生涯学び続ける意欲」が大切であるとよく言われますが、ご自身をどのように評価されますか。

[1] 非常に意欲的 [2] やや意欲的 [3] どちらとも言えない  
[4] あまり興味も意欲もない [5] 全く興味も意欲もない

## 4. 舞鶴高専を卒業し、大学に編入学された方は、以下の質問にお答えください。

進学先

[1] 国立大学 [2] 公立大学 [3] 私立大学

大学卒業後の進路

[1] 編入学先大学院進学 [2] 別の大学大学院進学 [3] 就職 [4] その他

御協力ありがとうございました。

このアンケート用紙は、同封した返信用の封筒を利用して平成 17 年 1 月 9 日（金）までに御返送いただきますようお願い申し上げます。

(出典 庶務課平成 17 年度資料)

また、企業による教育評価アンケートに基づく達成度評価の集計表を資料 9-1-③-8 及び資料 9-1-③-9 に示す。これらのアンケート結果は、メールによって全教職員に周知された。

## 別添資料 9-1-③-7

## 卒業生による教育評価アンケートの意見・感想（集計中の一部）

- 英語が話せることは絶対必要です。毎日が勉強であり、分からないことだらけです。5年間という短い期間で、業務ができるレベルには到底なりません。ただ、「分からないことがほとんどである」ということが分かったことが、卒業後の勉学に活かされました。
  - 高専で学んだことが、実社会で直接役に立つかという点、そうではない内容が大多数を占めていると思います。ただ、それら基礎知識を、断片的に実務において引用する場合があります。そういう意味では、さまざまな知識を学んだことは無意味ではなかったと思っています。
- 実社会の実践においては、基礎知識である様々な事柄をまる覚えしておく必要はありません。問題を解決するにあたり、どこにどのような知識ツールがあるかを常に把握し整理して、必要な時間に、短時間で検索し、引用し問題解決に当たることこそ大切です。
- そういう意味では、高専生活における試験前の友人との資料のやりとりなどで、必要な情報はどこにあるのか調査把握し、引用する事象は、いまの私の業務段取りに十分生きています。また、やるべきことをやらないと、報われないと高専生活での経験も、いまの私の気持ちの中で生きています。
- 今の高専生活環境はよくわかりませんが、昔のようなどろくさい環境も大切にしてほしいと思います。
- 機械実習において、なぜ舞鶴高専は放電加工機を入れないのでしょうか。

(出典 庶務課平成 17 年度資料)

## 資料 9-1-③-8

## 企業による舞鶴工業高等専門学校の教育評価アンケート集計表(1)

## 1. 基礎データに関する質問

問 1 (業種)	問 2 社員数・高専卒の社員数等				問 3 配 属 職 種							
	社員数	高専卒の 社員数	本校の 卒業生数	最近5年 間の本校 卒業生数	研究 開発	設計	製造 施工	営業 販売	サー ビス	企画 管理	教育	その他
製	400	27	3	3			○					
	-	-	-	1			○					
	45	7	7	5		○	○					
	146	4	2	2			○					
	465	20	2	1		○						
	250	15	9	5			○					
	2,793	178	10	3			○					○
	72	2	2	1			○					
	-	-	-	1	○							
	250	3	1	1			○					
造	190	8	2	1			○					
	5,600	120	5	5		○	○					
	-	20	12	8		○	○		○	○		
	340	11	6	1		○						
	210	22	17	6		○						○
	11	3	8	1		○	○					
業	4,500	-	30	3		○				○		
	700	10	1	1	○							
	9,963	400	13	2			○					
	395	7	0	1			○					
	476	2	1	1		○						
	110	8	5	2			○					
	10,700	286	4	1	○	○		○				○
5,025	170	8	3			○		○				

(出典 庶務課平成 17 年度資料抜粋)



## 資料 9 - 1 - ③ - 9

## 企業による教育評価アンケートの意見・要望

- ・知識や応用能力の教育は十分受けていると思われるが、それらの活用は本人の性格に左右される部分が多いため、人格(人間形成)に関しての教育もご検討願いたい。(例：積極性開発等)
- ・高専間の優位差判断(特長)がつき難く、メリハリの効いた回答にならず申し訳ございません。  
大学(理工系)での専門性の低下や、モノ造りへのこだわりの欠如などが傾向として見れます。  
中学卒業と同時に、一流の教授陣に恵まれる高専の存在は、ますます重要な位置付けになって来ています。(期待されていると思います)  
専門能力に加えて、課題対応力、形成力、それを可能にするコミュニケーション能力などを習得すれば、コア人材として活躍出来ると思います。
- ・高専の教育については、一般的に評価が高いが、やはり個人によって差があるため、一概に答えられないのが正直なところである。
- ・評価対象者の能力・知識等について、貴高専在学時代に培ったのか否かの判断は極めて困難であるため、十分な回答となりませんでした。
- ・御校卒業生は、概ね優秀な人材が多く、当社においては高い評価をしています。専門的な教育のほか、人間教育等も多く取り入れられ、より立派な人材を輩出されますよう期待致します。
- ・高専らしく、より高度な技術教育をしていただくことにより、大学生よりもずっと早く即戦力になると思います。期待をしております。
- ・非常に優秀であると認識しております。今後少子化が進み、生徒が集めにくい状況となりますが、彼らの教育レベルを落とすことなく、維持向上されることを期待します。
- ・弊社には、現在舞鶴高専のOBが4名おりますが、入社3年目、19年目、12年目、2年目となります。対象となる入社2年目の方は、現在委託学生として豊田工業大学へ通われております。学生さんなので、直属の上司というものはりません。従って、アンケートに記入出来る者はいないのですが、比較的難易度の高い豊田工大に合格した点から推察して、学校の勉強は十分だったかと思えます。
- ・面接でのパフォーマンス、コミュニケーション能力がやや弱い。決まった質問以外でも、その場で考え、発言する能力も身につけていって欲しい。
- ・現在の業務と高専での教育が直結したものでないため、それを評価することは難しい。しごとに対する姿勢は真面目である。実践的な教育を希望します。
- ・高専といえども、今後の国際社会で生き残る企業にとっては、国際的な視野(感覚)が必要となります。ですから、英語力、プレゼンテーション能力等に一層ご尽力頂きますようお願い申し上げます。
- ・御校の学生様に限ったことではありませんが、基礎学力(数学、物理、電気学)の低下傾向が懸念されます。基本をみっちり学んで頂くと同時に、物づくりの楽しさを学生様が実感できるようなカリキュラムを是非ご検討頂ければ幸いです。
- ・在籍者4名は、技術・サービススキル、コミュニケーション能力も高く、各配属先で中心となり活躍しております。
- ・現在の在職者は大変優秀な社員です。貴校の教育が素晴らしいため、左記の通り回答させていただきました。当社も新人研修については更なる努力をしておりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。
- ・当社の仕事は、主として電気通信機器の施工・保守であり、適正的には電気工学科卒である。しかしながら、貴校卒業者は機械工学科卒にもかかわらず、当社の育成教育の中で徐々に電氣的な専門知識も習得できており、基礎的な適応能力は比較的高いと評価している。
- ・各専門分野の“基本的事項”の習得を徹底してほしい。
- ・3次元測量等の測量技術の習得を徹底してほしい。
- ・現場見学等で実際の建設現場の様子を体験させてほしい。
- ・教育の件と関係なく恐縮ですが、学生の方が地元志向が強く、離職者が多いのが気になりました。
- ・与えられた課題に対して、実験・実習を実施する能力、専門分野の知識は十分にあります。しかし、自ら課題を探索する能力、課題を解決するために必要な理論の構築能力は弱く感じます。卒業研究などを通じて、自ら考える力を養うことに重点をおかれては如何でしょうか？
- さらに、専門分野だけではなく、環境問題、知的財産権などの技術者としての一般常識などの教育も必要かと思われます。
- ・現在高専卒社員には技術継承の柱となっております。高い技術力と未知のトラブルに対する探求心など、高卒あるいは大卒社員とは違ったものを持っています。今後もそのような教育を続けていただきたいと思います。

(出典 庶務課平成17年度資料)

## (分析結果とその根拠理由)

卒業生(修了生)および企業を対象としたアンケートを実施しており、教育に反映させる意見を聴取しまとめている。そのアンケート結果は、メールや文書によって全教員に周知されている。また、実施結果は教務委員会関連部会で常に検討され改善されている。

以上により、学外関係者の意見は、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

観点 9-1-④： 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

教員の教育活動に関する評価は、舞鶴高専年報（資料 9-1-①-5）に記載されており、教務委員会およびその下の各種部会、評価委員会及び教育プログラム委員会で教育課程の見直し等の検討がなされている。その例として、資料 9-1-④-1 に教務委員会の議事概要を示す。教務委員会は、4 部会に分かれて活動が実施されている。

各部会の実施内容は、教務委員会で協議され、運営会議に改善策等の提案を行い、そこで審議される。このように、システムが整備されている。例えば、建設システム工学科のコース制導入、創造工学科目の変更、及び全学年に英語を必須科目としたことに伴うカリキュラムの変更については、各種の委員会を経て規則改正が行われた。資料 9-1-④-2 は、改正理由とそのプロセスを示す。

### 資料 9-1-④-1

#### 第 2 回 教務委員会 議事概要

日 時 平成 17 年 5 月 9 日（月）16:20～19:25  
場 所 中会議室  
出席者 金山委員長、樽井、背戸柳、辻、西山、中川、奥村、高谷、金森村上、馬場、大嶋、中尾学生課長、高橋専門員、白井教務係長

#### 協議事項

1. 4 部会の活動計画について
 

前回の委員会において活動計画を報告することになっていたことに伴い各部会長からそれぞれ資料 1 により報告があった。  
なお、議事録以外の報告等は下記のとおりであった。

  - (1) FD 部会
    - 授業アンケートは実験・実習等の科目も実施したい。
    - 科目群連絡会の説明を教員会議でしてほしい。
    - 各主査の話し合いも必要。
    - 平成 16 年度のアンケート集計結果が別紙 1 のとおりでしたので、評価委員会へ報告のうえ、各教員へフィードバックしたい。
  - (2) 混合学級部会（議事録等なし）
    - 今年度前期末及び後期中間試験の成績をみて混合学級制度の改善を教務主事に提案する。
  - (3) 教育制度部会
    - 「本科 4 年次への編入学生に係る補習措置に関する申し合わせ」に対し補習の必要性に関し質問が出たので、部会で検討した結果、回答案のとおり回答することで了承された。
    - 補講手続きがもっと簡略化できないかとの質問があったが、JABEE との兼ね合いで困難な旨説明があった。
  - (4) カリキュラム部会
2. 追試の手続きについて
 

4 月末で締め切った標記のことについて本年度は 501 件（5 年：215 件 4 年：130 件 3 年：66 件 2 年：90 件）の願出があった。  
なお、昨年度は 286 件で平成 15 年度の成績評価が 60 点未満でも及第点となっていたことによる件数増との説明があった。
3. 編入学生補習措置計画について

資料 2 のとおり補習措置計画書・スケジュール表の提出があり、了承された。

4. 本科 4 年生に対するインターンシップ報告会の試行要領について
 

資料 3 により今年度試行する旨説明があり、了承された。
5. その他
  - (1) 高等専門学校における単位計算の見直しについて
 

資料 4 により西山委員から説明があり、平成 18 年度実施に向け具体的に検討することになった。
  - (2) 追認願に担当教員が押印することについて
 

別紙 2 により改善の申し出があり、検討の結果、教科担当印は不要ではないか、また教科担当者は前年度担当者にした方がよいか等を教育制度部会で検討することになった。
  - (3) 学校行事を特別活動等の出席時間として評価することについて
 

学生主事から別紙 3 により検討依頼のあった提案について、検討の結果、学校行事の過去 2 年程度の出席率の調査及び他高専における欠席時間数を欠席日数に換算する方法（本校では別紙 4）を、再検討することになった。
  - (4) 数学実力テストについて
 

1 年生に対し実施した標記のことについて、別紙 5 により点数が上がった旨説明があった。
  - (5) JABEE 資料の電子ファイルに関する講習会等について
 

別紙 6 により高谷委員から説明があった。
  - (6) 入学志願者増加対策について
 

別紙 7 により奥村委員から説明があり、入試委員会に回り入試会場・中学校訪問等検討することになった。
  - (7) 中学校向けポスターの図案について
 

標記のことについて、本校の行事を盛り込んだカレンダーを入れてはどうかの提案があり、伊藤広報担当委員に提案することになった。

以 上

（出典 学生課資料）

資料 9-1-④-2

平成18年2月14日

庶務課長 殿

学生課長

舞鶴工業高等専門学校学則の一部改正について（依頼）

標記のことについて、別紙のとおり一部改正をお願いします。

## 【改正理由】

1. 建設システム工学科のコース制導入に伴うカリキュラム変更
2. 創造工学科目変更に伴うカリキュラム変更並びにそれに伴う建設システム工学科4年の設計製図Ⅱの科目名変更
3. 全学年に英語を必修科目としたことに伴うカリキュラム変更

- ※
1. 平成17年12月5日開催の教務委員会・平成17年12月6日開催の運営会議において了承
  2. 平成17年11月7日及び12月5日開催の教務委員会  
平成18年1月17日開催の運営会議において了承
  3. 平成18年1月16日開催の教務委員会・平成17年12月6日開催の運営会議において了承

(出典 学生課17年度資料)

(分析結果とその根拠理由)

各種の評価結果を受けて、評価委員会、教育プログラム委員会、教務委員会、学生委員会、学寮委員会、専攻科委員会などが改善策を提案し、運営会議で審議するシステムができています。従って、改善に結びつけられるシステムが整備され、具体的に改善の方策が講じられている。

観点 9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

教務委員会「授業公開実施要領」は、授業公開の目的、評価者、実施・評価手順、評価項目等を制定し、授業公開実施計画書および授業公開報告書の書式を定め（資料 9-1-⑤-1）、全教員にメールにて配布している。平成17年度前期授業公開の一覧を資料 9-1-⑤-2 に、そのまとめを資料 9-1-⑤-3 に示す。さらに、本校の授業を質的に向上させるため、各教員が自由に他の教員の授業を参観し、各教員の授業改善に役立てることを目的として、授業参観を実施している（資料 9-1-⑤-4）。平成17年度授業参観の意見・感想を資料 9-1-⑤-5 に示す。

## 資料 9 - 1 - ⑤ - 1

## 授業公開実施要領

## 1. 目的

本校の授業を公開し、学内及び学外から選ばれた評価者及び学生達から評価を受け、また、互いに話し合うことによって、授業公開の担当教員のみならず、参加する多くの教員の参考とし、本校全体の教育方法の改善に繋げることを目的とする。

## 2. 実施

各学科（部門）は、毎年2回（前期1回、後期1回）授業公開を行う。専攻科の授業もこれに含める。

各学科（部門）は、約10名で構成されているため、各教員は5年に1回程度の授業公開を行うこととする。

## 3. 評価者

学内評価者； 本校の講師以上の教員2名以上（少なくとも内1名は当該学科（部門）以外の者とする。）

学内評価者のうちから、主査1名を互選により決める。

学外評価者： 教育関係者、授業科目に関連する領域のエンジニア、教育に深い関心のある一般市民及び本校後援会員等 2～3名。

## 4. 参観者

評価者以外の本校教職員及び保護者等とし、アンケートをお願いする。

## 5. 実施・評価手順

- (1) 各学科（部門）は、該当する授業と学内外の評価者を決定し、教務委員会ファカルティ・ディベロプメント部会(以下「FD部会」という。)に報告する。
- (2) FD部会は、前期又は後期の授業公開の計画を集計の上調整し、教職員及び保護者に通知する。なお、ホームページ等により一般に公開する。
- (3) 各学科（部門）は、授業公開を実施する。
- (4) 授業公開実施後、速やかに評価者等による意見交換を行う。（学生5～10名を含む。）
- (5) 学内評価者間で意見調整を行った後、主査が授業公開報告書を担当教員及びFD部会に提出する。
- (6) 担当教員は、主査及び評価者の授業公開報告書及びアンケート等を参考にして授業改善プラン報告書を作成し、FD部会に提出する。
- (7) FD部会は、上記報告書と改善プランを総合的に評価・検討した結果を評価委員会に報告するとともに、全教員に公開する。

(出典 庶務課資料)

## 資料 9 - 1 - ⑤ - 2

平成17年度前期授業公開実施日程及び学外評価者等一覧

授業科目	年・組	実施日時	実施教員	学外評価者	学内評価者
数学ⅠC	1-2	平成17年9月7日(水) 2限目 10:40～12:10	講師 野間正泰	今安博和 千坂寿徳	◎ 亀谷 睦 生水雅之
計算機工学Ⅰ	3S	平成17年9月7日(水) 3限目 13:00～14:30	講師 町田秀和	本田良直 岡 哲三	◎ 和田 優 新池一弘 天野耀溥
人間と文化Ⅰ (心と癒し)	4年 選択	平成17年9月7日(水) 4限目 14:40～16:10	助教授 垂谷茂弘	塩見仁史 青海典子 橋田國夫	◎ 梅原康生 亀谷 睦
工作法Ⅱ	3M	平成17年9月9日(金) 3限目 13:00～14:30	教授 生水雅之	渡辺幸正	◎ 辻 正 谷川博哉 野間正泰
電気機器	4年 選択	平成17年9月14日(水) 3限目 13:00～14:30	教授 平地克也	山岡嘉男 西村萬平	◎ 片山英昭 金森 満
地盤工学Ⅰ	3C	平成17年9月16日(金) 1限目 9:00～10:30	教授 森尾 敏	緒方良充 志賀道弥	◎ 岡本寛昭 武田八郎 高田暁男

◎: 主査評価者

(出典 庶務課資料)

平成 17 年 10 月 25 日

## 平成 17 年度 授業公開（前期）について

教務委員会 FD 部会

「授業公開」で提出された報告書・集計表に基づいて、今後検討すべきと思われる課題について、概略、まとめてみることにする。

## 1. 授業改善に向けての課題

## 1.1 高専教育全体の観点から

## (1) モチベーションの高揚 — 「中学生」から「高専生」へ

専門学科の醍醐味を伝えるために授業コンテンツをどのように構築するかは、学生を早い段階で高専生にすることにもつながる重要な課題である。例えば、「実際の建設現場を見てみたい。そうすれば授業に興味をわく」（地盤工学）、「理論・計算式と実製品や実用化とのつながりがわかりにくい」（電気機器）などの声があり、理論と実践をどう一体化すればいいのか、これはカリキュラムとも関係する問題だが、学生の生の声を聞くに一考を要すると思われる。

## (2) より良い授業を求めて — 「生殺与奪の権」を握る教師の立場から

- ・学生とのコミュニケーションをいかに密にするのか
- ・学生の知識レベルとのずれの穴埋めをどうするのか
- ・学生にとって興味のある授業とはどのようなものなのか
- ・授業を通しての人間（技術者）教育はどうあるべきなのか

## 1.2 個々の担当教員の課題

## (1) 授業の進度について

- ・授業のペースが速くなる。これは 1 年分のノルマが多く、週 1 回の授業ではそうならざるを得ない。また、同じ教科書を複数の教員が使っているので、教員間の連携も必要。
- ・全体のバランスを考えて授業を進めないと、最後の方で端折ることになり授業のまとまりが悪くなる。

## (2) カリキュラムについて

- ・カリキュラムの改定により通年授業であったものが半期に短縮され、どの部分を精選して教えればいいのかその対策に苦慮している。

## (3) 授業の工夫について

- ・授業が一本調子で眠くなるとの指摘がある。学生の聞く集中は 15 分が限度と言われている中、途中で質問をして理解度チェックをするなど、学生を巻き込んだ双方向型の授業が望まれる。
- ・居眠りしている学生にはどう対処するのか、往々にして興味を無くしている場合が多く、OHP、パワーポイント、カラーの配布資料を使ったり、前で発表させたりして授業にアクセントをつけることが肝要である。

## (4) その他

- ・「学生」を「学生さん」と呼ぶのは如何なものか、「君(達)」、「皆」でいいのではないのか。

## 2. 「授業参観」の試行

「授業公開」は、どうしても「見られている」という意識が先立ち、身構えて自然体になれないのが人情である。より自然な授業を自由に参観して各教員の授業改善に資することを目的に「授業参観」の実施が望まれる。今年度、11 月に試行実施の予定である。

以上

(出典 教務委員会ウェブページ)

資料 9 - 1 - ⑤ - 4

## 授 業 参 観 試 行 要 項

平成 17 年 10 月 11 日  
運 営 会 議

(目 的)

- 1 本校の授業を質的に向上させるため、各教員が自由に他の教員の授業を参観し、各教員の授業改善に役立てることを目的とする。

(方 法)

- 2 全校一斉に授業参観期間（以後「参観期間」という。）を設定し、事前に許可を取ることなく、どの授業でも自由に参観できるものとする。

(参観期間)

- 3 参観期間は2週間とし、前期と後期に各1回設定するものとする。原則として、前期は6月（前期中間試験以降）、後期は11月（高専祭以降）とする。

(参観回数)

- 4 前期及び後期参観期間に、それぞれ1回以上他の授業を参観するものとする。

(授業参観アンケート)

- 5 授業参観後、1週間以内に報告書（記名）とアンケート（無記名）を提出するものとする。

- 6 報告書とアンケートはFD部会でとりまとめ、教務主事に報告するとともに、今後の授業改善に資するものとする。

附 則

この要項は、平成17年10月11日から実施する。

(出典 庶務課資料)

資料 9 - 1 - ⑤ - 5

## 授 業 参 観 者 の 意 見 ・ 感 想

## 1. 良かった点

- ・先週行った実験の結果を質疑応答しながら行った点
- ・PC、プロジェクター、OHP等を多用して、目と耳に訴える形で授業を進めている。
- ・板書がきれいで丁寧。見やすくノートを取りやすい。話しもゆっくりで聴き取りやすく、わかりやすい。
- ・高専祭で学生が展示していた「電子ホテル」の話題から入るなど、導入がスムーズ。
- ・学生が参加せざるを得ない方策をとっていた。
- ・教室内を巡回して、学生に注意を与えていた。
- ・教室内を時々移動して、授業に参加していない、寝ている学生などを注意している。
- ・教科書のポイントに下線を引かせている。資料プリントを用意している。宿題レポートを与えている。
- ・実践的なトレーニングであること。
- ・学生の書いた作文を抄出してプリントにし、解説していくという授業方法。
- ・質問に答えたり、意見を言えば加点するところ。
- ・本を読み指名して、どこかわからなければ減点するところ。
- ・斜面崩壊(スレーキング現象)の話をまじえての説明で、少しは学生の興味を引いたように思えた。
- ・教科書をあまり意識せずに授業の内容(安全率の算定式の誘導過程)が進められており、学生の集中度が上がっているように思えた。
- ・黒板の字・グラフが大きくわかりやすい。
- ・問題に対する解答が詳細である。
- ・添付資料のとおり、よく準備されたホームルームである。情報から隔離されているため、このようなことは必要である。
- ・プリントを準備し、丁寧に解説を加えながら講義を進めていた。
- ・差別問題を取り上げ、学生に文学作品の主人公と感情を同化させながら、考える時間を持つように工夫されていた。
- ・国語という難しい授業にもかかわらず、大変学生を引きつける授業であった。
- ・声、板書、とても安定感のある授業であった。
- ・板書が読みやすく、文字がきれいであった。
- ・図がきれいであった。
- ・演習を取り入れていた。

(出典 平成17年度教務委員会ウェブページ)

(分析結果とその根拠理由)

授業改善を目的とした授業公開，授業参観などによる各種評価結果に基づき，教員自身が授業改善計画を提出し，学校として教育改善が把握できるシステムができています。これにより，個々の教員は，継続して改善活動を推進するとともに，その状況は，学校も把握している。

**観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。**

(観点到に係る状況)

本校の研究目的に沿って，各教員の専門分野に係る教育研究・技術研究・学術研究を推進するため様々な研究成果を発表している。その状況を資料 9-1-⑥-1 に示す。これらの研究は，例えば，資料 9-1-⑥-2 に示されるようにそのテーマと担当科目とが密接に関係している場合が多く，その成果は教員の専門分野の授業に生かされている。実験・実習，学科の公開講座，地域共同テクノセンタでの勉強会，舞鶴技術研究会の技術懇談会，ベンチャー会社からの受託研究，ロボコン指導などから教科書を上梓し授業に反映させる例もある(資料 9-1-⑥-3)。さらに，資料 9-1-⑥-4 のように，準学士課程の卒業研究，専攻科課程の特別研究に関する成果の一部は，学会に参加して発表されている(○印は学生)。教員や学生の学会の参加は，最新の情報を入手できる機会であり，得られた知見に基づき教育・研究の改善への意欲を高めている。このような活動は，後輩学生にもよい影響を与え，継続的な改善に結びついている。

資料 9-1-⑥-1

区 分	査読論文	著書	国際会議	学会発表	特許	その他	計
人文科学部門	5	6	3	5		7	26
自然科学部門	5	1	2	5		2	15
機 械 工 学 科	7	4	6	17	5	1	40
電気情報工学科	15		3	39 (+4)		11 (+1)	68 (+5)
電子制御工学科	6		2	22 (+5)	1	3	34 (+5)
建設システム工学科	4	2	3	12 (+1)			21 (+1)
教育研究支援センター	1						1
合 計	43	13	19	100 (+10)	6	24 (+1)	205 (+11)

(+数字) は他学科との共著者を外数で示す。

(出典 舞鶴高専年報第2号)

学校運営

Annual Report 2004

機械工学科

## 機械工学科

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
井潤 弘昭 (工学修士)	教授	・学級副担任 (1-2)	①材料力学 I ②機械力学 ③金属材料学 ④機械工学実験 I ⑤卒業研究	材料力学	金属疲労損傷の非破壊的検出に関する研究
牧野 州秀 (工学博士)	教授	・学級担任 (4M)	①熱力学 ②熱工学 ③工業外国語 I ④機械工学実験 I・II ⑤卒業研究	①熱伝達 ②熱伝導	①相変化を伴う熱伝達 ②非定常熱伝導
川勝 邦夫 (工学修士)	教授	・学科長	①工作実習 I・II ②機構学 ③設計製図IV ④考案設計製作 ⑤機械設計法 ⑥ロボット工学 ⑦卒業研究 ⑧特別演習 ⑨インターンシップ	①機械設計 ②溶接工学	①廃ガラス瓶粉碎装置の試作設計 ②小型風力発電装置の試作
辻 正 (博士<工学>)	教授		①計測工学 ②動的設計論	①原動機工学 ②動力・エネルギー ギブラント工学	①高効率発電システムの開発 ②「炭酸ガス排出量削減」「燃料多様化」に対応した新発電方式の研究
岩崎 和春 (博士<工学>)	教授	・寮務主事補	①電気工学 ②材料学 I ③電子工学 ④卒業研究 ⑤特別演習 ⑥特別研究	①材料物性工学 ②材料物理化学	ゾルゲル法による微粒子・薄膜合成とキャラクタリゼーション
高田 暁男 (博士<工学>)	助教授	・学級担任 (3M)	①工作法 I ②設計製図 II ③要素設計法 ④工学基礎 ⑤材料学 II ⑥工作機械 ⑦機械工学実験 II ⑧卒業研究 ⑨特別研究	①材料力学 ②機械材料	鉛系及び非鉛系はんだのクリープ及びクリープ破断に関する研究
白藤 中生 (工学士)	助教授	・就職委員長	①情報リテラシ ②工学基礎 ③工業力学 I・II ④設計製図 III ④システム工学 ⑤生産工学 ⑥卒業研究	①材料 ②材料力学 ③設計工学	材料の高温低サイクル疲労



資料 9-1-⑥-3

Subject: [all-staff:00766] 近刊案内  
 Date: Wed, 01 Mar 2006 08:40:33 +0900  
 From: Hidekazu Machida  
 Reply-To:  
 To:  
 CC:

町田@舞鶴高専Sです。

To 舞鶴高専教職員各位

お早うございます。あっという間に3月になり、もうじき春休みです。

さて、近刊される町田の著書を紹介いたします。  
 本屋さんには、3/12(日)ころから並ぶそうです。  
 # 来年度4SのPBL「創造設計プロジェクト」の教科書に採用します。

-----  
 いまからはじめる電子工作

http:

- ・ 著者：町田 秀和 著，オーム社
- ・ 定価：2520円(本体2400円+税)，B5変276頁，ISBN 4-274-06644-4，2006/03
- ・

(出典 校内メール)

(分析結果とその根拠理由)

教員の教育研究・技術研究・学術研究は、すべて教育活動を活性化するものであり、教育の質の改善に寄与している。多くの場合、教員の研究は、卒業研究・特別研究に関連させて実施されており、卒業研究・特別研究の成果を学会発表に結びつけることによって、学生の研究に取り組む姿勢を大きく向上させ研究意欲を高めている。

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

FD部会は、教務委員会の下に組織されている。委員は校長の指名によって決定される。平成17年度は、部会長及び委員7名(教員6名と学生課長)の構成である。FD部会の活動方針を資料 9-2-①-1に、活動計画の例を資料 9-2-①-2に示す。舞鶴高専年報に記載された平成15年度の活動報告を資料 9-2-①-3に示す。

## 電子制御工学科

天野 耀鴻

## 査読付論文

リアルタイムインターフェースを用いた汎用駆動システムによる同期モータの特性評価, 電気学会論文誌 D, Vol.124, No.10, pp.1023-1028, (2004.10), 天野耀鴻, 小笠原悟司

三次元有限要素法による三相型両サイド DC 回転機の特性解析, 舞鶴高専紀要, No.40, pp.46-49, (2005.3), 松本光太郎, 天野耀鴻

ニューラルネットを用いた同期リラクタンスモータの適応制御, 舞鶴高専紀要, No.40, pp.50-54, (2005.3), 山本玲緒奈, 天野耀鴻

## 国際会議

Characteristic Evaluation for Synchronous Motors Using a Universal Drive System, 2004 IEEE Industry Applications Conference 39th IAS Annual Meeting, #69p3, (2004.11), Yoko Amano and Satoshi Ogasawara

## 学会発表

An Optimal Current-Control Design for Synchronous Reluctance Motor by ILQ Design Method, 平成 16 年電気学会産業応用部門大会講演論文集, pp.I-421-422, (2004.9), Zahari Asyran, Masashiko Higashimouji and Yoko AMANO

ILQ を用いた同期リラクタンスモータ最適トルク制御システム, 平成 16 年電気学会産業応用部門大会講演論文集, pp.I-419-420, (2004.9), 榎小路雅彦, モハマト アシュラン, 天野耀鴻

ニューラルネットを用いた同期リラクタンスモータのパラメータ同定システムの設計, 平成 16 年電気学会産業応用部門大会講演論文集, pp.I-417-418, (2004.9), 山本玲緒奈, 天野耀鴻

三次元有限要素法による三相型両サイド DC 回転機の電磁界解析, 平成 16 年電気学会産業応用部門大会講演論文集, pp.III-515-516, (2004.9), 松本光太郎, 天野耀鴻, 陳青明

有限要素法を用いた同期リラクタンスモータの特性解析, 平成 16 年電気学会産業応用部門大会講演論文集, pp.III-505-510, (2004.9), 天野耀鴻, 小笠原悟司, 陳青明

ニューラルネットを用いた同期リラクタンス電動機の適応制御システムの設計, 平成 16 年度電気学会全国大会, Vol.4, p.207, (2004.3), 山本玲緒奈, 天野耀鴻

高効率の風力発電システムに関する研究, 平成 16 年度電気学会全国大会, Vol.6, p.20, (2004.3), 吉見浩司, 天野耀鴻, 梶原宏之

有限要素法を用いた同期リラクタンス電動機の磁場解析, 平成 16 年度電気学会全国大会, Vol.5, p.111, (2004.3), 松本光太郎, 井上 真, 松下巧一, 川勝邦夫, 天野耀鴻

(出典 舞鶴高専年報第 2 号研究業績の一部)

資料9-2-①-1

平成17年4月8日

第1回 教務委員会・FD部会議事概要

FD部会長  
金森

日時：平成17年4月8日（金）9:00-10:30

場所：多目的会議室

出席者：梅原，松井，梅垣，辻，竹澤，四蔵，金森

欠席者：学生課長（始業式準備）

内容：

1. 下記に示す本年度の担当内容について部会長から説明があった。
  - ・科目群連絡会
  - ・授業公開
  - ・授業アンケート
  - ・FD講演会，勉強会の企画実施
2. 科目群連絡会について，これまでの経緯について説明があり，下記内容について意見交換がなされた。
  - ・昨年度，自己点検・評価部会で了承済み資料の説明
  - ・実施計画の実行について
3. 授業公開について，下記内容について説明があり意見交換が行われた。
  - ・現行制度の運用
  - ・新規導入を含めた改善
4. 下記に示す授業アンケートの事項について説明され，意見が交換された。
  - ・昨年度の集計の実施状況
  - ・授業アンケートの活用，教員へのフィードバック
  - ・実験，演習，研究指導などのアンケートについて
5. FD講演会，勉強会の企画及び実施の必要性について意見が交換され，下記内容の実施について合意された。
  - ・FD講演会の企画と実行
  - ・勉強会，教員研修会などの企画と実行
  - ・FDポイント制による参加の奨励

<決定事項>

1. 科目間連絡ネットワーク構築の試行要領について別紙のとおり一部訂正し，次回の教務委員会に提案する。
2. 科目群連絡会の実施について次回の教員会議で説明し，各教員の理解を求める必要がある。
3. 科目群連絡会・主査による連絡会を開催し，意見調整を行う。

以 上

（出典 学生課資料）

## 第4回FD部会議事概要

日時 平成17年7月13日(水) 16:20~17:15  
 場所 多目的会議室  
 出席者 中尾学生課長, 辻, 松井, 梅垣, 四蔵, 金森  
 欠席者 竹澤, 梅原  
 記録 金森

## 1. FD講演会について

- (1) 講師について 前回の部会で推薦された候補者に優先順位をつけ、上から順に依頼していくことになった。順位は①奥崎真理子(函館高専)②浅野 誠(元中京大学)③田中每実(京都大)④溝上慎一(京都大)となった。依頼は金森が行う。
- (2) 開催日は一応10月18日(火) 15:00~17:15とする。校長、庶務課には確認済み。講演会は学外へも案内し、地域社会にも寄与するものとする。

## 2. 学生による授業アンケートについて

- (1) 対象とする科目 昨年と同様、教員一人当たり2科目を標準とする。授業改善の効果を確認したいので、アンケート対象科目は3年間ほど変えないこととする。しかし、昨年度実施した科目の中で、適切ではない科目があるかも知れないので、対象科目については7月中に全教員にアンケートをとることにする。担当は四蔵教員。
- (2) 前期末の実施について 昨年度実施した前期の科目を、原則として前期末に実施する。実施科目が不適切な場合と判断される場合のみ変更する。
- (3) 回答用カードの更新について 回答用カードにおいて、これまで使用していたものは、科目・教員データの桁数が不足しており、本年度から回答用カードを更新する。それに伴って、「学生アンケート実施要領」を修正する必要がある。
- (4) 実施時期は9月5日(月)~9月16日(金)とする。
- (5) 実技、実験、実習、研究についても授業アンケートを実施することで合意した。設問項目については、実技及び実験科目について四蔵教員が、実習及び研究科目については竹澤教員が原案を作成し、9月のFD部会で提案することになった。

## 3. 前期授業公開の実施について

- (1) 実施要領について説明が行われた。昨年度は自己点検・評価部会が担当したが本年度からFD部会が担当することとなった。現在、学科(部門)長に、公開する科目、内部及び外部評価者の選出を依頼中。

## 4. パネルディスカッションについて

- (1) ブレーンストーミングの実施 各学科・部門で、10月~11月にブレーンストーミングを実施してもらう。テーマは、FD講演会のテーマと合せ、講演内容に関連した内容とする。コーディネーターは、FD部会委員が担当する。楽しく、気軽に、お茶でも飲みながら、自由に意見を出し合える雰囲気をつくる。
- (2) パネルディスカッションの実施 各学科・部門で行ったブレーンストーミングの結果をパネリストがまとめ、発表することとする。パネリストは、昨年度授業アンケートの高得点者とする。開催日は、一応11月29日(火)とする。校長・庶務課長には確認済み。

## 5. その他

- (1) 教育やFDにこだわらず、もっと異業種の方(例えば、話し方のプロ)などを積極的に招いて、興味を刺激するとともに、発想の転換や思考の発展を促進させることが重要であり、それが本来のFDに結び付くのでは・・・という意見があった。

(出典 学生課資料)

### 【FD部会】

FD 部会では、年度当初の 3 つのテーマについて検討することとして活動を行った。

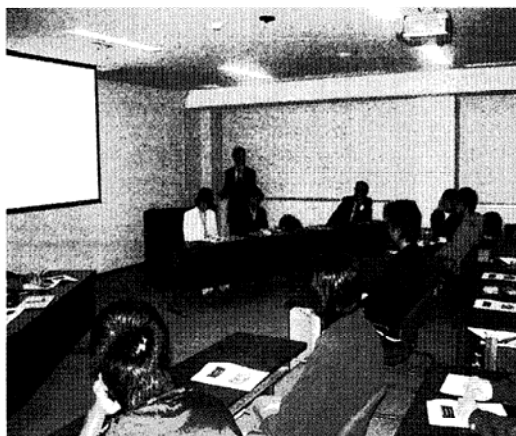
- (1) FD 講習会の開催
- (2) 教員の FD 活動への積極的参加促進の方策検討
- (3) 授業参観型授業公開の実施検討

FD 講習会の開催については、講師の選定まで進めたが実施を見送り、自己点検・評価部会と共同で、教育改善パネルディスカッションを開催した。テーマは、「よりよい授業とは」とした。教育改善パネルディスカッションでは、教職員 (44 名)、4 年生以上の本科学学生、専攻科生も 22 名が参加し、授業改善ワーキンググループのメンバー (リーダー：金森教員) がパネリストとなり、活発な意見交換が行われた。各パネリストの提供した話題を以下に示す。

- 1) よりよい授業とは (電子制御工学科；川田昌克教員)
- 2) 普通の授業の工夫 (自然科学部門；小松幸恵教員)
- 3) 学生の自主性を育む授業 (人文科学部門；宮崎操教員)
- 4) 視聴覚教材の活用, e-learning (電気情報工学科；片山英昭教員)
- 5) 創造性を育む授業 (機械工学科；西山等教員)
- 6) よりよい研究指導 (建設システム工学科；三輪浩教員)

(FD 部会部会長 中川重康記)

#### パネルディスカッション風景



(出典 舞鶴高専年報, 第 2 号 7 頁)

(分析結果とその根拠理由)

FD 部会は、教務委員会の下に組織され、着実に実施されている。特に、授業公開は平成 14 年度から継続的に実施されており、それ以降のデータの蓄積と分析を行っている。評価結果は担当教員に報告され、それに対する改善案を提出するシステムができています。平成 17 年度は、特許講習会 4 回、教員あたり 2 科目の授業アンケート、授業公開、FD 講演会、およびパネルディスカッションを実施した。従って、組織として適切な方法で実施されている。

観点 9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

教務委員会FD部会の活動は活発である。平成16年度パネルディスカッションでは、FD委員6名が話題を提供して授業改善のための具体的な教育手法を示し、活発な意見交換を行った。平成17年度もパネルディスカッションが開催され、前年と同様、質疑応答では、学生から学校に対する多数の意見や質問等があり、予定時間を超過して議論された(資料9-2-②-1)。一方、パネルディスカッションに先行してFD講演会が開催され、多数の教員が研修に参加した(資料9-2-①-3)。

平成17年度授業公開は、例年通り、前期と後期に分けて実施された。前期授業公開については資料9-1-⑤-2に示す6名が担当して実施された。その評価と改善計画例を資料9-2-②-2に示す。

(分析結果とその根拠理由)

教務委員会FD部会によるパネルディスカッションは、学生と教職員を交えて平成15年度より実施されている。ここでは、教員も学生も率直な意見を述べて活発な質疑応答を行っている。パネルディスカッションは、アンケート調査とは別の面の意見や問題点が明らかにされ、教育の質の向上や授業の改善に寄与している。このように、ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

平成17年11月21日

## 第6回FD部会議事概要

日 時 平成17年11月21日(月) 16:20~17:15  
 場 所 多目的会議室  
 出席者 梅原, 四蔵, 竹澤, 辻, 松井, 金森  
 欠席者 梅垣, 中尾学生課長  
 記 録 金森

## 1. 取りまとめ報告

平成16年度授業アンケート, 科目群連絡会及び授業公開のとりまとめ報告が行われた。取りまとめの担当は次のとおり。

授業アンケート: 金森部会長, 科目群連絡会: 辻委員, 授業公開: 松井委員

## 2. FDパネルディスカッションについて(資料1)

日 時: 平成17年12月14日(水)

場 所: 視聴覚第一教室

テーマ: 一よりよい授業改善を目指して一

司会: 金森部会長

パネリスト 四蔵委員: 平成16年度授業アンケート報告(7分)

辻 委員: 科目群連絡会報告(7分)

松井委員: 授業公開・授業参観報告(7分)

田中裕崇(学生代表): 授業・学校に対する要望(7分)

和田教員(授業アンケート最高得点者): 授業改善事例(7分)

## 3. 後期授業公開の実施について

後期の授業公開を実施するか否かについて話し合った。授業参観を実施したので, 授業公開はやらなくてもよいという考え方もあるが, 下記の理由より後期授業公開を実施する方向で合意した。

- (1) 授業参観は, 気楽に他の授業を参観し, 良いところを取り込んで授業改善して行こうという趣旨であり, 授業公開とは趣旨が異なっている。
- (2) 授業参観は試行であり, 教員の反応や意見, 効果などをチェックした上で, 授業公開とのバランスを整える必要がある。

## 4. 授業アンケートの設問について

シラバスの設問の見直しを行い, 下記の改正が提案された。

- (1) 「シラバスを授業前に読みましたか。」を「シラバスを読みましたか。」あるいは「シラバスを活用しましたか。」に変える。
- (2) 「シラバスに記述されている達成目標は達成できましたか。」を追加する。
- (3) 「シラバスに記述されている授業内容や方法は参考になりましたか。」を「シラバスに沿って授業が進められましたか。」に変える。
- (4) 本年度は既に前期に実施しているので, 設問の改正は来年度からが望ましい。

## 5. 後期の科目群連絡会の計画, 授業アンケート集計結果のフォーマットが提案された。

配布資料: 後期・科目群連絡会計画

授業アンケート集計結果のフォーマット

以 上

(出典 平成17年度教務委員会ウェブページ)

授業公開報告書

授業科目	数学IC	1 学年 2 クラス
教員名	野間正泰	実施日 H17年 9月 7 日
評価者(所属等)	亀谷 睦 (自然科学部門)	
評価者の見解		
<p>数学ICは指数・対数関数と三角関数Eの内容とする数学科目である。今回の授業では、鋭角の三角比について対数関数の相互関係 (<math>\tan \theta = \sin \theta / \cos \theta</math> や <math>\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1</math> など) が一般角 <math>\theta</math> についても成立することを示すのが主な内容であった。まず教科書に従って、「原点を中心とし半径1の円周上の動点 <math>P(x, y)</math> を考え、動径 <math>OP</math> が <math>x</math> 軸の正方向と取る角を <math>\theta</math> とすると、<math>\sin \theta = y/r</math>、<math>\cos \theta = x/r</math>、<math>\tan \theta = y/x</math> と定義」という定義が述べられていたが、この定義は「<math>r = 1</math> とした場合が話が簡明に伝わる」と思われる。また、<math>r = 1</math> とし「<math>\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1</math> が単位円方程式 <math>x^2 + y^2 = 1</math> と同値」との説明があったが、同時進行の数学IAにおいて円の方程式が未習であることを見逃されなかった。また「<math>\theta</math> が <math>\pi/2</math> 象限の角で <math>\sin \theta = 3/5</math> とし、<math>\cos \theta</math> と <math>\tan \theta</math> を求めよ」という問題を別解として、「<math>\theta</math> が鋭角では <math>\cos \theta</math> と <math>\tan \theta</math> を求めよ、その後 <math>\theta</math> が <math>\pi/2</math> 象限という条件を考慮して <math>\cos \theta</math> と <math>\tan \theta</math> の符号を付け変えよ」という解法が紹介されていたが、これは <math>\theta</math> が <math>\pi/2</math> 象限という条件を考慮し、鋭角の三角関数の定義の理解を深める観点で説明するよりも先に <math>\cos \theta</math> と <math>\tan \theta</math> の符号を考慮し、<math>\pi/2</math> 象限の図を描くことが優先されるべきではないかと思われた。なお授業の終了後に練習の時間が取り入れられていたが、解答のヒントが与えられておらず時間不足に陥ったことが残念であった。</p> <p>このように見ると、今回の授業はよく準備ができていて、全般的にスムーズに進行した。学生とのやり取りも少しあったが印象が良かった。また可能な限り、もう少し内容の量を控えた方が今回の授業の本質が学生に伝わりやすかったのではないかと感じた。最終的には授業が満足に伝わったことが残念であった。</p>		
(理) 授業担当教員とのヒアリング結果		
<p>外部評価者A (理系の高校数学教師) から「授業の内容が面白い。高校の経験ではもっと面白くない計算も教科書には与えられなかった」と指摘があった。また黒板の図示の際に、符号の量「<math>x</math>」と正の量「<math> x </math>」との混同が見られたという注意と、今回の授業の後半は話が込み過ぎたという感想があった。また別の外部評価者 (本校OB) から、もう少し時間を取ると授業が「ト」を取らなくて勢いが落ちると指摘があった。この指摘に対し担当教員からは「1年分の進捗を考えると、進コマでは必然的に急がざるを得ない」との回答があり、これには苦痛のようも教員に同意せざるを得ないと感じた。また他学科の評価者から「3年次の専門科目で三角関数を用いるが学生は見事なほど上手に習得している。学生の理解度のチェックはどのようにしているか」との問いがあり、担当教員からは「JEXの問題演習と定期試験で確認している。特に難問を出している訳ではないが、試験の平均点は70点位」との回答があった。このことは、試験で得られる理解度とそれ後の定着度が一一致して示す一例だと思われ、定着度を高めるための工夫の報告と見られる。</p>		
(理) 学生とのヒアリング結果		
<p>学生からは「今日は <math>\sin</math> の授業のテンションが高かった」との感想があった。外部評価者から「あの <math>\sin</math> の教科書について、少なくとも定義はその場々で理解して来た」との問いが出され、学生からの回答は「あの <math>\sin</math> を見るだけで分かる」との回答であった。授業のスピードは速く演習問題を解くとまにまに <math>\sin</math> が分かることもあって、学生からは「<math>\sin</math> が面白い授業」との印象ももっているようであった。また「<math>\sin</math> と教科書を照らし合わせると理解が深まる」との回答もあった。授業を総括した教員から「<math>\sin</math> を取りたいと不安か。教科書に書かれていない <math>\sin</math> に写す、話を聴くことに集中してらっしゃるか」との問いが出されたが、学生は <math>\sin</math> を取りたいと不安はなかった。昨今の学生は概して <math>\sin</math> の <math>\sin</math> は (特に見えない) を求める傾向が強いのではないかと、高校の現場においても見られる共通の傾向だ」ということとなった。</p>		



## 授業改善プラン報告書

授業科目	数 学 I C	1 学年	2 クラス
教員名	野 間 正 泰	実施日時	平成 17 年 9 月 7 日

## 授業改善プラン

数学 I C は指数関数、対数関数と三角関数を学習する科目である。今回の授業では、すでに説明した鋭角の三角比において成り立つ関係  $[\sin^2\theta + \cos^2\theta = 1, \tan\theta = \sin\theta/\cos\theta \text{ など}]$  が一般角  $\theta$  についても成り立つことを示すことが主眼であった。

まず、教科書に従い「原点を中心とする半径  $r$  の円周上の動点  $P(x, y)$  を考え、動径  $OP$  が  $x$  軸の正方向となす角を  $\theta$  とするとき、 $\sin\theta = y/r, \cos\theta = x/r, \tan\theta = y/x$  と定める。」と定義を述べたが、主査の指摘があるように、 $r=1$  として取り扱った方が簡明であったと考える。

補足として、「 $r=1$  の場合は、 $\sin^2\theta + \cos^2\theta = 1$  は、単位円の方程式  $x^2 + y^2 = 1$  と同値である。」との説明を行ったが、「同時進行の数学 I A において、これは未習である。」との指摘が主査からあった。

数学 I C では、やむを得ず、未習の内容を習ったものとして、それに基づき説明する箇所がいくつかあるが、これは 1 冊の教科書を複数教員、同時進行で教える場合に生じる問題点であり、シラバスおよび教科書の内容確認と担当教員間で情報を共有することで改善したい。

また、主査から「例題： $\theta$  が第 2 象限の角で、 $\sin\theta = 2/3$  のとき、 $\cos\theta$  と  $\tan\theta$  を求めよ。の別解として、まず、 $\theta$  を鋭角として図を描き、 $\cos\theta$  と  $\tan\theta$  を求めて、その後に  $\theta$  が第 2 象限という条件を考慮して  $\cos\theta$  と  $\tan\theta$  の符号をつけ変える。という解法が紹介されたが、これは便法であって本筋ではない。」との指摘があった。主査および外部評価者の指摘があるように、一般角の三角関数の定義を十分理解させる観点から、この例題に関して述べれば、先に  $\cos\theta$  と  $\tan\theta$  の符号を考え、第 2 象限の図を描かせることを優先して学生の理解を深めるようにしたい。

外部評価者から「時間的な問題もあるが、演習の時間をもっととれないか？」との指摘があった。通常は前半 50 分程度を説明、後半 40 分程度を演習の時間としている。

一方、主査から「授業終了間際に演習の時間が取り入れられていたが、回答へのヒントがいていねいに与えられてかえって時間不足になったのが残念だった。」とのコメントがあった。最小限のヒントを与えて、残りを学生に考えさせるようにするのが本筋であると考えるが、これを実行すると一部の優秀な学生には効果があるが、そうでない学生には演習の時間が退屈な待ち時間になってしまうことを危惧し、あえて 80～90% 程度まで説明を行っている。このことには少し工夫の余地が残されているかもわからないが、現状では難しい問題であると考えている。

主査から「学生とのやり取りはもう少しあった方がより良かっただろう。」との指摘があった。演習問題を数名に当てて板書させることが、学生の理解度の把握と緊張感を保つ上で有効にはたらいていると考えているが、アクセントをつけるために口頭の質問をときどきに入れるようにしていきたいと考える。

他学科の評価者から「3 年次の専門科目で三角関数を用いるが、学生は見事なほどにわかっていない。学生の理解度のチェックをどうしているか。」との問いがあった。試験の平均点は 70 点程度であるため、これは「試験で測ることができる理解度とその後の定着度が一致しないことを示す。」一例と考えられる。定着度を高めるためにどうすべきかという問題は、今後の課題としたい。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 「舞鶴高専年報」が例年発行されており、教育・研究活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積されている。
- ・ 授業公開に基づく教育改善は、平成13年度より毎年実施されており、完全に定着したシステムとなっている。
- ・ 学生の授業アンケートも平成9年度より毎年実施され、データとして適切に蓄積されている。分析結果は、各教員に伝えられ、授業改善のヒントを与えている。
- ・ 平成17年度の校長とのフリートーキングは、学生の意見が直接校長に伝わるので、その結果から迅速に教育改善される事例がある。
- ・ ファカルティ・ディベロップメントは、FD講習会、授業公開、授業アンケート、パネルディスカッションを通じて、教員が授業内容、方法を改善し、向上させるよう組織的に取り組んでいる。

(改善を要する点)

該当なし。

## (3) 基準9の自己評価の概要

平成3年7月1日に高等専門学校の設置基準が改正され、その大綱化が図られると共に、高等専門学校が自ら教育研究活動等の点検・評価を行うことが義務づけられた。これを受けて平成4年5月12日自己点検・評価検討準備委員会が設置され、次いで平成4年6月2日、自己点検・評価検討委員会が設置された。以後、平成16年度に運営委員会自己点検評価部会と改名され、さらに平成17年度評価委員会と改名されて現在に至るまで、自己点検評価ならびに教育改善の中心的役割を担ってきた。こうして、教職員の役割分担に基づき、継続的に教育改善する教育点検システムが構成されている。

本校における教育点検システムは、教務委員会等関連委員会が教育点検を実施し、また、科目群連絡会を通じて学科、および部門等で教育改善に関する活動も実施されている。このように、教育改善を図れる仕組みになっている。従って、教育の質の向上及び改善のシステムは十分に機能していると評価できる。

## 基準 10 財務

## (1) 観点ごとの分析

観点 10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行出来る資産を有しているか。  
また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

本校は、教育活動等を将来にわたって安定して遂行するために必要な土地・建物等の資産を有しており、平成 17 年 4 月現在における資産は資料 10-1-①-1 のとおりである。また、債務については資料 10-1-①-2 及び 3 に示すとおりである。運営費交付金等の範囲内で運営している。

資料10-1-①-1				
財 産 額 一 覧				
資 産 の 種 類		数 量	単 位	金 額 (円)
有形固定資産	土地	126,696.31	㎡	1,462,600,000
	建物	建て面積 15,896.49	㎡	1,758,910,000
		延べ面積 36,156.71	㎡	
	構築物	—	式	274,516,052
	工具器具備品	—	式	113,399,220
	車両運搬具	—	式	6,155,078
	その他	—	式	4,899,000
計			3,620,479,350	
無形固定資産	特許権	—	式	
	ソフトウェア	—	式	
	電話加入権	—	式	204,000
	特許権仮勘定	—	式	106,175
	計			310,175
合計			3,620,789,525	

(出典 会計課資料)

損益計算書(報告式)	
印刷	100%
1/7	戻る 進む
1	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
事業年度: 17年度	<b>損益計算書</b>
支部: 28_舞鶴工業高等専門学校	
会計区分: 国立高专機構	
部 署: 総括	
プロジェクト: 総括	
抄外:	平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月 31日
	(単位: 円)
[経常費用]	
業務費	
教育・研究経費	
消耗品費	43,566,758
備品費	11,449,210
印刷製本費	4,562,829
水道光熱費	
電気料	16,453,819
ガス料	4,011,605
水道料	954,290
旅費交通費	21,419,714
通信運搬費	22,995,819
賃借料	3,966,067
車両燃料費	329,500
福利厚生費	651,479
保守費	0
修繕費	11,255,200
損害保険料	73,927,254
損害保険料	0

(出典 財務会計システムより抜粋)

貸借対照表(報告式)	
事業年度： 17年度 支部： 28_舞鶴工業高等専門学校 会計区分： 国立高专機構 部署： 総括 アドレス外： 総括 対象： 総括	
<b>貸借対照表</b> 平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日	
(単位：円)	
[資産の部]	
流動資産	
現金及び預金	
現金	0
当座預金	0
普通預金	231,633,254
定期預金	0
その他預金	0
	231,633,254
有価証券	
有価証券	0
受取手形	
受取手形	0
未収学生納付金収入	
未収学生納付金収入	338,400
	338,400
棚卸資産	
未成研究支出金	0
未成専業支出金	0
貯蔵品	0
	0
未収入金	

(出典 財務会計システムより抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

資料 10-1-①-1 で示すように教育研究活動を将来にわたって安定して遂行するために必要な資産を有しており、また、長期及び短期の借入金はなく、資料 10-1-①-2 及び 3 に示すように健全な運営を行っている。

以上のことから、十分な財務基盤を有している。

観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

平成17年度からは毎年運営費交付金(特定の人件費を除く)が前年度1%(効率化係数)削減となり、更なる運営の合理化・効率化を図るため、本校においては、資料10-1-②-1のとおり業務の効率化、経費の節減・節約に努めている。

また、資料10-1-②-2のとおり全校あげての入学志願者確保方策により、経常的収入が継続的に確保されている。

資料10-1-②-1	
経費節減等への取り組み	
取組事例	実施内容
省エネ対策	省エネ推進グループなる組織を立ち上げ、全校あげての省エネ活動に取り組んでいる。
	全校に対する啓蒙により前年度比-2%の光熱水料の削減を目標としている。
事務経費の削減	定期刊行物・追録の見直しによる支出減
	ペーパーレス化の推進によるPPC用紙・トナーなどの複写経費の節減
	広報用印刷物の見直しによる印刷経費の節減
	職員によるグラウンドの除草による維持管理経費の節減
	職員によるプール清掃による維持管理経費の節減

(出典 会計課資料)

資料10-1-②-2					
収入の確保等の状況(授業料, 外部資金等)					
(単位: 千円)					
区分	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
授業料及び入学検定料	193,889	192,845	200,296	185,185	211,265
産学連携等研究収入	2,071	4,194	1,333	1,529	927
雑収入	19,153	20,663	16,694	15,310	12,587
計	215,113	217,702	218,323	202,024	224,779

(出典 会計課資料)

(分析結果とその根拠理由)

資料10-1-②-2で示すように、本校では経常的収入が継続的に確保されている。ただし、毎年1%(効率化係数)削減されていくので、今後さらなる収入の確保が必要になる。

観点 10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

本校の目的を達成するための中期目標・中期計画(資料 10-2-①-1 及び 2)は、独立行政法人国立高等専門学校機構(以下「高専機構」という。)の中期目標・中期計画を踏まえて策定し、関係者に明示している。本校の予算配分(別添資料 10-2-①-3)は運営会議において審議し、教員会議等を通じて教職員に周知している。なお、収入の確保については、平成 16 年度からは収支差補填の考え方を基本とした運営費交付金と、授業料・入学料・検定料の学生納付金が収入のほとんどを占めている。

(分析結果とその根拠理由)

資料 10-2-①-1 及び 2 で示すように、文部科学省の中期目標及び高専機構の中期計画を基本として、本校における中期目標・中期計画及び具体的な教育研究活動の方針を各種委員会及び運営会議において審議し、資料 10-2-①-3 の当初予算配分の基本方針を教職員に周知徹底を図った上で、予算を執行している。

以上のことから、計画等が十分に策定され、関係者に明示されている。

## 舞鶴工業高等専門学校中期目標（抜粋）

## 前 文

## （教育理念）

広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力、創造力、国際感覚豊かな実践的技術者を育成する。もって、産業の発展に寄与すること、並びに北近畿地域の教育、文化の基盤を支えることを使命とする。

## （養成すべき人材像）

本科においては、「ものづくり」技術を基盤として、専門的知識と幅広い教養を身につけた実践的な技術者を養成する。

専攻科においては、本科での教育を基礎として、より独創的な技術開発能力を有した人材を育成する。

## （教育方針）

- ① 実験、実習、演習、ものづくりを重視する。
- ② 基礎に立ち返って考えさせる。
- ③ 自ら学ぼうとする意欲を育てる。
- ④ 豊かな教養と国際性を育む。

（実践的技術者として備えるべき人文・社会系、体育並びに理数系を含む教養教育や外国語能力の内容・水準）

- ・工学系大学学部卒業レベルの人文・社会系科学の基礎を身に付けていること。
- ・健康の保持増進のための基礎知識を修得していること。
- ・専門科目の基礎として、十分な自然科学の知識を修得していること。
- ・国際社会で活躍できるコミュニケーション能力を身に付けていること。

（実践的技術者として備えるべき内容・水準）

## 〔機械工学科〕

理論と現象を正確に理解し、種々の事態に柔軟な思考力で的確に判断ができ、対処できる行動力を有し、ものづくりに関心が高く、種々の業界で製品及び生産設備の開発・設計ができ、これらの取り組みにおいて、コンピュータを道具として活用できる能力を有すること。

## 〔電気情報工学科〕

コンピュータ、情報通信、電子デバイス、電気エネルギー、制御技術などのハードウェア技術と、種々のテクノロジーを操るためのソフトウェアの素養を備え、社会人としてのモラルを有するシステムアナリストの素養を有していること。

## 〔電子制御工学科〕

実践的なメカトロニクス技術者となるために機械系科目、電気・電子系科目、計測・制御系科目及び情報系科目の4つの専門科目分野を修得していること。更に実習科目や工学実験、CAD 演習などの実験・実習系科目により実践的な技術力を身につけ、卒業研究を通じて自主的な「ものづくり」意欲と創造的な研究・開発能力を身につけていること。

## 〔建設システム工学科〕

21世紀の社会基盤整備を中心課題として、その計画、建設、運営、維持等を行うことができる素養を身につけていること。構造材料とその組み立て方、水や土等の自然環境、構造物構築のための調査方法に関わる「工学基礎

（出典 庶務課資料）



## 舞鶴工業高等専門学校中期計画（抜粋）

## I. 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

## 1. 教育に関する目標を達成するための措置

## (1) 目標に掲げる内容・水準を達成するための教育指導等

## ① 入学者選抜

## \*アドミッションポリシーの明確化

- ・平成16年度にアドミッションポリシーを明確にし、公表する。

## \*中学校の絶対評価による内申書内容のばらつきへの対応

- ・平成16年度から中学校の絶対評価による内申書内容のばらつきへの対応のため、推薦入試に小テストを導入する。

- ・また、推薦入試選抜による入学者数の割合を従来の30%から40%に変更する。

## \*学生の多様な進路希望への対応（編入学の在り方の検討）

- ・4年次への編入学試験も推薦と小テストを併用して、優秀な編入学者数を増やす。

- ・専攻科の入試においても幅広い推薦方法を活用して、優秀な入学者数を増やす。

## ② 教育課程，教育方法，成績評価等

## ○ 教育課程の編成方針

## \*カリキュラムについて不断に検討する仕組みの確立

- ・平成16年度に教務委員会カリキュラム部会（仮称）を発足させる。

## 【教養教育】

## \*TOEIC 達成目標：本科卒業時360点，専攻科修了時450点

- ・教科内容を充実するとともに、「英語合宿」等を強化，推進する。

## \*学生の多様な進路希望への対応（1～3年次のカリキュラムの検討）

- ・1～3年次のカリキュラムを，高専の楔形カリキュラムの長所を活かしながら高等学校での教科内容に沿った内容に改善する。

## \*「ものづくり」の動機付け科目の導入

- ・「ものづくり」のための導入科目として技術の基礎に関連する科目を1～2年次に配当する。

## 【専門教育】

## \*学生の多様な進路希望への対応（カリキュラム編成から見た転学科制度の見直し）

- ・取用可能人数の範囲内で転学科を認めるとともに，転学科しても支障のないようにカリキュラムの整備を図る。

## \*技術者倫理教育，情報教育の強化

- ・平成17年度から技術者倫理教育を実施する。

- ・1年または2年次の全学科に情報基礎科目を導入する。

## \*インターンシップの充実・平成16年度から北近畿地域の産業界と連携して，インターンシップの受け入れ先を増やす。

## \*4～5年次における Semester 制の導入

- ・Semester 制を導入出来るように，平成17年度からカリキュラムを編成し直す。

## 【専攻科教育】

## \*7年間一貫カリキュラムの構築（平成17年度）

- ・7年間一貫カリキュラムを構築するため，平成16年度からカリキュラムの見直しを始める。

## \*学生の多様な進路希望への対応（補講システムの構築）

- ・他高専からの専攻科入学生に対する補講システムを構築する。

(出典 庶務課資料)

## 平成17年度校内予算配分方針

平成17年度校内予算配分については、16年度と同様に運営費交付金及び自己収入分（入学料・授業料収入等）の額を予算額とし、人件費（法定福利費を含む）と業務費（物件費）とに大別し配分する。

人件費については機構配分どおり、業務費の配分については、前年度実績を考慮しつつ、機構からの配分額及び所要額を精査し配分する。

### 1. 人件費（法定福利費を含む）

人件費は常勤教職員人件費・超過勤務手当・退職手当とし、機構からの配分どおりとした。

### 2. 業務費（物件費）

平成17年度においても、前年度と同様に一般管理費・教育研究経費（校長裁量経費を含む）・教育研究支援経費に分けて配分する。

(1) 一般管理費としては、光熱水量・業務委託関係・維持管理関係など管理運営上必要となる共通的経費であり、「前年度支出実績」・「積み上げ」・「コスト削減等査定」などを勘案の上、積算した。

(2) 教育研究経費の学科等配分については、前年度配分額を考慮の上、機構からの配分に準じることとする。

教育経費については学生一人当たり28,263円（本科）・22,843円（専攻科）、研究経費については教員一人当たり501,895円の機構配分単価を基準として、人員数を乗して積算することとする。

平成17年度については、各学科積算額の50%を控除し、魅力ある学校作りのために校長裁量経費の財源に充当するものとする。

(3) 校長裁量経費については、前年度と同様の扱いとし、公募により追加配分するものとする。

(出典 運営会議資料)

観点 10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

本校においては、運営会議で予算配分計画を策定し、支出については機構本部が一括管理している財務会計システムにおいて毎月締め作業を行い管理している。

資料 10-1-①-2 に損益計算書（抜粋）を、資料 10-1-①-3 に貸借対照表（抜粋）を示す。

(分析結果とその根拠理由)

資料 10-1-①-2 及び 3 で示すように、収支決算については財務会計システムで一元管理されており、毎月締めで支出超過にならないようチェックしているため過大な支出超過になっていない。

観点 10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

(観点に係る状況)

実験機器等については、先端技術を学生に教育することが必要で、最新の実験教育システムを導入・構築することを目指し、また、施設については老朽化により早急に改修・改築を必要とする建物（特に学寮）が多く、教育研究の場として相応しい環境の整備が必要となっている（資料 10-2-③-1）。しかしながら、近年の厳しい財政事情により、機器等の更新、施設の改修・改築については、予算化が困難な状況である。

そこで本校では、校内予算配分において、研究経費・教育経費等を集約して「教育研究実施経費」とし、各学科・部門等配分額の 50% を「校長裁量経費」に充当し、財源の確保を行っている（資料 10-2-①-3, 資料 10-2-③-2）。校長裁量経費は教育・研究・施設整備などの事業について、ヒアリングを行い、必要性・緊急性・有効性等を勘案の上、審査・採択・配分を行い、教育研究活動の停滞を招くことのないよう努力しているところである。

資料 10-2-③-1

老朽化等により改修・改築を必要とする主な建物

建物名称	建築年	構造・階数	面積
学寮 1 号館	S 41, H 10	R C - 4	1,454m <sup>2</sup>
学寮 2 号館	S 42	R C - 3	624m <sup>2</sup>
学寮 3 号館	S 42	R C - 3	1,646m <sup>2</sup>
学寮 4 号館	S 44	R C - 3	1,193m <sup>2</sup>
学寮 5 号館	S 46	R C - 3	1,610m <sup>2</sup>
管理部および一般教科棟	S 41, H 14	R C - 4	3,719m <sup>2</sup>

(出典 平成17年度学校概要)

資料 10-2-③-2

## 平成 17 年度校長裁量経費の採択結果について

(単位：千円)

区 分	採 択 基 準	採択件数	採択金額
教育経費	主に教育に係る事業	21	18,038
研究経費	主に研究に係る事業	14	10,021
管理的経費	施設整備・建物維持管理等	16	25,368

(出典 会計課資料)

(分析結果とその根拠理由)

校長裁量経費は、申請に基づき、審査機関が適切な審査・評価を行って配分しているため適正な資源配分がなされている。ただし、施設については資料 10-1-③-1 で示すように老朽化・耐震性の問題により、早急に改修・改築を必要とする建物が多く、教育研究の場として相応しい環境の整備には莫大な費用がかかり、苦慮しているところである。

**観点 10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されるか。**

(観点に係る状況)

独立行政法人国立高等専門学校機構が独立行政法人通則法第 38 条の規程に基づき、当該事業年度終了後 3 月以内に財務諸表を主務大臣に提出し、承認を受けた後、官報に公示し、書面を備え置くとともに、ウェブページへ掲載することとなっている。

(分析結果とその根拠理由)

独立行政法人通則法に基づき、機構として適切な形で公表される。

**観点 10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。**

(観点に係る状況)

独立行政法人国立高等専門学校機構の監事監査が順次行われ、また監査法人監査も行われることになっている。また、近畿地区 4 高専での相互監査を実施することになっている。監事は会計検査院出身者、相互監査は高専の会計事務熟練者であり、適正で厳格な監査となる。

(分析結果とその根拠理由)

平成 17 年度は機構の監事監査と近畿地区 4 高専相互監査を受検したが、特に指摘事項は無く、適正な会計事務を行っていることが証明された。この結果に満足することなく、さらに適正な会計事務を行うよう努力していく。

**(2) 優れた点及び改善を要する点**

(優れた点)

校長の強力なリーダーシップの下で産学連携を推進していること。  
校内での競争的資金配分を実施していること（校長裁量経費の枠増大）。

校長裁量経費の適切な計画・審査・配分の仕組みの策定及び、情報開示を実施していること。  
資産の良好な管理を行っていること。

(改善を要する点)

管理的経費の圧縮・効率化の更なる推進。

外部資金の更なる獲得に向けた体制作り。

### (3) 基準10の自己評価の概要

本校における教育研究活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために最低限必要な資産を有している。また、運営の合理化・効率化を図るため、業務の効率化・経費の節減を積極的に推進している。さらに教員による入試説明会等広報活動に力を入れ、経常的収入の確保・増加に積極的に取り組んでいる。しかしながら、平成17年度からは毎年運営費交付金(特定の人件費を除く)が、前年比1%(効率化係数)削減となり、今後さらなる収入の確保及び経費の節減が必要となってくる。

本校では、中期目標・中期計画を踏まえ、予算配分については運営会議で審議し、教員会議等を通じて教職員に周知している。教育・研究に係る予算については、「教育研究実施経費」として集約し、そのうち50%を校長のリーダーシップの下、本校の教育研究活動の活性化を図るための経費「校長裁量経費」に充当している。「校長裁量経費」は、申請に基づきヒアリングを実施し、校長が審査・決定し、配分を行っている。

本校の施設は、学寮を始めとして老朽化・耐震性の問題により、早急に改修・改築を必要とする建物が多いため、教育研究活動の場として相応しい環境の提供を可能とする施設整備が必要である。

今後高専機構の監事監査や、監査法人による監査などを順次監査を受検し、適正な財務会計処理を行い、内外に広く公表していく予定である。

## 基準 1 1 管理運営

## (1) 観点ごとの分析

観点 11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点に係る状況)

学校が目指す研究、教育活動、地域貢献等に関する事項を達成するために校長のリーダーシップを十分に発揮できるよう教務主事をはじめ各主事等が校長を補佐し、各種委員会において必要な検討、作業を行うよう各職の役割について明記されている。(資料 11-1-①-1～5)

各種委員会においては、校長から検討を指示された事項はもちろんであるが、日々の運用上の諸課題についても都度審議する体制を整え(資料 11-1-①-6)、運営会議の議を経た後、校長が最終決定を行う体制になっている。(資料 11-1-①-7)

また、本校における外部資金の獲得、地域連携の在り方など学校の将来像に直接関わる特化事項について企画、立案する企画室を校長直下に設け(資料 11-1-①-8)、提案事項を運営会議に付託し、将来計画の策定に資するとともに、関係委員会において具現化に向けての検討、実施する体制を整えている。

策定された計画案に基づき、学校運営が行われているかを評価する組織を運営会議の傘下に配置することにより、長期ビジョンに立った Plan-Do-Check-Action の機能強化を図るとともに、校長が将来構想及び評価を所掌する委員会の委員長に就くことにより、学校の方向性を明確に示す体制になっている。

資料 11-1-①-1

## 舞鶴工業高等専門学校学則

**(職員組織)**

第9条 本校に、校長、教授、助教授、講師、助手、事務職員及び技術職員を置く。

2 職員の職務は、学校教育法その他法令の定めるところによる。

**(教務主事、学生主事及び寮務主事)**

第10条 本校に、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

2 教務主事は、校長の命を受け教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

3 学生主事は、校長の命を受け学生の厚生補導に関すること(寮務主事の所掌に属するものを除く。)を掌理する。

4 寮務主事は、校長の命を受け学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

**(事務部)**

第11条 本校に、庶務、会計及び学生の厚生補導に関する事務を処理するため、事務部を置く。

(出典 舞鶴工業高等専門学校学則抜粋)

## 舞鶴工業高等専門学校組織規程

(趣旨)

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第1号。以下「規則」という。）第5条及び舞鶴工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日施行。以下「学則」という。）第12条の規定に基づき、舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）における内部組織及び会議等に関する事項を定め、もって校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

(設置)

第2条 本校における教育研究の推進、支援を行うため、次の施設等を置く。

- (1) 図書館
- (2) 情報科学センター
- (3) 地域共同テクノセンター
- (4) 教育研究支援センター
- (5) 国際交流センター

2 前項についての必要な事項は、別に定める。

第3条 前条及び規則、学則に定めるもののほか、本校の校務の円滑な運営を図るため、副校長、校長補佐、主事補、専攻科長、専攻長、学科長、部門長並びに学級担任を置く。

2 前項に定める各職（副校長、校長補佐、専攻科長を除く。）の任期は、1年とする。ただし、各職に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 第1項に定める各職（副校長、校長補佐を除く。）は、再任することができる。

(副校長、校長補佐)

第4条 副校長は、教務主事をもって充て、校長が行う校務運営にかかる業務を分担して行うとともに、校長に事故あるときは、その職務を代行する。

2 校長補佐は、学生主事、寮務主事をもって充て、校長が行う校務運営にかかる業務を補佐する。

(主事の業務)

第5条 学則第10条に定める三主事の業務は、次のとおりとする。

(1) 教務主事

- ア 教育計画及び教育課程編成の立案並びに実施に関すること。
- イ 入学、退学、休学、進級及び卒業の認定に関すること。
- ウ 指導要録に関すること。
- エ 教員の研究に関すること。

(2) 学生主事

- ア 学生の補導、厚生及び課外教育に関すること。
- イ 学生の個人相談及び集団指導に関すること。
- ウ 学生の規律の保持及び事故の処理並びに保健指導に関すること。

(3) 寮務主事

- ア 寮生の指導及び厚生に関すること。
- イ 寮生の個人相談及び集団指導に関すること。
- ウ 寮生の規律の保持及び事故の処理並びに保健指導に関すること。

## 資料 11-1-①-2 続き

(主事補)

第 6 条 主事補は、教務主事補、学生主事補及び寮務主事補とし、それぞれ若干人置くものとする。

- 2 主事補は、教授、助教授又は講師をもって充て、校長が任命する。
- 3 主事補は、主事の職務を補佐する。

(専攻科長)

第 7 条 学則第 38 条に定める専攻科に専攻科長を置き、専攻科担当の教授のうちから校長が任命する。

- 2 専攻科長は、校長の命を受け、専攻科の管理運営に関することを掌理する。
- 3 専攻科長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、専攻科長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専攻長)

第 7 条の 2 専攻科の専攻ごとに専攻長を置き、専攻科担当の教授または助教授のうちから専攻科長の推薦に基づき、校長が任命する。

- 2 専攻長は、専攻科長の職務を補佐する。

(学科長及び部門長)

第 8 条 機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科及び建設システム工学科に学科長を置き、人文科学部門及び自然科学部門に部門長を置くものとする。

- 2 学科長及び部門長（以下「学科（部門）長」という。）は、その学科及び部門（以下「学科（部門）」という。）に所属する教授をもって充て、学科（部門）において候補者を選出のうえ、校長に推薦する。推薦のあった候補者について、学科（部門）における審議内容を参考にして、校長が決定、任命するものとする。
- 3 学科（部門）長は、それぞれの学科（部門）の管理運営及び連絡調整に関することをつかさどる。

(学級担任及び学級副担任)

第 9 条 学級担任は、各学級に 1 名置くものとする。

- 2 校長が必要と認めるときは学級副担任を置くことができる。
- 3 学級担任及び学級副担任は、講師以上の教員をもって充て、校長が任命する。
- 4 学級担任は、校長の命を受け、学級の運営及び学習指導並びに生活指導の任に当たる。
- 5 学級副担任は、学級担任を補佐し、学級担任不在のときはその業務を代理する。

(会議等の設置)

第 10 条 校務の運営に関し、協議、連絡調整を円滑に行うため、次の会議等を置く。

- (1) 運営会議
- (2) 教員会議
- (3) 学科（部門）会議
- (4) 学級担任会議
- (5) 各種委員会

(運営会議)

第 11 条 運営会議においては、各学科（部門）、施設等間の連絡調整を図るとともに、校長の諮問に応じ、次の業務を行う。

- (1) 校務の企画と運営に関する事項について協議を行う。
- (2) 本校の将来構想（運営組織、施設整備、教育・研究の在り方等）事項について、調査、審議し、将来計画案の策定を行う。



## 資料 11-1-①-2 続き

第11条の2 運営会議は、校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、各学科（部門）長、図書館長、情報科学センター長、教育研究支援センター長、地域共同テクノセンター長、国際交流センター長、事務部長及び課長をもって構成する。

2 校長が必要と認めた場合は、その他の教職員を出席させることができる。

第11条の3 運営会議は、校長が主宰し、その議長となる。

（教員会議）

第12条 教員会議は、運営会議における審議、決定事項にかかる報告及び教務、厚生補導（学寮の厚生補導を含む。）、その他学校運営に関する周知事項について連絡調整し、並びに次の事項について審議する。

（1）学生（専攻科生を含む。）の入学、進級及び卒業、修了の認定に関すること。

（2）その他校長が必要と認めた事項

第12条の2 教員会議は、校長、教授、助教授、専任の講師及び助手をもって構成する。

2 校長は、教員会議に事務部長及び課長に出席させる。

3 校長が必要と認めた場合は、その他の職員を出席させることができる。

第12条の3 教員会議は、校長が主宰し、その議長となる。

第12条の4 教員会議は、偶数月（8月を除く。）及び1月並びに3月に開催するものとする。ただし、必要があるときは、臨時に開催することができる。

第12条の5 教員会議の事務は、庶務課において処理する。

（学科（部門）会議）

第13条 学科（部門）会議は、各学科（部門）に置くものとし、学科（部門）内の運営及び連絡調整について協議する。

2 学科（部門）会議は、学科（部門）長が主宰し、その議長となる。

（学級担任会議）

第14条 学級担任会議は、担任学級の指導について連絡協議する。

（委員会）

第15条 本校に次の委員会を置き、校長の諮問に応じ、特定の重要事項に関する調査審議を行う。

（1）評価委員会

（2）広報委員会

（3）情報化推進委員会

（4）教育プログラム（PIE）委員会

（5）新カリキュラム特別委員会

（6）知的財産委員会

（7）入学試験委員会

（8）専攻科委員会

（9）教務委員会

（10）学生委員会

（11）学寮委員会

（出典 舞鶴工業高等専門学校組織規程）

## 舞鶴工業高等専門学校図書館規程

(趣旨)

第1条 舞鶴工業高等専門学校組織規程（平成18年4月1日施行）第2条第2項の規定に基づき、舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）図書館（以下「図書館」という。）に関し、この規程を定める。

(目的)

第2条 図書館は、本校の教育・研究及び地域文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第3条 この規程において、図書館資料とは次の各号に掲げるものをいう。

- (1) 図書館（図書・逐次刊行物・記録等）
- (2) 視聴覚資料

(図書館長)

第4条 図書館に図書館長を置く。

- 2 図書館長は、本校の教授又は助教授のうちから校長が任命する。
- 3 図書館長は、校長の命を受け、図書館の業務を掌理する。
- 4 図書館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、図書館長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(図書館の業務)

第5条 図書館は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 図書館及び視聴覚教室等の管理運営に関すること。
- (2) 図書館資料の収集及び選定に関すること。
- (3) 図書館資料の利用指導に関すること。
- (4) 図書館報に関すること。
- (5) その他図書館活動に関すること。

(運営委員会)

第6条 図書館の円滑な運営に関し、必要な事項を協議するため、図書館運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(図書館の利用)

第7条 図書館の利用については、別に定める。

(出典 舞鶴工業高等専門学校図書館規程)

## 舞鶴工業高等専門学校図書館運営委員会規則

(目的)

第1条 舞鶴工業高等専門学校図書館規程(平成18年4月1日施行)第6条第2項の規定に基づき、図書館運営委員会(以下「委員会」という。)に関し、この規則を定める。

(委員会の構成)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 図書館長
- (2) 教員のうちから校長が任命した者
- (3) 庶務課長

(委員会の業務)

第3条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 図書館及び視聴覚教室等の管理運営に関すること。
- (2) 図書の選定に関すること。
- (3) その他図書館及び視聴覚教室等に関すること。

(委員の任期)

第4条 第2条第2号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、図書館長をもって充てる。

(委員会の招集)

第6条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員長は、委員会の協議について校長に報告する。
- 3 委員長に事故あるときは、委員のうちから委員長があらかじめ指名した者が、その職務を代行する。

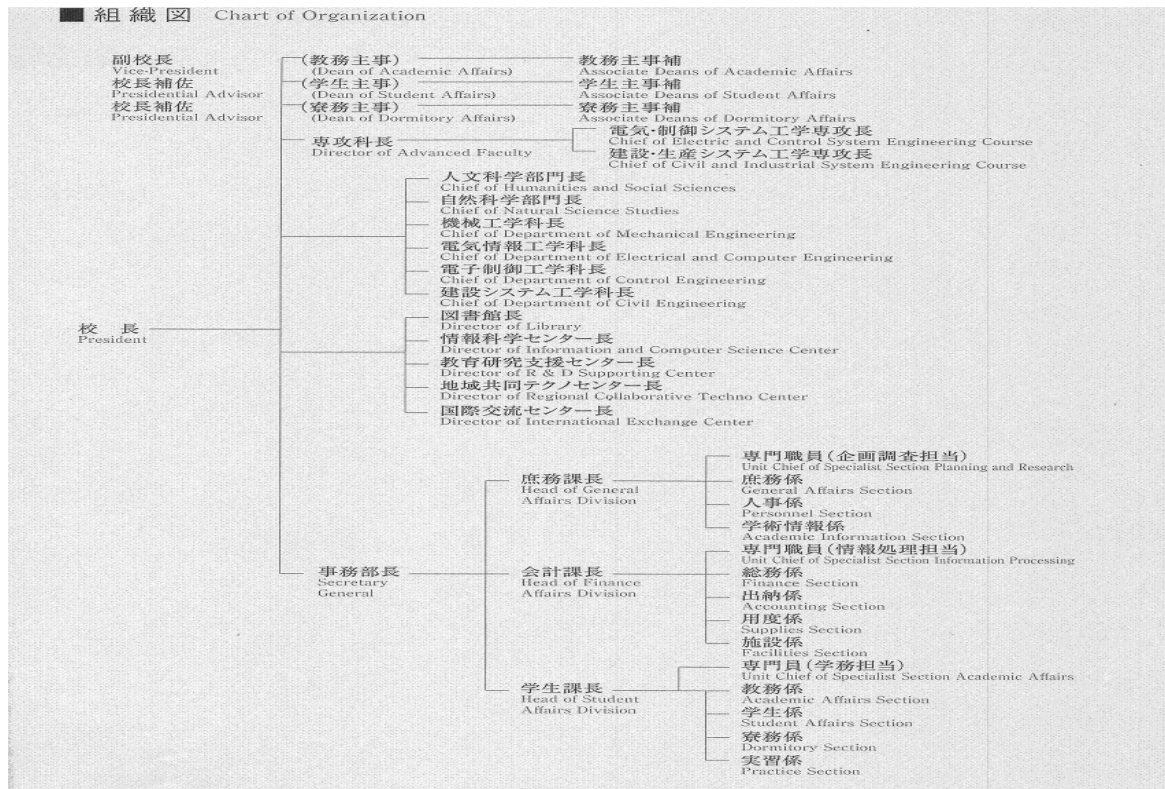
(委員以外の委員会への出席)

第7条 委員会は、必要があると認めた場合は、委員以外の教職員の出席を求めて、意見を聞くことができる。

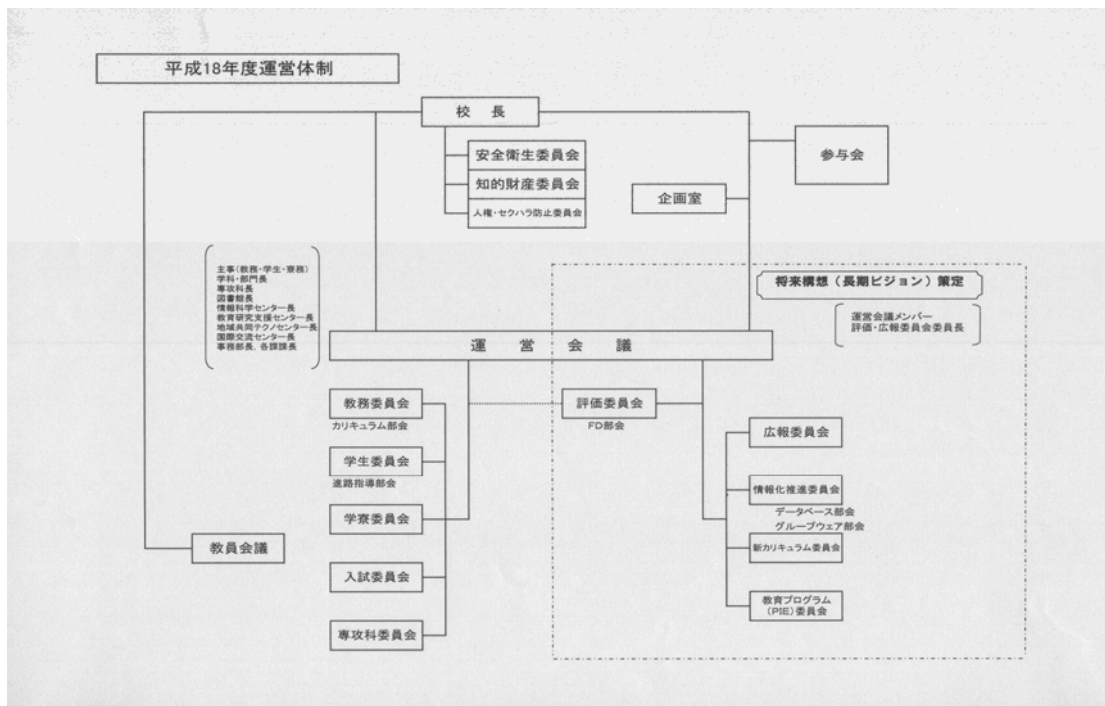
(事務)

第8条 委員会の事務は、庶務課学術情報係で処理する。

(出典 舞鶴工業高等専門学校図書館運営委員会規則)



(出典 平成 17 年度舞鶴工業高等専門学校概要)



(出典 庶務課資料)

委員会等の役割

委員会等名	委員会等の役割	設置根拠	事務担当係
参与会	校長の諮問を受けて、外部有識者により本校運営に関する重要事項を審議し、校長に対して指導・助言を行う。	参与会規程	庶務係
安全衛生委員会	労働安全衛生、安全管理及び学生の安全教育等に関する事項について調査審議を行う。	安全衛生管理実施規程第11条	総務係
知的財産委員会	知的財産管理等(職務発明の新規性、権利の承継等)に関する事項について調査審議を行う。	組織規程第15条	庶務係
人権・セクハラ防止委員会	人権の侵害、セクシュアル・ハラスメントの防止及び排除のための措置並びにこれらに起因する問題が生じた場合に適切に対応するための措置について調査・審議を行う。	人権の侵害及びセクシュアル・ハラスメントの防止に関する規程第4条	人事係
企画室	科研費等外部資金獲得に関する業務全般及び地域連携に関する支援業務を行う。	企画室要項	
運営会議	通常の業務にかかる校務の企画・運営事項についての協議を行う。本校の中長期にわたる将来計画(運営組織、施設整備、教育・研究のあり方)事項について調査審議し、中期計画の策定を行う。	組織規程第11条	庶務係
教員会議	教務、厚生補導等の連絡調整及び運営会議に附随された校長の諮問事項のうち重要なものについて、報告および協議する。	組織規程第12条	〃
評価委員会	運営会議において策定された将来計画の具現化を図るための年度ごとの達成状況の確認と不達成事項の改善について検討(自己点検)を行い、JABEE受審、認証評価等の対応に向けて関係委員会に対して改善の指示を行う。	組織規程第15条	〃
FD部会	教育の質の向上・改善に向けての検討を行う(授業公開、授業アンケート等の実施)	(委員会規則で定める)	
広報委員会	有効な広報活動について、調査、企画、立案し、実施する。	組織規程第15条	庶務課専門職員
情報化推進委員会	教育研究活動に係る資料等のデータベース化及び事務の効率化・合理化に資するための事務情報化に関することを行う。	組織規程第15条	学術情報係
データベース部会	本校における教育・研究活動にかかる資料及び委員会等の議事録などの蓄積に関する検討を行う。	(委員会規則で定める)	
グループウェア部会	グループウェアの活用、管理に関する検討を行う。	(委員会規則で定める)	
新カリキュラム特別委員会	時代に即した技術者育成のために必要となる新たなカリキュラムの編成について検討する。	組織規程第15条	教務係
教育プログラム(PIE)委員会	特にJABEE審査の対応に向けた教育プログラム等の改善を検討する。	組織規程第15条	庶務課専門職員
専攻科委員会	専攻科学生にかかる教務、学務事項全般に関すること。	組織規程第15条	学生課専門職員
教務委員会	教育課程の編成及び改廃、授業時間割の編成、学業成績、学生の進路(就職・進学)など教務に関することを行う。	組織規程第15条	教務係
カリキュラム部会	カリキュラムに関しての必要な事項を検討する。	〃	
学生委員会	学生の補導、福利厚生、入学科及び授業料免除、課外活動、健康管理及び保健衛生など厚生補導に関することを行う。	組織規程第15条	学生係
進路指導部会	学生の進路指導に関しての必要な事項を検討する。	(委員会規則で定める)	
学寮委員会	学寮の管理運営、入寮及び退寮、寮生の厚生補導、寮宿舎の免除など寮務に関することを行う。	組織規程第15条	寮務係

(出典 庶務課資料)

舞鶴工業高等専門学校企画室要項

(設置)

第1条 舞鶴工業高等専門学校(以下「本校」という。)に舞鶴工業高等専門学校企画室(以下「企画室」という。)を置く。

(目的)

第2条 企画室は、校長の命を受け、本校の将来構想等に関する事項について、企画、立案及び調査(以下「企画等」という。)を行うことを目的とする。

(企画室の組織)

第3条 企画室に、室長及び室員を置く。

- 2 室長は、校長がその任にあたる。
- 3 室員は、校長が指名するものをもって充てる。

(企画室の業務)

第4条 企画室においては、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 外部資金獲得に係る企画及び実務等に関すること。
- (2) 施設設備の企画等に関すること。
- (3) 地域連携の企画等に関すること。

資料 11-1-①-8 続き

(4) その他企画室の運営に関すること。

(支援等)

第5条 室長は、企画室の業務を円滑に推進するため、必要と認めるときは、関係部署に対し、協力、支援、を求めることができるものとする。

(事務)

第6条 企画室に関する事務は、室員が行うものとする。

(出典 舞鶴工業高等専門学校企画室要項)

(分析結果とその根拠理由)

学校の目的を達成するため、校長のリーダーシップのもと、それぞれの課題に応じた事項を審議・検討するための各種委員会と担当者の役割・分担を明確に規定しており、意思決定が効果的に行われている。また、必要に応じて委員会のなかに部会を設け、課題に応じた事項を特化して検討する体制も整えている。

**観点 11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。**

(観点到に係る状況)

管理運営に関しては、教務主事（副校長）、学生主事（校長補佐）、寮務主事（校長補佐）を配置し、それぞれ教務委員会、学生委員会、学寮委員会を所掌している。

また、図書館、情報科学センター、教育研究支援センター、地域共同テクノセンター、国際交流センターにそれぞれ館長、センター長を配置し、運営委員会を組織することにより、教育、研究活動の支援にかかる機能を分担して所掌し、その充実に努めている（資料 11-1-①-2）。

教員については、各学科・部門に所属し、それぞれ学科・部門の所掌する教育・研究を担当するほか、必ず委員会等委員として校務運営に携わることとなっている（資料 11-1-②-1）。

事務部においては、事務部長を筆頭に、庶務課、会計課、学生課の3つの課を設置し、学校運営の事務をそれぞれ役割分担し、所掌する体制を整備している（資料 11-1-①-5、資料 11-1-②-2）。



## 舞鶴工業高等専門学校事務組織規程

## 第1章 総則

## (目的)

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第4号）第9条及び舞鶴工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日施行。以下「学則」という。）第11条、第12条の規定に基づき、舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び所掌事務の範囲を定めることを目的とする。

## 第2章 組織

## (事務部)

第2条 本校に事務部を置き、事務部に庶務課、会計課及び学生課の3課を置く。

第3条から第5条まで 削除

## (事務部長及び課長)

第6条 事務部に事務部長を、各課に課長を置き事務職員をもって充てる。

2 事務部長は校長の命を受け、事務部の事務を総括する。

3 課長は上司の命を受け課の事務を処理する。

## (専門員)

第6条の2 事務部の学生課に学務担当専門員を置き、事務職員をもって充てる。

2 専門員は、上司の命を受け、課の所掌事務のうち高度の専門知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を直接処理するとともに専門的見地から課長を補佐する。

## (専門職員)

第6条の3 事務部の庶務課及び会計課に専門職員を置き、事務職員をもって充てる。

2 専門職員は、上司の命を受け、課の所掌事務のうち専門知識又は経験を必要とする特定又は一定範囲の分野の事務を直接処理する。

## (係の設置)

第7条 各課の事務を分掌させるため、次の係を置く。

庶務課 庶務係、人事係、学術情報係

会計課 総務係、出納係、用度係、施設係

学生課 教務係、学生係、寮務係、実習係

## (係長及び主任)

第8条 各係に係長を置き管理運営上必要ある場合には係に主任を置くことができる。

2 係長及び主任は、事務職員又は技術職員をもって充てる。

3 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

4 主任は、係長を補佐し所掌事務を処理する。

## 第3章 事務分掌

## (庶務課)

第9条 専門職員は、次の事務をつかさどる。

(1) 将来計画策定に係る企画調整に関すること。



- (2) 自己点検・評価及び外部評価に関すること。
- (3) 学則その他諸規定の制定及び改廃に関すること。
- (4) 産学官連携に関する専門的事項に関すること。
- (5) 情報公開に関する専門的事項に関すること。
- (6) その他企画調整に係る事務のうち特定の専門的事項に関すること。

第9条の2 庶務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学校の事務に関し、総括及び連絡調整すること。
- (2) 制度及び組織に関すること。
- (3) 儀式、会議その他行事に関すること。
- (4) 公印（会計関係の公印を除く。）の管守に関すること。
- (5) 公文書の授受、発送及び郵便切手類の受け払いに関すること。
- (6) 渉外及び秘書事務に関すること。
- (7) 国際学术交流に関すること。
- (8) 内地研究員及び在外研究員に関すること。
- (9) 科学研究費の申請その他学術団体との連絡に関すること。
- (10) 民間等との共同研究及び受託研究の受入等に関すること。
- (11) 発明及び特許出願等に関すること。
- (12) 職員の身分証明及び他の係に属さない諸証明に関すること。
- (13) 学校概要、校報等の編集発行に関すること。
- (14) 電話交換業務及び校内放送に関すること。
- (15) 校内の警備取締りに関すること。
- (16) 指定統計調査、他の係に属さない諸調査及び諸報告に関すること。（他の課の所掌に係るものを除く。）
- (17) その他、他の課、係の所掌に属さない事務に関すること。

第10条 人事係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 職員の任免、分限、懲戒及び服務等に関すること。
- (2) 職員の給与に関すること。
- (3) 職員の定員、職階及び級別定数の管理に関すること。
- (4) 職員の勤務評定に関すること。
- (5) 職員の研修に関すること。
- (6) 国家公務員共済組合長期給付及び退職手当に関すること。
- (7) 職員の災害補償に関すること。
- (8) 職員の栄典、表彰に関すること。
- (9) 人事記録の作成保存に関すること。
- (10) 職員の健康管理及び福利厚生に関すること。
- (11) 職員の勤務時間、休暇及び宿日直に関すること。
- (12) 通勤手当及び諸手当に関すること。
- (13) 出張に関すること。
- (14) 人事に関する調査統計及び報告に関すること。
- (15) その他人事に関すること。

第11条 学術情報係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 図書原簿の保管に関する事。
- (2) 図書の分類に関する事。
- (3) 図書目録の作成に関する事。
- (4) 図書の受入れ及び整理保管に関する事。
- (5) 図書の閲覧及び貸出に関する事。
- (6) 文献及び視聴覚資料の収集に関する事。
- (7) 学術文献の交換に関する事。
- (8) 読書相談及び指導等に関する事。
- (9) 紀要等の編集発行に関する事。
- (10) 図書に関する調査統計及び報告に関する事。
- (11) その他図書館に関する事。

(会計課)

第12条 専門職員は、次の事務をつかさどる。

- (1) 事務用電子計算機利用の総括及び連絡調整に関する事。
- (2) 事務用電子計算機システムの維持管理及び運転操作の総括に関する事。
- (3) 事務用電子計算機システムの調査、分析、開発、設計の総括に関する事。
- (4) 事務用電子計算機システムのデータ及びプログラム等の保護管理に関する事。
- (5) 事務電算化要員養成に係る教育、研修の企画立案に関する事。
- (6) 校内LANの事務処理に係る利用の総括及び連絡調整に関する事。
- (7) その他事務用電子計算機に係る事務処理に関する事。

第13条 総務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 課内の事務の総括及び連絡調整に関する事。
- (2) 予算及び決算に関する事。
- (3) 支出負担行為に関する事。
- (4) 会計に属する諸規程の立案に関する事。
- (5) 会計関係の公印の管守に関する事。
- (6) 会計検査及び監査に関する事。
- (7) 国家公務員共済組合短期給付等に関する事。
- (8) 奨学寄付金委任経理金に関する事。
- (9) 科学研究費の経理に関する事。
- (10) 校内の整備、清掃及び用務に関する事。
- (11) 課の所掌に係る調査統計及び報告に関する事。(他の係の所掌に係るものを除く。)
- (12) その他会計事務で他の係の所掌に属さない事務に関する事。

第14条 出納係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 債権の管理に関する事。
- (2) 収入、支出及び計算証明に関する事。
- (3) 歳入歳出外現金及び有価証券に関する事。
- (4) 前渡資金に関する事。

- (5) 給与等の支給及び所得税等の徴収に関すること。
- (6) 歳入，歳出に関する調査統計及び報告に関すること。
- (7) その他出納に関する事務を処理する。

第15条 用度係においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 物品の購入，検収，取得出納及び保管に関すること。
- (2) 物品の修理，保全及び処分に関すること。
- (3) 物品の入札及び契約に関すること。
- (4) 物品の寄付受領及び管理換に関すること。
- (5) 一般競争参加者の資格の審査に関すること。
- (6) 物品の計算証明に関すること。
- (7) 自動車の整備，運行及び安全管理に関すること。
- (8) 印刷室の印刷機器の使用，業務及び印刷機器の保全に関すること。
- (9) 物品の調査統計及び報告に関すること。
- (10) その他用度に関すること。

第16条 施設係においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 国有財産の維持管理及び処分に関すること。
- (2) 国有財産の計算証明に関すること。
- (3) 国有財産の防火管理に関すること。
- (4) 公務員宿舎に関すること。
- (5) 施設の立地計画及び環境整備に関すること。
- (6) 施設整備，営繕工事の企画立案及び施工監督に関すること。
- (7) 工事の入札及び契約に関すること。
- (8) 土地，建物，電気，ガス，水道，電話，冷暖房施設等の維持保全に関すること。
- (9) 施設に関する調査統計及び報告に関すること。
- (10) その他，施設整備に関すること。

(学生課)

第17条 専門員は，次の事務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に係る特定の専門的事項に関すること。
- (2) 教育課程の編成及び実施に関し，専門的見地から指導，助言を行うこと。
- (3) 教育指導計画の実施に係る専門的事項に関し，専門的見地から指導，助言を行うこと。
- (4) 外国人留学生に係る専門的事項に関すること。
- (5) その他学務に係る事務のうち，重要な企画，調査及び連絡調整に関すること。

第18条 教務係においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 課内の事務の総括及び連絡調整に関すること。
- (2) 学生の募集及び入学者の選抜に関すること。
- (3) 学生の修学指導に関すること。
- (4) 授業及び試験に関すること。
- (5) 教育課程に関すること。
- (6) 学生の入学，休学，復学及び退学に関すること。

- (7) 学生の進級及び卒業に関すること。
- (8) 学生の校外実習及び見学に関すること。
- (9) 学生の学籍に関すること。
- (10) 学生の学業成績の記録及び整理保管に関すること。
- (11) 教科書及び教材，教具等に関すること。
- (12) 学生証，成績証明書その他学生の諸証明に関すること。
- (13) 学生便覧の編集に関すること。
- (14) 課の所掌に係る調査統計及び報告に関すること。(他の係の所掌に係るものを除く。)
- (15) その他教務に関すること。

第19条 学生係においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の課外教育に関すること。
- (2) 学生の奨学金に関すること。
- (3) 授業料の減免，徴収猶予等経済援助に関すること。
- (4) 学生の賞罰に関すること。
- (5) 学生団体及び集会等に関すること。
- (6) 学生の印刷物等の配布許可及びビラ，ポスター等の掲示に関すること。
- (7) 学生の厚生施設の管理運営及び施設，設備の使用に関すること。
- (8) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
- (9) 学生の職業指導及び就職あっせんに関すること。
- (10) 学生旅客運賃割引証及び通学証明書に関すること。
- (11) 日本体育・学校健康センター等の事務に関すること。
- (12) 学生に関する調査統計及び報告に関すること。
- (13) その他学生の厚生補導に関すること。

第20条 寮務係においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 学寮の管理運営に関すること。
- (2) 学生の入寮及び退寮に関すること。
- (3) 寮生の外出及び外泊に関すること。
- (4) 寮生の生活指導に関すること。
- (5) 寄宿料の免除に関すること。
- (6) 学寮施設設備の保全及び警備に関すること。
- (7) 学寮の警備及び防火に関すること。
- (8) 寮生の保健衛生及び福利厚生に関すること。
- (9) 寮生に対する貸与物品に関すること。
- (10) 寮生の郵便物接受に関すること。
- (11) 寮務に関する調査統計及び報告に関すること。
- (12) その他寮務に関すること。

第21条 実習係においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 実習指導計画の立案及び指導に関すること。

## 資料 11-1-②-2 続き

- (2) 実習用機械器具類の保守管理に関すること。
- (3) 実習用材料の準備及び保管に関すること。
- (4) 実習工場の災害事故防止に関すること。
- (5) 実習の調査統計及び報告に関すること。
- (6) その他実習に関すること。

(出典 舞鶴工業高等専門学校事務組織規程)

## (分析結果とその根拠理由)

管理運営に関する委員会及び事務組織について、日々のルーティン業務に加え、新たな課題、業務に対応するため、副校長、校長補佐、部課長及び図書館長、各センター長を配置するなど、適切に役割を分担しており、本校の研究、教育目的を達成するため、機能的かつ効果的に活動(資料 11-1-②-3) および事務支援を行っている。また、教員全員が委員会委員として校務運営に携わることで学校全体の動向を掌握することができ、将来、校務の運営を中心となって行うこととなる人材の育成にも役立っている。

## 資料 11-1-②-3

## 運 営 会 議 (平成17年6月21日(火))

1. 協議事項
  - 平成 16 年度決算と平成 17 年度予算配分について
2. 報告事項
  - (1) 校長
    1. 特許アドバイザーの任命
    2. T O E I C の受験支援について
    3. 建築コースの新設について
    4. その他
  - (2) 教務主事
  - (3) 学生主事
  - (4) 寮務主事
  - (5) 専攻科学長
  - (6) 人文科学部 部門長
  - (7) 自然科学部 部門長
  - (8) 機械工学科長
  - (9) 電気情報工学科長
  - (10) 電子制御工学科長
  - (11) 建設システム工学科長
  - (12) F I E 委員長
  - (13) 図書館長
  - (14) 情報科学センター長
  - (15) 教育研究支援センター長
  - (16) 地域共同テクノセンター長
  - (17) 事務部長 (課長報告を含む)
3. その他
 

(配付資料)

  - ・平成 16 年度予算決算表 (資料 1)
  - ・平成 16 年度事項別予算執行一覧 (資料 2)
  - ・平成 16 年度校長裁量経費採択一覧 (資料 3)
  - ・平成 16 年度施設整備施工一覧 (資料 4)
  - ・平成 17 年度当初予算配分について (通知) (資料 5)
  - ・平成 17 年度予算 (資料 6)
  - ・平成 17 年度校内予算配分方針 (案) (資料 7)
  - ・平成 17 年度予算配分総表 (案) (資料 8)
  - ・平成 17 年度事項別予算配分一覧 (案) (資料 9)
  - ・各学科等教育研究経費配分額一覧 (資料 10)
  - ・舞鶴工業高等専門学校校長裁量経費支出要綱 (資料 11)
  - ・教務主事報告資料 (資料 12)
  - ・学生食堂利用に関するアンケート調査 (資料 13)
  - ・雑草に関する指導計画 (案) (資料 14)
  - ・寮務主事報告資料 (資料 15)
  - ・F I E 委員会について (資料 16)
  - ・建設システム工学科の再編 (案) (資料 17)
  - ・現代的ニーズ取組支援プログラム申請状況 (資料 18)
  - ・平成 17 年度科学研究費補助金機関別採択件数・配分額一覧 (資料 19)

(出典 庶務課資料)

**観点 11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。**

(観点に係る状況)

管理運営にかかる規程は、「舞鶴工業高等専門学校学則」、「舞鶴工業高等専門学校組織規程」、「舞鶴工業高等専門学校事務組織規程」に定めており、必要な改善を加えながら運用している。(資料 11-1-①-1, 資料 11-1-①-2, 資料 11-1-②-2)

(分析結果とその根拠理由)

管理運営に関する諸規定が定められており、都度必要な改正が加えられている。

**観点 11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。**

(観点に係る状況)

舞鶴工業高等専門学校に置くこととしている参与会において、本校の教育、研究活動の計画、評価及び運営にかかる助言を受ける(資料 11-2-①-1)とともに地域の公的機関で組織する懇談会(資料 11-2-①-2)や後援会役員との懇談会が定期的で開催されており、外部有識者からの意見を聴取している。また、後援会支部懇談会(資料 11-2-①-3)にも積極的に参加し、保護者が求める学校運営に関する身近な意見として聴取し、必要な改善に努めるとともに、これらの意見は、グループウェアにより教職員に周知している。

資料 11-2-①-1

# 参 与 会 報 告 書

## 第 1 回

平成 17 年 2 月 9 日 (水)

舞鶴工業高等専門学校

(出典 庶務課資料)

資料 11-2-①-2

### 鶴 鷗 会 会 則

- 第 1 条 本会は、鶴鷗会と称する。
- 第 2 条 本会は、舞鶴市所在の官公庁の長をもって組織する。
- 第 3 条 本会は、会員相互の情報交換等を目的とする。
- 第 4 条 本会は、年 4 回 4 半期ごとに定例会を開催し、会費は 7,000 円とする。ただし、欠席の場合は半額とする。
- 第 5 条 本会は、年 1 回大会を開催する。その時期及び場所等は、その都度協議によって定める。
- 第 6 条 本会に次の役員を置く。  
当番幹事 2 名 輪番とする。
- 第 7 条 当番幹事は、本会を代表し会務を掌理する。
- 第 8 条 会員の身分関係に異動を生じたときは、速やかに当番幹事に通知する。
- 第 9 条 欠席の場合は、会費を例会日後 3 日以内に会計担当、当番幹事に納入する。

(出典 庶務課資料)

平成17年度国立舞鶴工業高等専門学校後援会支部懇談会議事概要

目 次

1.	南丹支部（平成17年7月10日）	1頁
2.	福井支部（平成17年7月16日）	6頁
3.	京都支部（平成17年7月24日）	9頁
4.	中丹支部（平成17年7月31日）	25頁
5.	滋賀支部（平成17年8月7日）	30頁
6.	丹後・北但支部（平成17年8月24日）	41頁

（出典 庶務課資料）



(分析結果とその根拠理由)

校長自らが様々な層の外部有識者等との意見交換を通じて、学校を取り巻く状況、本校に求められる教育・研究活動の在り方などを聴取し、関係委員会において、聴取した意見等を踏まえた取り組み、改善に向けて審議、検討が行われ、管理運営に反映される体制を整えている。

また、学校運営上最も大切である学生の保護者からの意見を積極的に取り入れることに努めている。

**観点 11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。**

(観点に係る状況)

本校の総合的な状況に関しては、平成 12 年度に外部有識者で組織する評価委員により、外部評価報告書（資料 11-3-①-1）として公表されている。平成 17 年度には大学評価・学位授与機構による「教育の実施状況等審査」が行われた。

また、本校における年度ごとの教育・研究活動状況を「舞鶴高専年報」（資料 11-3-①-2）として平成 15 年度実績から発行し、学内はもちろん、学外有識者にも配布することにより、本校の活動状況を広く公開し、本校の活動に対するいろいろな意見、要望を聴取することにより、今後本校が行う自己点検、外部からの評価に役立てることとしている。

資料 11-3-①-1

## 外部評価報告書

平成13年3月

舞鶴工業高等専門学校

(出典 庶務課資料)



(出典 庶務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

平成 12 年度に外部有識者による第三者評価を受け、平成 17 年度には大学評価・学位授与機構による「教育実施状況等審査」の評価結果を公表している。

また、年度ごとの活動状況を年報としてまとめ、学内外の有識者等に配布することにより本校の活動状況を広く公開することにより、今後行う外部評価、自己点検への取り組みに向けて、積極的に準備を行っている。

**観点 11-3-②：** 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるような、システムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

評価結果は、運営会議、教員会議において周知され、改善を要する指摘事項等にかかる対応については、運営会議で方針が協議された後、関係部署にフィードバックされ、改善に向けた具体策の実施を行うこととなる。

また、本校の教育研究目標を達成するため、活動の年次計画を策定し、次のような流れで取り組みを行っている。

- ①学校の将来像を校長が明確に示し、運営会議において将来計画の策定を行い、周知する。
- ②策定された計画に基づき、各学科・部門、専攻科、各施設、事務部、各種委員会等において、目的達成のための活動が実施される。
- ③実施した結果について、評価委員会において、目標達成状況等自己点検を行い、改善等必要な措置について運営会議に報告された後、関係部署にフィードバックされ、改善に向けての

具体策を検討・実施する。

以上のように、計画の策定（Plan）を運営会議が行い、活動（Do）は、学科・部門等関係部署において具体策を実施し、結果の評価（Check）については、評価委員会が行うという体制を整えている。また、結果の評価を受けて、改善に向けての具体策の検討・実施（Action）を関係部署において行う。

本校においては、運営会議、評価委員会の委員長等は、すべて校長が就くこととなっており、評価結果に基づく、改善事項を新たに策定する将来計画に反映する仕組みとなっている。（資料 11-1-①-4 及び 5）

（分析結果とその根拠理由）

評価結果を学校の将来構想に反映する仕組みは構築されており、また、運営会議における報告、協議を介して教職員へ周知するとともに関係部署に対して改善に向けた具体策をフィードバックすることにより、方向性を明確に示すシステムが整備され、有効に運営されている。

## （2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の目的達成に向けた積極的な取り組み、新たな課題解決への対応について、学校長のリーダーシップのもと、関係の委員会等で検討するとともに、必要に応じて部会を設置するなど、対応しなければならない事項にすばやく行動できる体制を整えている。また、情報の共有化を図るため、教職員各人に会議議事録等を学内 LAN により、周知している。

（改善を要する点）

外部有識者による意見の聴取については積極的に行っているが、外部評価の実施が不十分であり、外部評価実施の体制作りを早急に構築する必要がある。

## （3）基準 11 の自己評価の概要

学校の目的が明確となるよう校長のリーダーシップが十分に図れる運営体制が構築されており、その目的を達成するため各主事、各種委員会等の役割と分担が規定され、意思決定が効果的に行われている。早急な対応を要する事項、狭義で専門的な検討を要する事項については、関係委員会のもとに必要に応じ、部会を設置し、特化した検討を行える体制を整えている。

また、事務組織は、事務部長の下に、庶務、会計、学生の 3 課を配置し、事務系職員 36 名、技術職員 12 名の計 48 名が教員と緊密な連携・協力体制を築いている。

参与会を構成する外部有識者からの学校の管理運営に係る助言、地域の公的機関で構成する懇談会における研究活動等に関する要望、後援会懇談会における学校教育等に関する要望を広く定期的に聴取することに努めるとともに、学校の活動状況を年報として発行し、広く公開することにより、本校を取り巻く関係者が本校の運営に望むことについて真摯に受け止め、管理運営の改善に反映するよう努めている。

しかし、前述のとおり、外部有識者からの意見の聴取は積極的に取り入れているものの、外部評価者による点検の実施が不十分であり、本校が行ってきた教育研究活動に対して自己満足で終わらないようにより一層に取り組む必要がある。

## IV 選択的評価事項に係る目的

### 選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的

#### 1. 教育への反映を目的とする研究

- ①教員の専門分野に係る学術研究，技術研究等を推進する。
- ②科学研究費などへの申請による外部資金の獲得及び学内研究助成への申請による内部資金の有効活用を図る。

#### 2. 地域貢献に資する研究

- ①地域共同テクノセンターを中心とした共同研究，受託研究，技術相談等を推進する。
- ②産官学連携を行うための活動を推進する。

#### 3. 学術の実用化に関する研究

- ①国内外への研究成果の公表を推進する。
- ②研究成果を知的財産化するための体制を整備する。

## 選択的評価事項 B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本校の使命である「北近畿地域の教育，文化の基盤を支えること」に基づいて下記の目標を定めている。

### 1. 聴講生，科目履修生，研究生の受入れ

地域社会において体系的な学問を学びたいという要望や，資格取得・職能向上などの要望に応えることを目的として，聴講生，科目履修生及び研究生の制度を整備し受け入れる。

### 2. 公開講座の開催

地域の一般市民・小中学生を対象として各種公開講座を開催し地域貢献に努める。また，中学校の夏休み前半の時期に本校の一部を開放するオープンカレッジを開催する。これにより，中学生やその保護者が本校の概要を把握し雰囲気を経験できる機会を提供し，入学希望者の確保に役立てる。なお，公開講座，オープンカレッジの参加者にはアンケートを実施し，公開講座と教育の改善に役立てる。

### 3. 設備・施設の開放

図書館の一般開放を行い，本校の設備・施設を一般市民の学習に役立てる。

## 選択的評価事項 A

## 研究活動の状況

## (1) 観点ごとの分析

観点A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

## (観点に係る状況)

本校では、教員の専門分野に係る研究は日常的に行われているが、これに加え、平成13年度に産学連携活動の基盤となる地域共同テクノセンターを設置、同運営委員会を発足させた。また、研究支援としては技術職員が所属する教育研究支援センターがその任に当たっている。以下、本校の研究体制、支援体制の整備状況及び活動状況について述べる。

## &lt;研究体制&gt;

## (1) 研究基盤（学術研究等）

教員は主としてその専門分野に応じた部門または学科に所属し、学術・技術研究を日常的に行っている。研究に必要な施設・設備等は学校施設の他、学科・部門単位で整備されている（基準8参照）。教員の配置、専門分野及び研究テーマは舞鶴高専年報第3号（資料A-1-①-1）に示されている。また、平成16年度より本校の紀要は査読付き論文集として編集されることとなり、論文の審査等を行うため広報委員会紀要編集WGとして体制が整えられた。さらに、情報科学センターが発行している情報科学センター年報や同センターで年2回実施している講演会でも研究報告を行うことが可能となっている。

## (2) 地域共同テクノセンター（産官学連携研究等）

地域共同テクノセンターは、委員長（センター長）と専門学科の教員及び庶務課長で構成される地域共同テクノセンター運営委員会によって運営されており、同センターの活動全般を掌っている。また、下部組織として、連携部会及び研究特許推進部会が設置されている。（資料A-1-①-2）。連携部会は学外からの技術相談や産官学連携の推進を担当しているが、特に研究の学内連携や学外からの技術相談、学外への情報発信に対応するため、「専門技術チーム」が組織されている（資料A-1-①-3）。一方、研究特許推進部会は、従来運営委員会に設置されていた広報・発明部会の発明部門を平成17年度から地域共同テクノセンターに移籍・改組して発足した部会であり、本校の知的財産の定着及び特許・研究の推進を担当している。なお、これら運営委員会及び部会とは別に特許アドバイザーを設けている（資料A-1-①-4）。さらに、本校は平成17年度に(社)発明協会から「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校」の委託を受けており、その活動母体として地域共同テクノセンターに実験協力校活動チームを編成、教員及び学生に対する特許講演会を開催している（資料A-1-①-5～8）。

地域共同テクノセンターに構造解析システム支援室と情報システム開発支援室を設置し、研究を推進するための各種設備を配置している（資料A-1-①-9）。また、広報活動の一環として、専門学科の研究分野を紹介するパネルやリーフレットを作成し、産官学連携活動に利用している（資料A-1-①-10）。

## 学科・部門別教員一覧 (平成18年3月現在)

## 人文科学部門

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
樽井 武 (文学修士)	教授	・教務主事補	①総合英語Ⅲ ②英語演習 ③Communicative English ④人間と言語Ⅰ (上級英語A) ⑤人間と言語Ⅳ (上級英語B) ⑥人間と文化Ⅲ (上級英語Ⅱ) ⑦時事英語 ⑧時事工業英語 ⑨特別英語	英語音声学	①英語のスピーチリズムと日本人の英語 ②E-learning を利用した英語リズムの獲得
村上 美登志 (文学博士)	教授	・安全衛生委員会委員長	①古文 ②総合国語Ⅱ ③人間と文化Ⅱ (国語国文) ④国文学 ⑤日本文化論	①日本・中世文学 ②漢文学 ③唱導文学 (含む声明学)	①延慶本『平家物語』研究 ②太山寺本『曾我物語』研究 ③和製類書研究 ④中世説話研究 ⑤仏舞研究
荒川 吉孝 (文学修士)	教授	・学生主事補 ・学級担任 (1-4)	①総合英語Ⅱ ②英語表現Ⅱ ③人間と言語Ⅳ (上級英語B) ④人間と言語Ⅸ (上級英語C)	英文学	①エリザベス朝演劇と夢の伝統 ②ジェイムズⅠ世の『悪魔学』
梅原 康生 (法学修士)	助教授		①法学 ②経済学 ③人間と社会Ⅳ (現代日本の経済と法)	行政法	①特殊行政組織法 ②国家の不作為責任
宮崎 操 (教育学修士)	助教授	・学生相談室長 ・学級担任 (1-2) ・学生相談部会 部会長	①総合英語Ⅰ ②英語演習 ③Communicative English ④応用英会話 ⑤人間と文化Ⅲ (TOEICリーディング) ⑥人間と言語Ⅸ (TOEICリスニング)	①英語教育学 ②通訳理論	①通訳教育法の英語教育への導入・シャドーイング ②英語のつまずき
三川 譲二 (文学修士)	助教授	・寮務主事	①日本史 ②世界史 ③人間と社会Ⅱ (現代日本の政治)	日本近現代史	①民主党論 ②芦田均論 ③ダグラス・マッカーサー論 ④占領下の地方自治体・地域

資料A-1-①-2

地域共同テクノセンター平成17年度・体制表

## 1. 地域共同テクノセンター運営委員会：

委員長		辻 正
委員	機械工学科	岩崎和春、白藤中生、鈴木立人
	電気情報工学科	竹澤智樹
	電子制御工学科	和田 優
	建設システム工学科	森尾 敏、岡 昭二
	庶務課長	曾谷裕一

## 2. 連携部会

部会長		白藤中生
委員	機械工学科	岩崎和春
	電気情報工学科	竹澤智樹
	電子制御工学科	和田 優
	建設システム工学科	岡 昭二
	庶務課長	曾谷裕一

## 3. 研究特許推進部会

部会長		岩崎和春	→	研究特許推進部員		
委員	機械工学科	白藤中生		→	谷川博哉	
	電気情報工学科	竹澤智樹		→	山田博	
	電子制御工学科	和田 優		→	奥村幸彦	
	建設システム工学科	森尾 敏		→	永井宏	
	庶務課長	曾谷裕一				

教育研究支援センター：大和辰徳（特許アドバイザーとして参加）

## 4. 実験協力校活動チーム（第1年度：平成17年4月28日～平成18年3月31日）

(社)発明協会 平成17年度 産業財産権教育実験協力校	
実施責任者 実施取り纏め者 実施者	辻 正 : 実施代表者、窓口、 大和辰徳 : 補佐 鈴木立人 : 校内活動リーダー <b>研究特許推進部員</b> : 校内活動において科のとりまとめ

(出典 地域共同テクノセンター運営委員会資料)



表 地域共同テクノセンター・連携部会：  
専門技術チーム構成（案）

※印：チームリーダー

技術チーム名称	構成メンバー	記 事	
1. 動力・エネルギー 技術チーム	※ 辻 正 谷川 博哉 奥村 幸彦 平地 克也 中川 重康 高谷 富也	機械工学科 機械工学科 電子制御工学科 電気情報工学科 電気情報工学科 建設システム工学科	高効率発電・省エネルギーなら びに大気環境（CO <sub>2</sub> ）問題の解 決
2. 環境・水域技術 チーム	※ 白藤 中生 川勝 邦夫 西山 等	機械工学科 機械工学科 機械工学科	閉鎖系水域の保全と流体機械 問題の解決
3. 機能材料・新素材 技術チーム	※ 岩崎 和春 篠原 正浩 山田 耕一郎 奥村 幸彦 竹澤 智樹 山田 博 金山 光一	機械工学科 機械工学科 機械工学科 電子制御工学科 電気情報工学科 電気情報工学科 電気情報工学科	ナノテクノロジー、表面工学、界面化 学などによる新機能の開拓
4. 支援・ロボティクス 技術チーム	※ 西岡 勝博 町田 秀和 中川 力 鈴木 立人	電子制御工学科 電子制御工学科 電子制御工学科 機械工学科	新しい観点での人力補助問題 の解決
5. 超材料技術チーム	※ 生水 雅之 高田 暁男 岡本 寛昭	機械工学科 機械工学科 建設システム工学科	在来の金属・コンクリートの全く新し い機能を追求して新たな需要 を開拓
6. 次世代 制御・計測技 術／マイクロ技術 チーム	※ 金森 満 天野 耀鴻 西岡 勝博 町田 秀和 川田 昌克 新池 一弘	電子制御工学科 電子制御工学科 電子制御工学科 電子制御工学科 電子制御工学科 電気情報工学科	高度化・小型化する制御機器お よび制御思想の開拓
7. 画像処理技術 チーム	※ 北原 紀之 片山 英昭 東田 剛志 船木 英岳 長谷川真司	電気情報工学科 電気情報工学科 電気情報工学科 電気情報工学科 電気情報工学科	画像処理に関する高速化・多機 能化のコンセプトの開拓
8. 防災・減災技術 チーム	※ 川合 茂 森尾 敏 加登 文学 永井 宏	建設システム工学科 建設システム工学科 建設システム工学科 建設システム工学科	災害の未然防止に係わる、監視 モニタリング・耐久性をあげた構築 技術の開拓

(出典 地域共同テクノセンター運営委員会資料)

資料A-1-①-4

特許アドバイザー  
 (機械工学科教授 辻 正)  
 (教育支援センター技術職員 大和辰徳)

舞鶴高専の教職員ならびに学生の特許活動を支援するために特許アドバイザーを設置する。特許アドバイザーの主な職務は

1. 特許教育
2. 特許考案の支援
3. 特許出願の助言
4. 教職員・学生からの個別相談への対応

などで、舞鶴高専の研究教育活動に特許マインドを根づかせることにある。

(出典 地域共同テクノセンターウェブページ)

資料A-1-①-5

平成 17 年度 産業財産権教育実験協力校「年間指導計画書」

学校名：舞鶴工業高等専門学校

学校長： 荻野 文丸

(横式1)

1. 研究テーマ	「新規性・特許性のある技術の開発と産業財産権教育の導入」			
2. 実施形態	(科目「課題研究」、総合的な学習の時間、部活・同好会等、該当する事項を記載下さい) 第5学年生を対象に「卒業研究」の一部を指導時間に当てる。			
3. 指導の目標	卒業研究テーマの有望性について新規性・特許性の観点から判定する。 有望なテーマとなるように内容吟味のための思考法を訓練する。			
4. 指導の展開	段階	主な指導内容	時間数	活動場所
	計画	・卒研指導教員の産業財産権意識を調査	5h	舞鶴高専
		・第5学年生の産業財産権意識を調査	5h	
	実施	・産業財産権教材特別講義(1)： 「新規性・特許性の見出し方」	2h	
		・同(2)：「研究における特許法・著作権法」	2h	
		・同(3)：「技術 MAP、特許 MAP、 考案概要書の作成の仕方」	2h	
		・同(4)：「考案活性化、誘導の仕方」	2h	
	舞鶴高専教職員による学生の個別相談への対応	20h		
まとめ	・卒研指導教員の産業財産権意識を調査	5h		
	・第5学年生の産業財産権意識を調査	5h		
	・卒研テーマにおける新規性・特許性の反映 状況のまとめ	10h		
5. 指導上の留意点	知的財産権全体は概論（エンジニアの常識）を教育し、「研究開発における新規性・特許性」についての知識とそのための考案・思考について能力向上を図る。			
6. 評価の基準	・全ての卒業研究の発表資料において「新規性・特許性」について論ずる項を設ける。 ・この項目について「記事を必ず記述する」ことを定着させる。			

本計画書は5月16日までに提出する。

計画作成日	平成 17 年 5 月 13 日
担当教官	辻 正

(出典 庶務課資料)

資料A-1-①-6

## 件名：特許講演会（第1回目）のご案内

## 1. 開催趣旨：

舞鶴高専の卒業生に特許の知識を持ってもらい将来の企業活動で役立ててもらおう。

## 2. 講演参加者：

- ・卒業研究指導教員
- ・専門4科の第5学年生

## 3. 参加指導のお願い：卒業研究の時間を2時間ずつ講演に当ててください。したがって第5学年生は授業として全員参加をお願いします。

指導教員は、自由参加です。特許の知識を得る良い機会ですので特許に馴染みがなくこれから勉強をされる方には特に参加をお勧めします。

毎回会場では出欠をとります。教材は第1回目に会場受付時に渡します。

## 4. 開催要領：2回目以降は再度直前に案内をいたします。

場 所：視聴覚教室（図書館3階）

時 間：13時～15時（2時間）

講演内容：下記

1回目	6月23日（木）	「新規性・特許性の見出し方」
2回目	7月14日（木）・予定	「技術MAP、特許MAP、考案概要書の作成の仕方」
3回目	9月8日（木）・予定	「研究における特許法・著作権法」
4回目	10月20日（木）・予定	「考案活性化、誘導の仕方」

以 上

(出典 庶務課資料)

資料A-1-①-7

## 特許講演会の参加人数

	第1回	第2回	第3回	第4回
教職員	22	14	10	5
学 生	120	95	98	94

(出典 地域共同テクノセンター運営委員会資料)

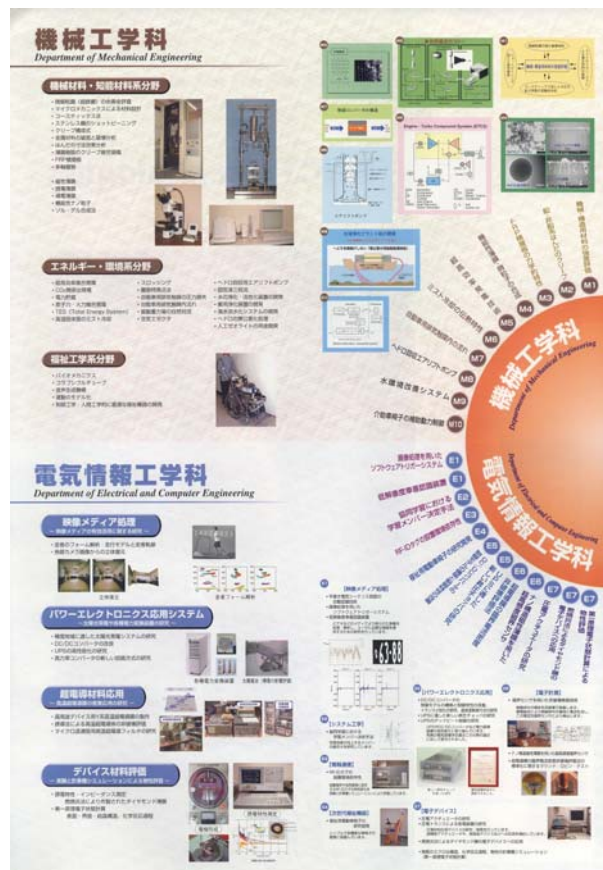
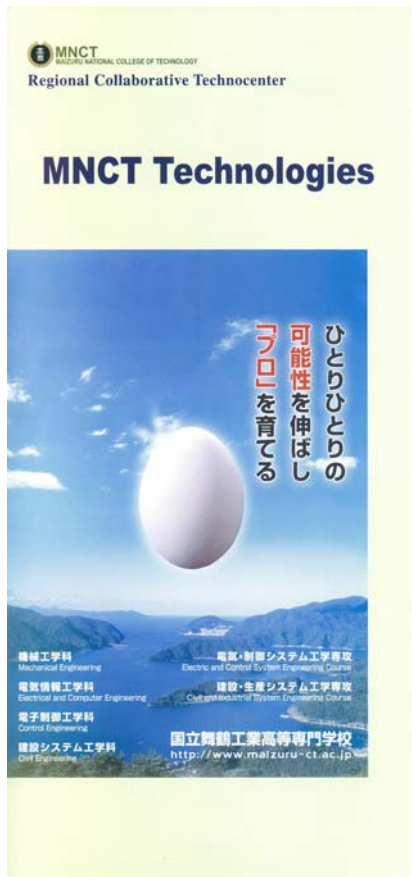
## 舞鶴高専特許研修会テーマ表

- |                              |                                |
|------------------------------|--------------------------------|
| 第1回 6月23日(木)                 | — 新規性・特許性の見出し方                 |
| 1. 特許制度の存在意義                 | — 知的財産制度全般の説明                  |
|                              | — 特許制度の趣旨                      |
|                              | — 企業利益とのかかわり                   |
| 2. 発明とは                      | — 弁理士の役割                       |
|                              | — 発明の説明                        |
|                              | — 発明となるもの、ならないもの               |
| 3. 特許要件                      | — なぜ要件が必要か                     |
|                              | — 新規性—公知技術                     |
|                              | — 進歩性                          |
|                              | — その他の要件                       |
| 第2回 7月14日(木)                 | — 技術MAP特許MAP、考案概要書の作成の仕方       |
| 1. 発明の発掘                     | — 発明はどこにあるか                    |
|                              | — 発明を発掘する視点                    |
|                              | — 発明のポイントとバリエーション              |
| 2. 出願・実施が可能な発明か              | — 特許調査                         |
|                              | — 前提技術の存在—技術MAP                |
|                              | — 先願発明—特許MAP                   |
| 3. 発明概要書の書き方                 | — 一番近い公知技術はどれか                 |
|                              | — 公知技術に存在する問題点                 |
|                              | — なにを課題とした発明か                  |
|                              | — 課題を解決するために創案した技術構成           |
|                              | — 技術を構成する事項の作用                 |
|                              | — 発明が達成し得た効果                   |
| 第3回 9月8日(木)                  | — 研究における特許法・著作権法               |
| 1. 秘密の保持                     | — 新規性喪失の例外的取扱い                 |
| 2. 第三者の権利の尊重                 | — 権利範囲と公知技術の範囲の相違              |
|                              | — 侵害者とならないために                  |
|                              | — 著作物(権)における注意点                |
| 3. 権利書としての公報の読み方             | — 特許請求の範囲と発明の詳細な説明との関係         |
| 4. 特許権の効力の及ばない範囲             | — 69条—とりわけ試験又は研究の取扱い           |
| 5. 改良発明                      | — 利用発明に注意                      |
| 6. 用途発明                      |                                |
| 7. 発明者と出願人                   | — 特許を受ける権利                     |
|                              | — 権利の譲渡、その時期                   |
| 8. 共同発明と共同出願                 | — 複数の発明者、複数の出願人                |
| 9. その他                       | — 特許の成立が望めない場合の策<br>実用新案・意匠・商標 |
| 第4回 11月24日(木) — 発明の活性化・誘導の仕方 |                                |
| 1. リエゾン活動の具体例                |                                |
| 2. 発明相談の重要性                  |                                |
| 3. 実施例の考え方とバリエーション           |                                |
| 4. 比較例・参考例の取扱い               |                                |
| 5. その他                       |                                |

(出典 地域共同テクノセンター運営委員会資料)

設備名	FEM 汎用構造解析支援システム
構成	土木・建築向け汎用 3 次元非線型動的構造解析システム, FEM 土木構造解析システム CAE, 地盤応答解析システム, 可視化支援システム, 建設系 CAD 設計システム
設備名	生産設計支援システム
構成	3D-CAD システム, FEM 構造強度解析システム
設備名	実践型無線 LAN 構築支援システム
構成	遠隔検知システム, 解析サーバ装置, モバイル計測装置, 周波数解析ソフト, 波動解析ソフト
設備名	コンピュータ制御応用実験装置
構成	制御系解析/設計支援ソフト, 制御理論検証用実験装置, FPGA 開発システム

(出典 地域共同テクノセンターウェブページ)



(出典 庶務課資料)

学外との連携では、近畿地区高専産官学連携活動推進協議会に参画し、産官学連携に関する協議を行っている（資料A-1-①-11及び12）。また、「国際フロンティア産業メッセ2005」、「全国高専テクノフォーラム」及び「産学官連携ビジネスショー」に出展するとともに（資料A-1-①-13～15）、近畿経済産業局のウェブページを通して研究シーズ調査を広く公表することにより、産官学連携活動の活性化を図っている（資料A-1-①-16及び17）。このような公的機関のウェブページを通して情報発信を行っているのは近畿地区の高専では本校のみである。さらに、平成16年度に舞鶴市と立命館大学が設置した京都・まいづる立命館地域創造機構(MIREC)と学術交流協定を締結し、地域連携の推進を図っている（資料A-1-①-18）。

資料A-1-①-11

近畿地区高専産官学連携活動推進協議会  
第5回実務者会議（ご案内）

1. 日時：2005年7月27日（水）13：30～19：00
2. 場所：本校 管理棟2階 応接室
3. 当日のスケジュール（案）
  - 13：30～13：40 研究担当副校長挨拶
  - 13：40～15：00 会議Ⅰ
    - ①第3回全国高専テクノフォーラムについて  
（小島先生からの報告、8/22～24、愛知）
    - ②第4回近畿高専テクノサロンについて  
（主管：大阪府立高専、時期、テーマ、内容等）
    - ③第2回産学官連携ビジネスショーについて  
（大阪府立高専、平成18年1/26～27、  
インテックス大阪、参加検討）
  - 15：00～15：20 休憩
  - 15：20～16：30 会議Ⅱ
    - ④国際フロンティア産業メッセ2005について  
（赤対先生より報告、8/4～5、神戸展示場）
    - ⑤第5回大阪府立高専産官学交流会について  
（大阪府立高専より紹介、8/19、マイトーム大阪）
    - ⑥近畿経済産業局からの報告について
    - ⑦その他の課題、連絡
  - 16：30～17：00 施設見学（地域連携テクノセンター内）
  - 17：00～17：30 移動、その他
  - 17：30～19：00 懇親会
4. 連絡事項
 

当校は、現在耐震の大規模改修工事中であり、多少のご迷惑、ご不便をおかけいたしますことをあらかじめお断り申し上げます。

以上

(出典 地域共同テクノセンター運営委員会資料)

近畿地区高専産学連携活動推進協議会  
第4回近畿地区高専テクノサロンのご案内

1. 日 時：平成17年12月9日（金）13：30～19：30
2. 場 所：大阪府立工業高等専門学校 図書館2階 セミナール室
3. 出席予定者：各校産学交流関係者、企業・支援団体等で産学連携に関心のある方
4. テーマ：「OBのネットワーク構築について」
5. 主催：近畿地区高専産学連携活動推進協議会
6. 主管校：大阪府立工業高等専門学校
7. 参加費：無料（ただし、交流会は有料）
8. 当日のスケジュール（案）
  - 13：30～13：50 開会の辞、出席者の紹介
  - 13：50～14：00 大阪府立高専校長挨拶
  - 14：00～15：30 事例紹介 ①奈良高専の取り組み紹介  
②明石高専の取り組み紹介  
③大学等の取り組み紹介
  - 15：30～15：50 休憩
  - 15：50～17：20 討議
  - 17：20～17：30 全体の総括（大阪府立高専副校長）
  - 17：30 閉会の辞、諸連絡
  - 17：30～18：00 移動、その他
  - 18：00～19：30 交流会

以 上

○主管校連絡先

大阪府立工業高等専門学校 地域連携テクノセンター長 伊藤 昭二  
産学交流室長 瀧保夫、竹内寛

TEL：072-820-8599 FAX：072-820-8599

E-mail:

○申込み方法

次ページの「第4回近畿地区高専テクノサロン参加申込票」にご記入の上、大阪府立高専地域連携テクノセンター 産学交流室へFAXにてお送り願います。

申込み期限：平成17年11月25日（金）

○その他

交流会の参加費は3,000円を予定しています。ご参加いただける場合は、当日受付にてお支払ください。

（出典 地域共同テクノセンター運営委員会資料）

国際フロンティア産業メッセ2005  
THE INTERNATIONAL INDUSTRIAL FAIR 2005 KOBE

2005  
The International Industrial Fair 2005 KOBE

出展者名一覧  
併催行事  
会場のご案内  
お問い合わせ

THE INTERNATIONAL INDUSTRIAL FAIR 2005 KOBE  
出展者名一覧

国際フロンティア産業メッセ2005 出展者一覧

ひょうご産業活性化センター投資企業	公的機関・大学・NPO
<a href="#">エアシステム(株)</a>	<a href="#">アイセック神戸大学委員会</a>
<a href="#">オーシャンホームズ(株)</a>	<a href="#">明石工業高等専門学校</a>
<a href="#">(株)オプト</a>	<a href="#">大阪府立工業高等専門学校</a>
<a href="#">春日システムナーサリー(株)</a>	<a href="#">大阪府立産業技術総合研究所</a>
<a href="#">(株)シースカイ</a>	<a href="#">大阪府立大学・阪大FRC 中山研究室</a>
<a href="#">(株)チュウオー</a>	<a href="#">関西学院大学</a>
<a href="#">メッセユニバース(株)</a>	<a href="#">近畿経済産業局</a>
<a href="#">ユメックスバイオテック(株)</a>	<a href="#">近畿経済産業局自主研究会「夢創造の会」</a>
<a href="#">(株)リプロサーチ</a>	<a href="#">(財)近畿高エネルギー加工技術研究所</a>
	<a href="#">(独)工業所有権情報・研修館</a>
	<a href="#">甲南大学</a>
	<a href="#">神戸市立工業高等専門学校</a>
	<a href="#">神戸大学</a>
	<a href="#">(財)国際エメックスセンター</a>
	<a href="#">NPO法人国際レスキューシステム研究機構</a>
	<a href="#">国立奈良工業高等専門学校</a>
	<a href="#">四国ロボット技術研究会</a>
	<a href="#">(独)情報通信研究機構</a>
	<a href="#">(財)新産業創造研究機構</a>
	<a href="#">チームつかもと</a>
	<a href="#">(財)テレコム先端技術研究支援センター</a>
	<a href="#">日本貿易振興機構(ジェトロ)神戸貿易情報センター</a>
	<a href="#">阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」</a>
	<a href="#">(財)ひょうご科学技術協会</a>
	<a href="#">兵庫県技術士会</a>
	<a href="#">兵庫県東播磨県民局</a>
	<a href="#">(社)兵庫工業会</a>
	<a href="#">兵庫県立工業技術センター</a>
	<a href="#">兵庫県立大学産学連携センター</a>
	<a href="#">舞鶴工業高等専門学校</a>
	<a href="#">マレーシア工業開発行 大阪事務所</a>
	<a href="#">文部科学省ナノテクノロジー総合支援プロジェクトセンター</a>
	<a href="#">ニ</a>
	<a href="#">立命館大学</a>
	<a href="#">レスキューロボットコンテスト実行委員会</a>
	<a href="#">ロボットラボラトリー(財)大阪市都市型産業振興センター</a>
	<a href="#">和歌山工業高等専門学校</a>

(出典 国際フロンティア産業メッセ2006ウェブページ)



## 第3回 全国高専テクノフォーラム (案)

- Co-operative Education (共同教育) を見据えた産学官連携・地域連携 -

日 時 平成17年8月22日(月)～24日(水)

会 場 愛知県産業貿易館西館  
(愛知県名古屋市中区丸の内三丁目1番6号)主 催 独立行政法人国立高等専門学校機構  
担 当：東海北陸地区国立高等専門学校  
世話校：豊田工業高等専門学校

## 開催趣旨

わが国は、自然との共生を念頭に持続的発展可能な循環型社会および国際競争力のある科学技術立国をめざしています。これらを踏まえ、産学官が連携した技術者教育ならびに産業活性化に向けた多様な連携が求められています。

こうした中、国立高等専門学校は、独立行政法人国立高等専門学校機構として1年が経過し、いよいよ高専教育の真価が問われることとなります。

第3回テクノフォーラムでは、高専教育の新たな展開をめざして社会と共に次世代技術者を育てる取り組み、産学官連携による共同研究の推進と学生参画による高専教育のさらなる活性化に向けた取り組みなどについて活発な議論を期待しています。

多くの方々にご参加いただき、効果的かつ活発な産学官連携、高専教育の充実に繋げていただけるよう、ご討議とご懇親を深めていただきますようお願い致します。

## フォーラム内容

本フォーラムでは、二つの基調講演、高専・技科大・企業・卒業生の斬新な取り組みについてのパネル討論、各高専の先駆的な取り組みを紹介するポスタープレゼンテーション・パネル展示および早急に取り組みなければならぬ知的財産権について取り扱います。また、交流会場にも各高専のポスター展示による意見交換の場を設けることにしました。

## 参加対象者

1. 国公立立高等専門学校に所属する教職員
2. 産学連携を支援する公的支援機関、企業関係者
3. その他産学連携を支援する一般市民

参加定員 275名

参加費 3,000円

## 参加申込

氏名、所属(勤務先)、連絡先、電話番号、E-mailアドレスを記入し、平成17年6月20日までにE-mailで豊田工業高等専門学校(〒471-8525 豊田市栄生町2-1)にお申込みください。

TEL: 0565-36-5828 FAX: 0565-36-5930

E-mail: kenkyuu@toyota-ct.ac.jp

## 8月22日(月)

## 【大会議場】

13:00 開会  
理事長挨拶、実行委員長挨拶  
祝辞

13:30 基調講演1「Co-operative Education を見据えた産学官連携」  
国立高専機構理事 四ツ柳隆夫

14:20～14:30 休憩

14:30～16:40 [パネル討論 (第1部)]  
「社会と共に次世代技術者を育てる教育プログラム」  
・話題提供：高専3、技科大1、企業2  
・総合討論

16:40～17:00「エコテクノロジーに関するアジア国際シンポジウムについて」  
富山高専

## 【アイリス愛知】

17:30～19:30 産学官交流会

## 8月23日(火)

9:00～11:00 [ポスタープレゼンテーション]

## 【大会議場】(第1会場)

産学官連携、共同研究、公的資金による共同研究

## 【第2会議室】(第2会場)

地域連携、地域貢献、地域の大学等との共同研究

## 【第3会議室】(第3会場)

知的財産権(権利化、教育など)、一般研究成果

## 【第1会議室】[ポスター展示会場]

9:00～15:00 ポスターパネル展示

11:00～13:00 ポスター展示コアタイム

昼 食

## 【大会議場】

13:00 基調講演2「人類の持続的発展をめざした22世紀につながるコンボン研究を(仮題)」  
コンボン研究所 服部秀雄氏

13:50 講演・解説「高専機構における知的財産戦略」  
国立高専機構知財担当専門職  
元新日鐵化学知財部長 村田正行

14:30～14:40 休憩

14:40～16:50 [パネル討論 (第2部)]

「共同研究、地域連携を活用した高専教育の新展開」  
・話題提供：高専3、広域コーディネータ1、  
企業(卒業生)2

・総合討論

16:50 閉会

## 8月24日(水)

【見学会】9:00～12:00

- ・産業技術記念館(トヨタものづくりの原点)
- ・デンソー技研センター(ものづくり匠教育)

平成17年度文部科学省大学知的財産本部整備事業

# 近畿産学官連携 ビジネスショー 2006

産・学・官がインテックス大阪に集結  
(1月26日 セミナー開催)

トップページ	近畿産学官連携ビジネスショー2006
セミナースケジュール	開催日: 平成18年1月26日(木) 27(金)
開催場所	場 所: インテックス大阪3号館(大阪市住之江区南港北1-5-102)
お申し込み	主 催: 文部科学省、京都大学、大阪大学、神戸大学、奈良先端科学技術大学院大学、大阪府立大学、立命館大学
	参加費: 無料

### 舞鶴工業高等専門学校

#### J-22 水域浄化プラント船開発と北近畿産学官公連携

京都府北部およびその周辺には閉鎖性海域があり、そこで発生しているヘドロの処理は浚渫・覆砂以外にないのが現状です。そこで、ヘドロを原料とする独自の水域浄化技術を「第3の技術」として提案し、その実用化に向け、ヘドロから人工ゼオライトを合成する技術の実証とプラント船の建造を目指しています。

#### 地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンターでは8つの技術チームを設置し、学外からの技術協力要請や産学官連携作業をスムーズに進める体制を取っています。

この8つの技術チームは対外的には研究タスクチームとして機能し、学内的には教員連携による大型プロジェクト研究の推進に当たっています。

上記の「水域浄化プラント船の開発」は舞鶴高専の学内プロジェクトから発展した技術で4名の教員が活動中です。技術チームは現在、1.「動力・エネルギー技術」、2.「環境・水域技術」、3.「機能材料・新素材技術」、4.「支援・ロボティクス技術」、5.「超材料技術」、6.「次世代制御技術」、7.「画像処理技術」、8.「防災・減災技術」の8チームが活動しています。

#### 地域活性化への貢献(北近畿)

北近畿の高等教育機関(舞鶴高専、職業能力開発短期大学校、京都大学フィールド科学教育研究センター、京都創成大学)と舞鶴市・地元企業・商工会議所・金融機関が ME(大学連携センター、京都まいつる立命館地域創造機構)を中心に結集して各種のプロジェクト・展示・講演会の活動を展開しています。

一方、舞鶴の企業・舞鶴市を中心に北近畿の産学官公が参加する舞鶴技術研究会では舞鶴高専と職業能力開発短期大学校の運営のもとに各種の最新技術の研修や発信を行っています。

(出典 近畿産学官連携ビジネスショー2006ウェブページ)

大学・高専別 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H) リンク

**経済産業省近畿経済産業局** METI KANSAI 近畿経済産業局ホーム > 主な政策/産学官連携・特許 > 「近畿地域における大学・高専研究者技術シーズ」トップページ

**「近畿地域における大学・高専研究者技術シーズ2005」**

**索引(大学・高専別) 16大学・1高専**

- ✿ 大阪大学 (2件)
- ✿ 大阪工業大学 (11件)
- ✿ 大阪産業大学 (16件)
- ✿ 大阪市立大学 (25件)
- ✿ 大阪電気通信大学 (9件)
- ✿ 大阪府立大学 (27件)
- ✿ 関西大学 (24件)
- ✿ 京都工芸繊維大学 (7件)
- ✿ 奈良先端科学技術大学院大学 (7件)
- ✿ **舞鶴工業高等専門学校 (17件)**
- ✿ 関西学院大学 (12件)
- ✿ 京都産業大学 (18件)
- ✿ 同志社大学 (94件)
- ✿ 奈良女子大学 (3件)
- ✿ 福井大学 (24件)
- ✿ 立命館大学 (10件)
- ✿ 龍谷大学 (32件)

✿ 兵庫県立大学(リンク) ✿

✿ ページトップ ✿

✿ 「近畿地域における大学・高専研究者技術シーズ」トップ ✿

**【お問い合わせ先】**  
 近畿経済産業局 地域経済部 産学官連携推進課 技術交流第一係  
 <住所> 〒540-8535 大阪市中央区大手前1-5-44  
 <TEL> 06-6966-6164

Copyright (C) 2004 METI KANSAI All rights reserved. METI KANSAI 経済産業省 近畿経済産業局

(出典 経済産業省近畿経済産業局ウェブページ)

大学・高専名／舞鶴工業高等専門学校

研究者名／辻 正

技術分野／環境・エネルギー

## ガスエンジン・ガスタービンの高効率発電技術

### (シーズ概要)

往復動機関（ガス燃料で作動するものをガスエンジンと称する）では過給器をつけることで発電出力を増大させているが、エンジン給気圧力は3～4 kg/cm<sup>2</sup>程度の低圧力で設計されるのが常識で、エンジン排気を持つエネルギーを全量利用できていない。特殊な場合として、この余剰エネルギーを膨張タービンで回収した例があるが、普及していない。

本技術はこの膨張タービンに代えて「燃焼器」「膨張タービン」を組合せたガスタービンとし、圧縮機・燃焼器・タービンの構成からなる商用のガスタービンを結合している点に新規性がある。

さらに、ガスエンジン単独・ガスタービン単独での性能を上回る結合性能を発揮している点に独創性がある。

### (研究成果の産業への展開例)

ガスエンジン発電設備あるいはガスタービン発電設備が稼働しているプラントでリパワリング（発電出力を高めること）改造をする場合、単独の発電セットを併設するのが通常で、この場合の発電効率は単独での低い効率のままである。この様なリパワリング改造においては、本技術で複合化（ガスエンジン発電設備にはガスタービンを追設、ガスタービン発電設備にはガスエンジンを追設）することでそれぞれ単独に設置する場合以上の高効率なプラントとすることが出来る。本技術は新設・追設のいずれにも対応でき、応用範囲が広い。

### 研究者データ

■氏名： 辻 正	■メッセージ： 産学官連携で大学側から企業に提案するシーズ技術は、「製品」や「ビジネス」を意識あるいは構想してなされたものでなくてはならない。技術シーズより一歩進めた「製品シーズ」であるべき。
■高専：舞鶴工業高等専門学校	
■学部： 機械工学科	
■専攻・学科：建設・生産システム工学専攻	
■役職： 教 授	

### 連絡先

■所属・氏名： 舞鶴工業高等専門学校 機械工学科 辻 正
■住 所：〒625-8511 京都府舞鶴市宇白屋 234番地
■TEL： 0773-62-8980
■FAX： 0773-62-8980
■E-mail：
■URL：

## MIRECと学术交流協定を締結



協定書を取り交わす荻野校長(左)と本田機構長(右)

本校は、舞鶴市と立命館大学が連携して昨年設立された「京都・まいづる立命館地域創造機構」(MIREC：機構長・本田立命館大学政策科学部教授)と学术交流協定を締結しました。同機構では、本校のほか、京都職業能力開発短期大学校(ポリテクカレッジ京都)及び京都創成大と同様の協定を交わしています。

この協定は、MIRECを窓口として、協定機関相互の特徴を活かした学術・教育交流を図り、地域振興などに貢献することを目的としたものです。

協定後初めての企画として、3月17日に「産学連携セミナー2005 in大阪」と銘打って、大阪で産学連携セミナーを開催します。近畿北部の技術シーズや本校をはじめとする協定機関の研究の一端を紹介するとともに、「きょうと舞鶴港」の活性化を図るため、関西経済の中心と近畿北部地域産業とを直接つなぐ取り組みを計画しています。

(出典 学校だより「舞鶴高専」第99号)

### <支援体制>

#### (1) 教員研修制度

教員は研究活動の一環として、申請・承認により学外で研修を行うことができる。この制度は学外機関との研究打ち合わせ等に有効に利用されている。また、文部科学省の内地研究員制度(平成16年度より国立高等専門学校機構内地研究員制度)及び在外研究員制度(平成16年度より国立高等専門学校機構在外研究員制度)を活用し、教員の派遣を行っている(資料A-1-①-19)。さらに、研究成果を国際会議の場で発表するための国際研究集会派遣研究員制度(平成16年度より国際学会等派遣事業)により、教員の派遣を行っている(資料A-1-①-20)。

#### (2) 研究助成制度

教職員が提案する重要な研究課題を積極的に推進するため、重点研究制度を設けている(資料A-1-①-21)。過去3年度の申請・採択件数を資料A-1-①-22に、平成17年度の申請・採択課題等を資料A-1-①-23に示す。また、校長裁量経費に研究関係の助成区分を設け、優れた研究申請に対して予算配分も行っている(資料A-1-①-24)。平成17年度は25件の申請に対して11件を採択している(資料A-1-①-25)。なお、これらの研究支援においては、申請書提出の他にヒアリングが課され、多面的な審査が行われている。

資料A-1-①-19

内地研究員 派遣者一覧 (平成9年度以降)					
年度	学科	氏名	研究期間	研究機関	研究題目
9	建設	四蔵 茂雄	10月	長岡技術科学大学 工学部	開発途上国における廃棄物管理のための新規バイオプロセスの開発
	機械	高田 暁男	10月	立命館大学 理工学部	電子デバイス用はんだの力学特性評価に関する研究
10	人文	三川 譲二	6月	立命館大学 法学部	GHQ/SCAP文書を活用しての占領下日本の政党政治の実相についての研究
11	人文	村上美登志	6月	大阪女子大学 学芸学部	仏教文学(安居院唱導と学文)研究
	機械	鈴木 立人	10月	関西大学 工学部	ハイブリッド式介助用車椅子の最適設計と制御への応用
12	制御	奥村 幸彦	10月	東京工業大学 工学部	高電圧高周波放電による化学反応の能動的制御と機能性材料の製作
13	機械	生水 雅之	10月	金沢大学大学院 自然科学研究科	接合体の強度評価に関する研究
14	自然	小松 幸恵	10月	大阪大学大学院 理学研究科	非線型微分方程式の周期解について
15	人文	垂谷 茂弘	6月	甲南大学大学院 人文科学研究科	ユング思想における「臨床と宗教心理論の関係」

在外研究員 派遣者一覧 (平成9年度以降)					
年度	学科	氏名	期間	主たる渡航先	研究課題
9	自然	宮野 敏男	10月	スウェーデン, ストックホルム ストックホルム大学アレーウス研究所	不定比金属複合酸化物の構造の研究
11	制御	金森 満	10月	アメリカ合衆国, バークレー カリフォルニア大学バークレー校	メカニカルシステムのロボスタサーボ制御に関する研究
13	人文	吉永 進一	2月	アメリカ合衆国, フラトン カリフォルニア州立大学フラトン校	近代日本仏教への西欧神秘思想の影響について
	機械	高谷 富也	10月	オーストラリア, ネッドランド 西オーストラリア大学	海洋基盤構造物周辺地盤の応答特性に関する研究
18	建設	森尾 敏	7月	タイ, バンコク チュラロンコン大学	バンコク市内・軟弱地盤(バンコク粘土)の耐震性能評価に関する研究プロジェクト

(出典 創立40周年記念誌)

資料A-1-①-20

国際研究集会派遣研究員 派遣者一覧 (平成14年度以降)					
年度	学科	氏名	開催期間	開催地(国名)	研究集会名
14	建設	三輪 浩	9/18~9/21	ワルシャワ(ポーランド)	第5回水科学・水工学に関する国際会議
15	建設	高谷 富也	5/25~5/30	ホノルル(アメリカ合衆国)	第13回海洋および極地工学に関する国際会議
	人文	村上美登志	8/20~8/31	昆明市(中華人民共和国) ※SARS流行のため辞退	中日民俗文化学術シンポジウム 一口承文学と民間信仰
	自然	野間 正泰	8/25~8/28	ソレント(イタリア)	第7回流れの制御・計測・可視化 国際シンポジウム

(出典 創立40周年記念誌)

## 舞鶴工業高等専門学校重点研究募集要領

(重点研究推進の目的)

- 1 舞鶴工業高等専門学校(以下「本校」という。)においては、当初予算の一部を留保し、本校教職員の企画する重要な研究課題を積極的に推進する計画である。  
もって、本校の教育・研究の発展のみならず、広く学術上地域社会に寄与しようとするものである。

(重点研究の対象)

- 2 本校における重点研究は、高専の研究、教育、運営管理及びそれらの教育環境、また、地域社会の発展等に寄与すると考えられるテーマを対象とし、次の各号のいずれかに該当するものとする。  
(1) 本校教職員が個人又は団体で行う研究  
(2) 民間等外部機関等との共同研究の一部助成

(重点研究の申請要領)

- 3 重点研究の申請は、代表者又は担当者が本要領に基づき、次の各号に掲げる書類を会計課総務係に提出するものとする。  
なお、提出期限は、別途通知するものとする。

- (1) 重点研究申請書(別紙様式1)  
(2) 研究概要説明概念図(A4用紙2枚以内)  
(3) 申請課題に関連する研究成果の概要(様式自由)  
(4) 研究担当者の最近5年間の研究成果の一覧(様式自由)  
(5) 外部機関関係者と共同研究を行う場合には、当該機関からの承諾書(様式自由)  
(応募関連資料作成上の留意事項)

- 4 重点研究の応募関連資料の作成に当たっては、次の各号に留意すること。

- (1) 本校で行われる重点研究は、高専における学術研究、教育改善のための問題発掘、地域交流等の発展に寄与することを目的とし、どのような形で達成しようとするかを明瞭に記述すること。  
(2) 重点研究の評価は、その研究の創造性、先見性、現実性、計画性及び今後の様々な研究テーマへの発展性について行われるものであり、具体的にその考えを記述すること。  
(3) 予算の執行は、会計関係法規に基づくものである。  
ただし、研究の性格上多年度に及ぶ研究で、その必要性が評価される場合もありうるので、重点研究申請書の年次計画欄にその旨を記述すること。  
(4) その他、重点研究の申請に関する質疑は、重点研究等推進委員会(以下「委員会」という。)に行うこと。

なお、これに関する提出先は、会計課総務係とする。

(重点研究経費の配分)

- 5 重点研究経費の配分は、委員会において採択された重点研究課題に対して行うものとする。

(重点研究成果の報告)

- 6 代表者又は担当者は、重点研究経費による研究を行った場合、別紙様式2の重点研究成果報告書(以下「報告書」という。)を委員会に提出するものとする。

なお、報告書の提出は、研究年度毎に当該会計年度後2か月以内に行うものとする。

(重点研究成果の発表)

- 7 重点研究の成果は、本校の教職員に発表するものとする。その発表形式は、次のとおりとする。

- (1) 教官会議の開催に連動した発表会  
(2) 情報科学センター講演会に連動した発表会  
(3) 独立した発表会の開催  
(4) その他

附 則

この要領は、平成9年7月23日から実施する。

(出典 会計課資料)

資料A-1-①-22

## 重点研究申請・採択状況

年 度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
申請件数	17	18	11
採択件数	9	9	2

(出典 会計課資料)

資料A-1-①-23

## 平成17年度重点研究経費申請・採択一覧

番号	重 点 研 究 課 題	代 表 者		本年度要求金額	査 定 金 額
1	明治における日米交流に関する資料の保存と読解プロジェクト	人文科学部門	吉永 進一	990,000	0
2	舞鶴近現代史研究－軍港都市の変遷と地域社会－	人文科学部門	三川 譲二	990,000	700,000
3	個人別英語のリズム訓練システム	人文科学部門	樽井 武	681,000	0
4	舞鶴湾周辺域における環境分析	自然科学部門	宮崎 昭仁	3,100,000	0
5	ウェットプロセスによる新しいフェライト透明磁性薄膜の開発	機械工学科	岩崎 和春	1,095,000	0
6	超微細粒鋼ワイヤーの腐食疲労特性に関する研究	機械工学科	生水 雅之	1,834,000	0
7	フォワード型DC/DCコンバータ用絶縁トランスの新しい設計手法の研究	電気情報工学科	平地 克也	1,344,000	0
8	FPGA/DSPによるPLLモータ速度制御系の実現に関する研究	電子制御工学科	町田 秀和	1,365,000	0
9	石炭の水素ガス化技術の開発	電子制御工学科	奥村 幸彦	1,500,000	0
10	舞鶴市周辺の斜面安全管理に関する研究	建設システム工学科	加登 文学	2,400,000	2,000,000
11	活断層を想定した設計用入力地震動作成に関する研究	建設システム工学科	森尾 敏	1,250,000	0
				16,549,000	2,700,000

(出典 会計課資料)



## 舞鶴工業高等専門学校校長裁量経費応募要領

(校長裁量経費の目的)

- 1 舞鶴工業高等専門学校(以下「本校」という。)においては、予算の一部を校長裁量経費とし、本校の教育・研究の充実発展のために、校長のリーダーシップによる効率的な執行を図ることとする。

(校長裁量経費の対象)

- 2 本校における校長裁量経費は、本校教職員の企画する事業を対象とし、次の区分を設ける。

【区分A】研究関係(研究開発に関するもの(重点研究を含む))

【区分B】教育関係(教育の改善・カリキュラム関係など学生教育に関するもの)

【区分C】共通関係(学校環境の維持管理等に関するもの、校舎・寮などの維持等)

なお、従来の重点研究については、本経費に含むものとする。

(校長裁量経費の申請要領)

- 3 校長裁量経費の申請は、代表者又は担当者が本要領に基づき、予算要求書を会計課総務係に提出するものとする。

なお、提出期限は、特に定めのないものとする。

(予算要求書作成上の留意事項)

- 4 予算要求書の作成に当たっては、次の事項に留意すること。

(1) 要求事業名は、簡潔に記載すること。

(2) 代表者又は担当者は、学科(部門・部)長に記名押印依頼のうえ提出すること。

(3) 要求事業の概要は、その事業の目的・必要性を明瞭に記述すること。

(4) 予算の執行は、会計関係規則に基づくものである。

(5) その他、校長裁量経費の申請に関する質疑は、会計課総務係に行うこと。

(校長裁量経費の審査及び採択)

- 5 校長裁量経費の審査及び採択は、校長、主事、事務部長及び会計課長が行うものとする。

なお、申請事業についてはヒアリングを実施し、その後採択を決定する。ヒアリングをしないものは、原則として採択の対象外とする。

(校長裁量経費の配分)

- 6 校長裁量経費の配分は、採択された事業に対して行うものとする。

附 則

この要領は、平成17年10月11日から実施する。

(出典 会計課資料)

## 平成17年度校長裁量経費(第1回)研究区分決定一覧

番号	要 求 事 項	代 表 者	要 求 金 額	決 定 金 額
A 1	外部研究機関設置の高精度・高機能分析装置の利用	機械工学科 岩崎 和春	300,000	175,000
2	閉鎖性水域の環境浄化技術	機械工学科 辻 正	1,200,000	1,200,000
3	磁界センサ用有限要素解析ソフトウェア	電気情報工学科 金山 光一	375,000	0
4	PFCコンバータの研究	電気情報工学科 平地 克也	925,050	0
5	地域連携における共同研究の充実と研究成果発表に関する事業	電気情報工学科 長谷川 真司	637,900	637,000
6	共生型移動ロボット開発支援システムの導入	電子制御工学科 西岡 勝博	2,957,080	0
7	新型三相両サイド出力電動機の試作経費	電子制御工学科 天野 耀鴻	900,000	900,000
8	次世代型石炭ガス化技術の開発(先駆的実験炉の導入)	電子制御工学科 奥村 幸彦	2,593,500	0
9	舞鶴市・公共工事で排出する残土の処分・再利用	建設システム工学科 森尾 敏	1,400,000	0
10	粒状地盤の非連続体挙動解析に関する研究	建設システム工学科 高谷 富也	5,000,000	0
11	平井金三資料のデジタル化	人文科学部門 吉永 進一	930,000	0
12	舞鶴湾周辺域をフィールドとした環境分析 研究と教育	自然科学部門 宮崎 昭仁	629,200	300,000
13	熱ストレスの観測・監視システムの構築	自然科学部門 小野 伸一郎	1,104,800	800,000
	小 計	応募 13件	18,952,530	4,012,000

## 平成17年度校長裁量経費(第2回)研究区分決定一覧

番号	要 求 事 項	代 表 者	要 求 金 額	決 定 金 額
A 1	ゾルゲル法と熱分解法による機能性薄膜の合成に関する研究	機械工学科 岩崎 和春	180,000	0
2	N型ダイヤモンド半導体膜の製造と評価	電気情報工学科 金山 光一	1,714,000	0
3	フィールドサーバ用WBGトセンサの開発	電気情報工学科 中川 重康	1,320,000	0
4	デバイス材料の計算機シミュレーション	電気情報工学科 竹澤 智樹	1,080,450	1,080,000
5	舞鶴市水素エネルギーモデル都市計画の準備検討会	電気情報工学科 竹澤 智樹	1,034,000	1,000,000
6	石炭の水素ガス化技術の開発(先駆的実験炉の導入)	電子制御工学科 奥村 幸彦	2,593,500	0
	小 計	応募 6件	7,921,950	2,080,000

## 平成17年度校長裁量経費(第3回)研究区分決定一覧

番号	要 求 事 項	代 表 者	要 求 金 額	決 定 金 額
A 1	閉鎖性水域の環境浄化技術の開発	機械工学科 川勝 邦夫	3,000,000	1,200,000
2	赤外線高速加熱炉の電源工事費	電気情報工学科 山田 博	350,000	350,000
3	カリフォルニア大学パークレー校との共同研究の推進	電子制御工学科 金森 満	300,000	0
4	特許申請経費(1. 三相両サイド出力回転機、2. 同期リラックス型風力発電機)	電子制御工学科 天野 耀鴻	800,000	0
5	新型三相両サイド出力電動機の駆動回路設計・試作経費	電子制御工学科 天野 耀鴻	888,000	0
6	小型ロボットアームの修理と保守について	電子制御工学科 天野 耀鴻	604,000	149,000
	小 計	応募 6件	5,942,000	1,699,000

	合 計	応募総数 25件	32,816,480	7,791,000
--	-----	----------	------------	-----------

(出典 会計課資料)

## (3) 事務組織

各種助成の応募案内、科学研究費の案内や説明会の開催、学内研究助成(校長裁量経費)の案内、研究に関係する施設・設備の助成(校長裁量経費)の案内など、所掌する事務担当から文書やメールによって周知している。また、庶務課長が地域共同テクノセンター運営委員会に委員として参画することにより、学内外の連絡調整及び事務的処理等の円滑化を図っている。

## (4) 教育研究支援センター

専門的業務を組織的、効率的に行うことを主目的として教育研究支援センターを設置している(資料A-1-①-26)。同センターは、第1技術部門及び第2技術部門からなり、前者は主として機械・建設システム工学に関する技術的業務を担当し、後者は主として電気情報・電子制御工学に関する技術的業務を担当している。なお、情報処理に関する技術的業務は両部門が協力して担当している。

資料A-1-①-26



(出典：庶務課資料)

資料A-1-①-27

コンクリート圧縮強度試験成績										
試験日	平成 17年 9月 28日 水曜日									
採取年月日	平成 17年 8月 31日									
試験状態	①室温 (°C)			②湿度 (%)			③水温 (°C)			
施工業者										
工事名										
打設箇所										
委託者										
コンクリート設計基準強度 $F_0(N/?)$	24			気温による補正值(N/?)			0			
構造体に対する補正值 $\Delta F(N/?)$	3			調合強度 $F(N/?)$			27			
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランブの範囲 (cm)	空気量の範囲 (%)	水セメント比 W/C (%)	細骨材率 s/a (%)	単位量 (kg/?)				
	W	C	G	S	A					
供試体番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
材 齢 (日)	28			28			28			
平均直径 (cm)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
平均高さ (cm)	20	20	20	20	20	20	20	20	20	
実測スランブ (cm)	17.5			18.0			19.0			
質 量 (kg)	3.720	3.725	3.710	3.725	3.705	3.715	3.700	3.705	3.715	
最大荷重 (kN)	309	308	309	313	306	309	309	303	317	
圧縮強度 (N/?)	39.4	39.2	39.4	39.9	39.0	39.4	39.4	38.6	40.4	
平均圧縮強度 (N/?)	39.3			39.4			39.4			
養生方法	現場水中養生			現場水中養生			現場水中養生			
養生温度 (°C)										
破壊状況										
回 数	1回目			2回目			3回目			
摘 要										
独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 舞鶴市宇白屋234番地							担当者	試験者		

(出典 教育研究支援センター資料)

また、特許アドバイザーを地域共同テクノセンターへ派遣している。さらに、地域連携の一環として受託試験（コンクリート圧縮強度試験及び鉄筋引っ張り試験）を実施している。コンクリート圧縮試験結果の報告例を資料A-1-①-27に示す。

#### (4) 図書館

図書館では研究支援の一環として各種データベースへのアクセスサービスを提供している。教職員は図書館のコンピュータだけでなく個人のコンピュータからもサービスを利用することが可能である。平成18年度のコンテンツを資料A-1-①-28に示す。

資料A-1-①-28

図書館の研究支援サービス

サーバ設置元	データベース名	内 容
長岡科学技術大学 図書館	KANON（旧新外国雑誌目次データベース(SwetsScan)）	約16,000誌の外国雑誌の目次情報を収録
	サイエンス・ダイレクト(SD)コンソーシアム	エルゼビアが発行する 1,700 以上の科学・技術・医学・社会科学分野のジャーナルに加えて、エルゼビア以外の協力出版社のジャーナルも搭載
国立情報学研究所	Genii（ジーニイ）学術コンテンツ・ポータルサイト	広範囲の分野の文献検索，学術情報などが検索可能
	CiNii（論文情報ナビゲータ）	国内の学協会が発行する学術雑誌の本文を見ることが可能
科学技術振興機構	JDream	科学技術振興機構（J S T）が作成した科学技術や医学などの文献情報検索システム

(出典 図書館ウェブページ)

#### (分析結果とその根拠理由)

研究体制については、学術・技術研究を推進するための施設・設備及び研究成果を発信する場が整備され機能しており、研究基盤は充実している。また、地域共同テクノセンターを設置し、連携部会と研究特許推進部会が中心となって技術相談の実施や産官学連携活動の推進を図っている。さらに、特許取得を推進するため、特許アドバイザーを設置するとともに、特許講演会を開催している。その他にも、教員の研究シーズ集の作成・公表、京都・まいつる立命館地域創造機構(MIREC)との学術交流協定締結等を行っており、学外機関との連携体制も充実している。一方、支援体制については、内地及び在外研究員制度、重点研究経費・校長裁量経費等の財政支援、事務部による事務処理等の人的支援及び図書館によるデータベースサービスが整備され、機能している。また、教育研究支援センターは特許取得や受託試験等に対応した技術的な支援体制を有している。

以上のように、研究の実施やそれを支援するための体制が十分に整備され、機能している。

## 観点A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

<地域との連携・協力・貢献>

## (1) 連携・協力・貢献

平成17年度の校長裁量経費による研究11件中5件は舞鶴及びその周辺地域を対象としたもの(資料A-1-②-1)で、その成果は有効に活用されることが期待できる。また、教員が京都・まいづる立命館地域創造機構(MIREC)に運営委員や研究員として参画し、産官学連携、地域連携活動の推進に貢献している。特に、MIRECプロジェクトでの阿蘇海(宮津市)底質浄化の研究は本校が主体的に行ったものであり、その成果が注目されている。また、地域共同テクノセンターは「国際フロンティア産業メッセ2005」、「全国高専テクノフォーラム」及び「産学官連携ビジネスショウ」に参加し、広域的な活動を行っている(資料A-1-①-13~15)。

資料A-1-②-1

舞鶴地域を対象とした研究(平成17年度校長裁量経費)

番号	研究課題
1	閉鎖性水域の環境浄化技術
2	地域連携における共同研究の充実と研究成果発表に関する事業
3	舞鶴湾周辺域をフィールドとした環境分析研究と教育
4	舞鶴市水素エネルギーモデル都市計画の準備検討会
5	閉鎖性水域の環境浄化技術の開発

(出典 会計課資料)

## (2) 技術相談

地域共同テクノセンターでは、地域の産業界において解決が迫られている問題や疑問点など様々な技術相談を受け入れる体制が整備されており、それらが機能している。同センターの産官学連携制度の概要を資料A-1-②-2に、過去5年の技術相談件数の推移を資料A-1-②-3に示す。

## (3) 受託試験

教育研究支援センターで受け入れているコンクリートの圧縮強度試験は、地域連携の一環として行われているものであり、その状況を資料A-1-②-4に示す。また、地域連携としての成果を外部に公表している(資料A-1-②-5)。

<外部資金の導入>

日本学術振興会の科学研究費に毎年全教員の4~5割が申請している。主な申請研究種目は基盤研究と若手研究であり全体の8~9割を占める。継続分も含めた過去5年間の採択率は約35%であり、獲得資金は約500万円~1600万円の範囲で推移している(資料A-1-②-6)。平成17年度の近畿地区6高専の採択件数と配分額を資料A-1-②-7に示す。なお、「学術研究」を対象とする科学研究

2005.11.28更新

## 産学官交流制度の概要

### 1. 開かれたセンタを一めざして

近年、産業界をはじめとする社会の各方面から、具体的な諸問題の解決等のため、大学や工業高等専門学校等に対し、多様な期待が寄せられております。本センターでもこれに応えるため、学外との技術交流の中心的役割を果たすべく、受け入れ体制を整備し、人的交流や技術的協力により、産業界等との連携を積極的に推進して行きたいと考えています。産学官交流制度の概要は次のとおりとなっております。

### 2. 技術相談

本校には、建設システム工学、情報処理、計測制御、電気電子工学、機械システム工学など、多くの分野にわたって多数の専門家が在職しています。企業の現場などで解決を迫られている難問や疑問を解決できることも多いと思います。これまでも、各方面から多数の技術相談等があり、地域社会に貢献してきました。お気軽に御相談下さい。

- 1) 相談の申込は、文書にてお願いします。「技術相談申込書」に相談内容をできるだけ具体的に御記入の上、下記6)の「申込書送付先」にお送り下さい。なお、「技術相談申込書」は一定の様式がありますので、6)にご請求下さい。
- 2) 技術相談申込書受理後、できるだけ早く諾否について通知します。承諾の場合は、申込の相談内容に最も適切と思われる相談員を選定した上で、相談日時を連絡します。
- 3) 申し込まれた相談内容に対して、お答えできる相談員が本校にいない場合はご相談に応じられませんので、御了承下さい。
- 4) 「相談の方法」に御不明な点がございましたら、下記にお問い合わせ下さい。
- 5) お問い合わせ先および申込書送付先

〒625-8511 舞鶴市字白屋234

舞鶴工業高等専門学校地域共同テクノセンター TEL 0773-62-8888

(出典 地域共同テクノセンターホームページ)

### 技術相談件数の状況

年 度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
相談件数	30	35	35	38	28

(出典 創立 40 周年誌, 庶務課資料)

### 受託試験の状況

	年 度	13	14	15	16	17
コンクリート 圧縮試験	依頼件数	264	90	90	161	82
	試験本数	792	270	270	495	244
鋼材引っ張り 試験	依頼件数				4	3
	試験本数				12	9

(出典 教育研究支援センター資料)

# コンクリートの強度検査による地域貢献

Contribution by Taking on Strength Inspection of Concrete in the North of Kyoto Pref.

○岡本寛昭<sup>\*1</sup> 阿波和利<sup>\*2</sup>  
Hiroaki OKAMOTO Kazutoshi AWA

キーワード：受託試験, 建設工事, コンクリート

Keywords: Trust inspection, Construction work, Concrete

## 1. はじめに

コンクリート構造物の工事においては、コンクリート強度が基準値を満足しているかの検査が必要となり、検査は公的試験機関などの第三者機関に依頼することが義務付けられている。京都府北部には公的試験機関がないことから、京都市内や大阪府内の試験機関に依頼して検査を行っていた。地域の建設機関からの要請を受け、本校建設システム工学科では、「受託材料試験の取り扱いに関する規程」を1976年（昭和51年）4月に定め建設材料の受託試験業務を実施することにした。その主な試験は建築用のコンクリート強度試験である。本文は、コンクリートの強度検査の必要性と意義、受託試験の手順と仕組み、検査結果、地域貢献のあり方について述べる。

## 2. コンクリート強度検査の必要性と意義

鉄筋コンクリート工事における構造体のコンクリート強度は、構造計算において基準としたコンクリートの圧縮強度、すなわち設計基準強度を確保していなければならない。一般に構造体のコンクリート強度は、構造体から切り取ったコア供試体の圧縮強度で管理するのが正当である。しかし、構造体からコアを採取するのは困難であり、構造体に近似した条件で養生した供試体強度で管理する手法が採用されている。建築基準法<sup>1)</sup>で規定されているコンクリート強度を図1で説明する。工事現場で構造体に打ち込まれるコンクリートから試料を採取して作った円柱供試体（通常φ100×200mm）を構造体の置かれる条件に近い現場水中養生を行い、その材齢28日の圧縮強度が設計基準強度 $F_c$ 以上になれば合格とする検査方法である。構造体のコンクリートは供試体よりも強度発現が遅く、材齢91日で設計基準強度に到達することが知られている。構造体の供用開始時期は、一般に材齢91日以降となるが、この時点で設計基準強度を満足していればよい、との考えに基づいている。

<sup>\*1</sup> 舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科

<sup>\*2</sup> 舞鶴工業高等専門学校 教育研究支援センター

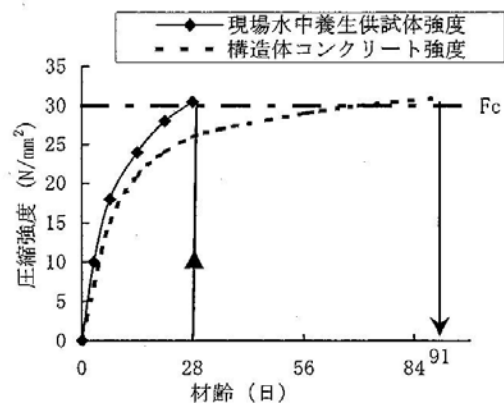


図1 建築基準法によるコンクリート強度

日本建築学会 JASS 5<sup>2)</sup>では、構造体コンクリートの圧縮強度が表1に示す基準を満足することを求めている。現場水中養生を適用する場合は、材齢28日強度が品質基準強度以上になれば合格と判断され、20℃水中の標準養生の場合は、品質基準強度に気温による強度補正値を加算した値以上になれば合格と判断される。ここで、品質基準強度 $F_q$ は次に示す式(1)および式(2)で表される。

$$F_q = F_c + \Delta F \quad (1)$$

$$F_q = F_d + \Delta F \quad (2)$$

ここに、 $F_c$ : 設計基準強度、 $F_d$ : 耐久設計基準強度、 $\Delta F$ : 構造物と供試体の強度差を考慮した割り増しで、通常 $3N/mm^2$ 。

表1 JASS 5による構造体コンクリートの強度の基準

供試体養生方法	強度管理材齢	圧縮強度の基準
現場水中養生	28日	$F_q$ 以上
現場封かん養生	28日を超え91日以内	$F_q$ 以上
標準養生 (20℃水中)	28日	$F_q + T$ 以上

摘要  $F_q$ : 品質基準強度、 $T$ : 気温による強度補正値

(出典 平成17年度工学・工業教育研究講演会講演論文集)

資料A-1-②-6

## 科学 研究 費 補 助 金 採 択 状 況

研究種目 審査区分	平成13年度			平成14年度			平成15年度			平成16年度			平成17年度			平成18年度		
	新規 申請 件	採 択 件	採 択 金 額 千円	新規 申請 件	採 択 件	採 択 金 額 千円	新規 申請 件	採 択 件	採 択 金 額 千円	新規 申請 件	採 択 件	採 択 金 額 千円	新規 申請 件	採 択 件	採 択 金 額 千円	新規 申請 件	採 択 件	採 択 金 額 千円
特定領域研究																		
基盤研究(S)																		
基盤研究(A)一般																		
基盤研究(A)国際学術																		
基盤研究(B)一般	3	0	0	2	0	0	3	0	0	1	0	0				1		
基盤研究(B)国際学術																		
基盤研究(C)	19	7 (2)	10,500	12	8 (5)	9,300	18	5 (1)	3,900	23	8 (2)	13,500	21	8 (1)	6,500	17		
基盤研究(C)企画調査													1	0	0	1		
萌芽研究				1	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	2		
若手研究(A)																		
若手研究(B)				6	2	4,900	4	3 (2)	2,000	6	2 (1)	1,900	4	1 (1)	500	4		
奨励研究(A)	8	1	1,800															
奨励研究(B)	2	2	480															
奨励研究				1	1	240	1	0	0	1	1	740	1	0	0			
計	32	10 (2)	12,780	22	11	14,440	28	8 (3)	5,900	32	11	16,140	28	9	7,000	25	0	0

採択金額欄の( )内は継続採択分以内数

(出典 庶務課資料)

費補助金の位置付けから、採択された課題(資料A-1-②-8)はいずれも申請者の専門分野に基づくものであり、得られた成果は学術の進展だけでなく本校の教育内容にも反映されることが期待できる。その他の外部資金として、過去5年間の民間等との共同研究、受託研究及び奨学寄付金の実績を資料A-1-②-9に示す。

## &lt;研究成果の公表&gt;

研究活動によって得られた成果は、舞鶴高専年報第3号(資料A-1-②-10及び11)に示されているとおり、学会等の発表や論文を通じて外部に公表され、評価を受けている。全体の約半数が学会発表であるが、査読付き論文と国際会議論文の合計数は全体の約1/3を占める。研究成果を公表することは更なる研究の活性化に繋がるとともに、科学研究費等の外部資金への申請、採択への足がかりにもなる重要事項であるといえる。

研究成果の教育への還元については、学術研究や学外との共同研究等の一部が卒業研究や特別研究として行われており、その成果は学外での発表や学会発表論文となっている(資料A-1-②-12)。

## &lt;特許の出願・取得状況&gt;

過去3年間に特許出願・取得された特許件数を資料A-1-②-13に示す。多くは企業に帰属したものであるが、校長裁量経費の補助を受けて行われた研究を平成16年度に特許出願している。



資料A-1-②-7

平成17年度科学研究費補助金 機関別採択件数・配分額一覧(新規採択分+継続分)  
(金額単位:円)

機 関 名	採択件数	配分額 (直接経費)	配分額 (間接経費)	配分額 (合 計)
舞鶴工業高等専門学校	9	7,000,000	0	7,000,000
大阪府立工業高等専門学校	3	1,600,000	0	1,600,000
明石工業高等専門学校	7	7,600,000	0	7,600,000
神戸市立工業高等専門学校	9	14,400,000	0	14,400,000
奈良工業高等専門学校	9	9,100,000	0	9,100,000
和歌山工業高等専門学校	6	7,500,000	0	7,500,000

(出典 日本学術振興会ウェブページ)

資料A-1-②-8

## 平成17年度科学研究費補助金採択課題

研究種目	氏 名	研 究 課 題
基盤研究(C)	吉永 進一	平井金三における明治仏教の国際化に関する宗教史・文化史的研究
基盤研究(C)	村上美登志	仏教伝承芸能「仏舞」における国際文化比較研究
基盤研究(C)	高田 暁男	環境調和の非鉛系超微小はんだ試験片のクリープ強度評価法の開発
基盤研究(C)	天野 耀鴻	高効率風力発電のための同期リラクタンズ型発電機の開発とLPVベクトル制御
基盤研究(C)	奥村 幸彦	加圧下における石炭の水素ガス化機構の解明
基盤研究(C)	森尾 敏	強震時における表面波寄与率の定量的評価法に関する研究
基盤研究(C)	高谷 富也	海底パイプラインの耐波・耐震安定性評価に関する研究
基盤研究(C)	三輪 浩	非定常な流量と土砂供給条件による水みちの変動と砂粒子の分級効果に関する研究
若手研究(B)	川田 昌克	ディスクリプタ表現を利用した多目的ゲインスケジューリングと実システムへの応用

(出典 庶務課資料)

資料A-1-②-9

## 共同研究、受託研究の実施状況および奨学寄付金の受入状況

(千円)

年 度	13		14		15		16		17	
区 分	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	0	0	0	0	0	0	1	147	0	0
受託研究	1	605	6	3,600	2	605	1	300	1	300
奨学寄付金	14	12,300	15	13,550	11	9,400	13	12,940	11	19,210

(出典 会計課資料, 創立40周年記念誌)

資料A-1-②-10

研究成果発表状況（平成17年度、特許は過年度未掲載分を含む）

区 分	査読論文	著書	国際会議	学会発表	特許	その他	計
人文科学部門	5	4		11		7	27
自然科学部門	2	1	2	2		1	8
機械工学科	11	1	8	13	2	2	37
電気情報工学科	3		4	24		2	34
電子制御工学科	2		2	14(+2)	1	1	21(+2)
建設システム工学科	8(+1)	2	11	24(+2)		9(+6)	52(+9)
教育研究支援センター	1						1
合 計	32(+1)	8	27	88(+4)	3	22(+6)	180(+11)

(+数字) は他学科との共著者を外数で示す。

(出典 舞鶴高専年報第3号)

資料A-1-②-11

研究業績 (人文)

Annual Report 2005

研究活動

## 人文科学部門

樽井 武

## 学会発表

ITによる英語のリズム学習, 日本教育工学会第21回全国大会講演論文集, pp.799-800, (2005.10), 樽井 武, 荻原立也

## その他

English Speech Rhythm and the Japanese Learner, a Temporal Study, PhD thesis, (2006.1), The University of Reading

村上 美登志

## 査読付論文

「佛舞」の原風景—その音楽的相承を中心に—, 立命館大学日本文学会, 論究日本文学, Vol.82, pp.1-8, (2005.5), 村上美登志, 富田成美, 斎藤千恵, 内藤由直, 佐々木清次, 安藤勝志, 増田茂恭, 近衛典子

## 著書

中世文学の諸相とその時代 II, 和泉書院, pp.1-439, (2006.3), 村上美登志

## 学会発表

「佛舞」の世界, 日本文学会平成17年度(第49回)大会(立命館大学主催), (2005.6), 村上美登志

## その他

(会田実)著『『曾我物語』その表象と再生』書評, 早稲田大学国文学会, 国文学研究, Vol.147, pp.63-65, (2005.10), 伊藤 剣, 高津希和子, ■武彦, 小澤 純, 田村景子, 中川秀太, 金井清一, 村上美登志, 篠原 進

荒川 吉孝

(出典 舞鶴高専年報第3号(一部抜粋))

資料A-1-②-12

## 専攻科学生の学会等における研究発表実績

年度	所 属	題 目	論文誌名, 学会名等
16	建設・生産	フライアッシュを用いた新しいセメント系混合物の開発	土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集, V-27, 2004.
	建設・生産	バイブレータの負荷によるコンクリートの締固め過程の把握	土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集, V-28, 2004.
	電気・制御	PICを用いた太陽電池におけるMPPT制御装置の開発	パワーエレクトロニクス学会創設記念大会講演予稿集, p. 25, 2004.
	電気・制御	燃焼炎ダイヤモンド膜の誘電正接熱処理温度依存性	平成16年電気関係学会関西支部連合大会, G7-11, p. G174, 2004.
	電気・制御	燃焼炎ダイヤモンド膜の誘電特性に及ぼす合成条件の影響	平成16年電気関係学会関西支部連合大会, G7-12, p. G175, 2004.
	電気・制御	三次元有限要素法による三相型両サイドDC回転機の電磁界解析とその設計	舞鶴工業高等専門学校紀要, Vol. 40, pp. 47-50, 2005.
	電気・制御	ニューラルネットを用いた同期リラクタンスモータの適応制御	舞鶴工業高等専門学校紀要, Vol. 40, pp. 51-55, 2005.
	電気・制御	カラー画像による人物挙動解析に関する研究	電子情報通信学会総合全国大会論文集, D-SP-70, 2005.
	電気・制御	撮影画像の人物の照合監視システム	電子情報通信学会総合全国大会論文集, D-SP-43, 2005.
	電気・制御	燃焼炎ダイヤモンド膜の電気特性に及ぼす熱処理温度の影響	電子情報通信学会2005年総合大会, C-6-1, p. 8, 2005.
17	建設・生産	フライアッシュを用いたセメント系混合物の基礎的検討	土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集, V-13, 2005.
	建設・生産	鉄筋加振法による付着強度への影響	土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集, V-40, 2005.
	建設・生産	鳴き砂の土粒子形状と非排水単純せん断特性について	平成17年度土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集, III-25, 2005.
	建設・生産	舞鶴市の液化化危険度マップの作成	平成17年度土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集, III-41, 2005.
	電気・制御	ニューラルネットワークを用いた風力発電系の同定システム	平成17年電気学会産業応用部門大会講演論文集, II-107/108, 2005年9月.
	建設・生産	2004年台風23号による由良川水害時の避難について	第60回土木学会年次学術講演会講演概要集II, pp. 133-134, 2005.
	電気・制御	時間的視差を利用した三次元復元に関する基礎的研究	平成17年電気関係学会関西支部連合大会, G14-13, p. G306, 2005.
	電気・制御	PLL/PWM方式による位置サーボ系のFPGA実現	第48回自動制御連合講演会CD-ROM予稿集, 発表番号H12, 2005.
	電気・制御	LMIに基づく動的anti-windup制御器の設計	第48回自動制御連合講演会, I2-25, 2005.
	電気・制御	年少期の視機能と球技運動能力について	日本人間工学会関西支部大会, B12, 2005.
	電気・制御	鉄/Si基板上に堆積した窒化ホウ素炭素(BCN)薄膜からの電界電子放出特性	第11回高専シンポジウム, B9, 2006.
	電気・制御	燃焼炎ダイヤモンド膜-Au接合素子の接触電位差の温度依存性	電子情報通信学会学生会研究発表講演会, 2006.

(出典：舞鶴高専年報第2号，第3号)

資料A-1-②-13

## 特許件数 (出願, 公開を含む)

年 度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
件 数	4	3	3

(出典 庶務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

教員は、学術・技術の進展を教育内容へ即応させるため、また、産官学連携活動の一環として研究を行っており、その成果を論文、著書、学会発表等で公表、評価を受けている。平成17年度の内部資金（重点研究経費、校長裁量経費）による研究13件中7件は舞鶴及びその周辺地域を対象としており、地域の発展に寄与するものである。また、科学研究費等の外部資金の獲得も推進されている。技術相談、受託試験は活発に実施されており、地域貢献が果たされている。共同研究、受託研究についてはより一層の推進が必要であるが、MIRECプロジェクトの一環として行われている阿蘇海底質浄化の研究はその実用性に高い注目が寄せられており、地域貢献に役立つことが期待できる。また、特許取得は地域共同テクノセンターが中心となって取り組んでおり、実績も上げられている。なお、平成17年度に連携部会に設置された専門技術チームの研究については、来年度以降その成果が示されるものと期待される。さらに、研究の教育への還元については、学術研究や学外との共同研究等の一部が卒業研究や特別研究の活動として行われており、その成果は学外での発表や学会発表論文となっている。

以上のように、本校の研究活動は学術・技術貢献、地域貢献及び社会貢献に対して種々の実績と可能性を有しており、活動の成果が上がっている。

**観点A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

(1) 委員会等の体制と活動状況

重点研究経費については、校長、主事、部長、課長及び各学科・部門の教員1名で構成される重点研究推進委員会が担当しており、申請書に基づくヒアリング等を実施、審査・採択を行っている。なお、研究成果の報告書提出と重点研究発表会での発表が義務づけられている（資料A-1-①-21、資料A-1-③-1）。さらに、学会等の論文誌や紀要への投稿も強く要請されている。校長裁量経費については、校長、主事、部長及び会計課長からなる審査会を組織して審査・採択が行われており、校長のリーダーシップが反映されるようになっている（資料A-1-①-24）。

地域共同テクノセンターでは運営委員会を定期的に開催し、業務の進捗状況と今後の対応状況について議論している。議事録の一部を資料A-1-③-2に示す。また、教員の研究内容を地域の企業や教員に紹介する場として、情報科学センターが講演会を毎年2回開催している（資料A-1-③-3）。なお、電気情報工学科では学科独自の研究発表会を開催している（資料A-1-③-4）。

(2) 自己点検・評価、外部評価、参加会等の状況

本校は定期的に教育研究や学校運営に関する自己点検・評価を実施し、平成6年及び平成10年に自己点検評価報告書を公表している。研究に係る部分を一部抜粋し、資料A-1-③-5に示す。また、平成12年度に外部評価を実施、外部評価報告書を公表している。評価委員の意見書の一部を資料A-1-③-6に示す。さらに、教育研究上の目的を達成するための基本的な計画や活動状況の自己評価等の重要事項を審議し、助言及び勧告を行うことを目的として、平成16年7月に外部有識者からなる参加会を設置し（資料A-1-③-7）、平成17年2月に第1回の参加会を開催している（資料A-1-③-8）。

## 重点研究成果発表会プログラム

日 時 平成17年7月11日(月)

場 所 大会議室

16:20～16:30 校長挨拶

16:30～16:45 「ウェットプロセスによる機能性薄膜の新しい合成法の開発」

機械工学科 岩崎和春

(概要) ゴルゲル法によって、La, Mn ドープ BaTiO<sub>3</sub> 微粒子を合成し、強誘電性と常磁性の共存する新規の微粒子材料を見いだした。ゴルゲル法と金属アセチルアセトナートの熱分解法によって、ITO 導電薄膜およびフェライト磁性薄膜の新しい合成法に成功した。

16:45～17:00 「腐食環境下での超鉄鋼の遅れ破壊特性に関する研究」

機械工学科 生水雅之

(概要) 結晶粒径を微細化した超鉄鋼の切欠き三点曲げ試験片を用いて、人工海水中での応力腐食割れ発生実験を行い、き裂発生寿命におよぼす結晶粒径の影響について検討を行うとともに、X線応力測定法を用いて破面下の残留応力測定を行い、破壊力学の観点より考察を行った。

17:00～17:15 「次世代希土類系123相超電導体の作製と評価に関する研究」

電気情報工学科 山田博

(概要) 次世代の実用高温超電導材料である希土類系123相超電導体は、臨界温度( $T_c$ )がおおよそ90 Kであり、液体窒素温度77.3 Kにおける臨界電流密度( $J_c$ )が高磁場下においても低下しにくい特徴をもつ。本研究では、簡便なTFA溶液を用いた塗布熱分解法(MOD法)を用いてY系123相超電導膜を製作し、本焼成時の昇温速度が臨界電流密度特性に与える効果を検討した。また、非破壊誘導測定による新しい臨界電流密度評価法についても併せて検討した。

17:15～17:30 「新型三相両サイド出力電動機に関する研究」

電子制御工学科 天野耀鴻

(概要) 従来の電動機の構造と全く異なる三相両サイド出力電動機に関し、16年度の研究成果は以下のとおりである。

- 1) 三次元有限要素法を用いて電動機の構造・材質などを改善

(出典 会計課資料(一部抜粋))

地域共同テクノセンター運営委員会第1回運営会議 議事録 (作成：辻)

平成17年4月25日

(出席：9名、欠席：鈴木、オブザーバー：大和)

於：センター1F 会議・相談室

**【平成17年度活動方針・活動方法】**

活動方針	高専の経営管理指標である、 「特許数(出願、登録)」「共同・委託研究数」「産学官連携」 について有効な活動を行う。
活動方法	下記の2部会を立ち上げる。 「連携部会」：従来のセンターの活動 「研究特許推進部会」：新設 高専に知財活動を定着させ、特許・研究の活性化を図る。

**【議題】** 1. 外部からの依頼・相談事項

2. (社)発明協会・平成17年度高等専門学校における「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校」
3. 知財調査(案)
4. 他高専・大学の活動(回覧資料に見る)
5. 産学官連携、学学連携の推進
6. その他

1. 外部からの依頼・相談事項：

神戸高専から「国際フロンティア産業メッセ2005(神戸、8月4-5日)」の参加要請があり「舞鶴高専PRの機会として捉えて参加」することとした。

→ **【対応】**委員会ご庶務課長および前々センター長(川勝先生、MIREC副機構長)と調整し、「PRパネルを各学科2枚づつ程度作成」する方向で準備・予算化を進めることとした。  
このPRパネルは展示の度毎ごとに繰返して使用できるグレードとし、プロに外注する。

2. (社)発明協会・平成17年度高等専門学校における「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校」および関連の知財調査(案)：

- (1) 実験協力校の活動を進めるにあたり「研究特許推進部会」および同推進部員を新設する。
- (2) 具体的な活動は、4月28日に発明協会から委嘱状交付を受けて開始する。

(出典 地域共同テクノセンター運営委員会資料(一部抜粋))

**来聴歓迎**

国立 舞鶴工業高等専門学校  
**第 21 回 情報科学センター講演会**

日時 平成 17 年 12 月 5 日 (月) 16 時 20 分～18 時 20 分

会場 舞鶴工業高等専門学校 大会議室 (本館 4 階)

**講演題目**

**1. 天の橋立の水域環境浄化**

機械工学科 助教授 白藤中生

**2. 計算機シミュレーションによる物性評価**

電気情報工学科 助教授 竹澤智樹



- ☆ お車は学生駐車場をご利用ください。
- ☆ ご来聴いただいた方には機関誌「情報科学センター年報」第 33 号を贈呈いたします。

**お問い合わせ**

〒625-8511 京都府舞鶴市宇白屋 234 番地  
国立 舞鶴工業高等専門学校 庶務課 庶務係  
電話：0773-62-8861 FAX：0773-62-5558  
e-mail：

(出典 情報科学センター運営委員会資料)



## 舞鶴工業高等専門学校電気情報工学科

〒625-8511 舞鶴市白屋 2 3 4

### 電気情報工学科教育研究会(10-30)

最適化手法を用いた共同学習における学習者の組合せに関する研究

本館 1 階 A-107 室、平成 18 年 3 月 1 日(木)、11:10~11:40

電気情報工学科 新池一弘

協同学習に関する研究は、実際に学習問題を設定し実験対象者の学習過程を観察することにより行われる。しかし、この方法では一度実験対象者として学習問題を解いた人を、同一問題でもう一度実験対象者に選ぶことはできないので、実験対象者の数は制限される。したがって、実験観察から得たデータを有効に利用して知見を得るためには、モデリングの考え方が有効であると考えられる。

本研究では、まずシステム工学的手法を適用して学習効果を予測するニューラルネットワークモデルを構築する。次に、ニューラルネットワークモデルから得られた学習問題の正答率の予測値、および改善された局所探索法を用いて最適な学習者の組合せを決定する手法を提案する。

(出典 電気情報工学科資料)



## 5.6.4 教官の研究

本学科の教官は、それぞれの分野で精力的に活躍している。その状況を発表論文数や種々の研究助成金取得状況などからみしてみる。

## (1) 研究論文等の発表件数

a) 審査付き論文発表数：過去5年間の審査付き論文の発表総数は46編で、約1編/人・年である。図-2に発表件数の経年変化を示す。平成6年度以降の件数の増加がみられる。

b) 口頭発表数：学会等での口頭発表の件数は、過去5年間に59件で、1.3件/人・年である。図-3に発表件数の経年変化を示す。平成4年度及び6年度を除くと、いずれの年度も1人1件以上の発表を行っている。発表学会等も、土木学会をはじめ砂防学会、地すべり学会、セメント協会、日本道路協会と幅広く、各教官の研究の特性を生かしている様子が知られる。

必ずしも良好な研究環境にない高専において、また、過去5年間に教務主事、学生主事、情報科学センター主任を輩出してきた学科としては、上述の結果は高く評価されると思われる。

c) 問題点：前述のように、本学科の研究活動は高く評価されると思われるが、45歳以上の者の発表件数は、45歳未満の若手の発表件数に比べて少ない。

表-3に、45歳以上及び45歳以下の教官1人当たりの発表件数（過去5年間）を示す。

表-3 教官1人あたりの発表件数（過去5年間）

	審査付き論文	口頭発表
45歳以上	3.2	5.5
45歳未満	6.7	6.5

口頭発表数に関しては、45歳以上とそれ未満では大差がみられないが、審査付き論文数については、45歳以上の者はそれ未満の者の約半分となっている。過去5年間に、45歳以上の者の中から教務主事、学生主事、情報科学センター主任を輩出するとともに学科主任を出してきたためと思われる。多忙な校務に就く者にとっても、研究活動を活発に続けられるような体制と環境の整備が望まれる。

## (2) 文部省科学研究費の申請状況及び採択状況

過去5年間の科学研究費の申請件数は31件である。図-4に申請件数の経年変化を示す。申請件数は増加傾向を示しているが、申請率は7～8割で全員が申請しているという状況ではない。図-5に採択件数を、図-6に配分額を示す。配分額の増加傾向は喜ばしいことであるが、採択件数は1～3件となっている。採択されたものは、主に奨励研究（A）で、若手を対象にした比較的採択率が高いといわれるものである。

## 意見書

鳥取大学 副学長  
道上正規

### 1. 全体的講評

舞鶴高専の教育理念として“学ぶことを学ぶ”を中心にすえ、ものづくりの実践を進めていることはすばらしいと思われます。また60余名の教官がこの理念の下に校長を先頭に、入試・カリキュラムの設計・学生による授業評価・学生補導など統一的に実施されていることに敬意を表したいと存じます。更に教官の努力により、この不況の下で就職内定率が100%というのも驚異的です。

今、独立行政法人化の波が高専にも襲ってこようとしていますが、この大波を乗り越えるには、舞鶴高専の特徴を社会や学生にアピールする必要があります。それは理念にもありましたように“学ぶことを学ぶ”という基本理念に基づいて教育を大切にすることだと思います。その方針が外部評価委員会の説明でも強調されましたが、それについて項目ごとに感想を述べてみたいと思います。

### 3. 研究活動

科学研究費補助金及び外部資金の獲得に努力されている様子をうかがうことができます。しかし、なかなか思うように実績が上がってないのではないのでしょうか。特に外部資金を導入するには、地域をキーワードにした日常の研究活動が重要と思われます。校長がこの橋渡しをするのも一つの解決策です。

また、舞鶴市や周辺の市町村と共同で地域開発に関する研究プロジェクトを起こしたり、地域の文化に貢献できるような研究を通して、外部資金の導入強化を図ることもできると思われます。

— 43 —

(出典 外部評価報告書 平成13年3月 (一部抜粋))

### (3) 具体的改善事例等

本校では教員の自発的な研究を奨励するため、各種助成の案内や科学研究費獲得のための説明会の開催(資料A-1-③-9)など研究活動の活性化を図ってきた。また、平成16年度より、紀要掲載論文は全て査読付き(資料A-1-③-10)とするとともに、紀要第14号(昭和53年度発行)から継続してきた巻末の外部発表抄録を拡充し、平成16年度から発行している舞鶴高専年報に「研究業績」として記載、教員の研究に対する意識向上に努めている(資料A-1-②-11)。

○舞鶴工業高等専門学校参与会規程を次のとおり制定する。

平成16年7月6日

舞鶴工業高等専門学校長  
荻野文丸

### 舞鶴工業高等専門学校参与会規程

(設置)

第1条 舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）に舞鶴工業高等専門学校参与会（以下「参与会」という。）を置く。

(趣旨)

第2条 この規程は、参与会に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第3条 参与会は、次に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言又は勧告を行う。

- (1) 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項
- (2) 本校の教育研究活動等の状況について本校が行う評価に関する重要事項
- (3) その他本校の運営に関する重要事項

(組織及び選考)

第4条 参与会は、参与若干人で組織し、その参与は、本校の教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有するものうちから、校長が選考し、委嘱する。

(任期等)

第5条 参与の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、参与が欠員となった場合の補欠の参与の任期は、前任者の残任期間とする。

2 参与は、非常勤とする。

(会長及び副会長)

第6条 参与会に会長及び副会長各1人を置き、それぞれ参与が互選する。

2 会長は、参与会の会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。

(事務等)

第7条 校長及び関係教職員は、参与会に出席し、関係事項の説明を行う。

2 参与会の事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、参与会の議事の手続その他その運営に関し必要な事項は、参与会が定める。

附 則

1 この規程は、平成16年7月6日から施行する。

2 最初に委嘱された参与の任期は、第5条の規定にかかわらず委嘱の日から平成18年3月31日までとする。

(出典 校報第80号)

## 第1回舞鶴工業高等専門学校参与会を開催



本校では、2月9日(水)に大会議室で第1回舞鶴工業高等専門学校参与会を開催しました。

この参与会は、同校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項や学校運営に関する重要事項等について、学外の有識者による助言や勧告を受けることにより、今後の学校運営や教育改善に反映させることを目的に設置されたものです。参与には、東昌司 京都府中丹広域振興局長、荒木光彦 京都大学大学院工学研究科長、江守光起 舞鶴市長、

河田友宏 舞鶴商工会議所会頭、佐藤文俊 ㈱堀場製作所常務執行役員、高倉秀行 立命館大学理工学部部長、佃嘉章 三菱重工業㈱高砂製作所長の7名が委嘱されており、互選で会長に荒木参与、副会長に高倉参与が選任されました。

第1回の会議では、校長より国立高等専門学校機構と本校の概要説明を行い、構内の施設見学を行った後、議事に移り、本校の組織運営と教員評価並びに今後の課題について予定時間をオーバーして活発な議論が交わされました。

本校では、これらの貴重な意見を、できることから実行し、学校運営に大いに役立てていく計画で、今後は年2回程度の開催を予定しています。

(出典 学校だより「舞鶴高専」第99号)

平成17年10月3日

教員各位

庶務課長  
曾谷 祐一

平成18年度科学研究費補助金説明会の開催について

標記の件について、下記のとおり開催しますのでご出席下さい。  
なお、今回の申請より電子申請システムが導入され、申請方法に大幅な変更がありますので、申請予定者よ必ず出席していただきますよう申し添えます。

記

日時：平成17年10月7日(金) 16:20～  
場所：大会議室  
持参品：① 申請を予定している研究種目の公募要領  
② 申請を予定している研究種目の研究計画調書及び記入要領

なお、公募要領等は下記ホームページからダウンロードして下さい  
文部科学省 科学研究費補助金ホームページ  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/hojyo/koubotop/download.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/koubotop/download.htm)  
日本学術振興会 科学研究費補助金ホームページ  
<http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>

(出典 庶務課資料)

資料 A-1-③-10

平成 17 年 8 月 30 日

教職員各位

広報委員会 紀要 WG 委員長  
三輪 浩

## 舞鶴工業高等専門学校紀要第41号の原稿募集について

紀要第41号の原稿を下記のとおり募集いたします。添付いたしました執筆要項および原稿作成例に従ってご投稿下さい。なお、本校の紀要には昨年度より査読制が導入され、各投稿論文に対して外部査読者と学内査読者の2名で査読を行うことになっています。外部査読者は主として高専教員に依頼する予定です。また、査読に関する手続および紀要の編集・発行は紀要編集委員会が担当いたします。日頃の研究成果をふるってご投稿下さいますようお願い申し上げます。

## 記

## 1. 投稿原稿

原則として未発表の論文であること。ただし、既に発表された論文や報告を再構成し新たな知見等を加えたものは既発表とみなさない。

## 2. 原稿締切 平成 17 年 11 月 25 日 (金)

## 3. 提出先 学術情報係 (図書館 2 階)

## 4. 提出物 執筆要領に記載されているが、概略は以下のとおり。

(1) 査読用原稿 3 部 (A4 判コピー) とメディアを提出。使用できるメディアはフロッピーディスク、光磁気ディスクまたは CD-ROM。

(2) 使用できるソフトは MS-WORD, 一太郎または TEX。

(3) 原則として 2 段組横書きとするが、やむを得ず縦書きの場合は添付した「縦書原稿作成例」を参照のこと。

## 5. 査読方法

査読者は外部機関の査読者 1 名と学内査読者 1 名の合計 2 名とする。査読審査結果は、「採択」、「条件付採択」、「不採択」とする。最終的な採択の可否は紀要編集委員会が決定する。

## 6. 査読基準

査読基準は、新規性、有用性、信頼性、重要性、完成度などの観点から紀要論文としてふさわしいか否かを総合的に審査する。なお、教育論文については論文集「高専教育」に準じた査読基準を適用する。

## 7. 校正

著者による版下校正を 3 月中旬に予定。

## 8. 著作権

著作権は著者 (執筆者) に帰属するが、論文の配布およびコピー権は学校に帰属する。

## 9. 発刊スケジュール (予定)

平成 17 年 11 月 25 日 投稿締め切り

平成 17 年 2 月上旬 投稿者への査読結果の連絡、修正依頼

平成 17 年 2 月下旬 採択可否の最終決定 (編集委員会)

平成 17 年 3 月中旬 著者校正 (1 回のみ)

平成 17 年 3 月末 発刊

## 10. その他

不明な点は学術情報係にお問い合わせ下さい。

## 平成 17 年度紀要編集委員会

所 属	氏 名	備 考
機械工学科	岩崎 和春	
電気情報工学科	北原 紀之	
電子制御工学科	金森 満	
建設システム工学科	三輪 浩	委員長
人文科学部門	松井 信義	
自然科学部門	亀谷 睦	
学術情報係	白井 正和	事務局

以上

(出典 広報委員会紀要編集部会資料)

(分析結果とその根拠理由)

内部資金による研究については、その申請から、審査・採択、成果の評価に至る一連の体制が校長のリーダーシップの下に整備されている。また、地域共同テクノセンターが関与する研究等に関してはその活動全般を同運営委員会が掌っている。教員は研究成果を積極的に外部に発表し、評価を受けているが、平成15年度より発行している舞鶴高専年報に「研究業績」として記載することにより、教員の研究に対する意識向上にも努めている。また、紀要は平成16年度より査読付き論文集となり、質の向上を図る体制が整えられている。さらに、自己点検・評価、外部有識者による点検・評価及び研究会による助言・勧告を通して研究活動に対する実施状況や問題点の把握に努めている。

以上のように、本校では研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための一連の体制が整備され、機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・研究に対する内部資金の運用体制が整備され、これによる地域密着型の研究が進められており、地域貢献にもつながっている。
- ・阿蘇海底質浄化研究には高い注目が寄せられており、地域への貢献だけでなく特許取得にもつながっている。
- ・地域共同テクノセンターが中心となって研究シーズ集を作成、近畿地区の高専では唯一近畿経済産業局を通して公表している。
- ・地域共同テクノセンターに研究特許推進部会を設置するとともに、特許アドバイザーを設け、知的財産としての特許取得を推進する体制を整えている。
- ・研究会を設置し、外部有識者からの助言や勧告を受ける体制を整えている。

(改善を要する点)

- ・地域共同テクノセンターは産官学連携の窓口であり、共同研究、受託研究等の実施体制は整備されているが、実績が乏しく課題を残している。

## (3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

本校の研究は、その目的を学術・技術貢献、地域貢献及び社会貢献に置き、これらを達成するための活動を精力的に行っている。研究体制については、学科・部門の専門性を反映した教員配置が行われており、研究に必要な施設・設備等は学校施設の他、学科・部門単位で整備されている。また、地域連携活動の推進母体として地域共同テクノセンターを設置、連携部会と研究特許推進部会が中心となって技術相談や産官学連携研究の実施、特許取得等の推進を図っている。支援体制については、内部資金による財政面の支援を行うとともに、科学研究費等の外部資金の獲得も奨励している。また、教育研究支援センターや庶務課、会計課が技術面及び事務処理面での支援に当たっている。特に、特許取得に関しては特許アドバイザーを設け、支援体制を充実させている。このように、研究の実施やそれを支援するための体制が整備され、機能している。

教員は研究成果を論文、著書、学会発表等によって公表し、客観的な評価を受けるとともに、学外

講演、講習会等を通して社会にも還元している。また、内部資金による研究もその成果が公表されているが、特に、平成17年度の研究テーマは舞鶴地域を対象としたものが過半数を占め、地域発展への寄与が期待される。さらに、産官学連携研究として行われている阿蘇海底質浄化の研究には高い注目が寄せられており、特許取得にもつながっている。地域共同テクノセンターにおける技術相談や教育研究支援センターでの受託試験は活発であり、この点でも地域貢献が果たされている。研究の教育への還元については、学術研究や共同研究等の一部が卒業研究や特別研究として行われており、その成果は学会等で発表されている。以上のように、本校の研究活動は教育貢献、学術・技術貢献、地域貢献及び社会貢献に寄与しており、活動の成果は上がっている。

最後に、内部資金による研究は、申請から成果の評価までの体制が校長のリーダーシップの下に整備され、また、地域共同テクノセンターが関与する研究等はその活動全般を同運営委員会が掌っている。さらに、自己点検評価に加えて外部有識者による点検評価も実施しており、研究活動の実施状況や問題点を把握、改善を図っていくための一連の体制が整備され、機能している。

#### (4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

## 選択的評価事項 B

## 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

## (1) 観点ごとの分析

観点 B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

## (観点にかかる状況)

本校の主たる業務は、教養教育と工業に関する専門教育であるが、これらを円滑に行い学生に対し良好な学習環境を維持していくためには、地域社会からの理解と支援が必要である。また、高齢化社会における生涯学習、わが国の技術立国の根幹を揺るがす青少年の理数系離れなどの社会問題は、高等専門学校として決して対応不可能なものではない。そこで本校の使命である「北近畿地域の教育、文化の基盤を支えること」に基づいて、本校の資源を開放することによる地域社会への貢献を目的として、本校では正規課程の学生以外に対する教育サービスを行っている。本校が実施している正規課程の学生以外に対する教育サービスは、聴講生、科目履修生および研究生の受入れ、公開講座の開催、設備・施設の開放である。

本校では、聴講生、科目履修生および研究生に関する規則が定められている（資料 B-1-①-1、資料 B-1-①-2、資料 B-1-①-3）。平成 17 年度は、聴講生 1 名を受け入れた。

## 資料 B-1-①-1

<p style="text-align: center;">第 8 章 教 育(舞鶴工業高等専門学校聴講生規則)</p> <p style="text-align: center;">○舞鶴工業高等専門学校聴講生規則</p> <p>(趣旨)</p> <p>第 1 条 この規則は、舞鶴工業高等専門学校(以下「学園」という。)第 5 2 条第 2 項の規定に基づき、本校の聴講生に関し、必要な事項について定めるものとする。 (聴講生)</p> <p>第 2 条 本校の開設する授業科目のうち、特定の科目の聴講を志望する者は、聴講生として入学することができる。 (入学資格)</p> <p>第 3 条 聴講生として入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。 (1) 高等学校を卒業した者 (2) 本校が高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者 (入学時期)</p> <p>第 4 条 聴講生の入学の時期は、原則として学年の始めとする。 (出願手続)</p> <p>第 5 条 聴講生として入学を志望する者は、次の各号に掲げる書類に検定料を添えて所定の期日までに校長に願い出なければならない。 (1) 聴講生入学願書(別紙様式) (2) 履歴書 (3) 高等学校の卒業(又は修了)証明書 (4) 健康診断書 (5) 現に職を有している者は勤務先の所属長の承諾書 (入学許可)</p> <p>第 6 条 校長は、前条の入学志願者について選考の上、入学を許可する。 2 入学の許可に際しては、所定の期日までに入学料を納付するとともに在学中の保証人と連署した誓約書及び校長が定めた書類を提出しなければならない。 (聴講期間)</p> <p>第 7 条 聴講生の聴講期間は、原則として当該年度内とする。 ただし、聴講生の願い出により、校長が必要であると認めたときは、1年に限りその期間を延長することができる。 2 前項ただし書の規定により延長を願い出るときは、第 5 条第 5 号に定める書類を提出するものとする。 3 前 2 項ただし書の規定により聴講期間を延長するときは、検定料及び入学料は徴収しない。 (聴講科目)</p> <p>第 8 条 聴講生は、本校が開設している授業科目から選択して授業を聴講することができる。 (授業料等の額)</p> <p>第 9 条 検定料、入学料及び授業料の額は、「国立の学校における授業料その他の費用に</p> <p style="text-align: center;">8-7-1 -1-</p>	<p style="text-align: center;">第 8 章 教 育(舞鶴工業高等専門学校聴講生規則)</p> <p>関する者(昭和 36 年 4 月 1 日文部省令第 9 号)に定められた額によるものとする。 2 既に納付した検定料、入学料及び授業料は返付しない。 (授業料の納付)</p> <p>第 10 条 聴講生の授業料は、所定の期日までに聴講科目の係る金額を納付するものとする。 2 授業料を納付しない者は、校長がこれを除却する。 (聴講証明書)</p> <p>第 11 条 校長は、聴講生の願い出により聴講した科目の聴講証明書を交付することができる。 (退学)</p> <p>第 12 条 聴講生が本校の諸規則に違反したとき、又は疾病その他やむを得ない事由により或るの見込みがないと認められるときは、校長はこれに退学を命ずることがある。 (他の規則等の準用)</p> <p>第 13 条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、学園及び学内諸規則を準用する。 附 則 この規則は、平成元年 8 月 1 日から施行する。 附 則 この規則は、平成 7 年 1 月 1 日から施行する。 附 則 この規則は、平成 11 年 1 月 1 日から施行し、平成 11 年 4 月 1 日から適用する。 附 則 この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p style="text-align: center;">8-7-2 -2-</p>
---	---

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)



## 資料 B-1—①—2

<p style="text-align: center;">第 8 章 教 務 (舞鶴工業高等専門学校科目履修生規則)</p> <p style="text-align: center;">○舞鶴工業高等専門学校科目履修生規則</p> <p>(趣旨)</p> <p>第 1 条 この規則は、舞鶴工業高等専門学校 (以下「学部」という。) 第 5 3 条第 2 項の規定に基づき、本校の科目等履修生に關し、必要な事項について定めるものとする。</p> <p>(科目等履修生)</p> <p>第 2 条 本校の開設する授業科目のうち、一又は複数の授業科目を履修し単位の修得を志望する者は、科目等履修生として入学することができる。</p> <p>(入学資格)</p> <p>第 3 条 科目等履修生として入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。</p> <p>(1) 高等学校を卒業した者</p> <p>(2) 本校が高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者</p> <p>(入学時期)</p> <p>第 4 条 科目等履修生の入学の時期は、原則として学年の始めとする。</p> <p>(出願手続き)</p> <p>第 5 条 科目等履修生として入学を志望する者は、次の各号に掲げる書類に検定料を添えて所定の期日までに校長に願い出なければならない。</p> <p>(1) 科目等履修生入学願書 (別紙様式 1)</p> <p>(2) 履歴書</p> <p>(3) 最終学校の卒業証明書又は修了証明書</p> <p>(4) 健康診断書</p> <p>(5) 現に職を有している者は勤務先の所属長の承諾書</p> <p>(入学許可)</p> <p>第 6 条 校長は、前条の入学志願者について選考のうえ、入学を許可する。</p> <p>2 入学の許可に關しては、所定の期日までに入学料を納付するとともに在学中の保証人と連署した誓約書及び校長が定めた書類を提出しなければならない。</p> <p>(履修期間)</p> <p>第 7 条 科目等履修生の履修期間は、原則として当該年度内とする。</p> <p>ただし、当該科目について科目等履修生の願い出により、校長が必要と認めるときは、1 年に限りその期間を延長することができる。</p> <p>2 前項ただし書の規定により延長を願い出るときは、科目等履修生期間延長願 (別紙様式 2) 及び第 5 条第 5 号に定める書類を提出するものとする。</p> <p>3 第 1 項ただし書の規定により履修期間を延長するときは、検定料及び入学料は徴収しない。</p> <p>(履修科目)</p> <p>第 8 条 科目等履修生ができる授業科目は、本校学生の授業に支障を来さない授業科目とする。</p> <p style="text-align: center;">8-8-1 - 1 -</p>	<p style="text-align: center;">第 8 章 教 務 (舞鶴工業高等専門学校科目履修生規則)</p> <p>(授業料等の額)</p> <p>第 9 条 検定料は、入学料及び授業料の額は、「国立の学校における授業料その他の費用に關する省令 (昭和 36 年 4 月 1 日文部省令第 9 号)」に定められた額によるものとする。</p> <p>2 既に納付した検定料、入学料及び授業料は返付しない。</p> <p>(授業料の納付)</p> <p>第 10 条 科目等履修生の授業料は、所定の期日までに履修を許可された授業科目に係る金額を納付するものとする。</p> <p>2 授業料を納付しない者は、校長がこれを除籍する。</p> <p>(単位の認定等)</p> <p>第 11 条 科目等履修生が履修した授業科目の試験に合格したときは、当該履修科目の単位を認定する。</p> <p>2 認定された修得単位に關しては、本人の願い出により履修した科目の単位修得証明書を交付する。</p> <p>(退学)</p> <p>第 12 条 科目等履修生が本校の諸規則等に違反したとき、又は疾病その他の事由により修学の見込みがないと認められるときは、校長は退学を命ずることがある。</p> <p>(他の規則等の準用)</p> <p>第 13 条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、学部及び学内諸規則等を準用する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、平成 7 年 1 月 1 日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、平成 11 年 1 月 1 日から施行し、平成 11 年 4 月 1 日から適用する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p style="text-align: center;">8-8-2 - 2 -</p>
---	---

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

## 資料 B-1—①—3

<p style="text-align: center;">第 8 章 教 務 (舞鶴工業高等専門学校研究生規則)</p> <p style="text-align: center;">○舞鶴工業高等専門学校研究生規則</p> <p>(趣旨)</p> <p>第 1 条 この規則は、舞鶴工業高等専門学校学部 (以下「学部」という。) 第 5 1 条第 2 項の規定に基づき、本校の研究生に關し、必要な事項について定めるものとする。</p> <p>(研究生)</p> <p>第 2 条 本校において、特定の事項の研究を志望する者は、研究生として入学することができる。</p> <p>(入学資格)</p> <p>第 3 条 研究生として入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。</p> <p>(1) 高等専門学校を卒業した者</p> <p>(2) 本校が高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者</p> <p>(入学時期)</p> <p>第 4 条 研究生の入学の時期は、原則として学年の始めとする。</p> <p>(出願手続き)</p> <p>第 5 条 研究生として入学を志望する者は、次の各号に掲げる書類に検定料を添えて所定の期日までに校長に願い出なければならない。</p> <p>(1) 研究生入学願書 (別紙様式 1)</p> <p>(2) 履歴書</p> <p>(3) 最終学校の卒業 (又は修了) 証明書</p> <p>(4) 健康診断書</p> <p>(5) 現に職を有している者は勤務先の所属長の承諾書</p> <p>(入学許可)</p> <p>第 6 条 校長は、前条の入学志願者について選考のうえ、入学を許可する。</p> <p>2 入学の許可に關しては、所定の期日までに入学料を納付するとともに在学中の保証人と連署した誓約書及び校長が定めた書類を提出しなければならない。</p> <p>(指導教員)</p> <p>第 7 条 校長は、研究生の指導・助言を行うため、指導教員を定めるものとする。</p> <p>(研究課題)</p> <p>第 8 条 研究生は、特定の事項に關する研究を行うため、研究課題を設けるものとする。</p> <p>(研究期間)</p> <p>第 9 条 研究生の研究期間は、原則として 6 か月以上 1 年以上とし、当該年度を超えないものとする。</p> <p>ただし、研究生の願い出により、校長が必要であると認めるときは、1 年に限りその期間を延長することができる。</p> <p>2 前項ただし書の規定により延長を願い出るときは、第 5 条第 5 号に定める書類を提出するものとする。</p> <p>3 第 1 項ただし書の規定により研究期間を延長するときは、検定料及び入学料は徴収しない。</p> <p style="text-align: center;">8-6-1 - 1 -</p>	<p style="text-align: center;">第 8 章 教 務 (舞鶴工業高等専門学校研究生規則)</p> <p>(授業料等の額)</p> <p>第 10 条 検定料、入学料及び授業料の額は、「国立の学校における授業料その他の費用に關する省令 (昭和 36 年 4 月 1 日文部省令第 9 号)」に定められた額によるものとする。</p> <p>2 既に納付した検定料、入学料及び授業料は返付しない。</p> <p>(授業料の納付)</p> <p>第 11 条 研究生の授業料は、所定の期日までに研究期間に係る金額を納付するものとする。</p> <p>2 授業料を納付しない者は、校長がこれを除籍する。</p> <p>(授業)</p> <p>第 12 条 研究生は、指導教員が研究に必要であると認めたときは、授業担当教員の承諾を得て、授業に出席することができる。</p> <p>(研究報告)</p> <p>第 13 条 研究生は、研究が終了したときは、研究報告書を指導教員を経て校長に提出しなければならない。</p> <p>(修了証書)</p> <p>第 14 条 校長は、研究生が所定の研究を修了したものと認定したときは、研究生の願い出により修了証書を交付する。</p> <p>(特別費用)</p> <p>第 15 条 研究に必要な特別費用は、研究生の負担とする。</p> <p>(他の研究への従事)</p> <p>第 16 条 研究生が他の研究に従事しようとするときは、校長の許可を受けなければならない。</p> <p>(退学)</p> <p>第 17 条 研究生が、本校の諸規則に違反したとき、又は疾病その他やむを得ない事由により成果の見込みがないと認められるときは、校長はこれに退学を命ずることがある。</p> <p>(他の規則等の準用)</p> <p>第 18 条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、学部及び学内諸規則等を準用する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、平成元年 8 月 1 日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、平成 7 年 1 月 1 日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、平成 11 年 1 月 1 日から施行し、平成 11 年 4 月 1 日から適用する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p style="text-align: center;">8-6-2 - 2 -</p>
--	---

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

また、各学科、各部門および各委員会において、小中学生および社会人を対象とした公開講座が毎年企画・実施されている。これらの公開講座の開催に際しては、本校のウェブページに公開講座の募集を掲載し（資料 B-1-①-4）、必要に応じてポスターを作成（資料 B-1-①-5）するなどして広報活動を行っている。平成 17 年度は 10 テーマの公開講座が実施された（資料 B-1-①-6）。また、毎年オープンカレッジが企画・実施され、学校紹介と共に体験学習が実施されている。オープンカレッジは中学校訪問において、生徒に資料（資料 B-1-①-7）を配布するなど参加人数の確保に努めている。

資料 B-1-①-4

## 公開講座募集のウェブページ

公開講座募集のウェブページ

動くそう! きみにもできるロボットづくり

期日	6月11日(土)、6月18日(土) 各1回ずつ
時間	10:00~16:00
会場	11日 舞鶴理工観光センター 18日 城南会館ふれあい工房
内容	ロボットづくりを通して作る面白さ・動き喜びを体験してもらい、理系科目への興味を持ってもらう。
対象・定員	小学生・中学生 各日15名
申込期間	6月16日(月)~6月10日(水)
受講料等	無料

実用パソコン講座:表計算の講習

期日	6月13日(月)~6月22日(水) 月・水・金(6回)
時間	19:00~21:00
会場	本校 電子制御棟3階 CAD/CAM教室
内容	地域社会への貢献の一環として、パソコンに関する知識や技術を短期間に習得できるように、夜間に当講座を開講する。
対象・定員	パソコンの基本操作のできる市民一般 16名
申込期間	5月16日(月)~5月31日(火)
受講料等	6,400円

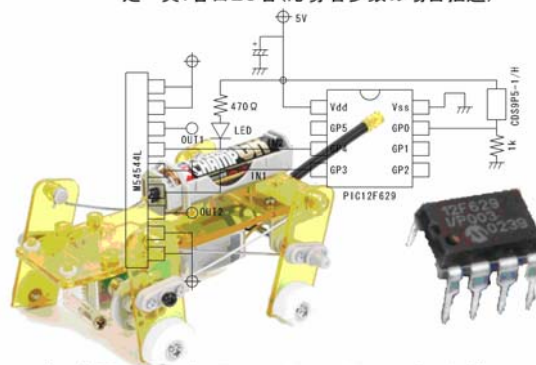
(出典 舞鶴高専ウェブページ)

資料 B-1-①-5

## 公開講座ポスター

平成17年度 舞鶴工業高等専門学校 公開講座  
つくってみよう! 移動ロボット

日時: 8月25日(木)、8月26日(金) 10:00~16:00  
 会場: 本校 電子制御棟3階 電子制御実験室  
 受講料: 一人につき 1,000円(実費負担)  
 対象: 小学生5年~中学3年生  
 定員: 各日20名(応募者多数の場合抽選)



申込期間: 平成17年6月20日(月)~6月30日(木)(必着)  
 申込方法: 郵便ハガキ, FAX, 電子メールにて  
 氏名, 住所, 年齢, 電話番号及び希望日を記入し,  
 「つくってみよう! 移動ロボット」と明記してお送り下さい。  
 申込先: 〒625-8511 京都府舞鶴市字白屋234番地  
 舞鶴工業高等専門学校 庶務課 庶務係  
 TEL 0773-62-8861  
 FAX 0773-62-5558  
 E-mail:  
 その他: ・2日とも同じ内容です。どちらか1日にご参加ください。  
 ・一人1台の歩行ロボットを製作できます。  
 ・昼食をご用意下さい。  
 ・受講票・筆記用具(ボールペン)を持参して下さい。  
 ・受講修了者には修了証書を授与します。  
 ・受講を辞退される方は、事前にご連絡がございます。

(出典 電子制御工学科資料)

資料 B-1-①-6

## 平成 17 年度 公開講座

講座名	講師名	開講期日	開講時間	受講対象者	募集人数	受講者数
動かそう！ きみにもできるロボットづくり	生水 雅之 鈴木 立人	6/11, 18 (各1回)	10:00～ 16:00	中学生	各15名	29名
実用パソコン講座 「表計算の講習」	大嶋 毅 奥村 幸彦 金森 満 川田 昌克 仲川 力 町田 秀和 西岡 勝博 和田 優 野間 正泰	6/13～22 月・水・金 (5回)	19:00～ 21:00	一般社会人	16名	8名
遊んで学ぼう！ネットワーク	北原 紀之 新池 一弘 片山 英昭 船木 英岳 長谷川真司	7/23	10:00～ 12:30	小4～小6	20名	4名
作って回そう“針金モータ”	平地 克也 中川 重康 東田 剛志 竹澤 智樹 山田 博	7/23	13:30～ 16:00	小4～小6	20名	9名
中学生のための環境講座第1回 ～川の汚れを調べる～	四蔵 茂雄	7/25	13:00～ 16:00	中学生	10名	2名
つくってみよう！移動ロボット	金森 満 西岡 勝博 町田 秀和 仲川 力 和田 優 大嶋 毅 野間 正泰 天野 耀鴻 奥村 幸彦 川田 昌克	8/25, 26 (各1回)	10:00～ 16:00	小6～中3	各20名	35名
親子で楽しく デジカメ写真を加工しよう —Tシャツ, カレンダー—	片山 英昭 長谷川真司 丸山 兼泰 仲川 力 鈴木 立人 町田 秀和	8/28	13:00～ 16:00	親子 (小中学生)	10組	3組
親子で作ろう 自分だけのストラップ	寺田 英毅 石井 貴弘 能勢 嘉朗 川勝 邦夫	10/2	10:00～ 16:00	親子 (小5～中3)	10組	6組

(出典 庶務課資料)

# 2005 国立舞鶴高専

## 中学生を対象とするオープンカレッジ

- 先端技術者を志望する諸君、テクノロジーの世界へ
- 保護者の方には学校説明会を併せて開催

### 日時・会場

**7月29日(金)・30日(土)**  
10:00~15:00

両日とも内容は同じですので、都合の良い日を申し込んで下さい。

●舞鶴工業高等専門学校



ロボコン実演



針金でモーターを作る

### 参加の申し込み

オープンカレッジに参加希望の方は、希望日・氏名等を**7月15日(金)**までに中学校を通してお知らせください。

### お問い合わせ先

〒625-8511  
舞鶴市字白屋234番地  
舞鶴工業高等専門学校 学生課教務係  
TEL (0773) 62-8881  
FAX (0773) 62-8889  
URL <http://>

### 内容

- ◆舞鶴高専の授業体験  
【体験コース】
  - 機械工学科
  - 電気情報工学科
  - 電子制御工学科
  - 建設システム工学科
- ◆ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト参加作品の紹介
- ◆学校説明会・学寮見学
- ◆学寮食堂で昼食(無料)
- ◆個別相談コーナー

### 高専へのご案内



- JR東舞鶴駅より高専まで、9:40にバスを運行します。(無料)
- 高専よりJR東舞鶴駅まで、15:10にバスを運行します。(無料)

図100 志願配合率100%再生紙を使用しています

(出典 学生課資料)

本校では、教育サービスの一環として図書館の一般開放が行われている。図書館の一般開放は、舞鶴工業高等専門学校図書館利用規程（資料 B-1-①-8）に則って実施され、図書館施設の利用だけでなく一般利用者に対して蔵書の貸し出しも行っている。また、平日は午後 10 時まで開館しており、社会人の利用に配慮している。

## 資料 B-1-①-8

## 舞鶴工業高等専門学校図書館利用規程

- 第 1 章 総則  
(目的)
- 第 1 条 舞鶴工業高等専門学校図書館規程（平成 10 年 2 月 17 日制定）第 6 条の規定に基づき、この規程を定める。  
(図書館資料の整理)
- 第 2 条 図書館において管理する図書資料には、すべて蔵書印、登録番号を記入し、日本十進分類によって分類し、整理するものとする。  
(図書館資料の管理)
- 第 3 条 舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）の図書館資料は、すべて図書館において管理するものとする。  
(利用者の範囲)
- 第 4 条 図書館を利用できる者は、次の各号に該当する者とする。  
(1) 本校学生  
(2) 本校教職員  
(3) 校外者で研究調査を目的としている者  
(開館)
- 第 5 条 図書館は、次の日を除くほか毎日午前 8 時 30 分から午後 5 時まで開館する。  
(1) 日曜日及び土曜日  
(2) 国民の祝日（その日が日曜日にあたるときは、その翌日）  
(3) 年末年始（12 月 28 日から翌年 1 月 4 日まで）  
(4) その他館長が必要と認めた日  
2 前項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、開館時間の延長又は臨時開館することがある。
- 第 2 章 閲覧及び貸出  
(室内閲覧)
- 第 6 条 閲覧室に備付の開架図書は、自由に閲覧できる。  
(貸出に關する手続き)
- 第 7 条 図書の貸出を希望する者は、学生証若しくは図書館利用者カードを係員に提出しなければならない。  
(貸出冊数及び期間)
- 第 8 条 貸出冊数及び期間は、次のとおりとする。  
(1) 貸出冊数は 3 冊以内、期間は 2 週間以内とする。ただし、長期休暇中の貸出はその旨を定める。  
(2) 卒業研究、クラブ活動、特別教育活動等が必要あるときは、指導教官の承認を受けて別に 3 冊以内を 1 ヶ月以内に限り貸出を認める。  
(3) 教職員が教育上、研究上、業務上、必要な場合に限り 5 冊以内を 2 ヶ月以内に限り貸出を認める。  
(貸出禁止図書)

- 1 -

- 第 9 条 次の図書の貸出は許可しない。  
(1) 貴重図書  
(2) 辞書、事典及び索引の類  
(3) 新刊雑誌  
(4) 整理中の図書  
(5) その他特に指定した図書  
(貸出図書の返納)
- 第 10 条 貸出図書は、貸出期間満了の日までに返納しなければならない。  
2 次に掲げる場合は、貸出期間満了の日以前においても返納しなければならない。  
(1) 学生が卒業、退学、休学又は除籍となったとき。  
(2) 教職員が退職又は転出となったとき。  
3 貸出期間中であっても必要ある場合は、貸出図書の返納を求めることがある。  
(研究図書等の借出)
- 第 11 条 本校教職員が教育上、研究上又は業務上必要とする図書で、学科学算又は事務部予算によって購入した図書については、研究室、学科図書室若しくは事務室に借出することができる。  
2 前項による場合は、図書借出票（別紙様式）に所定事項を記入して図書館に提出しなければならない。  
(書庫検査)
- 第 12 条 書庫に収容してある図書を閲覧しようとするときは、係員に申し出るものとする。
- 第 3 章 雑則  
(図書を紛失又は損傷した場合)
- 第 13 条 図書を紛失又は損傷した場合は、図書館に報告し、同一の図書を弁償することを原則とする。  
(利用の禁止)
- 第 14 条 この規程に違反したり指示に従わないときは、一定の期間利用を禁止することがある。  
(補則)
- 第 15 条 この規程に定めるもののほか必要あるときは、別に実施細則を定める。
- 附 則  
この規程は、平成 10 年 2 月 17 日から施行し、平成 10 年 4 月 1 日から適用する。  
附 則  
この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

- 2 -

(出典 舞鶴工業高等専門学校規程集)

## (分析結果とその根拠理由)

本校では、正規課程の学生以外に対して、聴講生、科目履修生、研究生の受け入れ、公開講座の開催および図書館の開放など幅広い教育サービスを毎年計画的に実施している。

観点 B-1-②: サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。  
また、改善のシステムがあり、機能しているか。

(観点にかかる状況)

聴講生、科目履修生および研究生の受入実績を資料 B-1-②-1 に示す。

資料 B-1-②-1

聴講生、科目履修生および研究生の受入れ実績

種別	年度 (人数)
聴講生	H14(1人), H15(1人), H17(1人)
科目履修生	H14(2人)
研究生	H6(1人), H13(1人)

(出典 学生課資料)

公開講座においては、資料 B-1-①-6 に示すように、8テーマ開催し、正規課程の学生以外のサービスの提供に努めている。オープンカレッジは、入試委員会の下に設置されたオープンカレッジ連絡会において実施後、当日の参加状況(資料 B-1-②-2)やアンケートの集計結果(資料 B-1-②-3)をもとに反省会が行われている(資料 B-1-②-4)。その他の公開講座においても、実施後に各学科・部門、各委員会において反省会が行われ、改善を行っている。

資料 B-1-②-2

平成17年度オープンカレッジ参加者数

H17.7.30確定

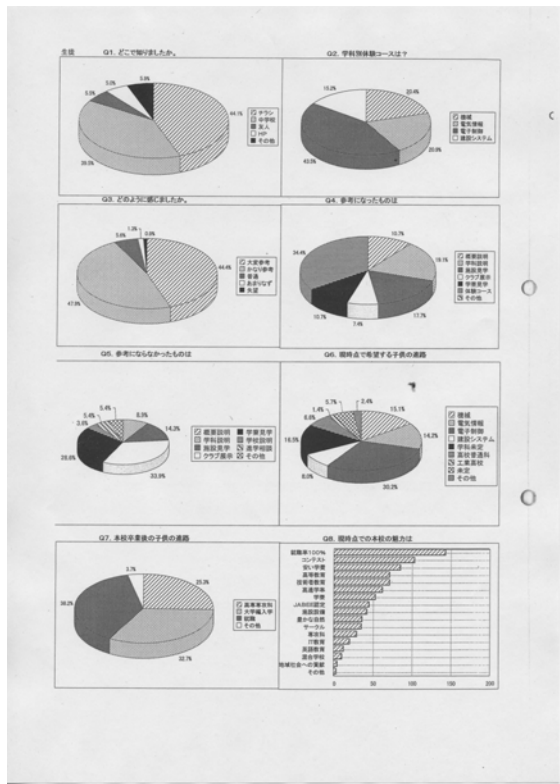
月日	7月29日(金)					7月30日(土)					合計					
	機 械	電 気	制 御	建 設	計	機 械	電 気	制 御	建 設	計	機 械	電 気	制 御	建 設	計	
生	男子	33	39	42	16	130	64	37	71	24	196	97	76	113	40	326
		(33)	(35)	(33)	(14)	(115)	(54)	(43)	(33)	(12)	(142)	(87)	(78)	(66)	(26)	(257)
徒	女子	0	4	1	8	13	1	3	6	10	20	1	7	7	18	33
		(7)	(5)	(4)	(7)	(23)	(2)	(4)	(7)	(9)	(22)	(9)	(9)	(11)	(16)	(45)
数	計	33	43	43	24	143	65	40	77	34	216	98	83	120	58	359
		(40)	(40)	(37)	(21)	(138)	(56)	(47)	(40)	(21)	(164)	(96)	(87)	(77)	(42)	(302)
保護者数		22	29	28	16	95	68	36	70	38	212	90	65	98	54	307
		(26)	(26)	(25)	(11)	(88)	(58)	(45)	(42)	(18)	(163)	(84)	(71)	(67)	(29)	(251)
小計		55	72	71	40	238	133	76	147	72	428	188	148	218	112	666
		(66)	(66)	(62)	(32)	(226)	(114)	(92)	(82)	(39)	(327)	(180)	(158)	(144)	(71)	(553)
引率教諭					2					3					5	
					(2)					(4)					(6)	
合計		55	72	71	40	240	133	76	147	72	431	188	148	218	112	671
		(66)	(66)	(62)	(32)	(228)	(114)	(92)	(82)	(39)	(331)	(180)	(158)	(144)	(71)	(559)

※( )内は平成16年度

(出典 学生課資料)

資料 B-1-②-3

オープンカレッジアンケート集計結果



(出典 学生課資料)

資料 B-1-②-4

オープンカレッジ連絡会議事概要

第2回オープンカレッジ連絡会議事概要

日時 平成17年8月30日(火) 10:00~12:05

場所 中会議室

出席者 西山(チーフ・アドバイザー)、竹内(記録)、三川(事務主事)  
 輪(コソ)、谷川(コソ)、生木(朝19時)、北原(昼12時30分)  
 金森(夜21時)、岡本(夜21時)、亀谷(夜21時)  
 兼谷(夜21時)、伊藤(夜21時)、各委員  
 欠席: 金山(記録)、学生課長  
 出席 高橋専門員、社井教務係長

協議事項

- 平成17年度オープンカレッジの反省について  
 西山チーフから、資料2により本年度の参加者数について報告があり、昨年度に比し112名の20%増の参加者があった旨説明があった。続いて資料3-1・3-2によりアンケート集計結果について概略の説明があった。また、下記のとおり意見等があった。  
 学科説明について  
 ・教員が移動する方式が良いと感じた。  
 ・一部説明時間を超過する事例(学校概要説明を含む)が見られ、後にしわ寄せが生じた。時間を守ってもらいたい。  
 ・3会場での4学科の説明ということでスムーズに進行する場合としない事例が見られた。  
 ・学科説明は時間厳守からタイムキーパーを付けた方がよい。  
 ・学科説明は学科長1人で回らず複数で手分けした方が進行がうまくいく。  
 ・昨年度までの方式と本年度の方式とどちらが効果的であったか十分に検証する必要がある。  
 クラブ展示等について  
 ・昼食等の兼ね合いもあって見学者の入りかたがあまり良くないと感じた。移動等の流れを再考すべき。  
 ・エコランは生徒より父兄の方が興味を示した。  
 ・昼の休憩時間での吹奏楽部の演奏は効果的であった。  
 学食案内について  
 ・案内は指導学生にもお願いする方が効果的である  
 ・学生の食事メニュー表を渡したらどうか。  
 学科別体験コースについて  
 ・これまで1学科しか体験できなかったが、複数学科体験のニーズがあり、工夫によって実現すべきである。例えば終了時刻を午後4時にするのも案である。
- 平成17年度オープンカレッジ報告書について  
 現在報告書は各中学校に1部配布しているが、機構になってからは予算要求はしておらず報告書の作成はあえて必要ではないこと及び中学生の目に触れる機会が少ないことから、下記のとおり見直しすることになった。  
 ・従来の報告書は作成しない。  
 ・実施記録は内部記録として残す。内容を再検討のうえ本校イントラネットに掲載する。  
 ・内容はチーフが検討し、後日執筆者に依頼する。  
 ・中学生へのPRのため従来のチラシは内容を充実させる。

以上

(出典 学生課資料)

資料 B-1-②-5 に図書館一般開放利用者申請状況を示す。一般開放利用者申請は、申請者からの利用辞退の申し出がない限り次年度以降に自動継続されるので、平成17年度の申請者は2人と少ないが、自動継続者を含めると70名の利用者がいることとなる。

資料 B-1-②-5

図書館一般開放利用者申請状況

年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17
利用申請者数	12	11	16	7	5	9	8	0	2
累積登録者数	12	23	39	46	51	60	68	68	70

(出典 庶務課資料)

(分析結果とその理由)

聴講生，科目履修生および研究生を受け入れ，一般市民を対象とした公開講座のいずれにおいても地域の人口規模からは成果が上がっていると判断できる。公開講座においては，講座単位でアンケート調査が行われており，この結果を基に次回の計画の検討・改善がなされている。従って，改善のシステムがあり，機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

聴講生，科目履修生および研究生に関しては制度的に完備され，実績もあり有効に運用されている。公開講座は，小中学生から一般市民を対象にした幅広い内容のものとなっており，終了後のアンケートからもおおむね好評である。また，アンケート結果は，次回の公開講座の内容の見直しやテーマの選定に役立っている。さらに，講座終了後には，担当者で反省会が行われ，公開講座の改善がなされている。

(改善を要する点)

聴講生，研究生については，より多くの学生を受け入れるための広報活動が必要である。公開講座のテーマによっては，募集人数に満たないものがあるので，アンケート結果分析および地域のニーズ調査を通じてテーマの選定や実施方法について検討・改善を行う必要がある。

## (3) 選択的評価事項 B の自己評価の概要

本校では，本校の使命である「北近畿地域の教育，文化の基盤を支えること」に基づいて，正規課程の学生以外に対する教育サービスとして，聴講生，科目履修生および研究生の受け入れ，公開講座の開催，設備・施設の開放を行っている。聴講生，科目履修生および研究生の受入実績は多くはないが，制度的には完備しており，機能している。

また，図書館の一般開放が行われており，平日夜間の社会人の利用に配慮している。

公開講座においては，幅広いメニューを用意し多くの受講者を得ており，受講者の満足度は高く成果は上がっている。また，アンケートの実施やその結果に基づいた検討改善が行われており，改善システムが機能している。

## (4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。